



Workspace Environment Management 2402

Machine translated content

Disclaimer

このコンテンツの正式なバージョンは英語で提供されています。Cloud Software Group ドキュメントのコンテンツの一部は、お客様の利便性のみを目的として機械翻訳されています。Cloud Software Group は機械翻訳されたコンテンツを管理していないため、誤り、不正確な情報、不適切な用語が含まれる場合があります。英語の原文から他言語への翻訳について、精度、信頼性、適合性、正確性、またはお使用の Cloud Software Group 製品またはサービスと機械翻訳されたコンテンツとの整合性に関する保証、該当するライセンス契約書またはサービス利用規約、あるいは Cloud Software Group とのその他すべての契約に基づき提供される保証、および製品またはサービスのドキュメントとの一致に関する保証は、明示的か黙示的かを問わず、かかるドキュメントの機械翻訳された範囲には適用されないものとします。機械翻訳されたコンテンツの使用に起因する損害または問題について、Cloud Software Group は責任を負わないものとします。

Contents

Workspace Environment Management 2402	6
新機能	8
解決された問題	10
既知の問題	10
サードパーティ製品についての通知	10
廃止	11
クイックスタートガイド	12
システム要件	52
インストールと構成	58
インフラストラクチャサービス	58
管理コンソール	73
Web コンソール	76
エージェント	88
デプロイのスケールとサイズに関する考慮事項	98
環境のアップグレード	99
ホームページ	104
構成セット	105
操作	111
割り当て	157
システム最適化	166
監視	179
管理	180
識見	191

レポート	194
ユーザーエクスペリエンス	199
リボン	199
アクション	204
操作グループ	204
グループポリシーの設定	216
テンプレートベースの設定	222
スクリプト化されたタスク設定	226
アプリケーション	229
プリンター	233
ネットワークドライブ	234
仮想ドライブ	235
レジストリエントリ	236
環境変数	238
ポート	239
INI ファイル	241
外部タスク	242
ファイル システム操作	247
ユーザー DSN	249
ファイルの関連付け	250
フィルター	254
Assignments	256
システム最適化	258
CPU 管理	259

メモリ管理	265
I/O 管理	267
高速ログオフ	268
Citrix Optimizer	269
マルチセッションの最適化	271
ポリシーとプロファイル	272
環境設定	272
Microsoft USV の設定	274
Citrix Profile Management 設定	276
セキュリティ	285
Active Directory オブジェクト	302
トランスフォーマーの設定	305
アプリパッケージ配信	309
詳細設定	312
管理	323
監視	330
バックアップと復元	333
エージェントイベントログ	336
CMD および UI モードのエージェント	342
共通の [コントロールパネル] アプレット	345
動的トークン	347
#UserName	351
#UserProfile	351
#UserAppData	351

#UserPersonal	351
#UserDocuments	351
#UserDesktop	352
#UserFavorites	352
#UserTemplates	352
#UserStartMenu	352
#UserStartMenuPrograms	352
#UserLocalAppData	352
#UserMusic	352
#UserPictures	352
#UserVideos	352
#UserDownloads	352
#UserLinks	352
#UserContacts	352
#UserSearches	352
#commonprograms	352
#ComputerName	352
#IpAddress	353
#ADSite	353
#DefaultRegValue	353
#VUEMAgentFolder	353
#RDSSessionID	353
#RDSSessionName	353
#ClientOSInfos	353

環境設定のレジストリ値	357
フィルター条件	380
FIPS サポート	395
Citrix ADC による負荷分散	400
ログパーサー	401
ポート情報	402
ログファイルの表示	404
WEM ヘルスチェックツール	411
WEM ツールハブ	413
WEM 整合性条件リストマネージャー	428
XML プリンターリストの構成	442
用語集	446

Workspace Environment Management 2402

May 28, 2024

Workspace Environment Management では、インテリジェントなリソース管理およびプロファイル管理テクノロジーを使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops 展開で最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーションの応答時間を提供します。これは、ドライバーを必要としない、ソフトウェアのみのソリューションです。

リソース管理 -ユーザーに最適なエクスペリエンスを提供するために、Workspace Environment Management はユーザーとアプリケーションの動作をリアルタイムで監視および分析し、ユーザー・ワークスペース環境で RAM、CPU、I/O をインテリジェントに調整します。

Profile Management -ログオンパフォーマンスを最大限に高めるために、Workspace Environment Management では、よく使用される Windows グループポリシーオブジェクト、ログオンスクリプト、および基本設定を、各仮想マシンまたはサーバーに展開されるエージェントに置き換えます。エージェントはマルチスレッドで、必要なときにのみユーザー環境に変更を適用し、ユーザーは常に可能な限り迅速にデスクトップにアクセスできるようにします。

アップグレードの詳細については、「[展開をアップグレードする](#)」を参照してください。

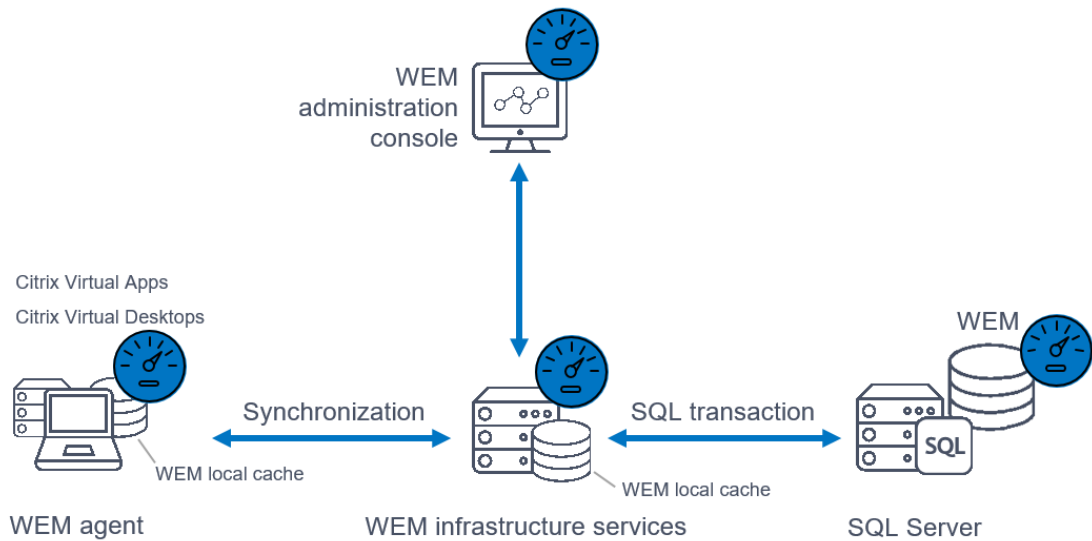
最新リリースのインストールについては、「[インストールと構成](#)」を参照してください。

注:

Workspace Environment Management は、Citrix Virtual Apps and Desktops の最新リリース (CR) ライフサイクルによってカバーされます。詳細については、「[製品マトリックス](#)」を参照してください。

製品の技術概要

Workspace Environment Management (WEM) には、次のアーキテクチャがあります。



インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスは、マルチセッション OS にインストールされます。さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server および Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソールおよびエージェント) と同期します。

注:

インフラストラクチャサービスは、ドメイン Controller にインストールできません。Kerberos 認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが動作しなくなります。

管理コンソール。Workspace Environment Management コンソールは、シングルセッションまたはマルチセッション OS にインストールされます。これは、インフラストラクチャサービスに接続します。管理コンソールを使用して、Workspace Environment Management インストールを管理します。たとえば、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などです。

WEM パブリック **API** サービス。Workspace Environment Management パブリック API サービスは、WEM Web コンソールをサポートし、WEM インフラストラクチャサービスと通信するための HTTPS サービスを提供します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスに接続し、管理コンソールで構成した設定を強制します。エージェントを Virtual Delivery Agent (VDA) に展開できます。これにより、シングルセッション環境またはマルチセッション環境を管理できます。また、物理的な Windows エンドポイントにエージェントを展開することもできます。

注:

- エージェントをインフラストラクチャ・サーバにインストールできません。このシナリオでは、エージェントインストーラーが失敗します。
- トランスフォーマー機能は、マルチセッション OS ではサポートされていません。

SQL Server データベース。Workspace Environment Management では、設定を保存するために SQL Server データベースが必要です。必要に応じて、データベースを SQL Server Always On 可用性グループでホストできます。(詳細については、「[システム要件](#)」を参照してください)。

Microsoft Active Directory Server。Workspace Environment Management では、ユーザーに設定をプッシュするために Active Directory へのアクセスが必要です。

ヒント:

Citrix Virtual Apps and Desktops のダウンロードページから最新の Workspace Environment Management インストーラーをダウンロードできます。<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>。そのページで、最新バージョンの Citrix Virtual Apps and Desktops のコンポーネントにあるインストーラーにアクセスします。

新機能

May 28, 2024

ヒント:

Citrix Virtual Apps and Desktops のダウンロードページから最新の Workspace Environment Management インストーラーをダウンロードできます。<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>。そのページで、最新バージョンの Citrix Virtual Apps and Desktops のコンポーネントにあるインストーラーにアクセスします。

このリリースは、次の新機能が含まれ、[問題](#)に対応しているため、より優れたユーザーエクスペリエンスを提供します:

注:

次の機能は、WEM オンプレミス Web コンソール (Technical Preview) でのみ使用できます。

- ユーザーデータソース名
- ポート
- **INI** ファイル
- エージェントオンデマンドタスク履歴
- レポート管理用のフィルター条件機能の強化
- **Web** コンソールのヘルスチェックの強化

ユーザーデータソース名

Web コンソールを使用して、ユーザーデータソース名 (DSN) を追加してユーザーに割り当てることができるようになりました。詳細については、「[ユーザー DSN](#)」を参照してください。

ポート

Web コンソールを使用して、ポートマッピングを追加してユーザーに割り当てることができるようになりました。詳細については、「[ポート](#)」を参照してください。

INI ファイル

Web コンソールを使用して、INI ファイル操作を追加してユーザーに割り当てることができるようになりました。詳細については、[INI ファイル](#)を参照してください。

エージェントオンデマンドタスク履歴

この機能強化により、過去 24 時間に開始されたタスクの進行状況と結果を確認できます。タスクをトリガーすると、各ターゲットエージェントのタスクステータスを確認できます。最近のタスクの履歴とそのステータスを表示することもできます。レポート付きのタスクでは、[レポート] タブからそれらのレポートに直接アクセスできます。詳細については、「[エージェント](#)」を参照してください。

レポート管理用のフィルター条件機能の強化

この機能強化により、結果サマリー条件を選択したときに各値をセミコロンで区切ることで複数の値をフィルタリングして追加できるようになりました。これにより、システムを監視および最適化できる柔軟なレポート管理方法が提供されます。

Web コンソールのヘルスチェックの強化

Workspace Environment Management により、Profile Management のステータスをより明確かつ詳細に把握できるようになりました：

- 無効:Profile Management が見つからないか、有効になっていないことを示します。
- エラー:Profile Management の設定に問題があることを示します。
- 警告:Profile Management の状態が最適ではないことを示します。
- 注意:Profile Management が許容できる状態であることを識別します。
- 良好:ID Profile Management は正常な状態です。

詳しくは、「[統計](#)」の「**Profile Management** の状態」列の説明を参照してください。

Windows ログオンの分析機能が強化されました

この機能強化により、ユーザープロファイルと CitrixProfile Management のデータ分析がより詳細に行えるようになりました。HDX 接続のサブメトリックを有効にすると、グループポリシーオブジェクトのサブメトリックが導入されました。詳細については、「[Windows ログオン分析](#)」を参照してください。

WEM ヘルスチェックツール

これで、WEM スタンドアロンツールを起動して WEM コンポーネントのステータスを確認し、トラブルシューティングを行うことができます。このツールは、WEM エージェントまたはインフラストラクチャサーバーで実行でき、選択された（チェック）さまざまな項目の結果をそれぞれ提供します。チェックが完了すると、レポートがユーザーのマシンに保存されます。デバッグモードをオンにして、指定した場所にログファイルを取得できます。また、一部の構成上の問題を自動的に修正することもできます。詳細については、「[WEM ヘルスチェックツール](#)」を参照してください。

解決された問題

May 28, 2024

Workspace Environment Management 2402 には、Workspace Environment Management 2311 と比較して次の修正された問題が含まれています：

- 他の AD オブジェクトがドメイン内のエージェントと同じ名前を持つ場合、エージェントに割り当てられたマシンレベルの GPO が失敗することがあります。[WEM-32315、CVADHELP-23868]

既知の問題

May 28, 2024

Workspace Environment Management 2402 には、以下の既知の問題があります：

このリリースでは問題は確認されていません。

サードパーティ製品についての通知

August 12, 2020

Workspace Environment Management の最新リリースには、次のドキュメントで定義された条件の下でライセンスが有効になったサードパーティのソフトウェアが含まれている可能性があります。

Workspace Environment Management サードパーティ通知

廃止

May 19, 2021

この資料の発表は、段階的に廃止されているプラットフォームと Workspace Environment Management 機能について事前に通知し、タイムリーにビジネス上の決定を下すことができるようにすることを目的としています。シトリックスではお客様の使用状況とフィードバックをチェックして、各プラットフォーム、Citra 製品、機能を撤廃するかどうかを判断しています。発表は、後続のリリースで変更されることがあり、非推奨の機能や機能がすべて含まれるとは限りません。

製品のライフサイクルサポートについて詳しくは、[製品ライフサイクルサポートポリシー](#)を参照してください。

廃止と削除

廃止または削除されるプラットフォームおよび Workspace Environment Management (WEM) の機能を以下の表に示します。

廃止されたアイテムはすぐには削除されません。このリリースでは Citrix が引き続きサポートしていますが、今後のリリースでは削除される予定です。アスタリスク (*) が付いている項目は、次の Citrix Virtual Apps and Desktops の長期サービスリリース (LTSR) リリースまでサポートされます。

削除されたアイテムは、Workspace Environment Management で削除されるか、サポートされなくなりました。

| アイテム | 発表されたバージョン | 削除されたバージョン | 代替 |

| -- | --- | --- | --- |

| キャッシュ同期ポートのサポート (Workspace Environment Management 1909 以前に適用可能。Workspace Environment Management 1912 以降では、キャッシュされたデータ同期ポートに置き換えられました)。 | 2012 | **2103** | Workspace Environment Management 1912 以降にアップグレードします。注意:Workspace Environment Management 2103 以降を使用する場合は、Workspace Environment Management エージェントを 1912 以降にアップグレードしてください。 |

| VMware ペルソナ設定のサポート。 | 1906 | **1909** |

| 次の OS プラットフォーム上の WEM インフラストラクチャサービスのサポート:Windows Server 2008 R2 SP1 および Windows Server 2012。 | 4.7 | **1808** |

| 次の OS プラットフォームでの WEM 管理コンソールのサポート: Windows Vista SP2 32 ビットおよび 64 ビット版、Windows 7 SP1 32 ビットおよび 64 ビット版、Windows 8.x 32 ビットおよび 64 ビット版、Windows

Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1、および Windows Server 2012。 | 4.7 | **1808** |
| Windows Vista SP2 32 ビットおよび 64 ビット、および Windows Server 2008 SP2 の OS プラットフォーム
で WEM エージェントをサポートします。 | 4.7 | **1808** |
| In-place upgrade from WEM 3.0, 3.1, 3.5, 3.5.1 to WEM 4.x.* | 4.5 | Upgrade to WEM 3.5.2, then upgrade
to WEM 4.x. |
| Support for all WEM components on Windows XP SP3 32-bit and 64-bit. | 4.5 | 4.5 | Use a supported
OS platform. |
| Support for WEM agent on the following OS platforms: Windows XP SP3 32-bit and 64-bit, Windows
Server 2003 32-bit and 64-bit, Windows Server 2003 R2 32-bit and 64-bit | 4.5 | 4.5 | Use a supported
OS platform. |
| Support for assigning and binding existing (pre-version 4.3) agents to sites via GPO. | 4.3 | | Upgrade
agents to Workspace Environment Management 4.3 or later. |
| Support for WEM administration console on the following OS platforms: Windows XP SP3 32-bit and
64-bit, Windows Server 2003 32-bit and 64-bit, Windows Server 2003 R2 32-bit and 64-bit | 4.2 | 4.5 |
Use a supported OS platform. |
| Support for WEM administration console on the following OS platforms: Windows Vista SP1 32-bit
and 64-bit, Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2 | 4.2 | 4.5
| Support for all WEM components on Microsoft .NET Framework 4.0, 4.5.0, or 4.5.1. | 4.2 | 4.5 | Upgrade
to Microsoft .NET Framework 4.5.2. |

クイックスタートガイド

October 26, 2023

このガイドでは、Workspace Environment Management (WEM) をインストールおよび構成する方法について説明します。インストールと構成の手順と、推奨されるベストプラクティスについて説明します。

概要

WEM は、ユーザーに最高の Workspace エクスペリエンスを提供できるように設計されたユーザー環境管理ソリューションです。これは、ドライバーを必要としない、ソフトウェアのみのソリューションです。

前提条件

環境に WEM をインストールする前に、すべてのシステム要件を満たしていることを確認してください。詳しくは、「[システム要件](#)」を参照してください。

インストールと構成

最新バージョンの WEM をインストールすることをお勧めします。WEM の展開は、インフラストラクチャサービス、管理コンソール、エージェントの 3 つのコアコンポーネントのインストールと構成で構成されます。次の手順では、これらのコンポーネントをインストールおよび構成する方法について詳しく説明します。

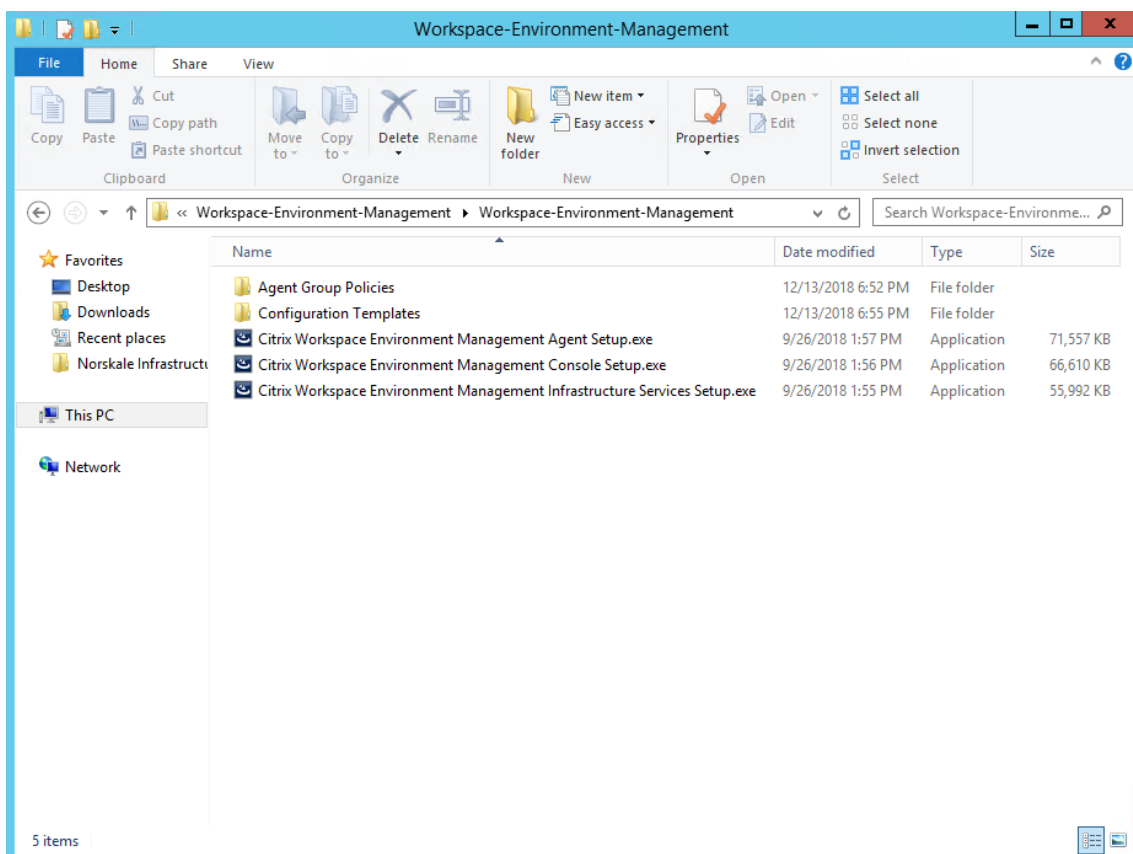
- [インフラストラクチャサービス](#)
- [管理コンソール](#)
- [Web コンソール](#)
- [Agent](#)

注記:

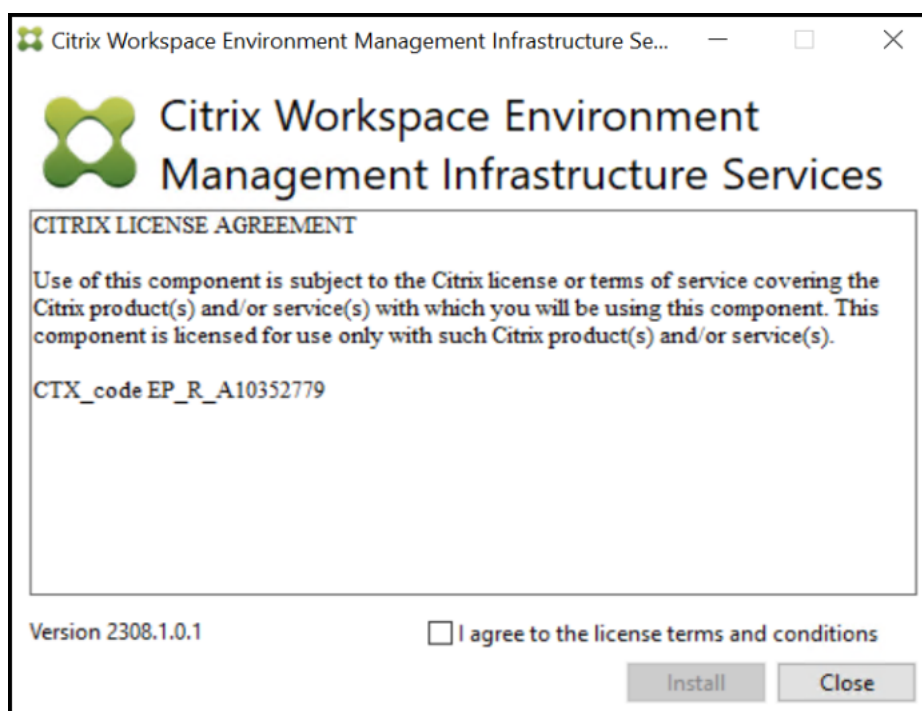
- 上記のコンポーネントのいずれも、ドメイン Controller にインストールしないでください。
- Delivery Controller がインストールされているサーバーにはインフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

手順 1: インフラストラクチャサービスをインストールする

1. Citrix Virtual Apps and Desktops Advanced または Premium エディションコンポーネントのダウンロードページ<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>から最新の WEM インストーラーをダウンロードします。適切なフォルダーに zip ファイルを展開します。



2. **Citrix Workspace Environment Management** インフラストラクチャ **Services.exe** をインフラストラクチャサーバーで実行します。
3. **[Install]** をクリックします。
4. **[次へ]** をクリックします。
5. 使用許諾契約書の「使用許諾条件に同意する」を選択します。



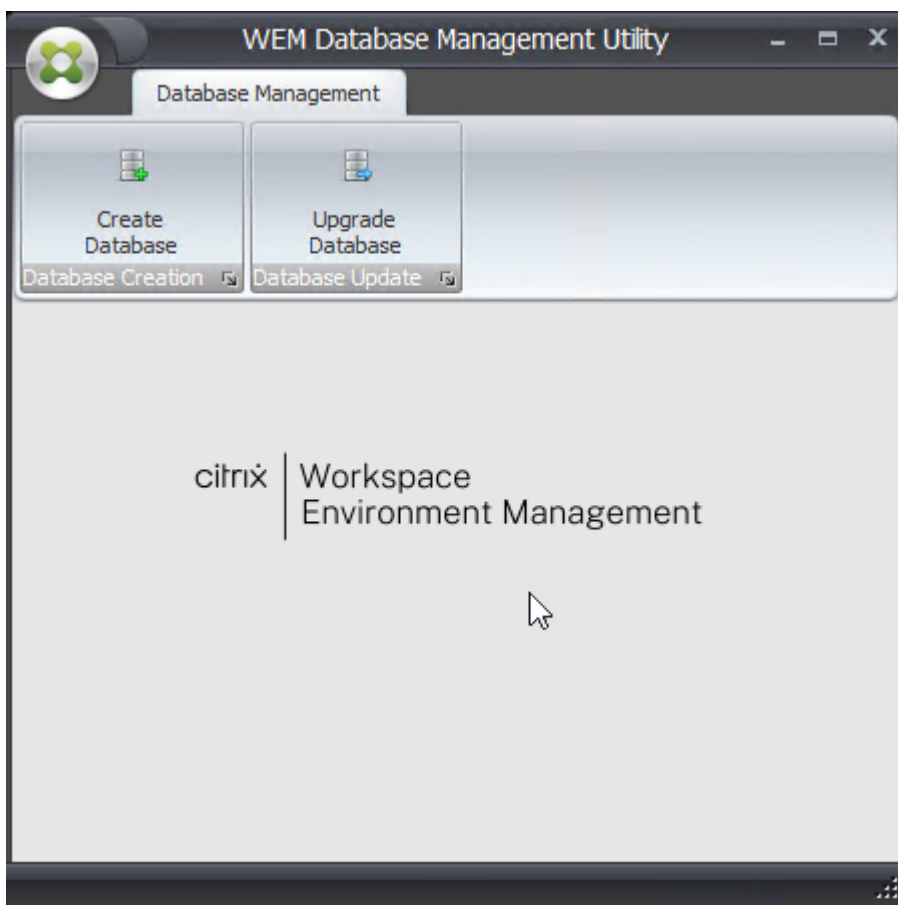
6. ウィザードの指示に従って手順を完了します。

手順 2: WEM データベースを作成する

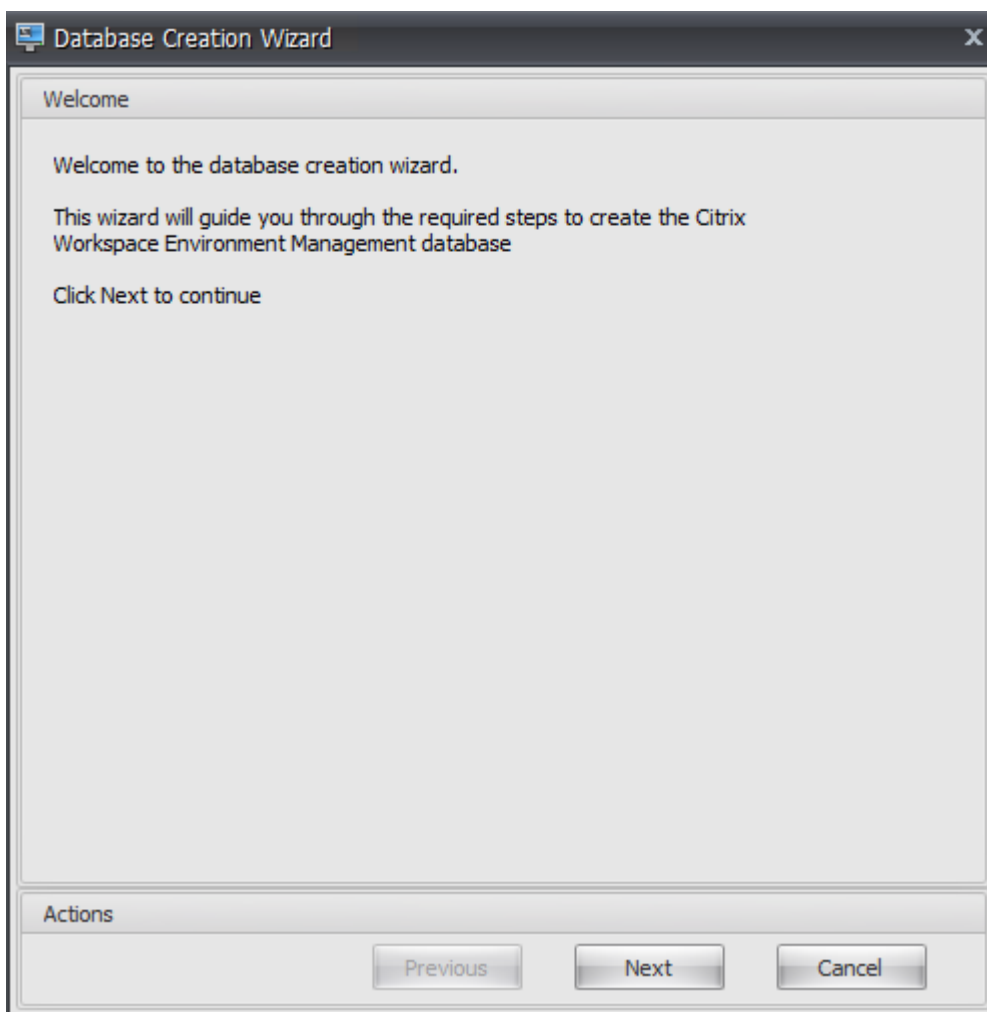
1. データベース管理ユーティリティで、[データベースの作成] をクリックして、展開用の WEM データベースを作成します。データベース作成ウィザードが表示されます。

注記:

SQL Server で Windows 認証を使用している場合は、システム管理者のアクセス許可を持つ ID でデータベース作成ユーティリティを実行します。



2. 「ようこそ」 ページで、「次へ」 をクリックします。



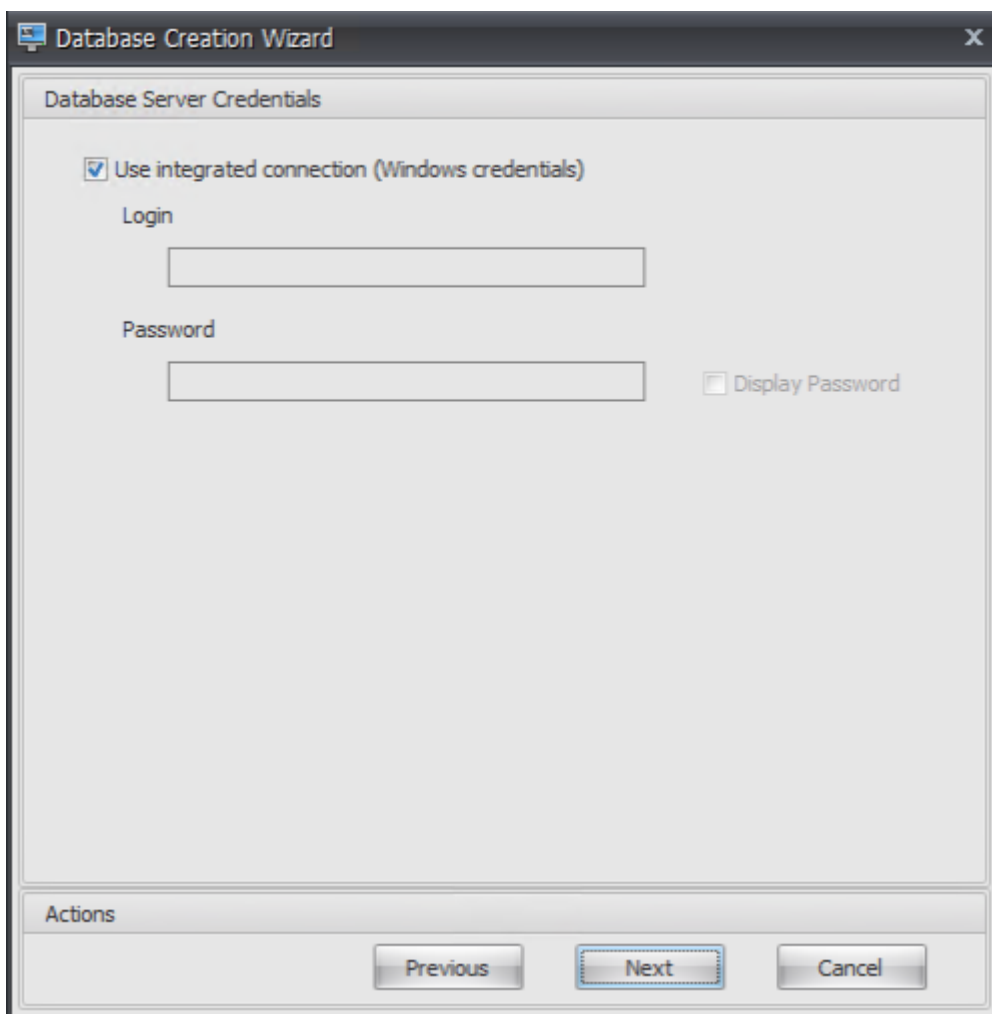
3. [データベース情報] ページで、必要な情報を入力し、[次へ] をクリックします。

注記:

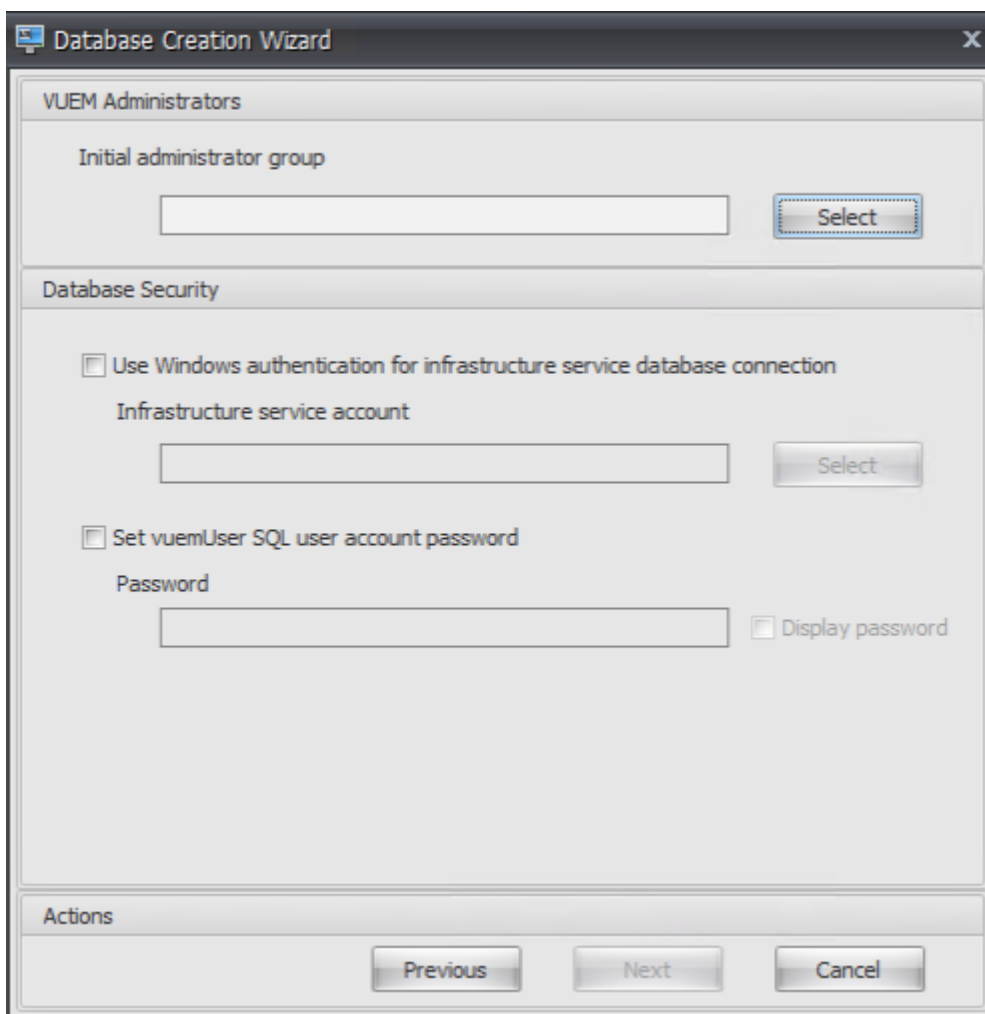
- サーバー名とインスタンス名には、マシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを入力します。
- ファイルパスには、データベース管理者が指定した正確なパスを入力します。自動補完されたファイルパスが正しいことを確認します。

The image shows a 'Database Creation Wizard' dialog box. The title bar reads 'Database Creation Wizard' with a close button (X) on the right. The main area is titled 'Database Information' and contains four input fields: 'Server and instance name', 'Database name', 'Data file', and 'Log file'. At the bottom, there is an 'Actions' section with three buttons: 'Previous', 'Next', and 'Cancel'. The 'Cancel' button is highlighted with a dashed border.

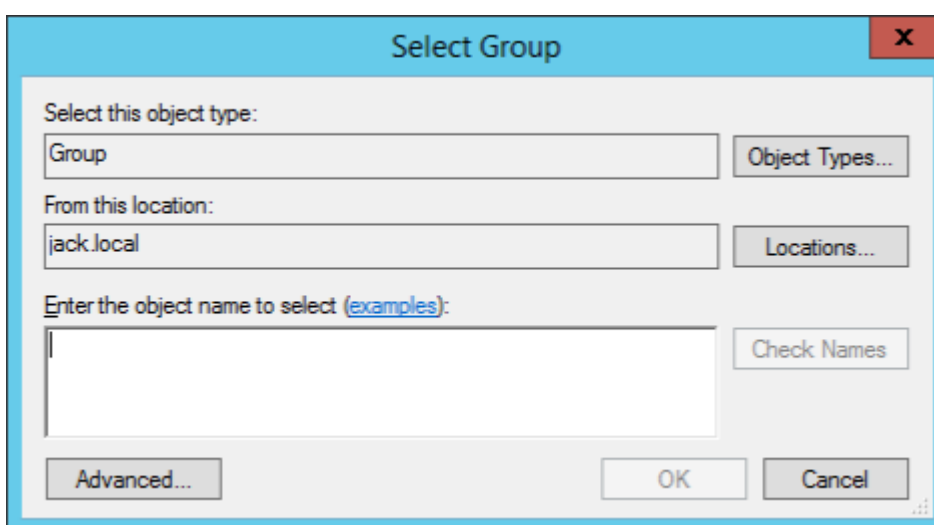
4. [データベースサーバーの認証情報] ページで、必要な情報を入力し、[次へ] をクリックします。



5. [VUEM 管理者] で、[選択] をクリックします。



6. 「グループの選択」ウィンドウで、管理コンソールの管理権限を持つユーザーグループを入力し、「名前の確認」をクリックして、「OK」をクリックします。

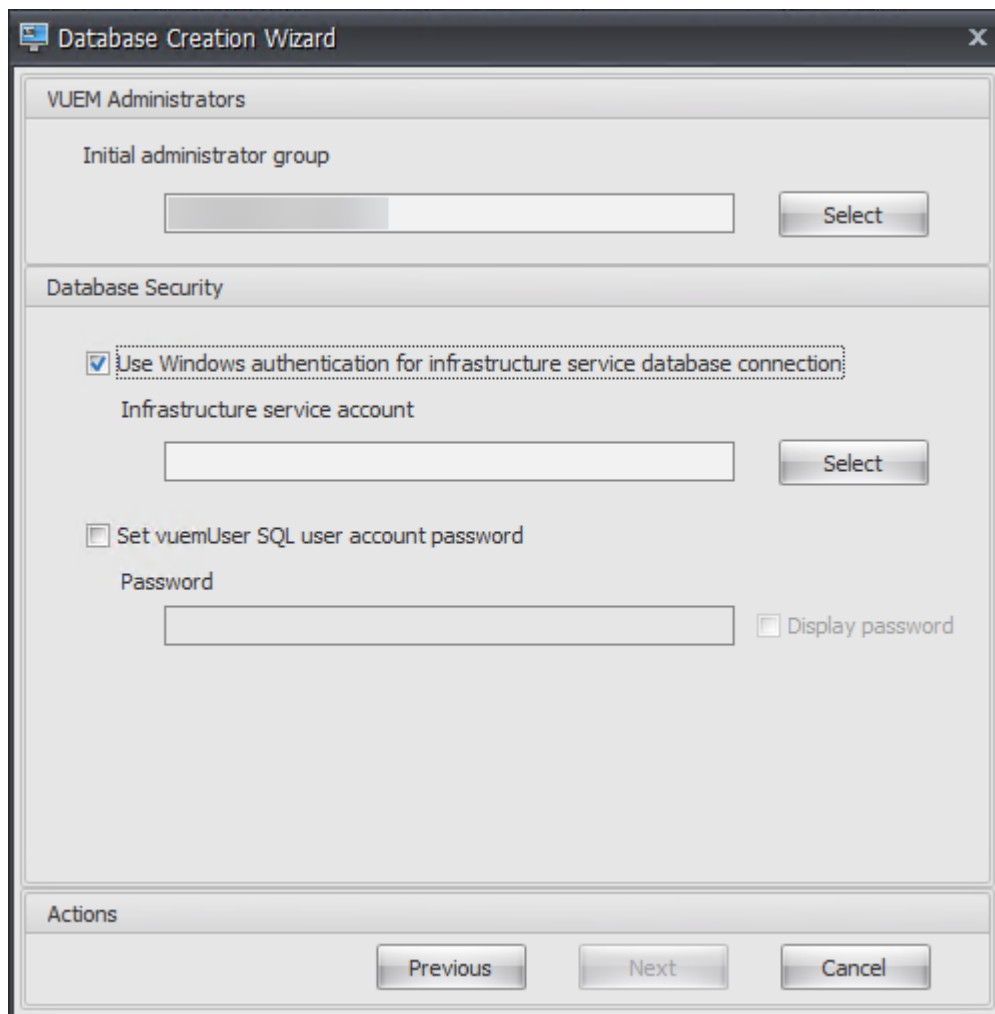


7. [データベースセキュリティ]で、[インフラストラクチャサービスのデータベース接続に **Windows** 認証を使

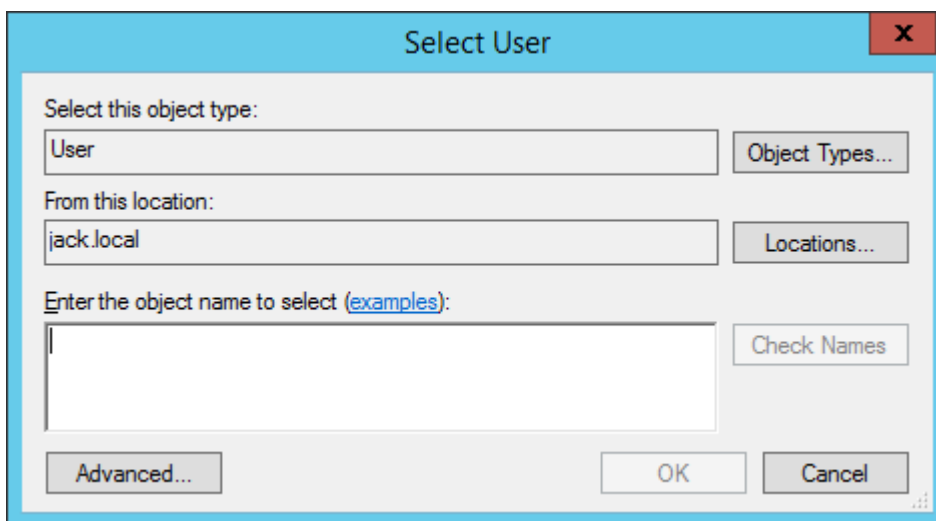
用する]を選択し、[選択]をクリックします。

注記:

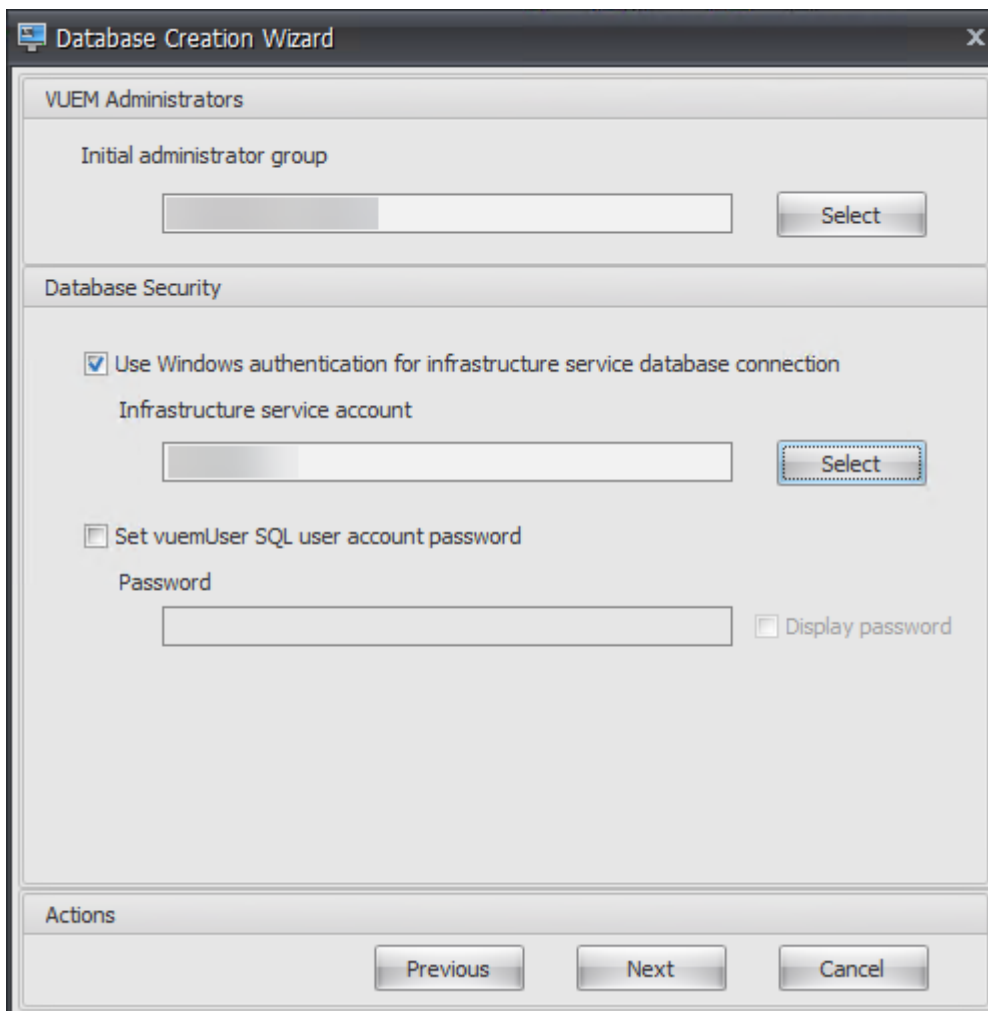
- インフラストラクチャサービスデータベース接続に **Windows** 認証を使用する]または [**VueMuser SQL** ユーザアカウントのパスワードの設定]のいずれも選択しない場合、デフォルトで SQL ユーザアカウントが使用されます。
- 独自の VueUser SQL アカウントパスワードを使用するには (たとえば、SQL ポリシーにより複雑なパスワードが必要な場合)、[**VueMuser SQL** ユーザーアカウントパスワードの設定]を選択します。



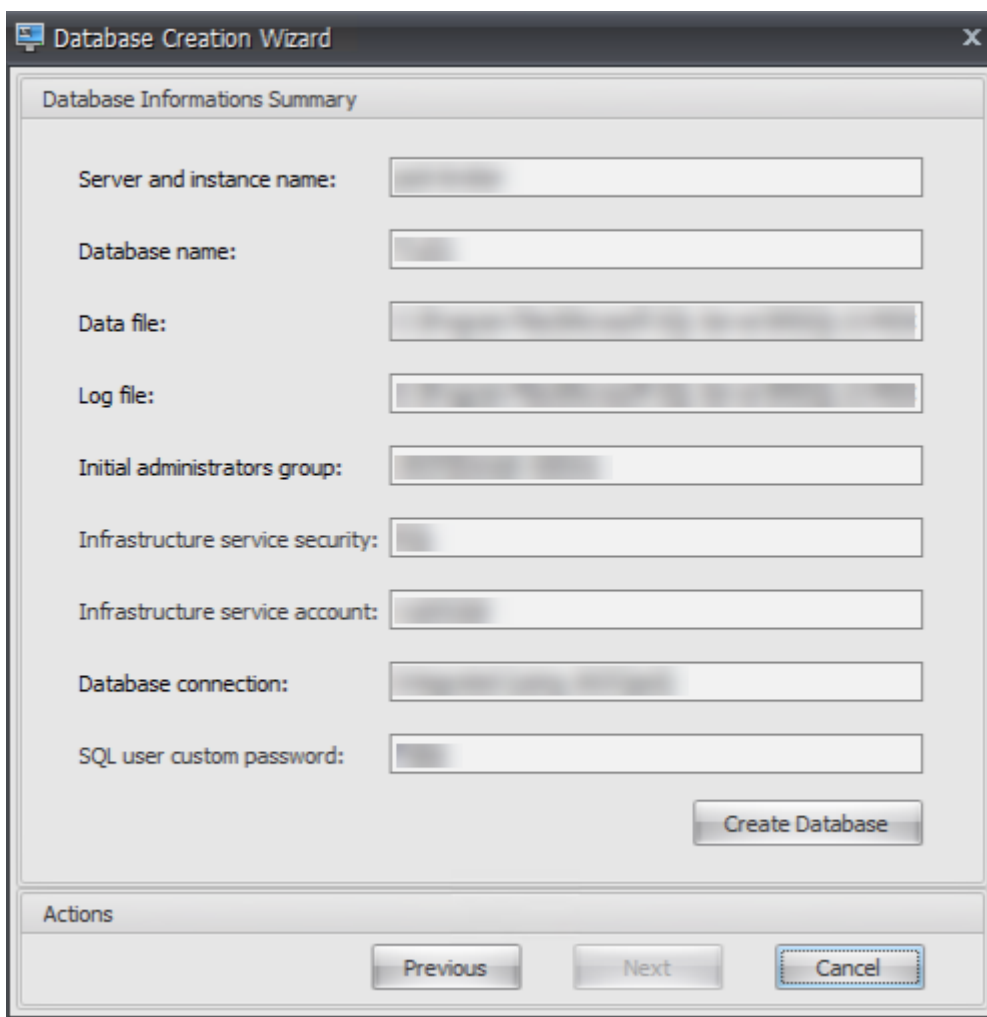
8. [ユーザーの選択] ウィンドウで、インフラストラクチャサービスアカウントの名前を入力し、[名前の確認]をクリックし、[OK]をクリックします。



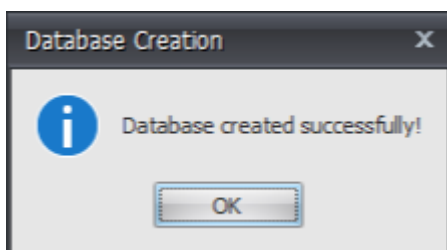
9. [次へ] をクリックします。



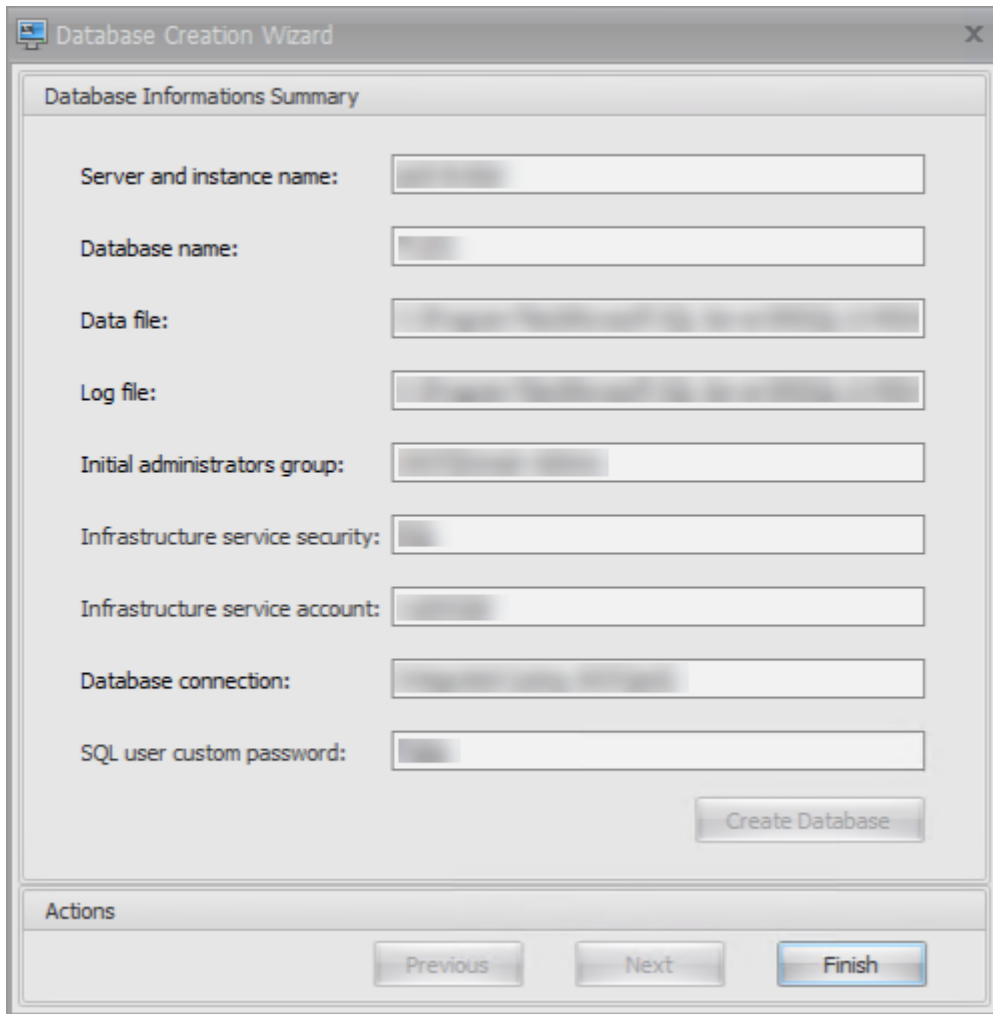
10. 「データベース情報の概要」 ページで、「データベースの作成」 をクリックします。



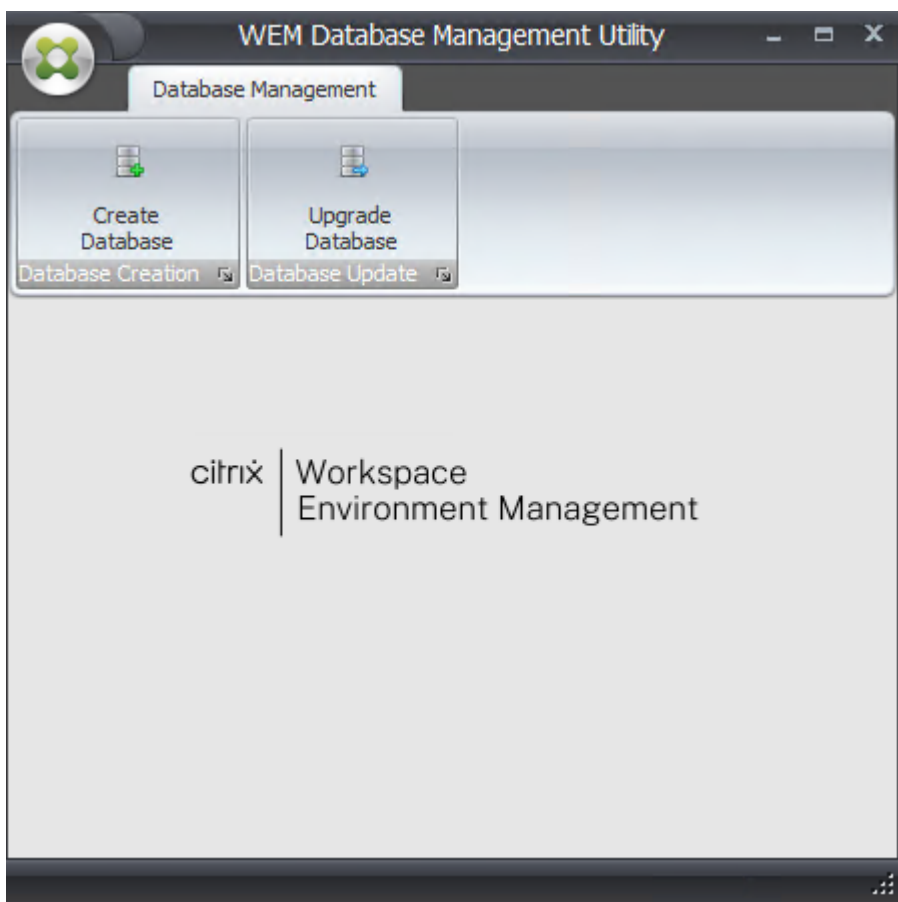
11. **[OK]** をクリックします。



12. [データベース情報の概要] ページで、[完了] をクリックします。



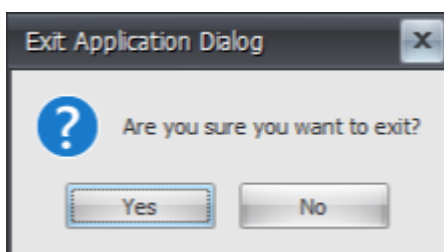
13. **WEM** データベース管理ユーティリティを閉じます。



14. [アプリケーションの終了] ダイアログで、[はい] をクリックします。

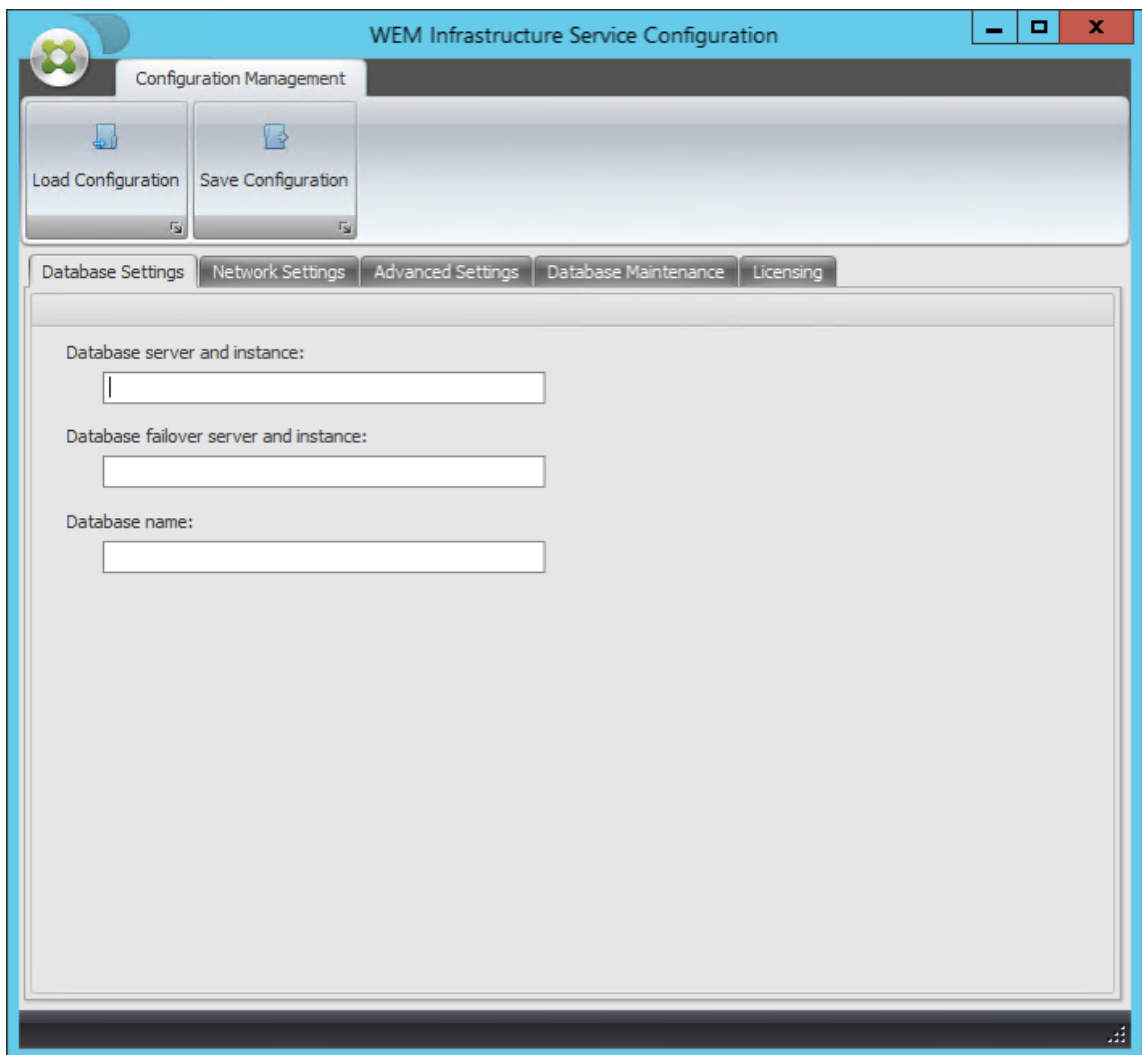
注記:

データベースの作成中にエラーが発生した場合は、インフラストラクチャサービスのインストールフォルダにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」で詳細を確認してください。



手順 3: インフラストラクチャサービスを構成する

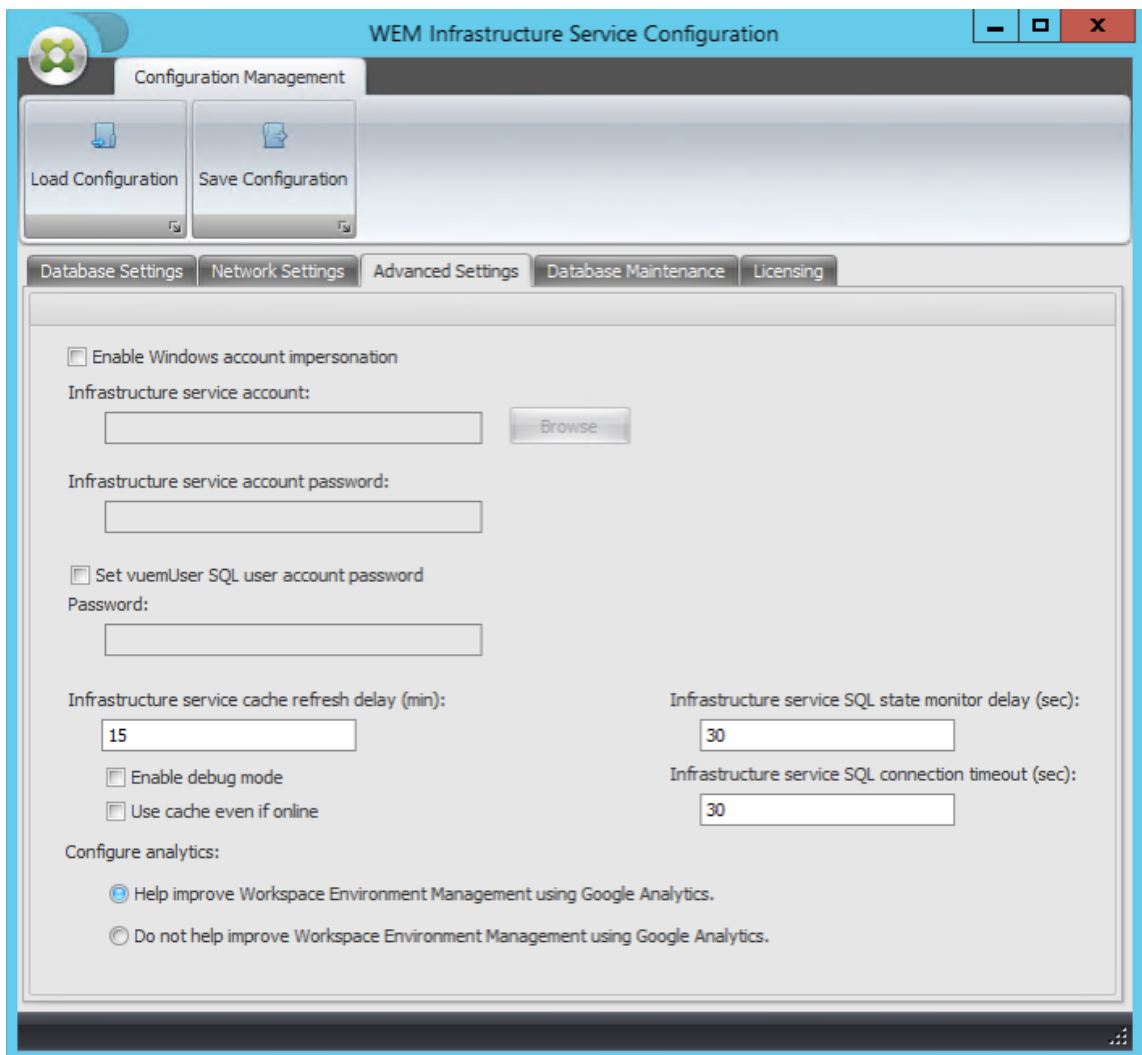
1. [スタート] メニューから **WEM** インフラストラクチャサービス設定ユーティリティを開きます。
2. [データベース設定] タブで、必要な情報を入力します。



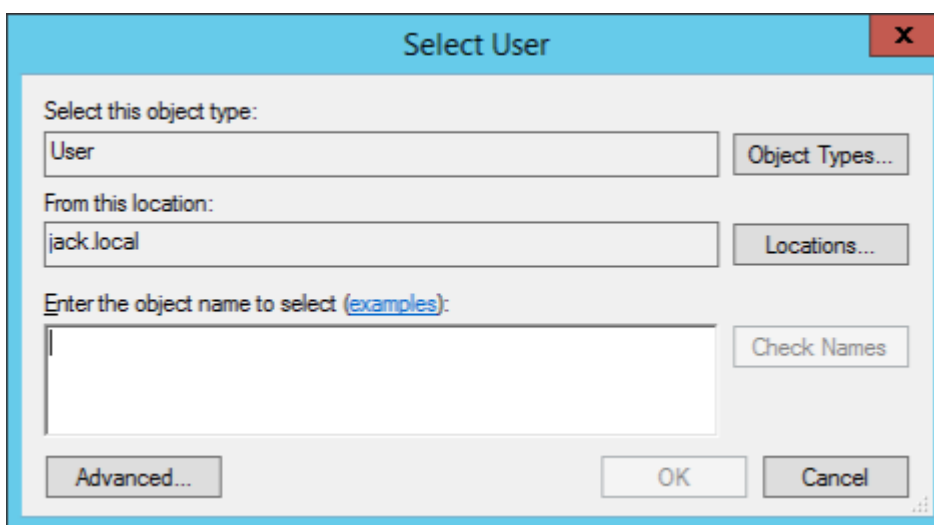
3. [詳細設定] タブで、[**Windows** アカウントの偽装を有効にする] を選択し、[参照] をクリックします。

注記:

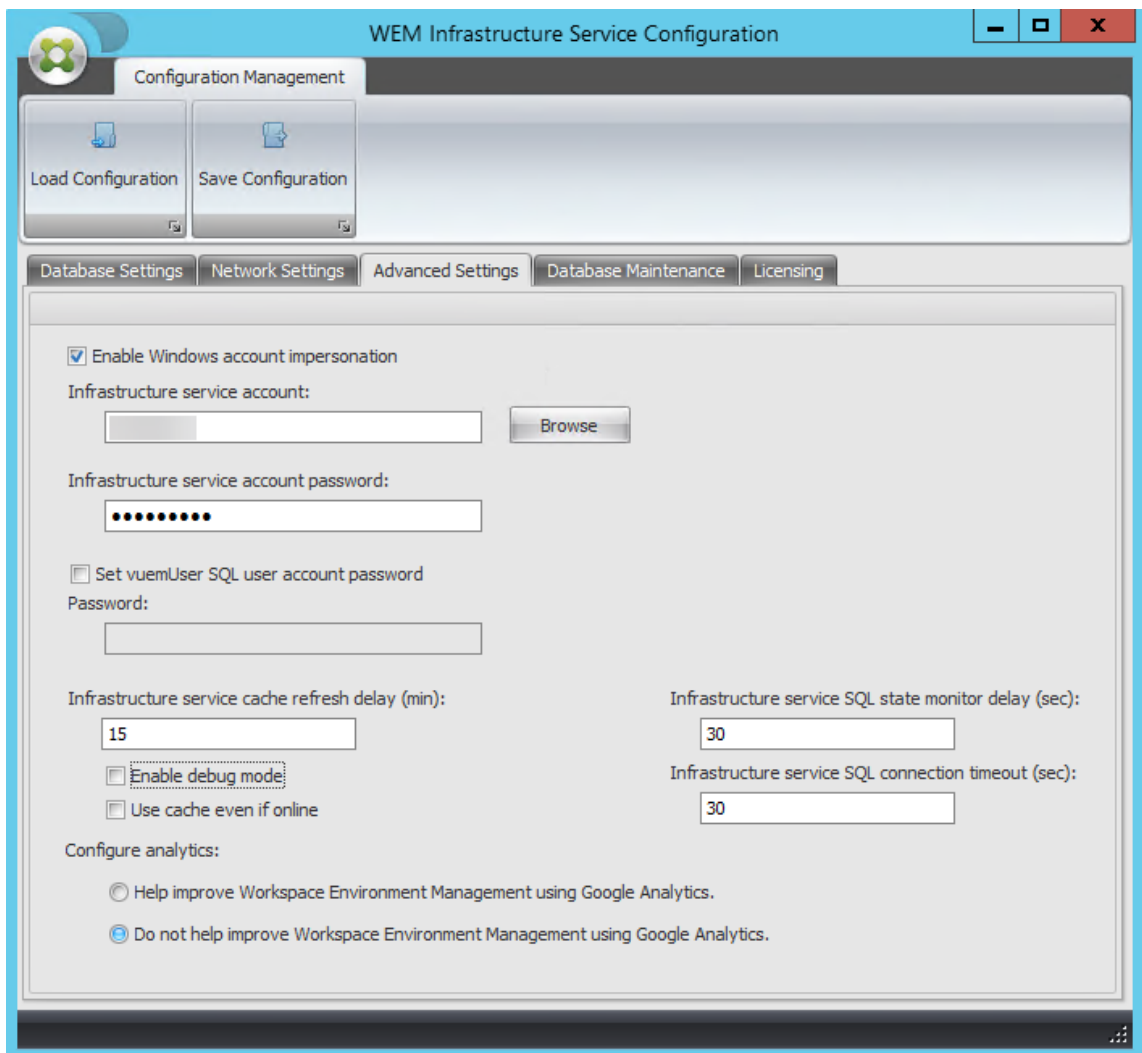
手順 2 で WEM データベースの作成時に行った選択に応じて、[**Windows** アカウントの偽装を有効にする] または [**VueMuser SQL** ユーザアカウントのパスワードの設定] を選択します。



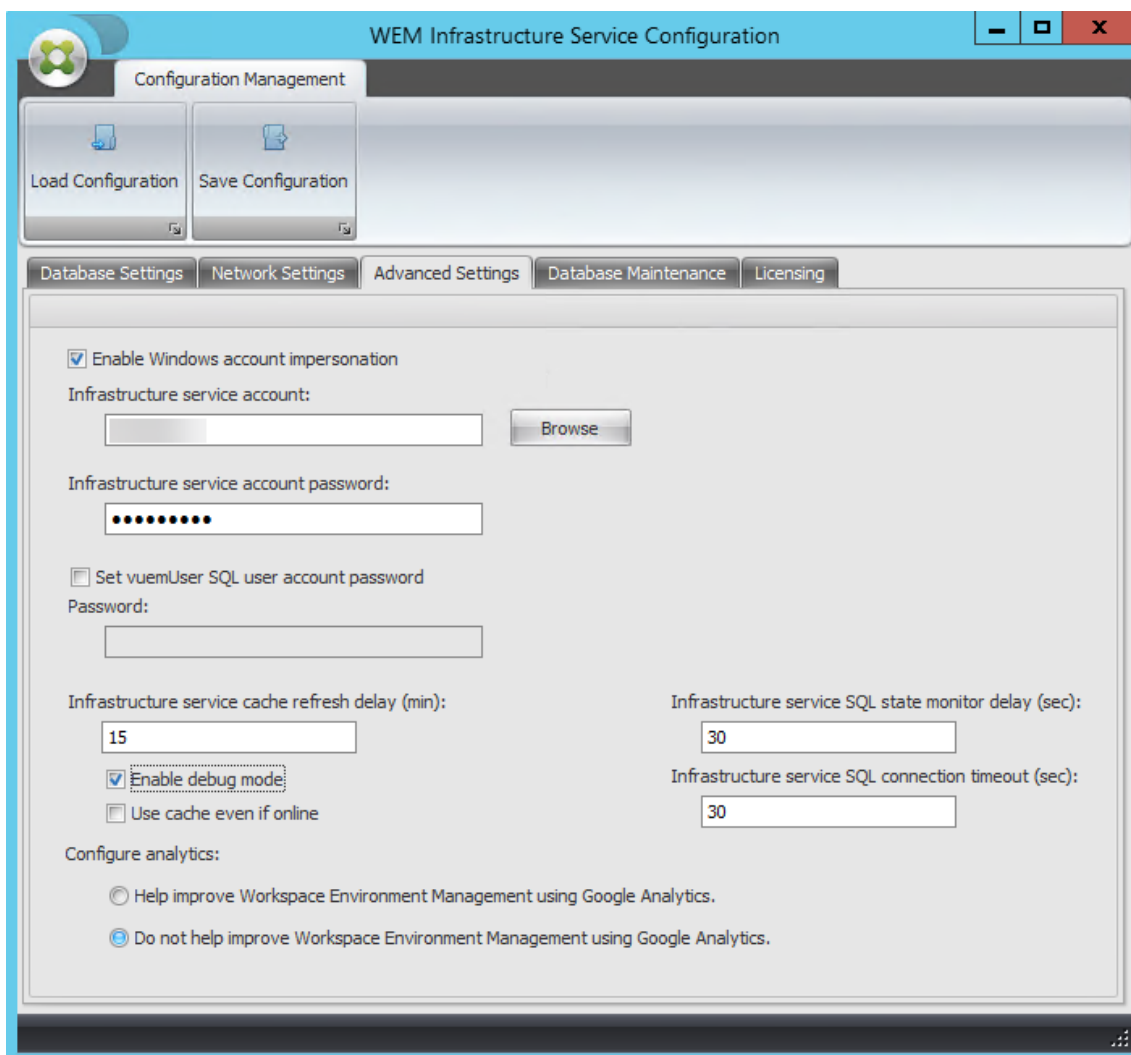
4. ユーザー名を入力し、「名前の確認」をクリックし、「OK」をクリックします。



5. インフラストラクチャサービスアカウントのパスワードを入力します。



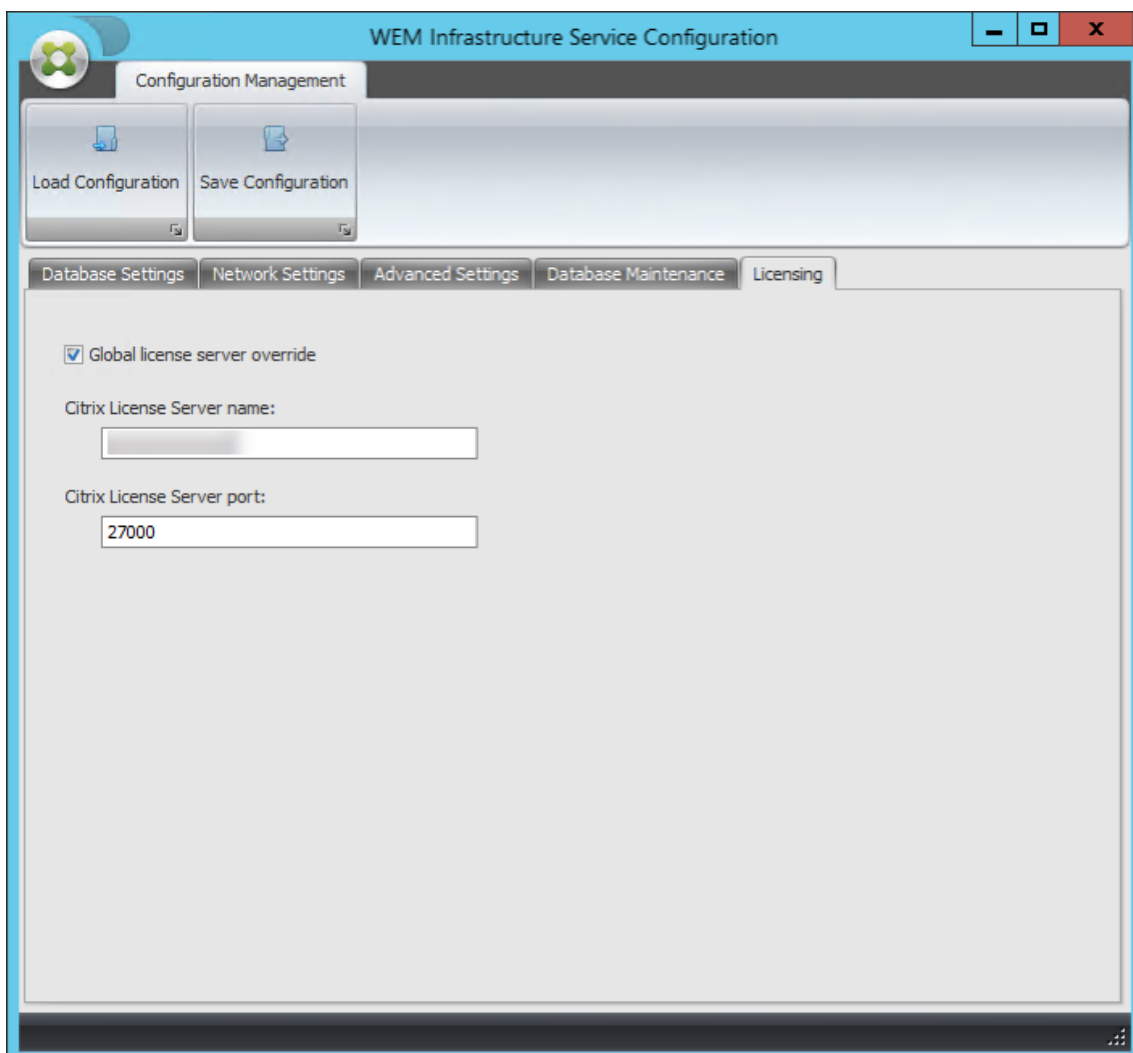
6. [デバッグモードを有効にする]を選択します。



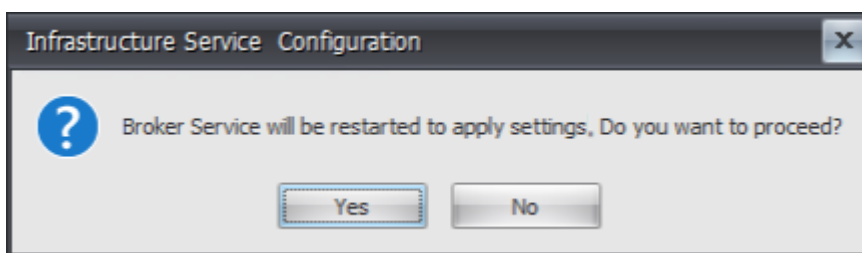
7. 「ライセンス」タブで、「グローバルライセンスサーバーオーバーライド」を選択し、ライセンス情報を入力して、「設定を保存」をクリックします。

注記:

- [Citrix ライセンスサーバー名] に、ライセンスサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを入力します。
- Citrix ライセンスサーバーのポートの場合、デフォルトのポートは 27000 です。



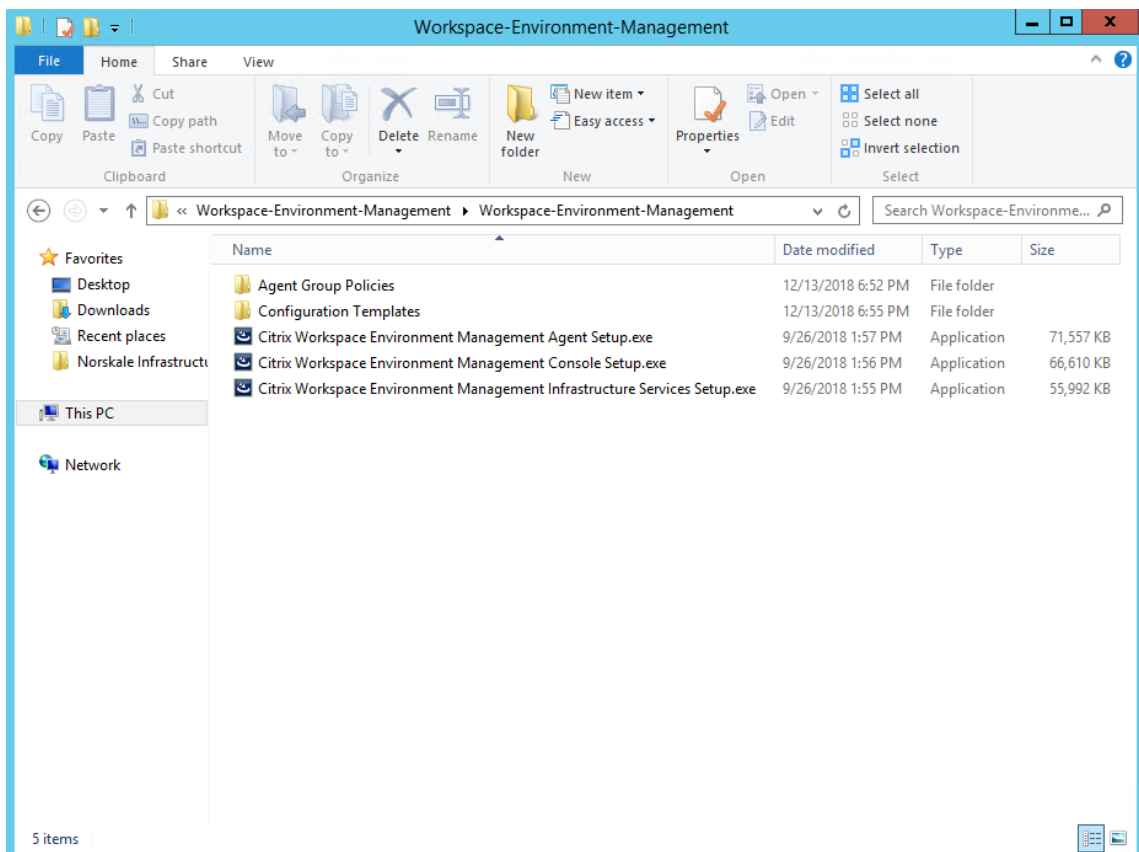
8. [はい] をクリックします。



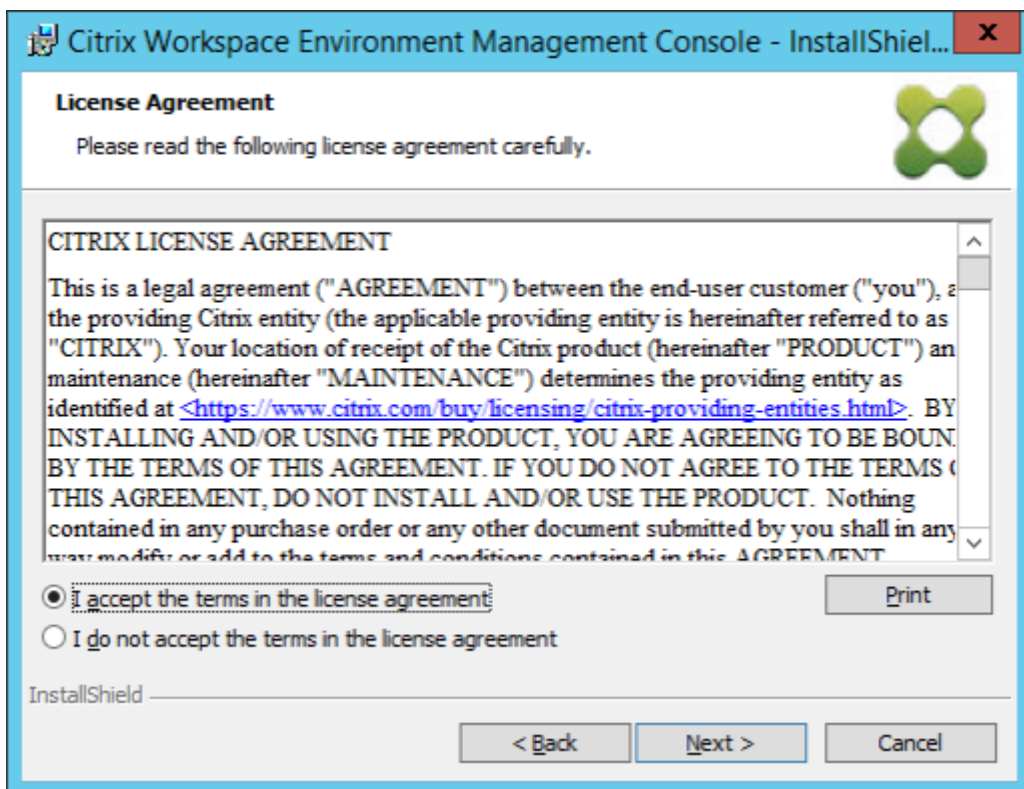
9. **WEM** インフラストラクチャサービス設定ユーティリティを閉じます。

手順 **4**: 管理コンソールをインストールする

1. **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行します。



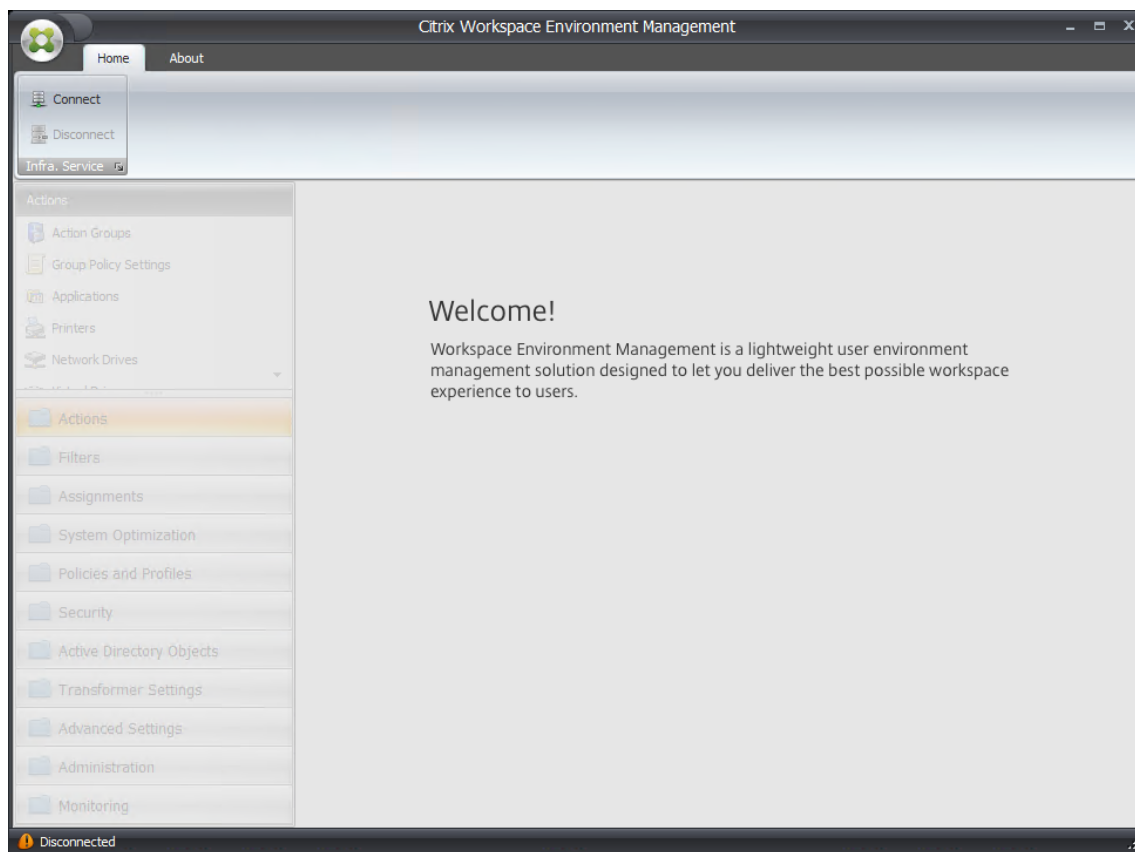
2. 「使用許諾契約」 ページで、「使用許諾条件に同意します」 を選択します。



3. ウィザードの指示に従って手順を完了します。

手順 5: 構成セットを構成する

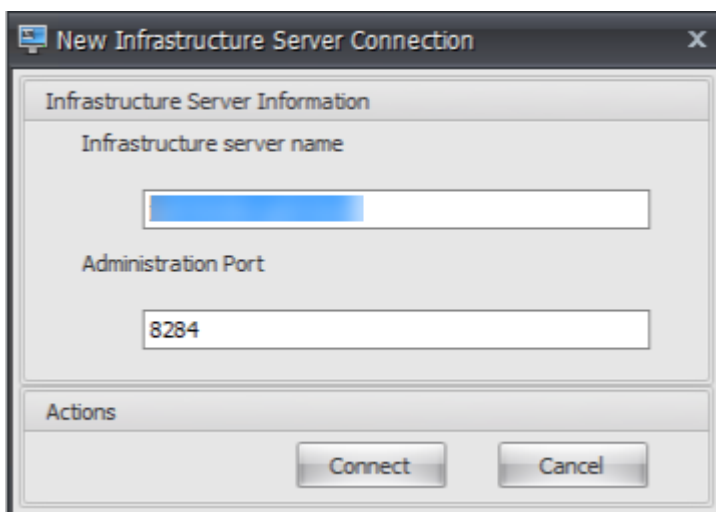
1. [スタート]メニューから **WEM** 管理コンソールを開き、[接続]をクリックします。



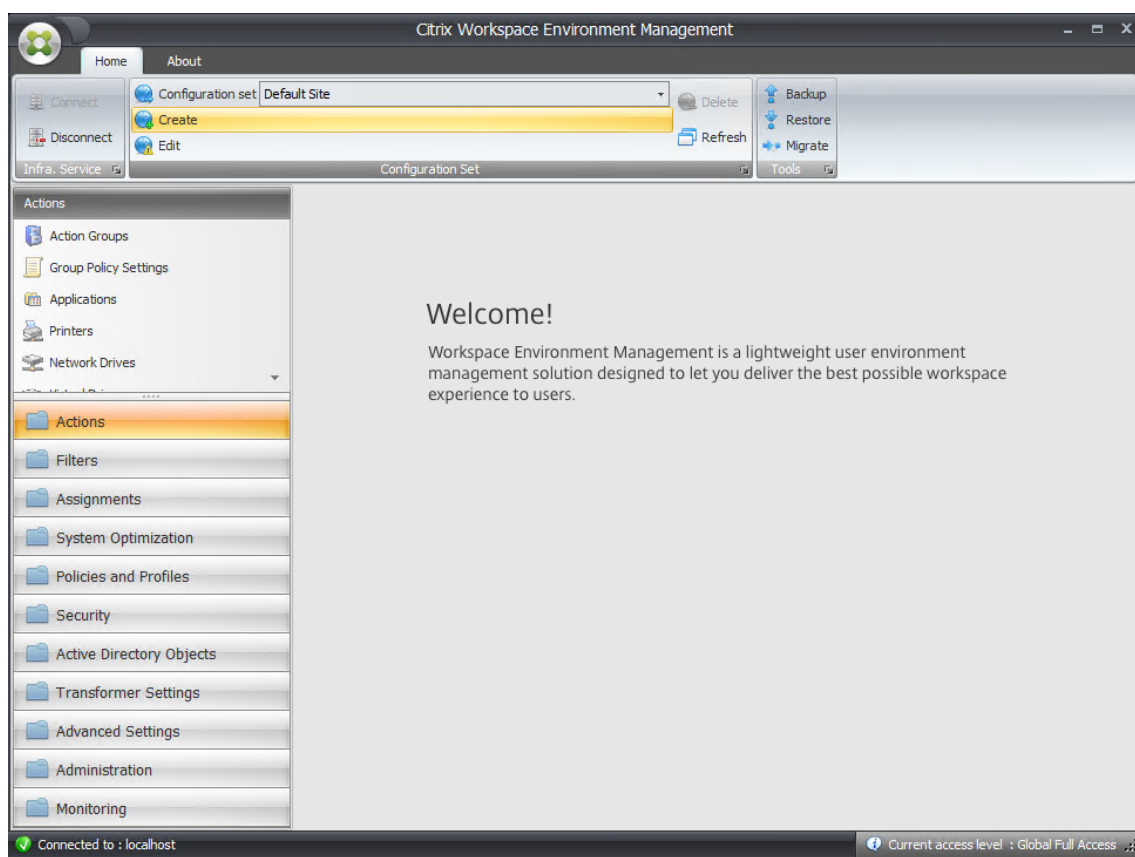
2. 「新規インフラストラクチャサーバ接続」ウィンドウで、情報を確認し、「接続」をクリックします。

注記:

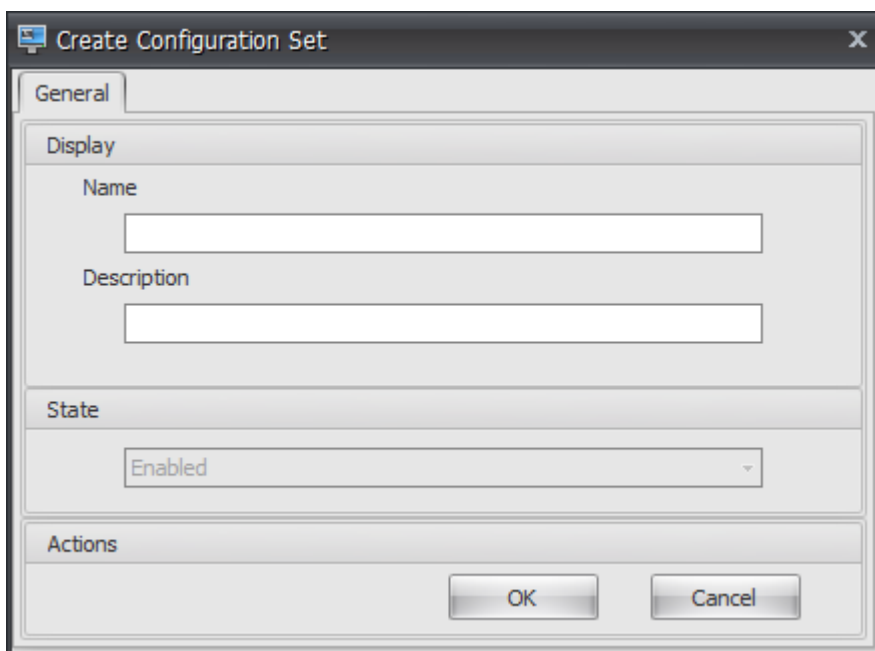
- [インフラストラクチャサーバ名] に、WEM インフラストラクチャサーバのマシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを入力します。
- 管理ポートの場合、デフォルトのポートは 8284 です。



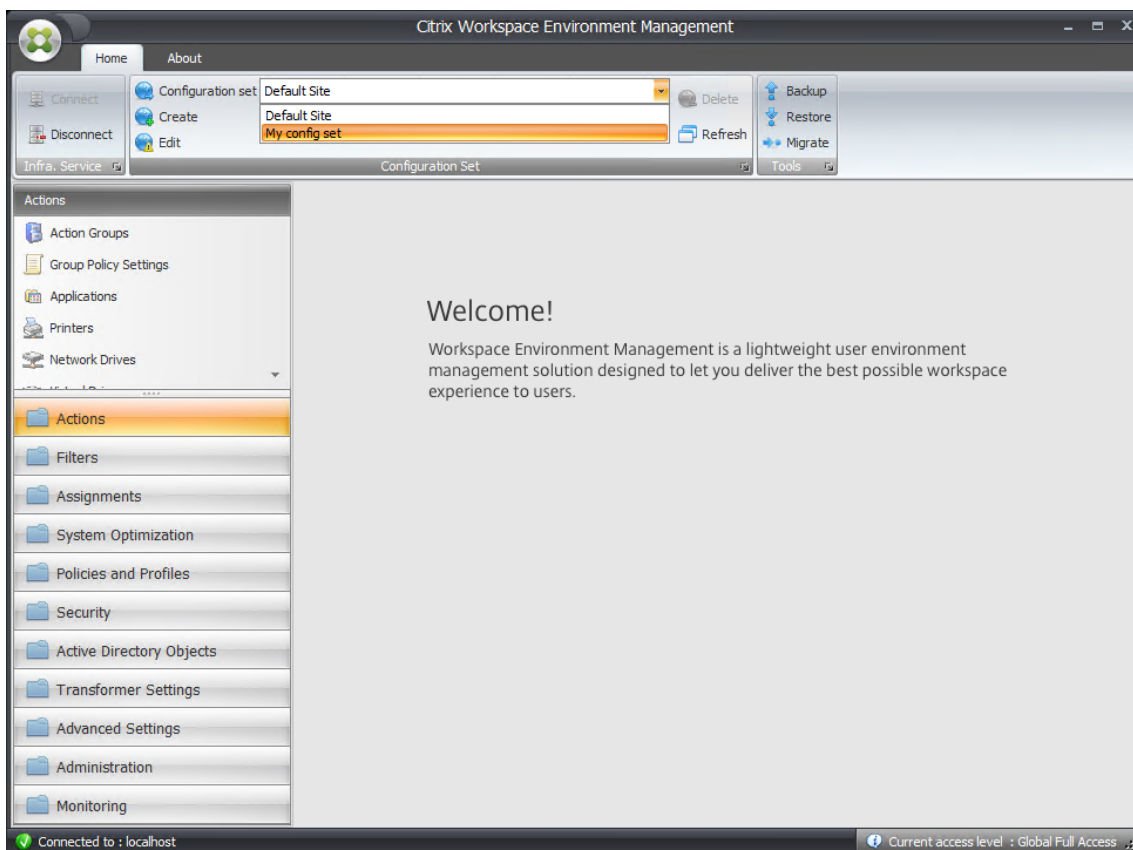
3. [ホーム] タブのリボンで、[作成] をクリックして構成セットを作成します。



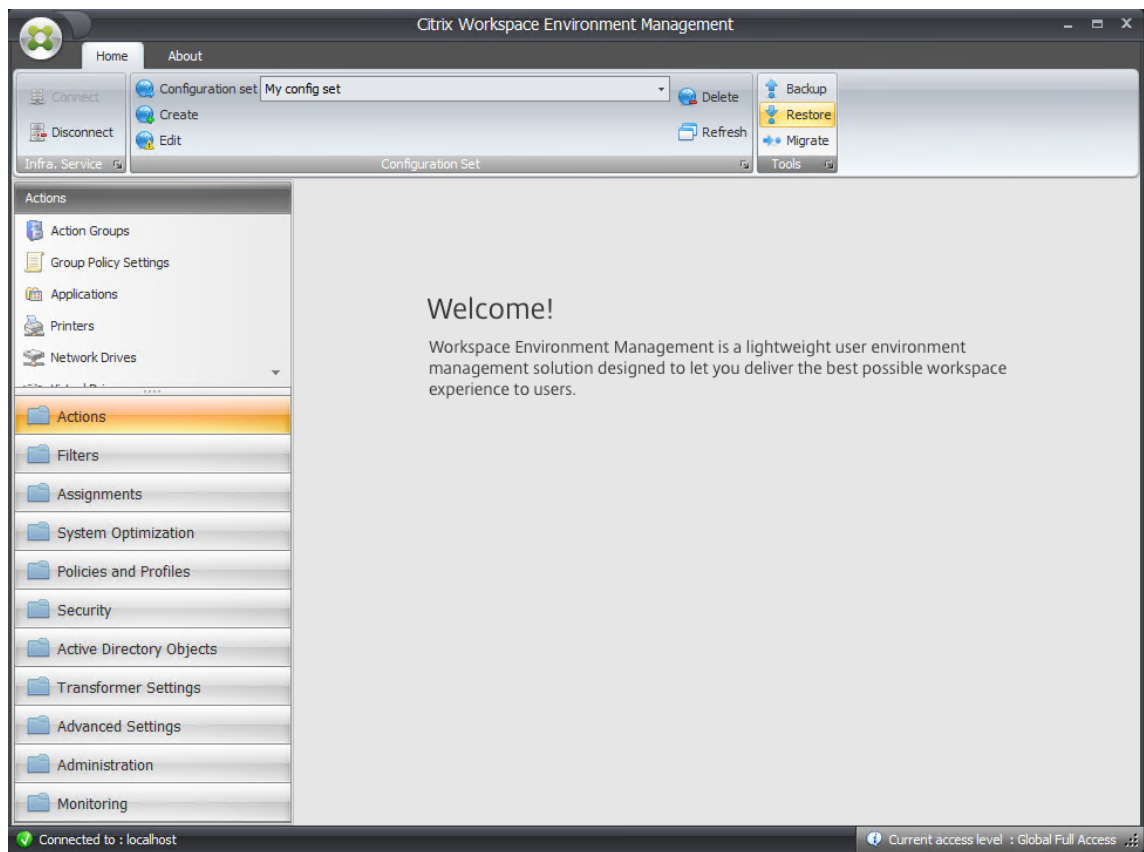
4. 「構成セットの作成」 ウィンドウで、構成セットの名前と説明を入力し、「OK」 をクリックします。



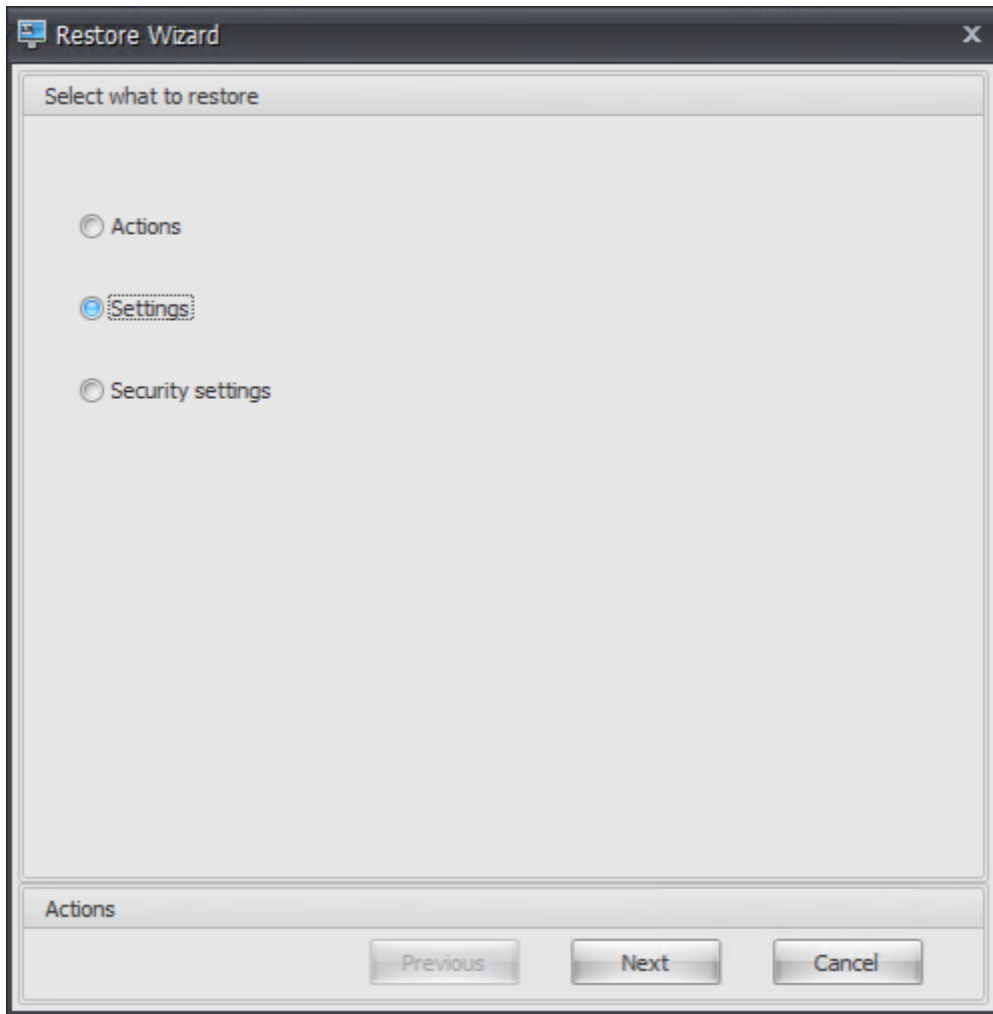
5. リボンの [構成セット] で、新しく作成した構成セットを選択します。



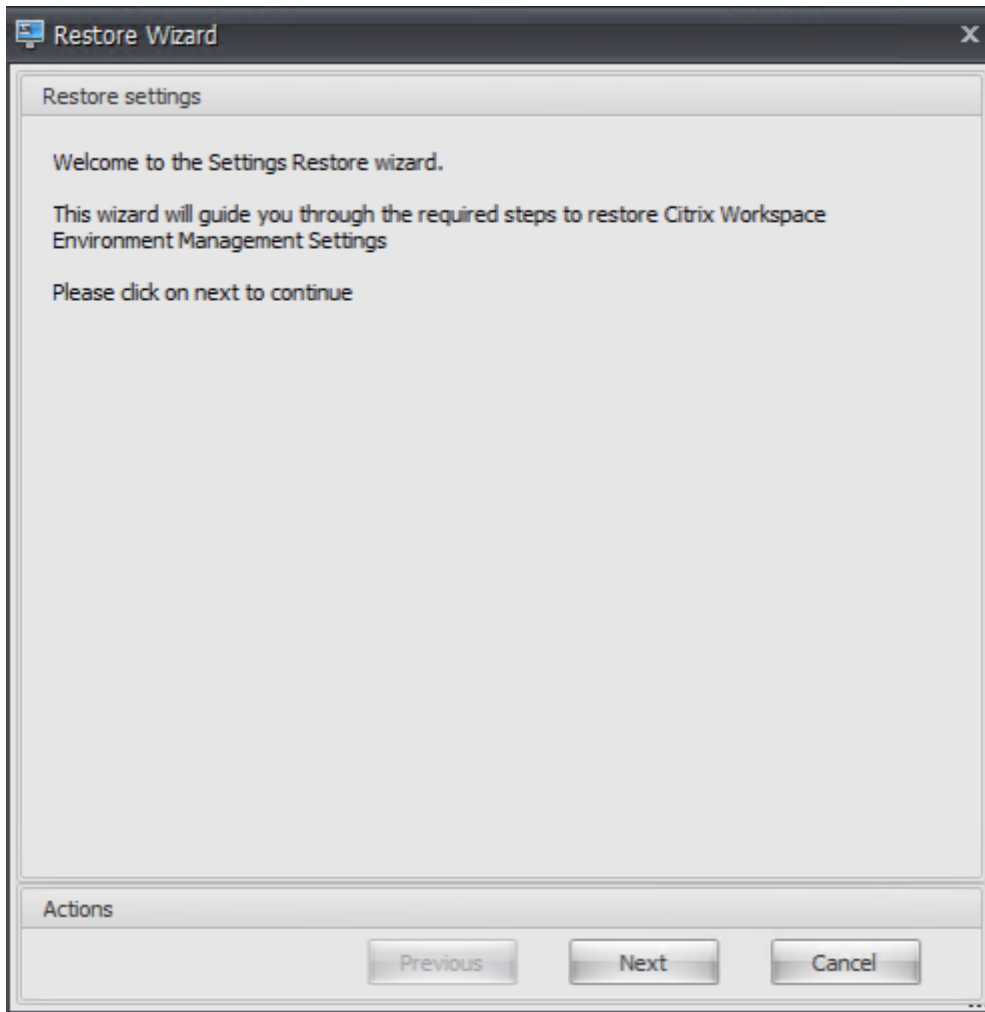
6. リボンの [バックアップ] で、[復元] をクリックします。リストアウィザードが表示されます。



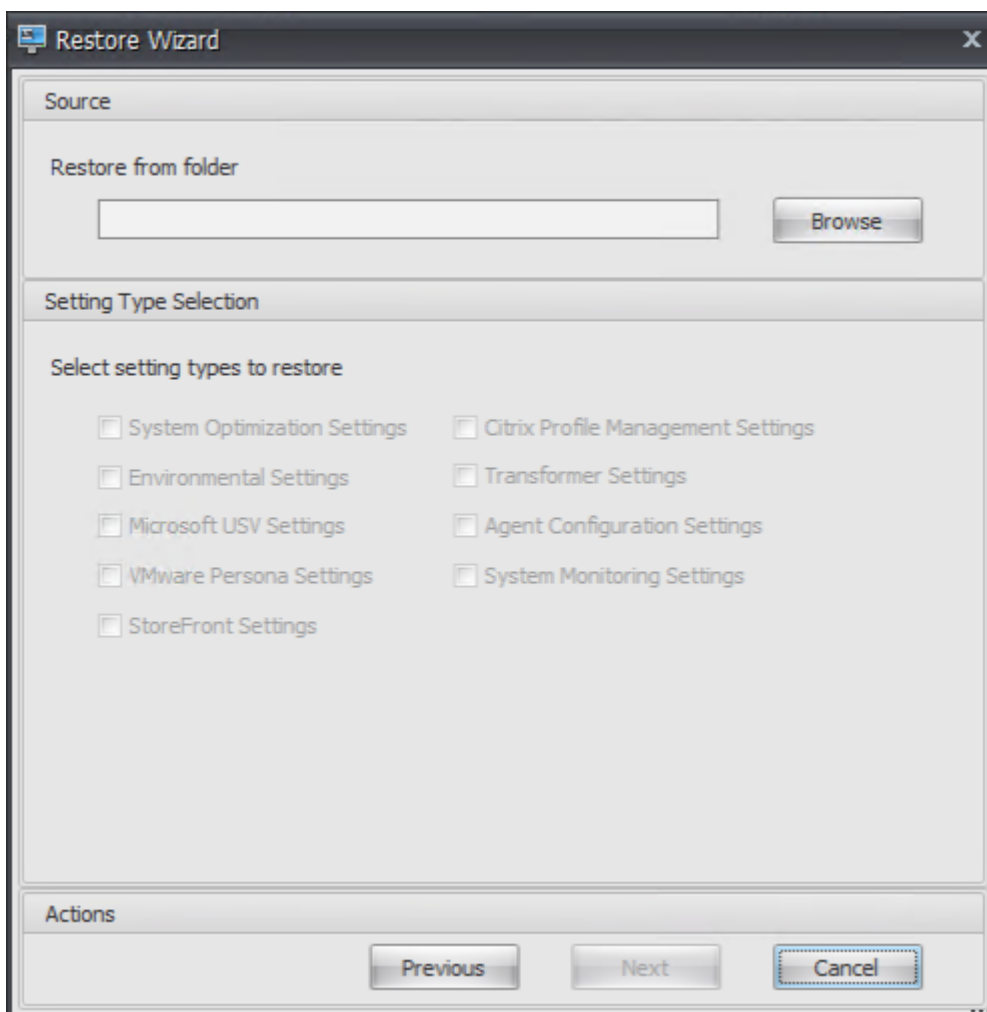
7. [復元する内容の選択] ページで [設定] を選択し、[次へ] をクリックします。



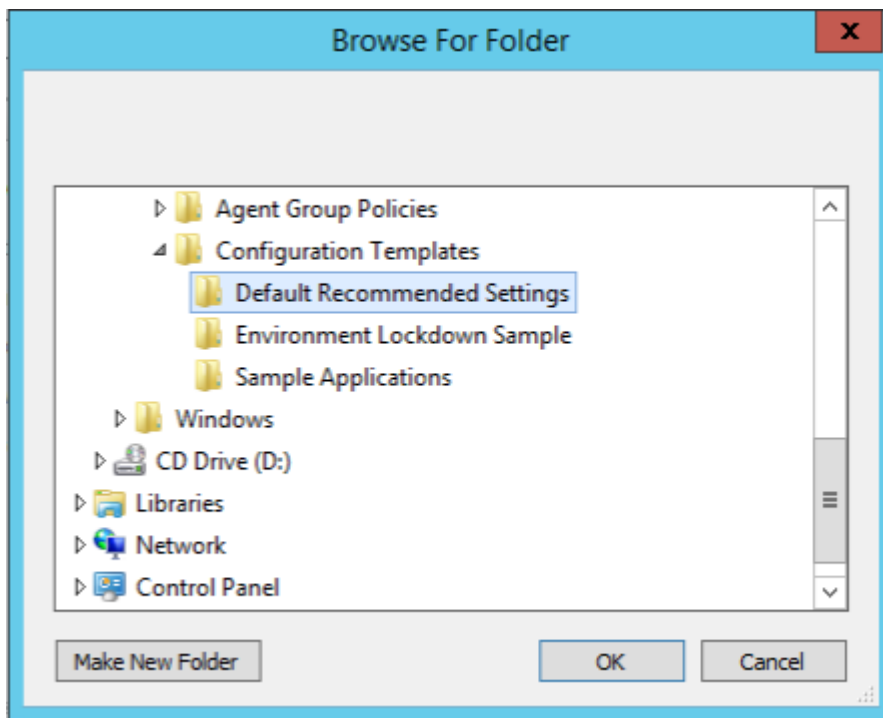
8. [設定の復元] ページで、[次へ] をクリックします。



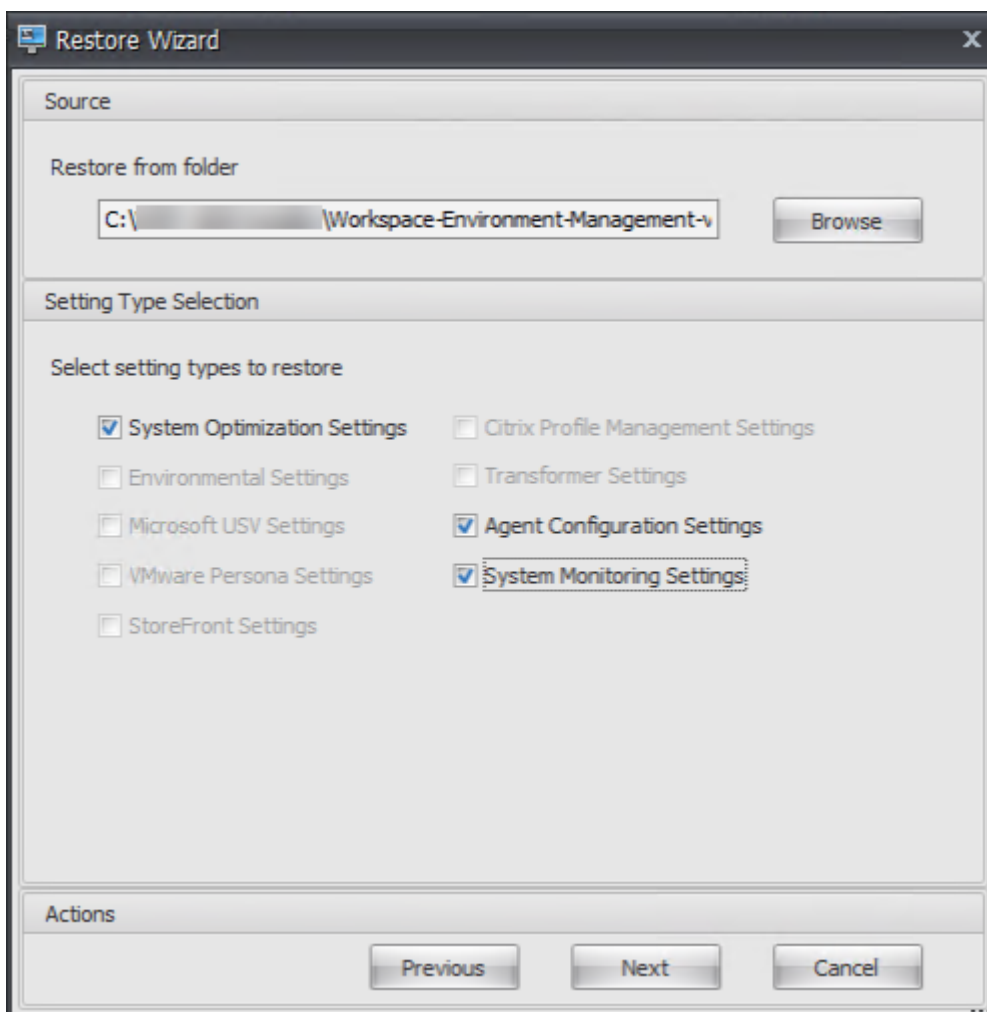
9. 「ソース」 ページで、「ブラウズ」 をクリックします。



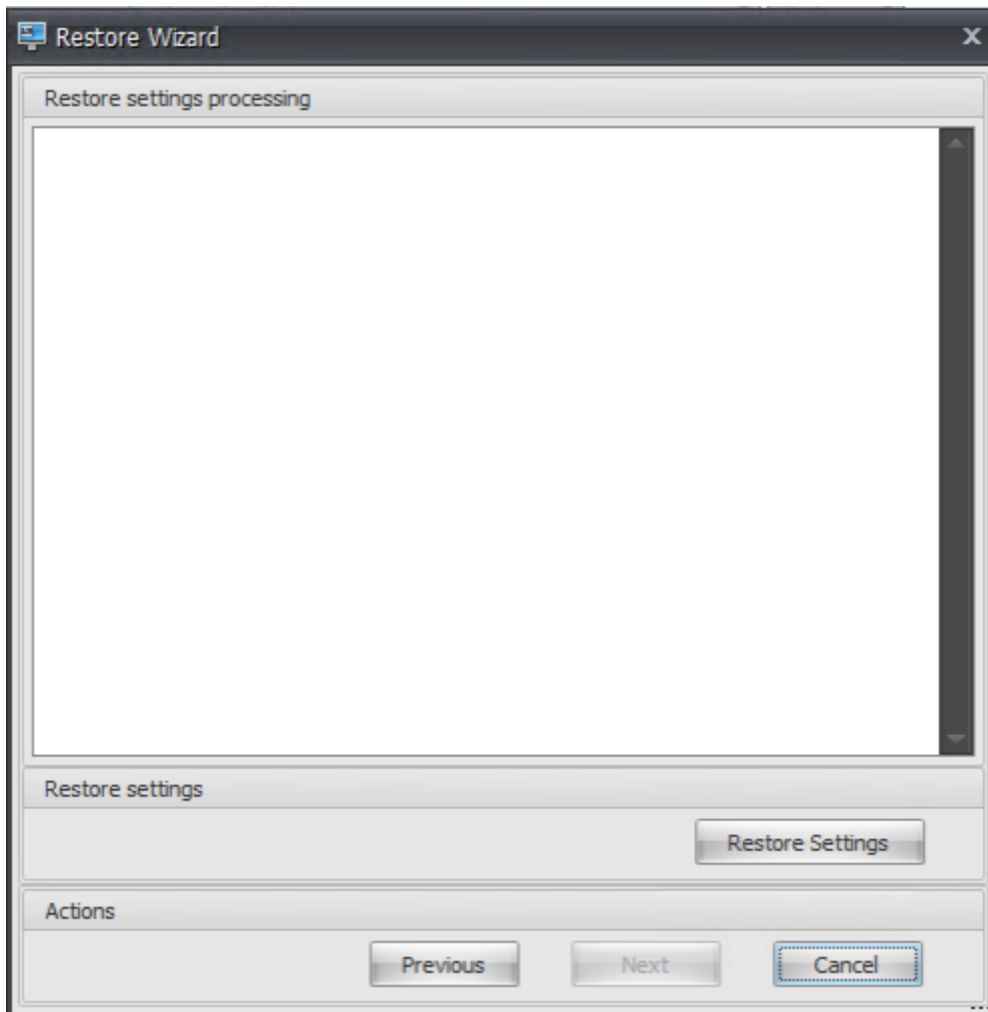
10. 「フォルダの参照」ウィンドウで、「デフォルトの推奨設定」フォルダ (Workspace Environment Management に用意されている) を参照し、「OK」をクリックします。



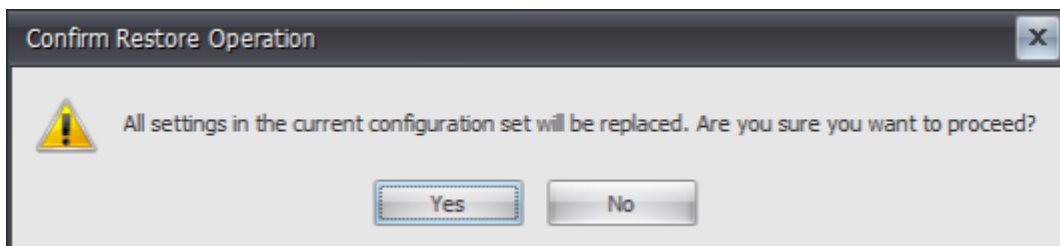
11. 「ソース」 ページで、「システム最適化設定」、「エージェント構成設定」、および「システム監視設定」を選択し、「次へ」をクリックします。



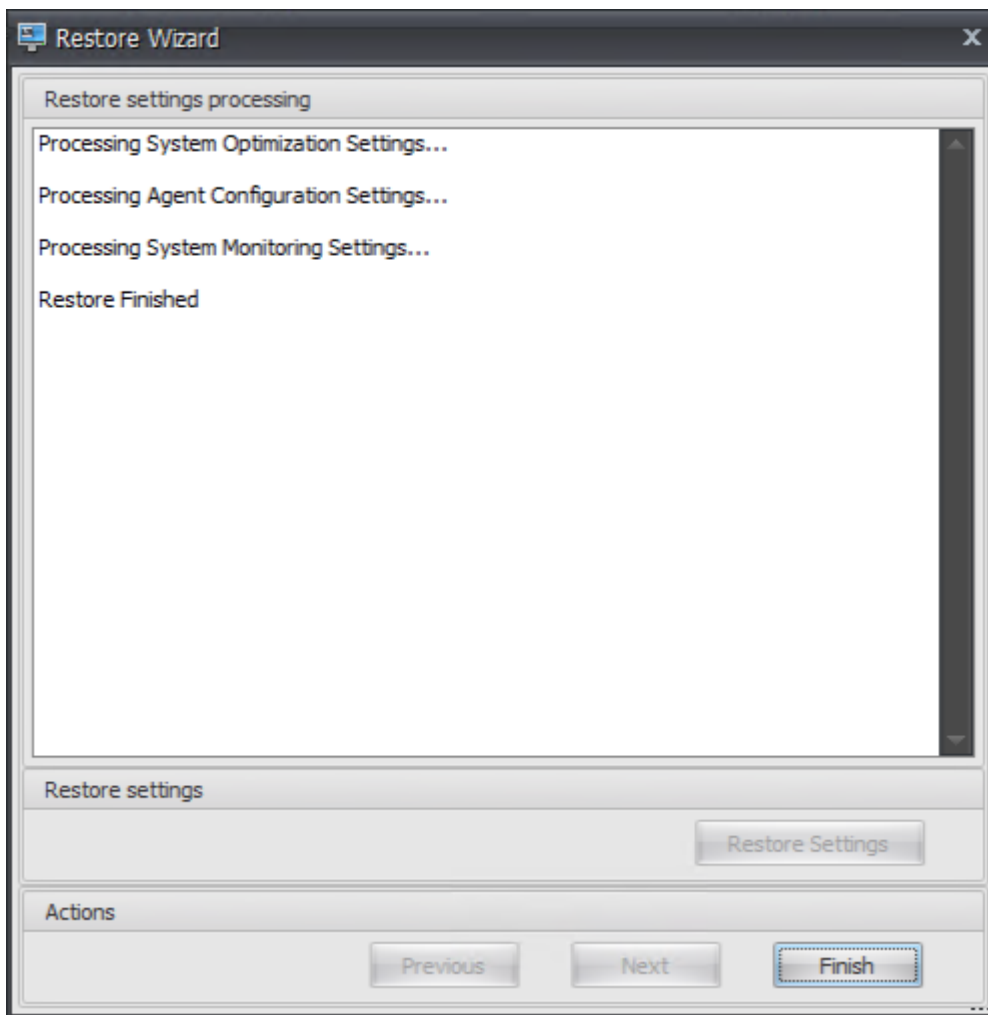
12. [設定の復元処理] ページの [設定の復元] で、[設定の復元] をクリックします。



13. [はい] をクリックします。



14. [完了] をクリックします。

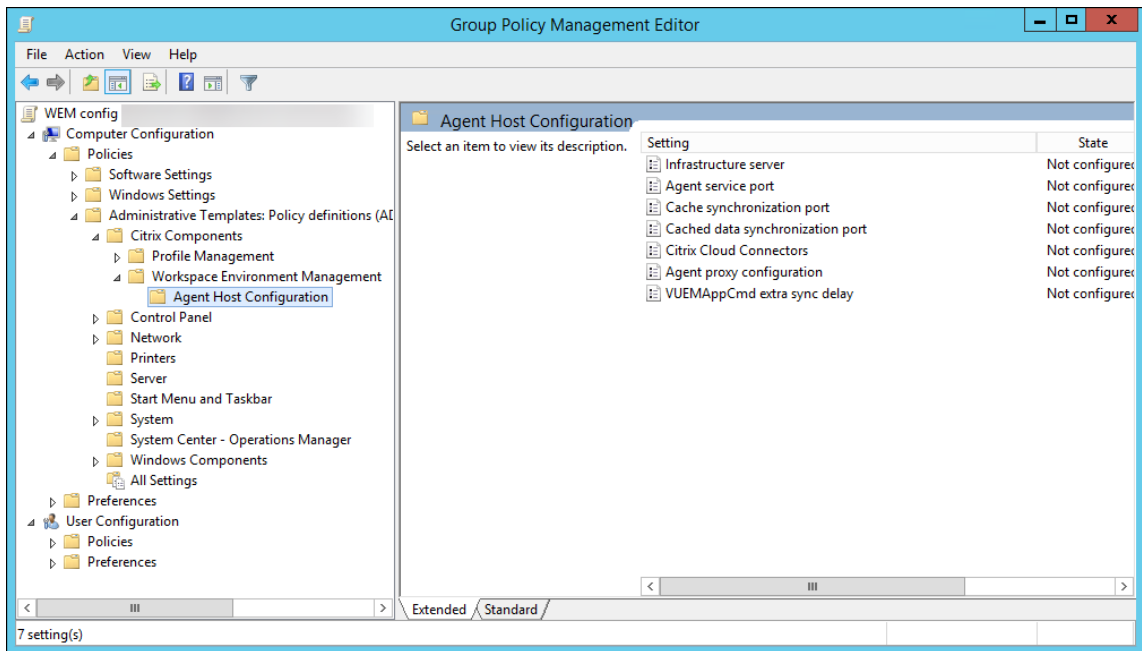


ステップ 6: グループポリシーテンプレートを追加する (オプション)

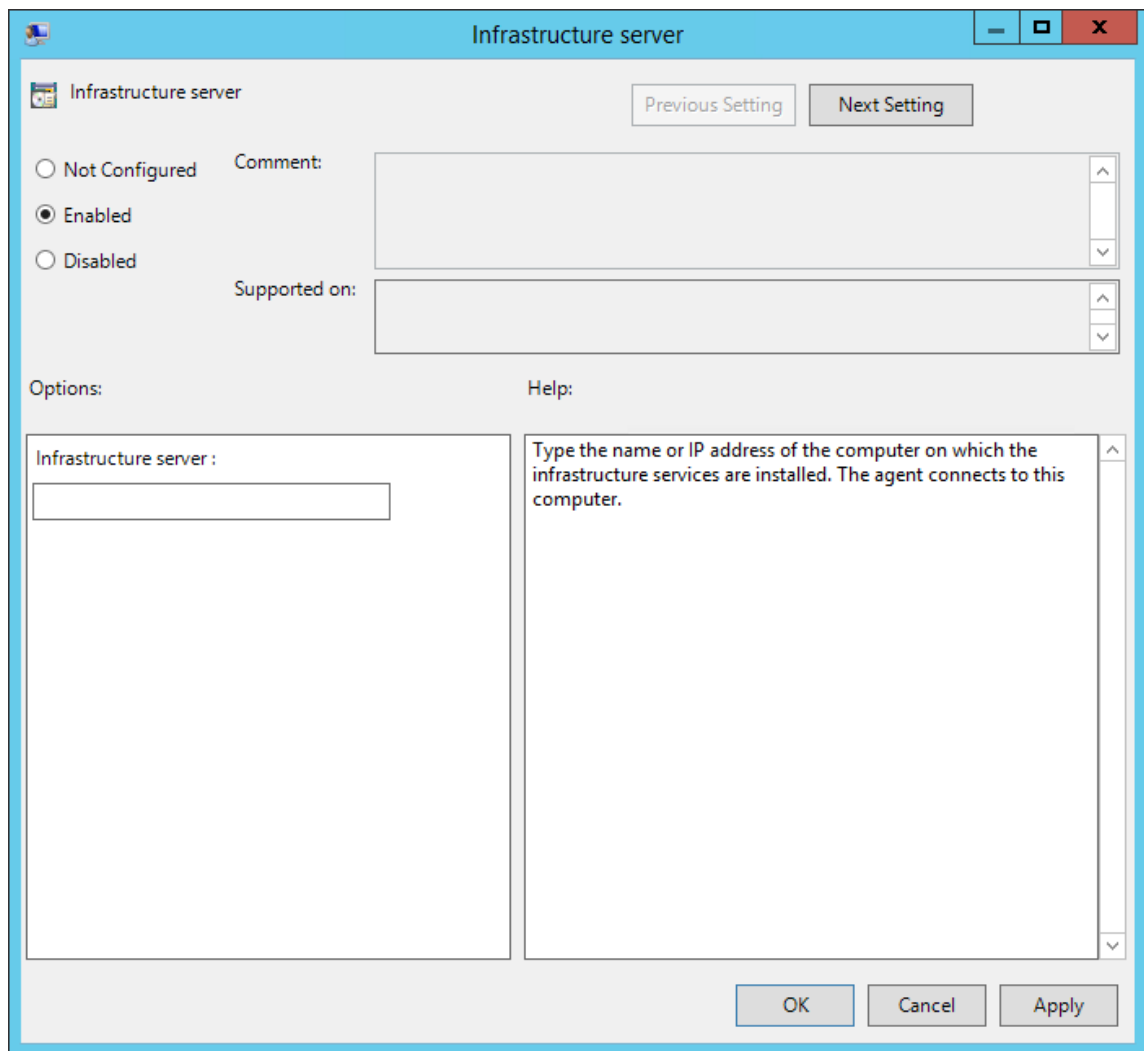
オプションで、グループポリシーの設定を選択できます。WEM エージェントパッケージで提供されるエージェントグループポリシー管理用テンプレートは、エージェントホスト構成ポリシーを追加します。

1. WEM インストールパッケージに付属する **Agent Group Policies** フォルダを WEM ドメインコントローラにコピーします。
2. .admx ファイルを追加します。
 - a) エージェントの [グループポリシー] > [ADMX] フォルダに移動します。
 - b) 2つのファイル (*CitrixWorkspace Environment Management エージェントホスト構成.admx* と *CitrixBase.admx***) をコピーします。
 - c) <C:\Windows>\PolicyDefinitions フォルダに移動して、ファイルを貼り付けます。
3. .adml ファイルを追加します。

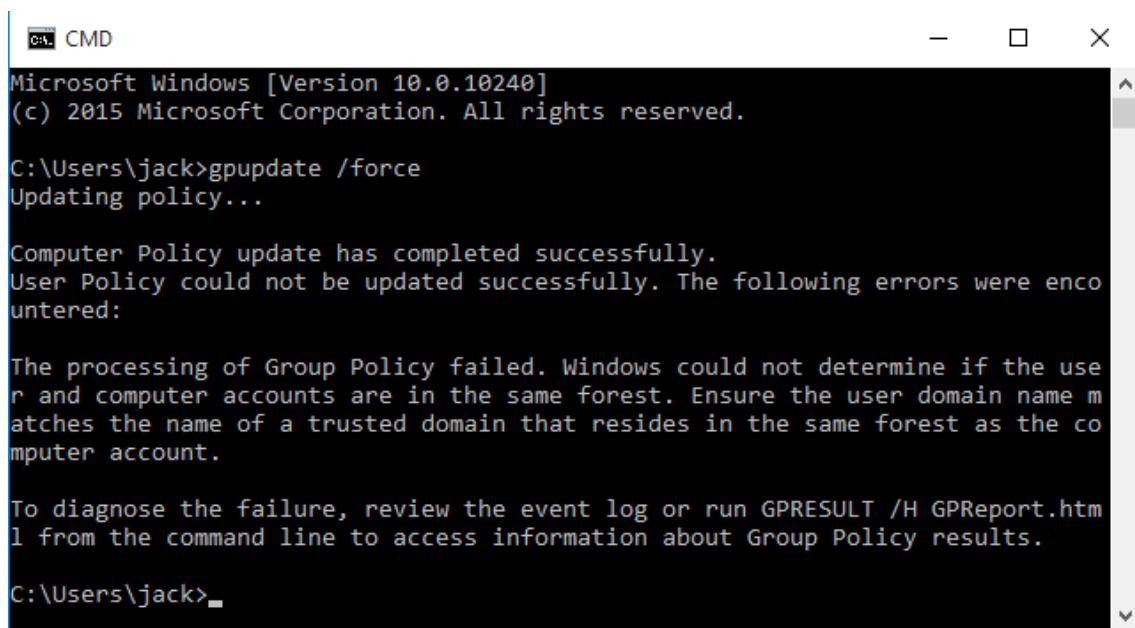
- a) [エージェントグループポリシー] > [ADMX] > [en-US] フォルダに移動します。
 - b) 2つのファイル (CitrixWorkspace Environment Management エージェントホスト構成.adml と CitrixBase.adml**) をコピーします。
 - c) <C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-USフォルダに移動して、ファイルを貼り付けます。
4. [グループポリシー管理エディタ] ウィンドウで、[コンピュータの構成] > [ポリシー] > [管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Workspace Environment Management] > [エージェントホスト構成] の順に選択し、[インフラストラクチャサーバー] をダブルクリックします。



5. [インフラストラクチャサーバー] ウィンドウで、[有効] を選択し、[オプション] にインフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューターの IP アドレスを入力し、[適用] と [OK] をクリックします。



6. エージェントホストに移動し、コマンドラインを開き、`gpupdate /force`と入力します。



```
C:\Users\jack>gpupdate /force
Updating policy...

Computer Policy update has completed successfully.
User Policy could not be updated successfully. The following errors were encountered:

The processing of Group Policy failed. Windows could not determine if the user and computer accounts are in the same forest. Ensure the user domain name matches the name of a trusted domain that resides in the same forest as the computer account.

To diagnose the failure, review the event log or run GPRESULT /H GPReport.html from the command line to access information about Group Policy results.

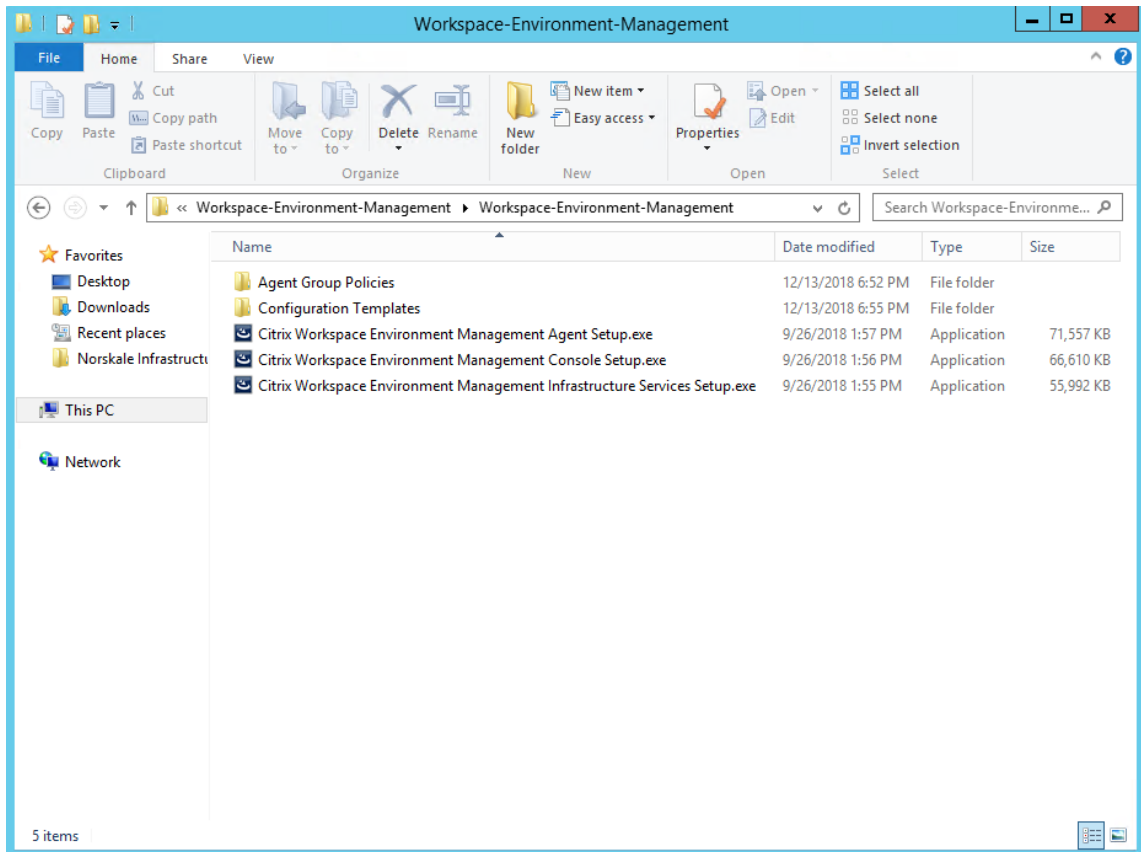
C:\Users\jack>
```

手順 7: エージェントをインストールする

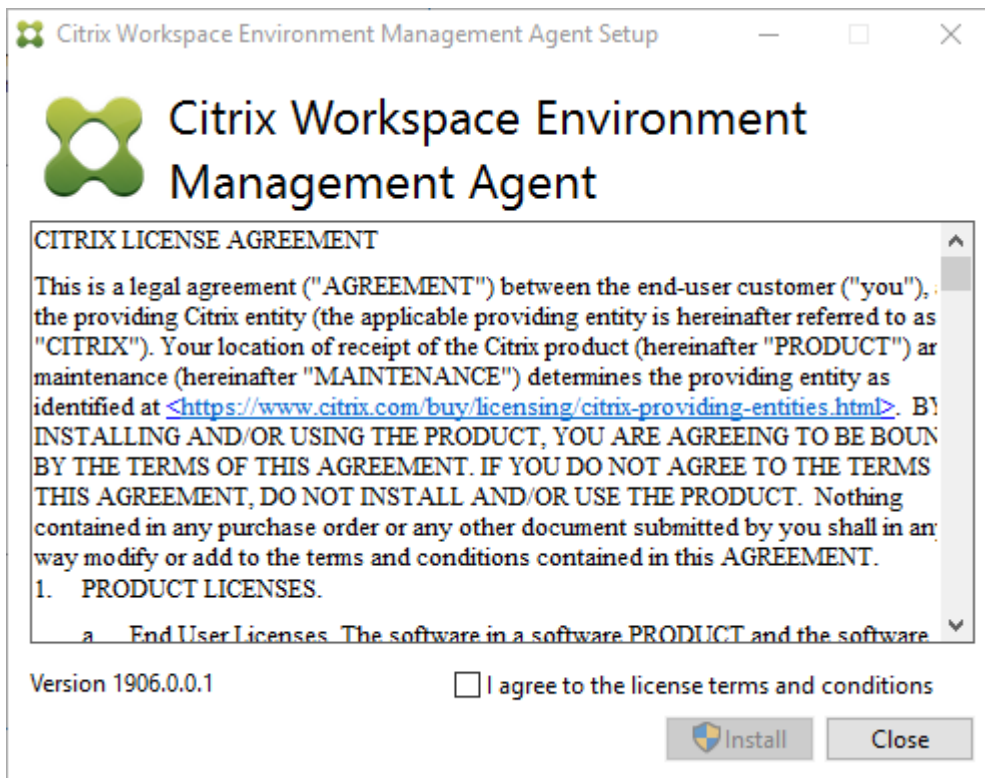
重要:

インフラストラクチャサーバーに WEM エージェントをインストールしないでください。

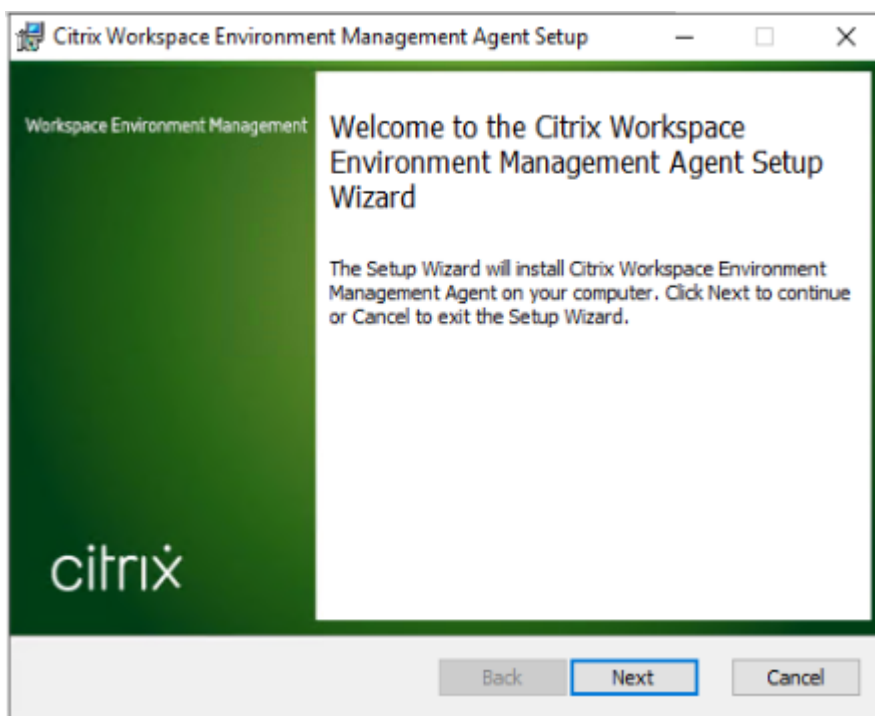
1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。



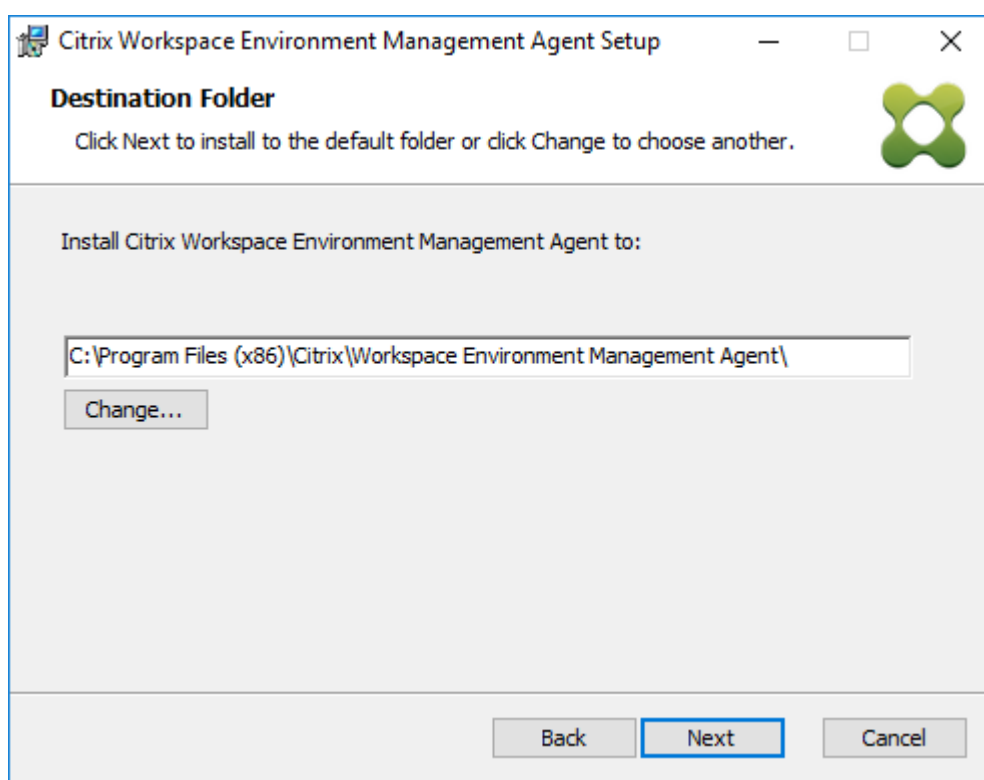
2. [ライセンス契約条件に同意する] を選択し、[インストール] をクリックします。



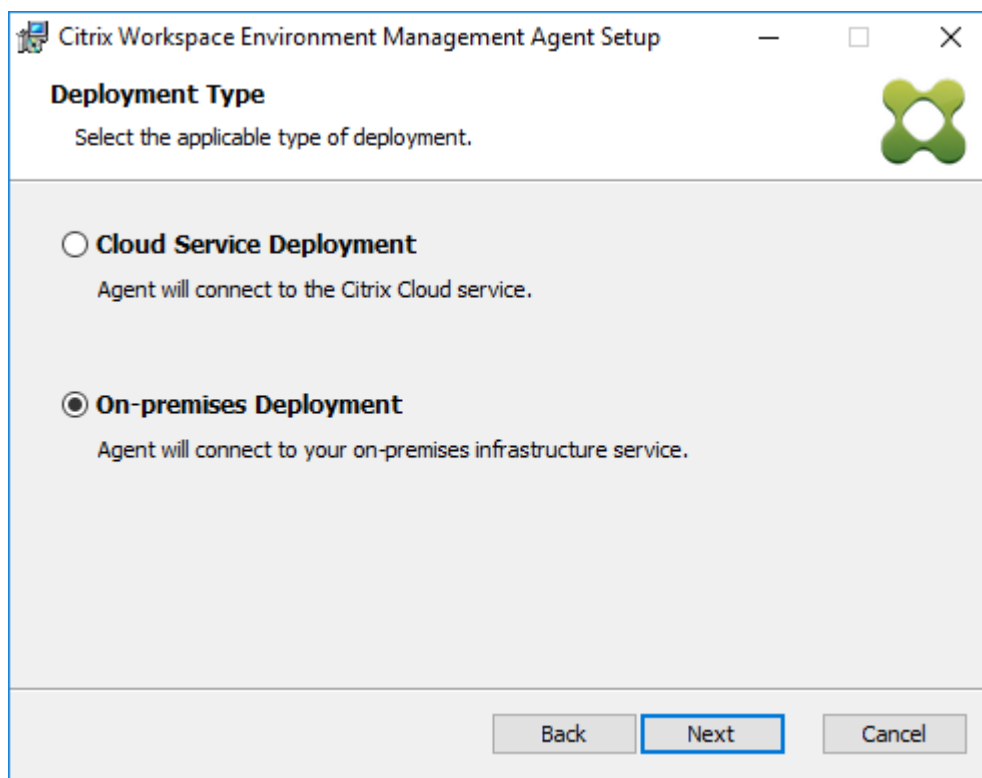
3. 「ようこそ」 ページで、「次へ」をクリックします。



4. 「宛先フォルダー」 ページで、「次へ」をクリックします。



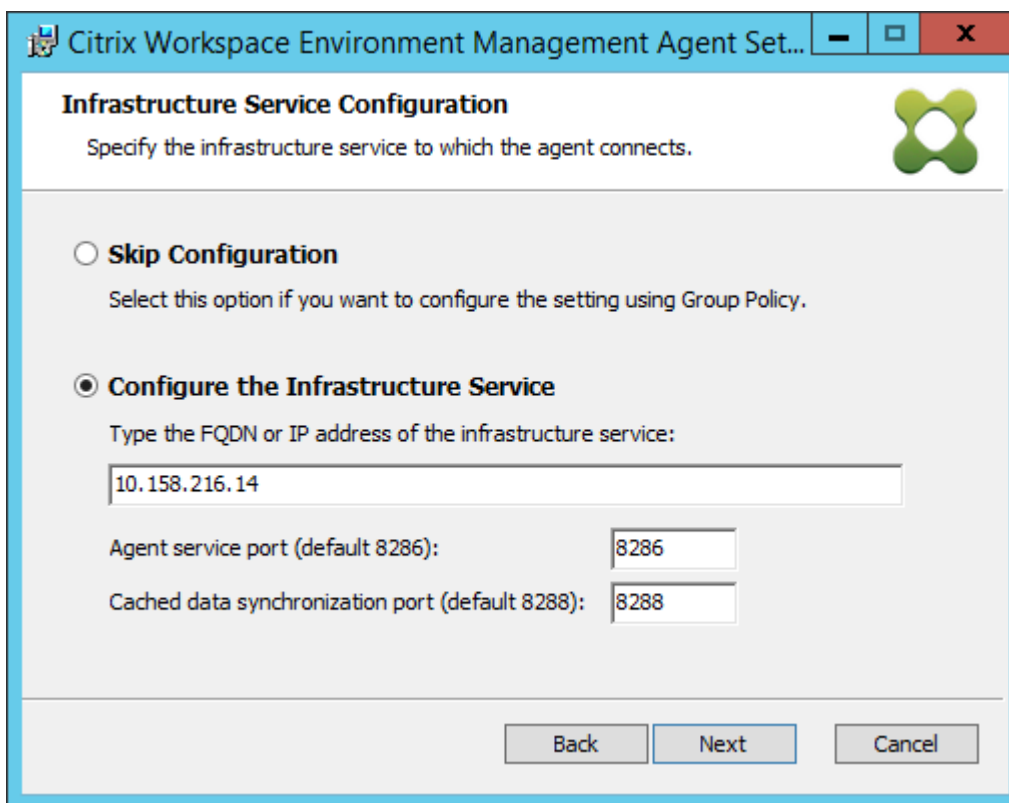
5. [展開の種類] ページで、該当する展開の種類を選択し、[次へ]をクリックします。この場合は、【オンプレミス展開】を選択します。



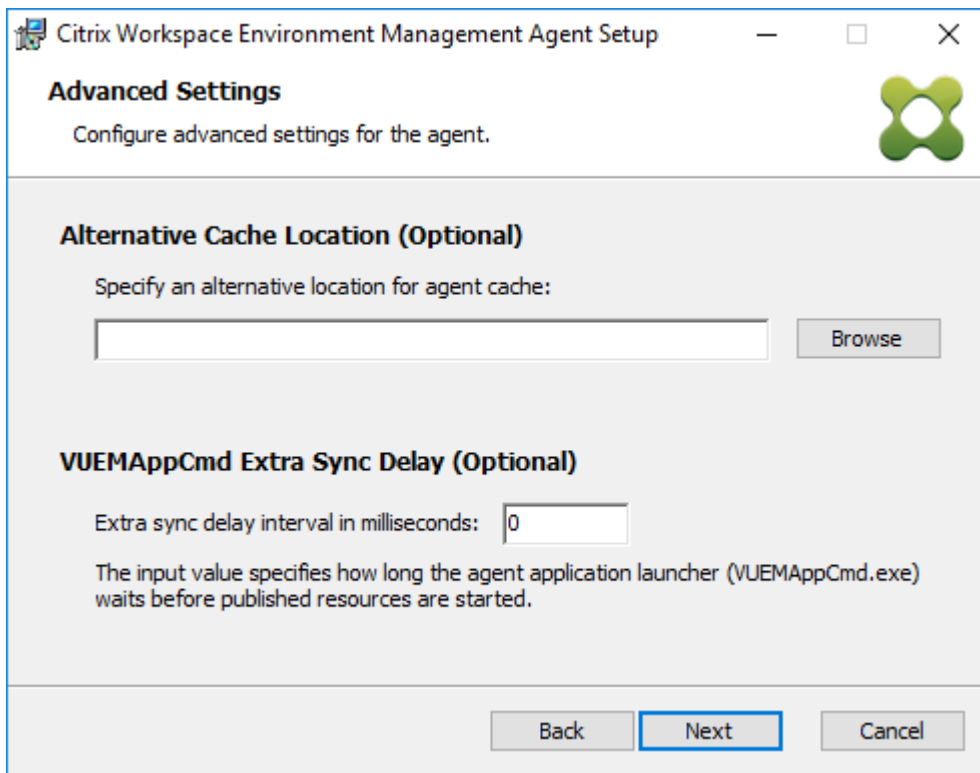
6. **[インフラストラクチャサービスの設定]** ページで、**[** インフラストラクチャサービスの設定]** を選択し、インフラストラクチャサービスの FQDN または IP アドレスを入力して、**[次へ]** をクリックします。******

注記:

エージェントサービスポートのデフォルトポートは 8286 です。キャッシュデータ同期ポートの場合、デフォルトのポートは 8288 です。詳細については、「[ポート情報](#)」を参照してください。



7. [詳細設定] ページで、[次へ] をクリックします。

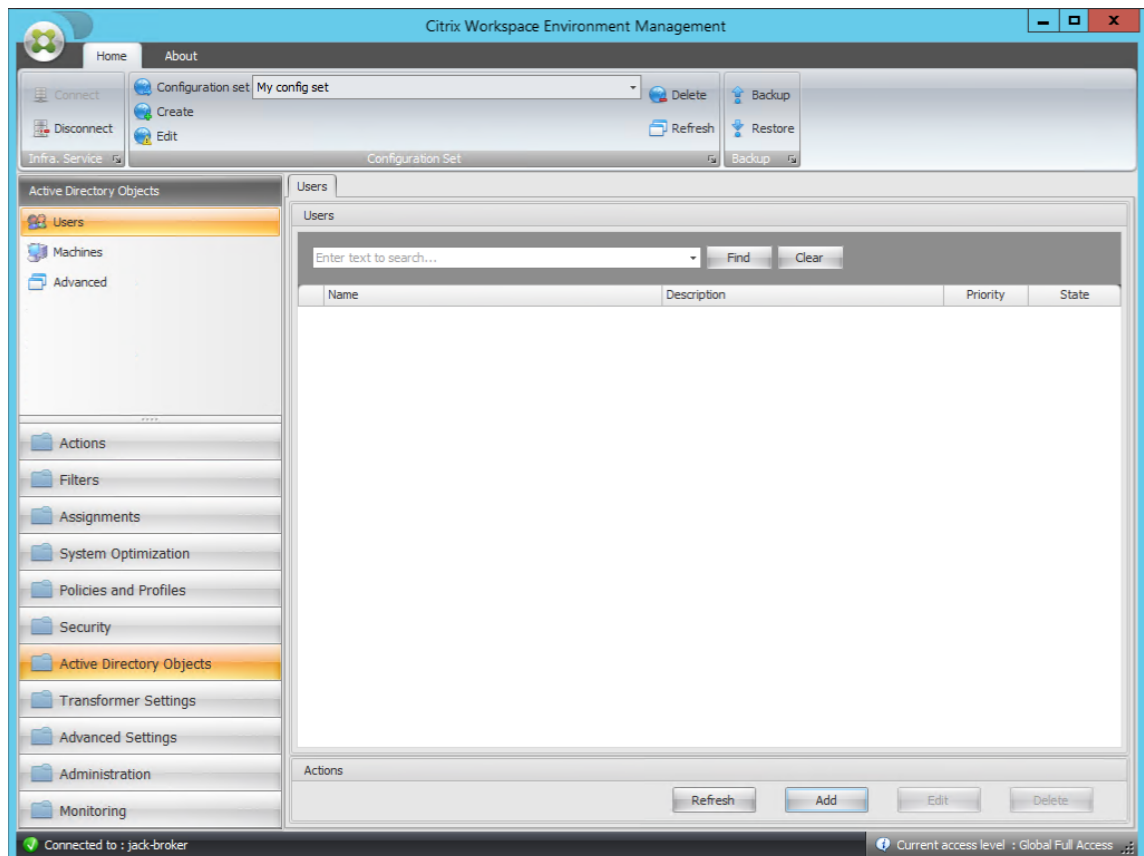


8. [インストールの準備完了] ページで、[インストール] をクリックします。

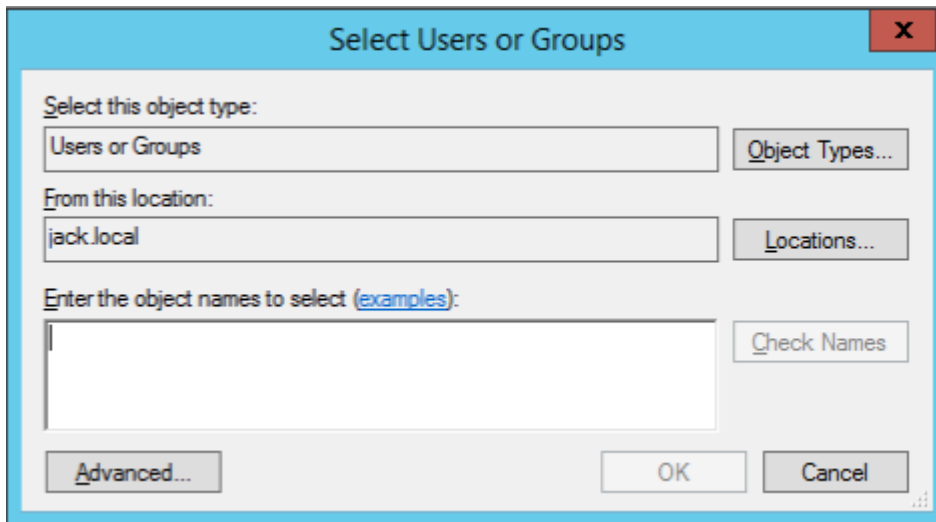
9. [完了] をクリックして、インストールウィザードを終了します。

手順 8: 作成した構成セットにエージェントを追加する

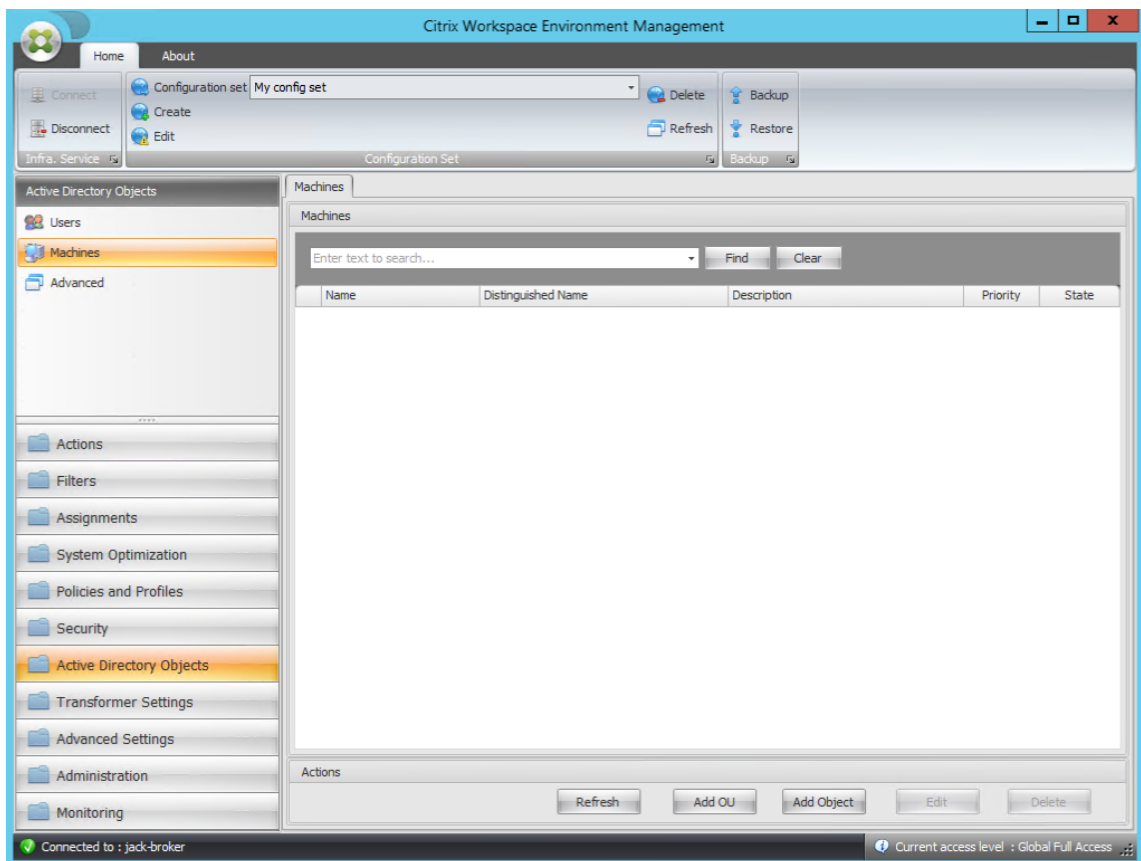
1. [スタート] メニューから **WEM** 管理コンソールを開き、[**Active Directory** オブジェクト] をクリックし、[追加] をクリックします。



2. 「ユーザーまたはグループの選択」 ウィンドウで名前を入力し、「名前の確認」をクリックし、「OK」をクリックします。



3. [マシン] をクリックします。



4. [マシン] タブで、[OU の追加] または [オブジェクトの追加] をクリックして、作成した構成セットに管理するマシンを追加します。

システム要件

January 11, 2024

ソフトウェアの前提条件

.NET Framework 4.7.1 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management エージェントに必要です。まだインストールされていない場合は、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。ただし、エージェントをインストールする前に、この前提条件を手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するにはマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかることがあります。

.NET Framework 4.8 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービス、管理コンソール、および Web コンソールに必要です。まだインストールされていない場合は、インストール時に自動的にインストールされます。

Microsoft Visual C++。このコンポーネントは、Workspace Environment Management エージェントに必要です。Microsoft Visual C++ 2015–2019 再配布可能パッケージがまだインストールされていない場合は、エージェントのインストール時に自動的にインストールされます。

Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン **98** 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management サービスエージェントに必要です。まだインストールされていない場合は、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

注:

- このコンポーネントが必要なのはバージョン 2209 以降だけです。
- Microsoft Edge WebView2 ランタイムをダウンロードしてインストールするには、インターネットにアクセスできる必要があります。

Microsoft SQL Server 2012 以降。Workspace Environment Management では、データベースを作成するには SQL Server インスタンスへの **sysadmin** アクセス権と、データベースを使用するにはデータベースへの読み取り/書き込みアクセス権が必要です。データベースの作成中に、Workspace Environment Management によって SQL ログインが作成され、データベース・ユーザーマッピングがログインに追加されます。ユーザーには、データベースへの読み取り/書き込みアクセス権が自動的に付与されます。SQL Server インスタンスでは、大文字と小文字を区別しない照合順序を使用する必要があります。それ以外の場合、データベースの作成またはアップグレードは失敗します。

注:

アップグレード中は、**sysadmin** サーバーロールを持つユーザーアカウントを使用することをお勧めします。

Microsoft Active Directory。Workspace Environment Management では、構成された設定をユーザーにプッシュするには、Active Directory への読み取りアクセス権が必要です。

注:

- WEM のグローバルカタログは、フォレスト内のすべての Active Directory オブジェクトのコピーを格納する外部信頼関係をサポートしていません。代わりに、フォレスト信頼関係など、他のリレーションシップタイプを使用する必要があります。
- WEM は、森林間の一方方向の森林信頼関係もサポートしていません。

Citrix ライセンスサーバー **11.14**. Workspace Environment Management には、Citrix ライセンスが必要です。Citrix ライセンスは、Citrix ライセンスサーバー上で管理および保存されます。

Citrix Virtual Apps and Desktops. このリリースの Workspace Environment Management では、[サポートされているすべてのバージョンの Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops](#) が必要です。

Windows 向け **Citrix Workspace** アプリ。Workspace Environment Management コンソールで構成された Citrix StoreFront ストアリソースに接続するには、Windows 向け Citrix Workspace アプリを管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにインストールする必要があります。サポートされるバージョンは、以下のとおりです。

- 管理コンソールマシンでは、次の操作を行います。
 - Citrix Receiver for Windows バージョン: 4.9 LTSR、4.10、4.10.1、4.11、および 4.12
 - Windows 向け Citrix Workspace アプリ 1808 以降
- エージェントホストマシンでは、次の操作を行います。
 - Citrix Receiver for Windows versions: 4.4 LTSR CU5, 4.7, 4.9, 4.9 LTSR CU1, and 4.10
 - Windows 向け Citrix Workspace アプリ 1808 以降

Transformer のキオスク対応のマシンでは、シングルサインオンを有効にして Windows 向け Citrix Workspace アプリをインストールし、パススルー認証用に構成する必要があります。詳しくは、[Citrix Workspace アプリのドキュメントを参照してください](#)。

オペレーティングシステムの前条件

注:

Workspace Environment Management と関連コンポーネントは、製造元がサポートするオペレーティングシステムのバージョンでのみサポートされています。オペレーティングシステムの製造元からの延長サポートの購入が必要な場合があります。

インフラストラクチャサービス

以下のオペレーティングシステムがサポートされています:

- Windows Server 2022 標準エディションとデータセンターエディション

- Windows Server 2019 標準エディションおよびデータセンターエディション
- Windows Server 2016 の標準およびデータセンターの版
- Windows Server 2012 R2 標準およびデータセンターの版

注:

異なるオペレーティングシステムバージョンのサーバー (インフラストラクチャサーバー) のプールでの Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスの実行がサポートされています。インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを使用する別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

管理コンソール

以下のオペレーティングシステムがサポートされています:

- Windows 11、32 ビットおよび 64 ビット
- Windows 10 バージョン 1607 以降、32 ビット、64 ビット
- Windows Server 2022 標準エディションとデータセンターエディション
- Windows Server 2019 標準エディションおよびデータセンターエディション
- Windows Server 2016 の標準およびデータセンターの版
- Windows Server 2012 R2 標準およびデータセンターの版

Web コンソール

以下のオペレーティングシステムがサポートされています:

- Windows Server 2022 標準エディションとデータセンターエディション
- Windows Server 2019 標準エディションおよびデータセンターエディション
- Windows Server 2016 の標準およびデータセンターの版
- Windows Server 2012 R2 標準およびデータセンターの版

エージェント

以下のオペレーティングシステムがサポートされています:

- Windows 11、32 ビットおよび 64 ビット
- Windows 10 バージョン 1607 以降、32 ビットと 64 ビット
- Windows 8.1 Professional および Enterprise エディション、32 ビットおよび 64 ビット

- Windows 7 SP1 Professional、Enterprise、Ultimate エディション、32 ビットおよび 64 ビット
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2012 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2008 R2 SP1 Standard、Enterprise、Datacenter エディション *

* Transformer 機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

WEM 4.4 では、Windows XP がサポートされた。

注:

マルチセッションのオペレーティングシステムで実行されている Citrix Workspace Environment Management Agent は、Microsoft の動的フェアシェアスケジューリング (DFSS) が有効になっていると正しく動作しません。DFSS を無効にする方法については、[CTX127135](#)を参照してください。

SQL サーバは常にオン

Workspace Environment Management では、Microsoft SQL Server に基づくデータベースの高可用性を実現するために、常にオン可用性グループ (基本および詳細) がサポートされています。Citrix では、Microsoft SQL Server 2017 を使用してこれをテストしています。

Always-On 可用性グループを使用すると、プリンシパルまたはプライマリ SQL Server のハードウェアまたはソフトウェアに障害が発生した場合にデータベースが自動的にフェールオーバーし、Workspace Environment Management が引き続き期待どおりに機能するようになります。常時稼働可用性グループ機能を使用するには、SQL Server インスタンスが Windows Server フェールオーバークラスター (WSFC) ノードにある必要があります。詳しくは、<https://docs.microsoft.com/en-us/sql/database-engine/availability-groups/windows/always-on-availability-groups-sql-server?view=sql-server-ver15>を参照してください。

Workspace Environment Management (WEM) を常にオン可用性グループとともに使用する手順は、次のとおりです。

1. **WEM** データベース管理ユーティリティを開き、WEM データベースを作成します。

- 必ず [**VUEMUser SQL** ユーザーアカウントのパスワードの設定] オプションを選択し、**VuemUser SQL** ユーザーアカウントのパスワードを入力してください。データベースを可用性グループに追加するときは、このパスワードを指定する必要があります。
- [サーバーとインスタンス名] に、プライマリ SQL Server の名前を入力します。

注:

WEM データベースは、プライマリ SQL Server 上に作成されます。

2. プライマリ SQL Server に移動し、作成した WEM データベースをバックアップします。
 - [可用性グループにデータベースを追加] > [データベースの選択] ページで **WEM** データベースを選択するには、パスワード (手順 1 で作成したパスワード) を入力する必要があります。これを行うには、[パスワード] 列の対応する空白領域を右クリックし、パスワードを入力し、[更新] をクリックします。
 - データベースバックアップの [完全リカバリ] モデルを選択します。
3. SQL Server で、WEM データベースを可用性グループに追加し、可用性グループリスナーを構成します。
4. **VuemUser** ログインは、**Always On HA** グループのセカンダリ SQL インスタンスで作成する必要があります。詳細については、「[インスタンス間でのログインとパスワードの転送-SQL Server](#)」を参照してください。
5. WEM インフラストラクチャサービスマシンに移動し、**WEM** インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを開きます。
 - データベースサーバーとインスタンス。可用性グループリスナーの名前を入力します。
 - データベースフェイルオーバーサーバーとインスタンス。空のままにします。
 - データベース名。データベースの名前を入力します。

ハードウェアの前提条件

インフラストラクチャサービス:4 個の vCPU、8 GB の RAM、80 GB の使用可能なディスク容量。インフラストラクチャサービスの規模とサイズの考慮事項については、「[デプロイの規模とサイズの考慮事項](#)」を参照してください。

管理コンソール:2 GB RAM、40 MB の空きディスク容量 (インストール時に 100 MB) の最小デュアルコアプロセッサ。

エージェント:RAM の平均消費量は 10 MB ですが、安全を確保するために 20 MB を提供することを推奨します。40 MB の空きディスク容量 (インストール時に 100 MB)。

データベース:Workspace Environment Management データベースに使用可能なディスク領域が最低 75 MB です。

サービスの依存関係

Netlogon。エージェントサービス (「Norskale Agent Host service」) は、[Net Logon Dependencies] リストに追加され、ログオン前にエージェントサービスが実行されていることを確認します。

ウイルス対策の除外

デフォルトでは、Workspace Environment Management エージェントおよびインフラストラクチャサービスは、次のフォルダにインストールされます。

- エージェント
 - C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64-bit OS)
 - C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent (32-bit OS)
- インフラストラクチャサービス
 - C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management インフラストラクチャサービス

エージェントとインフラストラクチャサービスの「Citrix」インストールフォルダ全体でオンアクセススキャンを無効にする必要があります。「Citrix」インストールフォルダのオンアクセススキャンを無効にできない場合は、次のプロセスを除外する必要があります。

インフラストラクチャサービスのインストールフォルダ内

- WEM Infrastructure Service.exe
- WEM Infrastructure Service Configuration Utility.exe
- WEM Infrastructure Database Management Utility.exe

エージェントのインストールフォルダ内

- Agent Log Parser.exe
- AgentCacheUtility.exe
- AgentGroupPolicyUtility.exe
- AppsMgmtUtil.exe
- Citrix.Wem.Agent.Service.exe
- Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe
- PrnsMgmtUtil.exe
- VUEMAppCmd.exe
- VUEMAppCmdDbg.exe
- VUEMAppHide.exe
- VUEMcmdAgent.exe
- VUEMMaintMsg.exe
- VUEMRSAV.exe
- VUEMUIAgent.exe

インストールと構成

October 26, 2023

次のコンポーネントをインストールして構成します。

- [インフラストラクチャサービス](#)
- [管理コンソール](#)
- [Web コンソール](#)
- [Agent](#)

インフラストラクチャサービス

January 11, 2024

Windows インフラストラクチャサービスは 1 つあります。**Citrix WEM** インフラストラクチャサービス (**NT** サービス**Citrix WEM** インフラストラクチャサービス) です。Workspace Environment Management (WEM) インフラストラクチャサービスを管理します。アカウント:LocalSystem またはインフラストラクチャサービスが実行されるインフラストラクチャサーバー上の管理者ユーザーグループに属する、指定されたユーザーアカウント。

インフラストラクチャサービスのインストール

重要:

- インフラストラクチャサービスは、ドメイン Controller にインストールできません。Kerberos 認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しなくなります。
- Delivery Controller がインストールされているサーバーにはインフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

使用データ収集に関する通知:

- デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは WEM の使用状況に関する匿名の分析を每晚収集し、HTTPS を介して Google Analytics サーバーに即座に送信します。Analytics のコレクションは、[Citrix プライバシーポリシー](#) に準拠しています。
- インフラストラクチャサービスをインストールまたはアップグレードすると、データ収集がデフォルトで有効になります。オプトアウトするには、[WEM インフラストラクチャサービスの構成] ダイアログの [詳細設定] タブで、[**Google Analytics** を使用した **Workspace Environment Management** 改善に役立たない] オプションを選択します。

インフラストラクチャサービスをインストールするには、インフラストラクチャサーバーで **Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe** を実行します。PowerShell SDK モジュールはデフォルトでインストールされます。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダにインストールされます。C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management インフラストラクチャサービス。SDK のドキュメントについては、[Citrix Developer ドキュメント](#)を参照してください。

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例：

- `.\CitrixWorkspaceEnvironmentManagementInfrastructureServices.exe /quiet BrokerLocation="C:\test\Infrastructure Services"/log "C:\test\test.log"`
- `/quiet BrokerLocation="C:\test\Infrastructure Services"/log "C:\test\test.log"`
 - `/quiet`。サイレントモードを示します。
 - `/log`。ロギングファイルの場所を示します。
 - `BrokerLocation`。インフラストラクチャサービスのインストールパスを示します。

サービスプリンシパル名の作成

重要：

- 同じフォレストに存在する個別のドメインに対して、複数のサービスプリンシパル名 (SPN) を作成しないでください。環境内のすべてのインフラストラクチャサービスは、同じサービスアカウントを使用して実行する必要があります。
- 負荷分散を使用する場合は、インフラストラクチャサービスのすべてのインスタンスを同じサービスアカウント名を使用してインストールおよび構成する必要があります。
- **Windows** 認証は、AD を使用する SQL インスタンスの特定の認証方法です。もう 1 つのオプションは、代わりに SQL アカウントを使用することです。

インストーラーの完了後、インフラストラクチャサービスの SPN を作成します。WEM では、エージェント、インフラストラクチャサービス、ドメイン Controller 間の接続と通信は Kerberos によって認証されます。SPN は、サービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために Kerberos 認証で使用されます。インフラストラクチャサービスインスタンスのログオンアカウントと、SPN に登録されているアカウントとの間に関係を構成する必要があります。したがって、Kerberos 認証要件に準拠するには、環境に適したコマンドを使用して、WEM SPN を既知の AD アカウントに関連付けるように構成します。

- Windows 認証または負荷分散を使用しない場合は、次のコマンドを使用します。
 - `setspn -C -S Norskale/BrokerService [hostname]`

ここで、`hostname`はインフラストラクチャサーバーの名前です。

- Windows 認証または負荷分散 (Windows 認証が必要) を使用する場合は、次のコマンドを使用します。


```
- setspn -U -S Norskale/BrokerService [accountname]
```

`accountname`は、Windows 認証に使用されているサービスアカウントの名前はここにあります。

SPN では、大文字と小文字が区別されます。

グループマネージドサービスアカウント

WEM のグループマネージドサービスアカウント (gMSA) ソリューションを実装できます。gMSA ソリューションを使用すると、新しい gMSA プリンシパルのサービスを構成でき、パスワード管理は Windows によって処理されます。詳しくは、「<https://docs.microsoft.com/en-us/windows-server/security/group-managed-service-accounts/group-managed-service-accounts-overview>」を参照してください。gMSA をサービス原則として使用する場合、管理者に管理を任せる代わりに Windows オペレーティングシステムがアカウントのパスワードを管理します。これにより、後でアカウントのパスワードを変更する場合、インフラストラクチャサービスに対して構成した Windows アカウントの偽装設定を変更する必要がなくなります。

WEM 用の gMSA ソリューションを実装するには、次の手順を実行します。

1. すでに gMSA をお持ちの場合は、次の操作を行ってください。

a) 次のコマンドを使用して、Citrix WEM SPN をアカウントにバインドします。

```
• setspn -C -S Norskale/BrokerService [gMSA]$
```

`gMSA`は、gMSA アカウントの名前です。

b) 次のコマンドを使用して、関連するマシンをアカウントに追加します。

```
• Set-ADServiceAccount -Identity [gMSA] -PrincipalsAllowedToRetrieveMIM  
[hostname]
```

ここで、`[hostname]` はインフラストラクチャサーバーの名前です。

2. gMSA をお持ちでない場合は、ドメインコントローラーに移動して作成し、Citrix WEM SPN をそれにバインドします。次のコマンドを使用します：

```
• New-ADServiceAccount [gMSA] -DNSHostName [hostname 1] -PrincipalsAllow  
[hostname 2], [hostname 3] -KerberosEncryptionType RC4,  
AES128, AES256 -ServicePrincipalNames Norskale/BrokerService
```

ここで、`[ホスト名 1]` は DNS サーバーの名前です。

ここで、`[ホスト名 2]`、`[ホスト名 3]` はインフラストラクチャサーバーの名前です。

gMSA の作成の詳細については、「<https://docs.microsoft.com/en-us/windows-server/security/group-managed-service-accounts/getting-started-with-group-managed-service-accounts>」を参照してください。

3. gMSA を手動で設定します。

- a) アカウントがデータベースにアクセスできるようにします。
 - i. プライマリ SQL Server で、[セキュリティ] > [ログイン] に移動し、[ログイン] を右クリックして [新規ログイン] を選択します。
 - ii. [ログイン-新規] ウィンドウで、[検索] をクリックします。
 - iii. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウで、次のように設定を構成し、「OK」をクリックしてウィンドウを終了します。
 - オブジェクトタイプ。[サービスアカウント] のみを選択します。
 - 所在地。[管理対象サービスアカウント] を選択します。
 - オブジェクト名。手順 1 で作成したアカウント名を入力します。
 - iv. [ユーザーマッピング] ページで、gMSA を適用するデータベースを選択し、データベースのロールメンバシップとして **db-owner** を選択します。
 - v. [ステータス] ページで、[許可] および [有効] オプションが選択されていることを確認します。
 - vi. 「OK」をクリックして「ログイン-新規」ウィンドウを終了します。
- b) 追加したサービスアカウントを使用して、Citrix WEM インフラストラクチャサービスを開始します。
 - i. インフラストラクチャサーバーで、Windows サービスマネージャーを開き、Citrix WEM インフラストラクチャサービスを右クリックして、[プロパティ] を選択します。
 - ii. [ログオン] ページで、[このアカウント] を選択し、[参照] をクリックして、手順 3 の 3 番目のサブステップの説明に従って設定を構成します。
 - iii. **OK** をクリックして **Citrix WEM** インフラストラクチャサービスのプロパティウィンドウを終了します。
 - iv. Windows サービスマネージャーで、Citrix WEM インフラストラクチャサービスを再起動します。

注:

または、WEM GUI を使用してアカウントを設定することもできます。「[WEM データベースの作成](#)」と「[インフラストラクチャサービスの設定](#)」を参照してください。

負荷分散の構成

ヒント:

[NetScaler ADC による負荷分散の記事](#)では、WEM 管理コンソールと WEM エージェントからの着信要求を負荷分散するように NetScaler ADC アプライアンスを構成する方法について詳しく説明します。

ロードバランシングサービスで WEM を構成するには、次の手順を実行します。

1. WEM データベースに接続するための WEM インフラストラクチャサービスの Windows インフラストラクチャサービスアカウントを作成します。

2. WEM データベースを作成するときは、[インフラストラクチャサービスデータベース接続に **Windows** 認証を使用する] オプションを選択し、インフラストラクチャサービスのアカウント名を指定します。詳細については、「Workspace Environment Management データベースの作成」を参照してください。
3. SQL 認証ではなく Windows 認証を使用して SQL データベースに接続するように、各インフラストラクチャサービスを構成します。[**Windows** アカウントの偽装を有効にする] オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウントの資格情報を指定します。詳細については、「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。
4. WEM インフラストラクチャサービスの SPN を構成して、インフラストラクチャサービスアカウント名を使用します。詳細については、「[サービスプリンシパル名の作成](#)」を参照してください。

重要:

WEM 環境を展開する前に、サービスアカウントまたはマシンアカウントのどちらを使用するかを決定します。WEM 環境を既に展開した後は、元に戻すことはできません。たとえば、マシンアカウントをすでに使用した後に着信要求をロードバランシングする場合は、サービスアカウントではなくマシンアカウントを使用する必要があります。

5. VIP の背後に配置するインフラストラクチャサーバーの数をカバーする仮想 IP アドレス (VIP) を作成します。エージェントが VIP に接続すると、VIP の対象となるインフラストラクチャサーバーはすべて対象となります。
6. エージェントホスト構成 GPO を構成するときは、インフラストラクチャサーバーの設定を個々のインフラストラクチャサーバーのアドレスではなく VIP に設定します。詳細については、「[エージェントのインストールと構成](#)」を参照してください。
7. セッション永続性は、管理コンソールとインフラストラクチャサービス間の接続に必要です。(エージェントとインフラストラクチャサービス間のセッション永続性は必要ありません)。VIP を使用するのではなく、各管理コンソールをインフラストラクチャサービスサーバーに直接接続することをお勧めします。

Workspace Environment Management データベースの作成

ヒント:

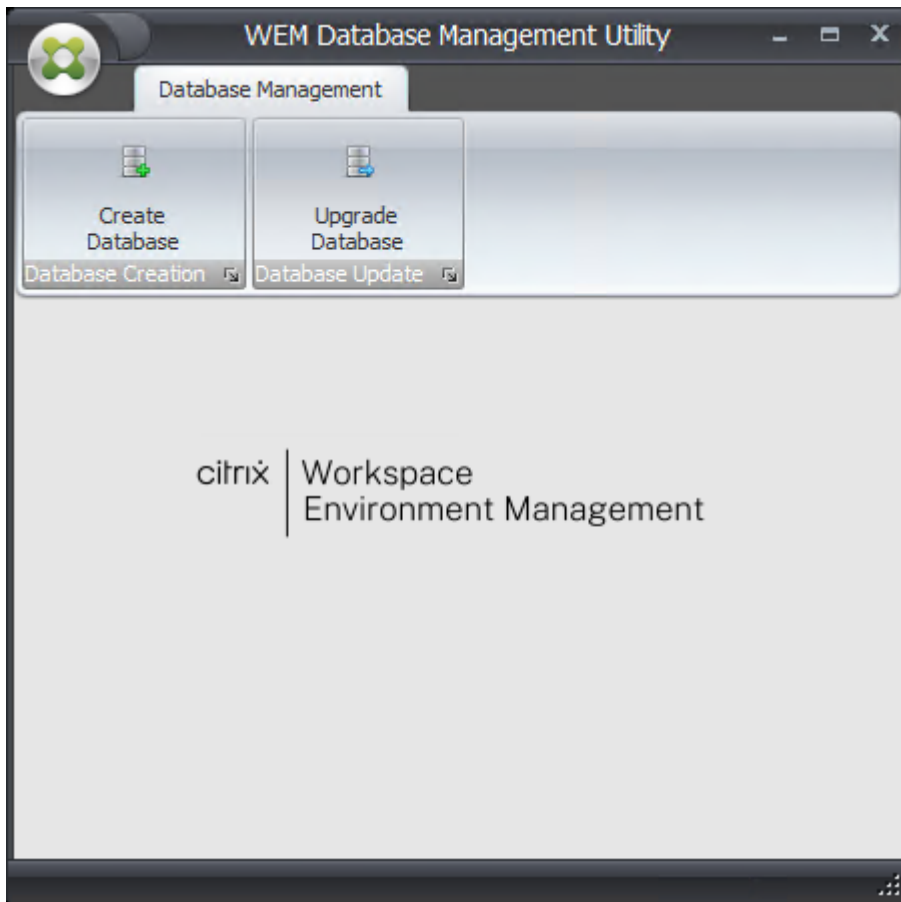
WEM PowerShell SDK モジュールを使用してデータベースを作成することもできます。SDK のドキュメントについては、[Citrix Developer ドキュメント](#)を参照してください。

注:

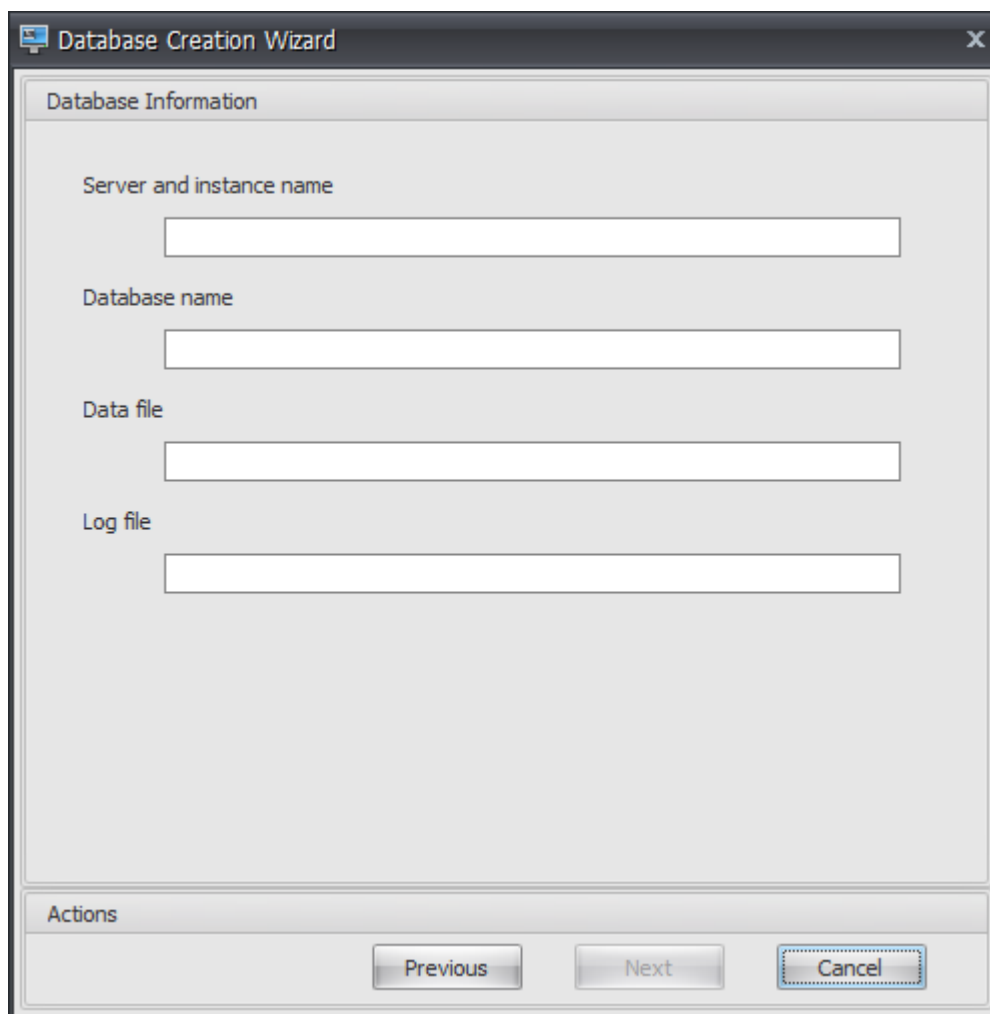
- SQL Server で Windows 認証を使用している場合は、sysadmin アクセス許可を持つ ID でデータベース作成ユーティリティを実行します。
- WEM データベースのプライマリファイル (.mdf ファイル) をデフォルトサイズ 50 MB で構成することをお勧めします。

WEM データベース管理ユーティリティを使用してデータベースを作成します。これは、インフラストラクチャサービスのインストールプロセス中にインストールされ、その後すぐに開始されます。

1. データベース管理ユーティリティがまだ開いていない場合は、[スタート] メニューから **[Citrix] > [Workspace Environment Management] > [WEM データベース管理ユーティリティ]** を選択します。



2. [データベースの作成] をクリックし、[次へ] をクリックします。



3. 次のデータベース情報を入力し、[次へ]をクリックします。

- サーバー名とインスタンス名。データベースがホストされる SQL Server のアドレス。このアドレスは、インフラストラクチャサーバから入力されたとおりに到達可能である必要があります。マシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスとして、サーバーおよびインスタンス名を入力します。完全なインスタンスアドレスをサーバーアドレス、ポート**instanceName**として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトの SQL ポート番号 (1433) が使用されます。
- データベース名。作成する SQL データベースの名前。

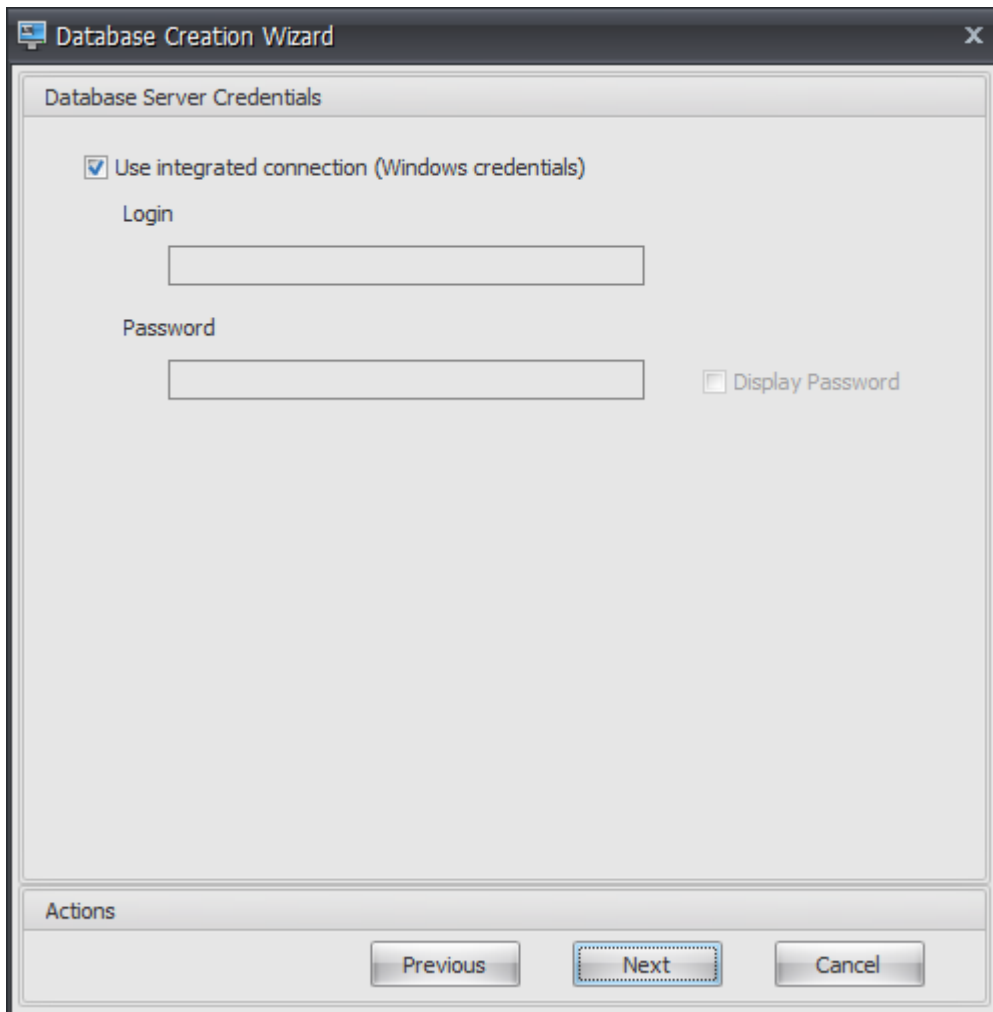
注:

データベース名には、ハイフン (-) やダッシュ (/) などの特殊文字は使用できません。

- データファイル:SQL サーバー上の**.mdf** ファイルの場所へのパス。
- ログファイル:SQL Server 上の**.ldf** ファイルの場所へのパス。

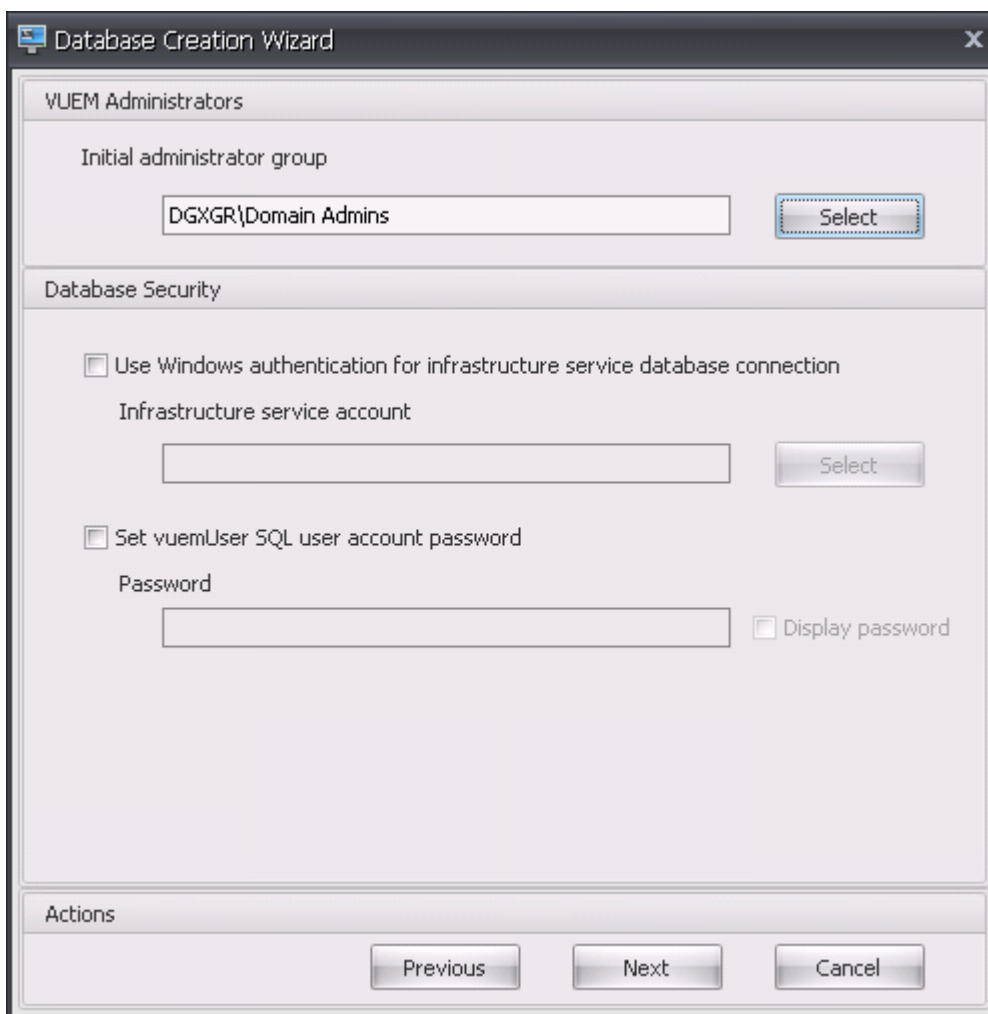
注:

データベース管理ユーティリティは、データファイルとログファイルの既定の場所を SQL Server に照会できません。MS SQL Server の既定のインストールでは、既定値が設定されます。これら 2 つのフィールドの値が MS SQL Server のインストールに適していることを確認してください。そうしないと、データベース作成プロセスが失敗します。



4. ウィザードでデータベースの作成に使用できるデータベースサーバー認証情報を指定し、[次へ]をクリックします。これらの認証情報は、データベースの作成後にインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用する認証情報とは無関係です。これらは保存されません。

デフォルトでは、[統合接続を使用] オプションが選択されています。これにより、ウィザードは、実行中の ID の Windows アカウントを使用して SQL に接続し、データベースを作成できます。この Windows アカウントにデータベースを作成するための十分な権限がない場合は、データベース管理ユーティリティを十分な権限を持つ Windows アカウントとして実行するか、このオプションをオフにして、代わりに十分な権限を持つ SQL アカウントを指定できます。



5. VUEM 管理者とデータベースセキュリティの詳細を入力し、[次へ] をクリックします。ここで指定した資格情報は、データベースの作成後にデータベースに接続するためにインフラストラクチャサービスによって使用されます。それらはデータベースに格納されます。

- 初期管理者グループ。このユーザー・グループは、管理コンソールのフルアクセス管理者として事前構成されています。Workspace Environment Management 管理者として構成されたユーザーのみが、管理コンソールを使用できます。有効なユーザーグループを指定してください。指定しないと、管理コンソールを自分で使用できなくなります。
- インフラストラクチャサービスデータベース接続に **Windows** 認証を使用します。このオプションをオフにすると (デフォルト)、データベースはインフラストラクチャサービスが *VuemUser SQL* ユーザーアカウントを使用して接続することを期待します。VUEMuser SQL ユーザーアカウントは、インストールプロセスによって作成されます。これには、SQL インスタンスで混合モード認証を有効にする必要があります。

このオプションを選択すると、データベースはインフラストラクチャサービスが Windows アカウントを使用してそれに接続することを想定します。この場合、選択した Windows アカウントに SQL インスタンスへの

ログインが既になっていない必要があります。つまり、データベースの作成に使用したのと同じ Windows アカウントを使用してインフラストラクチャサービスを実行することはできません。

gMSA を選択するには、AD ユーザーを選択するのと同じ手順に従います。

- **vuemUser SQL** ユーザーアカウントのパスワードを設定する。デフォルトでは、VUEMuser SQL アカウントは大文字、小文字、数字、および句読点を使用する 8 文字のパスワードを使用して作成されます。独自の VUEMuser SQL アカウントのパスワードを入力する場合 (たとえば、SQL ポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合) は、このオプションを選択します。

重要:

- Workspace Environment Management データベースを SQL Server 常時オン可用性グループに展開する場合は、vuemUser SQL ユーザーアカウントパスワードを設定する必要があります。
- ここでパスワードを設定する場合は、インフラストラクチャサービスを設定するときと同じパスワードを指定することを忘れないでください。

6. [サマリー] ペインで、選択した設定を確認し、問題がなければ [データベースの作成] をクリックします。

7. データベースの作成が正常に完了したことが通知されたら、[完了] をクリックしてウィザードを終了します。

データベースの作成中にエラーが発生した場合は、インフラストラクチャサービスのインストールディレクトリにあるログファイル「Citrix WEM データベース管理ユーティリティのデバッグ Log.log」を確認します。

インフラストラクチャサービスの構成

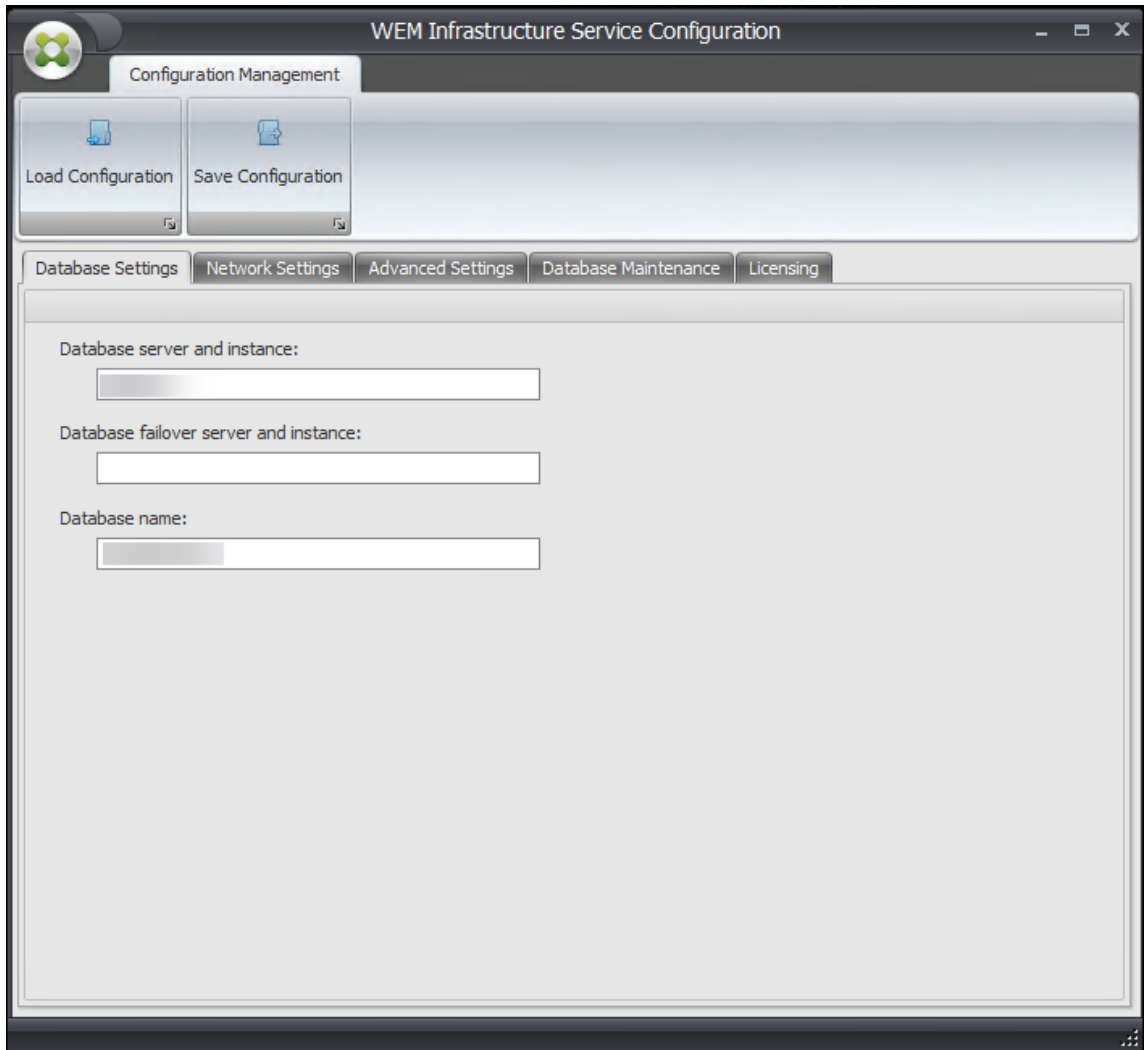
ヒント:

Workspace Environment Management PowerShell SDK モジュールを使用してインフラストラクチャサービスを構成することもできます。SDK のドキュメントについては、[Citrix Developer ドキュメント](#)を参照してください。

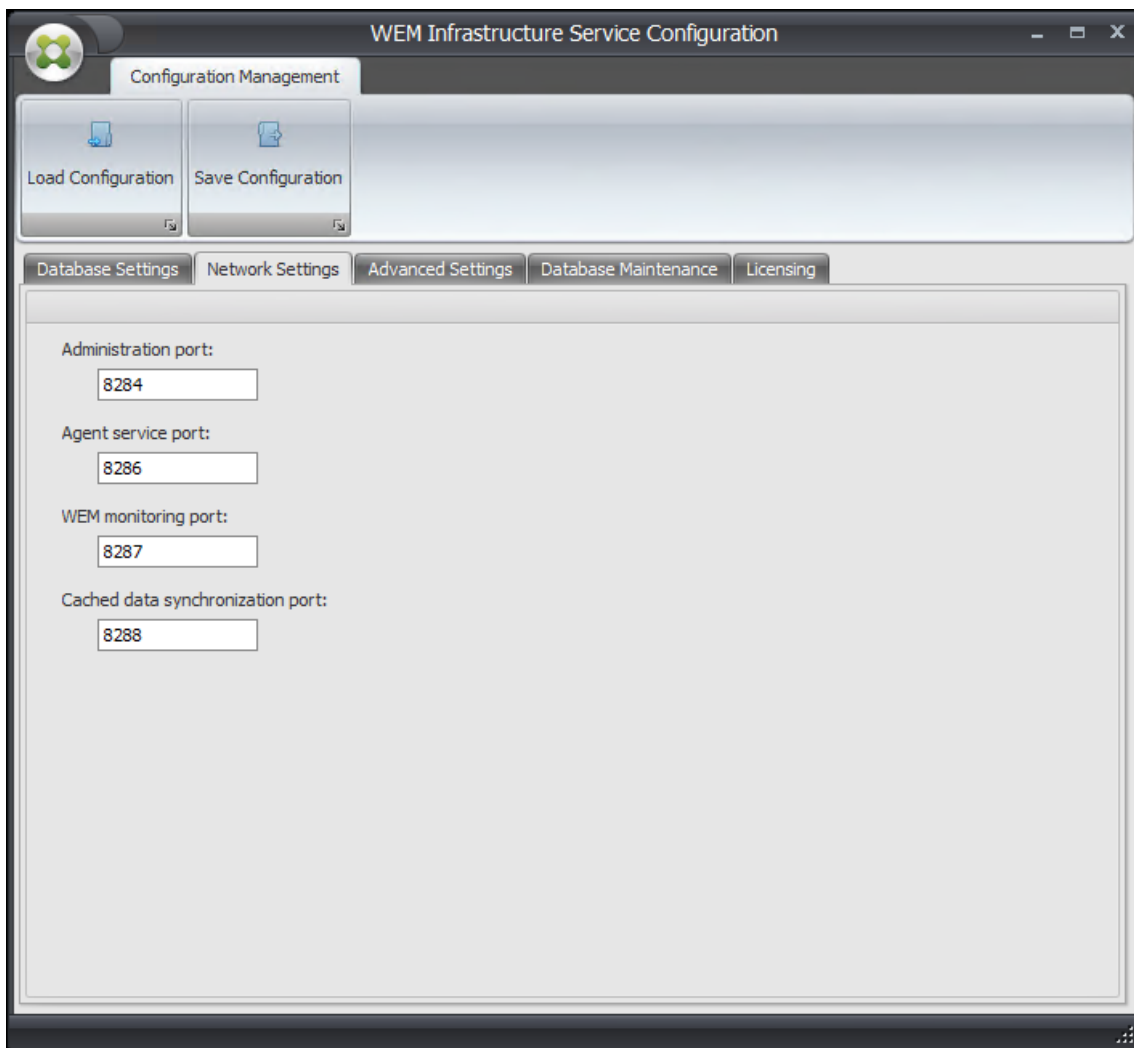
インフラストラクチャサービスを実行する前に、ここで説明するように **WEM** インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを使用して構成する必要があります。

1. [スタート] メニューから **[Citrix] > [Workspace Environment Management]** [WEM インフラストラクチャサービス構成ユーティリティ] を選択します。
2. [データベース設定] タブで、次の詳細を入力します。
 - データベースサーバーとインスタンス。Workspace Environment Management データベースがホストされている SQL Server インスタンスのアドレス。これは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。完全なインスタンスアドレスを「サーバアドレス, ポート\instanceName」として指定します。ポートが指定されていない場合は、デフォルトの SQL ポート番号 (1433) が使用されます。

- データベースフェイルオーバーサーバーとインスタンス。データベースミラーリングを使用している場合は、ここでフェールオーバーサーバーのアドレスを指定します。
- データベース名。SQL インスタンス上の Workspace Environment Management データベースの名前。



3. [ネットワーク設定] タブで、インフラストラクチャサービスが使用するポートを入力します。
 - 管理ポート。このポートは、管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するために使用されます。
 - エージェントサービスポート。このポートは、インフラストラクチャサービスに接続するためにエージェントホストによって使用されます。
 - キャッシュ同期ポート。このポートは、エージェントサービスによってキャッシュをインフラストラクチャサービスと同期するために使用されます。
 - **WEM** モニタリングポート。[現在は使用されていません。]



4. [詳細設定] タブで、偽装と自動更新の設定を入力します。

- **Windows** アカウントの偽装を有効にします。デフォルトでは、このオプションはクリアされ、インフラストラクチャサービスは混合モード認証を使用してデータベースに接続します (データベース作成時に作成された SQL アカウント *VuemUser* を使用)。代わりに、データベースの作成中に Windows インフラストラクチャサービスアカウントを選択した場合は、このオプションを選択し、接続中に偽装するインフラストラクチャサービスに対して同じ Windows アカウントを指定する必要があります。選択するアカウントは、インフラストラクチャサーバーのローカル管理者である必要があります。

gMSA を選択するには、AD ユーザーを選択するのと同じ手順に従います。

- **vuemUser SQL** ユーザーアカウントのパスワードを設定する。データベースの作成時に *VueUser* SQL ユーザに対して設定されたカスタムパスワードをインフラストラクチャサービスに通知できます。このオプションは、データベースの作成時に独自のパスワードを指定した場合のみ有効にします。
- インフラストラクチャサービスキャッシュの更新遅延。インフラストラクチャサービスがキャッシュを更新するまでの時間 (分単位)。キャッシュは、インフラストラクチャサービスが SQL に接続できない

場合に使用されます。

- インフラストラクチャサービス **SQL** 状態モニタの遅延。各インフラストラクチャサービスが SQL Server をポーリングしようとする間隔 (秒)。
- インフラストラクチャサービスの **SQL** 接続タイムアウト。SQL Server との接続の確立を試みるときにインフラストラクチャサービスが待機する時間 (秒)。試行を終了してエラーが発生します。
- デバッグモードを有効にします。有効にすると、インフラストラクチャサービスは冗長ログモードに設定されます。
- オンラインでもキャッシュを使用する。有効にすると、インフラストラクチャサービスは常にキャッシュからサイト設定を読み取ります。
- パフォーマンスチューニングを有効にします。接続されているエージェントの数が特定のしきい値 (デフォルトは 200) を超えるシナリオで、パフォーマンスを最適化できます。その結果、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するまでの時間が短くなります。
 - ワーカースレッドの最小数。スレッドプールが要求に応じて作成するワーカースレッドの最小数を指定します。30~3000 の範囲のワーカースレッド数を設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、ワーカースレッドの最小数は 200 です。
 - 非同期 I/O スレッドの最小数。スレッドプールが要求に応じて作成する非同期 I/O スレッドの最小数を指定します。非同期 I/O スレッドの数を 30 ~3000 の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、非同期 I/O スレッドの最小数は 200 です。

重要:

この機能は、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスから断続的に切断する場合に特に便利です。

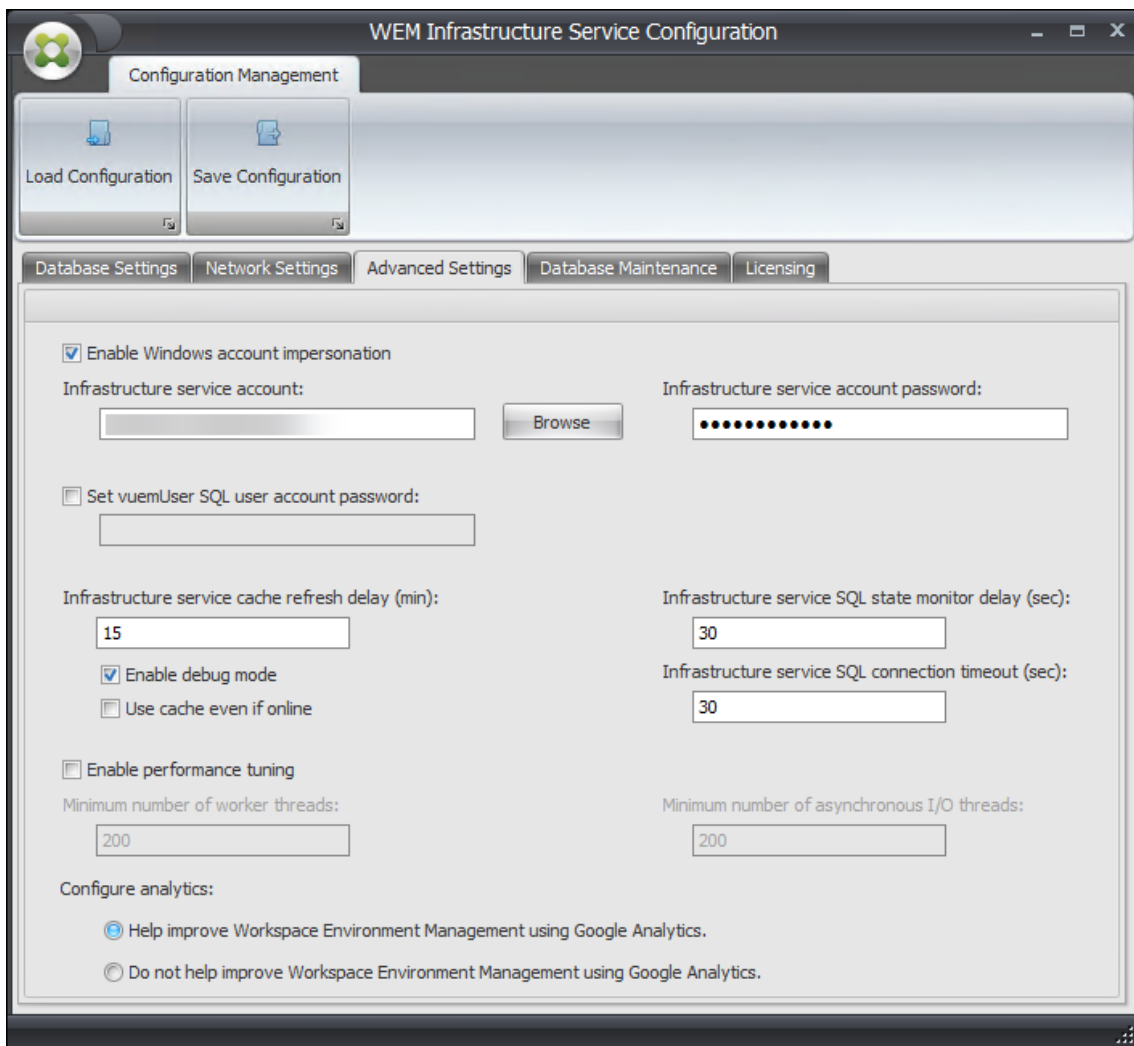
注:

[Enable Performance Tuning] フィールドで設定した値は、新しい要求が行われたとき、およびスレッドの作成と破棄を管理するアルゴリズムに切り替える前に使用されます。詳しくは、「<https://docs.microsoft.com/en-us/dotnet/api/system.threading.threadpool.setminthreads?view=netframework-4.8>」および「<https://support.microsoft.com/en-sg/help/2538826/wcf-service-may-scale-up-slowly-under-load>」を参照してください。

- **Google Analytics** を使用して、**Workspace Environment Management** 改善を支援します。選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名分析を Google Analytics クスサーバーに送信します。
- **Google Analytics** を使用して **Workspace Environment Management** 改善に役立たない。選択した場合、インフラストラクチャサービスは Google Analytics サーバーに匿名のアナリティクスを送信しません。

重要:

2212 以降、Workspace Environment Management は、インフラストラクチャサービスをホストするマシンのリージョンに基づいてどのオプションを選択するかを決定します。マシンがヨーロッパ以外の地域にある場合は、最初のオプションが選択されます。マシンがヨーロッパ地域にある場合は、2 番目のオプションが選択されます。この動作は新規インストールにのみ適用されます。



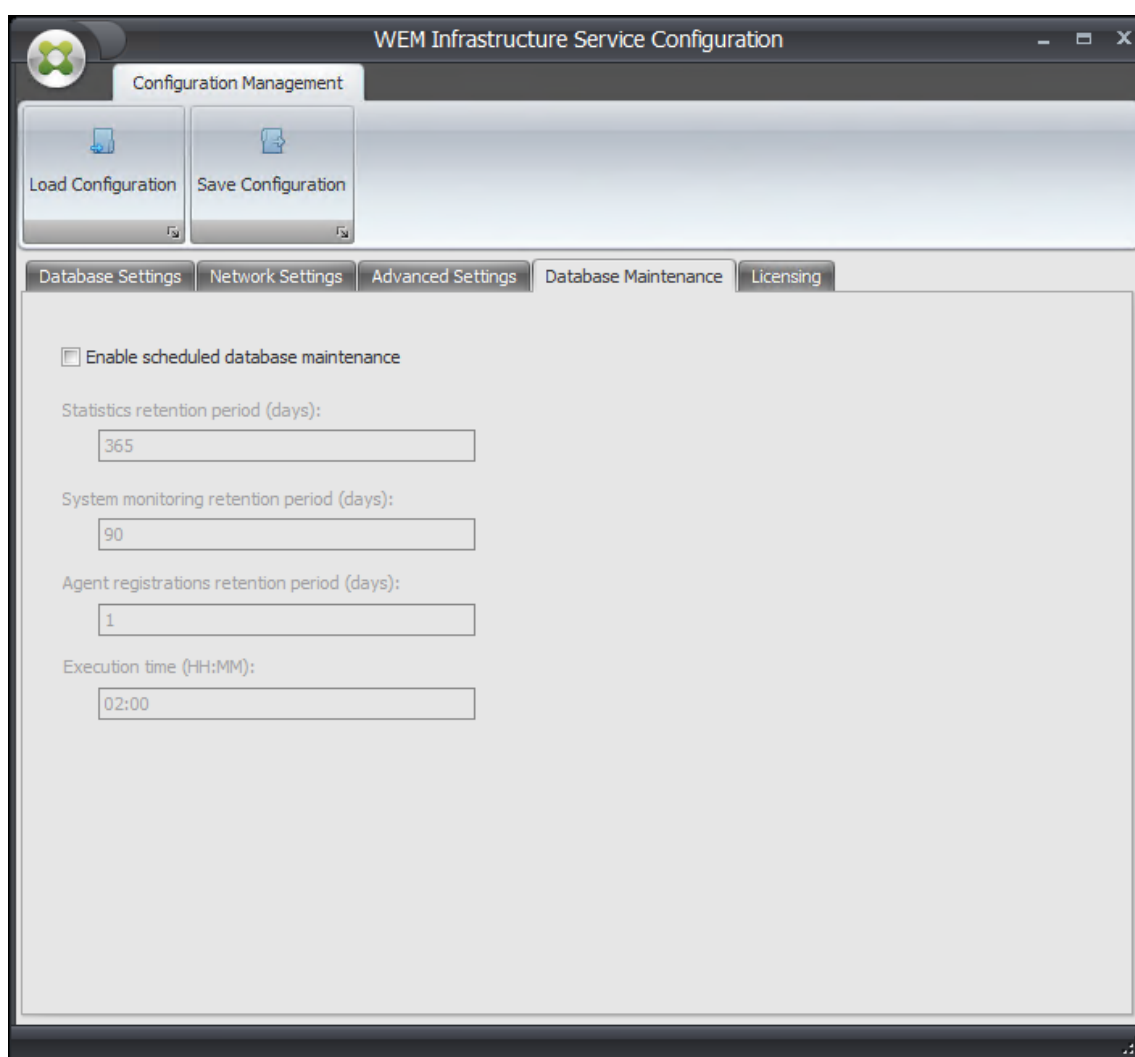
5. [データベースのメンテナンス] タブを使用して、データベースメンテナンスを構成できます。

- スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にします。この設定を有効にすると、データベースから古い統計レコードが定期的に削除されます。
- 統計保持期間。ユーザおよびエージェントの統計情報を保持する期間を指定します。デフォルトは 365 日です。
- システム監視の保持期間。システム最適化統計情報を保持する期間を指定します。デフォルトは 90 日です。

- エージェント登録の保持期間。エージェント登録ログをデータベースに保持する期間を決定します。デフォルトは1日です。
- 実行時間。データベースのメンテナンス・アクションが実行される時刻を指定します。デフォルトは02:00です。

ヒント

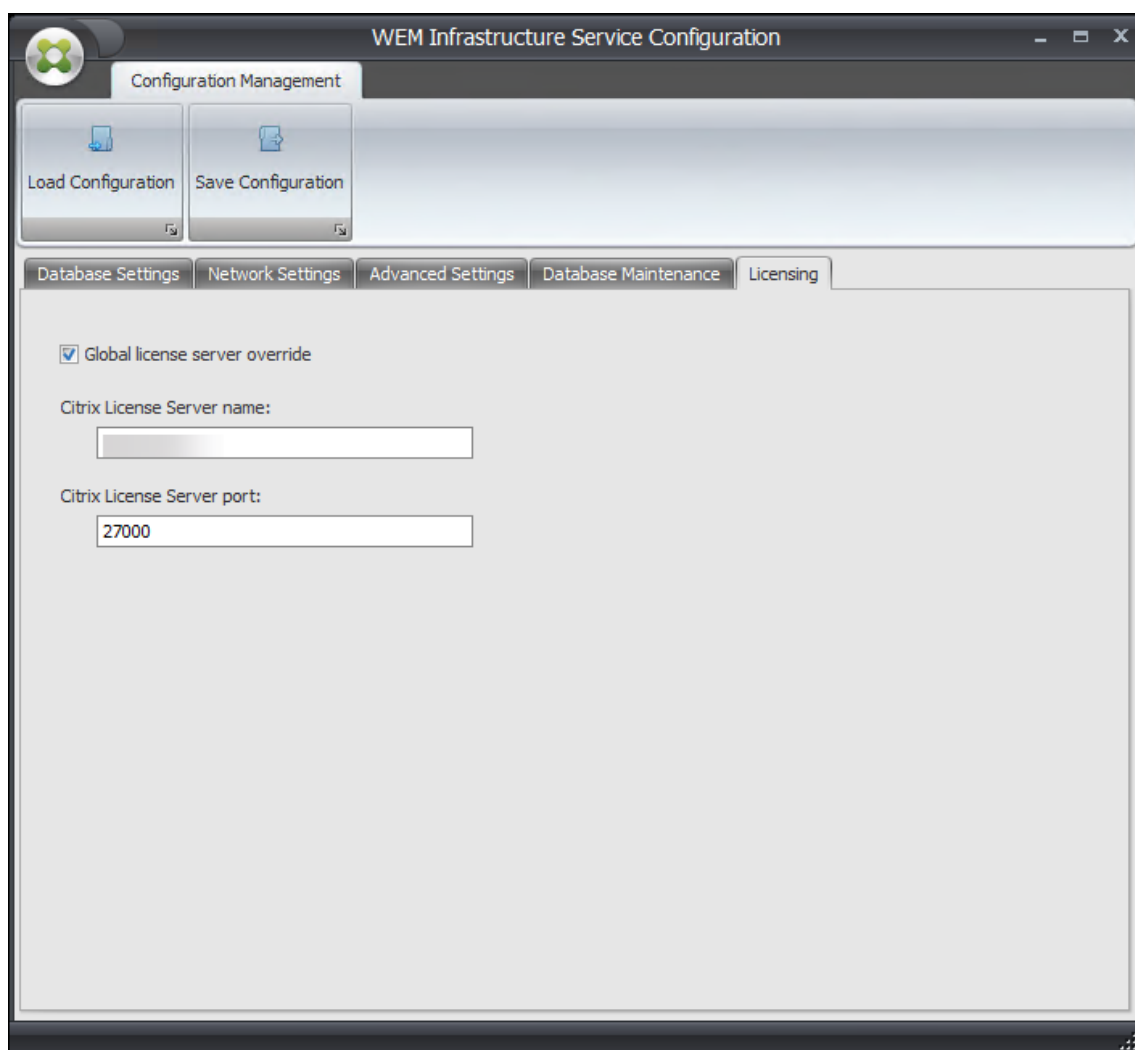
ベストプラクティスとして、データベースのサイズを削減し、最高のパフォーマンスを達成するために、スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にすることをお勧めします。単一の WEM 展開に複数のインフラストラクチャサービスがある場合は、1つのインフラストラクチャサービスに対してのみ有効にします。



6. 必要に応じて、[ライセンス] タブを使用して、インフラストラクチャサービスの構成中に Citrix ライセンスサーバーを指定できます。接続していない場合は、管理コンソールが新しい Workspace Environment Management データベースに初めて接続するときに、管理コンソールリボンの [バージョン情報] タブに

Citrix ライセンスサーバーの資格情報を入力する必要があります。いずれの場合も、Citrix ライセンスサーバーの情報は、データベース内の同じ場所に保存されます。

- グローバルライセンスサーバの上書き。Workspace Environment Management で使用される Citrix ライセンスサーバーの名前を入力するには、このオプションを有効にします。ここで入力した情報は、Workspace Environment Management データベースにすでに存在する Citrix ライセンスサーバー情報よりも優先されます。



インフラストラクチャサービスを適切に設定したら、[構成の保存] をクリックしてこれらの設定を保存し、[インフラストラクチャサービス構成] ユーティリティを終了します。

管理コンソール

October 26, 2023

管理コンソールのインストール

注記:

Citrix StoreFront で公開されているリソースを管理コンソールから Workspace Environment Management でアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールマシンとエージェントホストマシンに Windows 向け Citrix Workspace アプリがインストールされていることを確認します。詳細については、「[システム要件](#)」を参照してください。

管理者コンソール環境で **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行します。

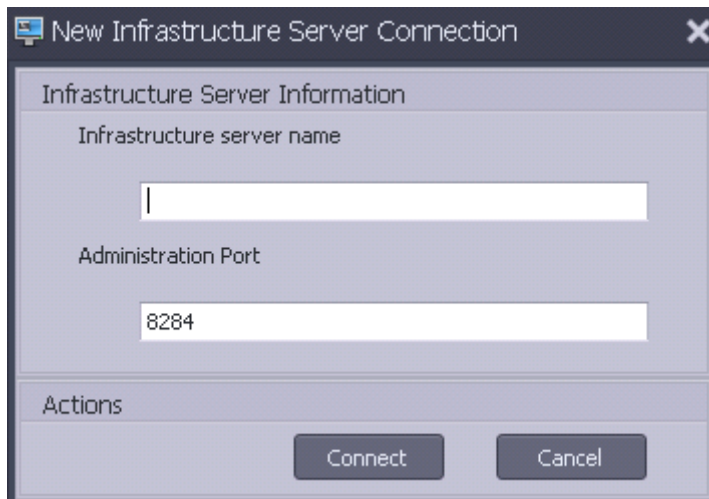
インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例えば:

- `.\ Citrix Workspace Environment Management Console.exe /quiet ConsoleLocation="C:\test\Administration Console"/log "C:\test\test.log"`
- `/quiet ConsoleLocation="C:\test\Administration Console"/log "C:\test\test.log"`
 - `/quiet`. サイレントモードを示します。
 - `/log`. ログファイルの場所を示します。
 - `ConsoleLocation`. 管理コンソールのインストールパスを示します。

インフラストラクチャ・サーバ接続の作成

[スタート] メニューで、[**Citrix] > [Workspace Environment Management] **[WEM 管理コンソール] を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断状態で起動します。

リボンの [接続] をクリックして [新しいインフラストラクチャサーバ接続] ウィンドウを開きます。

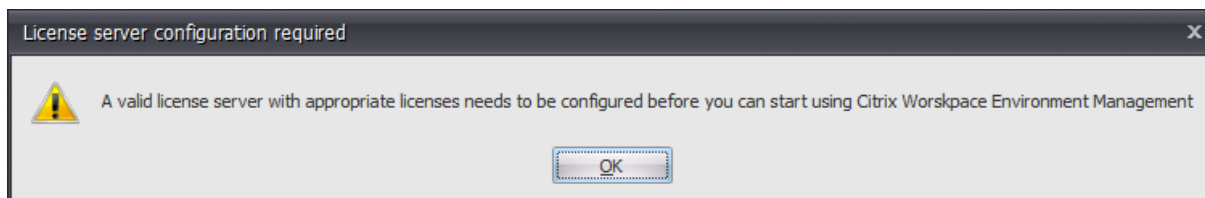


次の値を入力して [接続] をクリックします。

インフラストラクチャサーバー名。Workspace Environment Management インフラストラクチャサーバーの名前。入力したとおりに管理コンソール環境から解決する必要があります。

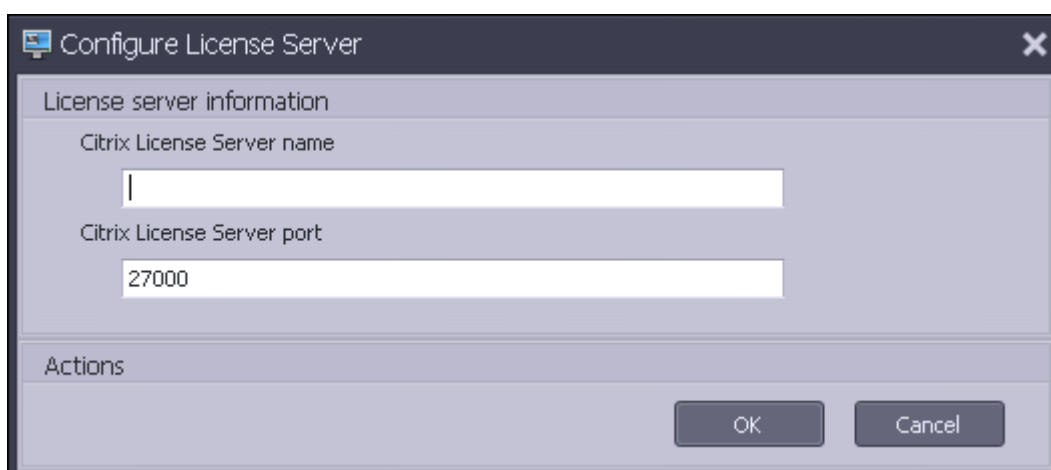
管理ポート。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。

新しいデータベースに初めて接続すると、有効なライセンスを持つ Citrix ライセンスサーバーがまだ構成されていないため、次のメッセージが表示されます。



ライセンスサーバーを使用したデータベースの構成

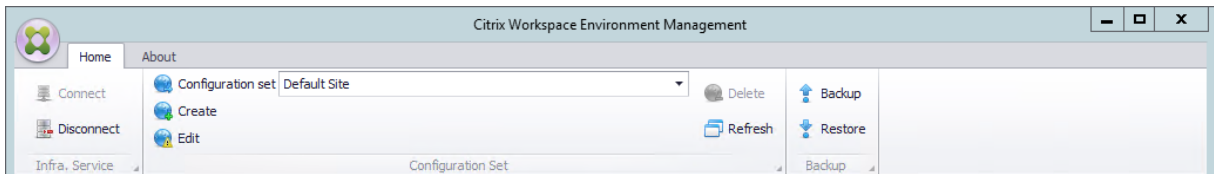
ライセンスサーバーを使用してデータベースを構成するには、管理コンソールのリボンで [情報] をクリックし、次に [ライセンスサーバーの構成] をクリックして、Citrix ライセンスサーバーの詳細を入力します。Citrix ライセンスサーバーのアドレスは、管理コンソール環境から入力されたとおりに解決される必要があります。



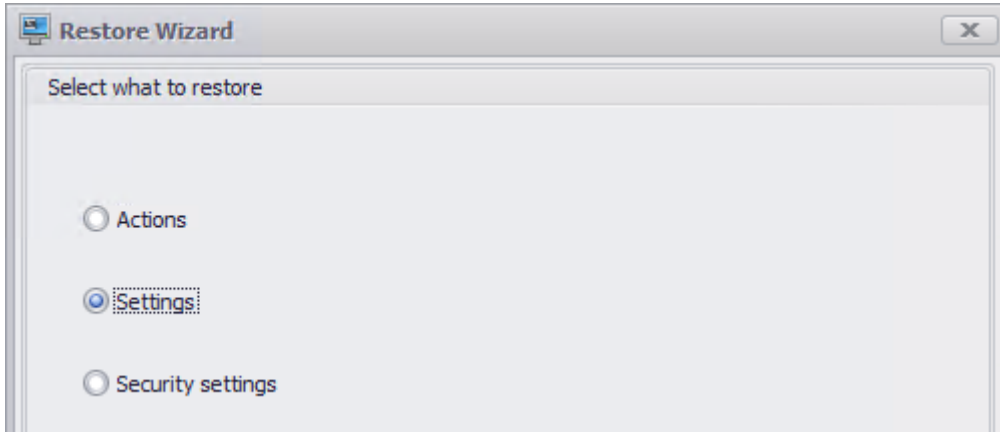
クイックスタート設定の読み込み

Workspace Environment Management には、Workspace Environment Management データベースを事前構成するために使用できる XML ファイルが含まれています。この XML ファイルは、概念証明をすぐに準備できます。XML ファイルは、Workspace Environment Management インストーラパッケージの「構成テンプレート」フォルダで提供されます。

クイックスタート設定ファイルをインポートするには、[ホーム] リボンで [復元] をクリックします。



復元ウィザードで、[設定] を選択し、[次へ] をクリックします。



リストアウィザードで、クイックスタート設定ファイルを含むフォルダ「設定テンプレート」を選択し、すべての設定タイプを選択します。

Web コンソール

January 11, 2024

Windows インフラストラクチャサービスは、**Citrix WEM** パブリック **API** サービス (**NT** サービス \ Citrix WEM パブリック API サービス) の 1 つです。Workspace Environment Management (WEM) Web コンソールをサポートし、WEM インフラストラクチャサービスと通信するための HTTPS サービスを提供します。

アカウント:WEM グローバルフルアクセス権を持ち、Web コンソールサービスが実行される Web コンソールサーバーの管理者ユーザーグループに属する、指定されたドメインユーザーアカウント。

WEM インフラストラクチャサービスが実行されるマシンに Web コンソールサービスをインストールすることをお勧めします。

Web コンソールサービスのインストール

Web コンソールサービスをインストールするには、**Citrix Workspace Environment Management Web Console.exe** を実行します。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダにインストールされます: `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Web Console.`

次の引数を使用して、インストールをカスタマイズできます。

ApiLocation: Web コンソールサービスをインストールするディレクトリ。

サイレントインストールまたはインフラストラクチャサービスのアップグレードを選択できます。例:

- `.\Citrix Workspace Environment Management Web Console.exe /quiet ApiLocation="C:\WEM\webconsole"`
- `.\setup.exe /quiet ApiLocation="path:\to\install"/log="path:\to\log"`
 - `setup.exe`. インストーラのファイル名に置き換えることができます。
 - `/quiet`. インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
 - `/log`. ログファイルの場所を示します。
 - `ApiLocation="path:\to\install"`. Web コンソールサービスをインストールする場所を指定します。

Web コンソールの設定

インストールパスで次のツールを使用して Web コンソールを設定する必要があります。

`WEM Web Console Configuration.exe`

前提条件

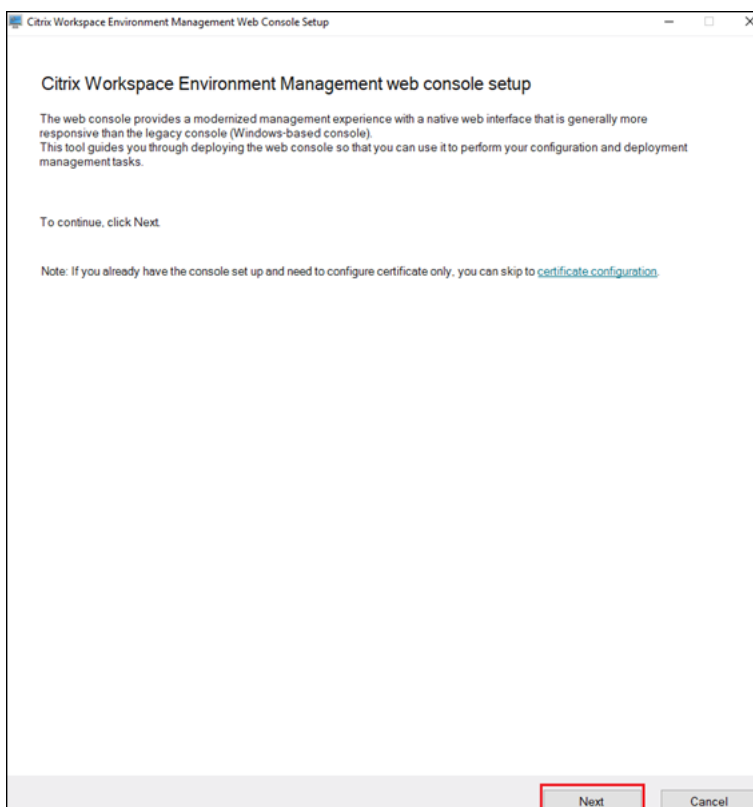
このリリースの Web コンソールは WEM 2303 デプロイメント以降と互換性があります。

2303 より前のデプロイメントでは、まず 2303 にアップグレードしてから Web コンソールを設定します。

Web コンソールの設定と起動

Web コンソールを設定して起動するには、次の手順を実行します。

1. Web コンソールフォルダで `WEM Web Console Configuration.exe` ツールを起動し、[次へ] をクリックします。



2. ブラウザがコンソールに接続するためのポートを指定して、コンソールポートを設定します。デフォルトのポートは 443 です。
3. インフラストラクチャサービス情報を指定して、インフラストラクチャサービスを設定します。
 - インフラストラクチャサーバー名には、WEM インフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを入力します。
 - 管理ポートには、Web コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートを入力します。デフォルトポートは 8284 です。

Citrix Workspace Environment Management Web Console Setup

Console port
Specify a port for the browser to connect to the console with.

Port
443

Infrastructure service

Infrastructure server name
Enter server name

Administration port
8284

Service impersonation
Specify the account for the console service to run under for improved security.

Create new

User name
Example: domain\username

Browse

Password
Enter password

Data folder
Specify a folder to store data-related items such as databases, certificates, and configuration files.

Data folder path

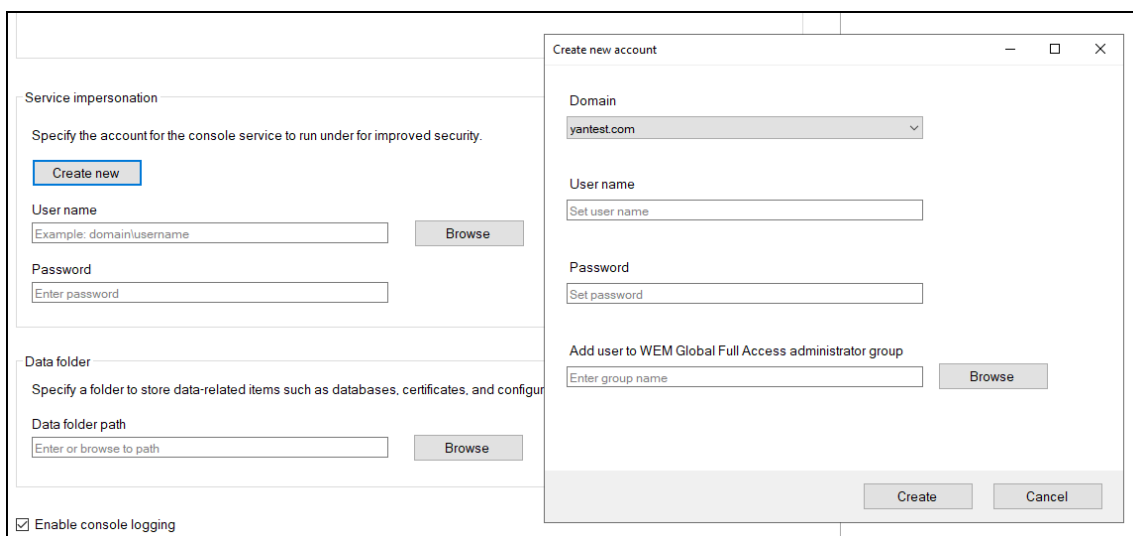
Browse

Enable console logging

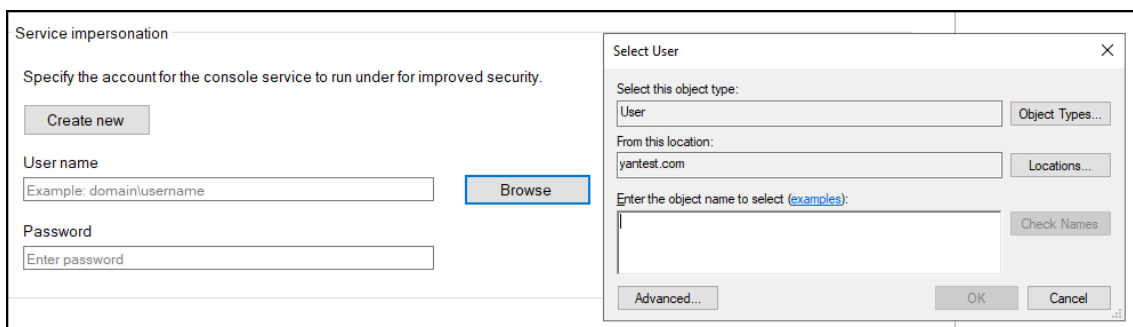
Back Start service Cancel

4. Web コンソールサービスが特定のアカウントを偽装する場合のサービス偽装を設定して、セキュリティを強化します。新しいユーザーを作成するか、既存のユーザーを選択できます。

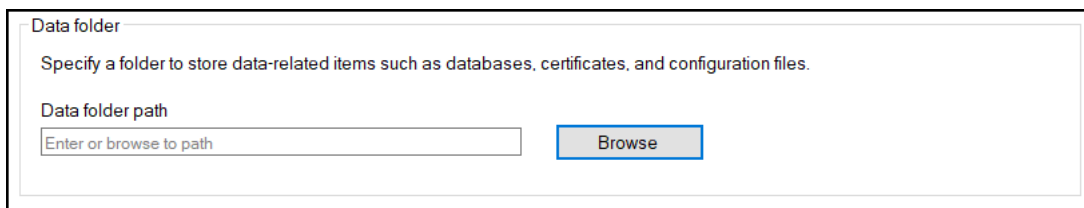
- 新しいユーザーを作成し、そのユーザーを WEM グローバルフルアクセス管理者グループに追加します。



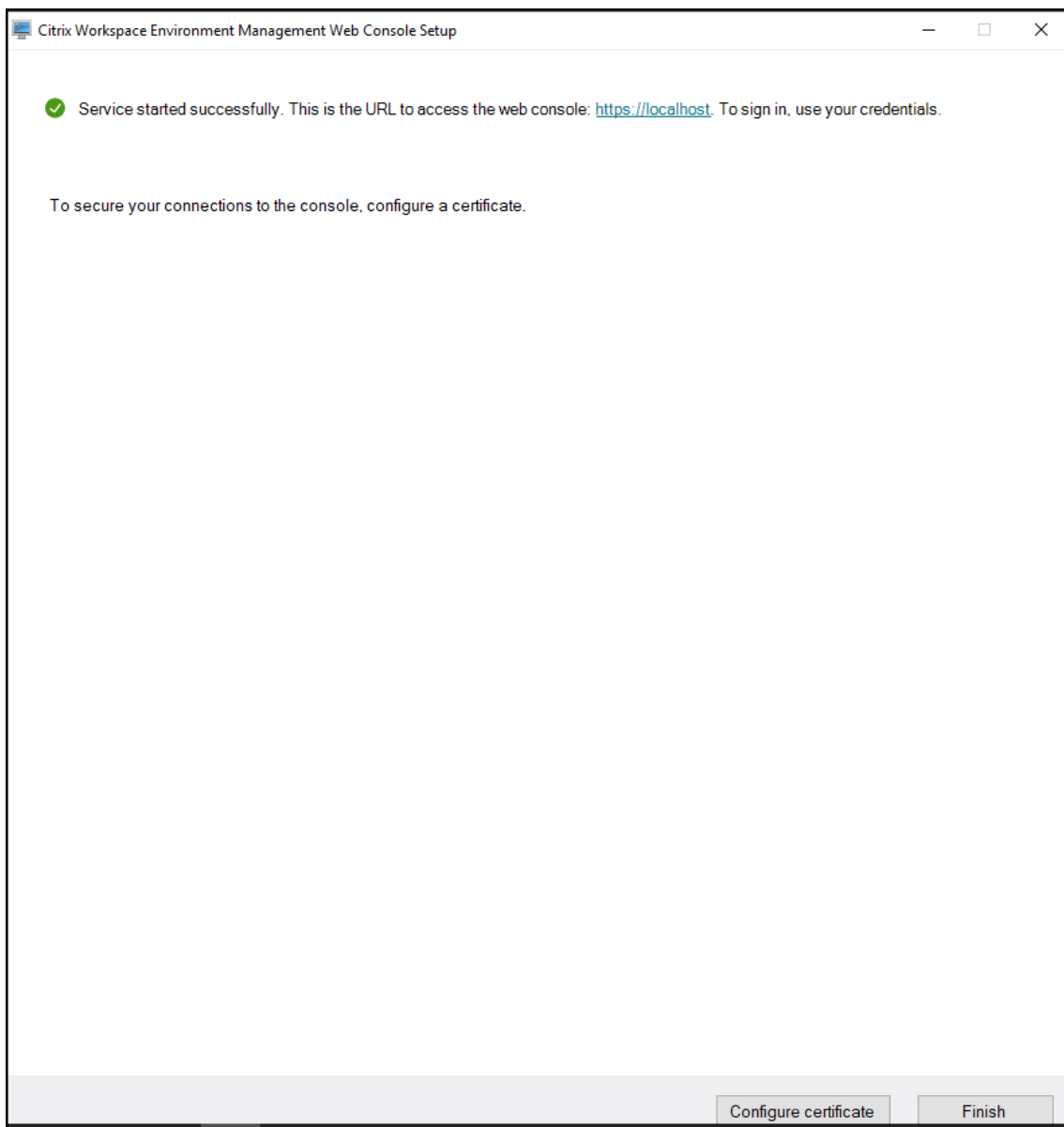
- WEM グローバルフルアクセス管理者グループから既存のユーザーを選択します。



5. データベースや構成ファイルなどのデータ関連アイテムを共有するフォルダーを指定して、データフォルダーを構成します。

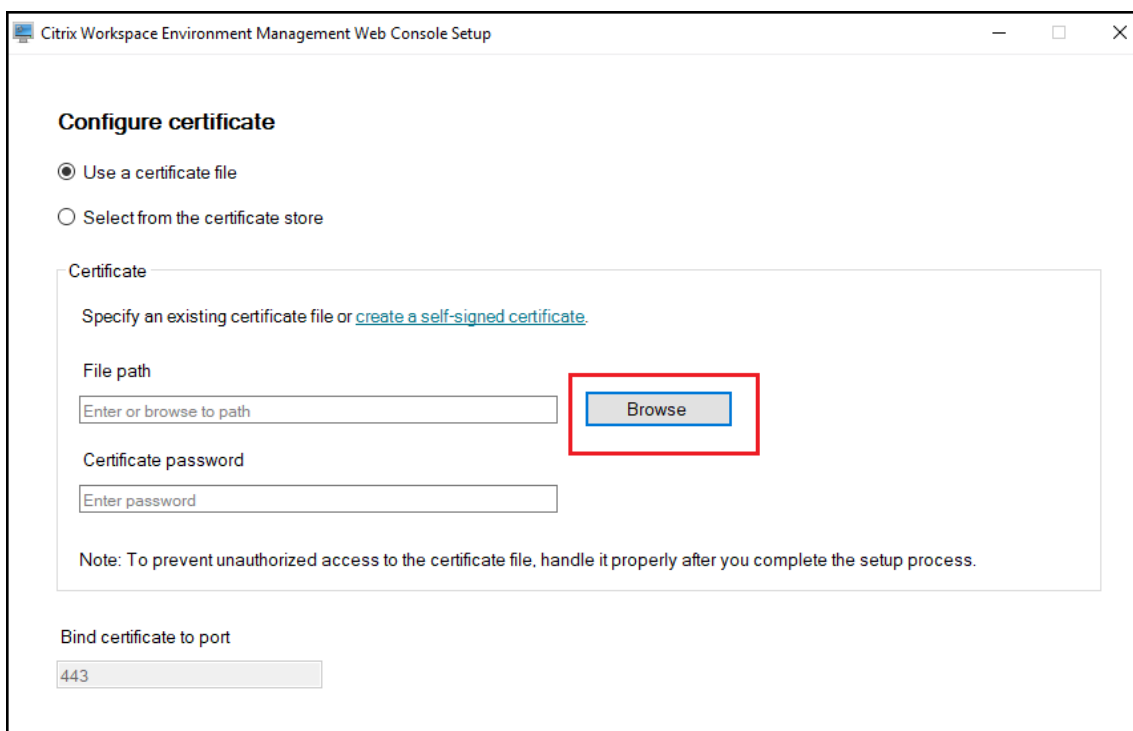


6. [サービスを開始] をクリックします。

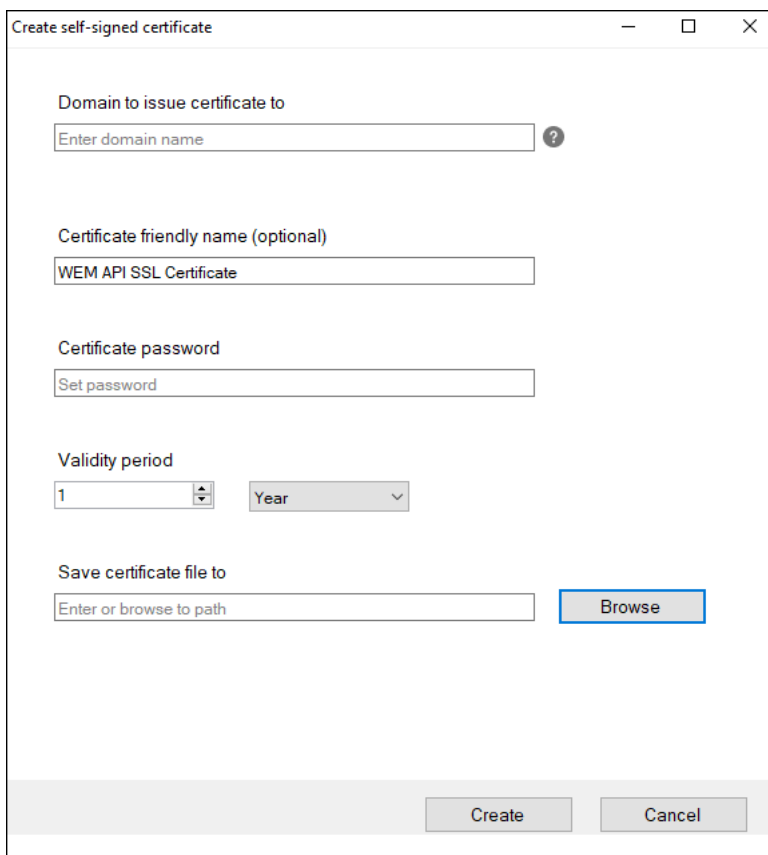


7. Web コンソールサービスが正常に開始されたら、「証明書の設定」をクリックして証明書を設定します。証明書の設定には 2 つの方法があります。

- 証明書ファイルを使用するには、[**Browse**] をクリックします。



- 自己署名証明書を作成するには、「自己署名証明書の作成」をクリックします。



- 「証明書を設定」をクリックします。

Citrix Workspace Environment Management Web Console Setup

Configure certificate

Use a certificate file
 Select from the certificate store

Certificate

Specify an existing certificate file or [create a self-signed certificate](#).

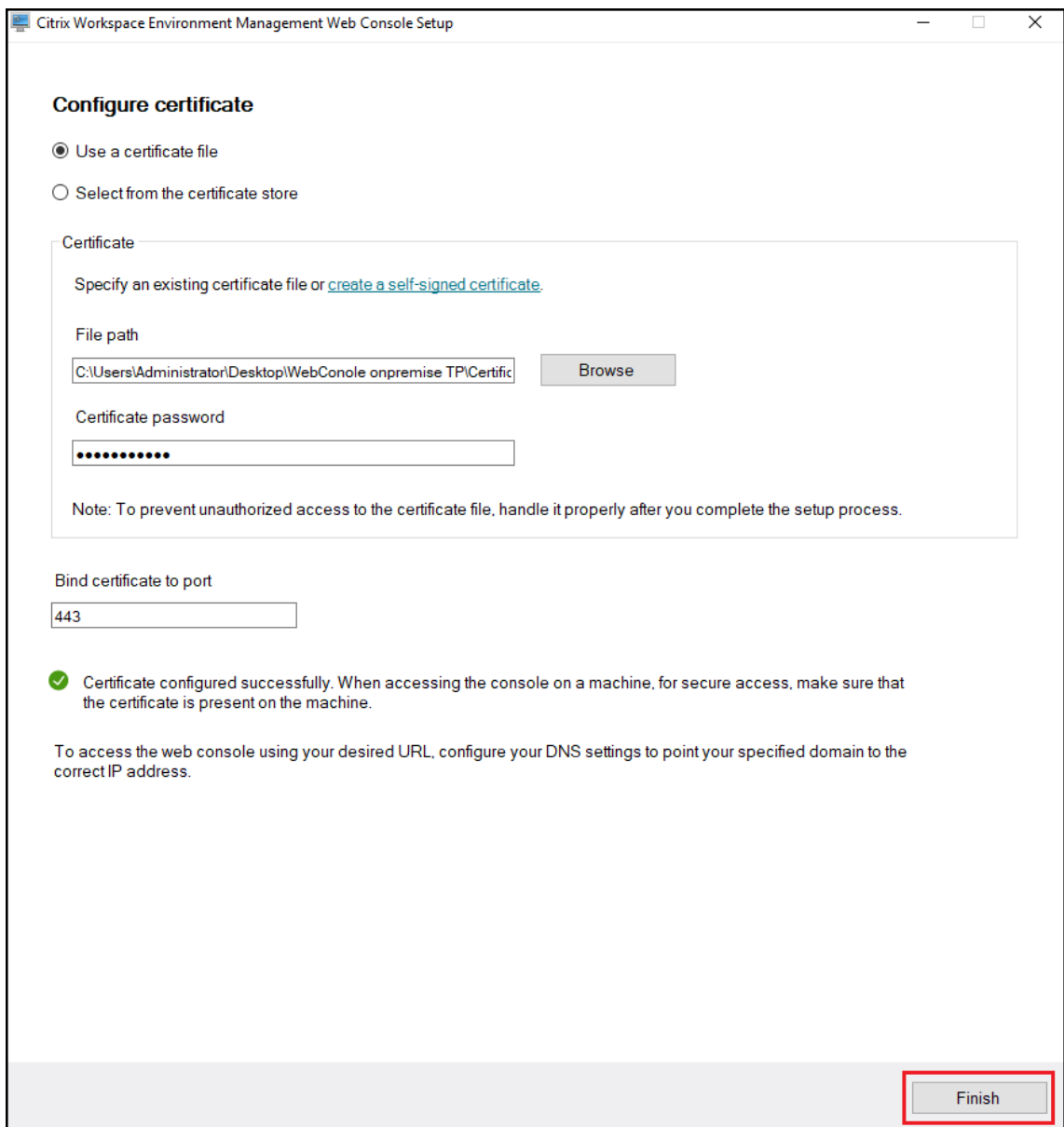
File path
C:\Users\Administrator\Desktop\WebConole onpremise TP\Certific

Certificate password
Enter password

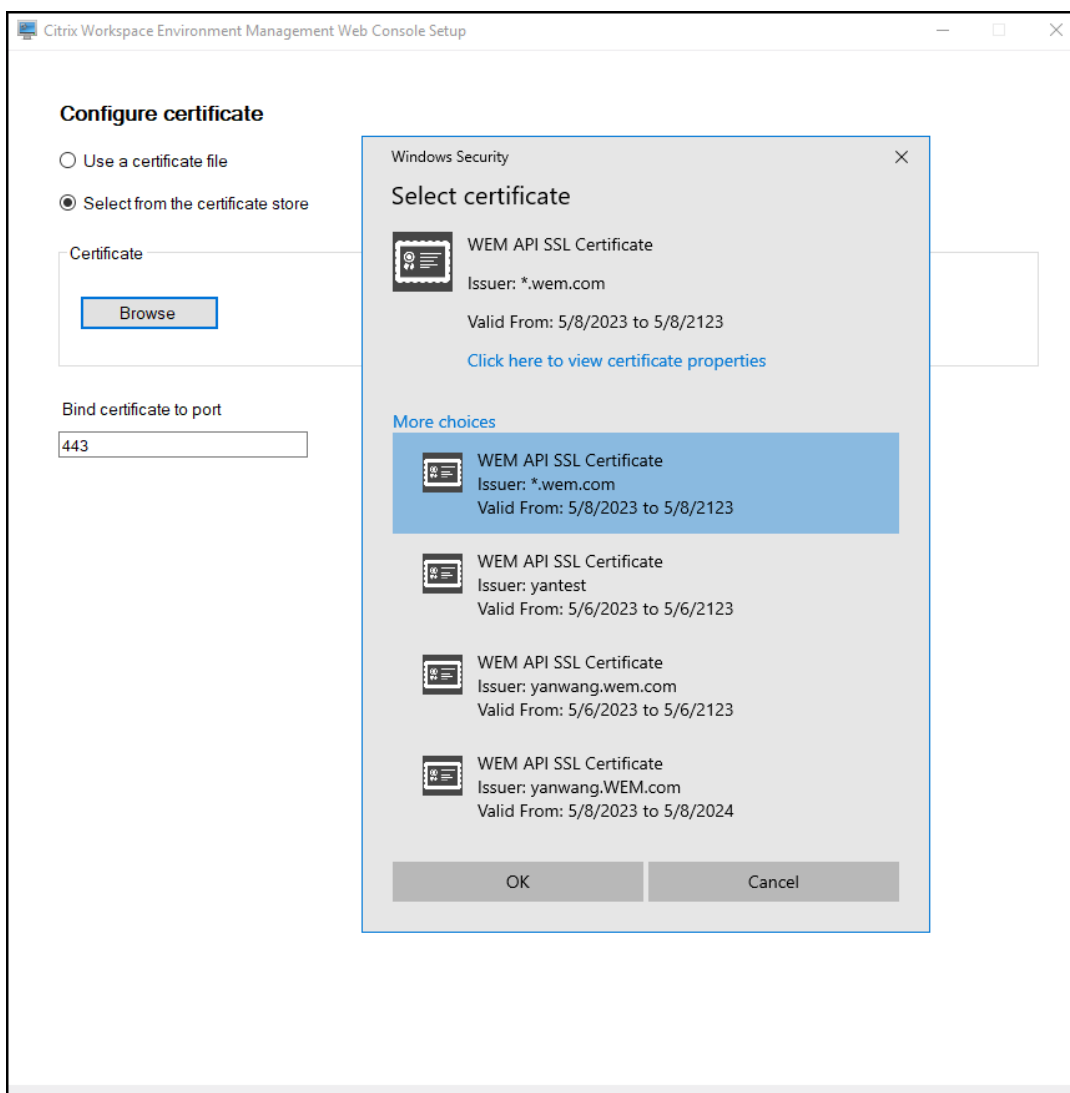
Note: To prevent unauthorized access to the certificate file, handle it properly after you complete the setup process.

Bind certificate to port
443

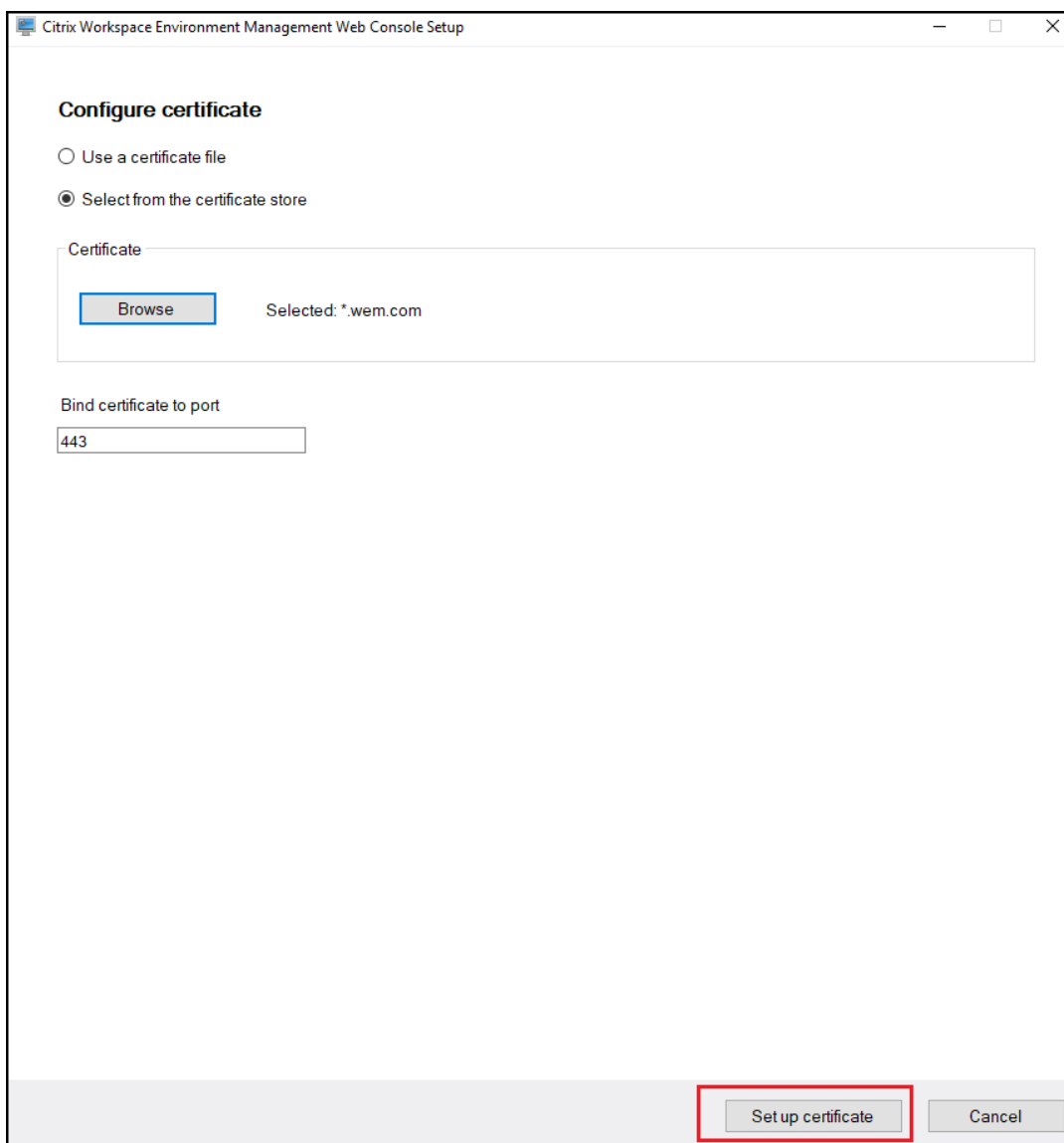
- 証明書を正常に構成したら、[完了]をクリックします。



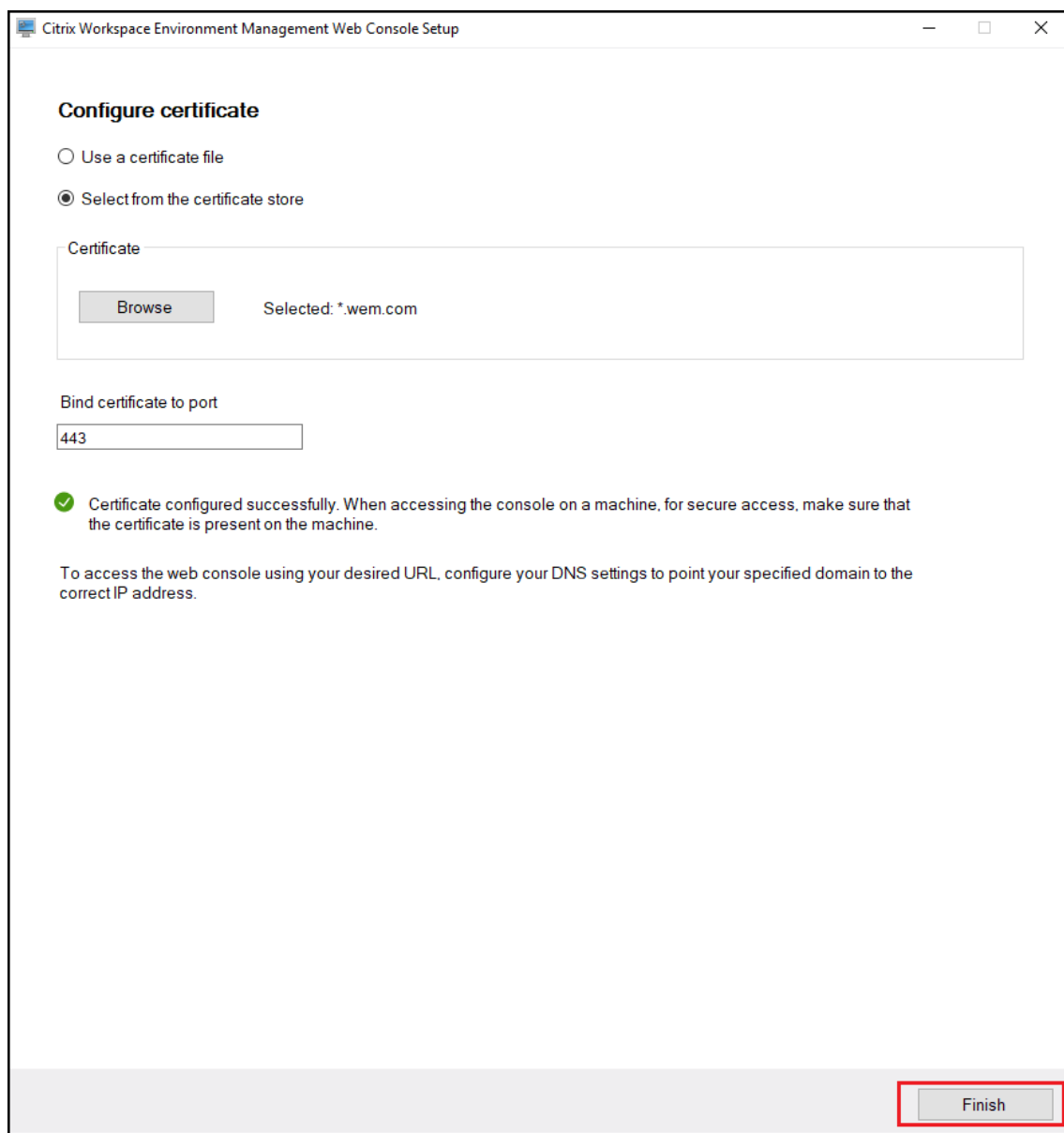
- 証明書ストアの証明書を使用するには、目的の証明書を選択します。



- 「証明書を設定」をクリックします。



- 証明書を正常に構成したら、[完了]をクリックします。



8. グローバルフルアクセスアカウントを作成するには、レガシーコンソールに移動し、[管理]をクリックして権限を管理します。

注:

Windows ドメインアカウントは、グローバルフルアクセスアカウントである必要があります。

Web コンソールを使用する前に Windows ドメインアカウントを使用してログインする必要があります。

WEM Web コンソールの詳細については、「[管理 \(Web コンソール\)](#)」を参照してください。

注:

テンプレートベースの GPO、スクリプトタスク、バックアップと復元、およびファイルを使用するには、共有

ストレージフォルダーを設定する必要があります。

Web コンソールに移動し、右上隅にあるアカウント名をクリックし、[ストレージフォルダー]をクリックして、共有 SMB パスを設定します。

エージェント

June 1, 2023

エージェントのインストールと構成

注:

- Workspace Environment Management (WEM) エージェントをインフラストラクチャサーバーにインストールしないでください。
- WEM エージェントと管理コンソールを同じマシンにインストールしないでください。
- 管理コンソールから WEM のアプリケーションショートカットとして Citrix StoreFront ストアに公開されているリソースを割り当てる場合は、管理コンソールとエージェントホストマシンに Windows 向け Citrix Workspace アプリがインストールされていることを確認してください。詳しくは、「[システム要件](#)」を参照してください。

手順 1: グループポリシーを構成する (オプション)

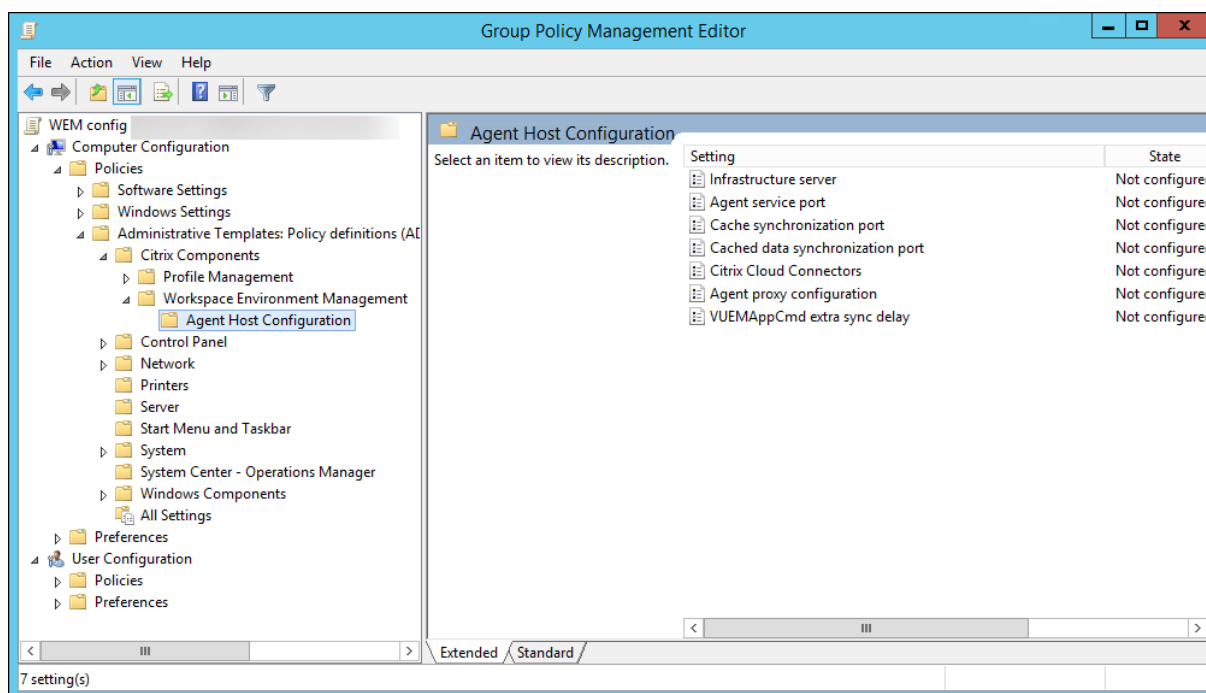
オプションで、エージェントグループポリシー管理用テンプレートを使用して、エージェントのグループポリシーを構成するように選択できます。WEM インストールパッケージには、このテンプレートが含まれています。テンプレートファイルは、.admx ファイルと言語固有の.adml ファイルに分割されます。ドメインコントローラーでグループポリシーを構成することをお勧めします。

エージェント・ホスト構成ポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

1. WEM インストールパッケージに付属する **Agent Group Policies** フォルダを WEM ドメインコントローラーにコピーします。
2. .admx ファイルを追加します。
 - a) [エージェントグループポリシー] > [ADMX] フォルダに移動します。
 - b) 2 つのファイル (*CitrixWorkspace Environment Management* エージェントホスト構成.admx と *CitrixBase.admx***) をコピーします。
 - c) <C:\Windows>\PolicyDefinitions フォルダに移動して、ファイルを貼り付けます。
3. .adml ファイルを追加します。

- a) [エージェントグループポリシー] > [ADMX] > [en-US] フォルダに移動します。
- b) 2つのファイル (CitrixWorkspace Environment Management エージェントホスト構成.admlと CitrixBase.adml**) をコピーします。
- c) <C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-USフォルダに移動して、ファイルを貼り付けます。

グループポリシー管理エディターを使用して、次の設定で GPO を構成します。



インフラストラクチャサーバー。WEM インフラストラクチャサーバーのアドレス。インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンの名前または IP アドレスを入力します。

エージェントサービスポート。エージェントがインフラストラクチャ・サーバに接続するポート。エージェントサービスポートは、インフラストラクチャサービスの構成時にエージェントサービスポートに対して構成したポートと同じである必要があります。指定しない場合、ポートはデフォルトで 8286 になります。

キャッシュされたデータ同期ポート。(Workspace Environment Management 1912 以降に適用可能。Workspace Environment Management 1909 以前のキャッシュ同期ポートを置き換えます。) エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバと同期させるポート。キャッシュされたデータ同期ポートは、インフラストラクチャサービスの構成中にキャッシュデータ同期ポート (**WEM Infrastructure Service Configuration > Network Settings**) に設定したポートと同じである必要があります。ポートのデフォルトは 8288 で、`CachedDataSyncPort` コマンドライン引数に対応します。または、WEM エージェントのサイレントインストールでコマンドラインオプションを使用してポートを指定することもできます。例：

- `citrix_wem_agent_bundle.exe /quiet CachedDataSyncPort=9000`

Citrix Cloud Connector。オンプレミスバージョンの WEM には適用されません。[未構成] の状態のままにしま

す。

エージェントプロキシ構成。オンプレミスバージョンの WEM には適用されません。【未構成】の状態のままにします。

VuemAppCmd 余分な同期遅延です。Citrix Virtual Apps and Desktops の公開リソースが開始されるまでにエージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が待機する時間をミリ秒単位で指定します。これにより、必要なエージェントの作業が最初に完了します。推奨値は 100 ~200 です。デフォルト値は 0 です。

手順 2: エージェントをインストールする

重要:

.NET Framework はエージェントのインストール中に自動的にインストールできますが、エージェントをインストールする前に手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するにはマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかることがあります。

Citrix Workspace Environment Management エージェントは、ユーザー環境で実行できます。また、コマンドラインを使用してエージェントをインストールすることもできます。デフォルトでは、エージェントは、オペレーティングシステムに応じて、次のいずれかのフォルダにインストールされます。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64-bit OS)
- C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent (32-bit OS)

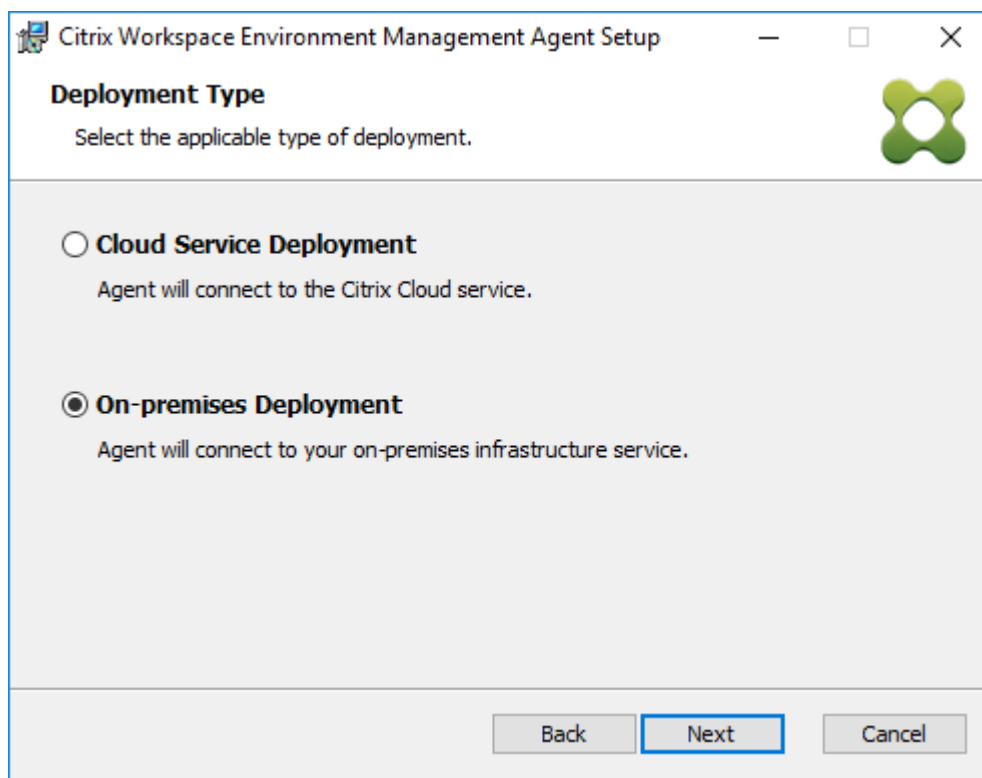
エージェントを対話形式でインストールするには、次の手順を実行します。

1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。
2. 【ライセンス契約条件に同意する】を選択し、【インストール】をクリックします。
3. 【ようこそ】ページで、【次へ】をクリックします。

注:

【ようこそ】ページが表示されるまでに時間がかかる場合があります。この遅延は、必要なソフトウェアが不足しており、バックグラウンドでインストールされている場合に発生します。

4. 【インストール先フォルダー】ページで、【次へ】をクリックします。
 - デフォルトでは、宛先フォルダフィールドにはデフォルトのフォルダパスが自動的に入力されます。エージェントを別のフォルダーにインストールする場合は、【変更】をクリックしてフォルダーに移動し、【次へ】をクリックします。
 - WEM エージェントを既にインストールしている場合、宛先フォルダフィールドに既存のインストールフォルダパスが自動的に入力されます。
5. 【展開の種類】ページで、適切な展開の種類を選択し、【次へ】をクリックします。この場合は、【オンプレミス展開】を選択します。



6. [インフラストラクチャサービスの構成] ページで、エージェントが接続するインフラストラクチャサービスを指定し、[次へ] をクリックします。

- 構成をスキップ。グループポリシーを使用して設定を既に構成している場合は、このオプションを選択します。
- インフラストラクチャサービスを構成します。インフラストラクチャサービスの FQDN または IP アドレスを入力して、インフラストラクチャサービスを構成できます。
- エージェントサービスポート。デフォルトでは、値は 8286 です。
- キャッシュされたデータ同期ポート。デフォルトでは、値は 8288 です。

7. [詳細設定] ページで、エージェントの詳細設定を構成し、[次へ] をクリックします。

- 代替キャッシュの場所 (オプション)。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。[参照] をクリックして、該当するフォルダに移動します。または、レジストリを使用してこれを行うこともできます。そのためには、まず Citrix WEM エージェントホストサービスを停止し、次のレジストリキーを変更します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\currentControlSet\コントロール\Norskale\エージェント
ホスト

名前:AgentCache 代替ロケーション

種類: REG_SZ

値: 空

既定では、この値は空です。既定のフォルダは<WEM agent installation folder path>\Local Databases Setです。必要に応じて、別のフォルダパスを指定してください。変更を有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。変更が反映されると、**LocalAgentCache.db** と **LocalAgentDatabase.db** のファイルがフォルダに表示されます。

注意:

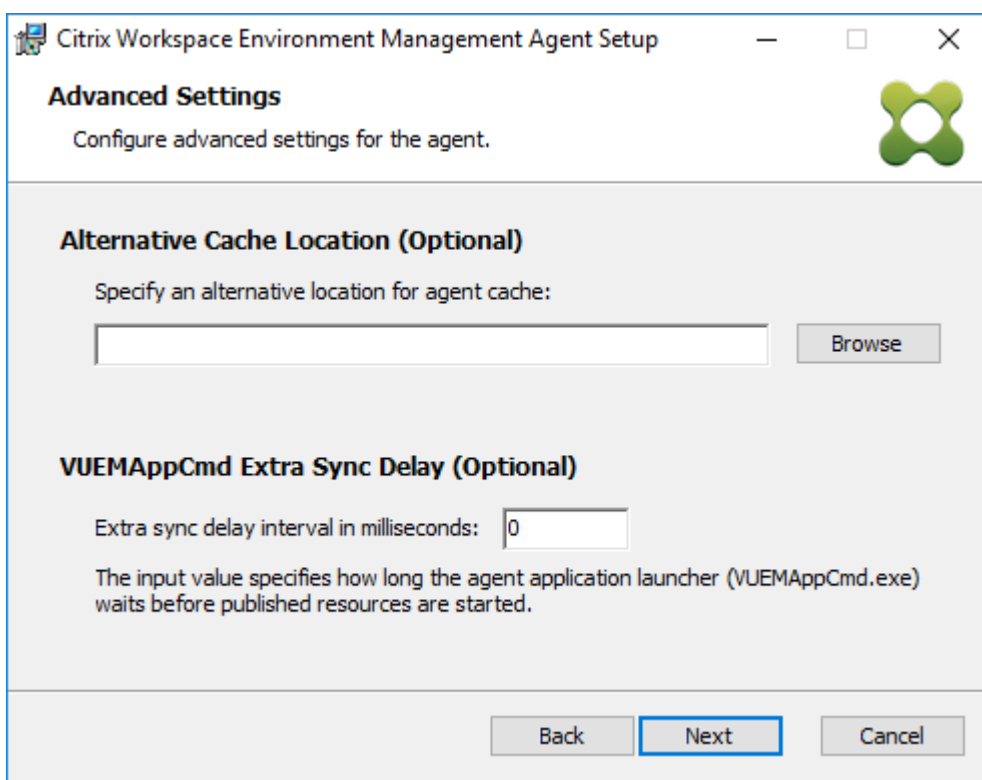
レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害

に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

- **VUEMAppCmd** による同期遅延の追加（オプション）。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が公開リソースを開始する前に待機する時間を指定できます。この遅延を設定すると、必要なエージェント作業が最初に完了します。デフォルト値は 0 です。

注:

追加の同期遅延間隔に入力する値は、0 以上の整数である必要があります。



8. [インストールの準備完了] ページで、[インストール] をクリックします。

9. [完了] をクリックして、インストールウィザードを終了します。

または、WEM エージェントのサイレントインストールを選択することもできます。これを行うには、次のコマンドラインを使用します。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"/quiet Cloud=0`

ヒント:

- オンプレミスの WEM 展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=0` と入力します。WEM サービス展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=1` と入力します。

- ログファイルを参照して、エージェントのインストールのトラブルシューティングを行うこともできます。既定では、インストール中に発生したすべてのアクションを記録するログファイルは「%TEMP%」で作成されます。`/log log.txt`コマンドを使用して、ログファイルを保存する特定の場所を指定できます。

コマンドラインオプションを使用して、カスタム引数を指定することもできます。これにより、インストールプロセス中にエージェントとシステム設定をカスタマイズできます。詳細については、「[知っておきましょう](#)」を参照してください。

インストール後、エージェントは *Citrix WEM* エージェントホストサービス（旧 *Norskale* エージェントホストサービス）および *Citrix WEM* エージェントユーザーログオンサービスとして実行されます。エージェントはアカウント *localSystem* として実行されます。このアカウントの変更はサポートされていません。このサービスには、ローカルシステム権限としてログオンする必要があります。

ステップ **3**: マシンを再起動してインストールを完了する

前提条件と推奨事項

WEM エージェントが正常に動作するようにするには、次の前提条件と推奨事項に注意してください。

前提条件

次の要件が満たされていることを確認します。

- Windows サービスシステムイベント通知サービスは、起動時に自動的に開始されるように構成されています。
- **WEM** エージェントサービス **Citrix WEM** エージェントホストサービスと **CitrixWEM** ユーザーログオンサービスは、起動時に自動的に開始するように構成されています。
- エージェントキャッシュは、可能な限り、永続的な場所に常駐します。非永続キャッシュの場所を使用すると、潜在的なキャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

推奨事項

エージェントを正常に展開するには、このセクションの推奨事項に従ってください。

- たとえば、ログオンスクリプトや起動スクリプトを使用して、**Citrix WEM** エージェントホストサービスを手動で操作しないでください。**Citrix WEM** エージェントホストサービスの停止や再起動などの操作により、Netlogon サービスの動作が停止し、他のアプリケーションで問題が発生する可能性があります。
- UI モードまたは CMD モードのエージェントを起動するには、ログオンスクリプトを使用しないでください。そうしないと、一部の機能が動作しない可能性があります。

エージェントの起動動作

- **Citrix WEM** エージェントホストサービスは、サービスの開始後に、グループポリシーを使用して構成された Cloud Connector 設定を自動的にリロードします。
- **Citrix WEM** エージェントユーザーログオンサービスは、最初のログオン時にエージェントホストサービスが開始されない場合、**Citrix WEM** エージェントホストサービスを自動的に開始します。この動作により、ユーザー構成が適切に処理されます。
- **Citrix WEM Agent Host Service** は、起動時に次のローカルデータベースファイルを自動的にチェックします。`LocalAgentCache.db`および`LocalAgentDatabase.db`。仮想マシンがプロビジョニングされ、ローカルデータベースファイルがベースイメージからのものである場合、データベースファイルは自動的にパーズされます。
- **Citrix WEM** エージェントホストサービスが起動すると、エージェントのローカルキャッシュが最近更新されたことが自動的に検証されます。キャッシュが構成された3つ以上のキャッシュ同期時間間隔で更新されていない場合、キャッシュはただちに同期されます。たとえば、デフォルトのエージェントキャッシュの同期間隔が30分であるとして、キャッシュが過去60分間に更新されなかった場合は、**Citrix WEM** エージェントホストサービスの開始直後に同期されます。
- インストール中、WEM エージェントインストーラは、Windows サービスシステムイベント通知サービスを自動的に開始するように構成します。
- WEM エージェントインストーラは、WEM エージェントのアップグレードが完了した後、Netlogon サービスを自動的に開始します。

エージェント・キャッシュ・ユーティリティ・オプション

Citrix WEM エージェントホストサービスは、更新とキャッシュ同期の設定を自動的に処理します。エージェントキャッシュユーティリティは、設定をすぐに更新してキャッシュを同期する必要があるシナリオでのみ使用します。

コマンドラインを使用して、エージェントインストールフォルダで `AgentCacheUtility.exe` を実行します。実行可能ファイルは、次のコマンドライン引数を受け入れます。

- `-help`: 許可される引数のリストを表示します。
- `-RefreshCache` または `-r`: キャッシュビルドまたは更新をトリガーします。
- `-RefreshSettings` または `-S`: エージェントホストの設定を更新します。
- `-Reinitialize` または `-I`: `-RefreshCache` オプションと一緒に使用すると、エージェントキャッシュを再初期化します。

コマンドラインの使用方法の詳細については、次の例を参照してください。

- エージェントホスト設定のリフレッシュ:
- `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`

- エージェントホスト設定とエージェントキャッシュを同時に更新する：
 - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings -RefreshCache`
- エージェントキャッシュを再初期化します。
 - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache -Reinitialize`

ヒント

エージェント実行可能ファイルは、「エージェント設定」および「システム設定」セクションで説明されているカスタム引数を受け入れます。

エージェントの設定

WEM エージェントの設定には、次のものがあります。

- **AgentLocation**。エージェントのインストール場所を指定できます。有効なフォルダパスを指定します。
- **AgentCacheLocation**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。構成されている場合、エージェントローカルキャッシュファイルは、エージェントインストールフォルダーではなく、指定された場所に保存されます。
- **AgentCacheSyncPort**。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバと同期させるポートを指定できます。
- エージェントサービスポート。エージェントがインフラストラクチャサーバに接続するポートを指定できます。
- **Infrastructure Server**。インフラストラクチャサービスが実行されているインフラストラクチャサーバーの FQDN または IP アドレスを指定できます。
- **VUEMAppCmdDelay**。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が Citrix Virtual Apps and Desktops の公開リソースを開始する前に待機する時間を指定できます。デフォルト値は 0 (ミリ秒) です。追加の同期遅延間隔に入力する値は、0 以上の整数である必要があります。

次のことに注意してください：

- コマンドラインを使用して設定を構成する場合、WEM エージェントインストーラは構成された設定を使用します。
- コマンドラインで設定を行わず、以前に構成された設定がある場合、インストーラは以前に構成された設定を使用します。
- コマンドラインで設定を行わず、以前に構成された設定がない場合、インストーラは既定の設定を使用します。

システム設定

エージェントホストマシンに関連付けられているシステム設定には、次のものがあります。

- **GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**。インストール中に作成された `GPNetworkStartTimeoutPolicyValue` レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ログオン時のポリシー処理中に、グループポリシーがネットワーク可用性通知を待機する時間を指定します。引数は、1 (最小) から 600 (最大) の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は 120 です。
- **syncForegroundPolicy**。エージェントのインストール時に `SyncForegroundPolicy` レジストリ値を構成できます。このポリシー設定は、グループポリシー処理が同期かどうかを決定します。受け入れられる値: 0、1 値が設定されていない場合、または値を 0 に設定すると、Citrix WEM エージェントユーザーログオンサービスはログオンを遅延せず、ユーザーのグループポリシー設定はバックグラウンドで処理されます。値を 1 に設定すると、ユーザーのグループポリシー設定の処理が完了するまで、Citrix WEM Agent ユーザーログオンサービスはログオンを遅らせます。デフォルトでは、値はインストール中に変更されません。

重要:

グループポリシー設定がバックグラウンドで処理される場合、すべてのポリシー設定が処理される前に Windows シェル (Windows エクスプローラ) が起動することがあります。そのため、一部の設定は、ユーザーが初めてログオンしたときに有効にならない場合があります。ユーザーが初めてログオンしたときにすべてのポリシー設定を処理する場合は、値を 1 に設定します。

- **WaitForNetwork**。インストール時に作成された `WaitForNetwork` レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ネットワークが完全に初期化されて利用可能になるまで、エージェントホストが待機する時間を指定します。引数は、0 (最小) から 300 (最大) の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は 30 です。

前の 3 つのキーを使用すると、Windows ログオン画面が表示される前に WEM エージェントサービスが開始されます。3 つのキーはすべて、インストール中に `HKEY_LOCAL_MACHINE\ SOFTWARE\ Microsoft\ Windows NT\ CurrentVersion\ Winlogon` の下に作成されます。また、これらのキーは、ログオン前にユーザー環境がインフラストラクチャサーバーアドレス GPO を受信することを確認します。Active Directory またはドメインコントローラーサーバーの応答が遅いネットワーク環境では、ログオン画面が表示されるまでの処理時間が長くなる場合があります。影響を与えるには、`gpNetworkStartTimeOutPolicyValue` キーの値を最低 30 に設定することをお勧めします。

- **ServicesPipeTimeout**。ServiceSpineTimeout レジストリキーの値を設定できます。キーは、インストール中に `HKEY_LOCAL_MACHINE\ SYSTEM\ CurrentControlSet\ Control\ Control` の下に作成されます。このレジストリキーは、サービスコントロールマネージャーが WEM エージェントサービスの状態に関するレポートを許可する前に遅延を追加します。この遅延により、ネットワークが初期化される前にエージェントサービスを起動しないようにすることで、エージェントが失敗するのを防ぎます。この引数は、ミリ秒単位の任意の値を受け入れます。指定しない場合、デフォルト値の 60000 (60 秒) が使用されます。

注:

コマンドラインを使用して上記の設定を構成しない場合、WEM エージェントインストーラーはインストール中にそれらを処理しません。

例

次のコマンドライン形式を使用して設定を構成できます。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"<key=value>`

例:

- WEM エージェントのサイレントインストールまたはアップグレードを選択する
 - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"/quiet Cloud=0`
- ユーザーログオンネットワークの待機時間を 60 秒に設定する
 - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"WaitForNetwork=60`

デプロイのスケールとサイズに関する考慮事項

February 13, 2023

Workspace Environment Management (WEM) は、大規模なエンタープライズ展開用に設計されています。WEM のサイジングとスケーラビリティを評価するときは、データベースのパフォーマンス、Active Directory セットアップ、ファイアウォールルールなどを考慮する必要があります。

WEM のスケーラビリティは、エージェントとユーザーの数に基づいています。利用可能なインフラストラクチャサーバーが増えるほど、WEM がサポートできるエージェントとユーザーが増えます。インフラストラクチャサーバーは、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server および Active Directory) とフロントエンドコンポーネント (管理コンソールおよびエージェント) を同期します。

インフラストラクチャサーバーが実行されているマシンが次の仕様を使用しているとします。

- 4 つの vCPU、8 GB RAM、および 80 GB の使用可能なディスク領域。

次の式を使用して、展開に必要なインフラストラクチャサーバーの数を計算できます。この式は、特定の顧客に関連する統計に基づいて開発されます。

- $\text{インフラストラクチャサーバ数} = (\text{エージェント数}/1,000) + (\text{ユーザー数}/3,000)$

注:

- NTLM 認証を使用するシナリオでは、Workspace Environment Management 2006 以前で特定のパフォーマンスの問題が観察されています。Kerberos 認証を使用する場合、これらの問題は発生していません。
- Workspace Environment Management 2006 以降では、NTLM 認証と Kerberos 認証のパフォーマンス差は確認されていません。
- WEM 2212 以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この拡張により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスの負荷を最大 50% 削減できます。「[新機能](#)」を参照してください。メリットを享受できるように、エージェントを 2212 以降にアップグレードすることをお勧めします。

環境のアップグレード

June 1, 2023

はじめに

注:

WEM 2212 以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この拡張により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスの負荷を最大 50% 削減できます。「[新機能](#)」を参照してください。メリットを享受できるように、エージェントを 2212 以降にアップグレードすることをお勧めします。

Workspace Environment Management (WEM) の展開を新しいバージョンにアップグレードするには、最初に新しいマシンやサイトをセットアップする必要はありません。これはインプレースアップグレードと呼ばれます。

Workspace Environment Management 4.7 より前のバージョンからバージョン 1808 以降へのインプレースアップグレードはサポートされていません。これらの以前のバージョンからアップグレードするには、まずバージョン 4.7 にアップグレードしてから、ターゲットバージョンにアップグレードする必要があります。詳細については、次の表を参照してください。

ライセンス	変更後は以下の通り	インプレースアップグレードのサポート
4.6 以前	4.7	はい
4.6 以前	1808 以降	いいえ (ターゲットバージョンにアップグレードする前にバージョン 4.7 にアップグレードします)

ライセンス	変更後は以下の通り	インプレースアップグレードのサポート
4.7	1808 以降	はい

注:

- WEM データベース、インフラストラクチャサービス、および管理コンソールは、すべて同じバージョンである必要があります。
- 2006 年より前の WEM 展開を 2209 以降にアップグレードする場合は、次の点に注意してください。データベースのアップグレードが失敗しないように、最初に 2103 にアップグレードしてから 2209 以降にアップグレードしてください。

Workspace Environment Management コンポーネントは、次の順序でアップグレードする必要があります。

1. [インフラストラクチャサービス](#)
2. [データベース](#)
3. [インフラストラクチャサービスの再構成](#)
4. [管理コンソール](#)
5. [エージェント](#)

ステップ 1: インフラストラクチャサービスをアップグレードする

Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスをアップグレードするには、インフラストラクチャサーバーで新しい Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスセットアップを実行します。それ以外の場合、アップグレード手順はインストール手順と同じです。

インフラストラクチャ・サーバのオペレーティング・システムをアップグレードする

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず、新しいオペレーティングシステムを使用する別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

注:

Windows Server 2022 にアップグレードした後、WEM インフラストラクチャサービスが応答しないことがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEM データベースに接続するように設定します。

手順 2: データベースをアップグレードする

重要:

データベースのアップグレード処理は元に戻せません。アップグレードプロセスを開始する前に、有効なデータベースバックアップがあることを確認してください。

ヒント:

Workspace Environment Management PowerShell SDK モジュールを使用してデータベースをアップグレードすることもできます。SDK のドキュメントについては、[Citrix Developer ドキュメント](#)を参照してください。

WEM データベース管理ユーティリティを使用してデータベースを更新します。これは、インフラストラクチャサービスのインストールプロセス中に Workspace Environment Management インフラストラクチャサーバーにインストールされます。

注:

SQL Server で Windows 認証を使用している場合は、sysadmin アクセス許可を持つ ID でデータベースアップグレードユーティリティを実行します。

1. [スタート] メニューから **[Citrix] > [Workspace Environment Management] > [WEM データベース管理ユーティリティ]** を選択します。
2. [データベースのアップグレード] をクリックします。
3. データベースアップグレードウィザードで、必要な情報を入力します。

Database Upgrade Wizard

Database Information

Server and instance name

Database name

Infrastructure service uses Windows authentication

Infrastructure service account

Select

Database Credentials

Use integrated connection (Windows credentials)

Login

Password

Display password

Actions

Upgrade Cancel

- サーバー名とインスタンス名。データベースがホストされている SQL Server\ インスタンスのアドレス。インフラストラクチャサーバから入力したとおりに到達可能である必要があります。
- データベース名。アップグレードするデータベースの名前。
- インフラストラクチャサービスは **Windows** 認証を使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。この場合、インフラストラクチャサービスは VUEMuser SQL ユーザーアカウントを使用してデータベースに接続します。(VUEMuser SQL ユーザーアカウントは、インストールプロセス中に作成されます)。SQL インスタンスで混合モード認証が有効になっていることを確認します。

選択すると、インフラストラクチャサービスは Windows アカウントを使用してデータベースに接続します。この場合、選択する Windows アカウントに SQL インスタンスへのログインが既になっていない必要があります。つまり、インフラストラクチャサービスを実行するためにデータベースを作成するために使用したのと同じ Windows アカウントを使用しないでください。

gMSA を選択するには、AD ユーザーを選択するのと同じ手順に従います。gMSA がデータベースの **db-owner** ロールメンバシップを持っていることを確認してください。

- 統合接続を使用する。デフォルトではこのオプションが選択されています。このオプションを使用する

と、ウィザードは、SQL Server に接続してデータベースを作成するために、ウィザードが実行されている ID の Windows アカウントを使用できます。この Windows アカウントにデータベースを作成するための十分な権限がない場合は、データベース管理ユーティリティを十分な権限を持つ Windows アカウントとして実行するか、このオプションをオフにして十分な権限を持つ SQL アカウントを入力します。

4. [**Upgrade**] をクリックして、データベースのアップグレードプロセスを開始します。データベースのアップグレードが正常に完了したら、ウィザードを終了します。

データベースのアップグレード中にエラーが発生した場合は、Workspace **Environment Management** インフラストラクチャサービスのインストールフォルダにある **VUEM** データベース管理ユーティリティログファイルを確認します。

ステップ 3: インフラストラクチャサービスを再構成する

WEM インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを使用してインフラストラクチャサービスを再構成します。[インフラストラクチャサービスの設定を参照してください](#)。

手順 4: 管理コンソールをアップグレードする

管理コンソールで構成されたすべての Workspace Environment Management 設定は、データベースに保存され、アップグレード中に保持されます。

管理コンソールをアップグレードするには、管理コンソールのセットアップ実行ファイルを実行します。それ以外の手順はインストール手順と同じです。

ステップ 5: エージェントをアップグレードする

重要:

- エージェントをアップグレードする前に、ログインしているユーザーがいないことを確認します。これにより、アップグレードプロセスでそのマシン上のファイルを変更できるようになります。
- WEM インフラストラクチャサービスのバージョンは、WEM エージェントのバージョン以上である必要があります。最新の機能を使用できるように、エージェントを最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

エージェントをアップグレードするには、ターゲットマシンで新しいエージェントセットアップ実行可能ファイルを実行します。

ホームページ

May 28, 2024

このページには、Workspace Environment Management (WEM) の展開の概要と、WEM をすぐに理解して使い始めるために必要な情報が表示されます。

このインターフェースは、次の 4 つの部分で構成されます。

- 概要
- クイックアクセス
- ハイライト
- **Preview** 機能

概要

WEM 展開の概要を説明します。次の情報が含まれます。

- すべての構成セットに対するエージェントの総数
- ユーザーが最近ログオンしたエージェントマシンの数
- VDA の健全性ステータス

エージェントの詳細を表示するには、[エージェント統計の表示] をクリックして [モニタリング] > [管理] > [エージェント] に移動します。エージェント情報を表示し、キャッシュの更新、設定のカスタマイズ、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。詳細については、「[WEM エージェント](#)」を参照してください。

VDA の健全性ステータスを詳細に表示するには、[通常] の [表示] をクリックして正常状態の **VDA** に関するレポートを表示するか、[異常] の [表示] をクリックして異常な状態の VDA に関するレポートを表示します。詳しくは、「[レポート](#)」を参照してください。

クイックアクセス

WEM が提供する主要機能のサブセットにすばやくアクセスできます。Web コンソールでは次の機能を使用できません。

- リソース使用率を最適化します。ユーザーのログオン時間を短縮し、アプリケーションの応答性を高めることができます。
- 洞察を得る。プロファイルコンテナとアプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。
- スクリプト化されたタスクを設定する。固有の環境管理ニーズに合わせて、スクリプト化されたタスクをカスタマイズできます。

ヒント:

クイックアクセスリンクをクリックすると、該当する構成セットを選択するよう求めるウィンドウが表示されます。すると、構成セット内の機能ページに直接移動します。

レガシーコンソールでは次の機能を使用できます。

- プロファイル管理を最適化します。すべてのユーザーデスクトップで統一されたエクスペリエンスを提供できます。
- グループポリシーを割り当てます。他のアクションを割り当てる場合と同様に、グループポリシーオブジェクトをさまざまな Active Directory グループに割り当てることができます。
- エンタープライズセキュリティを強制。追加の AppLocker ルールを適用してデスクトップを保護できます。

ハイライト

WEM が提供する主な機能を示します。Web コンソールでは次の機能を使用できます。

- [CPU 管理](#)
- [スクリプト化されたタスク](#)

レガシーコンソールでは次の機能を使用できます。

- [権限昇格](#)
- [外部タスク](#)

Preview 機能

現在 Preview 段階の機能を表示します。Preview 機能を表示するには、コンソールの右上隅にある Preview 機能アイコンをクリックします。新しい Preview 機能が利用可能になるたびに、赤い点が表示されます。表示する Preview 機能がない場合は、次のツールチップが表示されます: **No preview features to show at the moment.**

Preview 機能は完全にはローカライズされていない可能性があるため、本番環境以外での使用が推奨されます。Preview 機能で見つかった問題は、Citrix テクニカルサポートではサポートされていません。

Preview 機能を有効または無効にした後は、ブラウザウィンドウを更新して変更を有効にします。

構成セット

May 28, 2024

このページでは、構成セットを管理できます。構成セットは、一連の Workspace Environment Management (WEM) 構成を整理するために使用される論理コンテナです。次の操作を実行できます：

- 構成セットを追加する
- 構成セットを編集または削除する
- 構成セットをお気に入りに追加
- 構成セットの設定を構成する
- 現在の設定のバックアップコピーを保存する
- 以前にバックアップしたバージョンの WEM サービス設定に戻す
- 検索ボックスを使用すると、構成セットをすばやく検索できます。
- [バックアップと復元] ボタンの横にある [更新] アイコンをクリックして、現在のページを更新します。

次の 2 つの組み込み設定セットがあります。

- 既定のサイト。組み込み WEM 構成セット。
- バインド解除されたエージェント。組み込み WEM 構成セット。どの構成セットにもバインドされていないエージェントでのみ使用できます。この構成セットの設定をこれらのエージェントに適用するには、[ディレクトリオブジェクト] > [詳細設定] に移動します。

注：

- [既定のサイト] では削除できません。必要に応じて、名前と説明を変更できます。
- **Unbound Agent** の場合は、削除も編集もできません。[構成セットを編集] オプションは使用できません。

構成セットを追加する

ディレクトリオブジェクト (ユーザー、マシン、グループ、OU) に設定を適用する構成セットを作成します。そのため、次の手順に従います。

1. [構成セット] ノードで、[構成セットの追加] をクリックします。
2. 構成セットの名前を指定します。
3. オプションで、構成セットを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. [Save] をクリックします。

構成セットを編集または削除する

構成セットを編集または削除するには、次の手順を実行します。

1. [構成セット] ノードで、構成セットを探します。
2. 構成セットをクリックします。構成セットの詳細ビューが表示されます。

3. 右上隅にある [構成セットの編集] をクリックします。
4. 名前と説明を編集するか、[構成セットの削除] をクリックします。

構成セットをお気に入りに追加

構成セットをお気に入りに追加するには、次の手順を実行します。

1. [構成セット] ノードで、構成セットを探します。
2. 構成セットをクリックします。
3. 右上の [お気に入りに追加] をクリックします。

注:

- 最大5つの構成セットをお気に入りに追加できます。
- お気に入りは管理者ごとに保存されます。

構成セットの設定を構成する

構成セットの設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. [構成セット] ノードで、構成セットを探します。
2. 構成セットをクリックします。
3. 必要に応じて設定を行います。

構成セットに対して次の設定を構成できます。

- [システム最適化](#)
- [詳細設定](#)
- [スクリプト化されたタスク設定](#)

バックアップと復元

[バックアップと復元] ページには、既存のバックアップの一覧が表示されます。バックアップには、自動バックアップと手動バックアップ (構成セットと設定) の2種類があります。コンテンツタイプ列で自動バックアップと手動バックアップを区別できます。

バックアップごとに、次の操作を実行できます。

- 復元。バックアップから構成を復元できます。バックアップから構成を復元すると、選択した構成セットに関連するすべての設定がバックアップの設定に置き換えられます。

注:

- Profile Management の設定を構成セットに復元するには、その構成セットの下にある [プロフィール] > [Profile Management 設定] ページのクイックセットアップ機能を使用することもできます。
- Profile Management の設定をバックアップから復元すると、関連するサービスに使用するために選択された SMB 共有も復元されます。

- [ダウンロード]。バックアップのコピーをローカルマシンに保存できます。バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。バックアップファイルは JSON 形式です。
- [削除]。既存のバックアップを削除できます。

また、次の操作も実行できます。

- [アップロード] ボタンの横にある [更新] アイコンをクリックして、現在のページを更新します。
- 設定ファイルのアップロード
- 自動バックアップを管理する
- 構成セットをバックアップする
- Profile Management の設定をバックアップする

設定ファイルのアップロード

以前のバックアップに戻すために使用される JSON ファイルをアップロードできます。JSON ファイルには、構成セットまたは Profile Management 設定を含めることができます。ファイルをアップロードするには、次の手順に従います。

1. [アップロード] をクリックします。バックアップファイルのアップロードウィザードが表示されます。
2. 「ブラウズ」をクリックし、アップロードするファイルをブラウズしてファイルを選択し、「開く」をクリックします。バックアップファイルのアップロードウィザードに戻ります。
3. ファイルの名前を指定してください。
4. [Upload] をクリックしてアップロードを開始します。

注:

- アップロードできるのは JSON ファイルのみです。
- アップロードできるのは、サイズが 5 MB 未満のファイルのみです。

自動バックアップを管理する

構成セットのバックアップは、自動的に保存できます。この機能では、最も古い既存のファイルの上書きを開始する前に、構成セットごとに最大 5 つのバックアップファイルを保存できます。構成セットに関連する次の項目はバックアップできません：

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト (単一マシン、マシングループ、OU)
- データのモニタリング (統計およびレポート)
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

自動バックアップを設定するには、次の手順に従います。

1. [自動バックアップの管理] をクリックします。[自動バックアップの管理] ウィザードが表示されます。
2. 自動的にバックアップする構成セットを探します。
3. その構成セットに対して、次の 3 つのオプションのいずれかを選択します。
 - 設定されていません。選択した場合、WEM は自動的にバックアップされません。
 - デイリー。選択した場合、WEM は毎日バックアップを実行します。
 - 毎週。選択した場合、WEM は毎週月曜日にバックアップを実行します。
4. 必要に応じて、他の構成セットに対して手順 2 と 3 を繰り返します。
5. [保存] をクリックして変更を保存し、ウィザードを終了します。

構成セットをバックアップする

重要：

手動バックアップの数は、アカウントあたり 25 個に制限されています。上限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

構成セットのバックアップコピーを保存し、そのバックアップを復元目的で使用できます。構成セットに関連する次の項目をバックアップできます。

- 操作
- アプリケーションセキュリティ、権限昇格、プロセス階層制御
- 割り当て (アクションとアクショングループに関連する)
- フィルター
- スクリプト化されたタスク設定
- ユーザー
- WEM 設定

構成セットに関連する次の項目はバックアップできません:

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト (単一マシン、マシングループ、OU)
- データのモニタリング (統計およびレポート)
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

構成セットをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. [バックアップ] をクリックします。バックアップウィザードが表示されます。
2. ターゲット構成セットを選択します。
3. バックアップする構成セットをリストから選択します。
4. バックアップの名前を指定してください。
5. 必要に応じて、[バックアップのコピーをローカルマシンに保存] を選択して、バックアップをローカルに保存します。

注:

バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

6. [**Back up**] をクリックしてバックアップを開始します。

Profile Management の設定をバックアップする

重要:

手動バックアップの数は、アカウントあたり 25 個に制限されています。上限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

Profile Management の設定をバックアップするには、次の手順を実行します。

1. [バックアップ] をクリックします。バックアップウィザードが表示されます。
2. ターゲット構成セットを選択します。
3. [バックアップ対象] リストから [設定] を選択します。
4. 「**Profile Management**」設定を選択します。
5. バックアップの名前を指定してください。
6. 必要に応じて、[バックアップのコピーをローカルマシンに保存] を選択して、バックアップをローカルに保存します。

注:

バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

7. [**Back up**] をクリックしてバックアップを開始します。

操作

May 28, 2024

ヒント:

- [動的トークンを使用して](#) WEM アクションを拡張し、より強力なものにすることができます。
- [WEM Tool Hub](#) からコピーしたデータを Web コンソールに貼り付けるには、ブラウザがデータのコピーを許可していることを確認してください。例: Microsoft Edge の場合は、必ず [[サイト権限](#)] > [[クリップボード](#)] > [[クリップボードにコピーされたテキストと画像をサイトが表示するタイミングを確認する](#)] オプションが有効になっている必要があります。

Workspace Environment Management (WEM) は、使いやすいアクションを提供することにより、ワークスペースの構成プロセスを合理化します。割り当てを使用して、ユーザーがアクションを使用できるようにすることができます。WEM には、割り当てをコンテキスト化するフィルターも用意されています。

グループポリシー設定

重要:

- Workspace Environment Management (WEM) は現在、[HKEY_LOCAL_MACHINE](#) および [HKEY_CURRENT_USER](#) レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

Active Directory 管理者にグループポリシー管理コンソールを使用してグループポリシーオブジェクト (GPO) を管理してもらう代わりに、WEM を使用して GPO を展開できます。

開始する前に、グループポリシー設定を追加またはインポートします。次に、GPO の形式でユーザーに割り当てることにより、設定を展開します。割り当てるターゲットを指定することで、各 GPO の割り当てを管理できます。

この機能を有効にすると、次のようになります。

- 設定を構成できます。
- WEM エージェントはグループポリシー設定を処理できます。

この機能が無効になっている場合:

- グループポリシー設定は構成できません。
- WEM エージェントは、既にユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、グループポリシー設定を処理しません。

注:

WEM エージェントがグループポリシー設定を適切に処理および適用するには、Citrix WEM User Logon Service が有効になっていることを確認します。

レジストリベースの設定

このタブは、レジストリ操作を構成して Windows の設定を構成するために使用します。

構成セットの [操作] > [グループポリシー設定] > [レジストリベース] で、次の操作を実行できます:

- レジストリベースのグループポリシー設定を WEM にインポートします。
- GPO を作成します。
- GPO リストを更新します。
- GPO を編集します。
- GPO の割り当てを管理します。
- GPO のクローンを作成します。
- GPO を削除します。

警告:

レジストリベースの設定を誤って編集、追加、および削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならなくなる可能性があります。

グループポリシー設定のインポート GPO は、GPO バックアップまたはエクスポートされたレジストリファイルを含む zip ファイルからインポートできます。

レジストリファイルから設定をインポートする場合、Windows レジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を GPO に変換して管理および割り当てることができます。開始する前に、次の点に注意してください。

- ZIP ファイルから設定をインポートする場合、ファイルには 1 つ以上のレジストリファイルが含まれることがあります。
- 各.reg ファイルは GPO に変換されます。変換された各 GPO は、一連のレジストリ設定として扱うことができます。
- 変換された各 GPO の名前は、対応する.reg ファイルの名前に基づいて生成されます。例: .reg ファイルの名前が `test1.reg` の場合、変換された GPO の名前は `test1` になります。
- この機能は、.reg ファイルで定義したレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.reg ファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、[「https://support.microsoft.com](https://support.microsoft.com)

[com/en-us/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23](https://docs.microsoft.com/en-us/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23)」を参照してください。

- 変換された GPO の説明は空です。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、[インポート] をクリックします。
2. ファイルタイプを選択します。
 - **GPO** バックアップファイル。GPO バックアップファイルから設定をインポートする場合は、このオプションを選択します。グループポリシー設定をバックアップする方法については、「グループポリシー設定のバックアップ」を参照してください。
 - レジストリファイルをエクスポートしました。Windows レジストリエディタを使用してエクスポートするレジストリファイルから設定をインポートする場合は、このオプションを選択します。
3. [参照] をクリックして ZIP ファイルに移動します。

注:

アップロードできるのは、サイズが 10 MB を超えないファイルのみです。

4. 同じ名前の既存の GPO を上書きするかどうかを選択します。
5. [インポート] をクリックして、インポートプロセスを開始します。

インポートが正常に完了すると、インポートされた GPO が [レジストリベース] タブに表示されます。

GPO を作成する GPO を作成するには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、[**GPO** の作成] をクリックします。
2. GPO の名前を指定します。
3. オプションで、GPO を識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. レジストリ操作を追加するには、[追加] をクリックします。次の設定が使用可能になります。
 - 操作。レジストリキーのアクションのタイプを指定できます。
 - 値を設定します。レジストリキーの値を設定できます。
 - 値を削除します。レジストリキーの値を削除できます。
 - キーを作成します。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定したキーを作成できます。
 - キーを削除します。レジストリキーの下にあるキーを削除できます。
 - すべての値を削除します。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。
 - ルートキー。サポートされている値: **HKEY_LOCAL_MACHINE** および **HKEY_CURRENT_USER**。

- サブパス。ルートキーを含まないレジストリキーのフルパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows`がレジストリキーのフルパスである場合、`Software\Microsoft\Windows`はサブパスです。
- 名前。レジストリ値の名前を指定できます。次の図で強調表示されている項目は、全体としてレジストリ値です。

Name	Type	Data
ab (Default)	REG_SZ	(value not set)

- タイプ。値のデータ型を指定できます。
 - **REG_SZ**。このタイプは、人間が読めるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
 - **REG_EXPAND_SZ**。この型は、アプリケーションによって呼び出されたときに置換される変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「`%SystemRoot%`」は、オペレーティングシステム内のフォルダの実際の場所に置き換えられます。
 - **REG_BINARY**。あらゆる形式のバイナリデータ。
 - **REG_DWORD**。32 ビットの数値。この型はブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効を意味し、「1」は有効であることを意味します。
 - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の 32 ビット数値。
 - **REG_QWORD**。64 ビットの数値。
 - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の 64 ビット数値。
 - **REG_MULTI_SZ**。この型は、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用される複数文字列です。各エントリはヌル文字で区切られます。
- データ。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力しなければならない場合があります。

5. 終了したら、[完了] をクリックします。

GPO を編集する GPO を編集するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [編集] をクリックします。
2. 名前と説明を編集します
3. 必要に応じて次の操作を行います。
 - レジストリ操作を追加するには、[追加] をクリックします。
 - レジストリ操作を選択し、編集します。
 - レジストリ操作を削除してから削除します。
 - レジストリ操作を上下に移動します。または、レジストリ操作を選択し、六つのドットアイコンをクリックして、目的の位置にドラッグします。

4. 終了したら、[完了]をクリックします。

注:

GPO が既にユーザーに割り当てられている場合、GPO を編集するとそのユーザーに影響します。

GPO の割り当てを管理する GPO はさまざまな AD グループに割り当てることができます。グループには、ユーザーとマシンを含めることができます。マシンレベルの設定は、関連するマシンがグループに属している場合に有効になります。ユーザーレベルの設定は、現在のユーザーがグループに属している場合に有効になります。

ヒント:

マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーがいったんログオフしてからログオンし直す必要があります。

GPO の割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。
2. GPO を割り当てる割り当て対象 (ユーザー、グループ、OU) を選択します。

注:

GPO をマシンに割り当てるときは、マシンが OU または関連するセキュリティグループにあることを確認してください。

- 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。

3. フィルタを使用して割り当てをコンテキスト化し、各ターゲットの GPO の優先順位を設定します。

ヒント:

フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザーとコンピューターの設定で構成されます。一部のフィルタ条件は、ユーザー設定にのみ適用されます。これらの条件をマシン設定に適用すると、WEM エージェントは、設定を割り当てる前にフィルターを評価するときにそれらをスキップします。マシン設定に適用されない条件の完全なリストについては、「[マシン設定に適用されない条件を参照してください](#)」。

4. 各タイトルの省略記号アイコンをクリックし、必要に応じて次の操作を行います。

- 構成をコピーします。割り当ての構成をコピーできます。
- 設定を貼り付けます。他の構成からコピーした構成を貼り付けることができます。
- この構成をすべてのターゲットに適用します。割り当ての構成をすべてのターゲットに適用できます。

5. 終了したら、[保存]をクリックします。

GPO のクローンを作成する GPO のクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [クローン] をクリックします。
2. 名前と説明を編集します。
3. GPO のクローンを作成する構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPO を削除する GPO を削除するには、GPO を選択し、アクションバーの [削除] をクリックします。

注:

GPO が既にユーザーに割り当てられている場合、削除するとそのユーザーに影響します。

テンプレートベースの設定

グループポリシー管理用テンプレートを使用して Windows の設定を構成するには、このタブを使用します。GPO は、マシンレベルとユーザーレベルで構成できます。

構成セットの [操作] > [グループポリシー設定] > [テンプレートベース] で、次の操作を実行できます。

- テンプレートを使用して GPO を作成します。
- テンプレートを管理します。
- テンプレートをインポートします。
- GPO リストを更新します。
- GPO を編集します。
- GPO の割り当てを管理します。
- GPO のクローンを作成します。
- GPO を削除します。

テンプレートを使用して **GPO** を作成する テンプレートを使用して GPO を作成するには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、[**GPO** の作成] をクリックします。
2. 基本情報:
 - GPO の名前を指定します。
 - オプションで、GPO を識別するのに役立つ追加情報を指定します。
3. [コンピューターの構成] で、マシンに適用するポリシーを (ログオンするユーザーに関係なく) 構成します。
4. [ユーザーの構成] で、ユーザーに適用するポリシーを構成します (ユーザーがどのマシンにログオンするかは関係ありません)。

5. **【概要】** で、行った変更を確認します。

6. 終了したら、**【完了】** をクリックします。

[**コンピューターの構成**] と [**ユーザーの構成**] で、構成する設定を選択します。ポリシーは、ツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順にソートされ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、最初に設定を有効にします。設定には、構成可能な項目が複数ある場合があります。必要な入力のタイプに応じて、チェックボックス、入力ボックス (入力としてテキストまたは数字)、選択、リスト、または組み合わせを設定できます。

設定について詳しくは、[Microsoft 社サイト](#)から GPO リファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートを管理する テンプレートを管理するには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、**【テンプレートを管理】** をクリックします。

2. テンプレートの管理ウィザードで、次の操作を行います。

- マシンに適用するポリシーを構成するには、[**コンピューターの構成**] を選択します (ログオンするユーザーに関係なく)。
- ユーザーに適用するポリシーを構成するには、[**ユーザー構成**] を選択します (ユーザーがどのマシンにログオンするかに関係なく)。

1. 終了したら、**【完了】** をクリックします。

[**コンピューターの構成**] と [**ユーザーの構成**] で、構成する設定を選択します。ポリシーは、ツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順にソートされ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、最初に設定を有効にします。設定には、構成可能な項目が複数ある場合があります。必要な入力のタイプに応じて、チェックボックス、入力ボックス (入力としてテキストまたは数字)、選択、リスト、または組み合わせを設定できます。

設定について詳しくは、[Microsoft 社サイト](#)から GPO リファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートをインポートする

重要:

ADMX ファイルを WEM にインポートしてテンプレートとして使用する場合は、zip ファイル内のすべての.adml ファイルが同じ言語であることを確認してください。

ADMX ファイルを WEM にインポートして、テンプレートとして使用できます。次に、それらのテンプレートを使用して GPO を作成します。テンプレートをインポートするには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、**【テンプレートを管理】** をクリックします。

2. テンプレートの管理ウィザードで、[インポート] をクリックします。
3. ADMX ファイルを含む zip ファイルを参照し、既存のテンプレートと同じ名前のテンプレートがファイルに含まれている場合の対処方法を決定します。
 - インポートしないでください。インポートをキャンセルします。
 - テンプレートをスキップして、残りをインポートします。
 - 既存のテンプレートを上書きします。上書きすると、既存のテンプレートに由来する関連設定が変更される可能性があります。テンプレートを使用して作成された既存の GPO には影響しません。ただし、これらの GPO を編集すると、関連する設定は失われます。
4. [インポートの開始] をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. 終了したら、[完了] をクリックして [テンプレートの管理] ウィザードに戻ります。
6. そこでテンプレートを管理するか、[完了] をクリックして終了します。

インポートしたテンプレートファイルの管理方法については、「[ファイル](#)」を参照してください。そこで管理する場合は、次の点を考慮してください。

- GPO 管理用テンプレートファイルを削除すると、現在のテンプレートから関連する設定が削除されます。テンプレートを使用して作成された既存の GPO には影響しません。ただし、これらの GPO を編集すると、関連する設定は失われます。

GPO を編集する GPO を編集するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [編集] をクリックします。
2. [基本情報] で、名前と説明を編集します。
3. [コンピュータの構成] で、マシンポリシーを編集します。
4. [ユーザー構成] で、ユーザーポリシーを編集します。
5. [概要] で、行った変更を確認します。
6. 終了したら、[保存] をクリックします。

注:

GPO が既にユーザーに割り当てられている場合、GPO を編集するとそのユーザーに影響します。

GPO の割り当てを管理する レジストリベースの GPO の場合と同様に、テンプレートを使用して作成された GPO の割り当てを管理できます。詳細については、「[GPO の割り当てを管理する](#)」を参照してください。

GPO のクローンを作成する GPO のクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [クローン] をクリックします。
2. GPO をレジストリベースの GPO として複製するか、テンプレートベースの GPO として複製するかを決定します。

注:

レジストリベースとして複製すると、GPO はレジストリ値に変換され、[レジストリベース] タブに表示されます。変換された各 GPO は、一連のレジストリ設定として扱うことができます。

3. 名前と説明を編集します。
4. GPO のクローンを作成する構成セットを選択します。
5. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPO を削除する GPO を削除するには、GPO を選択し、アクションバーの [削除] をクリックします。

注:

GPO が既にユーザーに割り当てられている場合、削除するとそのユーザーに影響します。

アプリケーション

この機能により、アプリケーションを追加してユーザーに割り当てることができます。これらのアプリケーションを割り当てると、構成に応じて、デスクトップ、スタートメニュー、またはタスクバーにショートカットが作成されます。

ヒント:

Citrix DaaS のフル構成管理コンソールを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行ファイルパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe** を使用すると、Citrix DaaS と Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Management エージェントが環境の処理を完了することが保証されます。詳細については、「[完全な構成管理インターフェイスを使用したアプリケーション設定の編集](#)」を参照してください。

次の操作を実行できます:

- アプリケーションを追加します。
- アプリケーションリストを更新します。
- アプリケーションを編集してそのプロパティを管理します。
- アプリケーションの課題を管理します。
- アプリケーションをクローニングします。
- アプリケーションを削除します。

- [スタート] メニュービューに切り替えます。
- エージェントがアプリケーションを処理する方法を指定します。

アプリケーションを追加および割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する設定セットに移動し、[アクション] > [アプリケーション] に移動して、[アプリケーションを追加] をクリックします。「アプリケーションの追加」を参照してください。
2. 追加したアプリケーションを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。アプリケーションの割り当ての管理を参照してください。

[[詳細設定](#)] の [SQL 設定の更新遅延] に指定した値によっては、割り当てが有効になるまでに時間がかかります。サインをすぐに有効にするには、次の手順を実行してください。

1. [**Web** コンソール] > [監視] > [管理] > [エージェント] > [統計] に移動し、エージェントを選択します。
2. アクションバーの [詳細] をクリックし、[エージェント] > [エージェントホスト設定の更新] を選択します。

重要:

- エージェントがアクションを処理するには、次の設定が有効になっていることを確認します。
 - ログオン時にエージェントを起動する (ログオン時のアクションを処理するため)
 - 再接続時にエージェントを起動する (再接続時のアクションを処理するため)
 - デスクトップ互換モードを有効にする
- これらの設定は、[レガシーコンソール > 詳細設定 > 設定 > メイン設定 > エージェントサービスアクション](#)にあります。

アプリケーションの追加

アプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「アプリケーション」で、「アプリケーションを追加」をクリックします。
2. 基本情報ページで、次の設定を行います。
 - 名前。アプリケーションを識別しやすい名前を指定します。
 - 説明。アプリケーションに関する追加情報を指定してください。
 - 状態。アプリケーションを有効または無効にするか、メンテナンスモードにします。メンテナンスモードの場合、アプリケーションは使用できません。そのショートカットアイコンには、使用できないことを示す警告サインが表示されます。
 - アプリケーションタイプ。ショートカットが開くアプリケーションの種類を指定します。ユーザーインターフェースは、選択した内容によって異なります。

- インストールされているアプリケーション。ユーザーのマシンにインストールされているアプリケーションを開くショートカットを作成します。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - * アプリケーションパス。ユーザーのマシンにあるアプリケーションのフルパスを入力します。
 - * 作業フォルダ。アプリケーションの作業フォルダーとして、ユーザーのマシン上のフォルダーへのフルパスを入力します。このフィールドは、「アプリケーションパス」フィールドにフルパスを入力すると自動的に入力されます。
 - * パラメーター。必要に応じて、アプリケーションの起動パラメータを入力します。
- ファイルまたはフォルダー。ユーザーがショートカットアイコンをクリックしたときに、ユーザーのマシン上のターゲットファイルまたはフォルダーを開くショートカットを作成できます。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - パス。ターゲットファイルまたはフォルダーへのフルパスを入力します。
- **URL**。アプリケーションの URL を追加できます。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - アプリケーション **URL**。アプリケーションの URL を入力します。
- **Citrix Workspace** リソース。Citrix Workspace からアプリケーションを追加できます。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - **URL** をストアします。アプリケーションショートカットから起動するリソースを含む StoreFront または Workspace ストアの URL を入力します。

注:

エージェントマシンでは、**SaaS** アプリまたは **Citrix Workspace (Storefront)** リソースタイプの特定のアプリケーションを開くことはできません。

- リソース。 **WEM Tool Hub** > アプリケーションアシスタントを使用して、ターゲットのワークスペースリソースを参照します。リソース情報をコピーして、[リソース情報を貼り付け] をクリックしてここに貼り付けます。[アプリケーションアシスタントを開く] をクリックして WEM ツールハブを開きます (インストールされている場合)。WEM ツールハブをダウンロードするには、[**Citrix Cloud**] > [**WEM サービス**] > [**ユーティリティ**] に移動します。詳細については、「[WEM ツールハブ](#)」を参照してください。
3. オプションページで、次の設定を行います。
- アプリケーションアイコン。[変更] をクリックして別のアイコンを選択するか、新しいアイコンを追加します。
 - 新しいアイコンを追加するには、.ico ファイルを参照するか、 **WEM Tool Hub > Application Assistant** からコピーしたアイコンデータを貼り付けます。WEM は最大 100 個のアイコンの保存をサポートしています。詳細については、「[WEM ツールハブ](#)」を参照してください。

- ユーザーのデスクトップ上のアイコンの位置を設定します。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットのターゲット場所を指定します。値はピクセル単位です。移動すると、ショートカットを次のログオン時に指定した場所に戻します。
- 表示名。ショートカットの名前を指定します。名前はユーザー環境に表示されます。
- スタートメニューの統合。[変更]をクリックして、[スタート]メニューの左側にあるアプリケーションショートカットの作成場所を指定します。既定では、新しいショートカットは[プログラム]に作成されます。スタートメニュー統合ウィンドウでは、次の操作を実行できます。
 - ショートカットのカスタムフォルダーを作成します。
 - [スタート]メニューフォルダ内のアプリケーションショートカットの場所を指定します。
 - カスタムフォルダーの名前を変更します。

Note:

To delete custom folders, go to **Start menu view** in **Applications**. See [Switch to the Start menu view](#).

- ウィンドウスタイル。アプリケーションをユーザーのマシン上で最小化 (タスクバーに最小化)、標準 (通常の画面表示)、最大化 (全画面表示) のいずれのウィンドウで開くかを指定します。
- ホットキーホットキーを設定するには、入力フィールドをクリックしてキーの組み合わせを押します。または、組み合わせを次の形式で入力します (例): Ctrl + Alt + S
- 自動復元を有効にします。有効にすると、エージェントは更新時にショートカット (移動または削除された場合) を自動的に再作成します。
- エージェントメニューからアプリケーションを非表示にします。ユーザーのマシンからアクセスできるエージェントメニューでアプリケーションを表示するか非表示にするかを指定します。
- ユーザーのお気に入りフォルダにショートカットを作成します。ユーザーの [お気に入り] フォルダーにアプリケーションショートカットを作成するかどうかを指定します。

4. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

アプリケーションを編集する

アプリケーションを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「アプリケーション」で、アプリケーションを選択します。必要な場合は、検索ボックスを使用してアプリケーションをすばやく見つけてください。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. [基本情報] ページと [オプション] ページで、必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

アプリケーションの課題を管理

アプリケーションの課題を管理するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. アプリケーションを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを設定して、使用するフィルターとアプリケーションショートカットの作成場所を指定します。
 - デスクトップショートカットの作成
 - [スタート] メニューに追加
 - [スタート] メニューに固定
 - クイック起動に追加
 - Windows スタートアップに追加
 - タスクバーに固定
1. フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。
 - フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
2. 終了したら、[完了] をクリックします。

アプリケーションをクローニングする

注:

アサインメントは複製されません。

アプリケーションをクローニングするには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーで [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. アプリケーションのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

アプリケーションを削除する

アプリケーションを削除するには、そのアプリケーションを選択し、アクションバーで [削除] を選択します。

注:

アプリケーションが既にユーザーに割り当てられている場合、そのアプリケーションを削除するとそのユーザーに影響が及びます。

[スタート] メニュービューに切り替える

[スタート] メニュービューに切り替えるには、[スタート] メニュービューをクリックします。このビューには、各アプリケーションがスタートメニューフォルダーのどこにあるかが表示されます。以下の操作を実行できます:

- カスタムフォルダを作成します。
- アプリケーションを目的のフォルダに移動します。
- カスタムフォルダの名前を変更します。
- カスタムフォルダを削除します。カスタムフォルダを削除すると、そのフォルダ内のアプリケーションも削除されます。

エージェントがアプリケーションを処理する方法を指定します

処理:

- ログオン時と更新時にアプリケーションを処理
- 再接続時にアプリケーションを処理
- 割り当てが解除されたらデスクトップからアプリケーションを削除
- アプリケーションの処理を強制する
- アプリケーション用のフィルター処理を強制する

StoreFront:

- StoreFront URL を追加し、必要に応じてその説明を入力します。この URL は、「Citrix Workspace リソース」タイプのアプリケーションを追加する際に必要です。「アプリケーションの追加」を参照してください。

外部タスク

ヒント:

外部タスクはユーザーセッションレベルで機能します。タスクをマシンレベルで実行するには、[代わりにスクリプトタスクを使用してください](#)。

この機能により、外部タスクを作成してユーザーに割り当てることができます。外部タスクはユーザーセッションレベルで機能し、スクリプトでもアプリケーションでもかまいません。ターゲットエージェントマシンに、それらを実行するために必要なプログラムがあることを確認してください。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** スクリプトと **.cmd** スクリプトが含まれます。

ユーザー環境を正確かつ効果的に管理できるように、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。

次の操作を実行できます：

- 外部タスクを作成します。
- 外部タスクリストを更新します。
- 外部タスクを編集します。
- 外部タスクの割り当てを管理します。
- 外部タスクを複製します。
- 外部タスクを削除します。

ヒント：

State 列のトグルを使用して、外部タスクを簡単に有効または無効にできます。タスクを有効にするには、そのタスクに少なくとも 1 つのトリガーを設定します。

外部タスクを作成する

タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「外部タスク」で、「外部タスクの作成」をクリックします。
2. タスクタブで、次の設定を行います。
 - 名前。タスクを識別しやすい名前を指定します。
 - 説明。タスクに関する追加情報を指定してください。
 - このタスクを有効にします。タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられている場合でも、エージェントはタスクを処理しません。
 - タスク詳細
 - パス。タスクへのパスを入力するか、タスクを参照します。パスはユーザー環境で解決されます。以下の点について確認してください：
 - * ここで指定したパスは、ターゲットエージェントマシンと一致しています。
 - * ターゲットエージェントマシンには、タスクを実行するための対応するプログラムがありません。
 - 引数。起動パラメータまたは引数を指定します。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれています。**Path** フィールドと **Arguments** フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。
 - タスク設定
 - 非表示で実行。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

- 一度だけ実行する：選択した場合、WEM は、トリガーで選択したオプションやエージェントが再起動するかどうかに関係なく、タスクを 1 回だけ実行します。
- 実行順序。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられていて、一部のタスクが他のタスクに依存して正常に実行される場合に使用します。実行順序の値が 0 (ゼロ) のタスクが最初に実行され、次に値 1 のタスク、次に値 2 のタスクが実行されます。
- タスクが完了するのを待ってください。エージェントがタスクの完了を待つ時間を指定します。デフォルトでは、待機タイムアウト値は 30 秒です。

3. 「トリガー」タブで、タスクに関連付けるトリガーを選択します。

注：

すべてのトリガーを外部タスクに関連付けることができるわけではありません。考慮事項を参照してください。

- 新しいトリガーを作成します。「[トリガーを作成する](#)」を参照してください。
- このタスクに該当するトリガーのみを表示します。タスクに当てはまらないトリガーを除外します。

4. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

注意事項 外部タスクはセッションレベルで機能します。外部タスクに関連付けることができるのは、次のトリガーのみです。詳細については、「[トリガーのサポートマトリックス](#)」を参照してください。

- ビルトイントリガー：
 - エージェント更新
 - 再接続
 - ログオン
 - ログオフ
 - 切断
 - ロック
 - ロック解除
 - スケジュール指定
- ユーザープロセストリガー：
 - プロセスが開始されました
 - 処理は終了しました

Reconnect ビルトイントリガーを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- WEM エージェントが物理 Windows デバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。

接続解除、ロック、ロック解除トリガーを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- 切断、ロック、ロック解除の実装は Windows イベントに基づいています。環境によっては、これらのオプションが期待どおりに機能しないことがあります。たとえば、Windows 10 または Windows 11 のシングルセッション VDA で実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに lock オプションを使用してください。(このシナリオでは、受け取るアクションは「ロック」です。)
- これらのトリガーは UI エージェントでを使用することをお勧めします。2つの理由:
 - これらを CMD エージェントで使用すると、対応するイベントが発生するたびにエージェントがユーザー環境で起動し、外部タスクが実行されているかどうかを確認します。
 - 同時実行タスクシナリオでは、CMD エージェントが最適に動作しない場合があります。

ユーザープロセストリガーを使用すると、特定のプロセスの実行中のみリソースを供給し、プロセスの終了時にこれらのリソースを取り消す外部タスクを定義できます。プロセスを外部タスクのトリガーとして使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合に比べて、ユーザー環境をより正確に管理できます。ユーザープロセストリガーを使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- WEM エージェントが起動し、UI モードで実行されます。
- 指定されたプロセスは、ログオンユーザーと同じユーザーセッションで実行されます。
- 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、[詳細設定] > [構成] > [詳細オプション] タブで [自動更新を有効にする] を選択してください。

外部タスクを編集する

タスクを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「外部タスク」で、タスクを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. [タスク] タブと [トリガー] タブで、必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[完了] をクリックします。

外部タスクの割り当てを管理する

外部タスクの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. タスクを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. タスクを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。

3. フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。
 - フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
4. 終了したら、[完了]をクリックします。

外部タスクのクローンを作成する

注:

トリガーの関連付けと割り当ては複製されません。

タスクを複製するには、次の手順を実行します。

1. タスクを選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. タスクのクローニング先となる構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

外部タスクを削除する

タスクを削除するには、タスクを選択し、アクションバーで [削除] を選択します。

注:

外部タスクが既にユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響が及びます。

プリンター

この機能により、プリンターを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらのプリンターはユーザーのデスクトップで使用できます。

次の操作を実行できます:

- プリンタを追加します。
- 印刷サーバーからプリンターを追加します。
- プリンタリストを更新します。
- プリンタを編集します。
- プリンターの割り当てを管理します。
- プリンターのクローンを作成します。
- プリンタを削除します。
- エージェントがプリンタを処理する方法を指定します。

プリンタを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する設定セットに移動し、[アクション]>[プリンター]に移動し、[** プリンターの追加 **]をクリックします。「プリンターの追加」を参照してください。
2. 追加したプリンタを選択し、アクションバーの[割り当ての管理]をクリックします。プリンターの割り当ての管理を参照してください。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

プリンターの追加

プリンタを追加するには、次の手順を実行します。

1. [プリンター]で、[プリンターの追加]をクリックします。
2. アクションタイプを指定します。インターフェイスは、選択したアクションタイプによって異なります。
 - ネットワークプリンタをマップします。
 - 名前。プリンタを識別しやすい名前を指定してください。
 - 説明 (オプション)。プリンタに関する追加情報を指定してください。
 - このプリンタを有効にします。プリンタを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
 - プリンタパス。ユーザー環境での解決時にプリンターへのパスを指定します。
 - 特定の認証情報を使用して接続します。デフォルトでは、エージェントは実行に使用する Windows アカウントを使用してプリンタに接続します。ユーザーが接続に別の認証情報を指定する必要がある場合は、このオプションを選択してください。
 - 表示名。プリンタの名前を指定します。名前はユーザー環境に表示されます。
 - 自動復元を有効にします。有効にすると、エージェントは更新時にプリンターを自動的に再作成します (削除された場合)。
 - プリンタマッピングファイルを使用してください。
 - 名前。プリンタを識別しやすい名前を指定してください。
 - 説明 (オプション)。プリンタに関する追加情報を指定してください。
 - このプリンタを有効にします。プリンタを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
 - ファイルパス。XML プリンタリストファイルを使用して、ユーザ用のプリンタを設定できます。イメージとして使用するエージェントマシンにファイルを配置します。エージェントが更新されると、プリンターがアクションキューに追加する XML ファイルを解析します。[XML プリンタリストの設定を参照してください](#)。
3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

印刷サーバーからのプリンターの追加

ネットワークプリントサーバーからプリンターを追加するには、**WEM Tool Hub > Printer Assistant** で目的のプリンターを探し、その情報をコピーして貼り付けます。[WEM ツールハブを参照してください](#)。

プリンターの編集

プリンターを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「プリンター」で、プリンターを選択します。必要な場合は、検索ボックスを使用してプリンターをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

プリンターの割り当てを管理

プリンターの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. プリンターを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. プリンターを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを構成して、使用するフィルターと、それをデフォルトプリンターとして設定するかどうかを指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
3. 終了したら、[完了] をクリックします。

プリンターのクローンを作成

注:

アサインメントは複製されません。

プリンターのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. プリンターを選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. プリンターのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

プリンタを削除する

プリンタを削除するには、プリンタを選択し、アクションバーの [削除] を選択します。

注:

プリンターが既にユーザーに割り当てられている場合、そのプリンターを削除するとそれらのユーザーに影響が及びます。

エージェントがプリンタを処理する方法を指定してください

処理オプション:

- ログオン時と更新時にプリンターを処理する
- 再接続時にプリンタを処理する
- 割り当てられていないときにデスクトップからプリンターを削除する
- プリンターの処理を強制
- プリンターのフィルター処理を強制
- プリンターを非同期に処理 (有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにプリンターを非同期で処理します)

ネットワークドライブ

この機能により、ネットワークドライブを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらのネットワークドライブはユーザーのデスクトップで使用できます。

次の操作を実行できます:

- ネットワークドライブを追加します。
- ネットワークドライブリストを更新します。
- ネットワークドライブを編集します。
- ネットワークドライブの割り当てを管理します。
- ネットワークドライブのクローンを作成します。
- ネットワークドライブを削除します。
- エージェントがネットワークドライブを処理する方法を指定します。

ネットワークドライブを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する構成セットに移動し、[操作] > [ネットワークドライブ] に移動し、[ネットワークドライブの追加] をクリックします。ネットワークドライブの追加を参照してください。
2. 追加したネットワークドライブを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。ネットワークドライブの割り当ての管理を参照してください。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「[割り当てをすぐに有効にする](#)」を参照してください。

ネットワークドライブの追加

ネットワークドライブを追加するには、次の手順を実行します。

1. [ネットワークドライブ] で、[ネットワークドライブの追加] をクリックします。
2. 次の設定を構成します：
 - 名前。ネットワークドライブを識別しやすい名前を指定してください。
 - 説明 (オプション)。ネットワークドライブに関する追加情報を指定してください。
 - このネットワークドライブを有効にします。ネットワークドライブを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
 - ターゲットパス。ユーザー環境で解決されるネットワークドライブへのパスを指定します。
 - 特定の認証情報を使用して接続します。デフォルトでは、エージェントは実行に使用する Windows アカウントを使用してネットワークドライブに接続します。ユーザーが接続に別の認証情報を指定する必要がある場合は、このオプションを選択してください。
 - 表示名。ネットワークドライブの名前を指定します。名前はユーザー環境に表示されます。
 - 自動復元を有効にします。有効にすると、エージェントは更新時に自動的にネットワークドライブを再作成します (削除された場合)。
 - ホームドライブとして設定します。有効にすると、ネットワークドライブがホームドライブとして設定されます。
3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

ネットワークドライブを編集する

ネットワークドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「ネットワークドライブ」 で、ネットワークドライブを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してネットワークドライブをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

ネットワークドライブの割り当てを管理

ネットワークドライブの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. ネットワークドライブを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを設定して、使用するフィルターとドライブ文字を指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
3. 終了したら、[完了] をクリックします。

ネットワークドライブのクローンを作成

注:

アサインメントは複製されません。

ネットワークドライブのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. ネットワークドライブのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ネットワークドライブを削除する

ネットワークドライブを削除するには、そのネットワークドライブを選択し、操作バーの [削除] を選択します。

注:

ネットワークドライブが既にユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響が及びます。

エージェントがネットワークドライブを処理する方法を指定してください

処理オプション:

- ログオンと更新時にネットワークドライブを処理する
- 再接続時にネットワークドライブを処理
- 割り当てられていないときにデスクトップからネットワークドライブを削除する
- ネットワークドライブの処理を強制
- ネットワークドライブのフィルター処理を強制

- ネットワークドライブを非同期で処理します。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにネットワークドライブを非同期で処理します。

ドライブレター:

- ドライブレターは課題には使用しないでください。ドライブリソースを割り当てるとき、選択したドライブ文字はドライブ文字選択から除外されます。
- 課題でのドライブレターの再利用を許可します。有効にすると、割り当てに使用されたドライブ文字は、同じターゲットに割り当てられた他のドライブでも引き続き使用できます。

仮想ドライブ

この機能により、仮想ドライブを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらの仮想ドライブはユーザーのデスクトップで使用できます。

次の操作を実行できます:

- 仮想ドライブを追加します。
- 仮想ドライブリストを更新します。
- 仮想ドライブを編集します。
- 仮想ドライブの割り当てを管理します。
- 仮想ドライブのクローンを作成します。
- 仮想ドライブを削除します。
- エージェントが仮想ドライブを処理する方法を指定します。

仮想ドライブを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する構成セットに移動し、[操作] > [仮想ドライブ] に移動し、[仮想ドライブの追加] をクリックします。「仮想ドライブの追加」を参照してください。
2. 追加した仮想ドライブを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。仮想ドライブの割り当ての管理を参照してください。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「[割り当てをすぐに有効にする](#)」を参照してください。

仮想ドライブの追加

仮想ドライブを追加するには、次の手順を実行します。

1. [仮想ドライブ] で、[仮想ドライブの追加] をクリックします。
2. 次の設定を構成します:
 - 名前。仮想ドライブを識別しやすい名前を指定します。

- 説明 (オプション)。仮想ドライブに関する追加情報を指定します。
- この仮想ドライブを有効にします。仮想ドライブを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
- ターゲットパス。ユーザー環境で解決される仮想ドライブへのパスを指定します。
- ホームドライブとして設定します。有効にすると、ネットワークドライブがホームドライブとして設定されます。

3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

仮想ドライブを編集する

仮想ドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「仮想ドライブ」で、仮想ドライブを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して仮想ドライブをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

仮想ドライブの割り当てを管理

仮想ドライブの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. 仮想ドライブを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを設定して、使用するフィルターとドライブ文字を指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。

重要:

[次に使用可能] オプションと [文字割り当てなし] オプションはネットワークドライブにのみ適用されます。

3. 終了したら、[完了] をクリックします。

仮想ドライブのクローンを作成

注:

アサインメントは複製されません。

仮想ドライブのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 仮想ドライブのクローニング先となる構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

仮想ドライブを削除する

仮想ドライブを削除するには、その仮想ドライブを選択し、アクションバーの [削除] を選択します。

注:

仮想ドライブが既にユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響が及びます。

エージェントが仮想ドライブを処理する方法を指定してください

処理オプション:

- ログオン時および更新時に仮想ドライブを処理する
- 再接続時に仮想ドライブを処理
- 割り当てられていないときにデスクトップから仮想ドライブを削除する
- 仮想ドライブのフィルター処理を強制
- 仮想ドライブのフィルター処理を強制

ドライブレター:

- ドライブレターは課題には使用しないでください。ドライブリソースを割り当てるとき、選択したドライブ文字はドライブ文字選択から除外されます。
- 課題でのドライブレターの再利用を許可します。有効にすると、割り当てに使用されたドライブ文字は、同じターゲットに割り当てられた他のドライブでも引き続き使用できます。

レジストリエントリ

この機能により、レジストリ値を作成、設定、削除し、それらを割り当ててレジストリを作成または変更できます。レジストリエントリにタグを追加し、複数のレジストリエントリを同時に割り当てることができます。

次の操作を実行できます:

- レジストリエントリの追加
- レジストリエントリリストを更新する
- レジストリエントリ (1 つまたは複数) を編集する
- 1 つまたは複数のレジストリエントリの割り当ての管理
- レジストリエントリの複製
- **reg** ファイルによるレジストリエントリのインポート
- レジストリエントリを削除する
- タグの削除

レジストリエントリを追加して割り当てする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する設定セットに移動します。[アクション]>[レジストリエントリ]に移動し、[レジストリエントリの追加]をクリックします。詳細については、「[レジストリエントリの追加](#)」を参照してください。
2. 追加したレジストリエントリを選択し、アクションバーの[割り当ての管理]をクリックします。詳細については、「[1 つのレジストリエントリまたは複数のレジストリエントリの割り当ての管理](#)」を参照してください。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「[割り当てをすぐに有効にする](#)」を参照してください。

レジストリエントリの追加

レジストリエントリを追加するには、次の手順を実行します。

1. [レジストリエントリ]で、[レジストリエントリの追加]をクリックします。
2. 次の設定を構成します：
 - アクションタイプ。リソースのアクションの種類を記述します。
 - 名前。レジストリエントリの識別に役立つ名前を指定します。
 - 説明 (オプション)。レジストリエントリに関する追加情報を指定します。
 - タグ。レジストリエントリに新しいタグを作成するか、既存のタグを選択してから、そのタグを使用してレジストリエントリを一括管理できます。
 - この操作を有効にしますか：レジストリエントリを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーまたはマシンに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
 - レジストリパス。レジストリエントリのレジストリパスを指定します。
 - 値の名前。レジストリに表示されるレジストリ値の名前 (**NonTSECURITY** など)。
 - タイプ。作成される可能性のあるレジストリエントリのタイプ。
 - データ。一度作成されたレジストリエントリの値 (たとえば、0 または `C:\Program Files`)
 - 一度だけ実行する：選択した場合、WEM はアクションを 1 回だけ実行します。
3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

1 つまたは複数のレジストリエントリを編集する

1 つまたは複数のレジストリエントリを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「レジストリ・エントリ」で、1 つまたは複数のレジストリ・エントリを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用するか、リストにタグを付けると、レジストリエントリをすばやく見つけることができます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

1 つまたは複数のレジストリエントリの割り当ての管理

1 つまたは複数のレジストリエントリの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 1 つまたは複数のレジストリエントリを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。必要に応じて、検索ボックスまたはタグリストを使用して、レジストリエントリまたはレジストリエントリをすばやく検索できます。

注:

複数のレジストリエントリの割り当てを管理するには、レジストリエントリリストを確認し、[次へ] をクリックします。

1. レジストリエントリを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを設定して、使用するフィルターを指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
2. 終了したら、[完了] をクリックします。

レジストリエントリの複製

注:

アサインメントは複製されません。

レジストリエントリを複製するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを選択し、アクションバーで [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. レジストリエントリの複製先となる構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

レジストリ・エントリを **reg** ファイルごとにインポートする

レジストリファイルを課題のレジストリエントリに変換できます。この機能には次の制限があります。

- **HKEY_CURRENT_USER**以下のレジストリ値のみがサポートされます。レジストリエントリ機能では、**HKEY_CURRENT_USER**でレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- **REG_BINARY**および**REG_MULTI_SZ types**のレジストリ値はサポートされていません。

制限を回避するには、グループポリシー設定の【** グループポリシー設定のインポート】設定を使用してレジストリファイルを WEM にインポートすることをお勧めします。** 詳細については、「[グループポリシー設定のインポート](#)」を参照してください。

レジストリエントリをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで [インポート] を選択します。
2. ローカルregファイルをブラウズします。
3. [インポート] をクリックして、レジストリエントリをページにロードします。
4. 読み込んだレジストリエントリのオプションを選択します。
5. 読み込まれたレジストリエントリの上書きルールを選択します。
6. [インポート] をクリックして、インポートプロセスを開始します。

レジストリエントリを削除する

レジストリエントリを削除するには、レジストリエントリを選択し、アクションバーで [削除] を選択します。

タグの削除

レジストリエントリのタグを削除するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを選択し、アクションバーの [タグの削除] を選択します。
2. [削除] をクリックして、削除プロセスを開始します。

環境変数

この機能により、環境変数を割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、これらの環境変数はユーザー環境で作成または設定されます。

次の操作を実行できます：

- 環境変数を追加します。

- 環境変数リストを更新します。
- 環境変数を編集します。
- 環境変数の割り当てを管理します。
- 環境変数を複製します。
- 環境変数を削除します。
- エージェントが環境変数を処理する方法を指定します。

環境変数を追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する設定セットに移動し、[アクション] > [環境変数] に移動して、[環境変数の追加] をクリックします。[環境変数の追加を参照してください](#)。
2. 追加した環境変数を選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。[環境変数の割り当ての管理を参照してください](#)。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「[割り当てをすぐに有効にする](#)」を参照してください。

環境変数を追加する

環境変数を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「環境変数」で、「環境変数を追加」をクリックします。
2. 次の設定を構成します：
 - 名前。環境変数を識別しやすい名前を指定します。
 - 説明 (オプション)。環境変数に関する追加情報を指定します。
 - この環境変数を有効にします。環境変数を有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
 - 変数名。環境変数の機能名。
 - 変数値。環境変数の値。
 - 実行順序。このオプションを使用して、エージェントが変数を処理する順序を決定します。エージェントは、最初に実行順序の値が 0 (ゼロ) の変数を処理し、次に値が 1 の変数、次に値が 2 の変数、というように処理します。競合が発生すると、最後に処理された変数が以前に処理された変数を上書きします。
3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

環境変数を編集する

環境変数を編集するには、次の手順を実行します。

1. [環境変数] で、環境変数を選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して環境変数をすばやく見つけてください。

2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

環境変数の割り当てを管理

環境変数の割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. 環境変数を割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを設定して、使用するフィルターを指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
3. 終了したら、[完了] をクリックします。

環境変数を複製する

注:

- アサインメントは複製されません。

環境変数を複製するには、以下の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 環境変数を複製する構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

環境変数を削除する

環境変数を削除するには、環境変数を選択し、アクションバーの [削除] を選択します。

注:

- 環境変数がすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響します。

エージェントが環境変数を処理する方法を指定します

処理オプション:

- ログオン時と更新時に環境変数を処理
- 再接続時に環境変数を処理する
- 割り当てられていないときにデスクトップから環境変数を削除
- 環境変数のフィルター処理を強制する
- 環境変数のフィルター処理を強制する

追加情報

割り当てをすぐに有効化

通常、割り当ては、[詳細設定](#)の **[SQL 設定の更新遅延]** で指定した時間が経過すると有効になります。アサインをすぐに有効にするには、次の手順を実行してください。

1. **[Web コンソール] > [監視] > [管理] > [エージェント] > [統計]** に移動し、エージェントを選択します。
2. アクションバーの **[詳細]** をクリックし、**[エージェント] > [エージェントホスト設定の更新]** を選択します。

重要:

- エージェントがアクションを処理するには、次の設定が有効になっていることを確認します。
 - ログオン時にエージェントを起動する (ログオン時のアクションを処理するため)
 - 再接続時にエージェントを起動する (再接続時のアクションを処理するため)
 - デスクトップ互換モードを有効にする
- これらの設定は、[レガシーコンソール > 詳細設定 > 設定 > メイン設定 > エージェントサービスアクション](#)にあります。

グループポリシー設定をバックアップする

グループポリシー設定をバックアップするには、ドメインコントローラーで次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **[グループポリシーの管理]** ウィンドウで、バックアップする GPO を右クリックし、**[バックアップ]** を選択します。
3. **[グループポリシーオブジェクトのバックアップ]** ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。オプションで、バックアップに説明を与えることができます。
4. **[バックアップ]** をクリックしてバックアップを開始し、**[OK]** をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、zip ファイルに圧縮します。

注:

WEM は、複数の GPO バックアップフォルダーを含む zip ファイルのインポートをサポートしています。

WEM GPO を使用して FSLogix プロファイルコンテナを構成する

グループポリシー管理用テンプレートを使用して Windows の設定を構成する方法の例については、「[WEM GPO を使用して FSLogix プロファイルコンテナを構成する](#)」を参照してください。

アプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーは、管理コンソールを通じてユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを集約します。このツールを使用すると、ユーザーは割り当てられたすべてのアプリケーションを 1 か所で起動できます。

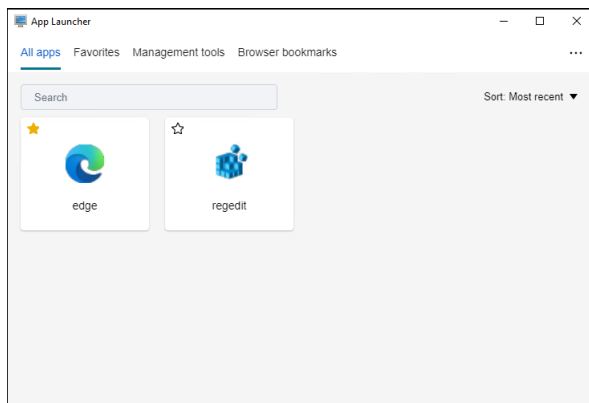
ヒント:

このツールは Citrix 仮想アプリとして公開することをお勧めします。

この機能には次の利点があります。

- 割り当てられたアプリケーションをすばやく起動できます。
- ユーザーは、自分に割り当てられているすべてのアプリケーションを 1 か所で起動できます。
- ユーザーはブックマークしたウェブサイトですばやくアクセスできます。Profile Management では、ブラウザのブックマークをローミングできます。

ユーザーは、自分の環境でアプリケーションランチャーツール (AppLauncherUtil.exe) を直接開くことができます。このツールは、エージェントのインストールフォルダにあります `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\ AppLauncherUtil.exe`。ツールを開くと、ユーザーに割り当てられているアプリケーションが反映された次の情報が表示されます。

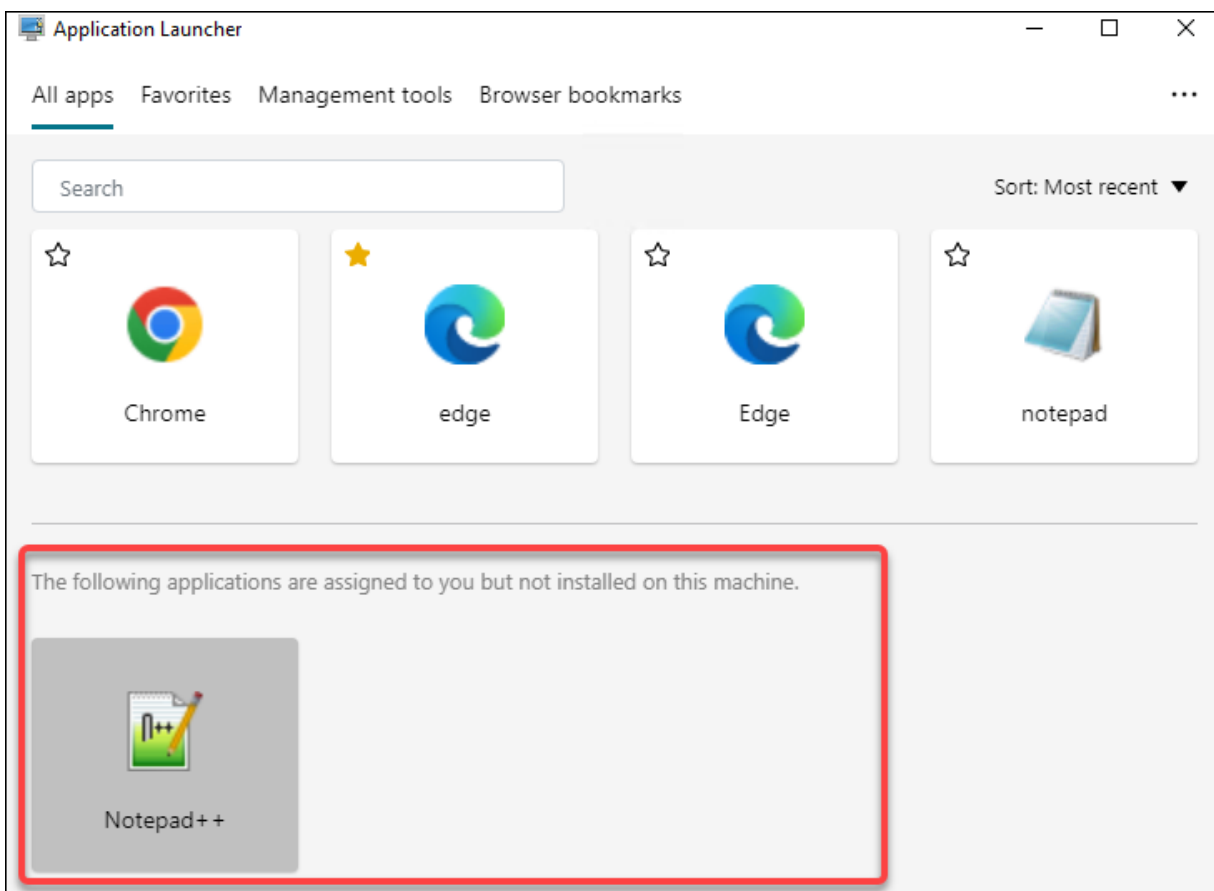


- すべてのアプリ。割り当てられているすべてのアプリケーションを表示します。利用可能な並べ替えオプション: 最新、**A-Z**、**Z-A**。
- お気に入り。お気に入りとしてマークされたアプリケーションを表示します。
- 管理ツール。次の 2 つのツールを表示します。
 - **Taskmgr**。タスクマネージャーを開きます。

- **vuemuiAgent**。WEM UI エージェントを起動します。

- ブラウザのブックマーク。ブラウザのブックマークに保存された Web サイトを表示します。ブックマークをクリックすることで、ユーザーはブラウザをすばやく開き、ターゲットのウェブサイトアクセスできます。ブックマークはブラウザごとにグループ化できます。この機能は Google Chrome と Microsoft Edge のみをサポートします。利用可能な並べ替えオプション: 最新、**A-Z**、**Z-A**。
- 省略記号アイコン。ユーザーがセッションからサインアウトできるサインアウトオプションがあります。

割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンに存在することを確認します。割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンにインストールされていない場合、アプリケーションは表示されますが、起動できません。



この機能の使用例については、「[割り当てられたアプリケーションを 1 か所に集約する](#)」を参照してください。

外部タスクの例

スクリプト（PowerShell スクリプトなど）の場合：

- フォルダパスもスクリプト名にも空白文字が含まれていない場合は、次のようにします。

- [パス]フィールドに、次のように入力します:`C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
- [引数]フィールドに、次のように入力します:`C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

または、[パス]フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。[引数]フィールドで、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開くかは、ユーザー環境で設定されているファイルタイプの関連付けによって異なります。ファイルタイプの関連付けの詳細については、「[ファイルの関連付け](#)」を参照してください。

- フォルダパスまたはスクリプト名に空白文字が含まれている場合は、次の操作を行います。
 - [パス]フィールドに、次のように入力します:`C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
 - [引数]フィールドに、次のように入力します:`-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーション (iexplore.exe など) の場合:

- [パス]フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- [引数]フィールドに、Web サイトの URL を入力して開きます: `https://docs.citrix.com/`。

ファイル システム操作

ユーザーの環境へのフォルダとファイルのコピーを制御します。

ヒント:

[動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイル・システム・オペレーション・リスト

既存のファイルとフォルダの操作のリスト。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ファイル・システム・オペレーションを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規ファイルシステムオペレーション」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール 名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダ操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステムの動作状態。ファイルシステムの操作を有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダへのパス。

ターゲットパス。コピーするコピー元のファイルまたはフォルダのコピー先のパス。

既存の場合はターゲットを上書きします。ファイルまたはフォルダの操作で、ターゲットの場所にある同じ名前の既存のファイルまたはフォルダを上書きするかどうかを制御します。オフにすると、同じ名前のファイルまたはフォルダがコピー先の場所に既に存在する場合、影響を受けるファイルはコピーされません。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。Workspace Environment Management で、更新のたびにではなく、1 回だけ操作を実行するようにするには、このオプションを選択します。これにより、エージェントのリフレッシュ・プロセスが高速化されます。特に、多数のファイル・システム操作をユーザーに割り当てている場合は特にそうです。

アクションタイプ。このファイルまたはフォルダのアクションの種類について説明します。コピー、削除、移動、名前の変更、またはシンボリックリンク操作。シンボリックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可する `SeCreateSymbolicLinkPrivilege` 権限をユーザーに付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作よりも先に実行できるようにします。実行順序の値が 0 (ゼロ) の操作が最初に実行され、次に値が 1 の操作、次に値が 2 の操作、というように実行されます。

ファイルタイプの関連付け

重要:

設定したファイルタイプ関連付け (FTA) は、自動的にデフォルトの関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法しますか?」ウィンドウが表示されても、ファイルを開くアプリケーションを選択するように求めるメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。同じようなウィンドウを今後表示したくない場合は、次の操作を行います。グループポリシーエディターを開き、「新しいアプリケーションがインストールされました」通知ポリシーを有効にします ([コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [Windows コンポーネント] > [ファイルエクスプローラー])。

ユーザー環境での FTA の作成を制御します。

ヒント:

[動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

この機能により、FTA を割り当て可能なアクションとして追加できます。

次の操作を実行できます：

- FTA の追加
- FTA を更新
- FTA を編集
- 課題を管理する
- FTA のクローン
- FTA を削除

FTA を追加するには

1. コンテキストメニューの [関連付けの追加] コマンドを使用します。
2. 「ファイルタイプの関連付けを追加」ダイアログボックスに詳細を入力します。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

名前。ファイルの関連付けリストに表示されるファイルの関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイルの関連付けを [有効] または [無効] のどちらにするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子です。このファイルの種類に関連付けに使用される拡張子。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID** フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルタイプが存在する場合）。拡張機能を直接入力することもできます。ただし、ブラウザの関連付けの場合は、拡張子を直接入力する必要があります。詳細については、「[ブラウザの関連付け](#)」を参照してください。

ProgID。アプリケーション (COM) に関連付けられたプログラム識別子。この値は、リストからファイル拡張子を選択すると、自動的に設定されます。ProgID を直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションの ProgID を検出するには、OLE/COM オブジェクトビューア (oleview.exe) を使用して、オブジェクトクラス/OLE 1.0 オブジェクトを確認します。ProgID の詳細については、「[プログラム識別子 \(ProgID\)](#)」を参照してください。

操作。アクションタイプ (開く、編集、印刷) を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用する実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。たとえば、UltraEdit テキストエディタの場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションタイプを指定できます。例：

- 開くアクションの場合は、“%1” と入力します。
- 印刷アクションの場合は、/p"%1" と入力します。

デフォルトアクションとして設定します。関連付けが、そのファイル名拡張子の既定として設定されているかどうかを切り替えます。

上書き。このファイルの関連付けが、指定した拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management (WEM) は、エージェントが更新されるたびにファイルの関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新するたびにではなく、1 回だけファイルの関連付けが作成されます。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多くのファイルの関連付けがユーザーに割り当てられている場合。

ヒント:

[ファイルタイプ関連付けアシスタントのデータを使用して](#)、それらを管理コンソールに割り当て可能なアクションとして追加できます。

詳細については、「[知っておきましょう](#)」を参照してください。

ファイルタイプの関連付けを編集する

ファイルタイプの関連付けを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「ファイルタイプの関連付け」で、必要な関連付けを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して必要なファイルタイプの関連付けをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

課題を管理する

ファイルタイプ関連付けの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ファイルタイプの関連付けを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. 関連付けを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。必要に応じて、各ターゲットに必要なアソシエーションの優先順位を設定します。
 - 割り当てに関連付けられている 3 つの省略記号をクリックして、設定をコピーします。
 - 割り当てに関連するそれぞれのオプションを選択することで、コピーした構成をすべてのターゲットに適用することもできます。

クローン・ファイル・タイプ・アソシエーション

ファイルタイプの関連付けを複製するには、次の手順を実行します。

1. ファイルタイプの関連付けを選択し、アクションバーで [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. ファイルタイプアソシエーションのクローニング先となる構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ファイルタイプの関連付けを削除する

ファイルタイプの関連付けを削除するには、関連付けを選択し、アクションバーの [削除] を選択します。

エージェントがファイルタイプの関連付けを処理する方法を指定してください

処理オプション:

- ログオン時と更新時にファイルタイプの関連付けを処理
- 再接続時に FTA を処理
- FTA のフィルター処理を強制
- 未割り当て時にデスクトップから FTA を削除

JSON ファイル

この機能によって、JSON オブジェクトを追加して割り当てて JSON ファイルを作成または変更できるようになりました。この機能を使用すると、JSON 構成ファイル (Microsoft Teams など) を使用してアプリケーションにパーソナライズされた設定を適用できます。

次の操作を実行できます:

- JSON オブジェクトを追加します。
- JSON オブジェクトリストを更新します。
- JSON オブジェクトを編集します。
- JSON オブジェクトの割り当てを管理します。
- JSON オブジェクトを複製します。
- JSON オブジェクトを削除します。
- JSON オブジェクトを処理するかどうかを制御します。

JSON オブジェクトを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです:

1. Web コンソールで、関連する構成セットに移動し、[操作] > [JSON オブジェクト] に移動して、[JSON オブジェクトを追加する] をクリックします。「JSON オブジェクトを追加する」を参照してください。
2. 追加した JSON オブジェクトを選択し、操作バーの [割り当てを管理する] をクリックします。「JSON オブジェクトの割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「[割り当てをすぐに有効にする](#)」を参照してください。

JSON オブジェクトを追加する

JSON オブジェクトを追加するには、次の手順を実行します：

1. [JSON オブジェクト] で、[JSON オブジェクトを追加する] をクリックします。
2. 次の設定を構成します：
 - 名前。JSON オブジェクトを特定しやすい名前を指定します。
 - 説明 (オプション)。JSON オブジェクトに関する追加情報を指定します。
 - この操作を有効にしますか：JSON オブジェクトを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーまたはマシンに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
 - ファイルパスとコンテンツ：オブジェクトを変更する JSON ファイルへのパスを指定します。指定されたコンテンツは、ターゲットファイルの既存のコンテンツとマージされます。コンテンツがどのようにマージされるかを理解するには、「[JSON コンテンツのマージの例](#)」を参照してください。

パスとコンテンツを手動で入力しない場合は、[テンプレートから生成する] をクリックします。[テンプレートから生成] 機能を使用して、特定のアプリケーションを構成するためにテンプレートを使用して JSON コンテンツを生成できます。現在、この機能は Microsoft Teams にのみ適用されます。

テンプレートから生成

- 存在しない場合はファイルを作成する：これは、オブジェクトが正常に動作することを保証するフェールセーフオプションです。たとえば、Microsoft Teams の場合、「desktop-config.json」ファイルは Microsoft Teams を初めて起動するまで存在しません。
 - 元のファイルをバックアップする：選択すると、エージェントはターゲットファイルのバックアップを同じ場所に自動的に保存します。バックアップは元の名前を継承し、サフィックスが付きます：「-WEMCopy」。
 - 処理モード
 - ユーザーレベルの処理：ユーザーのログオン時またはエージェントの更新時にアクションを処理します。
 - マシンレベルの処理：マシンの起動時、またはエージェントが SQL 接続設定を更新するときに処理を行います。
 - 一度だけ実行する：選択した場合、WEM はアクションを 1 回だけ実行します。
3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

JSON コンテンツのマージの例 指定されたコンテンツは、ターゲットファイルの既存のコンテンツとマージされます。

ターゲットファイルの内容の例:

```
1 {
2
3     "value": "value1",
4     "array": ["test1", "test2"],
5     "object": {
6     "key1": "value1", "key2": "value2" }
7
8 }
9
10 <!--NeedCopy-->
```

指定コンテンツの例:

```
1 {
2
3     "value": "value2",
4     "array": ["test2", "test3"],
5     "object": {
6     "key1": "changed", "key3": "value3", "key4": "value4" }
7
8     ,
9     "new": 1
10 }
11 <!--NeedCopy-->
```

マージされた結果の例:

```
1 {
2
3     "value": "value2",
4     "array": ["test1", "test2", "test3"],
5     "object": {
6     "key1": "changed", "key2": "value2", "key3": "value3", "key4": "value4"
7     }
8
9     ,
10     "new": 1
11 }
12 <!--NeedCopy-->
```

JSON オブジェクトを編集する

JSON オブジェクトを編集するには、次の手順を実行します。

1. **JSON** オブジェクトで、JSON オブジェクトを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して JSON オブジェクトをすばやく検索できます。

2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

JSON オブジェクトの割り当てを管理する

JSON オブジェクトの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. JSON オブジェクトを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. JSON オブジェクトを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを設定して、使用するフィルターを指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
3. 終了したら、[完了] をクリックします。

JSON オブジェクトのクローン

注:

- アサインメントは複製されません。

JSON オブジェクトを複製するには、次の手順を実行します。

1. JSON オブジェクトを選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. JSON オブジェクトのクローニング先となる構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

JSON オブジェクトを削除する

JSON オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトを選択し、アクションバーの [削除] を選択します。

注:

- JSON オブジェクトが既にユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそのユーザーに影響します。

INI ファイル

.ini ファイルの操作の作成を制御し、**.ini** ファイルを変更できます。

ini ファイルの操作リスト

既存の **.ini** ファイル操作のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

INI ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「INI ファイル操作を追加」 ページに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール 名前。[INI ファイル操作] リストに表示される **.ini** ファイル操作の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.ini ファイル操作の状態。 .ini ファイルの操作を有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるときに変更される .ini ファイルの場所を指定します。

注:

ドメインに参加していないエージェントを使用しているときに、ターゲットパスがネットワーク共有の場合、WEM が機能しない場合があります。

ターゲットセクション。この操作の対象となる .ini ファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定すると、そのセクションが作成されます。

ターゲット値名。追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。値自体を指定します。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびに .ini ファイル操作を実行します。このチェックボックスを選択すると、Workspace Environment Management が更新ごとにではなく、1 回だけ動作するようになります。この操作により、特にユーザーに多数の .ini ファイル操作が割り当てられている場合に、エージェントの更新処理が高速化されます。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

INI ファイル操作の編集 編集/変更するには、次の手順を実行します:

1. アクションバーの [編集] をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 終了したら、[保存] をクリックします。

課題を管理する アサインメントを管理するには、次の手順を実行します：

1. INI ファイルを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. この INI ファイルを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択してください。
3. フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。
4. 選択した INI ファイルの優先順位をターゲットごとに設定します。
5. 終了したら、[保存] をクリックします。

INI ファイルのクローン操作 クローンを作成するには、次の手順を実行します：

1. INI ファイルを選択し、アクションバーで [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 複製する必要がある構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

INI ファイルの削除 INI ファイルを削除するには、INI ファイルを選択してアクションバーの [削除] を選択します。

ポート

ポートマッピングを割り当て可能なアクションとして追加できます。ポート機能により、クライアントの COM ポートをマッピングできます。Citrix Studio ポリシーを使用して COM ポートの自動接続を有効にすることもできます。ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix Studio でクライアント COM ポートリダイレクトポリシーを必ず有効にしてください。デフォルトでは禁止されます。

ポートリスト

既存のポートのリスト。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから [ポートマッピングの追加] を選択します。
2. 「ポートマッピングを追加」ダイアログタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール 名前。ポートリストに表示されるポートの表示名。

説明。エディション/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートステート。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名。

ポートターゲット。ターゲットポート。

[オプション] タブ アクションタイプ。このリソースが実行するアクションの種類を記述します。

たとえば、次のようにポート設定を構成できます。

- ポート名: 「COM3:」を選択します。
- ポートターゲット: \\Client\COM3:を入力

ポートマッピングを編集 ポートマッピングを編集するには、次の手順を実行します:

1. アクションバーの [編集] をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 終了したら、[保存] をクリックします。

課題を管理する アサインメントを管理するには、次の手順を実行します:

1. ポートマッピングを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. このポートを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。
3. フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。
4. 選択したポートマッピングの優先順位を各ターゲットに設定します。
5. 終了したら、[保存] をクリックします。

ポートマッピングを複製 クローンを作成するには、次の手順を実行します:

1. ポートを選択し、アクションバーで [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 複製する必要がある構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ポートマッピングを削除 ポートマッピングを削除するには、ポートマッピングを選択し、アクションバーで [削除] を選択します。

ユーザー DSN

ユーザー DSN の作成を制御します。

ユーザー **DSN** リスト

既存のユーザー DSN のリスト。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ユーザー **DSN** の追加

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「ユーザー **DSN** を追加」ダイアログタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザー DSN リストに表示されるユーザー DSN の表示名。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザー **DSN** の状態。ユーザー DSN が有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

データソース名。ユーザー DSN の機能名。

ドライバー。DSN ドライバです。現時点では、SQL サーバーの DSN のみがサポートされています。

サーバー名。ユーザー DSN が接続する SQL サーバーの名前。

データベース名。ユーザー DSN が接続する SQL データベースの名前。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにユーザー DSN を作成します。Workspace Environment Management では、更新のたびにユーザー DSN を作成するのではなく、1 回だけ作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多数の DSN がユーザーに割り当てられている場合は特にそうです。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

ユーザー **DSN** を編集する ユーザー DSN を編集/変更するには、次の手順を実行します：

1. アクションバーの [編集] をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 終了したら、[保存] をクリックします。

ユーザー **DSN** の割り当てを管理 ユーザー DSN の割り当てを管理するには、次の手順を実行します：

1. ユーザー DSN を選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. ユーザー DSN を割り当てる割り当てターゲット (ユーザー、グループ、OU) を選択します。
3. フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。

4. 選択したユーザー DSN の優先順位を各ターゲットに設定します。
5. 終了したら、[保存] をクリックします。

ユーザー **DSN** を複製する ユーザー DSN を複製するには、次の手順を実行します：

1. ユーザー DSN を選択し、アクションバーで [複製] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 複製する必要がある構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ユーザー **DSN** を削除する ユーザー DSN を削除するには、ユーザー DSN を選択し、アクションバーで [削除] を選択します。

割り当て

May 28, 2024

アサインメントを使用して、ユーザーがアクションを使用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスク립トの一部を置き換えることができます。

課題ターゲット

[割り当てターゲット] ページでは、アクションとセキュリティルールを割り当てることができるように、ユーザーとグループ (ターゲット) を追加できます。割り当てを管理するターゲットを選択します。

注：

SID をターゲット名に変換するには時間がかかる場合があります。変換が正しくないか失敗した場合は、Cloud Connector のヘルスステータスを表示して正常に動作していることを確認します。問題が解決しない場合は、Citrix テクニカルサポートに連絡してください。

次の 2 つの組み込みターゲットがあります。

- みんな。匿名ユーザーとゲストを含むすべてのユーザーを含むビルトイングループ。メンバーシップはオペレーティングシステムによって制御されます。

- 管理者。管理者グループのすべてのメンバーを含むビルトイングループ。オペレーティングシステムの初回インストール後、グループのメンバーは管理者アカウントのみです。コンピューターがドメインに参加すると、Domain Admins グループが管理者グループに追加されます。サーバーがドメインコントローラーになると、Enterprise Admins グループが管理者グループに追加されます。

使用できるオプションには次のものがあります。

- **[フィルタ]**。リストをフィルタできます。
- 割り当てターゲットを追加します。ターゲットを追加できます。
- 更新。ターゲットのリストを更新します。
- **[表示]**。組み込みターゲットの詳細を表示できます。
- 編集。ターゲットを編集できます。説明、優先度、有効化ステータスを変更できます。優先度を設定する際には、次の点を考慮してください。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先順位が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合は、優先度の高いターゲットが優先されます。
- 有効。オブジェクト (ターゲット) を有効または無効にできます。
- **[削除]**。ターゲットを削除できます。注: 組み込みターゲットは削除されません。

ヒント:

[**State**] 列のトグルを使用して、ターゲットをすばやく有効または無効にできます。

課題ターゲットの追加

アサインメントを追加するには、次の手順を実行します。

1. [割り当てターゲット] ページで、[割り当てターゲットの追加] をクリックします。
2. ID プロバイダーを選択します。
3. 追加するターゲットが存在するドメインを選択します。
4. ターゲットタイプを選択します。

注:

Active Directory と Azure Active Directory では、検索対象をユーザーまたはセキュリティグループに絞り込むことができます。Active Directory では、組織単位を選択することもできます。[組織単位に割り当てることができるのはグループポリシー設定のみであることに注意してください。](#)

5. [検索] ボックスに、追加するターゲットの名前を入力します。名前を入力すると、一致する項目がメニューに表示されます。

注:

検索では上位 50 件の結果のみが返されます。必要に応じて検索を絞り込みます。

6. プラスアイコンをクリックしてターゲットを追加します。(追加済みのターゲットは緑色のチェックマークアイコンで表示されます)。

ヒント:

別の ID プロバイダーのターゲットを追加する場合は、別の ID タイプに切り替えて続行します。

7. 終了したら、[追加] をクリックしてターゲットを追加し、ウィザードを終了します。

ターゲットのアサインの管理

ターゲットの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 「課題ターゲット」ページで、ターゲットを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してターゲットをすばやく見つけることができます。
2. アクションバーで、「課題の管理」を選択します。【アサインメントの管理】ウィンドウが表示されます。
3. 必要に応じて各アクションの割り当てを管理します。
4. [変更を確認] をクリックして、意図したとおりに変更を加えたことを確認します。

割り当てターゲットを複製する

割り当てターゲットを複製するには、以下の手順を実行します。

1. 「課題ターゲット」ページで、ターゲットを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してターゲットをすばやく見つけることができます。
2. アクションバーで、「クローン」を選択します。[クローンの割り当てターゲット] ウィンドウが表示されます。
3. ターゲットのクローニング先となる構成セットを選択します。
4. [複製] をクリックします。

注:

- ビルトインターゲットのクローンは作成できません。
- 一度に最大 10 個のターゲットをクローニングできます。
- ターゲットが宛先にすでに存在する場合、そのターゲットはスキップされます。
- クローンターゲットの説明は空です。割り当ては複製されず、優先度はデフォルト値 (100) に設定され、状態はデフォルトで有効 (チェックマークアイコン) に設定されます。

フィルター

注:

- この機能は Technical Preview として提供されています。
- フィルターは、課題やスクリプト化されたタスクで使用するためのものです。

[フィルター] ページでは、ユーザにアクションを割り当てるタイミングを制御するフィルタを追加できます。フィルターは複数の条件で構成できます。

組み込みのフィルターがあります。

- 常に **true**。選択すると、関連するアクションは常にターゲットユーザーに割り当てられます。この組み込みフィルターは編集または削除できません。

使用できるオプションには次のものがあります。

- フィルターを追加します。アクションを割り当てるときに使用できるようにフィルタを追加できます。
- 条件を管理します。条件を追加、削除、編集できます。
- 更新。フィルターのリストを更新します。このオプションを使用すると、[条件を管理] の条件のリストも更新されます。
- 編集。フィルターを編集できます。ユーザーに割り当てられたアクションにバインドされているフィルターを編集すると、その変更はそれらのユーザーにすぐに影響します。
- **[削除]**。フィルターを削除できます。
- 状態。フィルターを有効または無効にできます。

フィルターを追加

フィルターを追加するには、次の手順を実行します。

1. [フィルター] ページで、[フィルターを追加] をクリックします。
2. [基本情報] で以下を構成し、[次へ] をクリックします。
 - フィルター名。フィルターの名前を入力します。
 - 説明。他のフィルターと区別しやすいように、フィルターの説明を入力します。この情報は入力しなくても構いません。
 - このフィルターを有効にします。[はい] を選択してフィルターを有効にするか、[いいえ] を選択してフィルターを無効にします。
3. 「条件」で、条件を追加してフィルターを作成します。** 演算子をクリックして、[**すべて一致] (AND 演算子) または [任意に一致] (OR 演算子) を切り替えます。** 両方の演算子を使用して、2 つ以上の条件を組み合わせると 1 つの複合条件にすることができます。

- 条件を追加します。リストから条件を選択するか、新しい条件を作成します。
- 条件グループを追加します。条件グループを追加して、同じ論理演算子 (AND または **OR**) を使用して一連の条件をグループ化します **。条件グループ内に条件グループを追加できます。コンディショニンググループは最大 3 レベルまでネストできます。

注:

- ここで作成した条件は、他のフィルターで使用できます。
- 複合条件の基準をより深く理解するには、概要のセクションを使用してください。
- **OR** 演算子を含むフィルターは、バージョンが 2210.2.0.1 以降のエージェントでのみ評価されます。
- 特定の種類の条件は、ユーザー設定にのみ適用されます。これらをマシン設定 (スクリプト化されたタスクや GPO など) に適用すると、エージェントはフィルタを評価するときにそれらをスキップします。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、[マシン設定に適用されない条件を参照してください](#)。

4. 終了したら [完了] をクリックします。

条件を作成する

条件は、フィルターを追加するか、条件を管理するときに作成できます。表示される [条件の作成] ウィザードで、次の手順を実行します。

1. 条件名を入力します。
2. [はい] を選択して有効にし、[いいえ] を選択して条件を無効にします。
3. リストから条件タイプを選択し、それに応じて設定を構成します。

条件タイプが異なれば、設定も異なる場合があります。次の条件タイプを使用できます。

コンディションタイプ	説明
常に真実	条件は常に成り立つ。
Active Directory 属性	属性名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。属性値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 属性値に関係なく条件が成立するようにするには、疑問符 (?) を入力します。
Active Directory グループ	グループ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。グループ名をセミコロン (;) で区切って入力します。

コンディションタイプ	説明
Active Directory パス	パスが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。パスをセミコロン (;) で区切って入力します。注: アスタリスク (*) はワイルドカードとして使用できます。
Active Directory サイト	サイト名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。サイト名をセミコロン (;) で区切って入力します。
Citrix Provisioning イメージモード	** 画像モードが共有かプライベートかによって **、True または false。
Citrix Virtual Apps ファーム名	ファーム名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
Citrix Virtual Apps バージョン	バージョンが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
Citrix Virtual Apps ゾーン名	ゾーン名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ名	デスクトップグループ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
Citrix Virtual Desktops ファーム名	ファーム名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
クライアント IP アドレス	IP アドレスが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または False。
クライアント名	クライアント名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。クライアント名をセミコロン (;) で区切って入力します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。動的トークンも使用できません。
クライアント OS	クライアント OS が指定された値と一致するかどうかに応じて、true または false。
クライアントリモート OS	クライアントのリモート OS が指定された値と一致するかどうかに応じて、true または false。
コンピュータ名	コンピューター名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。コンピューター名をセミコロン (;) で区切って入力します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。
接続状態	** 接続状態がオンラインかオフラインかに応じて **、True または false。

コンディションタイプ	説明
日付と時刻	日付と時刻が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。日付または日付範囲をセミコロン (;) で区切って入力します。日付を、 <code>mm/dd/yyyy</code> の形式で入力します。日付範囲を <code>mm/dd/yyyy HH:mm - mm/dd/yyyy HH:mm</code> (時刻はオプション) の形式で入力します。
曜日	日が指定された値に一致するかどうかに応じて、True または false。
動的価値	動的値が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。ダイナミック式が解決する値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 動的式の値に関係なく条件を真にする場合は、疑問符 (?) を入力します。
環境変数	環境変数が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。環境変数の値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 環境変数の値に関係なく条件を真にする場合は、疑問符 (?) を入力します。
ファイルバージョン	ファイルバージョンが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。ファイルバージョンをセミコロン (;) で区切って入力します。
ファイル/フォルダが存在するかどうか	パスが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。ファイルまたはフォルダのフルパスを入力します。 動的トークンは使用できません。
IP アドレス	IP アドレスが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または False。IP アドレスまたは IP アドレス範囲をセミコロン (;) で区切って入力します。注: アスタリスク (*) はワイルドカードとして使用できます。
名前がリストにあるかどうか	名前が指定されたリストにあるかどうかに応じて、True または false。[名前] フィールドに、リストで検索する名前を入力します。「XML リストのファイルパス」フィールドに、XML リストの完全なファイルパスを入力します。
名前/値がリストにあるかどうか	名前または値が指定されたリストにあるかどうかに応じて、True または false。[名前] フィールドに、リストで検索する名前または値を入力します。「XML リストのファイルパス」フィールドに、XML リストの完全なファイルパスを入力します。
ネットワーク接続状態	ネットワーク接続の状態が [使用可能] か [** 使用不可 **] かに応じて、True または false。

コンディションタイプ	説明
OS プラットフォームタイプ	OS プラットフォームの種類が x86 か x64 ** かによって、真か偽か。
公開されたリソース名	名前が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。公開リソース名をセミコロン (;) で区切って入力します。
レジストリ値	レジストリ値が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。[レジストリパスと名前] フィールドに、レジストリ値の名前を含むフルパスを入力します。[レジストリ値] フィールドに、レジストリ値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: レジストリエントリの値に関係なく条件を真にする場合は、疑問符 (?) を入力します。
トランスモード状態	状態が [無効] か [有効] かによって、真または偽になります。
地域フォーマット	フォーマットが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。必要に応じて、[リストにない値を追加] オプションを使用して、 ISO 言語コードをセミコロン (;) で区切って入力します。
ユーザ SBC リソースタイプ	** 種類がデスクトップか公開アプリケーションかによって **、True または false。
ユーザ UI 言語	言語が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
WMI クエリ	指定されたクエリに結果があるかどうかに応じて、True または false。Windows 管理インスツルメンテーション (WMI) クエリ操作では、エージェントマシン上でクエリを実行できます。この条件は、クエリから返された結果に基づいて定義できます。詳しくは、Microsoft 社のドキュメントを参照してください： https://docs.microsoft.com/en-us/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql 。

「クライアント」と「コンピュータ」に関連する条件を使用する場合は、次の 2 つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッション OS またはマルチセッション OS にインストールされている場合は、次の手順を実行します。
 - 「クライアント」とは、エージェントホストに接続しているクライアントデバイスを指します。
 - 「コンピュータ」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。

- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」を含む条件は適用されません。

追加情報

マシン設定には適用されない条件

設定には 2 種類あります。

- マシン設定。これらの設定は、ログオンするユーザーに関係なく、マシンにのみ適用されます。例: グループポリシー設定とスクリプト化されたタスク。
- ユーザー設定。これらの設定は、ログオンするマシンに関係なく、ユーザーにのみ適用されます。例: ユーザーの言語設定。

次の条件は、マシン設定には適用されません。フィルタにそれらのいずれかが含まれている場合、エージェントはフィルタを評価するときにそれらをスキップします。

フィルタ名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアント IP アドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCU で始まるレジストリ値を設定する場合、コンピュータ設定に適用すると、レジストリ値の一致 (Registry Value Match) フィルタは機能しません。
ユーザーの国一致	いいえ
ユーザー UI 言語の一致	いいえ
ユーザ SBC リソースタイプ	いいえ
Active Directory パスの一致	いいえ
Active Directory 属性の一致	いいえ
クライアント名が一致しません	いいえ
クライアント IP アドレスが一致しない	いいえ
一致するレジストリ値がありません	いいえ
ユーザーの国が一致しません	いいえ
ユーザー UI 言語が一致しません	いいえ
Active Directory パスが一致しません	いいえ
Active Directory 属性が一致しない	いいえ

フィルタ名	マシン設定に適用可能
クライアントのリモート OS の一致	いいえ
クライアントのリモート OS の一致なし	いいえ
Active Directory グループの一致	いいえ
Active Directory グループの一致がありません	いいえ
公開されたリソース名	いいえ

システム最適化

May 28, 2024

Workspace Environment Management (WEM) システムの最適化は、次の設定で構成されます。

- CPU 管理
- メモリ管理
- I/O 管理
- 高速ログオフ
- Citrix Optimizer
- マルチセッションの最適化

これらの設定は、エージェントマシンでのリソース使用量を抑えるように設計されています。これらは、解放されたリソースを他のアプリケーションで使用できるようにするのに役立ちます。これにより、サーバあたりのユーザー数が増え、ユーザー密度が高まります。

システム最適化の設定はマシンベースですべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。つまり、プロセスがユーザー A のセッションで CPU スパイク保護をトリガーすると、そのイベントはユーザー A に対してのみ記録されます。ユーザー B が同じプロセスを開始すると、プロセスの最適化動作は、ユーザー B のセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU 管理

これらの設定により、CPU 使用率を最適化できます。

プロセスはすべてのコアで実行でき、CPU を必要なだけ使い果たすことができます。WEM では、CPU 管理機能を使用して、個々のプロセスが使用できる CPU キャパシティを制限できます。CPU スパイク保護は、全体的な CPU

使用量を減らすようには設計されていません。CPU 使用率を過度に消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPU スパイク保護を有効にすると、プロセスが指定したしきい値に達すると、WEM はプロセスの優先度を一定時間自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先順位の低いプロセスよりも優先順位が高く、システムはスムーズに動作し続けます。

CPU スパイク保護は、各プロセスをすばやい「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が、指定したサンプル時間に対して指定された使用制限を超えると、その優先度はすぐに低下します。指定した時間が経過すると、プロセスの CPU 優先度は前の値に戻ります。プロセスは「スロットル」されません。**CPU** クランピングとは異なり、優先順位のみが下がります。

CPU スパイク保護は、個々のプロセスの少なくとも 1 つのインスタンスがしきい値を超えるまでトリガーされません。つまり、CPU の合計消費量が指定されたしきい値を超えた場合でも、少なくとも 1 つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPU スパイク保護はトリガーされません。ただし、そのプロセスインスタンスが CPU スパイク保護をトリガーすると、[インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションを有効にすると、同じプロセスの新しいインスタンスが (**CPU**) 最適化されます。

特定のプロセスが CPU スパイク保護をトリガーするたびに、イベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。つまり、user1 の特定のプロセスの CPU 最適化は、user2 の同じプロセスの動作には影響しません。

たとえば、Internet Explorer が CPU の 50~60% を消費することがある場合には、CPU スパイク保護を使用して、VDA のパフォーマンスを脅かすような iexplore.exe インスタンスのみをターゲットにすることができます。(これに対して、CPU クランプはすべてのプロセスに適用されます)。

サンプル時間を試して、同じ VDA にログオンしている他のユーザーに影響を与えない環境に最適な値を決定することをお勧めします。

CPU スパイク保護

注:

- 以下の設定の「CPU 使用率」は、物理マシンまたは仮想マシンの「論理プロセッサ」数に基づきます。CPU の各コアは、Windows と同じ方法で、論理プロセッサと見なされます。たとえば、6 コア CPU が 1 つ搭載された物理マシンは、12 個の論理プロセッサを搭載していると見なされます (ハイパースレッディングテクノロジーとは、コアが 2 倍になることを意味します)。8 x CPU を持つ物理マシンで、それぞれ 12 個のコアを持つ 96 個の論理プロセッサがあります。2 つの 4 コア CPU で構成された VM には、8 個の論理プロセッサがあります。
- 同じことが仮想マシンにも当てはまります。たとえば、8 個の CPU を持つ物理マシンがあり、それぞれに 12 個のコア (96 個の論理プロセッサ) があり、4 つのマルチセッション OS VDA 仮想マシンをサポートしているとします。各 VM は、2 つの 4 コア CPU (8 つの論理プロセッサ) で構成されます。仮想マシンで CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを制限し、そのコアの半分を使用するには、**CPU** コアの使用制限を 48 (物理マシンの論理プロセッサの半分) ではなく 4 (仮想マシンの論理プロセッサの半

分) に設定します。

有効にすると、一定時間 ([**Sample time limit**] フィールドで指定) の CPU 使用率を指定したパーセンテージを超えた場合に、プロセスの CPU 優先度を一定時間 ([**Idle priority time**] フィールドで指定) 低くします。

CPU スパイクを自動的に防止します。このオプションは、CPU に過負荷をかけるプロセスの CPU 優先度を自動的に下げます。このオプションは、論理プロセッサ (CPU コア) の数に基づいて CPU スパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、4 つのコアがあるとしします。このオプションを有効にすると、全体の CPU 使用率が 23% を超えると、CPU リソース全体の 15% 以上を消費するプロセスの CPU 優先順位が自動的に低下します。同様に、8 コアの場合、全体の CPU 使用率が 11% を超えると、CPU リソースの 8% 以上を消費するプロセスの CPU 優先順位が自動的に低下します。

CPU スパイク保護をカスタマイズします。CPU スパイク保護の設定をカスタマイズできます。

- **CPU** 使用率の上限。CPU スパイク保護をトリガーするためにプロセスインスタンスが到達する必要がある CPU 使用率の割合。この制限は、サーバ内のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンスごとに決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスでは、CPU スパイク保護トリガーを決定するときに、CPU 使用率の割合は加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPU スパイク保護はトリガーされません。たとえば、サーバー VDA で複数の同時セッションで、多数の `iexplore.exe` インスタンスが存在するとしします。各インスタンスは、一定期間中約 35% の CPU 使用率でピークに達しているため、累積的に、`iexplore.exe` は CPU 使用率の一貫して高い割合を消費しています。ただし、CPU 使用率の制限を 35% 以下に設定しない限り、CPU スパイク保護はトリガーされません。
- サンプル時間制限。プロセスが CPU プライオリティを下げる前に CPU 使用率の制限を超える必要がある時間。
- アイドル優先時間。プロセスの CPU プライオリティが低下する時間の長さ。この時間が経過すると、優先順位は次のいずれかに戻ります。
 - [CPU 優先度] タイルでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されていない場合の既定のレベル (**Normal**)。
 - [インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されているかどうかに関係なく、[CPU 優先度] タイルでプロセス優先度が指定されている場合に指定されるレベル。
 - プロセスの動作に応じてランダムなレベル。この状況は、[CPU 優先度] タイルでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されている場合に発生します。プロセスが CPU スパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、CPU の優先度は低くなります。

CPU コアの使用制限を有効にします。CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1 ~X の範囲の整数を入力します。X はコアの総数です。X より大きい整数を入力すると、WEM は分離されたプロセスの最大消費量を既定で X に制限します。

- **CPU** コアの使用制限です。CPU スパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VM の場合、入力する値によって、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM 内の論理プロセッサの数にプロセスが制限されます。

インテリジェントな **CPU** 最適化を有効にします。有効にすると、エージェントは CPU スパイク保護をトリガーするプロセスの CPU 優先度をインテリジェントに最適化します。CPU スパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正しく動作するプロセスよりも起動時の CPU 優先度が徐々に低くなります。WEM は、次のシステムプロセスに対して CPU 最適化を実行しません。

- Taskmgr
- System Idle Process
- System
- Svchost
- LSASS
- Wininit
- services
- csrss
- audiodg
- MsMpEng
- NisSrv
- mscorsvw
- VMWareResolutionset

インテリジェントな **I/O** 最適化を有効にします。有効にすると、エージェントは CPU スパイク保護をトリガーするプロセスのプロセス I/O 優先度をインテリジェントに最適化します。CPU スパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正しく動作するプロセスよりも起動時の I/O 優先度が徐々に低くなります。

プロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU 管理は、最も一般的な Citrix および Windows コアサービスプロセスのすべてを除外します。ただし、このオプションを使用して、CPU ** スパイク保護の実行名による除外リストからプロセスを追加または削除できます ** (例: notepad.exe)。通常、ウイルス対策プロセスは除外されません。

ヒント:

- セッションでディスク I/O を引き継ぐアンチウイルススキャンを停止するには、アンチウイルスプロセスの静的な I/O 優先度を [低] に設定することもできます。I/O 管理を参照してください。
- プロセスが CPU スパイク保護をトリガーし、プロセスの CPU 優先度が下がると、WEM はプロセスの CPU 優先度が下がるたびに警告を記録します。Norskale Agent Service の [アプリケーションログとサービスログ] の [イベントログ] で、[プロセスのプロセス制限スレッドの初期化中] を探します。

子プロセスが **CPU** 優先度を継承しないようにします。子プロセスが CPU 優先度を継承しないプロセスを指定します。

CPU スパイク保護オプション CPU スパイク保護を適用する方法を選択してください。

- **CPU** スパイクを自動的に防止します。このオプションを使用すると、システムの CPU 使用率 (単一の CPU コアに対する相対値) が 90% を超え、プロセスの CPU 使用率 (単一の CPU コアに対する相対値) が 80% を超えたときに、エージェントが CPU スパイク保護を実行できるようになります。

- **CPU** スパイク保護をカスタマイズします。CPU スパイク保護の設定をカスタマイズできます。
 - **CPU** 使用率の上限。CPU スパイク保護をトリガーするためにプロセスインスタンスが到達する必要がある CPU 使用率の割合。この制限は、サーバー上のすべての論理プロセッサに共通で、インスタンスごとに決定されます。1 つの CPU コアを基準にして制限を構成するには、「単一 **CPU** コアに対する制限の設定」オプションを使用します。

注:

- 整数値と非整数値の両方がサポートされています。整数値以外の値 (たとえば 37.5%) を入力すると、8 コアのプラットフォームで 3 つ以上のコアを使用するプロセスを制限できます。
- **1** つの **CPU** コアに対する制限を設定します。1 つの CPU コアを基準として CPU 使用量の制限を設定できます。値は 100% より大きくすることができます (たとえば 200% や 250%)。例: 値を 200% に設定すると、エージェントは 2 つ以上の CPU コアを使用するプロセスを最適化します。整数値と非整数値の両方がサポートされています。

注:

- **Customize CPU** スパイク保護を設定すると、グローバル CPU 使用率制限または単一の CPU コアに対する CPU 使用率制限のいずれか早い方に達したときに、CPU スパイク保護がトリガーされます。

CPU スパイク保護をトリガーするプロセスでは、エージェントは次の操作を実行できます。

- **[CPU コア使用量制限を有効にする]** オプションが選択されていない場合: エージェントはそれらのプロセスの CPU 優先度を下げます。
- **[CPU コア使用量制限を有効にする]** オプションが選択されている場合: エージェントはそれらのプロセスの CPU 優先度を下げ、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。

CPU スパイク保護を設定するときは、次の点に注意してください。

- 同じプロセスの複数のインスタンスでは、CPU スパイク保護トリガーを決定するときに、CPU 使用率の割合は加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPU スパイク保護はトリガーされません。たとえば、複数の同時セッションを持つマルチセッション VDA の場合、複数の chrome.exe プロセスがあります。CPU 使用率を計算するときに、それらの CPU 使用量は合計されません。

CPU スパイク保護のサンプリング時間 サンプル時間制限。CPU スパイク保護が適用されるまでに、プロセスが CPU 使用量の制限を超えなければならない時間の長さ。

CPU スパイク保護の優先度低下時間 アイドル優先時間。プロセスの CPU プライオリティが低下する時間の長さ。この時間が経過すると、優先順位は次のいずれかに戻ります。

CPU 優先度タイルにプロセス優先度が指定されておらず、かつ [インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されていない場合のデフォルトレベル (標準)。

CPU 優先度タイルでプロセスの優先度が指定されている場合は、「インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする」オ

プロセスが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベル。

プロセスの動作に応じて計算されたランダムレベル。この状況は、[CPU 優先度] タイルでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント CPU 最適化を有効にする] オプションが選択されている場合に発生します。プロセスが CPU スパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、CPU の優先度は低くなります。

その他のオプション **CPU** コアの使用制限を有効にします。このオプションを使用すると、CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の特定の数の論理プロセッサに制限できます。

CPU プライオリティ

有効にすると、プロセスの CPU 優先度を手動で設定できます。

これらの設定は、プロセスがリソースと競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスの CPU 優先度レベルを最適化できるため、CPU プロセッサ時間に対して競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようになります。プロセスが互いに競合する場合、優先順位の低いプロセスは、優先順位の高い他のプロセスの後に処理されます。したがって、CPU 全体の消費量の大きなシェアを消費する可能性は低くなります。

ここで設定するプロセスの優先順位は、プロセス内のすべてのスレッドの「基本優先順位」を確立します。スレッドの実際の「現在の」優先順位は高くなる可能性があります（ただし、ベースよりも低いことはありません）。1 台のコンピュータで複数のプロセスが実行されている場合、CPU 優先度レベルに基づいてプロセッサ時間が共有されます。プロセスの CPU 優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が割り当てられます。

注:

特定のプロセスで CPU の優先度を低く設定した場合、全体の CPU 消費量は必ずしも減少しません。CPU 使用率の割合に影響する他のプロセス（CPU プライオリティが高い）がある可能性があります。

プロセスを追加するには、[**Add process**] をクリックします。次の情報を指定し、[プロセスの保存] をクリックします。

- プロセス名。拡張子のないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は、「エクスプローラー」と入力します。
- **Priority**: プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が長くなります。アイドル、標準以下、標準、** 標準より上、** 高、リアルタイムから選択します。

ヒント:

ここで設定したプロセス CPU の優先順位は、エージェントが新しい設定を受け取り、プロセスが再起動されたときに有効になります。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

CPU アフィニティ

有効にすると、プロセスで使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDA で起動されるメモ帳のすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

プロセスを追加するには、[**Add process**] をクリックします。次の情報を指定し、[プロセスの保存] をクリックします。

- プロセス名。プロセスの実行可能ファイル名 (notepad.exe など)。
- アフィニティ。正の整数を入力します。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

CPU クランプ

有効にすると、プロセスが CPU の処理能力の指定した割合を超えて消費されるのを防ぐことができます。CPU クランプにより、CPU の処理能力の、指定した割合を超えるプロセスが使用されるのを防ぐことができます。WEM は、設定した指定された CPU パーセンテージに達したときに、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量の CPU を消費するのを防ぐことができます。

注:

- CPU クランプは、演算費用のかかるブルートフォースアプローチです。面倒なプロセスの CPU 使用率を人為的に低く抑えるには、静的 CPU 優先順位と CPU アフィニティをそのようなプロセスに割り当てると同時に、CPU スパイク保護を使用する方がよいでしょう。CPU クランプは、リソース管理では悪く悪名高いが、優先順位を落とすことができないプロセスを制御するために最もよく予約されています。
- CPU の処理能力のパーセンテージをプロセスに適用し、後で同じプロセスに対して異なるパーセンテージを構成したら、[エージェントホスト設定の更新] を選択して変更を有効にします。

設定したクランプングパーセンテージは、サーバ内の個々の CPU の総電力に適用されます。サーバに含まれる個々のコアには適用されません。(つまり、クアッドコア CPU の 10% は、1 つのコアの 10% ではなく、CPU 全体の 10% です)。

プロセスを追加するには、[**Add process**] をクリックします。次の情報を指定し、[プロセスの保存] をクリックします。

- プロセス名。プロセスの実行可能ファイル名 (notepad.exe など)。
- パーセンテージ。正の整数を入力します。

ヒント:

- WEM がプロセスをクランプしているとき、WEM クライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示すると、プロセスがクランプされていることを確認できます。

- また、CPU クランプが機能していることを確認するには、プロセスモニターを見て、CPU 消費量がクランプ率を上回らないことを確認します。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

メモリ管理

これらの設定により、WEM を通じてアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

これらの設定が有効になっている場合、WEM は、安定性を失うことなく、プロセスが使用しているメモリ量とプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM は、その違いを過剰なメモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスが消費する余分なメモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

タスクバーからアプリケーションを復元すると、最初是最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEM はユーザーがデスクトップセッション中に使用するすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションに複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで使用できます。この動作により、同じサーバー上でより多くのユーザーをサポートできるようになり、ユーザー密度が高まります。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する

有効にすると、指定した時間アイドル状態が続いたプロセスが、アイドル状態がなくなるまで余分なメモリを強制的に解放します。

アイドルサンプル時間。プロセスがアイドル状態とみなされ、その後に余分なメモリを強制的に解放するまでの時間を指定できます。この間、WEM は、安定性を失うことなく、プロセスが使用しているメモリ量と、プロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限。CPU 使用率のパーセンテージを指定して、この値を下回るとプロセスがアイドル状態とみなされます。デフォルトは 1% です。5% を超える値は使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドルと誤解され、そのメモリが解放される可能性があります。

最適化を制限します。WEM がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値制限を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外します。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名 (notepad.exe など) を指定します。

WEM は、次のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- rdpshell
- wfshell
- rdpclip
- wmiprvse
- dllhost
- audiodg
- msdtc
- mscorsvw
- spoolsv
- smss
- winlogon
- svchost
- taskmgr
- System Idle Process
- System
- LSASS
- wininit
- msixexec
- services
- csrss
- MsMpEng
- NisSrv
- Memory Compression

特定のプロセスに対するメモリ使用量の上限

有効にすると、プロセスが消費できるメモリの上限を設定して、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

警告:

特定のプロセスにメモリ使用量の制限を適用すると、システムの応答が遅くなるなど、意図しない影響が生じることがあります。

プロセスを追加するには、[**Add process**] をクリックします。次の情報を指定し、[プロセスの保存] をクリックします。

- プロセス名。追加するプロセスの名前 (notepad.exe など) を入力します。
- メモリ制限。メモリ使用量の上限を入力します。
- 制限タイプ。リストから制限モードを選択します。
 - ダイナミックリミット。指定したプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用すると、使用可能なメモリに応じてメモリ使用量

の制限が適用されます。そのため、指定したプロセスが消費するメモリが、指定した量を超える可能性があります。

- 静的制限。指定したプロセスに静的制限を適用できます。この設定では、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量が常に制限されます。適用すると、使用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定したメモリ量を超えるメモリを消費しないように制限します。その結果、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量に制限されます。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

入出力管理

これらの設定により、特定のプロセスの I/O 優先度を最適化して、ディスクやネットワーク I/O アクセスで競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。たとえば、I/O 管理設定を使用して、ディスク帯域幅が消費されるアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセスの優先順位は、プロセス内のすべてのスレッドの「基本優先順位」を確立します。スレッドの実際の「現在の」優先順位は高くなる可能性があります（ただし、ベースよりも低いことはありません）。一般に、Windows では、優先順位の低いスレッドよりも先に優先順位の高いスレッドにアクセスできます。

プロセス I/O 優先度

有効にすると、特定のプロセスの I/O 優先度を最適化して、ディスクやネットワーク I/O アクセスで競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにできます。

プロセスを追加するには、[**Add process**] をクリックします。次の情報を指定し、[プロセスの保存] をクリックします。

- プロセス名。拡張子を除いたプロセス実行可能ファイル名を入力します。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は、「エクスプローラー」と入力します。
- **I/O** プライオリティ。プロセス内のすべてのスレッドの「基本」優先度を入力します。プロセスの I/O 優先順位が高いほど、スレッドの I/O アクセスが早くなります。高、標準、低、非常に低いから選択します **。

ヒント:

ここで設定したプロセス I/O の優先順位は、エージェントが新しい設定を受け取り、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

高速ログオフ

これらの設定により、リモートセッションへの HDX 接続をただちに終了できます。これにより、ユーザーはセッションがすぐに終了したという印象をユーザーに与えます。ただし、セッション自体は、VDA のバックグラウンドでセッションログオフフェーズまで継続されます。

注:

高速ログオフは、Citrix 仮想アプリケーションと RDS リソースのみをサポートします。

有効にすると、この構成セットのすべてのユーザーに対して高速ログオフが有効になります。ユーザーはすぐにログアウトされますが、セッションのログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外するには、次の手順を実行します。

1. [指定したグループを除外] を選択し、[グループの追加] を選択します。[除外するグループを追加] ウィザードが表示されます。
2. ID タイプを選択します。
3. 追加するグループが存在するドメインを選択します。
4. [検索] ボックスに、追加するグループの名前を入力します。(検索では大文字と小文字は区別されません)。
5. プラスアイコンをクリックしてグループを追加します。
6. 終了したら、[保存] をクリックしてグループを追加し、[除外するグループを追加] ウィザードを終了します。

Citrix Optimizer

これらの設定により、ユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させることができます。Citrix Optimizer はユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化の推奨事項を適用します。

ユーザー環境を最適化するには、次の 2 つの方法があります。

- 組み込みのテンプレートを使用して最適化を実行します。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、特定の最適化を使用してカスタマイズした独自のテンプレートを作成し、Workspace Environment Management (WEM) にテンプレートを追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンの Citrix Optimizer が提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンの Citrix Optimizer を <https://support.citrix.com/article/CTX224676> でダウンロードします。テンプレートビルダー機能を使用すると、独自のカスタムテンプレートを作成して WEM にアップロードできます。
- エージェントホスト（WEM エージェントがインストールされているマシン）で、<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates フォルダに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、便利なフォルダにコピーします。仕様を反映するようにテンプレートファイルをカスタマイズし、カスタムテンプレートを WEM にアップロードします。

有効にすると、次の設定を構成できます。

毎週実行してください。選択すると、WEM は毎週最適化を実行します。[毎週実行] が選択されていない場合、WEM は次のように動作します。

- テンプレートを WEM に初めて追加すると、WEM は対応する最適化を実行します。後でそのテンプレートを変更しない限り、WEM は最適化を 1 回だけ実行します。変更には、OS への異なるテンプレートの適用、テンプレートの有効化または無効化が含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEM は最適化を 1 回実行します。

カスタム・テンプレートを追加するには、次の手順に従います。

1. [カスタムテンプレートを追加] をクリックします。
2. [カスタムテンプレートの追加] ウィザードで、次の手順を完了します。
 - a) [テンプレート名] で [参照] をクリックし、追加するテンプレートを選択します。
 - b) [適用可能なオペレーティングシステム] で、テンプレートを適用する 1 つまたは複数のオペレーティングシステムをリストから選択します。

ヒント：

一覧にはないが、テンプレートが適用される Windows 10 オペレーティングシステムを追加できます。ビルド番号を入力して、これらの OS を追加します。OS はセミコロン (;) で区切ってください。たとえば、2001; 2004。
 - c) 必要に応じてアクティブ化するグループを選択します。
 - d) [Save] をクリックします。

重要：

Citrix Optimizer では、カスタムテンプレートのエクスポートはサポートされていません。カスタムテンプレートの追加後は、ローカルコピーを保持します。

[State] 列のトグルを使用して、テンプレートの有効状態と無効状態を切り替えることができます。無効にすると、エージェントはテンプレートを処理せず、WEM はテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、[**Delete**] を選択します。注: 組み込みテンプレートは削除できません。

テンプレートを編集するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、[**Edit**] を選択します。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、[**Preview**] を選択します。

注:

非永続的な VDI 環境では、WEM は同じ動作に従います。マシンを再起動すると、環境に対するすべての変更が失われます。Citrix Optimizer の場合、WEM はマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

使用するテンプレートを自動的に選択します。使用するテンプレートが不明な場合は、このオプションを使用して、各 OS に対して最も一致するテンプレートを WEM で選択します。カスタムテンプレートを優先テンプレートとして使用する場合は、プレフィックスのカンマ区切りリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います:

```
-prefix_<os version>_<os build>  
-prefix_Server_<os version>_<os build>
```

レガシーコンソールの [詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブの [SQL 設定の更新遅延] オプションで指定した値によっては、**Citrix Optimizer** の設定に対する変更が有効になるまでに時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、[監視] > [管理] > [エージェント] に移動してエージェントを探し、[詳細] メニューから [**Citrix Optimizer** の処理] を選択します。

ヒント:

新しい変更がすぐに有効にならなくなる可能性があります。[**Citrix Optimizer** の処理] を選択する前に [エージェントホスト設定の更新] を選択することをお勧めします。

マルチセッション最適化

これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化し、接続セッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

マルチセッション OS マシンは、1 台のマシンから複数のセッションを実行し、アプリケーションとデスクトップをユーザーに配信します。切断されたセッションはアクティブなままになり、そのアプリケーションは引き続き実行されます。切断されたセッションは、同じマシン上で動作する接続されたデスクトップおよびアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化し、接続セッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッション OS マシンが最適化されます。デフォルトでは、マルチセッション最適化は無効になっています。この機能は、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続セッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが 1 分間切断されたままに

なった後、WEM エージェントは CPU と、セッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションの I/O 優先順位を下げます。エージェントは、セッションが消費できるメモリ・リソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEM は優先順位を復元し、制限を解除します。

グループを除外する

マルチセッション最適化の対象から特定のグループを除外するには、次の手順を実行します。

1. [指定したグループを除外] を選択し、[グループの追加] をクリックします。[除外するグループを追加] ウィザードが表示されます。
2. ID タイプを選択します。
3. 追加するグループが存在するドメインを選択します。
4. [検索] ボックスに、追加するグループの名前を入力します。グループのフルネームを入力します。(検索では大文字と小文字は区別されません)。
5. プラスアイコンをクリックしてグループを追加します。
6. 終了したら、[保存] をクリックしてグループを追加し、[除外するグループを追加] ウィザードを終了します。

プロセスの除外

特定のプロセスをマルチセッション最適化の対象から除外するには、[**Add process**] をクリックし、追加するプロセスを参照して [**Save process**] をクリックします。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

監視

July 13, 2022

[**Monitoring**] ノードでは、Workspace Environment Management (WEM) 展開の監視とトラブルシューティングに使用できる情報が提供され、管理タスクを実行できます。

モニタリングノードは、次のアイテムで構成されます。

- [**管理**]。ユーザとエージェントの統計情報、および管理アクティビティを表示できます。
 - ユーザー統計。展開に関するユーザー統計情報を表示します。
 - エージェント。エージェント情報を表示し、キャッシュのリフレッシュ、設定のリセット、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。

- **インサイト**。アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。構成セットのインサイトを有効にするには、[詳細設定] > [インサイト] ページに移動し、[最適化と使用状況に関するインサイトのためにデータの収集とアップロードを有効にする] を選択します。インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、[適用] をクリックします。
 - 最適化インサイト。指定した期間に CPU スパイク保護とメモリ使用量の最適化を最も頻繁にトリガーした上位 10 個のアプリケーションを表示します。
 - 使用状況の洞察。使用時間 (時間) 別の上位 10 個のアプリケーション、ユーザー数による上位 10 個のアプリケーションと、指定した期間に最も多くの CPU およびメモリリソースを消費した上位 10 個のアプリケーションが表示されます。
 - プロファイルコンテナインサイト。Profile Management と FSLogix コンテナのインサイトを表示します。
- **[レポート]**。展開を分析できるレポートを提供します。各レポートはテーブルレコードとして表示されます。

管理

April 10, 2024

ユーザーとエージェントの統計情報、および管理アクティビティを表示できます。

ユーザー統計

Workspace Environment Management (WEM) 展開に関するユーザー統計を表示します。ユーザーがエージェントマシンにログオンするたびに、関連情報が収集され、テーブルレコードとしてここに表示されます。

このページには次の情報が含まれています。

- **ユーザーサマリー**。すべての構成セットについて、エージェントマシンにログオンしたすべてのユーザーの数を表示します。
- **ユーザー履歴**。最終接続時刻 (協定世界時、UTC)、ユーザーが最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントの種類 (UI または CMD)、バージョンなど、すべての構成セットに関連付けられているすべてのユーザーの接続情報を表示します。

ヒント:

[Filter] を使用してリストをフィルタできます。たとえば、特定の構成セットの全ユーザー数と、指定した日付範囲内のユーザー数を表示します。

次の操作を実行できます：

- 更新。ユーザー統計の一覧を更新します。
- 期限切れのレコードを消去します。WEM サービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時間が 24 時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。期限切れのレコードがない場合は使用できません。注: このオプションは、[ユーザ ID] が [ローカルシステム] のレコードには使用できません。
- レコードを削除する。WEM サービスデータベースからレコードを削除します。エージェントを 1 つだけ選択し、対応するレコードの有効期限が切れている場合に使用できます。注: このオプションは、ユーザ ID が [ローカルシステム]、[ネットワークサービス]、または [NT Authority (ローカルサービス)] のレコードには使用できません。
- [エクスポート] をクリックします。各レコードのデータを CSV または JSON 形式でエクスポートし、Microsoft Excel などのプログラムで開くことができます。そのためには、次の手順を実行します。
 1. [エクスポート] をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
 2. 書き出し形式を選択します。使用可能なオプション: CSV および JSON。
 3. 必要に応じて、[エクスポートのコピーをローカルマシンに保存] を選択します。エクスポートは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
 4. [**Export**] をクリックして、エクスポート処理を開始します。

重要：

- 最大 50,000 件のレコードをエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位 50,000 件のみがエクスポートされます。フィルタを使用して、レコード数を 50,000 件以下に減らすことをお勧めします。
- エクスポートの実行中は、別のエクスポートを実行することはできません。
- エクスポートが 30 分以内に完了しない場合、そのエクスポートに関する通知は送信されません。後でエクスポート結果を表示するには、「ファイル」に移動します。
- ユーザー統計をエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。上限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、[ファイル] に移動し、不要なファイルを削除して空き容量を増やします。「[ファイル](#)」を参照してください。

エージェント

このページでは、エージェント情報を表示し、キャッシュのリフレッシュ、設定のリセット、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。

統計

このタブには、WEM 展開内のエージェントに関する統計が表示されます。WEM 展開内のエージェントに関する次の統計を表示できます。

- すべての構成セットについて、ユーザーがログオンしたエージェントの総数。

ヒント:

フィルタ条件に構成セットを指定すると、その構成セットに登録されたエージェントの総数が、過去 24 時間および過去 30 日間に登録されたエージェント数とともに表示されます。

- 構成セットに登録されたすべてのエージェントの接続情報。前回の接続時刻、前回接続したマシンの名前、エージェントのバージョンなどが含まれます。
- [同期状態] 列には、エージェントキャッシュと WEM サービスの前回の同期結果に関する情報が表示されません。
 - 成功 (チェックマークアイコン)。前回の同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
 - 不明 (感嘆符アイコン) 同期が進行中であるか、まだ開始されていないか、結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
 - 失敗 (エラーアイコン)。前回の同期が失敗したことを示します。
- [最近接続した] 列には、次の情報が表示されます。
 - オンライン (チェックマークアイコン)。エージェントがオンラインであることを示します。エージェントは一定の間隔で WEM サービスに統計情報をアップロードしました。
 - 空白の列フィールドは、エージェントがオフラインであることを示します。
- **Profile Management** 正常性列には、環境内の Profile Management の正常性ステータスに関する情報が表示されます。

Profile Management の健全性ステータスは、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行し、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントマシンの出力ファイルから特定の問題を特定できます (%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.json)。機能は、毎日、または WEM エージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、エージェントを選択し、アクションバーから [**Profile Management** の実行] ヘルスチェックを選択します。各ステータスチェックは、ステータスを返します。最新のステータスを表示するには、[更新] をクリックします。**Profile Management** の健全性列のアイコンは、ProProfile Management の正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

 - 良好 (チェックマークアイコン) Profile Management が良好な状態であることを示します。
 - 注意 (右上隅に青い点が付いたチェックマークアイコン)。Profile Management 許容可能な状態を特定します。

- 警告 (右上隅にオレンジ色の点が付いたチェックマークアイコン)。Profile Management の最適でない状態について通知します。最適ではない状態は、展開環境での Profile Management のユーザーエクスペリエンスに影響する場合があります。このステータスは、必ずしもユーザー側でのアクションを必要としません。詳細レポートを表示するには、[詳細] の **[Profile Management]** ヘルスチェックレポートの表示] オプションを使用します。
- エラー (エラーアイコン)。Profile Management が正しく構成されておらず、正しく機能していないことを示します。
- 無効 (無効アイコン)。Profile Management が見つからない、または有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックに経験が反映されない場合や、発生している問題が検出されない場合は、[Citrix テクニカルサポートに連絡してください](#)。

次の操作を実行できます：

- タスク履歴。過去 24 時間に開始されたエージェントタスクを一覧表示します。[エージェント] ページの [タスク履歴] をクリックすると、[タスク履歴] ページに移動し、開始されたタスクの進行状況と結果を確認できます。
- 表示する列。表示する列を選択して、テーブルをカスタマイズできます。
- 更新。エージェントの一覧を更新します。
- 期限切れのレコードを消去します。WEM サービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時間が 24 時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。期限切れのレコードがない場合は使用できません。
- 詳細を表示します。エージェントに関する詳細情報を表示できます。
- [エクスポート] をクリックします。各レコードのデータを CSV または JSON 形式でエクスポートし、Microsoft Excel などのプログラムで開くことができます。そのためには、次の手順を実行します。
 1. [エクスポート] をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
 2. 書き出し形式を選択します。使用可能なオプション:CSV および JSON。
 3. 必要に応じて、[エクスポートのコピーをローカルマシンに保存] を選択します。エクスポートは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
 4. [**Export**] をクリックして、エクスポート処理を開始します。

重要：

- 最大 50,000 件のレコードをエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位 50,000 件のみがエクスポートされます。フィルタを使用して、レコード数を 50,000 件以下に減らすことをお勧めします。
- エクスポートの実行中は、別のエクスポートを実行することはできません。
- エクスポートが 30 分以内に完了しない場合、そのエクスポートに関する通知は送信されません。後でエクスポート結果を表示するには、「ファイル」に移動します。

- エージェント統計をエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。上限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、[ファイル] に移動し、不要なファイルを削除して空き容量を増やします。「[ファイル](#)」を参照してください。

[その他] メニューでは次のオプションを使用できます。これらのオプションをドメインに参加していないエージェントや登録済みのエージェントに適用する場合は、次の点を考慮してください。

- エージェントはバージョン 2207.1.0.1 以降である必要があります。
- ターゲットエージェントには、これらのタスクの実行がすぐには通知されません。通知は、ターゲットエージェントまたは同じサブネット上の別のエージェントが Citrix Cloud に接続して設定を更新するときに送信されます。そのため、タスクがエージェント側で実行されるまで遅延が生じる可能性があります。同じサブネット上に存在するエージェントが多いほど、遅延は短くなります。
- 最大遅延は、**SQL** 設定の更新遅延の値の **1.5** 倍です。既定では、[**SQL** 設定の更新遅延] の値は 15 分です。「[サービスオプション](#)」を参照してください。そのため、その場合の最大遅延は 22.5 (1.5 x 15) 分です。

注:

[**More**] メニューは、選択したエージェントが 50 人以下の場合にのみ使用できます。

Agent	>	Refresh cache	Action (UTC+08:00)
Profile	>	Refresh agent host settings	22, 5:28:46 PM
Power management	>	Refresh UI-mode agent	22, 5:40:17 PM
Process Citrix Optimizer		Retrieve statistics from agent	22, 5:36:56 PM
Run scripted task			
Reset actions		onysin_Dev	Mar 22, 2022, 5:37:22 PM
Delete record		ult Site	Mar 22, 2022, 5:38:39 PM

エージェント:

- キャッシュをリフレッシュします。ローカルエージェントキャッシュ (WEM 構成データベースのエージェント側レプリカ) の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、ローカルエージェントキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。
- エージェントホストの設定を更新します。ユーザー環境内のエージェントサービス設定の更新をトリガーします。これらの設定には、詳細設定、最適化、トランスフォーマー、ユーザー以外が割り当てた設定が含まれません。
- **UI** モードエージェントをリフレッシュします。ユーザーが割り当てたアクションを WEM エージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。

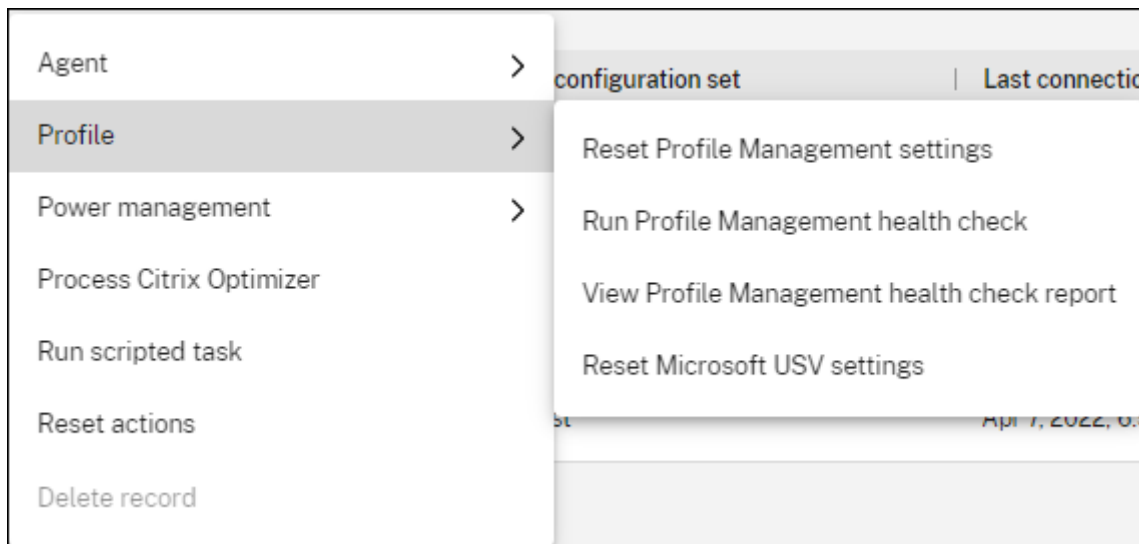
エージェントを更新すると、そのエージェントはインフラストラクチャサービスと通信します。インフラストラクチャサービスは、WEM データベースを使用してエージェントホスト ID を検証します。

重要:

- [**Refresh UI Mode agent**] オプションは、自動的に起動される (エンドユーザーまたはスクリプトを使用して起動されない) UI モードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMD モードのエージェントでは機能しません。
- すべての設定をリフレッシュできるわけではありません。一部の設定 (環境やグループポリシーの設定など) は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

- エージェントから統計情報を取得します。エージェントが統計情報をインフラストラクチャサービスにアップロードできるようにします。

更新操作はエージェント側でも実行できます。ただし、これらの操作は、実際の条件によって動作が異なります。詳細については、「[エージェント側の更新操作](#)」を参照してください。



プロフィール:

- **Profile Management** の設定をリセットします。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Profile Management の設定がエージェントに適用されていない場合は、[**Profile Management** 設定のリセット] をクリックします。このオプションを使用できるようにするには、[更新] をクリックする必要がある場合があります。

注:

WEM 管理コンソールから [**Profile Management** 設定のリセット] を構成した後に設定がエージェントに適用されない場合は、[CTX219086](#) で回避策を参照してください。

- **Profile Management** ヘルスチェックを実行します。ターゲットエージェントコンピュータでステータスチェックを実行し、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断します。このオプション







を選択すると、**Profile Management** ヘルスチェックの実行ウィザードが表示されます。ヘルスチェックレポートの対象とする Profile Management 設定を選択し、「実行」をクリックします。次のことに注意してください：

- デフォルトでは、ヘルスレポートにはすべての設定が含まれます。2205.1.0.1 より前のエージェントでは、レポートでカバーする設定の範囲に加えた変更は有効になりません。
- ヘルスレポートが表示されるまでに時間がかかる場合があります。[[レポート](#)] で、必要に応じてビューを更新します。
- [[レポートを表示](#)] をクリックして、レポートに直接アクセスします。

Task history ✕

Below are administrative tasks initiated in the last 24 hours. Expand each task to view details.

[↻ Refresh](#) [✕ Dismiss all](#)

-  **Refresh cache** ✕
Jan 19, 2024, 3:32:57 PM · 15 pending
-  **Run scripted task** [View reports](#) ✕
Jan 19, 2024, 2:47:36 PM · 3 complete, 1 failed, 2 pending
-  **Retrieve statistics from agent** ✕
Jan 19, 2024, 1:24:56 PM · 1 complete, 1 failed
-  **Run Profile Management health check** [View reports](#) ✕
Jan 19, 2024, 11:15:08 AM · 1 complete
-  **Wake** ✕
Jan 19, 2024, 10:28:31 AM · 8 complete
-  **Run scripted task** [View reports](#) ✕
Jan 19, 2024, 9:36:22 AM · 3 failed

[Close](#)

- **Profile Management** のヘルスチェックレポートを表示します。ターゲットエージェントマシンに関連する Profile Management の正常性レポートにすばやくアクセスできます。Profile Management の正常性レポートについて詳しくは、「[レポート](#)」を参照してください。
- **Microsoft USV** の設定をリセットします。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新しま

す。Microsoft USV 設定がエージェントに適用されていない場合は、[**Microsoft USV** 設定のリセット] をクリックします。このオプションを使用できるようにするには、[更新] をクリックする必要がある場合があります。

電源管理:

- シャットダウン。選択したエージェントをシャットダウンできます。
- 再起動。選択したエージェントを再起動できます。
- スリープ。選択したエージェントをスリープモードにすることができます。このオプションは、ターゲットマシンがスリープモードをサポートしている場合にのみ機能します。
- 休止状態。選択したエージェントを休止モードにすることができます。このオプションは、ターゲットマシンが休止モードをサポートしている場合にのみ機能します。
- ウェイク。選択したエージェントをウェイクアップできます。オプションを使用するには、[レガシーコンソール] > [詳細設定] > [構成] > [**Wake on LAN**] に移動し、[エージェントの **Wake on LAN** を有効にする] を選択します。また、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連する BIOS 設定が構成されていることを確認してください。詳しくは、「[Wake on LAN](#)」を参照してください。

ヒント:

- エージェントをシャットダウンまたは再起動するときに、シャットダウンまたは再起動が始まるまでの遅延（秒単位）を指定できます。指定した時間内にマシンをシャットダウンまたは再起動することを求めるプロンプトがユーザーに表示されます。シャットダウンプロンプトの例: `Your administrator has initiated the shutdown of your machine from the Workspace Environment Management console. The machine shuts down in 60 seconds..` 再起動プロンプトの例: `Your administrator has initiated the restart of your machine from the Workspace Environment Management console. The machine restarts in 60 seconds..`
- スリープと休止状態の違いを考えてみましょう。スリープモードでは、マシン上のすべてのアクションが停止し、開いているドキュメントとアプリケーションがメモリに格納されます。マシンは低電力状態になります。休止モードでは、開いているドキュメントと実行中のアプリケーションがハードディスクに保存されます。マシンは、ゼロパワーで完全にオフになります。
- ターゲットマシンがスリープモードと休止モードをサポートしていることを確認するには、マシンに移動し、次の PowerShell コマンドを実行します: `powercfg /a`.

Citrix Optimizer を処理します。Citrix Optimizer の設定に対する変更がすぐに反映されるように、設定をエージェントに適用します。

スクリプト化されたタスクを実行する。ターゲットエージェントマシンでスクリプト化されたタスクを実行できます。このオプションを選択すると、[スクリプト化されたタスクの実行] ウィザードが表示されます。次の設定を構成し、[**Run**] をクリックします。各設定の詳細については、「[スクリプト化されたタスク設定](#)」を参照してください。

注:

このオプションは、ドメインに参加していないエージェントには適用されません。

- **[タスク]**。実行するスクリプトタスクを選択します。
- スクリプト化されたタスクにパラメーターを渡します。スクリプトタスクにパラメーターを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクにパラメーター変数として入力を提供できます。
- 出力ファイル。タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択すると、タスクに対して生成されるレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境内のファイルにアクセスしなくても、出力ファイルの内容をレポートに表示できます。
- キーワードを強調表示します。レポートで強調したいキーワードを指定します。キーワードは複数入力できます。キーワードを入力したら、**Enter** キーを押して別のキーワードを追加します。指定すると、キーワードに一致するレポートコンテンツが、生成されたレポートの [出力ファイルの内容] セクションと [コンソール出力] セクションで強調表示されます。
- 正規表現の一致を強調表示します。強調表示するコンテンツを表す正規表現を入力します。正規表現は、PCRE 互換の .NET 正規表現ライブラリ構文に準拠している必要があります。詳細については、「[スクリプト化されたタスク設定](#)」を参照してください。

配信タスクを実行します。このオプションを有効にするには、同じ構成セットにバインドされたエージェントを選択します。配信タスクをすばやく実行するには、このページから配信タスクを実行することを選択できます。「配信タスクを実行」をクリックし、ドロップダウンリストから配信タスクを選択して、選択した配信タスクをエージェント上で実行します。どのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定するルールをタスクに設定した場合、オンデマンドタスクを実行する特定のエージェントを選択しても、それらのルールは無視されます。

リセットアクション。該当するエージェントマシン上のアクション関連のレジストリエントリをすべて消去して、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

レコードを削除する。WEM サービスデータベースからレコードを削除します。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションは使用できません。エージェントを 1 つだけ選択し、対応するレコードの有効期限が切れている場合に使用できます。

登録

このタブには、データベースに記録されているエージェントの登録ステータスが表示されます。

重要:

WEM エージェントは、設定を適用できるように WEM サービスに登録する必要があります。エージェントは 1 つの構成セットにのみバインドできます。

次の情報を表示できます。

- デバイス名。エージェントが実行されているマシンの名前。
- 登録ステータス。エージェントの登録ステータス: 登録済みまたは未登録。

- 説明。登録の成功または失敗に関する詳細情報を提供します。
 - エージェント<**agent name**>は構成セットにバインドされています <**configuration set name**>。WEM サービスが、マシンに依存する必要な設定を構成セットのエージェントに送信していることを示します。
 - エージェント<**agent name**>はどの構成セットにもバインドされていません。WEM サービスがエージェントに設定されている構成を解決できないことを示します。「バインドされていないエージェントに設定を適用」を有効にすると、「バインド解除されたエージェント」構成セットの設定がエージェントに適用されます。バインドされていないエージェントに設定を適用する方法の詳細については、「[ディレクトリオブジェクト](#)」を参照してください。
 - エージェント<**agent name**>は構成セットに複数回バインドされています <**configuration set name**>。WEM サービスがエージェントに設定を適用するのを妨げません。
 - **Citrix Endpoint Management Management** で管理するために、**WEM** サービスに登録されたエージェント<**agent name**>。Endpoint Management 対象エージェントにのみ表示されます。
 - エージェント<**agent name**>は複数の構成セットにバインドされています。エージェントが複数の構成セットにバインドされているため、WEM サービスがエージェントの構成セットを解決できないことを示します。

必要に応じて [検索] を使用して結果を絞り込みます。検索はデバイス名と説明に対してのみ実行されます。デフォルトでは、検索は未登録のエージェントのみに制限されます。制限を解除するには、[未登録のエージェントのみを表示] を有効にします。

登録エラーを解決するには、次のいずれかを実行します：

- Active Directory 階層 (コンピューター、コンピューターグループ、OU 間の関係) を編集して、エージェントが同じ構成セットに複数回バインドされないようにします。
- エージェントが 1 つの構成セットにのみバインドされるように、[ディレクトリオブジェクトの WEM 階層](#)を編集します。
- 「Unbound Agents」構成セットの設定がバインドされていないエージェント (**Directory Objects** にまだ追加していないエージェント) に適用されるように、設定をバインドされていないエージェントに適用します (まだ適用されていない場合)。

これらの変更を行った後、**UI** モードエージェントの更新オプションを使用してエージェントを更新します。

Profile Management ヘルスチェックを構成する

WEM は、Citrix Profile Management がエージェントマシンで最適に構成されているかどうかを確認できます。詳しくは、「[Profile Management ヘルスチェックの構成](#)」を参照してください。

識見

October 26, 2023

プロファイルコンテナとアプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。

最適化に関する洞察

このページには、次の 2 つの棒グラフが含まれています。

- **CPU** 最適化による上位 **20** のアプリケーション指定した期間に CPU スパイク保護を最も頻繁にトリガーした上位 10 個のアプリケーションを表示します。
- メモリ最適化による上位 **20** のアプリケーション。指定した期間にメモリ使用量の最適化を最も頻繁にトリガーした上位 10 個のアプリケーションを表示します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、[適用] をクリックします。その後、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

重要:

- 構成セットのデータをグラフに表示するには、その構成セットのインサイトを有効にする必要があります。構成セットのインサイトを有効にするには、[詳細設定] > [インサイト] ページに移動します。チャートには、以前に収集されたデータに基づくインサイトが表示されます。
- 最適化インサイトデータは、CPU またはメモリ管理を有効にするまで使用できません。

除外アプリケーション

最適化インサイト (棒グラフ) からアプリケーションを除外できます。除外するアプリケーションを指定するには、次の手順を実行します。

- [追加] をクリックします。
- 棒グラフに記載されているアプリケーションの名前を入力します。
- **Enter** キーを押して保存するか、[**Shift**] + [**Enter**] を押して保存し、別のエントリを開始します。
- ウィザードの指示に従って、追加したアプリケーションを編集および削除することもできます。

使用状況の洞察

このページには、次の 4 つの棒グラフが含まれています。

- 使用時間 (時間) 別の上位 **20** 個のアプリケーション
- ユーザー数別の上位 **20** のアプリケーション
- **CPU** 使用率 (%) 別の上位 **20** 個のアプリケーション。指定した期間に最も多くの CPU リソースを消費した上位 10 個のアプリケーションを表示します。
- メモリ使用量 (**MB**) 別の上位 **20** 個のアプリケーション指定した期間に最も多くのメモリリソースを消費した上位 10 個のアプリケーションを表示します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、[適用] をクリックします。その後、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

重要:

チャートに構成セットのデータを表示するには、その構成セットのインサイトを有効にする必要があります。構成セットのインサイトを有効にするには、[詳細設定] > [インサイト] ページに移動します。チャートには、以前に収集されたデータに基づくインサイトが表示されます。

除外アプリケーション

使用状況分析 (棒グラフ) からアプリケーションを除外できます。除外するアプリケーションを指定するには、次の手順を実行します。

- [追加] をクリックします。
- 棒グラフに記載されているアプリケーションの名前を入力します。アプリケーションの名前を入力する場合、拡張子は含まれません。
- **Enter** キーを押して保存するか、[**Shift**] + [**Enter**] を押して保存し、別のエントリを開始します。
- ウィザードの指示に従って、追加したアプリケーションを編集および削除することもできます。

プロファイルコンテナに関するインサイト

この機能は、Profile Management および FsLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用するセッションのステータス、検出された問題などに関する洞察を提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

まとめ

このページには 2 つのドーナツチャートが含まれています。グラフの各セグメントをクリックすると、ドリルダウンして詳細を表示できます。

- スペース使用量。左側のグラフには、指定した期間におけるプロファイルコンテナのスペース使用量が表示されます。数値は、そのカテゴリのプロファイルコンテナの数を表します。

- セッションステータス。右側のグラフには、指定した期間に確立されたセッションのプロファイルコンテナをアタッチした結果が表示されます。数値は、そのカテゴリのセッション数を表します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、[適用] をクリックします。その後、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

次の設定を構成できます。

- 使用領域が **(GB)** を超えると、領域の使用率が高くなります。しきい値を超えると、プロファイルコンテナのスペース使用量を高い値として扱うことができます。正の整数を入力します。
- 使用領域が **(GB)** 未満の場合、領域の使用率は低くなります。しきい値を下回って、プロファイルコンテナのスペース使用量を低値として扱うことができます。正の整数を入力します。

注記:

- 上限しきい値は、下限しきい値よりも大きくする必要があります。
- 上限と下限の閾値を指定したら、「更新」をクリックして「使用済みスペース」グラフの更新をトリガーします。
- 上限しきい値および下限しきい値を指定した後、その間の領域使用量はデフォルトで [中 (**Medium**)] になります。

コンテナステータスのプロファイル

このページには、指定した期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードの一覧が表示されます。レコードをフィルタするには、構成セットと日付範囲を選択し、[**Apply**] をクリックします。必要に応じて、フィルタを使用して結果をさらに絞り込むことができます。

次の操作を実行できます。

- 表示する列。テーブルの表示をカスタマイズできます。列をカスタマイズする場合は、少なくとも 2 つの列を選択する必要があります。カスタマイズの完了後、テーブルが更新され、選択した列が表示されます。
- 更新。ステータスレコードの一覧を更新します。
- 最新のステータスを取得します。選択したレコードが属するコンテナのデータの収集をトリガします。このオプションを選択すると、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。

注記:

コンテナが使用中の場合、エージェントは関連データの収集を試みます。成功すると、コンテナの最新レコードで最新のステータスが更新されます。更新が完了するまでに時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、[**Refresh**] をクリックします。

[**Attach status**] 列には、ステータスコードとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードについては、Microsoft

のドキュメントを参照してください。 <https://docs.microsoft.com/en-us/fslogix/fslogix-error-codes-reference>

[大容量ファイルスキャン]列には、大容量ファイルスキャンの結果に関する情報が表示されます。構成セットに対して大容量ファイルのスキャンを有効にするには、[詳細設定] > [Insights] ページに移動します。レコードの大容量ファイルのスキャン結果の詳細を表示するには、該当する列フィールドの [Results] をクリックします。大容量ファイルスキャンウィザードが開き、プロファイルコンテナーで実行された大容量ファイルスキャンの結果が表示されます。100 MB 未満のファイルおよびフォルダは個別には表示されません。

レポート

January 11, 2024

展開を分析できるレポートを提供します。

はじめに

このページには、展開を分析できるレポートが表示されます。レポートはイベントごとに生成されます。ただし、すべてのイベントが対応するレポートを生成するわけではありません。現在、次のタイプのイベントがレポートを生成します。

- アプリケーションセキュリティログ
 - アプリケーションセキュリティログを有効にするたびに、対応するレコードが生成されます。これらの記録は 4 時間ごとに 1 つのレポートにまとめられます。各レポートの詳細内で、管理者はログをサブタイプ別に表示できます。この表には、使用したフィルター、イベント時間、イベントタイプ ******、****** 結果コード、****** 結果サマリー、****** 重要度、エージェントとユーザーのリスト、構成セットなどの情報が含まれています。この表には、次のサブタイプも含まれています。
 - **EXE** と **DLL**
 - **MSI** とスクリプト
 - パッケージアプリのデプロイ
 - パッケージアプリの実行

アプリケーションセキュリティログを有効にすると、**4** つの **EXE** と **DLL**、MSI とスクリプト、パッケージ型アプリケーションの展開、およびパッケージ型アプリケーションの実行サブタイプレポートを Web コンソールですべて表示できますが、各サブタイプに対応するレポートを個別に表示することはできません。この表には、[時間]、[ルール名]、[イベント ID]、[ターゲット]、[結果] の各フィールドのログが表示されます。この選択の結果は、[許可]、[監査済み]、または [ブロック] になります。

- 権限昇格とプロセス階層制御ログ

- ****** 権限昇格とプロセス階層制御ログを有効にするたびに、対応するレコードが生成されます。これらの記録は 4 時間ごとに 1 つのレポートにまとめられます。各レポートの詳細内で、管理者はログをサブタイプ別に表示できます。この表には、使用したフィルター、****** イベント時間、****** イベントタイプ、****** 結果コード、****** 結果サマリー、****** 重要度、エージェントとユーザーのリスト、構成セットなどの情報が含まれています。4 つのセキュリティ項目から選択して、詳細を表示できます。
- **EXE** 権限昇格。**EXE** 権限昇格サブタイプを選択すると、テーブルには [時間]、[プロセス]、[コマンドライン]、[ルール名]、および [結果] の各フィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のどちらかになります。
- **MSI** 権限昇格。**MSI** 権限昇格サブタイプを選択すると、テーブルには [時間]、[パッケージ]、[コマンドライン]、[ルール名]、[結果] の各フィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のどちらかになります。
- セルフエレベーション。自己昇格サブタイプを選択すると、テーブルには [****** 時間]、[プロセス]、[ルール名]、[理由]、[結果] の各フィールドのログが表示されます。****** 昇格の結果は、成功または失敗のどちらかになります。

注:

「失敗のみを表示」トグルを有効にすると、結果が「失敗」のレコードのみが表示され、残りは非表示になります。

- プロセス階層制御。プロセス階層制御サブタイプを選択すると、テーブルには「時間」、「子プロセス」、「親プロセス ID」、「ルール名」、および「結果」の各フィールドのログが表示されます。この選択の結果、ブロックされたアクティビティまたは許可されたアクティビティが表示されます。

注:

- 各サブタイプで少なくとも 1 つの障害が発生すると、セキュリティアスペクトタブにエラーアイコンが表示されます。
- [ブロックのみ表示] トグルを有効にすると、結果が [ブロック済み] のレコードのみが表示され、残りは非表示になります。

- アクション処理結果

- アクションが割り当てられるたびに、対応するレコードが生成されます。これらの記録は 4 時間ごとに 1 つのレポートにまとめられます。レポートには、エージェントマシンにログオンしているユーザーのすべてのアクション処理結果が含まれます。アクションタイプを選択すると、詳細を表形式で表示できます。このテーブルには、アクションの名前、アクションが割り当てられているユーザー、使用されたフィルター、処理結果 (ステータス) などの情報が含まれます。次の 3 つのステータスがあります。
 - * **適用 (処理済み)**。アクションがターゲットユーザーに正常に適用された (または正常に処理された) ことを意味します。

- ★ 時代遅れ。処理されたアクションが最新ではないことを意味します。これは、アクションが更新されてもまだ適用されていない場合に発生します。
- ★ [エラー]。アクションの適用中にエラーが発生しました。トラブルシューティングを行うには、デバッグモードを有効にしてエージェントのログを表示します。「[ログファイルの表示](#)」を参照してください。
- 現在、表示できるのはグループポリシー設定と JSON ファイル処理結果のみです。結果収集を有効にするには、「[監視設定](#)」を参照してください。
- スクリプト化されたタスク
 - タスクが実行されるたびに、対応するレポートが生成されます。レポートには、タスクの実行日時、タスクの実行結果などに関する情報が含まれます。
 - 組み込みタスクとカスタムタスクの両方でレポートが生成されます。これらのレポートには、定義済みのレポートデータがあります。カスタムタスクを追加する場合、レポートするデータをカスタマイズできます。定義済みのレポートデータがニーズに合わない場合は、拡張データを使用してさらに分析することを検討してください。
- コンテナステータスのプロファイル
 - プロファイルコンテナがアタッチされるたびに、対応するアタッチレコードが生成されます。これらの記録は、毎日 1 つのレポートに統合されます。このレポートには、プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用するセッションのステータス、検出された問題などに関する情報が含まれます。この情報を使用して、プロファイルコンテナのストレージ使用量を追跡し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定できます。
- 最適化と使い方
 - [[詳細設定](#)] > [**** インサイト**] ページの構成セットで [[最適化および使用状況インサイトのためのデータ収集とアップロードを有効にする **](#)] を有効にすると、エージェントは最適化データと使用状況データを毎日収集してアップロードします。収集されたデータに基づいてレポートが生成されます。
- 最適化と使用状況に関する洞察
 - 構成セットにインサイトを適用するたびに、最適化と使用状況に関する対応するレポートが生成されます。このレポートにより、アプリケーションの動作に関する洞察を得ることができます。使用状況と最適化に関するインサイトを 1 つのレポートに集約します。

注:

[[監視](#)] ** [**** インサイト**] の [[最適化インサイト](#)] または [[使用状況インサイト](#)] ページで、構成セットと日付範囲を選択してインサイトを適用します。同じ構成セットと日付範囲を使用して適用されたインサイトのレポートは 1 つだけ保持されます。同じ構成セットと日付範囲を使用してインサイトを適用すると、後でレポートが更新されます。

- **Profile Management** ヘルスチェック

- エージェントは、Profile Management ヘルスチェックを 24 時間ごとに、またはオンデマンドで実行します。次に、対応するレポートが生成されます。レポートには、次の要素が含まれています：
 - * レポートが生成された日時
 - * 関連するエージェントや構成セットなどの詳細情報
 - * 問題 (エラーや警告など) が分かり、修正の推奨事項
- ** エラー/警告を修正し、必要な **Profile Management** 設定に到達するには、「** エージェント」ページの「統計」タブで「詳細」>「プロファイル」>「**Profile Management** ヘルスチェックレポートを表示」をクリックすると、「レポート」ページが表示されます。** 次に、「** 結果」の「**Profile Management** 設定」を選択して、「Profile Management」の「ヘルスチェック」ページの「** 詳細」タブで Profile Management** 設定を変更または更新できます。これにより、「Profile Management」設定ページが表示されます。対応する設定が強調表示されているフッターのすべてのエラー/警告を順に表示し、構成に必要な変更を加えることができます。
- Profile Management の設定を変更するには、「**Profile Management 設定**」に移動します。レポートの対象となる設定の範囲をカスタマイズするには、その構成セットの下にある [[詳細設定]> **監視設定**] に移動します。
- アプリケーション配信タスク結果イベントタイプを選択してフィルターを設定した場合、エージェントは対応するレポートのみを表示します。ただし、** アプリケーション配信タスクの結果ページには未加工データのみが表示されます **。

各レポートはテーブルレコードとして表示されます。これらのレポートは、アクションを知らせる有用な診断情報を提供します。たとえば、イベントの重大度に基づいてレポートをチェックできます。重大度に基づいて、実行するアクションを決定できます。

ヒント:

組み込みのスクリプト化されたタスクレポートなど、特定のレポートには、重大度のレベルが事前に定義されています。

スクリプト化されたタスクの場合、[**Result Code**] 列には次の情報が表示されます。

- **0:** タスクが正常に実行されたことを示します。
- **-4:** 指定した実行可能ファイルのチェックサムを検証しようとして失敗した場合に表示されます。
- **-5:** 実行可能ファイルの署名の検証に失敗した場合に表示されます。考えられる原因: 実行可能ファイルの末尾に有効な署名がない、または証明書がないために署名の検証に失敗している。
- **-8:** タイムアウトによりタスクがキャンセルされた場合に表示されます。

プロファイルコンテナステータスの結果コード (ステータスコード) については、Microsoft のドキュメントを参照してください。 <https://docs.microsoft.com/en-us/fslogix/fslogix-error-codes-reference> 注意: 「-1」は WEM がステータスコードを取得しない可能性があることを意味します。

表示する列とフィルタ

テーブルの表示はカスタマイズできます。[表示する列]をクリックして、表示する列を選択します。列をカスタマイズする場合は、少なくとも2つの列を選択する必要があります。カスタマイズの完了後、テーブルが更新され、選択した列が表示されます。

列ヘッダーをクリックして並べ替えることができます。フィルタを適用してレポートをフィルタできます。

レポートの詳細を表示する

レポートを選択すると、より詳細な情報を表示できます。そのためには、レポートを探し、右側の省略記号をクリックします。レポートウィザードが表示されます。このタブには2つのタブがあります。

- **詳細**。詳細な結果サマリーを提供します。
- **生データ**。レポートに関連する生データを提供します。拡張データはJSON形式です。必要に応じて、詳細な分析に拡張データを使用します。

正規表現の一致をハイライト表示が有効になっているスクリプトタスクでは、レポートの[**Details**]タブに次のオプションが表示されます。

- **正規表現の一致を表示します**。正規表現の一致を詳細に表示できます。

レポートのエクスポート

各レポートのデータはCSVまたはJSON形式でエクスポートできます。そのためには、次の手順を実行します。

1. [エクスポート]をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
2. 次のオプションからエクスポート形式を選択します。
 - **CSV**。このオプションでは、未加工データをCSV形式でエクスポートします。
 - **CSV (フォーマット済み)**。この選択により、CSV形式の拡張データが読みやすくなります。
 - **JSON**。このオプションは、未加工データをJSON形式でエクスポートします。
 - **JSON (フォーマット済み)**。この選択により、JSON形式の拡張データが読みやすくなります。

さらに、レポートの内容が`variable = value`または`variable: value`の形式に従っている場合、フォーマットされたオプションはスクリプトタスクレポートを変数に解析できます。ただし、**CSV (フォーマット)** オプションを選択した場合、エクスポートされたデータで余分な数の列の一部が省略されることがあります。

1. 必要に応じて、[エクスポートのコピーをローカルマシンに保存]を選択します。エクスポートは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
2. [**Export**]をクリックして、エクスポート処理を開始します。

重要:

- 最大 50,000 件のレコード (レポート) をエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位 50,000 件のみがエクスポートされます。フィルタを使用して、レコード数を 50,000 件以下に減らすことをお勧めします。
- エクスポートの実行中は、別のエクスポートを実行することはできません。
- エクスポートが 30 分以内に完了しない場合、そのエクスポートに関する通知は送信されません。[ファイル] に移動して、エクスポート結果を後で確認します。
- レポートをエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。上限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、[ファイル] に移動し、不要なファイルを削除して空き容量を増やします。「[ファイル](#)」を参照してください。

ユーザーエクスペリエンス

November 6, 2020

管理コンソールの起動

1. [スタート] メニューから **[Citrix] > [Workspace Environment Management] > [WEM 管理コンソール]** を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断状態で起動します。
2. 管理コンソールのリボンで、**[接続]** をクリックします。
3. **[新しいインフラストラクチャサーバー接続]** ウィンドウで、インフラストラクチャサーバーのアドレスを入力し、**[接続]** をクリックします。

インストールの構成

管理コンソールで、次の操作を行います。

1. 左下のペインでメニュー項目をクリックすると、その上のペインにサブセクションが表示されます。
2. サブセクション項目をクリックして、メインウィンドウ領域に適切なコンテンツを設定します。
3. 必要に応じて構成を変更します。使用できる設定の詳細については、[ユーザーインターフェイスリファレンス](#) を参照してください。

リボン

January 21, 2022

【ホーム】タブ

【ホーム】タブには、次のコントロールがあります。

接続。管理コンソールを指定されたインフラストラクチャサーバーに接続します。[新しいインフラストラクチャサーバー接続] ダイアログで、次のように指定します。

- インフラストラクチャサーバー名。接続するインフラストラクチャサーバーの名前。
- 管理ポート。インフラストラクチャサービスに接続するポート。デフォルト値の 8284 があらかじめ入力されています。

【切断】。管理コンソールを現在のインフラストラクチャサービスから切断します。これにより、管理者は、1つのコンソールから切断して別のコンソールに接続することで、複数のインフラストラクチャサービスを管理できます。

構成セット。Workspace Environment Management (WEM) サイト (構成セット) から別のサイト (構成セット) に切り替えます。

作成。「構成セットの作成」ウィンドウを開きます。複数の WEM サイト (構成セット) を設定できます。

- **Name**: リボンの構成セットリストに表示されるサイト (構成セット) 名。
- **【説明】**。サイトエディションのウィンドウに表示されるサイト (構成セット) の説明。
- サイトの状態。サイト (構成セット) が [有効] か [無効] かを切り替えます。[無効] の場合、WEM エージェントはサイト (構成セット) に接続できません。

編集。「構成セットの編集」ウィンドウが開き、「構成セットの作成」ウィンドウと同様のオプションが表示されます。

【削除】。サイト (構成セット) を削除します。WEM が機能するためには「デフォルトサイト」が必要なため、削除できません。ただし、名前を変更することはできます。

更新。サイト (構成セット) リストを更新します。

注:

別の管理コンソールからサイトを作成しても、一覧は自動的に更新されません。

バックアップ。[バックアップ] ウィザードを開き、現在の設定のバックアップコピーを WEM 管理コンソールマシンに保存します。アクション、設定、セキュリティ設定、および Active Directory (AD) オブジェクトをバックアップできます。

- アクション。選択した WEM [アクションをバックアップします](#)。各タイプのアクションは、個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。
- 設定。選択した WEM 設定をバックアップします。各タイプの設定は、個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。

- [セキュリティ設定]。[セキュリティ] タブにあるすべての設定をバックアップします。各タイプの規則は、個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
 - **AppLocker** ルールの設定
 - 特権昇格の設定
- **AD** オブジェクト。WEM が管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位をバックアップします。バックアップウィザードでは、バックアップする AD オブジェクトの種類を指定できます。AD オブジェクトには、次の 2 種類があります。
 - [ユーザー]。単一ユーザーおよびユーザー・グループ
 - マシン。単一のマシン、マシングループ、および OU
- 構成セット。選択した WEM 構成セットをバックアップします。各タイプの構成セットは個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。バックアップできるのは、現在の構成セットだけです。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
 - アクション
 - AppLockers
 - 割り当て (アクションとアクショングループに関連する)
 - フィルター
 - ユーザー
 - 設定 (WEM 設定)

次の項目はバックアップできません。

- マシンに関連する AD オブジェクト (単一マシン、マシングループ、および OU)
- データのモニタリング (統計およびレポート)
- 構成セットに登録されているエージェント

復元。復元ウィザードを開き、以前にバックアップした WEM サービス設定に戻します。プロンプトが表示されたら、バックアップコピー (.XML ファイル) を含む適切なフォルダを選択します。

- [セキュリティ設定]。[セキュリティ] タブにあるすべての設定を復元します。バックアップファイル内の設定は、現在の構成セットの既存の設定と置き換えられます。[セキュリティ] タブに切り替えるか、[セキュリティ] タブを更新すると、無効なアプリケーションセキュリティ規則が検出されます。これらのルールは自動的に削除されます。削除されたルールは、必要に応じてエクスポートできるレポートに一覧表示されます。[リストア] ウィザードでは、復元する対象を選択できます。
 - **AppLocker** ルールの設定
 - 特権昇格の設定
 - * 既存の設定を上書きします。競合が発生した場合に、既存の権限昇格設定を上書きするかどうかを制御します。

[アプリケーションセキュリティ規則の割り当ての確認] ダイアログで、[はい] または [いいえ] を選択して、復元ウィザードでアプリケーションセキュリティ規則の割り当てを処理する方法を指定します。

- [はい] を選択すると、現在のサイトのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当ての復元が試行されます。再割り当ては、バックアップされたユーザーまたはグループが現在のサイトまたは AD に存在する場合のみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままになり、CSV 形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。
 - [いいえ] を選択すると、バックアップ内のすべてのルールが復元され、サイトのユーザーおよびユーザーグループに割り当てられません。
- **AD** オブジェクト。バックアップした AD オブジェクトを既存のサイトに復元します。復元 ウィザードでは、インポートする AD オブジェクトを細かく制御できます。[復元する **AD** オブジェクトを選択] ページで、復元する AD オブジェクトと、既存の WEM AD オブジェクトを上書き（置き換える）かどうかを指定できます。
 - 構成セット。バックアップされた構成セットを WEM に復元します。一度に復元できる構成セットは 1 つだけです。WEM 管理コンソールに、復元した構成セットが反映されるまでしばらく時間がかかることがあります。復元された構成セットを表示するには、リボンの「構成セット」(Configuration set) メニューから構成セットを選択します。同じ名前の構成セットがすでに存在する場合は、構成セットを復元するときに、WEM はその名前を自動的に `<configuration set name>_1` に変更します。

注:

- 復元されたアクションは、既存のサイトアクションに追加されます。
- 復元された設定は、既存のサイト設定を置き換えます。
- 復元された AD オブジェクトは、復元ウィザードの [AD オブジェクト] ページで [上書きモード] を選択したかどうかに応じて、既存のサイト AD オブジェクトに追加または置換されます。
- [上書き] モードを選択した場合、復元プロセスが開始される前に既存のすべての AD オブジェクトが削除されます。

移行。移行ウィザードを開き、グループポリシーオブジェクト (GPO) の zip バックアップを WEM に移行します。

重要:

- 移行ウィザードでは、WEM がサポートしている設定 (GPO) のみが移行されます。
- 移行プロセスを開始する前に、既存の設定をバックアップすることをお勧めします。

GPO をバックアップするには、次の手順を実行することをお勧めします。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. [グループポリシーの管理] ウィンドウで、バックアップする GPO を右クリックし、[バックアップ] を選択します。
3. [グループポリシーオブジェクトのバックアップ] ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。オプションで、バックアップに説明を与えることができます。
4. [バックアップ] をクリックしてバックアップを開始し、[OK] をクリックします。

5. バックアップフォルダに移動し、zip ファイルに圧縮します。

注:

WEM では、複数の GPO バックアップフォルダを含む zip ファイルの移行もサポートしています。

GPO を正常にバックアップしたら、[移行] をクリックして GPO を WEM に移行します。[移行するファイル] ページで、[参照] をクリックし、該当するファイルに移動します。

- 上書き。競合が発生すると、既存の WEM 設定 (GPO) を上書きします。
- 変換。GPO を WEM へのインポートに適した XML ファイルに変換します。インポートする設定を細かく制御する場合は、このオプションを選択します。変換が正常に完了したら、[復元] ウィザードを使用して XML ファイルを手動でインポートします。

注:

出力フォルダには名前を付けることができますが、保存するファイルの名前を指定することはできません。

[概要] タブ

[バージョン情報] タブには、次のコントロールがあります。

ライセンスサーバーを構成します。Citrix License Server のアドレスを指定できます。指定しない場合、管理コンソールでは設定を変更できません。または、[インフラストラクチャサービス構成ユーティリティ](#)の [ライセンス] タブを使用して、これらの資格情報を指定することもできます。どちらの場合も、Citrix ライセンスサーバーの情報はデータベース内の同じ場所に保存されます。

ヘルプを入手してください。Citrix 製品ドキュメント Web サイトを Web ブラウザウィンドウで開きます。

オプション。管理コンソールの [オプション] ダイアログを開きます。これらのオプションは、管理コンソールのローカルインスタンスに固有です。

- 自動管理ログオン。有効にすると、管理コンソールは起動時に最後に接続したインフラストラクチャサービスに自動的に接続します。
- デバッグモードを有効にします。管理コンソールの詳細ログを有効にします。ログは、現在のユーザーの「Users」フォルダのルートに作成されます。
- コンソールスキン。管理コンソールのみ、さまざまなスキンから選択できます。
- ポート番号。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートをカスタマイズできます。このポートは、インフラストラクチャサービス設定で設定されたポートと一致する必要があります。

について。管理コンソールの現在のバージョンとライセンス (ライセンスの種類、登録、および数)、および法的情報が一覧表示されます。

アクション

April 8, 2021

Workspace Environment Management は、使いやすいアクションを提供することで、Workspace 構成プロセスを合理化します。アクションには、アプリケーション、プリンタ、ネットワークドライブ、外部タスクなどの管理が含まれます。割り当てを使用して、ユーザーがアクションを使用できるようにすることができます。Workspace Environment Management には、割り当てをコンテキスト化するためのフィルタも用意されています。

- アクションには、次の管理が含まれます。
 - 操作グループ
 - グループポリシーの設定
 - アプリケーション
 - プリンター
 - ネットワークドライブ
 - 仮想ドライブ
 - レジストリエントリ
 - 環境変数
 - ポート
 - INI ファイル
 - 外部タスク
 - ファイルシステム操作
 - ユーザー DSN
 - ファイルの関連付け
- フィルタ
- 割り当て

操作グループ

July 13, 2022

アクショングループ機能を使用すると、最初にアクションのグループを定義し、アクショングループで定義されているすべてのアクションを 1 つの手順でユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。この機能を使用すると、[操作] ウィンドウに表示される各アクションを 1 つずつ割り当てする必要がなくなりました。その結果、1 つのステップで複数のアクションを割り当てることができます。

ヒント:

動的トークンを使用すると、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

アクショングループ一覧

アクション・グループ

既存のアクショングループのリストを表示します。[検索]を使用して、名前、表示名、または説明でリストをフィルタリングします。

アクション

重要:

- アクショングループには、各アクションカテゴリ (アプリケーション、プリンタ、ネットワークドライブなど) にすでに存在するアクションのみが含まれます。たとえば、[アプリケーションリスト] タブでアプリケーションを追加していない限り、[Action Group List] タブのアクショングループには、[アプリケーション] の下に割り当て可能なアプリケーションが表示されません。
- 割り当てられたアクショングループ (Action Group List > Name > Configured) でアクションのオプションを構成した場合 (Action Group List > Name Configured)、構成済みのオプションは、アクショングループが割り当てられているユーザーには影響しません。

「アクション」 (Actions) セクションには、使用可能なアクションが表示されます。次の操作を実行できます。

- 追加。ユーザーまたはユーザーグループに割り当てるすべてのアクションを含むアクショングループを作成できます。
- 編集。既存のアクショングループを編集できます。
- [コピー]。既存のアクショングループからアクショングループを複製できます。
- [削除]。既存のアクショングループを削除できます。

アクショングループを作成するには、次の手順に従います。

1. [管理コンソール] > [アクション] > [アクショングループ] > [アクショングループリスト] タブで、[追加] をクリックします。
2. 「新規アクショングループ」ウィンドウで、必要な情報を入力し、ドロップダウンから該当するオプションを選択し、「OK」をクリックします。

アクショングループを編集するには、リストから該当するグループを選択し、[編集] をクリックします。

アクショングループのクローンを作成するには、クローンを作成するグループを選択し、[コピー] をクリックします。[コピー] をクリックすると、クローンが自動的に作成されることに注意してください。クローンは、元の名前を継承し、「-Copy」という接尾辞が付いています。[編集] をクリックして名前を変更できます。

注:

アクショングループをクローンすると、[割り当てプロセスでドライブ文字の再使用を許可] オプションを有効にしない限り、ネットワークドライブおよび仮想ドライブに関連付けられたアクション（存在する場合）はクローンされません。このオプションを有効にするには、[詳細設定] > [構成] > [コンソール設定] タブに移動します。

アクショングループを削除するには、リストから該当するグループを選択し、[削除] をクリックします。

注:

すでに割り当てられているアクショングループを削除または編集すると、そのグループが割り当てられているすべてのユーザーに対して変更が加えられます。

フィールドとコントロール

Name: アクショングループリストに表示されるアクショングループの表示名。

[説明]。アクショングループに関する追加情報を指定できます。

アクショングループの状態。アクショングループを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効にすると、そのアクショングループをユーザーまたはユーザーグループに割り当てても、エージェントはアクショングループに含まれるアクションを処理しません。

構成

割り当てる、または設定した特定のアクションを検索できます。名前、表示名、または説明でオプションをフィルタするには、[検索] を使用します。

使用できます。作成したアクショングループに追加できるアクションは次のとおりです。

プラス記号をクリックして、特定のアクションカテゴリのアクションを展開します。アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、アクションを割り当てるか割り当て解除します。

注:

- 既にユーザーに割り当てられているアクショングループにアクションを追加すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーに割り当てられます。
- 既にユーザーに割り当てられているアクショングループからアクションを削除すると、そのアクションはそれらのユーザーから自動的に割り当て解除されます。

設定済み。これらは、作成したアクショングループに既に割り当てられているアクションです。個々のアクションを展開して設定することができます。また、アプリケーションのショートカットの場所、既定のプリンタ、ドライブ文字など、特定の操作ごとにオプションを構成することもできます。

Assignments

重要:

[割り当て済み] ペインの [アクションの割り当て] タブで、割り当てられたアクショングループ内のアクションのオプションを構成すると、構成されたオプションは、アクショングループが割り当てられているユーザーに自動的に影響します。

[アクション] > [アクショングループ] > [Action Groups] > [Action Group] タブでアクショングループに対するアクションの設定が完了したら、構成済みのアクションを該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。これを行うには、[割り当て] > [アクション割り当て] > [アクションの割り当て] タブに移動します。そのタブで、ユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックすると、作成したアクショングループを含む [使用可能] ペインに [Action Groups] ノードが表示されます。[Action Groups] ノードの横のプラス記号をクリックすると、作成したアクショングループを表示できます。アクショングループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、アクショングループを割り当てるか、割り当て解除します。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するために使用するルールを選択するよう求められます。

割り当ての仕組みの詳細については、「[割り当て](#)」を参照してください。

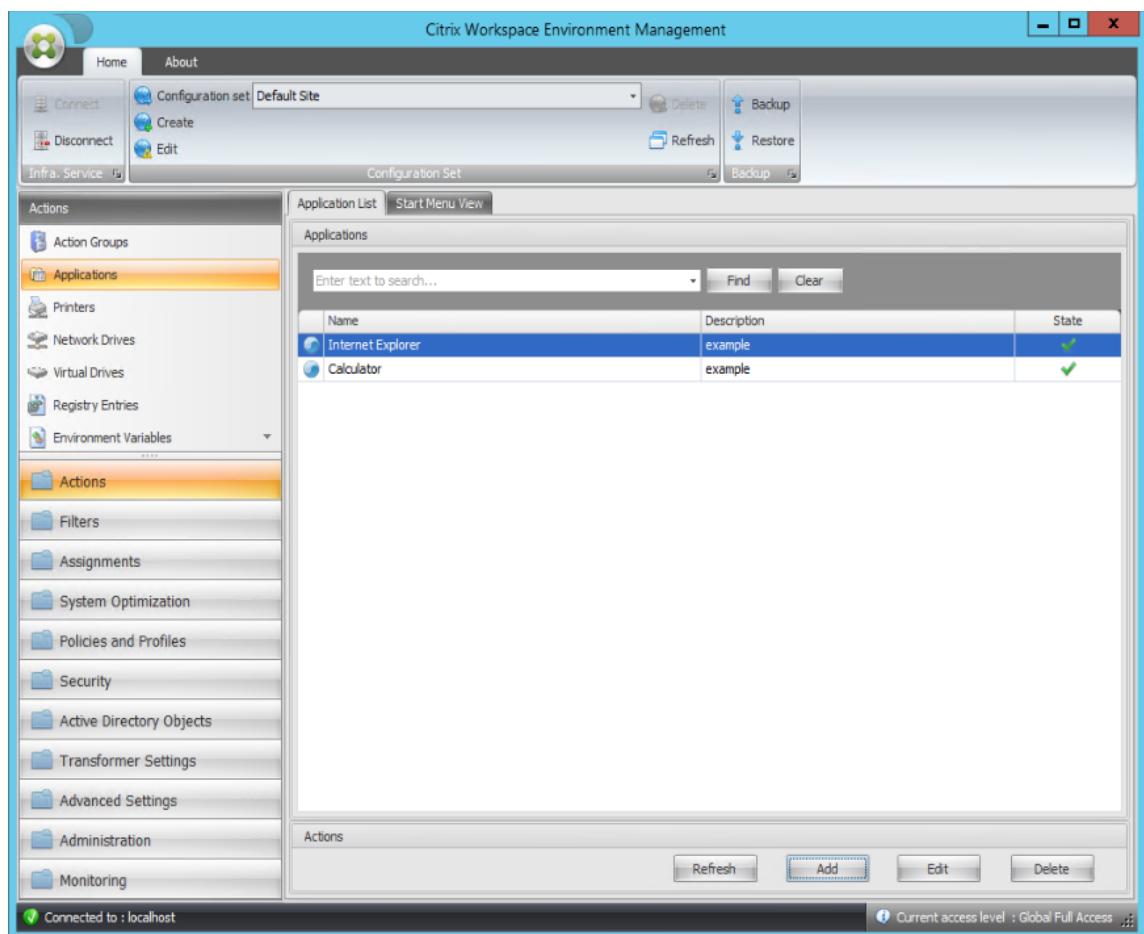
アクショングループを割り当てる場合、注意すべきいくつかのシナリオがあります。

- アクショングループを割り当てると、そのグループに含まれるすべてのアクションが割り当てられます。
- 1つまたは複数のアクションが、異なるアクショングループで重複する場合があります。オーバーラップするアクショングループの場合、最後に処理されたグループによって、以前に処理されたグループが上書きされません。
- アクショングループ内のアクションが処理されたら、別のアクショングループ内のアクションと重複するアクションを割り当てて検討してください。この場合、未割り当てのアクションは、以前に処理されたアクションを上書きし、後で処理されたアクションは割り当て解除されます。その他のアクションは変更されません。

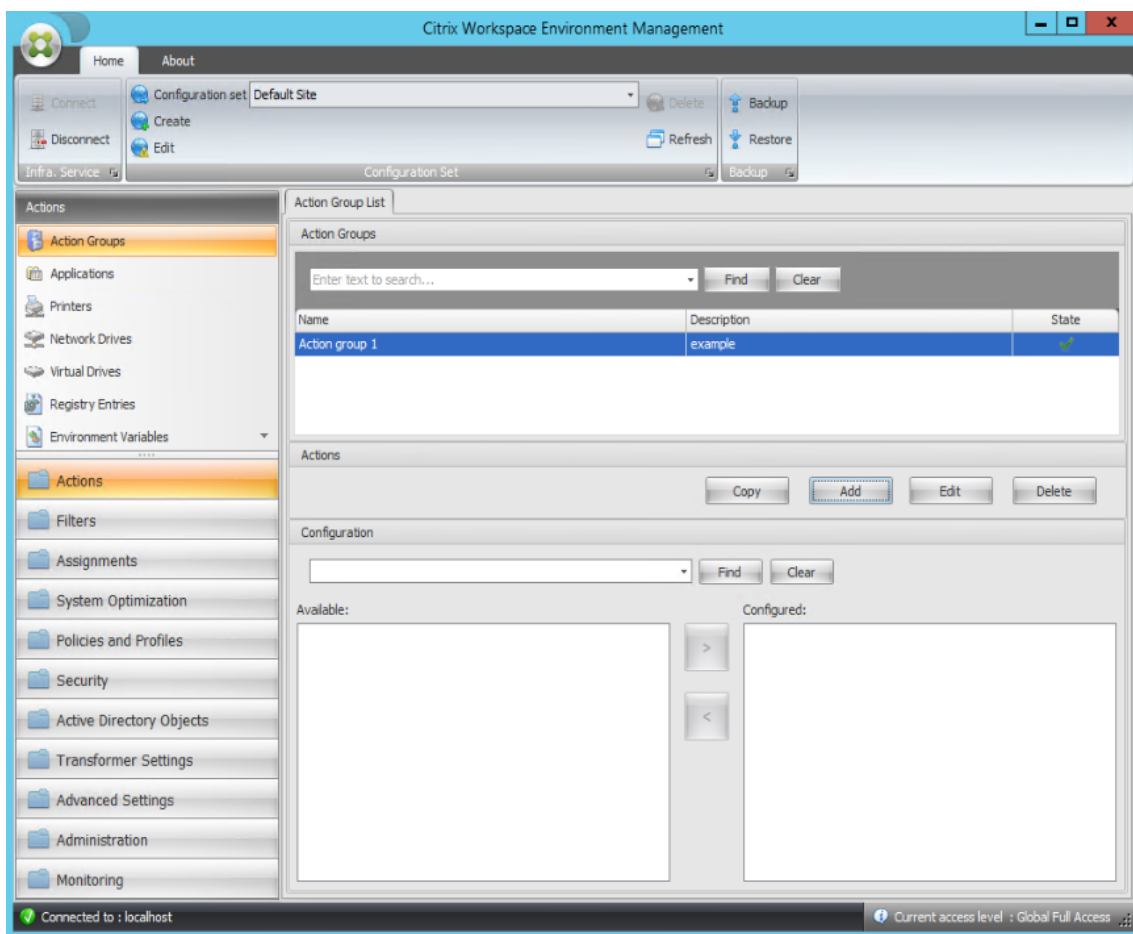
サンプルシナリオ

たとえば、アクショングループ機能を使用して2つのアプリケーション (iexplore.exe と calc.exe) を一度に1人のユーザーに割り当てるには、次の手順に従います。

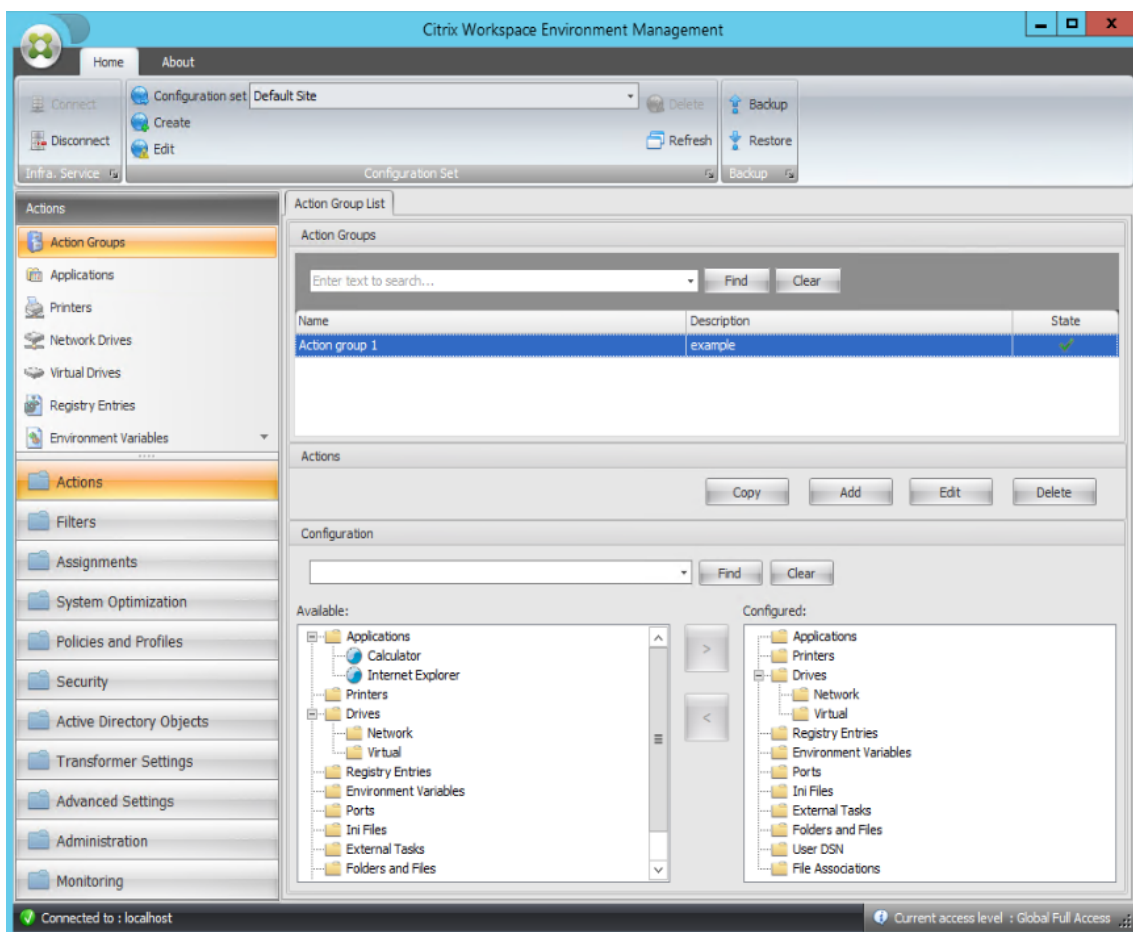
1. [管理コンソール] > [アクション] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] タブに移動し、アプリケーション (iexplore.exe および calc.exe) を追加します。



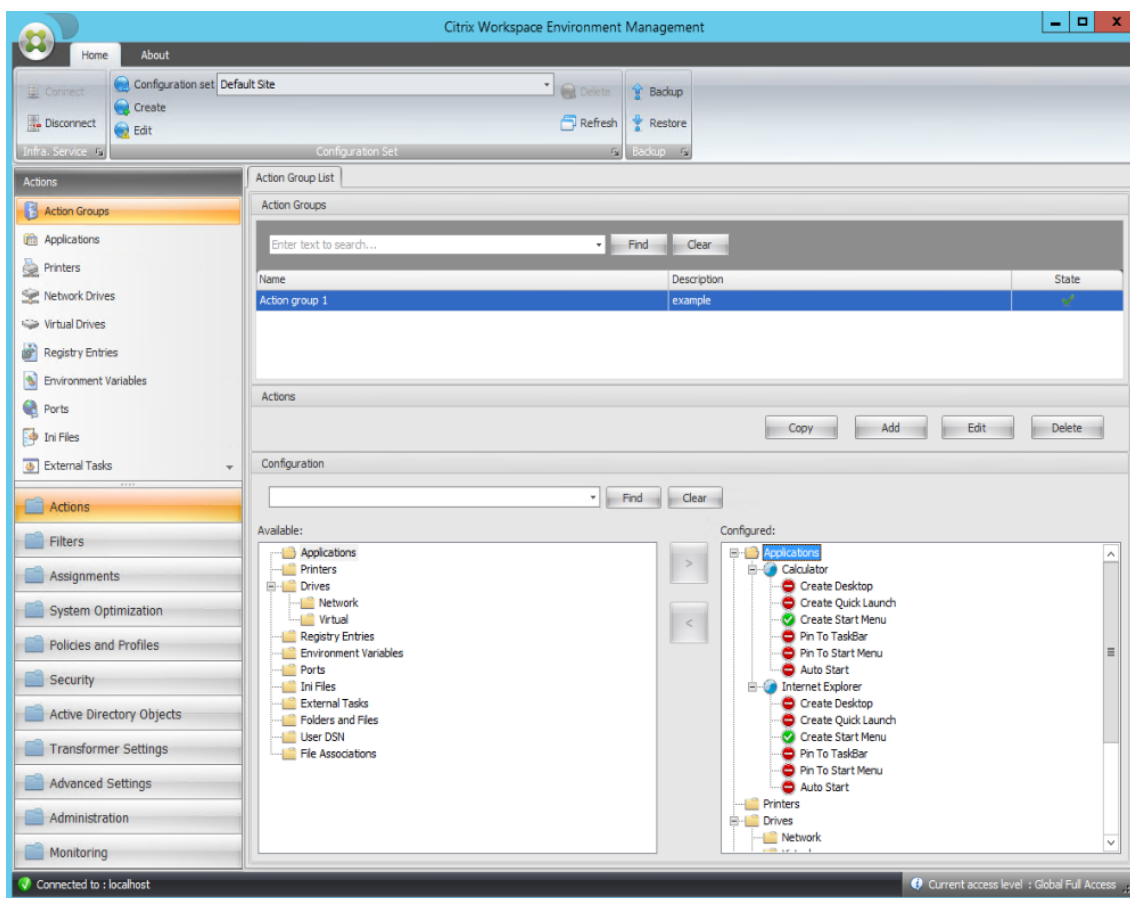
2. [管理コンソール] > [アクション] > [アクショングループ] > [アクショングループリスト] タブに移動し、[追加] をクリックしてアクショングループを作成します。



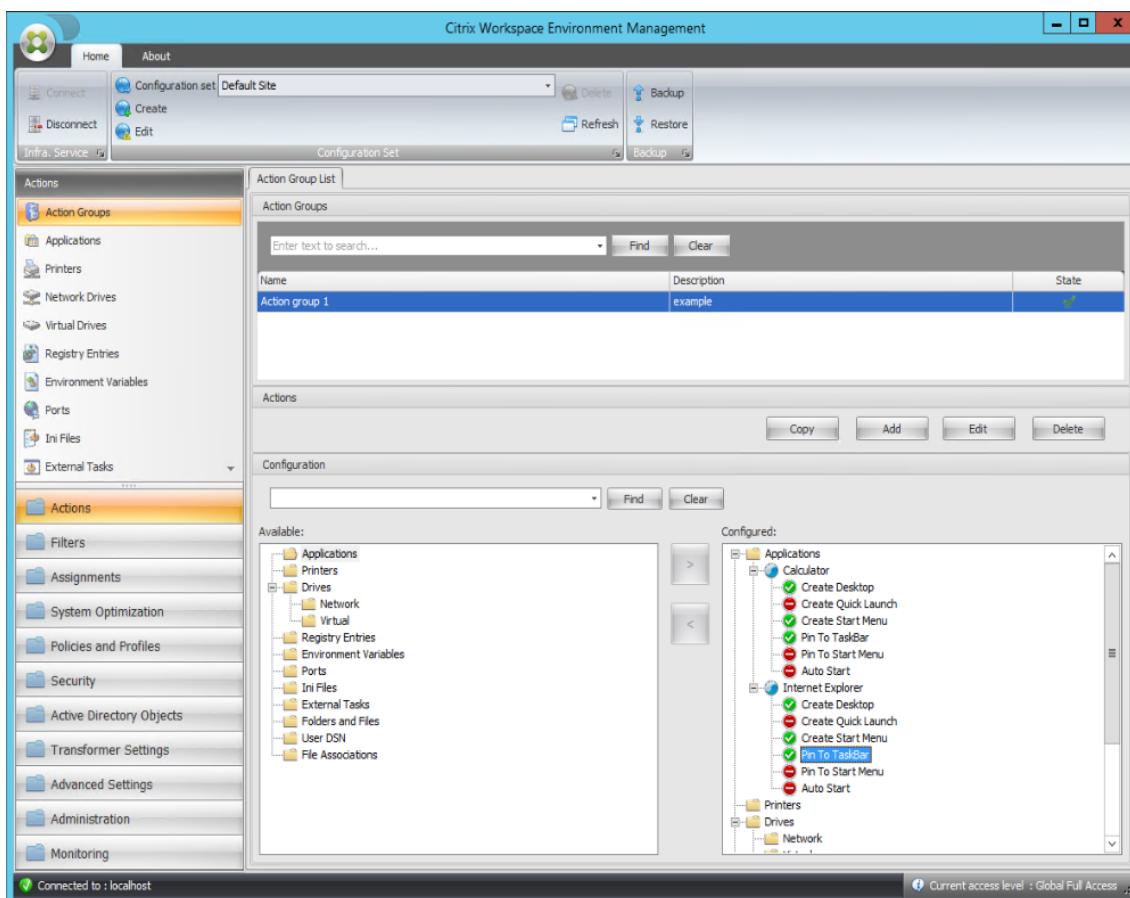
3. [**Action Group List**] タブで、作成したアクショングループをダブルクリックして、[使用可能] ペインと [構成済み] ペインにアクションリストを表示します。



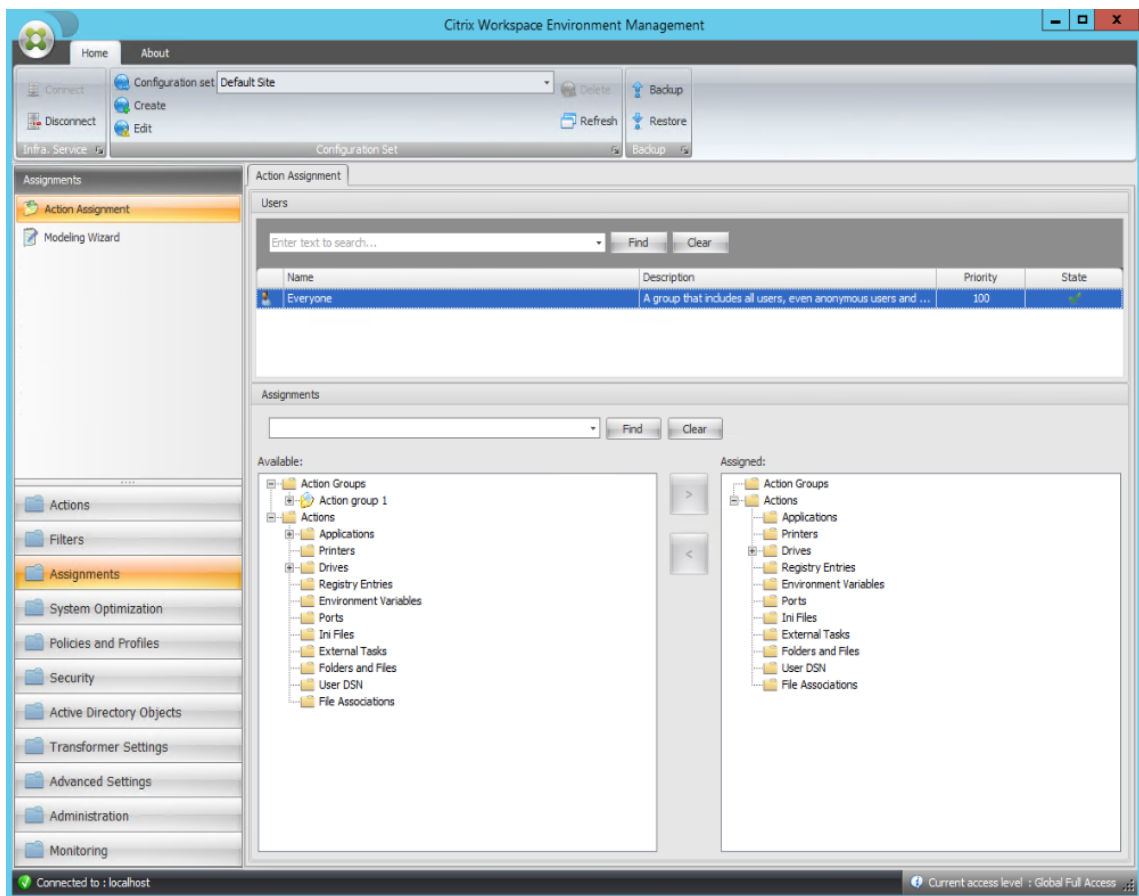
4. [使用可能] ペインで、各アプリケーションをダブルクリックして [構成済み] ペインに移動します。アプリケーションを選択し、右矢印をクリックしても、これを行うことができます。



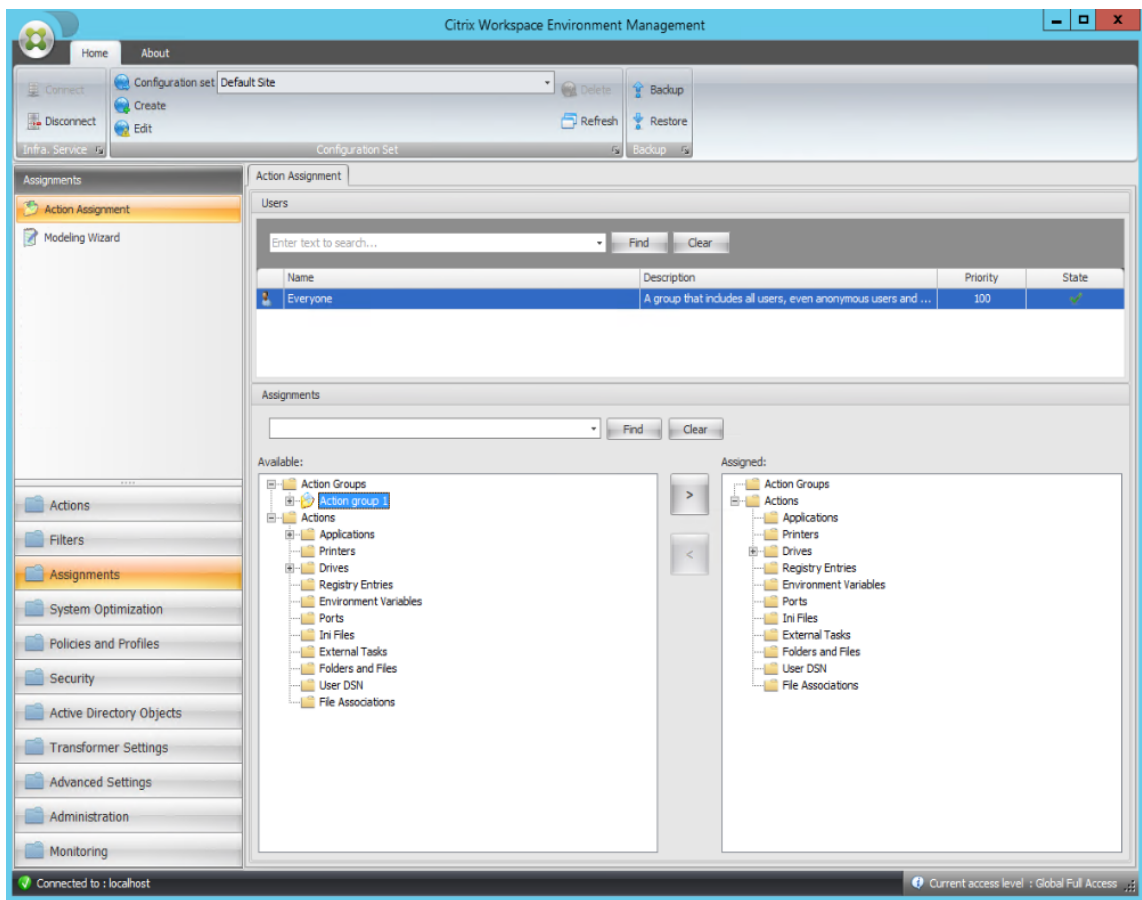
5. [構成済み] ペインで、各アプリケーションのオプションを構成します。この例では、[デスクトップの作成] および [タスクバーに固定する] を有効にします。



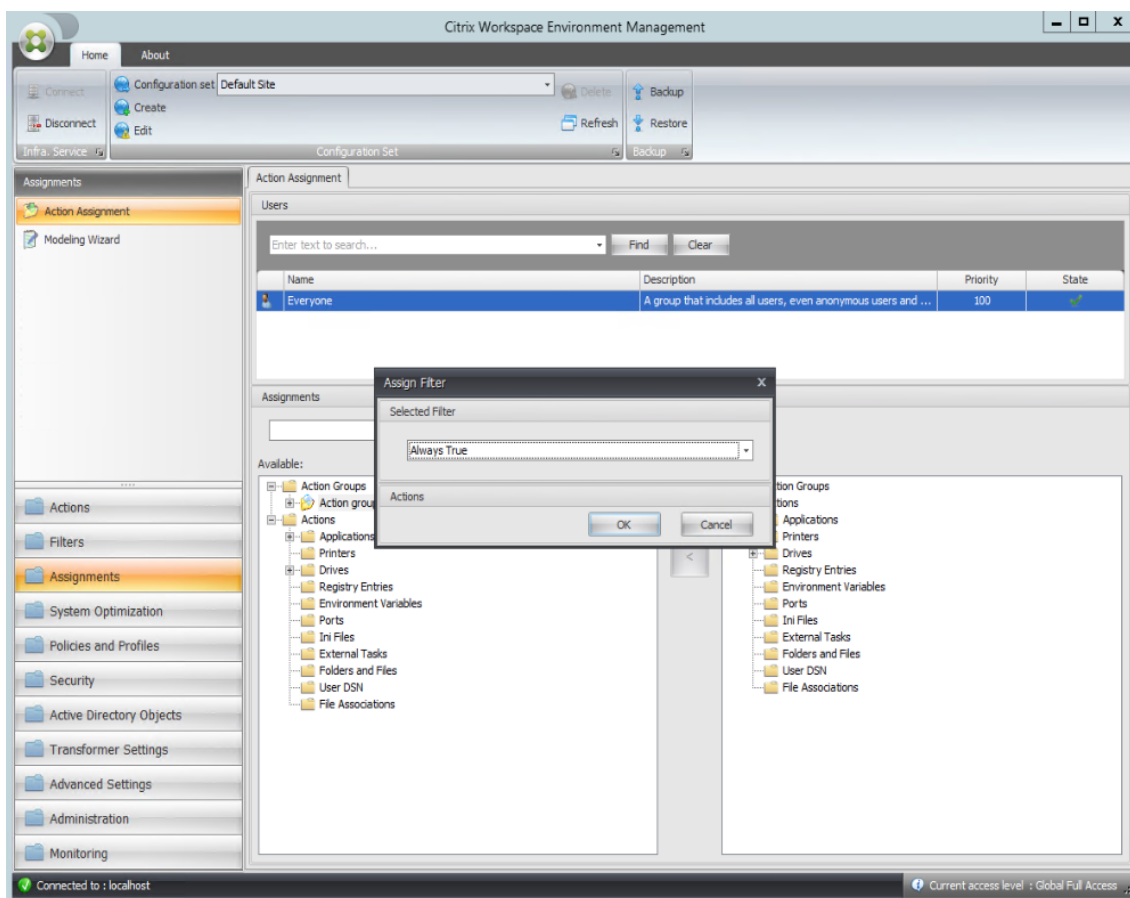
6. [管理コンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] タブに移動し、該当するユーザーをダブルクリックして、[使用可能] ペインと [割り当て済み] ペインにアクショングループを表示します。



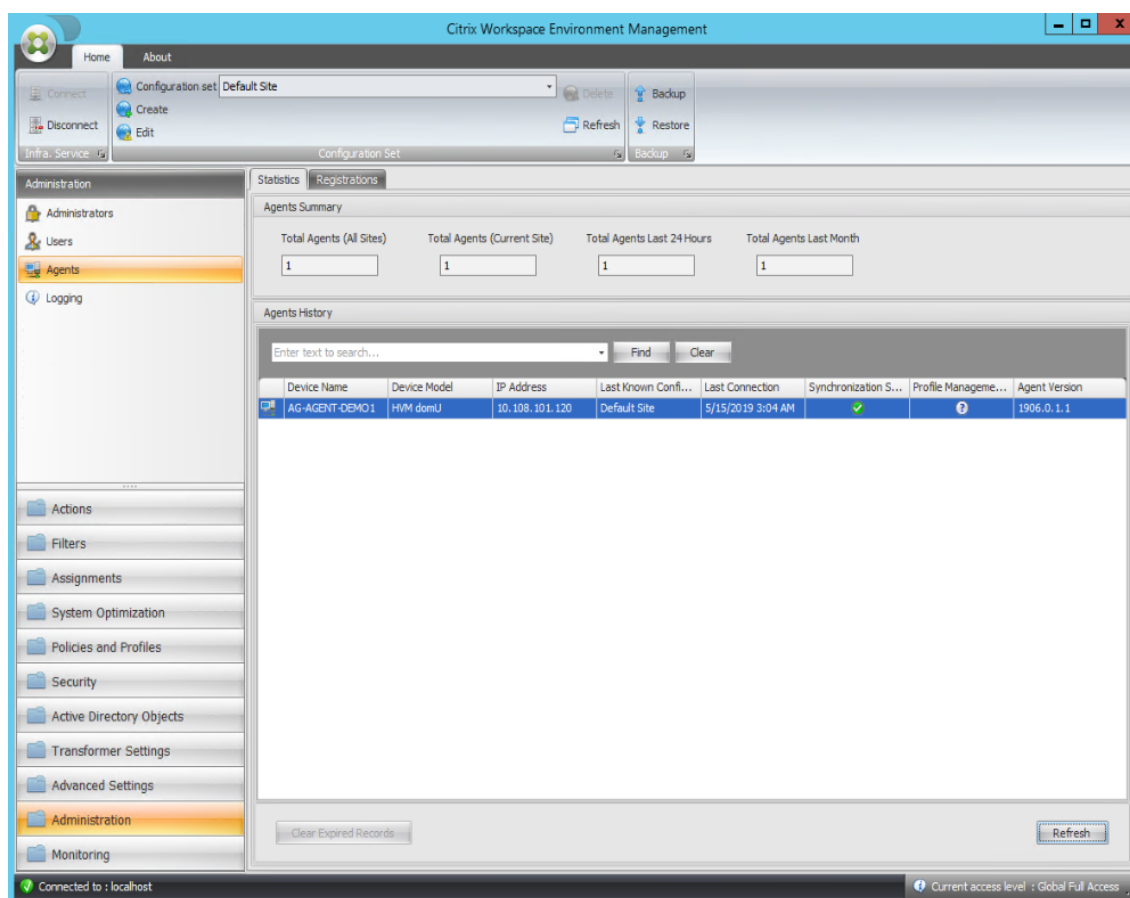
7. [使用可能] ウィンドウで、作成したアクショングループ (この例では、アクショングループ 1) をダブルクリックして [割り当て] ウィンドウに移動します。また、アクショングループを選択して右矢印をクリックすることもできます。



8. [フィルターの割り当て] ウィンドウで、[常に True] を選択し、[OK] をクリックします。



9. [管理コンソール] > [管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。



10. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。
11. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）で、構成されたアクションが有効になっていることを確認します。

この例では、2つのアプリケーションがエージェントホストに正常に割り当てられ、ショートカットがデスクトップに追加され、タスク・バーに固定されます。

グループポリシーの設定

October 26, 2023

重要:

WEM は現在、HKEY_LOCAL_MACHINEおよびHKEY_CURRENT_USERレジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

以前のリリースでは、グループポリシーの基本設定 (GPP) のみを Workspace Environment Management

(WEM)に移行できました。詳細については、[リボンの移行ウィザードの説明を参照してください](#)。グループポリシー設定 (レジストリベースの設定) を WEM にインポートすることもできます。

設定をインポートした後、割り当てる GPO を決定する前に、各 GPO に関連付けられた設定を項目別に表示できます。他のアクションを割り当てるのと同様に、GPO を異なる AD グループに割り当てることができます。GPO を個々のユーザーに直接割り当てると、設定は有効になりません。グループには、ユーザーとマシンを含めることができます。マシンレベルの設定は、関連するマシンがグループに属している場合に有効になります。ユーザーレベルの設定は、現在のユーザーがグループに属している場合に有効になります。

ヒント:

マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーがいったんログオフしてからログオンし直す必要があります。

グループポリシー設定

注記:

WEM エージェントがグループポリシー設定を適切に処理するには、Citrix WEM ユーザーログオンサービスが有効になっていることを確認します。

グループポリシー設定の処理を有効にします。グループポリシー設定を処理するために WEM を有効にするかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。無効にした場合:

- グループポリシー設定は構成できません。
- WEM では、グループポリシー設定がユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、グループポリシー設定は処理されません。

グループポリシーオブジェクトリスト

既存の GPO の一覧が表示されます。[検索] を使用して、名前または説明でリストをフィルタリングします。

- 更新。GPO の一覧を更新します。
- [インポート]。グループポリシー設定のインポートウィザードを開きます。このウィザードでは、グループポリシー設定を WEM にインポートできます。
- 編集。既存の GPO を編集できます。
- [削除]。選択した GPO を削除します。

グループポリシー設定のインポート

グループポリシー設定をインポートする前に、ドメイン Controller でグループポリシー設定をバックアップしてください。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. [グループポリシーの管理] ウィンドウで、バックアップする GPO を右クリックし、[バックアップ] を選択します。
3. [グループポリシーオブジェクトのバックアップ] ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。オプションで、バックアップに説明を与えることができます。
4. [バックアップ] をクリックしてバックアップを開始し、[OK] をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、zip ファイルに圧縮します。

注記:

WEM では、複数の GPO バックアップフォルダを含む zip ファイルのインポートもサポートしています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. **WEM** サービスの [管理] タブのメニューにある [アップロード] を使用して、**GPO** の **zip** ファイルを **Citrix Cloud** のデフォルトフォルダにアップロードします。
2. [管理コンソール] > [アクション] > [グループポリシー設定] タブに移動し、[グループポリシー設定の処理を有効にする] を選択し、[インポート] をクリックしてインポートウィザードを開きます。
3. インポートウィザードの [インポートするファイル] ページで、[参照] をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力し、[検索] をクリックしてファイルを検索することもできます。
 - 以前にインポートした **GPO** を上書きします。既存の GPO を上書きするかどうかを制御します。
4. [インポートの開始] をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. インポートが完了したら、[完了] をクリックします。インポートした GPO は、[グループポリシーの設定] タブに表示されます。

レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする

Windows レジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当て用の GPO に変換できます。レジストリエントリで使用できる「レジストリファイルのインポート」オプションに慣れている場合は、次の機能を使用できます。

- HKEY_LOCAL_MACHINEとHKEY_CURRENT_USERの両方でレジストリ値をインポートできます。
- REG_BINARYとREG_MULTI_SZ型のレジストリ値をインポートできます。
- .reg ファイルで定義したレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.reg ファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、「<https://support.microsoft.com/en-us/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>」を参照してください。

開始する前に、次の点に注意してください。

- ZIP ファイルから設定をインポートする場合、ファイルには 1 つ以上のレジストリファイルが含まれることがあります。解凍したファイルのサイズが 30 M を超えないようにしてください。
- 各.reg ファイルは GPO に変換されます。変換された各 GPO は、一連のレジストリ設定として扱うことができます。
- 変換された各 GPO の名前は、対応する.reg ファイルの名前に基づいて生成されます。例: .reg ファイルの名前が `test1.reg` の場合、変換された GPO の名前は `test1` になります。
- 変換された GPO の説明は空です。それらの状態はデフォルトで有効 (チェックマークアイコン) です。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソールで、[アクション] > [グループポリシー設定] に移動し、[グループポリシー設定の処理を有効にする] を選択し、[インポート] の横にある下矢印をクリックして [レジストリファイルのインポート] を選択します。
2. 表示されるウィザードで、レジストリファイルの ZIP バックアップを参照します。
 - 既存の **GPO** を上書きします。競合が発生したときに既存の GPO を上書きするかどうかを制御します。
3. [インポートを開始] をクリックします。
4. インポートが完了したら、[完了] をクリックします。レジストリファイルから変換された GPO は、[グループポリシー設定] に表示されます。

グループポリシー設定の編集

一覧から GPO をダブルクリックすると、その設定の項目別ビューが表示されます。また、必要に応じて設定を編集します。

GPO を複製するには、GPO を右クリックし、メニューから [コピー] を選択します。[コピー] をクリックすると、クローンが自動的に作成されます。クローンはオリジナルの名前を継承し、サフィックス「-Copy」が付加されます。[編集] を使用して名前を変更できます。

[編集] をクリックすると、[**グループポリシーオブジェクトの編集**] ウィンドウが表示されます。

Name: GPO の一覧に表示される GPO の名前。

説明: GPO の一覧に表示される GPO に関する追加情報を指定できます。

レジストリ操作: GPO に含まれるレジストリ操作を表示します。

警告:

レジストリベースの設定を誤って編集、追加、および削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならなくなる可能性があります。

- 追加。レジストリキーを追加できます。

- **[編集]**。レジストリキーを編集できます。
- **[削除]**。レジストリキーを削除できます。

レジストリキーを追加するには、右側の **[追加]** をクリックします。次の設定が使用可能になります。

- **オーダー**。レジストリキーの展開順序を指定できます。
- **操作**。レジストリキーのアクションのタイプを指定できます。
 - 値を設定します。レジストリキーの値を設定できます。
 - 値を削除します。レジストリキーの値を削除できます。
 - キーを作成します。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定したキーを作成できます。
 - キーを削除します。レジストリキーの下にあるキーを削除できます。
 - すべての値を削除します。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。
- **ルートキー**。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- **サブパス**。ルートキーを含まないレジストリキーのフルパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーのフルパスである場合、`Software\Microsoft\Windows` はサブパスです。
- **価値**。レジストリ値の名前を指定できます。次の図全体で強調表示されている項目は、レジストリ値です。

Name	Type	Data
ab (Default)	REG_SZ	(value not set)

- **タイプ**。値のデータ型を指定できます。
 - **REG_SZ**。このタイプは、人間が読めるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
 - **REG_EXPAND_SZ**。この型は、アプリケーションによって呼び出されたときに置換される変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」は、オペレーティングシステム内のフォルダの実際の場所に置き換えられます。
 - **REG_BINARY**。あらゆる形式のバイナリデータ。
 - **REG_DWORD**。32 ビットの数値。この型はブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効を意味し、「1」は有効であることを意味します。
 - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の 32 ビット数値。
 - **REG_QWORD**。64 ビットの数値。
 - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の 64 ビット数値。
 - **REG_MULTI_SZ**。この型は、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用される複数文字列です。各エントリはヌル文字で区切られます。
- **データ**。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力しなければならない場合があります。

変更が有効になるまでに時間がかかる場合があります。次の点に注意してください。

- **HKEY_LOCAL_MACHINE**レジストリハイブに関連する変更は、**Citrix WEM** エージェントホストサービスが起動するか、指定した **SQL** 設定のリフレッシュ遅延がタイムアウトしたときに有効になります。
- **HKEY_CURRENT_USER**レジストリハイブに関連付けられた変更は、ユーザーがログオンしたときに有効になります。

グループポリシー設定のコンテキスト化

フィルタを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルタは、ルールと複数の条件で構成されます。WEM エージェントは、ルール内のすべての条件が実行時にユーザー環境で満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。そうしないと、エージェントはフィルタを適用するときにこれらの設定をスキップします。

グループポリシー設定を条件付きにする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソールで、[フィルタ] > [条件] に移動し、条件を定義します。 [条件](#) を参照してください。

重要:

使用可能なフィルタ条件の一覧については、「[フィルタ条件](#)」を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザーとコンピューターの設定で構成されます。一部のフィルタ条件は、ユーザー設定にのみ適用されます。これらのフィルタ条件をマシン設定に適用すると、WEM エージェントはフィルタ条件を無視し、マシン設定を適用します。コンピューター設定に適用されないフィルタ条件の一覧については、「[マシン設定に適用できないフィルタ条件](#)」を参照してください。

2. [フィルタ] > [ルール] に移動し、フィルタルールを定義します。ステップ 1 で定義した条件を、そのルールに含めることができます。 [ルール](#) を参照してください。
3. [操作] > [グループポリシーの設定] に移動し、グループポリシー設定を構成します。
4. [管理コンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] に移動し、以下を完了します。
 - a) 設定を割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
 - b) アプリケーションを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。
 - c) 「フィルタの割り当て」ウィンドウで、ステップ 2 で定義したルールを選択し、「**OK**」をクリックします。設定が [使用可能] ペインから [割り当て済み] ペインに移動します。
 - d) [割り当て済み] ペインで、設定の優先度を構成します。整数を入力して優先度を指定します。値が大きいほど、優先順位が高くなります。優先度の高い設定は後で処理され、競合や依存関係がある場合に有効になります。

マシン設定には適用されないフィルタ条件

フィルタ名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアント IP アドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCU で始まるレジストリ値を設定する場合、コンピュータ設定に適用すると、レジストリ値の一致 (Registry Value Match) フィルタは機能しません。
ユーザーの国一致	いいえ
ユーザー UI 言語の一致	いいえ
ユーザ SBC リソースタイプ	いいえ
Active Directory パスの一致	いいえ
Active Directory 属性の一致	いいえ
クライアント名が一致しません	いいえ
クライアント IP アドレスが一致しない	いいえ
一致するレジストリ値がありません	いいえ
ユーザーの国が一致しません	いいえ
ユーザー UI 言語が一致しません	いいえ
Active Directory パスが一致しません	いいえ
Active Directory 属性が一致しない	いいえ
クライアントのリモート OS の一致	いいえ
クライアントのリモート OS の一致なし	いいえ
Active Directory グループの一致	いいえ
Active Directory グループの一致がありません	いいえ
発行されたリソース名	いいえ

テンプレートベースの設定

October 26, 2023

グループポリシー管理用テンプレートを使用して Windows の設定を構成するには、このタブを使用します。GPO は、マシンレベルとユーザーレベルで構成できます。

構成セットの [操作] > [グループポリシー設定] > [テンプレートベース] で、次の操作を実行できます。

- テンプレートを使用して GPO を作成します。
- テンプレートを管理します。
- テンプレートをインポートします。
- GPO リストを更新します。
- GPO を編集します。
- GPO の割り当てを管理します。
- GPO のクローンを作成します。
- GPO を削除します。

テンプレートを使用して **GPO** を作成する

テンプレートを使用して GPO を作成するには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、[**GPO の作成**] をクリックします。
2. 基本情報:
 - GPO の名前を指定します。
 - オプションで、GPO を識別するのに役立つ追加情報を指定します。
3. [**コンピューターの構成**] で、マシンに適用するポリシーを (ログオンするユーザーに関係なく) 構成します。
4. [**ユーザーの構成**] で、ユーザーに適用するポリシーを構成します (ユーザーがどのマシンにログオンするかは関係ありません)。
5. [**概要**] で、行った変更を確認します。
6. 終了したら、[**完了**] をクリックします。

[**コンピューターの構成**] と [**ユーザーの構成**] で、構成する設定を選択します。ポリシーは、ツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順にソートされ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、最初に設定を有効にします。設定には、構成可能な項目が複数ある場合があります。必要な入力のタイプに応じて、チェックボックス、入力ボックス (入力としてテキストまたは数字)、選択、リスト、または組み合わせを設定できます。

設定について詳しくは、[Microsoft 社サイト](#)から GPO リファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートを管理する

テンプレートを管理するには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、[**テンプレートを管理**] をクリックします。

2. テンプレートの管理ウィザードで、次の操作を行います。

- マシンに適用するポリシーを構成するには、[コンピューターの構成] を選択します (ログオンするユーザーに関係なく)。
- ユーザーに適用するポリシーを構成するには、[ユーザー構成] を選択します (ユーザーがどのマシンにログオンするかに関係なく)。

1. 終了したら、[完了] をクリックします。

[コンピューターの構成] と [ユーザーの構成] で、構成する設定を選択します。ポリシーは、ツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順にソートされ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、最初に設定を有効にします。設定には、構成可能な項目が複数ある場合があります。必要な入力のタイプに応じて、チェックボックス、入力ボックス (入力としてテキストまたは数字)、選択、リスト、または組み合わせを設定できます。

設定について詳しくは、[Microsoft 社サイト](#)から GPO リファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートをインポートする

重要:

ADMX ファイルを WEM にインポートしてテンプレートとして使用する場合は、zip ファイル内のすべての.adml ファイルが同じ言語であることを確認してください。

ADMX ファイルを WEM にインポートして、テンプレートとして使用できます。次に、それらのテンプレートを使用して GPO を作成します。テンプレートをインポートするには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、[テンプレートを管理] をクリックします。
2. テンプレートの管理ウィザードで、[インポート] をクリックします。
3. ADMX ファイルを含む zip ファイルを参照し、既存のテンプレートと同じ名前のテンプレートがファイルに含まれている場合の対処方法を決定します。
 - インポートしないでください。インポートをキャンセルします。
 - テンプレートをスキップして、残りをインポートします。
 - 既存のテンプレートを上書きします。上書きすると、既存のテンプレートに由来する関連設定が変更される可能性があります。テンプレートを使用して作成された既存の GPO には影響しません。ただし、これらの GPO を編集すると、関連する設定は失われます。
4. [インポートの開始] をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. 終了したら、[完了] をクリックして [テンプレートの管理] ウィザードに戻ります。
6. そこでテンプレートを管理するか、[完了] をクリックして終了します。

インポートしたテンプレートファイルの管理方法については、「[ファイル](#)」を参照してください。そこで管理する場合は、次の点を考慮してください。

- GPO 管理用テンプレートファイルを削除すると、現在のテンプレートから関連する設定が削除されます。テンプレートを使用して作成された既存の GPO には影響しません。ただし、これらの GPO を編集すると、関連する設定は失われます。

GPO を編集する

GPO を編集するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [編集] をクリックします。
2. [基本情報] で、名前と説明を編集します。
3. [コンピュータの構成] で、マシンポリシーを編集します。
4. [ユーザー構成] で、ユーザーポリシーを編集します。
5. [概要] で、行った変更を確認します。
6. 終了したら、[保存] をクリックします。

注記:

GPO が既にユーザーに割り当てられている場合、GPO を編集するとそのユーザーに影響します。

GPO の割り当てを管理する

レジストリベースの GPO の場合と同様に、テンプレートを使用して作成された GPO の割り当てを管理できます。詳細については、「[GPO の割り当てを管理する](#)」を参照してください。

GPO のクローンを作成する

GPO のクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [クローン] をクリックします。
2. GPO をレジストリベースの GPO として複製するか、テンプレートベースの GPO として複製するかを決定します。

注記:

レジストリベースとして複製すると、GPO はレジストリ値に変換され、[レジストリベース] タブに表示されます。変換された各 GPO は、一連のレジストリ設定として扱うことができます。

3. 名前と説明を編集します。

4. GPO のクローンを作成する構成セットを選択します。
5. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPO を削除する

GPO を削除するには、GPO を選択し、アクションバーの [削除] をクリックします。

注記:

GPO が既にユーザーに割り当てられている場合、削除するとそのユーザーに影響します。

スクリプト化されたタスク設定

October 26, 2023

[スクリプト化されたタスク] ページで使用可能なすべてのスクリプト化されたタスクを一覧表示します。スクリプト化されたタスクは構成セットレベルで実行されます。ここでは、現在の構成セットに対して有効にするスクリプト化されたタスクを設定します。スクリプト化されたタスクを編集するには、[スクリプト化されたタスク] に移動します。

スクリプト化されたタスクを設定する

1. [スクリプト化されたタスクの設定] ページで、スクリプト化されたタスクを探して省略記号を選択し、[構成] を選択します。
2. [スクリプトタスクの構成] ウィザードで、次の設定を構成し、[保存] をクリックします。

一般:

- このタスクを有効にします。現在の構成セットに対してタスクを有効 (**Yes**) または無効 (**No**) にするかを選択します。無効にすると、エージェントはタスクを処理しません。
- 署名を検証します。タスクを実行する前に署名を検証するかどうかを選択します。スクリプト化されたタスクにフルアクセス権が付与されている場合、署名の検証は必須です。
- タスクタイムアウト。タスクにタイムアウト (分単位) を設定するかどうかを選択します。タイムアウトが発生すると、タスクは強制的に終了します。サポートされる値:1–60。タスクのタイムアウトを設定することをお勧めします。そうしないと、タスクが実行されたままになり、他のタスクが実行されなくなる可能性があります。

- **[フィルタ]**。フィルターを選択して、タスクをコンテキスト化するかどうかを選択します。フィルタを選択すると、このタスクはフィルタのすべての条件が満たされた場合にのみ実行されます。フィルターを選択するときは、次の点を考慮してください。

- スクリプト化されたタスクに適用されない条件がフィルタに含まれている場合、エージェントはタスクを実行する前にフィルタを評価するときにそれらの条件をスキップします。スクリプト化されたタスクに適用されない条件の完全なリストについては、[マシン設定に適用されない条件を参照してください](#)。

[トリガー]で:

- タスクのトリガーを構成します。以下の操作を実行できます:
 - タスクに関連付けるトリガーを選択します。アクティブ化されると、これらのトリガーはユーザー環境でタスクを開始します。
 - このタスクに適用されるトリガーのみを表示するかどうかを選択します。
 - 新しいトリガーを作成します。「[トリガーを作成する](#)」を参照してください。

注記:

既存のトリガーを編集するには、[\[トリガー\]](#)に移動します。

[パラメータ]:

- スクリプト化されたタスクにパラメーターを渡します。スクリプトタスクにパラメーターを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクにパラメータ変数として入力を提供できます。この利点は、基になるコードを変更することなく、スクリプトタスクの動作を制御できることです。次のパラメータタイプを使用できます。

- 整数。例: 123
- スtring。例: `hello world`
- ブール値。True または False。
- キャラクター。例: `c`
- **[スイッチ]**。True または False。
- ダブル。例: 1.023
- 日付と時刻。例: `YYYY-MM-DD HH:mm:ss`
- ファイルパス。`System.IO.FileInfo` クラスに渡すパスを入力します。環境変数がサポートされています。パスには、次の文字を含めないでください: * ? < >。

注記:

- 最大 20 個のパラメータを設定できます。
- name フィールドは、「switch」タイプのパラメータを除いて任意です。
- PowerShell は部分的なパラメーター名をサポートしています。部分的なパラメータ名を使用するときは、名前が一意であることを確認してください。既存のパラメータ名と明確に区別してください。

い。例: 次のパラメーター名は PowerShell でも同じです: `-t`、`-ti`、`-title`。この場合、他のパラメータと区別できるように、パラメータ名に十分な文字を指定します。

出力内:

- 出力ファイル。タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択すると、タスクに対して生成されるレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境で出力ファイルにアクセスしなくても、レポートに出力ファイルの内容を表示できます。
- ハイライトを出力します。出力ファイルの内容とコンソール出力で、特定のコンテンツをハイライト表示するかどうかを選択します。
 - キーワードをハイライトします。レポートで強調表示するキーワードを指定します。複数のキーワードをカンマで区切って入力できます。キーワードを入力したら、**Enter** キーを押して続行します。指定すると、キーワードに一致するレポートコンテンツが、生成されたレポートの [出力ファイルの内容] セクションと [コンソール出力] セクションで強調表示されます。
 - 正規表現の一致を強調表示します。強調表示するコンテンツを表す正規表現を入力します。正規表現は、PCRE 互換の .NET 正規表現ライブラリ構文に準拠している必要があります。詳しくは、Microsoft 社のドキュメントを参照してください: <https://docs.microsoft.com/en-us/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference>。
 - * 正規表現。強調表示するコンテンツを表す正規表現を入力します。
 - * 大文字小文字を無視内容の大文字と小文字が正確に一致する必要があるかどうかを選択します。
 - * 複数行一致を使用します。複数行一致を使用するかどうかを選択します。^ と \$ は、出力コンテンツ全体の先頭と末尾ではなく、各行の先頭と末尾に一致します。
 - * 名前付きグループのみをキャプチャします。名前付きグループのみをキャプチャするかどうかを選択します。キャプチャされたグループは、正規表現パターンで括弧を使用して定義されます。名前付きグループには、(?<name> subexpression) 構文によって名前または番号が明示的に割り当てられます。
 - * コンテキストの手がかりとして含める行数。コンテキストの手がかりとして、ハイライトに含める一致の前後の行数を指定します。サポートされる値は 1~10 です。
 - * レポートには正規表現の一致のみを含めます。出力コンテンツ全体をレポートに含めるか、正規表現に一致するコンテンツのみを含めるかを制御します。このオプションを有効にすると、Citrix Cloud に送信されるデータ量が減少します。このオプションを有効にすると、キーワードの強調表示機能には、指定されたキーワードに関係なく表示するコンテンツがありません。
- 詳細オプション。
 - ランタイムエラーが発生しても出力を収集します。タスクの実行中にエラーが発生した場合でも、出力ファイルの内容とコンソール出力を収集するかどうかを制御します。

スクリプト化されたタスクのレポートを表示する

[スクリプト化されたタスクの設定] ページで、スクリプト化されたタスクを探して省略記号を選択し、[レポートの表示] を選択します。その結果、[**Monitoring**] > [**Reports**] ページが表示され、タスクに関連するレポート (存在する場合) が表示されます。省略記号をクリックすると、詳細情報が表示されます。詳しくは、「[レポート](#)」を参照してください。

アプリケーション

March 23, 2023

アプリケーションショートカットの作成を制御します。

ヒント:

- Citrix Studio を使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** をポイントする実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe** は、Citrix Virtual Apps and Desktops 公開アプリケーションを起動する前に、Workspace Environment Management エージェントが環境の処理を完了することを保証します。詳しくは、「[Citrix Studio を使用したアプリケーション設定の編集](#)」を参照してください。
- [動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

アプリケーション一覧

既存のアプリケーションリソースのリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

アプリケーションを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規アプリケーション」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

一般

- **Name:** アプリケーションリストに表示されるアプリケーションショートカットの表示名です。
- **[説明].** このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

- アプリケーションの種類。ショートカットが起動するアプリケーションの種類。インストール済みアプリケーション、ファイル/フォルダ、**URL**、または **StoreFront** ストアのいずれかです。選択内容に応じて、次の値が必要です。
 - コマンドライン。クライアントマシンが認識しているアプリケーションの実行可能ファイルへのパス。[参照] ボタンを使用すると、ローカルにインストールされた実行可能ファイルを参照できます。
 - 作業ディレクトリ。ショートカットの作業ディレクトリ。実行可能ファイルを参照すると、自動的に入力されます。
 - パラメーター。アプリケーションの起動パラメータ。
 - ターゲット。(ファイル/フォルダ) アプリケーションが開くターゲットファイルまたはフォルダの名前。
 - ショートカット **URL**。(URL) 追加するアプリケーションショートカットの URL。
 - **URL** をストアします。(StoreFront ストア) ショートカットから開始するリソースを含む StoreFront ストアの URL です。
 - リソースを保管します。(StoreFront ストア) ショートカットから開始する StoreFront ストア上のリソースです。[参照] ボタンを使用すると、リソースを参照して選択できます。

ヒント:

StoreFront ストアに基づくアプリケーションを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。[参照] を初めてクリックしてストアリソースを表示すると、ダイアログボックスが表示されます。このダイアログでは、Windows 向け Citrix Workspace アプリへのログオンに使用する資格情報の入力を求められます。その後、[リソースの保存] ウィンドウが開き、WEM 管理コンソールマシンで実行されている Windows 向け Citrix Workspace アプリによって取得された公開アプリケーションのリストが表示されます。

- [スタート] メニューの統合。[スタート] メニューでアプリケーションのショートカットを作成する場所を選択します。既定では、新しいショートカットは [プログラム] に作成されます。

オプション

- [アイコン] を選択します。アイコンファイルを参照し、アプリケーションのアイコンを選択できます。デフォルトでは、この設定はアプリケーションの実行可能ファイルのアイコンを使用しますが、有効なアイコンを選択できます。アイコンは、テキストとしてデータベースに格納されます。
 - 高解像度アイコンのみ。選択ボックスに HD アイコンのみを表示します。
- アプリケーションの状態。アプリケーションのショートカットを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、エージェントはユーザーに割り当てられていても処理しません。
- メンテナンスモード。この設定を有効にすると、ユーザーがアプリケーションのショートカットを実行できなくなります。ショートカットアイコンは、アイコンが使用できないことを示す警告記号を含むように変更され、ユーザーがアプリケーションを起動しようとしたときにアプリケーションが使用できないことを知らせる短い

メッセージを受信します。これにより、アプリケーションのショートカット・リソースを無効にしたり削除したりすることなく、公開アプリケーションがメンテナンス中のシナリオをプロアクティブに管理できます。

- 表示名。ユーザーの環境に表示されるショートカットの名前。
- ホットキー。ユーザーがアプリケーションを起動するためのホットキーを指定できます。ホットキーは大文字と小文字が区別され、次の形式で入力します (例:Ctrl + Alt + S)。
- アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

詳細設定

- 自動自己回復機能を有効にします。選択すると、ユーザーが移動または削除した場合、エージェントは更新時にアプリケーション・ショートカットを自動的に再作成します。
- アイコンの位置を強制。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットの正確な場所を指定できます。値はピクセル単位です。
- ウィンドウのスタイル。アプリケーションをエンドポイントの最小化、標準、または最大化ウィンドウのどちらで開くかを制御します。
- セルフサービスに表示しない。セッションエージェントが UI モードで実行されているときに、エンドユーザーが使用できるステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスからアプリケーションを非表示にします。これには、コンテキストメニューの「マイアプリケーション」アイコンリストと「アプリケーションの管理」フォームで非表示にすることが含まれます。
- ユーザーのお気に入りフォルダにショートカットを作成します。エンドユーザーの [お気に入り] フォルダにアプリケーションショートカットを作成します。

StoreFront ストアに基づくアプリケーションエントリを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。これにより、WEM 管理コンソールマシンにインストールされた Windows 向け Citrix Workspace アプリが公開アプリケーションのリストを取得できます。

【スタート】メニュービュー

【スタート】メニューに、アプリケーションのショートカットリソースの場所のツリービューが表示されます。

更新。アプリケーションリストを更新します。

移動。ウィザードが開き、アプリケーションのショートカットの移動先を選択できます。

編集。アプリケーションエディションウィザードを開きます。

【削除】。選択したアプリケーションショートカットリソースを削除します。

Citrix Studio を使用したアプリケーション設定の編集

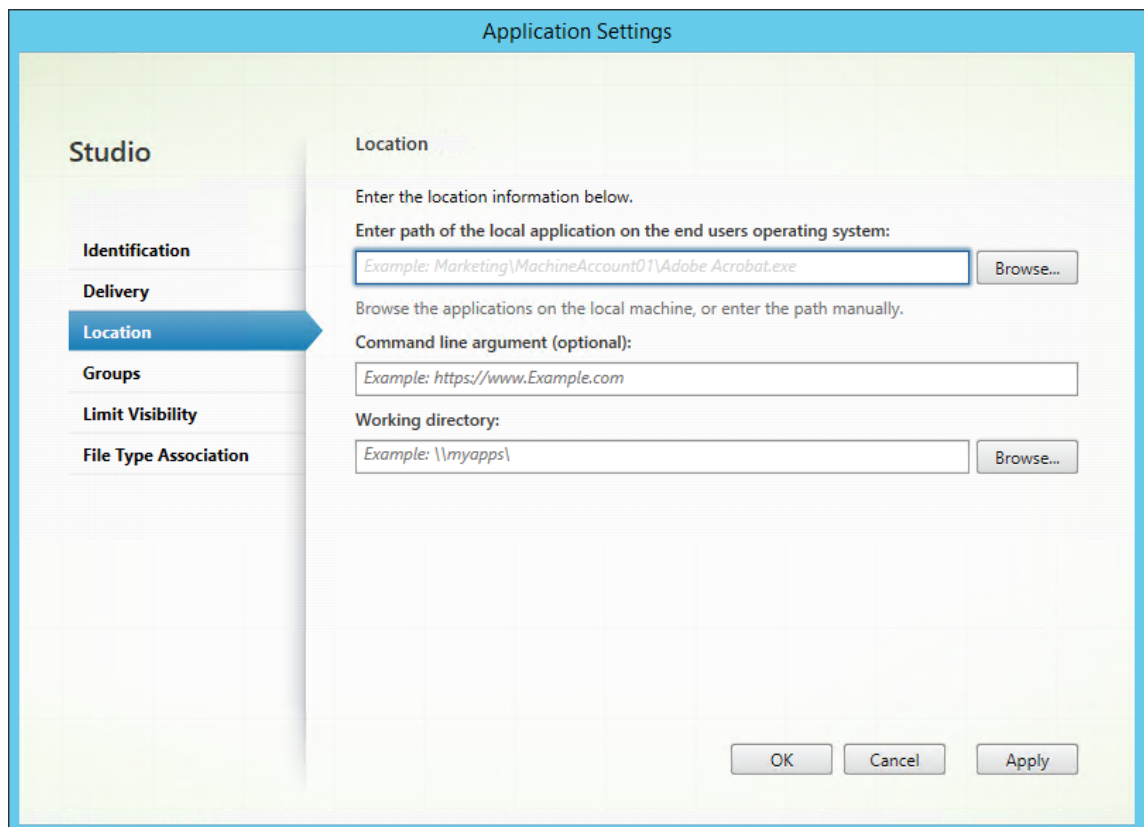
Workspace Environment Management (WEM) には、発生した問題のトラブルシューティングを行うクライアント側のツールが用意されています。VueMappCmd ツール (**VUEMAppCmd.exe**) を使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが起動する前に、WEM エージェントが環境の処理を完了します。このフォルダは、エージェントインストールフォルダ: にあります。%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe。

メモ:

64 ビット OS の場合は、代わりに%ProgramFiles(x86)%を使用してください。

Citrix Studio を使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** をポイントする実行可能ファイルのパスを追加できます。このためには、次の手順を実行します:

1. Citrix Studio の [アプリケーション設定] > [場所] ページに移動します。



2. エンドユーザーオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。

- 次のように入力します。%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe。

3. コマンドライン引数を入力して、開くアプリケーションを指定します。

- **VUEAppCmd.exe** を使用して、起動するアプリケーションのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲むようにしてください。
- たとえば、**ieexplore.exe** を **VUEAppCmd.exe** から起動するとします。これを行うには、次のように入力します。"`%ProgramFiles%\Internet Explorer\ieexplore.exe`"。

プリンター

July 13, 2022

このタブは、プリンターのマッピングを制御します。

ヒント:

動的トークンを使用すると、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

ネットワークプリンタリスト

一意の ID を持つ既存のプリンタリソースのリスト。「検索」(**Find**) を使用すると、プリンタのリストを名前または ID でテキスト文字列に対してフィルタリングできます。リボンの [\[\[ネットワークプリントサーバーのインポート\]\]\(/ja-jp/workspace-environment-management/current-release/user-interface-description/ribbon.html\)](#) を使用して、プリンタをインポートできます。

プリンタを追加するには

1. [ネットワークプリンタリスト] タブで、[追加] をクリックするか、空白の領域を右クリックして、コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2. [新しいネットワークプリンタ] ウィンドウで、必要な情報を入力し、[OK] をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: プリンター一覧に表示されるプリンタの表示名です。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるプリンタへのパス。

プリンタの状態。プリンタを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部認証情報。プリンタへの接続に使用する特定の資格情報を記述できます。

自己修復。エージェントが更新されるときに、ユーザーに対してプリンタを自動的に再作成するかどうかを切り替えます。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。[デバイスマッピングプリンタファイルを使用]で、XML プリンタリストファイルへの絶対パスとして [ターゲットパス] を指定します ([XML プリンタリストの構成を参照](#))。エージェントが更新されると、この XML ファイルが解析され、プリンタがアクションキューに追加されます。

プリンタを読み込むには

1. リボンで、[ネットワークプリントサーバーのインポート] をクリックします。
2. [ネットワークプリントサーバーからインポート] ダイアログに詳細を入力し、[OK] をクリックします。

フィールドとコントロール

プリントサーバー名。プリンターのインポート元となるプリントサーバーの名前を指定します。

代替資格情報を使用します。デフォルトでは、インポートでは、管理コンソールが現在実行されている ID を持つ Windows アカウントの資格情報が使用されます。プリントサーバーへの接続に別の資格情報を指定するには、このオプションを選択します。

ネットワーク ドライブ

July 13, 2022

ネットワークドライブのマッピングを制御します。

ヒント:

[動的トークンを使用すると](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

ネットワークドライブリスト

既存のネットワークドライブのリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ネットワークドライブを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. [新しいネットワークドライブ] ダイアログのタブに詳細を入力し、[OK] をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: ネットワークドライブリストに表示されるドライブの表示名。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるネットワークドライブへのパス。

ネットワークドライブの状態。ネットワークドライブが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部認証情報。ネットワークドライブへの接続に使用する特定の資格情報を記述できます。

自動自己回復機能を有効にします。エージェントの更新時にネットワークドライブを自動的に再作成するかどうかを切り替えます。

ホームドライブとして設定します。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。デフォルトは [ネットワークドライブのマッピング] です。

仮想ドライブ

July 13, 2022

仮想ドライブのマッピングを制御します。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマップする Windows 仮想ドライブまたは MS-DOS デバイス名です。

ヒント:

動的トークンを使用すると、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

仮想ドライブリスト

既存の仮想ドライブのリストを表示します。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

仮想ディスクを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソール > アクション > 仮想ドライブ > 仮想ドライブリスト] タブに移動し、[追加] をクリックします。または、空白領域を右クリックし、コンテキストメニューから [追加] を選択します。[新しい仮想ドライブ] ウィンドウが表示されます。
 - a) [全般] タブで、必要な情報を入力し、仮想ドライブをホームドライブとして設定するかどうかを選択します。
 - b) 「OK」をクリックして変更を保存し、「新規仮想ドライブ」ウィンドウを終了します。

2. [管理コンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] タブに移動します。

- a) 仮想ドライブを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
- b) 仮想ドライブを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。
- c) 「フィルタとドライバ文字の割り当て」ウィンドウで、「常に真」を選択し、ドライバ文字を選択して「OK」をクリックします。仮想ドライブが [使用可能] ペインから [割り当て済み] ペインに移動します。

[詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブの [SQL 設定更新の遅延] で指定した値によっては、割り当てが有効になるまでに時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てを直ちに有効にするには、次の手順を実行します。

1. [管理コンソール] > [管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。

フィールドとコントロール

[一般] タブ **Name**: 仮想ドライブのリストに表示されるドライブの表示名。

[説明]。仮想ドライブに関する追加情報を指定できます。この情報は、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決される仮想ドライブへのパスを入力します。

仮想ドライブの状態。仮想ドライブが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、エージェントはユーザーに割り当てられていても処理しません。

ホームドライブとして設定します。ホームドライブとして設定するかどうかを選択できます。

[オプション] タブ アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

レジストリエントリ

October 7, 2022

レジストリエントリの作成を制御します。

ヒント:

動的トークンを使用すると、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

レジストリ値リスト

既存のレジストリエントリのリスト。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

レジストリエントリを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規レジストリ値」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: レジストリエントリのリストに表示されるレジストリエントリの表示名。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

レジストリ値の状態。レジストリエントリを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。レジストリエントリが作成されるレジストリの場所。Workspace Environment Managementでは、現在のユーザーのレジストリエントリのみを作成できるため、%ComputerName%\HKEY_CURRENT_USERを値の前に記述する必要はありません。これは自動的に行われます。

ターゲット名。レジストリ値の名前。レジストリに表示されます (たとえば、NontSecurity)。

ターゲットタイプ。作成されるレジストリエントリの種類。

ターゲット値。一度作成されたレジストリエントリの値 (たとえば、0 または C:\Program Files)

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにレジストリ・エントリを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management がレジストリエントリを 1 回だけ作成し、更新するたびにではなく、最初の更新時に作成します。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多数のレジストリエントリがユーザーに割り当てられている場合。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

レジストリファイルのインポート

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には次の制限があります。

- HKEY_CURRENT_USER以下のレジストリ値のみがサポートされます。レジストリエントリ機能では、HKEY_CURRENT_USERでレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- REG_BINARYおよびREG_MULTI_SZ型のレジストリ値はサポートされていません。

制限を回避するために、グループポリシー設定の [レジストリファイルのインポート] オプションを使用して、レジストリファイルを **WEM** にインポートすることをお勧めします。詳細については、「[レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする](#)」を参照してください。

レジストリファイルをインポートするには、次の操作を行います。

1. 管理コンソールで、[アクション] > [レジストリエントリ] に移動します。
2. リボンで、[レジストリファイルのインポート] をクリックします。
3. [レジストリファイルからインポート] ウィンドウで、レジストリファイルを参照します。
4. [スキャン] をクリックして、レジストリファイルのスキャンを開始します。スキャンが正常に完了すると、レジストリ設定の一覧が表示されます。
5. インポートするレジストリ設定を選択し、[選択項目のインポート] をクリックしてインポートプロセスを開始します。
6. [OK] をクリックして終了します。

フィールドとコントロール

レジストリファイル名。 **.reg** ファイルに移動して [開く] をクリックすると、自動的に入力されます。 **.reg** ファイルには、WEM にインポートするレジストリ設定が含まれています。 **.reg** ファイルは、インポートするレジストリ設定のみが適用されるクリーンな環境から生成する必要があります。

スキャン。 **.reg** ファイルをスキャンし、ファイルに含まれているレジストリ設定の一覧を表示します。

レジストリ値リスト。インポートする **.reg** ファイルに含まれているすべてのレジストリ値をリストします。

[インポートしたアイテム] を有効にします。無効にすると、新しくインポートされたレジストリキーは既定で無効になります。

インポートされたアイテム名の接頭辞。選択すると、このウィザードでインポートされたすべてのレジストリ項目の名前にプレフィックスが追加されます (たとえば、「XP Only」または「finance」)。これにより、レジストリエントリの識別と整理が容易になります。

注:

ウィザードは、同じ名前前のレジストリエントリをインポートできません。 **.reg** ファイルに同じ名前前のレジストリエントリが複数含まれている場合は ([レジストリ値リスト] に表示される)、インポートするエントリの 1 つを選択します。他のものをインポートする場合は、名前を変更します。

環境変数

July 31, 2020

環境変数の作成を制御します。

ヒント

[動的トークン](#) を使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

環境変数リスト

既存の環境変数のリスト。「検索」 (**Find**) を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタできます。

環境変数を追加するには

1. 右クリックメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規環境変数」 ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。環境変数リストに表示される変数の表示名。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

環境変数の状態。環境変数が有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられている場合でも、エージェントによって処理されません。

変数名。環境変数の機能名。

変数值。環境変数の値。

[アクションタイプ]。このリソースがどのタイプのアクションであるかを説明します。

実行順序。

ポート

July 31, 2020

ポート機能を使用すると、クライアントの COM ポートと LPT ポートのマッピングが可能になります。Citrix Studio ポリシーを使用して、COM ポートと LPT ポートの自動接続を有効にすることもできます。詳細については、「[ポートリダイレクトポリシーの設定](#)」を参照してください。

ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix Studio でクライアント COM ポートリダイレクトポリシーまたはクライアント LPT ポートリダイレクトポリシーを有効にしてください。デフォルトでは、COM ポートのリダイレクトと LPT ポートのリダイレクトは禁止されています。

ヒント:

動的トークンを使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

ポートリスト

既存のポートのリスト。[検索]を使用して、名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2. [新しいポート] ダイアログボックスに詳細を入力し、[OK] をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられている場合でも、エージェントによって処理されません。

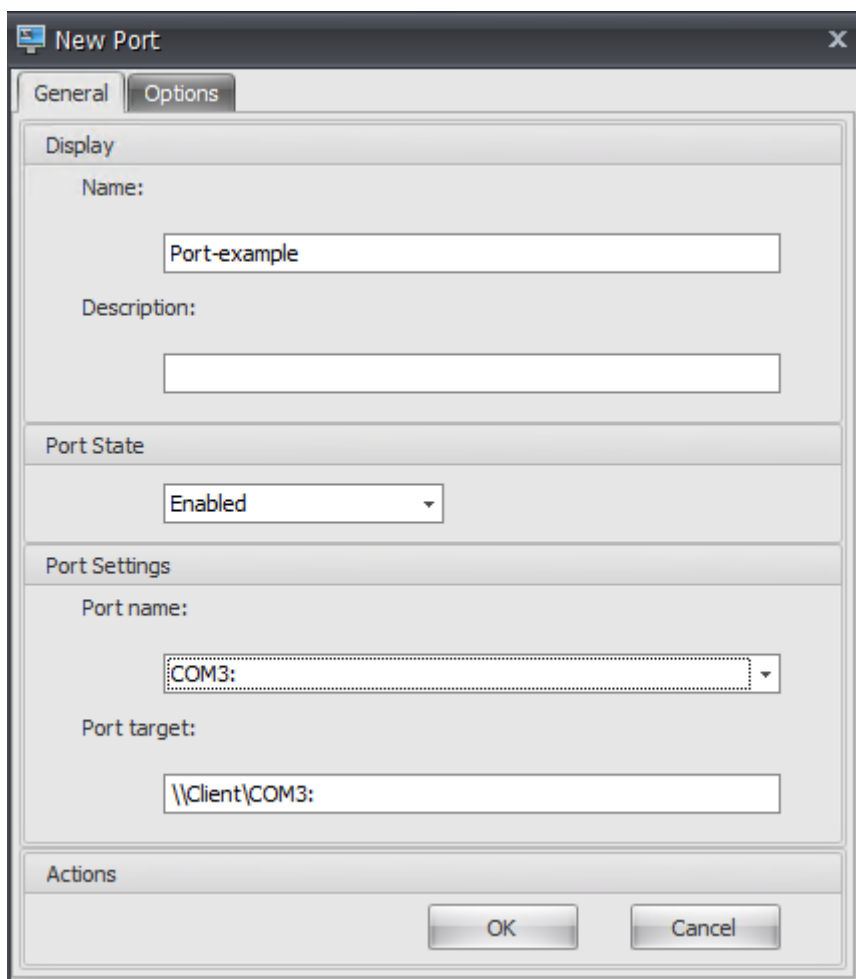
ポート名。ポートの機能名。

ポートターゲット。ターゲットポート。

[オプション] タブ [アクションタイプ]。このリソースがどのタイプのアクションであるかを説明します。

たとえば、次のようにポート設定を構成できます。

- ポート名: 「COM3:」を選択します。
- ポートターゲット: \\ クライアント \ COM3 を入力してください:



INI ファイル

November 6, 2020

.ini ファイルの操作の作成をコントロールし、**.ini** ファイルを修正できるようにします。

ヒント:

[動的トークン](#) を使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

INI ファイル操作リスト

既存の ini ファイル操作のリスト。「検索」 (**Find**) を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタできます。

.ini ファイル操作を追加するには

1. 右クリックメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. [新規 **INI** ファイル操作] ダイアログボックスに詳細を入力し、[**OK**] をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。[INI ファイル操作] リストに表示される.ini ファイル操作の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.ini ファイルの操作状態。.ini ファイルの操作を有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられている場合でも、エージェントによって処理されません。

ターゲットパス。これは、ユーザーの環境で解決される時に変更される.ini ファイルの場所を指定します。

ターゲットセクション。この操作の対象となる.ini ファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定すると、そのセクションが作成されます。

ターゲット値名。これは、追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。これは、値自体を指定します。

[**1 回実行**]。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびに.ini ファイル操作を実行します。Workspace Environment Management で、更新するたびに操作を 1 回だけ実行するようにするには、このボックスをオンにします。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、ユーザーに割り当てられている.ini ファイル操作が多数ある場合は、この処理が高速化されます。

[**アクションタイプ**]。このリソースがどのタイプのアクションであるかを説明します。

外部タスク

October 7, 2022

外部タスクの実行を制御します。外部タスクには、エージェント・ホストがそれらを実行する対応するプログラムを持っている限り、スクリプトおよびアプリケーションの実行が含まれます。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** スクリプトと**.cmd** スクリプトが含まれます。

外部タスク機能を使用すると、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。これにより、ユーザー環境をより効果的に管理できます。

ヒント:

動的トークンを使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

外部タスク・リスト

既存の外部タスクのリスト。[検索]を使用して、リストをフィルタできます。

外部タスクを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規外部タスク」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

The screenshot shows the 'New External Task' dialog box with the following fields and controls:

- General Tab:**
 - Display:** Name (text input), Description (text input).
 - Target:** Path (text input with 'Browse...' button), Arguments (text input).
 - External Task State:** Enabled (dropdown menu).
 - Options:** Run Hidden (checkbox), Run Once (checked checkbox), Execution Order: 0 (text input), Wait for Task Completion (checked checkbox), Wait Timeout: 30 (text input).
 - Actions:** OK, Cancel buttons.

Name: 外部タスクのリストに表示される外部タスクの表示名を指定できます。

[説明]。外部タスクに関する追加情報を指定できます。

パス。外部タスクへのパスを指定できます。パスはユーザー環境で解決されます。以下の点について確認してください:

- ここで指定したパスは、エージェントホストと一致しています。
- エージェント・ホストには、タスクを実行するための対応するプログラムがあります。

引数。起動パラメーターまたは引数を指定できます。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれています。[パス] フィールドと [引数] フィールドの使用例については、「[外部タスクの例](#)」を参照してください。

外部タスクの状態。外部タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられている場合でも、エージェントはタスクを処理しません。

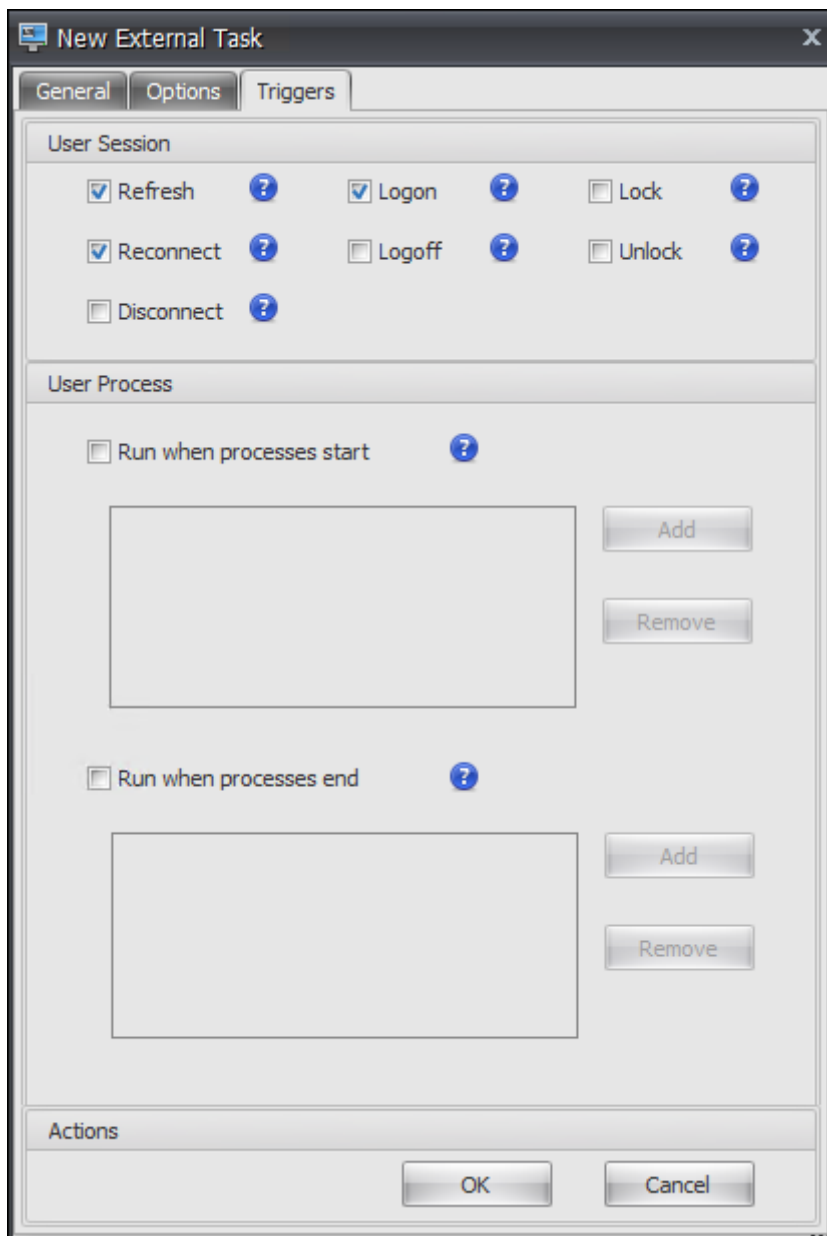
[非表示] を実行します。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

1 回実行してください。選択した場合、**[Triggers]** タブで選択したオプションや、エージェントが再起動するかどうかに関係なく、WEM はタスクを 1 回だけ実行します。デフォルトではこのオプションが選択されています。

実行順序。各タスクの実行順序を指定できます。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられており、一部のタスクが他のタスクに依存して正常に実行されている場合に便利です。デフォルトでは、値は 0 です。実行順序の値が 0 (ゼロ) のタスクが最初に実行され、次に値 1 のタスク、次に値 2 のタスクが実行されます。

タスク完了を待ちます。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定できます。デフォルトでは、[待機タイムアウト] の値は 30 秒です。

アクションタイプ。外部タスクがどのようなアクションであるかを記述します。



ユーザーセッショントリガー。この機能を使用すると、次のセッションアクティビティを外部タスクのトリガーとして設定できます。

- 更新。ユーザーがエージェントを更新するときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- 再接続。エージェントが実行されているマシンにユーザーが再接続したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。WEM エージェントが物理 Windows デバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。
- ログオン。ユーザーのログオン時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- ログオフ。ユーザーがログオフするときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。Citrix ユーザーログオンサービスが実行されていない限り、このオプションは機能しません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- 切断。エージェントが実行されているマシンからユーザーが切断したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- [ロック]。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロックしたときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- ロック解除。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロック解除したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

切断、ロック、ロック解除のオプションを使用する場合は、次の制約を考慮してください。

- これらのオプションの実装は Windows イベントに基づきます。環境によっては、これらのオプションが期待どおりに機能しないことがあります。たとえば、Windows 10 または Windows 11 のシングルセッション VDA で実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに lock オプションを使用してください。(このシナリオでは、受け取るアクションは「ロック」です。)
- これらのオプションは UI エージェントとともに使用することをお勧めします。2つの理由:
 - CMD エージェントでオプションを使用すると、対応するイベントが発生するたびにエージェントがユーザー環境で起動し、外部タスクが実行されるかどうかを確認します。
 - 同時実行タスクシナリオでは、CMD エージェントが最適に動作しない場合があります。

ユーザープロセストリガー。この機能を使用すると、ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして設定できます。この機能を使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを提供し、プロセスの終了時にそれらのリソースを取り消す外部タスクを定義できます。プロセスを外部タスクのトリガーとして使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合に比べて、ユーザー環境をより正確に管理できます。

- この機能を使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。
 - WEM エージェントが起動し、UI モードで実行されます。
 - 指定されたプロセスは、ログオンユーザーと同じユーザーセッションで実行されます。
 - 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、[詳細設定] > [構成] > [詳細オプション] タブで [自動更新を有効にする] を選択してください。
- プロセスの開始時に実行します。指定したプロセスの開始時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。
- プロセスが終了したときに実行します。指定したプロセスの終了時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。

トラブルシューティング

この機能を有効にすると、WEM エージェントは、ユーザーが初めてログオフしたときに Citrix WEM Agent `Logoff.log` という名前のログファイルを作成します。ログファイルは、ユーザーのプロファイルルートフォルダ

一にあります。WEM エージェントは、ユーザーがログオフするたびに情報をログファイルに書き込みます。この情報は、外部タスクに関連する問題の監視とトラブルシューティングに役立ちます。

外部タスクの例

スクリプト (PowerShell スクリプトなど) の場合:

- フォルダパスもスクリプト名にも空白文字が含まれていない場合は、次のようにします。
 - [パス] フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
 - [引数] フィールドに、次のように入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

または、[パス] フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。[引数] フィールドで、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルを実行するか、別のプログラムで開くかは、ユーザー環境で構成されたファイルタイプの関連付けによって異なります。ファイルタイプの関連付けの詳細については、「[ファイルの関連付け](#)」を参照してください。

- フォルダパスまたはスクリプト名に空白文字が含まれている場合は、次の操作を行います。
 - [パス] フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
 - [引数] フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーション (iexplore.exe など) の場合:

- [パス] フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe`。
- [引数] フィールドに、Web サイトの URL を入力して開きます: `https://docs.citrix.com/`。

ファイル システム操作

January 21, 2022

ユーザーの環境へのフォルダとファイルのコピーを制御します。

ヒント:

[動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイル・システム・オペレーション・リスト

既存のファイルとフォルダの操作のリスト。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ファイル・システム・オペレーションを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規ファイルシステムオペレーション」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: リストに表示されるファイルまたはフォルダ操作の表示名です。

[説明]。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステムの動作状態。ファイルシステムの操作を有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダへのパス。

ターゲットパス。コピーするコピー元のファイルまたはフォルダのコピー先のパス。

既存の場合はターゲットを上書きします。ファイルまたはフォルダの操作で、ターゲットの場所にある同じ名前の既存のファイルまたはフォルダを上書きするかどうかを制御します。オフにすると、同じ名前のファイルまたはフォルダがコピー先の場所に既に存在する場合、影響を受けるファイルはコピーされません。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。Workspace Environment Management で、更新のたびにではなく、1 回だけ操作を実行するには、このオプションを選択します。これにより、エージェントのリフレッシュ・プロセスが高速化されます。特に、多数のファイル・システム操作をユーザーに割り当てている場合は特にそうです。

アクションタイプ。このファイルまたはフォルダのアクションの種類について説明します。コピー、削除、移動、名前の変更、またはシンボリックリンク操作。シンボリックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可する `SeCreateSymbolicLinkPrivilege` 権限をユーザーに付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作よりも先に実行できるようにします。実行順序の値が 0 (ゼロ) の操作が最初に実行され、次に値が 1 の操作、次に値が 2 の操作、というように実行されます。

ユーザー DSN

July 31, 2020

ユーザー DSN の作成を制御します。

ヒント:

動的トークンを使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

ユーザー DSN リスト

既存のユーザー DSN のリスト。「検索」(**Find**) を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタできます。

ユーザー DSN を追加するには

1. 右クリックメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規ユーザー DSN」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザー DSN リストに表示されるユーザー DSN の表示名。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザー DSN の状態。ユーザー DSN が有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられている場合でも、エージェントによって処理されません。

DSN 名。ユーザー DSN の機能名。

ドライバー。DSN ドライバ。現時点では、SQL サーバーの DSN のみがサポートされています。

サーバ名。ユーザー DSN が接続する SQL サーバーの名前。

データベース名。ユーザー DSN が接続する SQL データベースの名前。

特定の資格情報を使用して接続します。サーバー/データベースへの接続に使用する資格情報を指定できます。

[1 回実行]。デフォルトでは、Workspace Environment Management では、エージェントが更新されるたびにユーザー DSN が作成されます。Workspace Environment Management がユーザー DSN を毎回更新するのではなく、一度だけ作成するようにするには、このチェックボックスをオンにします。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、ユーザーに割り当てられている DSN の数が多い場合は特にそうです。

[アクションタイプ]。このリソースがどのタイプのアクションであるかを説明します。

ファイルの関連付け

April 8, 2021

重要:

構成するファイルの種類関連付けは、自動的に既定の関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法しますか?」ウィンドウが表示されても、ファイルを開くアプリケーションを選択するように求めるメッセージが表示されます。[OK] をクリックしてウィンドウを閉じます。同様のウィンドウを再び表示しない場合は、次の操作を行います: [コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [Windows コンポーネント] > [エクスプローラー] からグループポリシーエディターを開き、[新しいアプリケーションがインストールされた場合に通知を表示しない] ポリシーを有効にします。

ユーザー環境でのファイルタイプの関連付けの作成を制御します。

ヒント:

[動的トークン](#)を使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルの関連付けリスト

既存のファイルの関連付けのリスト。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

ファイルの関連付けを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規ファイルの関連付け」ダイアログタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

Name: ファイルの関連付けリストに表示されるファイルの関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイルの関連付けを [有効] または [無効] のどちらにするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルの種類に関連付けに使用される拡張子。リストからファイル名拡張子を選択すると、[ProgID] フィールドが自動的に入力されます (管理コンソールが実行されているマシンにファイルの種類が存在する場合)。拡張機能を直接入力することもできます。ただし、ブラウザーの関連付けの場合は、拡張子を直接入力する必要があります。詳しくは、「[ブラウザーの関連付け](#)」を参照してください。

ProgID。 アプリケーション (COM) に関連付けられたプログラム識別子。この値は、リストからファイル拡張子を選択すると、自動的に設定されます。ProgID を直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションの ProgID を検出するには、OLE/COM オブジェクトビューア (oleview.exe) を使用して、オブジェクトクラ

ス/OLE 1.0 オブジェクトを確認します。ProgID については、「[プログラム識別子 \(ProgID\)](#)」を参照してください。

アクション。アクションタイプ (開く、編集、印刷) を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用する実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。たとえば、UltraEdit テキストエディターの場合、次のようになります：
`C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションの種類を指定できます。例：

- 開くアクションの場合は、「`%1`」と入力します。
- 印刷アクションの場合は、「`/p"%1"`」と入力します。

デフォルトアクションとして設定。関連付けが、そのファイル名拡張子の既定として設定されているかどうかを切り替えます。

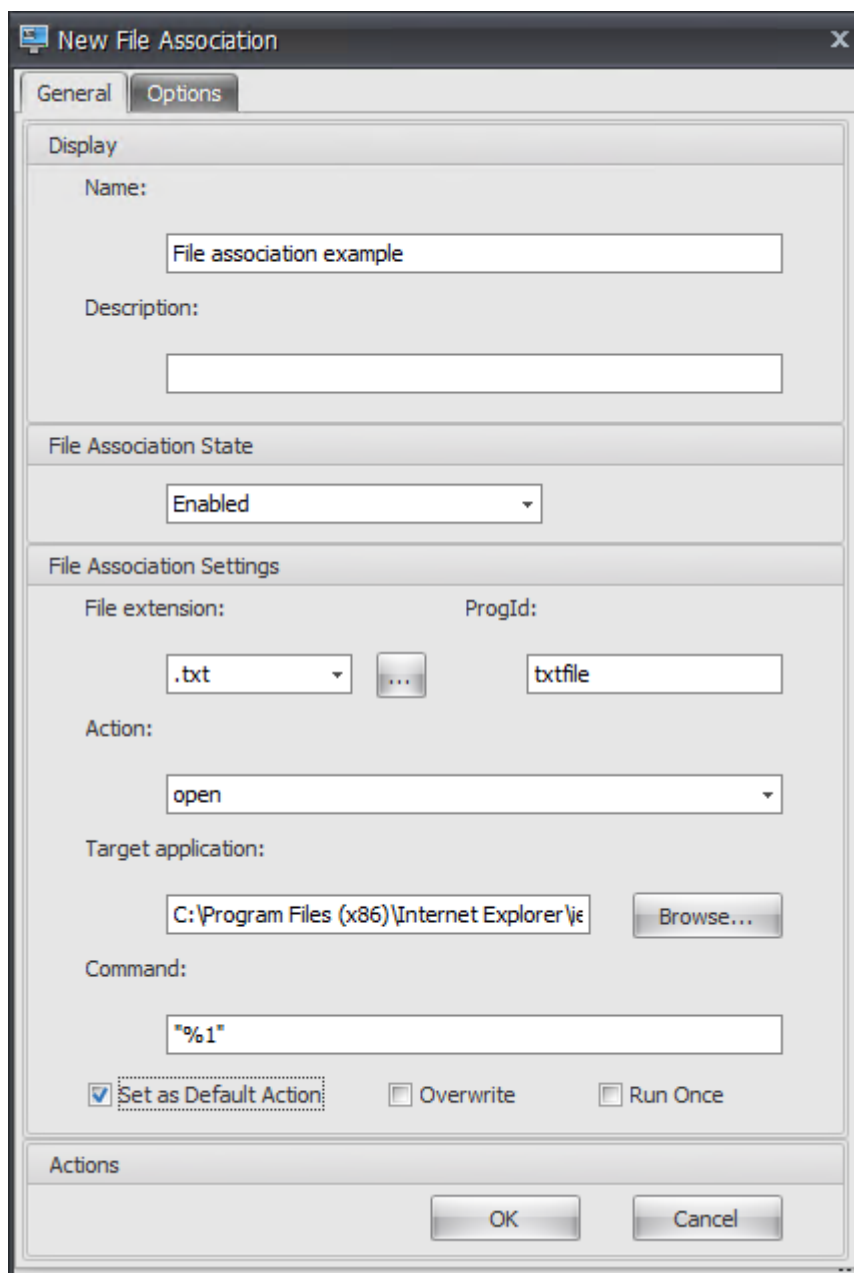
上書き。このファイルの関連付けが、指定した拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

一度実行する。デフォルトでは、Workspace Environment Management (WEM) は、エージェントが更新されるたびにファイルの関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新するたびにではなく、1 回だけファイルの関連付けが作成されます。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多くのファイルの関連付けがユーザーに割り当てられている場合。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

たとえば、テキスト (.txt) ファイルの新しいファイルタイプの関連付けを追加して、ユーザーが選択したプログラム (ここでは iexplore.exe) でテキストファイルを自動的に開くには、次の手順を実行します。

1. [管理コンソール] > [アクション] > [ファイルの関連付け] > [ファイルの関連付けリスト] タブで、[追加] をクリックします。
2. [新しいファイルの関連付け] ウィンドウで、情報を入力し、[OK] をクリックします。



- ファイル関連付けの状態。[有効] をクリックします。
- ファイル拡張子。ファイル名拡張子を入力します。この例では、.txt と入力します。
- アクション。[開く] を選択します。
- ターゲットアプリケーション。[参照] をクリックして、該当する実行可能ファイル (.exe ファイル) に移動します。この例では、C:\Program ファイル (x86)\Internet Explorer フォルダにある iexplore.exe を参照します。
- コマンド。「%1」と入力し、%1 を二重引用符で囲むようにしてください。
- 「デフォルトアクションとして設定」を選択します。

3. [管理コンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] タブに移動します。

4. アクションを割り当てるユーザーまたはユーザー・グループをダブルクリックします。
5. [管理コンソール] > [管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。
6. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。
7. エージェントが実行されているマシン（ユーザー環境）に移動し、作成されたファイルタイプの関連付けが機能することを確認します。

この例では、エンドユーザー環境で拡張子.txt のファイルをダブルクリックすると、そのファイルは自動的に Internet Explorer で開きます。

ヒント

ブラウザの関連付け

WEM では、次のブラウザに対する関連付けの作成がサポートされています。

- Google Chrome
- Firefox
- Opera
- Internet Explorer (IE)
- Microsoft Edge
- Microsoft Edge Chromium

ブラウザの関連付けを作成するときは、次の点に注意してください。

- [ファイル拡張子] フィールドに、[http](#)または[https](#)と入力します。
- [**ProgID**] フィールドに、選択した内容に基づいて次のように入力します (大文字と小文字が区別されます)。
 - [ChromeHTML](#) (Google Chrome の場合)
 - [firefox](#) (Firefox の場合)
 - [OperaStable](#) (Opera の場合)
 - [IE](#) (Internet Explorer (IE) の場合)
 - [edge](#) (Microsoft Edge の場合)
 - [edge](#) または [MSEdgeHTM](#) Microsoft Edge Chromium

プログラム識別子 (**ProgID**)

[アクション]、[ターゲットアプリケーション]、[コマンド] の各フィールドに入力する必要がなくなりました。正しい **ProgID** を提供できる限り、フィールドを空のままにしておくことができます。一般的なアプリケーションの ProgID のリストを以下に示します。

- Acrobat Reader DC: `AcroExch.Document.DC`
- Opera ブラウザー: `OperaStable`
- Google Chrome ブラウザー: `ChromeHTML`
- Internet Explorer: `htmlfile`
- ワードパッド: `textfile`
- メモ帳: `txtfile`
- Microsoft Word 2016: `Word.Document.12`
- Microsoft SharePoint 2016: `PowerPoint.Show.12`
- Microsoft Excel 2016: `Excel.Sheet.12`
- Microsoft Visio 2016: `Visio.Drawing.15`
- Microsoft Publisher 2016: `Publisher.Document.16`

ただし、次の場合は、フィールド (アクション、ターゲットアプリケーション、コマンド) に入力する必要があります:

- 正しい **ProgID** を指定できない。
- ターゲットアプリケーション (UltraEdit テキストエディターなど) は、インストール中にレジストリに独自の ProgID を登録しません。

フィルター

January 21, 2022

フィルタには、ユーザーがアクションを使用可能にする (アクションを割り当てる) ためのルールと条件が含まれています。ユーザーにアクションを割り当てる前に、ルールと条件を設定します。

規則

ルールは複数の条件で構成されます。ルールを使用して、アクションがユーザーに割り当てられるタイミングを定義します。

フィルタ規則リスト

既存のルールのリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

フィルタルールを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. [新しいフィルタルール] ダイアログに詳細を入力します。
3. このルールで構成する条件を [使用可能] リストから [構成済み] リストに移動します。
4. 「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: ルールリストに表示されるルールの表示名。

[説明]。このフィールドはエディション/作成ウィザードにのみ表示され、ルールに関する追加情報を指定できません。

フィルタルールの状態。ルールが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、エージェントは、割り当てられている場合でも、このルールを使用してアクションを処理しません。

使用可能な条件。これらは、ルールに追加できるフィルタ条件です。注。 **DateTime** フィルタは、次の形式で結果を期待します。 `YYYY/MM/DD HH:mm`

複数の値はセミコロン (;) で区切ることができ、範囲はハイフンで区切ることができます。同じ日付に 2 回の範囲を指定する場合、日付は範囲の両端に含める必要があります。たとえば、`1969/12/31 09:00-1969/12/31 17:00`

設定済みの条件。これらは、すでにルールに追加されている条件です。

注:

これらの条件は **AND** ステートメントであり、**OR** ステートメントではありません。複数の条件を追加する場合、フィルタがトリガーされたと思なされるためには、それらの条件がすべてトリガーされる必要があります。

条件

条件は、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を設定できる特定のトリガーです。

フィルタ条件リスト

既存の条件のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

フィルタ条件を追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規フィルタ条件」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: 条件リストおよびルールの作成/編集ウィザードに表示される条件の表示名。

[説明]。このフィールドはエディション/作成ウィザードにのみ表示され、条件に関する追加情報を指定できます。

フィルタ条件状態。フィルタを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ルール作成/編集ウィザードに表示されません。

フィルタ条件タイプ。使用するフィルタ条件タイプのタイプ。「フィルタ条件」を参照してください。注:[常に真] 条件を使用するルールは、常にトリガーされます。

設定。これらは、個々の条件の特定の設定です。[フィルター条件を参照してください](#)。

注:

IP アドレスを入力するときは、個々のアドレスまたは範囲を指定できます。

範囲を指定する場合は、両方の境界をフルで指定する必要があります。IP 範囲境界を区切るには、ダッシュ文字 (-) を使用します (たとえば、**192.168.10.1-192.168.10.5**)。セミコロン (;) を使用して、複数の範囲またはアドレスを区切ります。たとえば、**192.168.10.1-192.168.10.5; 192.168.10.8; 192.168.10.17** は、**.1-.5** および **.8-.10** の範囲と個々のアドレス ****17**** を含む有効な値です。

Assignments

November 28, 2022

ヒント:

ユーザーにアクションを割り当てる前に、次の手順を所定の順序で実行します。

- ユーザーを構成するには、「Active Directory [オブジェクト内のユーザー](#)」を参照してください。
- 条件を定義します。[条件を参照してください](#)。
- フィルタルールを定義します。[ルールを参照してください](#)。
- ここで説明するアクションを設定します。

アサインメントを使用して、ユーザーがアクションを使用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスク립トの一部を置き換えることができます。

アクション割り当て

Users

これは、構成済みのユーザーとグループのリストです (「Active Directory [オブジェクト内のユーザー](#)」を参照)。ユーザーまたはグループをダブルクリックして、割り当てメニューを設定します。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタリングします。

ヒント:

Active Directory のすべてのユーザーに対するアクションの割り当てを簡素化するには、「Everyone」の既定のグループを使用してアクションを割り当てます。[すべてのユーザー] の既定のグループに割り当てたアクションは、個々のユーザーの [** アクションモデリングウィザード] の [結果アクション **] タブに表示されません。たとえば、action1 を「Everyone」のデフォルトグループに割り当てた後、action1 が [結果のアクション] タブに表示されないことがあります。

Assignments

選択したユーザーまたはグループにアクションを割り当てることができます。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタリングします。

使用できます。このユーザーまたはグループに割り当てることができるアクションが表示されます。

アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、アクションを割り当てるか割り当て解除します。アクションを割り当てると、コンテキスト化するルールを選択するよう求められます。

割り当て済み。このユーザーまたはグループに既に割り当てられているアクションを表示します。個々のアクションを展開して構成できます (アプリケーションのショートカットの場所、既定のプリンタ、ドライブ文字など)。

ユーザー/グループにアクションを割り当てるには

1. [ユーザー] リストで、ユーザーまたはグループをダブルクリックします。これにより、[割り当て] リストにデータが入力されます。
2. [使用可能] リストで、アクションを選択し、右矢印 (**) ボタンをクリックします。
3. 「フィルタの割り当て」ダイアログで、** フィルタルールを選択し **、「OK」をクリックします。
4. 「割り当て」 (Assigned) リストで、「有効化」 (Enable) および「無効」 (Disable) コンテキストアクションを使用して、割り当ての動作を微調整できます。

注:

[スタートメニューに固定] オプションが機能するようには、アプリケーションのショートカットがスタートメニューフォルダにあることを確認してください。よくわからない場合は、[スタートメニューの作成] オプションも有効にしてください。

たとえば、メモ帳を起動するアクションを割り当てるとします。割り当て済みリストでは、オプション「自動開始」が提供され、デフォルトで「無効」に設定されています。[有効にする] オプションを使用して自動起動を有効にすると、ユーザーが公開デスクトップセッションを起動すると、メモ帳（VDA 上のローカルメモ帳）が自動的に起動します（デスクトップのロードが完了すると、ローカルメモ帳が自動的に起動します）。

モデリングウィザード

アクションモデリングウィザードには、特定のユーザーに対する結果アクションのみが表示されます（グループでは機能しません）。

フィールドとコントロール

アクションモデリングターゲットユーザー。モデル化するユーザーのアカウント名。

結果アクション。ユーザーまたはユーザーが属するグループに割り当てられたアクション。

ユーザーグループ。ユーザーが属するグループ。

システム最適化

April 8, 2021

Workspace Environment Management システムの最適化は、次のもので構成されます。

- [CPU 管理](#)
- [メモリ管理](#)
- [I/O 管理](#)
- [高速ログオフ](#)
- [Citrix Optimizer](#)

これらの設定は、エージェントホストのリソース使用量を減らすように設計されています。これらのリソースは、解放されたリソースが他のアプリケーションで使用できるようにするのに役立ちます。これにより、同じサーバー上でより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザーの密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースで、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセスの最適化はユーザー中心です。つまり、プロセスがユーザー A のセッションで CPU Spike Protection をトリガーすると、そのイベントはユーザー A に対してのみ記録されます。ユーザー B が同じプロセスを開始すると、プロセス最適化の動作は、ユーザー B のセッションのプロセス・トリガーによってのみ決定されます。

CPU 管理

October 26, 2023

これらの設定により、CPU 使用率を最適化できます。

CPU 管理設定

プロセスはすべてのコアで実行でき、CPU を必要なだけ使い果たすことができます。Workspace Environment Management (WEM) の [CPU 管理設定] では、個々のプロセスが使用できる CPU キャパシティを制限できます。CPU スパイク保護は、全体的な CPU 使用量を減らすようには設計されていません。これは、CPU 使用率を過剰に消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPU スパイク保護を有効にすると、プロセスが指定したしきい値に達すると、WEM はプロセスの優先度を一定時間自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先順位の低いプロセスよりも優先順位が高く、システムはスムーズに動作し続けます。

CPU スパイク保護は、クイック「スナップショット」で各プロセスを検証します。プロセスの平均負荷が、指定したサンプル時間に対して指定された使用制限を超えると、その優先度はすぐに低下します。指定した時間が経過すると、プロセスの CPU 優先度は前の値に戻ります。プロセスは「スロットル」されません。CPU クランピングとは異なり、優先順位のみが下がります。

CPU スパイク保護は、個々のプロセスの少なくとも 1 つのインスタンスがしきい値を超えるまでトリガーされません。つまり、CPU の合計消費量が指定されたしきい値を超えた場合でも、少なくとも 1 つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPU スパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスが CPU スパイク保護をトリガーすると、「インテリジェントな CPU 最適化を有効にする」オプションを有効にすると、同じプロセスの新しいインスタンスが (CPU) 最適化されます。

特定のプロセスが CPU スパイク保護をトリガーするたびに、イベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。つまり、user1 の特定のプロセスの CPU 最適化は、user2 の同じプロセスの動作には影響しません。

たとえば、Internet Explorer が CPU の 50~60% を消費することがある場合には、CPU スパイク保護を使用して、VDA のパフォーマンスを脅かすような iexplore.exe インスタンスのみをターゲットにすることができます。(対照的に、CPU クランプはすべてのプロセスに適用されます。)

サンプル時間を試して、同じ VDA にログオンしている他のユーザーに影響を与えない環境に最適な値を決定することをお勧めします。

CPU スパイク保護

注記:

- 以下の設定の「CPU 使用率」は、物理マシンまたは仮想マシンの「論理プロセッサ」数に基づきます。CPU の各コアは、Windows と同じ方法で、論理プロセッサと見なされます。たとえば、1 つの 6 コア CPU を搭載した物理マシンは、12 個の論理プロセッサを搭載していると見なされます (ハイパースレッドテクノロジーにより、コアが 2 倍になります)。8 個の CPU を搭載し、それぞれ 12 個のコアを持つ物理マシンには、96 個の論理プロセッサがあります。2 つの 4 コア CPU で構成された VM には、8 個の論理プロセッサがあります。
- 同じことが仮想マシンにも当てはまります。たとえば、8 個の CPU を持つ物理マシンがあり、それぞれに 12 個のコア (96 個の論理プロセッサ) があり、4 つのマルチセッション OS VDA 仮想マシンをサポートしているとします。各仮想マシンは、2 つの 4 コア CPU (8 つの論理プロセッサ) で構成されます。仮想マシンで CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを制限するには、そのコアの半分を使用するには、[**CPU** コア使用量の制限] を 48 (物理マシンの論理プロセッサの半分) ではなく 4 (仮想マシンの論理プロセッサの半分) に設定します。

CPU スパイク保護を有効にします。一定期間 ([サンプル時間の制限 (Limit Sample Time)] フィールドで指定)、一定期間の CPU 使用率の指定パーセンテージを超えた場合 ([アイドル優先時間 (Idle Priority Time)] フィールドで指定)、プロセスの CPU 優先度を一定期間下げます。

- **CPU** スパイクを自動防ぐ。CPU を過負荷にするプロセスの CPU 優先度を自動的に下げるには、このオプションを使用します。このオプションは、論理プロセッサ (CPU コア) の数に基づいて CPU スパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、コアが 4 つあるとします。このオプションを有効にすると、全体の CPU 使用率が 23% を超えると、CPU リソース全体の 15% 以上を消費するプロセスの CPU 優先順位が自動的に低下します。同様に、8 コアの場合、全体の CPU 使用率が 11% を超えると、CPU リソースの 8% 以上を消費するプロセスの CPU 優先順位が自動的に低下します。
- **CPU** スパイク保護をカスタマイズします。CPU スパイク保護の設定をカスタマイズできます。
 - **CPU** 使用量の制限。CPU スパイク保護をトリガーするためにプロセスインスタンスが到達する必要がある CPU 使用率の割合。この制限は、サーバ内のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンスごとに決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスでは、CPU スパイク保護トリガーを決定するときに、CPU 使用率の割合は加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPU スパイク保護はトリガーされません。たとえば、サーバー VDA で、複数の同時セッションで、多数の `iexplore.exe` インスタンスがあるとします。各インスタンスは、一定期間中約 35% の CPU 使用率でピークに達しているため、累積的に、`iexplore.exe` は CPU 使用率の一貫して高い割合を消費しています。ただし、CPU 使用率の制限を 35% 以下に設定しない限り、CPU スパイク保護はトリガーされません。
 - サンプル時間を制限します。プロセスが CPU プライオリティを下げる前に CPU 使用率の制限を超える必要がある時間。
 - アイドルプライオリティ時間。プロセスの CPU プライオリティが低下する時間の長さ。この時間が経過すると、優先順位は次のいずれかに戻ります。

- * [CPU の優先度] タブでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント ****CPU** 最適化を有効にする **] オプションが選択されていない場合のデフォルトレベル (標準)。
- * [インテリジェントな **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されているかどうかにかかわらず、[**CPU** の優先度] タブでプロセスの優先順位が指定されている場合に、指定したレベル。
- * プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、[**CPU** 優先度] タブでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されている場合に発生します。プロセスが CPU スパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、CPU の優先度は低くなります。

CPU コア使用量の制限を有効にします。CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1 ~ X の範囲の整数を入力します。X はコアの総数です。X より大きい整数を入力すると、WEM は分離されたプロセスの最大消費量を既定で X に制限します。

- **CPU** コア使用量を制限します。CPU スパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VM の場合、入力する値によって、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM 内の論理プロセッサの数にプロセスが制限されます。

インテリジェントな **CPU** 最適化を有効にします。有効にすると、エージェントは CPU スパイク保護をトリガーするプロセスの CPU 優先度をインテリジェントに最適化します。CPU スパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正しく動作するプロセスよりも起動時の CPU 優先度が徐々に低くなります。WEM は、次のシステムプロセスに対して CPU 最適化を実行しません。

- Taskmgr
- System Idle Process
- システム
- Svchost
- LSASS
- Wininit
- services
- csrss
- audiodg
- MsMpEng
- NisSrv
- mscorsvw
- VMWareResolutionset

インテリジェントな **I/O** 最適化を有効にします。有効にすると、エージェントは CPU スパイク保護をトリガーするプロセスのプロセス I/O 優先度をインテリジェントに最適化します。CPU スパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正しく動作するプロセスよりも起動時の I/O 優先度が徐々に低くなります。

指定したプロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU 管理は、最も一般的な Citrix および Windows コアサービスプロセスのすべてを除外します。ただし、このオプションを使用して、CPU ****** スパイク保護の実行名による

除外リストからプロセスを追加または削除できます ** (例: notepad.exe)。通常、ウイルス対策プロセスは除外されません。

ヒント:

- セッションでディスク I/O を引き継ぐアンチウイルススキャンを停止するには、アンチウイルスプロセスの静的な I/O 優先度を [低] に設定することもできます。I/O 管理を参照してください。
- プロセスが CPU スパイク保護をトリガーし、プロセスの CPU 優先度が下がると、WEM はプロセスの CPU 優先度が下がるたびに警告を記録します。イベントログの [アプリケーションとサービスログ] の [Norskale Agent Service] で、[プロセスのプロセス制限スレッドを初期化中] を探します。

CPU スパイク保護オプション CPU スパイク保護を適用する方法を選択してください。

- **CPU** スパイクを自動的に防止します。このオプションを使用すると、システムの CPU 使用率 (単一の CPU コアに対する相対値) が 90% を超え、プロセスの CPU 使用率 (単一の CPU コアに対する相対値) が 80% を超えたときに、エージェントが CPU スパイク保護を実行できるようになります。
- **CPU** スパイク保護をカスタマイズします。CPU スパイク保護の設定をカスタマイズできます。
 - **CPU** 使用率の上限。CPU スパイク保護をトリガーするためにプロセスインスタンスが到達する必要がある CPU 使用率の割合。この制限は、サーバー上のすべての論理プロセッサに共通で、インスタンスごとに決定されます。1 つの CPU コアを基準にして制限を構成するには、「単一 **CPU** コアに対する制限の設定」オプションを使用します。

注記:

- 整数値と非整数値の両方がサポートされています。整数値以外の値 (たとえば 37.5%) を入力すると、8 コアのプラットフォームで 3 つ以上のコアを使用するプロセスを制限できます。
- **1** つの **CPU** コアに対する制限を設定します。1 つの CPU コアを基準として CPU 使用量の制限を設定できます。値は 100% より大きくすることができます (たとえば 200% や 250%)。例: 値を 200% に設定すると、エージェントは 2 つ以上の CPU コアを使用するプロセスを最適化します。整数値と非整数値の両方がサポートされています。WEM Web コンソールでのみ、単一 **CPU** コアに対する制限の設定を構成できます。
- **Customize CPU** スパイク保護を設定すると、グローバル CPU 使用率制限または単一の CPU コアに対する CPU 使用率制限のいずれか早い方に達したときに、CPU スパイク保護がトリガーされます。

CPU スパイク保護をトリガーするプロセスでは、エージェントは次の操作を実行できます。

- **[CPU コア使用量制限を有効にする]** オプションが選択されていない場合: エージェントはそれらのプロセスの CPU 優先度を下げます。
- **[CPU コア使用量制限を有効にする]** オプションが選択されている場合: エージェントはそれらのプロセスの CPU 優先度を下げ、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。

CPU スパイク保護を設定するときは、次の点に注意してください。

- 同じプロセスの複数のインスタンスでは、CPU スパイク保護トリガーを決定するときに、CPU 使用率の割合は加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPU スパイク保護はトリガーされません。たとえば、複数の同時セッションを持つマルチセッション VDA の場合、複数の chrome.exe プロセスがあります。CPU 使用率を計算するときに、それらの CPU 使用量は合計されません。

CPU スパイク保護のサンプリング時間 サンプル時間制限。CPU スパイク保護が適用されるまでに、プロセスが CPU 使用量の制限を超えなければならない時間の長さ。

CPU スパイク保護の優先度低下時間 アイドル優先時間。プロセスの CPU プライオリティが低下する時間の長さ。この時間が経過すると、優先順位は次のいずれかに戻ります。

CPU 優先度タイルにプロセス優先度が指定されておらず、かつ [インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されていない場合のデフォルトレベル (標準)。

CPU 優先度タイルでプロセスの優先度が指定されている場合は、「インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする」オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベル。

プロセスの動作に応じて計算されたランダムレベル。この状況は、[CPU 優先度] タイルでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されている場合に発生します。プロセスが CPU スパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、CPU の優先度は低くなります。

その他のオプション **CPU** コアの使用制限を有効にします。このオプションを使用すると、CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の特定の数の論理プロセッサに制限できます。

CPU プライオリティ

これらの設定は、プロセスがリソースと競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスの CPU 優先度レベルを最適化できるため、CPU プロセッサ時間に対して競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようになります。プロセスが互いに競合する場合、優先順位の低いプロセスは、優先順位の高い他のプロセスの後に処理されます。したがって、CPU 全体の消費量の大きなシェアを消費する可能性は低くなります。

ここで設定するプロセスの優先順位は、プロセス内のすべてのスレッドの「基本優先順位」を確立します。スレッドの実際の「現在の」優先順位は高くなる可能性があります (ただし、ベースよりも低いことはありません)。コンピューター上で多数のプロセスが実行されている場合、プロセッサ時間は CPU の優先度レベルに基づいてそれらの間で共有されます。プロセスの CPU 優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が割り当てられます。

注記:

特定のプロセスで CPU の優先度を低く設定した場合、全体の CPU 消費量は必ずしも減少しません。CPU 使用率の割合に影響する他のプロセス（CPU プライオリティが高い）がある可能性があります。

[プロセスの優先度] を有効にします。オンにすると、プロセスの CPU プライオリティを手動で設定できます。

プロセスを追加するには

1. [追加] をクリックし、[プロセス CPU 優先度の追加] ダイアログボックスに詳細を入力します。
2. [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. [Apply] をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセス CPU の優先順位は、エージェントが新しい設定を受け取り、プロセスが再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子のないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は、「エクスプローラー」と入力します。

CPU プライオリティ。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、プロセス時間が長くなります。[リアルタイム]、[高]、[通常以上]、[通常以下]、[低] から選択します。

プロセスを編集するには

プロセスを選択し、[Edit] をクリックします。

プロセスを削除するには

プロセスを選択し、[Remove] をクリックします。

CPU アフィニティ

プロセスアフィニティを有効にします。有効にすると、プロセスで使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDA で起動されるメモ帳のすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

CPU クランプ

CPU クランプにより、CPU の処理能力の、指定した割合を超えるプロセスが使用されるのを防ぐことができます。WEM は、設定した指定された CPU パーセンテージに達したときに、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量の CPU を消費するのを防ぐことができます。

注記:

- CPU クランプは、演算費用のかかるブルートフォースアプローチです。面倒なプロセスの CPU 使用率を人為的に低く抑えるには、静的 CPU 優先順位と CPU アフィニティをそのようなプロセスに割り当て

ると同時に、CPU スパイク保護を使用する方がよいでしょう。CPU クランプは、リソース管理では悪く悪名高いが、優先順位を落とすことができないプロセスを制御するために最もよく予約されています。

- CPU の処理能力のパーセンテージをプロセスに適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定したら、[**Agent Host Settings**] を選択して変更を有効にします。

設定したクランピングパーセンテージは、サーバ内の個々の CPU の総電力に適用されます。サーバに含まれる個々のコアには適用されません。(つまり、クアッドコア CPU の 10% は、1 つのコアの 10% ではなく、CPU 全体の 10% です)。

プロセスクランプを有効にします。プロセスクランピングを有効にします。

追加。実行可能名 (notepad.exe など) でプロセスを追加します。

[削除]。強調表示されたプロセスをクランプリストから削除します。

編集。特定のプロセスに入力された値を編集します。

ヒント:

- WEM がプロセスをクランプしているとき、WEM クライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示すると、プロセスがクランプされていることを確認できます。
- また、CPU クランプが機能していることを確認するには、プロセスモニターを見て、CPU 消費量がクランプ率を上回らないことを確認します。

メモリ管理

July 13, 2022

これらの設定により、Workspace Environment Management (WEM) を通じてアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

メモリ管理

これらの設定が有効になっている場合、WEM は、安定性を失うことなく、プロセスが使用しているメモリ量とプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM は、その差を過剰なメモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスが消費する余分なメモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

タスクバーからアプリケーションを復元すると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEM はユーザーがデスクトップセッション中に使用するすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションに複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで使用できます。この動作により、同じサーバー上でより多くのユーザーをサポートできるようになり、ユーザー密度が高まります。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化します。指定された時間アイドル状態が続いたプロセスに、アイドル状態がなくなるまで余分なメモリを解放するように強制します。

アイドルサンプル時間 (分)。プロセスがアイドル状態とみなされ、その後に余分なメモリを強制的に解放するまでの時間を指定できます。この間、WEM は、安定性を失うことなく、プロセスが使用しているメモリ量と、プロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限 (パーセント)。CPU 使用率のパーセンテージを指定して、この値を下回るとプロセスがアイドル状態とみなされます。デフォルトは 1% です。5% を超える値は使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドルと誤解され、そのメモリが解放される可能性があります。

[使用可能なメモリの合計が **(MB)** を超えた場合は最適化しない]。WEM がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値制限を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名 (notepad.exe など) を指定します。

WEM は、次のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- rdpshell
- wfshell
- rdpclip
- wmiprvse
- dllhost
- audiodg
- msdtc
- mscorsvw
- spoolsv
- smss
- winlogon
- svchost
- taskmgr
- System Idle Process
- System
- LSASS
- wininit
- msixexec
- services
- csrss
- MsMpEng
- NisSrv
- Memory Compression

メモリ使用量の制限

特定のプロセスに対するメモリ使用量の制限を有効にします。プロセスが消費できるメモリの上限を設定して、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

警告:

特定のプロセスにメモリ使用量の制限を適用すると、システムの応答が遅くなるなど、意図しない影響が生じることがあります。

- 追加。メモリ使用量の制限を適用するプロセスを追加できます。
- **[削除]**。アイテムを削除できます。
- 編集。アイテムを編集できます。
- **ダイナミックリミット**。指定したプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用すると、使用可能なメモリに応じてメモリ使用量の制限が適用されます。そのため、指定したプロセスが消費するメモリが、指定した量を超える可能性があります。
- **静的制限**。指定したプロセスに静的制限を適用できます。この設定では、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量が常に制限されます。適用すると、使用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定したメモリ量を超えるメモリを消費しないように制限します。その結果、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量に制限されます。

プロセスを追加するには:

1. **[管理コンソール] > [システム最適化] > [メモリ管理] > [メモリ使用量の制限]** タブで **[追加]** をクリックします
2. 「プロセスの追加」ウィンドウで、追加するプロセスの名前 (notepad.exe など) を入力し、メモリ使用量の制限を構成し、ドロップダウンメニューから制限モードを選択して、**[OK]** をクリックします。

アイテムを編集するには、アイテムを選択して **[編集]** (**Edit**) をクリックします。

項目を削除するには、項目を選択して **[削除]** をクリックします。

項目に動的制限を適用するには、項目を選択して **[動的制限]** (**Dynamic Limit**) をクリックします。

項目に静的制限を適用するには、項目を選択して **[静的制限]** をクリックします。

I/O 管理

July 13, 2022

これらの設定により、特定のプロセスの I/O 優先度を最適化できます。これにより、ディスクおよびネットワーク I/O アクセスで競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにします。たとえば、I/O 管理設定を使用して、ディスク帯域幅が消費されるアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセスの優先順位は、プロセス内のすべてのスレッドの「基本優先順位」を確立します。スレッドの実際の「現在の」優先順位は高くなる可能性があります（ただし、ベースよりも低いことはありません）。一般に、Windows では、優先順位の低いスレッドよりも先に優先順位の高いスレッドにアクセスできます。

入出力優先度

[プロセス I/O 優先度] を有効にします。プロセス I/O 優先度の手動設定を有効にします。

I/O 優先度リストにプロセスを追加するには

1. [追加] をクリックし、[プロセス I/O 優先度の追加] ダイアログに詳細を入力します。
2. [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. [Apply] をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセス I/O の優先順位は、エージェントが新しい設定を受け取り、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子のないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は、「エクスプローラー」と入力します。

I/O プライオリティ。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの I/O 優先順位が高いほど、スレッドの I/O アクセスが早くなります。高、標準、低、非常に低いから選択します。

プロセス I/O 優先度項目を編集するには

プロセス名を選択し、[編集] をクリックします。

I/O 優先度リストからプロセスを削除するには

プロセス名を選択し、[削除] をクリックします。

高速ログオフ

July 31, 2020

高速ログオフは、リモートセッションへの HDX 接続を直ちに終了し、セッションがすぐに終了した印象を与えます。ただし、セッション自体は、VDA のバックグラウンドでセッションのログオフフェーズで継続されます。

注:

高速ログオフでは、Citrix Virtual Apps および RDS リソースのみがサポートされます。

設定

高速ログオフを有効にする。この構成セット内のすべてのユーザーに対して高速ログオフを有効にします。ユーザーはすぐにログアウトされ、セッションのログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

[特定のグループを除外]: 特定のユーザーグループを高速ログオフから除外できます。

Citrix Optimizer

January 11, 2024

Citrix Optimizer はユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させます。ユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化の推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の 2 つの方法があります。

- 組み込みのテンプレートを使用して最適化を実行します。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、特定の最適化を使用してカスタマイズした独自のテンプレートを作成し、Workspace Environment Management (WEM) にテンプレートを追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンの Citrix Optimizer が提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンの Citrix Optimizer を <https://support.citrix.com/article/CTX224676> でダウンロードします。テンプレートビルダー機能を使用すると、独自のカスタムテンプレートを作成して WEM にアップロードできます。
- エージェントホスト (WEM エージェントがインストールされているマシン) で、<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates フォルダに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、便利なフォルダにコピーします。仕様を反映するようにテンプレートファイルをカスタマイズし、カスタムテンプレートを WEM にアップロードします。

設定

Citrix Optimizer ザーを有効にします。Citrix Optimizer を有効または無効にするかどうかを制御します。

毎週実行してください。選択すると、WEM は毎週最適化を実行します。[毎週実行] が選択されていない場合、WEM は次のように動作します。

- テンプレートを WEM に初めて追加すると、WEM は対応する最適化を実行します。後でそのテンプレートを変更しない限り、WEM は最適化を 1 回だけ実行します。変更には、OS に異なるテンプレートを適用したり、[Available] ペインと [構成済み] ペイン間で最適化エントリを移動したりすることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEM は最適化を 1 回実行します。

注:

非永続的な VDI 環境では、WEM は同じ動作に従います。マシンを再起動すると、環境に対するすべての変更が失われます。Citrix Optimizer の場合、WEM はマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

使用するテンプレートを自動的に選択します。使用するテンプレートが不明な場合は、このオプションを使用して、各 OS に対して最も一致するテンプレートを WEM で選択します。

- プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にします。このオプションは、異なる名前の形式を持つカスタムテンプレートを使用できる場合に使用します。プレフィックスのコンマ区切りリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前の形式に従います。

- `prefix_<os version>_<os build>`
- `prefix_Server_<os version>_<os build>`

[**Citrix Optimizer**] タブには、システムの最適化を実行するために使用できるテンプレートのリストが表示されます。[アクション] セクションには、使用可能なアクションが表示されます。

- 追加。カスタムテンプレートを追加できます。
- [削除]。既存のカスタムテンプレートを削除できます。組み込みテンプレートは削除できません。
- 編集。既存のテンプレートを編集できます。
- プレビュー。選択したテンプレートに含まれる最適化エントリの項目別ビューを表示できます。

カスタム・テンプレートを追加するには、次の手順に従います。

1. [**** 管理コンソール**] > [**システム最適化**] > [**Citrix オプティマイザー**] > [**Citrix オプティマイザー**] タブで、[**追加**] をクリックします。 **
2. 「新規カスタムテンプレート」ウィンドウで、「参照」をクリックして該当するテンプレートを選択し、リストから該当する OS を選択し、テンプレートに含まれるグループを構成して、「**OK**」をクリックします。

重要:

- Citrix Optimizer では、カスタムテンプレートのエクスポートはサポートされていません。カスタムテンプレートの追加後は、ローカルコピーを保持します。

テンプレートを編集するには、該当するテンプレートを選択し、[**編集**] をクリックします。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートを選択し、[**削除**] をクリックします。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートを選択し、[**プレビュー**] をクリックします。

フィールドとコントロール

テンプレート名。選択したテンプレートの表示名です。

適用可能な **OS**。オペレーティングシステムのリスト。テンプレートを適用するオペレーティングシステムを 1 つ以上選択します。一覧に表示されない Windows 10 OS に適用可能なカスタムテンプレートを追加できます。ビルド番号を入力して、これらの OS を追加します。OS はセミコロン (;) で区切ってください。たとえば、2001; 2004。

重要:

同じ OS に適用できるテンプレートは 1 つだけです。

グループ。[使用可能] ペインには、グループ化された最適化エントリのリストが表示されます。エントリはカテゴリ別にグループ化されます。グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックしてグループを移動します。

状態。テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効にすると、エージェントはテンプレートを処理せず、WEM はテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

[詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブの [SQL 設定の更新遅延] オプションに指定した値によっては、**Citrix Optimizer** 設定の変更が有効になるまでに時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、[管理] > [エージェント] > [統計] タブのコンテキストメニューに移動し、[**Citrix Optimizer** の処理] を選択します。

ヒント:

- 新しい変更がすぐに有効にならなくなる可能性があります。[**Citrix Optimizer** の処理] を選択する前に、[エージェントホスト設定の更新] を選択することをお勧めします。

マルチセッションの最適化

January 21, 2022

マルチセッション OS マシンは、1 台のマシンから複数のセッションを実行し、アプリケーションとデスクトップをユーザーに配信します。切断されたセッションはアクティブなままになり、そのアプリケーションは引き続き実行されます。切断されたセッションは、同じマシン上で動作する接続されたデスクトップおよびアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化し、接続セッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

設定

マルチセッション最適化を有効にします。有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッション OS マシンが最適化されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。このオプションは、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続セッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが 1 分間切断されたままになった後、WEM エージェントは CPU と、セッションに関連付けられたプロ

セスまたはアプリケーションの I/O 優先順位を下げます。エージェントは、セッションが消費できるメモリ・リソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEM は優先順位を復元し、制限を解除します。

指定したグループを除外する。マルチセッションの最適化から除外するグループを指定できます。少なくとも 1 つのグループを指定してください

指定したプロセスを除外する。マルチセッションの最適化から除外するプロセスを指定できます。除外するプロセスの名前を入力します。少なくとも 1 つのプロセスを指定してください。

ポリシーとプロファイル

November 6, 2020

これらの設定では、ユーザー GPO を置き換え、ユーザープロファイルを構成できます。

- [環境設定](#)
- [Microsoft USV の設定](#)
- [Citrix Profile Management の設定](#)

環境設定

July 13, 2022

これらのオプションは、ユーザーの環境設定を変更します。一部のオプションはログオン時に処理されますが、一部のオプションはエージェント更新機能を使用してセッションでリフレッシュできます。

スタートメニュー

これらのオプションは、ユーザーの [スタート] メニューを変更します。

プロセス環境設定。このチェックボックスは、エージェントが環境設定を処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、環境設定は処理されません。

管理者を除外します。有効にすると、エージェントが起動されても、管理者に対して環境設定は処理されません。

ユーザインタフェース:[スタート] メニューこれらの設定は、エージェントによって無効にするスタートメニュー機能を制御します。

重要:

Windows 7 以外のオペレーティングシステムでは、[ユーザーインターフェイス: スタート] メニューのオプションが機能しない場合があります。ただし、[システムクロックを非表示にする] と [コンピュータの電源をオ

フにする]以外のオプションが機能しない場合があります。

ユーザーインターフェイス: 外観。これらの設定により、ユーザーの Windows テーマとデスクトップをカスタマイズできます。リソースへのパスは、ユーザーの環境からアクセスするときに入力する必要があります。

デスクトップ

ユーザーインターフェイス: デスクトップ。これらの設定は、エージェントによって無効にするデスクトップ要素を制御します。

ユーザーインターフェイス: エッジ UI。これらの設定では、Windows 8.x Edge ユーザーインターフェイスの側面を無効にできます。

Windows エクスプローラー

これらの設定は、エージェントによって無効化される Windows エクスプローラの機能を制御します。

ユーザーインターフェイス: エクスプローラー。これらのオプションを使用すると、**regedit** または **cmd** へのアクセスを無効にしたり、Windows エクスプローラーで特定の要素を非表示にしたりできます。

エクスプローラーから指定したドライブを非表示にします。有効にすると、リストされたドライブはユーザーの [マイコンピュータ] メニューから非表示になります。直接参照すると、引き続きアクセスできます。

エクスプローラーから指定したドライブを制限します。有効にすると、リストされたドライブはブロックされます。ユーザーもアプリケーションもアクセスできません。

[コントロールパネル]

[コントロールパネル]を非表示にします。このオプションは、ユーザー環境を保護するためにデフォルトで有効になっています。無効にすると、ユーザーは自分の Windows コントロールパネルにアクセスできます。

指定したコントロールパネルアプレットのみを表示します。有効にすると、ここにリストされているコントロールパネル以外のすべてのアプレットがユーザーに表示されなくなります。その他のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

指定したコントロールパネルアプレットを非表示にします。有効にすると、リストされているコントロールパネルアプレットだけが非表示になります。その他のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

[一般的なコントロールパネルのアプレットとその正規名を参照してください。](#)

既知のフォルダ管理

指定した既知のフォルダを無効にします。プロファイルの作成時に、指定したユーザープロファイルの既知のフォルダを作成しないようにします。

SBC/HVD チューニング

SBC/HVD（セッションベースのコンピューティング/ホスト仮想デスクトップ）チューニングを使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktops で実行されているセッションのパフォーマンスを最適化できます。パフォーマンスを向上させるように設計されていますが、一部のオプションを使用すると、ユーザーエクスペリエンスが若干低下する可能性があります。

ユーザー環境: 高度なチューニング。これらのオプションを使用すると、SBC/HVD 環境でのパフォーマンスを最適化できます。

[ウィンドウ全体をドラッグ] を無効にします。最大化されたウィンドウのドラッグを無効にします。

スムーズスクロールを無効にします。ページをブラウズしている間、スムーズなスクロール効果を無効にします。

カーソルの点滅を無効にします。カーソルのちらつき効果を無効にします。

minAnimate を無効にします。ウィンドウを最小化または最大化するときにアニメーション効果を無効にします。

AutoEndTasks を有効にします。タスクがタイムアウトした後、自動的に終了します。

WaitkillApp タイムアウト。アプリケーションを終了するためのタイムアウト値（ミリ秒単位）。デフォルト値は 20,000 ミリ秒です。

カーソルの点滅率を設定します。カーソルの点滅率を変更します。

[メニューの表示遅延] を設定します。ログオン後にメニューが表示されるまでの遅延（ミリ秒単位）を指定します。

インタラクティブディレイを設定します。サブメニューが表示されるまでの遅延（ミリ秒単位）を指定します。

Microsoft USV の設定

November 28, 2022

これらの設定により、Microsoft ユーザー状態の仮想化 (USV) を最適化できます。

ローミングプロファイルの構成

これらの設定により、Workspace Environment Management と Microsoft 移動プロファイルとの統合を構成できます。

ユーザー状態の仮想化構成を処理します。エージェントが USV 設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV 設定は処理されません。

管理者を除外します。有効にすると、設定した USV 設定は管理者には適用されません。このオプションを使用するときは、次の点を考慮してください。

- [ローミングプロファイル設定] タブと [ローミングプロファイルの詳細設定] タブの設定はマシンレベルであり、オプションが有効になっているかどうかに関係なく適用されます。
- [フォルダリダイレクト] タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定を管理者に適用するかどうかを制御します。

Windows ローミングプロファイルのパスを設定します。Windows プロファイルへのパスを指定できます。

RDS ローミングプロファイルのパスを設定します。RDS ローミングプロファイルへのパスを指定できます。

RDS ホームドライブパスを設定します。RDS ホームドライブへのパスと、ユーザー環境に表示されるドライブ文字を指定できます。

ローミングプロファイルの詳細設定

ローミングプロファイルの詳細最適化オプションは次のとおりです。

フォルダーの除外の有効化。有効にすると、リストされたフォルダはユーザーの移動プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが移動プロファイルの一部として保持する必要のない大量のデータが含まれていることがわかっていて特定のフォルダを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

ローミングプロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。有効にすると、エージェントは移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループをローミングユーザープロファイルに追加します。有効にすると、Administrators グループが移動ユーザープロファイルの所有者として追加されます。

移動プロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しないでください。有効にすると、エージェントは、ユーザーが移動プロファイルフォルダを所有しているかどうかを確認してから操作を行いません。

低速なネットワーク接続を検出しません。有効にすると、接続速度の検出はスキップされます。

リモートユーザプロファイルを待ちます。有効の場合、エージェントはリモートユーザプロファイルが完全にダウンロードされるのを待ってから、設定を処理します。

プロファイルのクリーンアップ。【プロファイルクレンザー】ウィザードが開き、既存のプロファイルを削除できます。

既存のプロファイルを削除するには、[参照] をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、[プロファイルフォルダーのスキャン] をクリックし、[プロファイルクレンザー] ウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、【プロファイルのクリーンアップ】をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクレンジング。このボタンは、[フォルダの除外] 設定に従って選択したプロファイルを消去します。

プロファイルフォルダをスキャン。指定した再帰設定で指定したフォルダをスキャンしてユーザープロファイルを検索し、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダ。必要に応じて、このフォルダを参照することもできます。

再帰性を検索します。ユーザープロファイル検索が通過する再帰のレベルを制御します。

フォルダーのリダイレクト

プロセスフォルダリダイレクトの設定。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーのリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。クリアすると、フォルダのリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびリダイレクト先を制御するオプションを選択します。

ローカルリダイレクトフォルダを削除します。有効にすると、エージェントはリダイレクト対象として選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

Citrix Profile Management 設定

October 26, 2023

注記:

一部のオプションは、特定のバージョンの Profile Management でのみ機能します。詳細については、[Profile Management](#) ドキュメントを参照してください。

Workspace Environment Management (WEM) は、現在のバージョンの Citrix Profile Management の機能と操作をサポートします。WEM 管理コンソールでは、**[Citrix Profile Management の設定]** ([ポリシーとプロファイル]) で、現在のバージョンの Citrix Profile Management のすべての設定を構成できます。

WEM を使用して Citrix Profile Management 機能を構成することに加えて、Active Directory GPO、Citrix Studio ポリシー、または VDA 上の .ini ファイルを使用できます。同じ方法を一貫して使用することをお勧めします。

Citrix Profile Management の主な設定

基本設定を適用して、Profile Management の使用を開始します。基本設定には、処理済みグループ、除外グループ、ユーザーストアなどが含まれます。

Profile Management 構成を有効にします。有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境に Profile Management 関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成した Profile Management 設定を WEM がエージェントにデプロイするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management の設定はいずれもエージェントに展開されません。

Profile Management を有効にします。エージェントマシンで Profile Management サービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management サービスは機能しません。

Profile Management を完全に無効にして、エージェントに既に展開されている設定が処理されないようにしたい場合があります。目標を達成するには、次の操作を行います。

1. 「**Profile Management** を有効にする」チェックボックスをオフにして、変更が自動的に適用されるのを待つか、変更を手動で適用してすぐに有効にします。

注記:

[[詳細設定](#)] の [**SQL 設定の更新遅延**] で指定した値によっては、変更が有効になるまでに時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新してから、関連するすべてのエージェントの Profile Management 設定をリセットします。「[管理](#)」を参照してください。

2. 変更が有効になったら、「**Profile Management** 構成を有効にする」チェックボックスをオフにします。

処理されたグループを設定します。Profile Management で処理するグループを指定できます。指定したグループのみ Profile management 設定が処理されます。空白のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外グループを設定します。Profile Management から除外するグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理します。有効にすると、Profile Management のローカル管理者ログオンは管理者以外のログオンと同様に扱われます。

ユーザーストアへのパスを設定します。ユーザーストアフォルダへのパスを指定できます。

ユーザーストアを移行します。ユーザー設定 (レジストリの変更と同期されたファイル) を保存したフォルダへのパスを指定できます。以前に使用したユーザーストアのパスを入力します。このオプションは、[ユーザーストアへのパスを設定] オプションとともに使用します。

アクティブなライトバックを有効にします。有効にすると、ユーザーのセッション中にプロファイルがユーザーストアに書き戻され、データが失われるのを防ぎます。

- アクティブなライトバックレジストリを有効にします。有効にすると、ユーザーのセッション中にレジストリエントリがユーザーストアに書き戻され、データが失われるのを防ぎます。
- セッションのロックと切断時にアクティブライトバックを有効にします。有効にすると、セッションがロックまたは切断されたときにのみ、プロファイルファイルとフォルダーが書き戻されます。このオプションと [アクティブライトバックレジストリを有効にする] オプションの両方が有効な場合、レジストリエントリは、セッションがロックまたは切断されたときにのみ書き戻されます。

オフラインプロファイルサポートを有効にします。有効にすると、プロファイルは接続されていない間で使用するためにローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ設定

これらのオプションは、Profile Management プロファイルコンテナの設定を制御します。

プロファイルコンテナを有効にします。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをネットワーク上に保存されているプロファイルディスクにマップするため、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダ除外を有効にします。有効にすると、Profile Management は一覧表示されたフォルダをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダ内包を有効にします。有効にすると、Profile Management は、親フォルダーが除外されたときに、一覧表示されたフォルダーをプロファイルコンテナに保持します。この一覧のフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。つまり、このオプションを [プロファイルコンテナのフォルダ除外を有効にする] オプションと組み合わせて使用する必要があります。プロファイルコンテナに含めるフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にします。有効にすると、各ローカルプロファイルは、プロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用中の場合は、ローカルにキャッシュされたファイルがオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーのログオン時に作成されます。この設定を使用するには、ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに入れます。この設定は、Citrix Profile Management プロファイルコンテナにのみ適用されます。

VHD ディスク圧縮を有効にします。有効にすると、特定の条件が満たされた場合、ユーザーログオフ時に VHD ディスクが自動的に圧縮されます。このポリシーを使用すると、プロファイルコンテナ、OneDrive コンテナ、およびミラーフォルダーコンテナによって消費される記憶域を節約できます。ニーズと利用可能なリソースに応じて、[詳細設定] の **[VHD ディスク圧縮のデフラグを無効にする]**、**[VHD ディスク圧縮をトリガーする空き容量の比率を設定]**、および **[VHD ディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定]** オプションを使用して、デフォルトの VHD 圧縮設定と動作を調整できます。

プロファイル処理

これらの設定は、Profile Management プロファイルの処理を制御します。

ログオフ時にローカルキャッシュプロファイルを削除します。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されます。

キャッシュされたプロファイルを削除する前に遅延を設定します。キャッシュされたプロファイルがログオフ時に削除されるまでの間隔 (秒単位) を指定できます。

既存のプロファイルの移行を有効にします。有効にすると、ログオン時に既存の Windows プロファイルが Profile Management に移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルが自動的に移行されます。Profile Management は、ユーザーのログオン時にユーザーストアにユーザープロファイルがない場合、移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にします。Profile Management と Windows プロファイルが競合するケースを Citrix Workspace Environment Management が処理する方法を構成します。

テンプレートプロファイルを有効にします。有効にすると、指定された場所にあるテンプレートプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイルは、ローカルプロファイルを上書きします。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルに上書きされます。

テンプレートプロファイルは、ローミングプロファイルを上書きします。有効にすると、テンプレートプロファイルが移動プロファイルよりも優先されます。

すべてのログオンの **Citrix** 固定プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル。有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルよりも優先されます。

詳細設定

これらのオプションは、Profile management の詳細設定を制御します。

ロックされたファイルにアクセスするときの再試行回数を設定します。Agent がロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を設定します。

MFT キャッシュファイルのディレクトリを設定します。MFT キャッシュファイルディレクトリを指定できます。このオプションは廃止され、将来削除される予定です。

アプリケーションプロファイルラを有効にします。有効にすると、アプリケーションベースのプロファイル処理を定義します。定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。定義ファイルの作成の詳細については、「[定義ファイルを作成する](#)」を参照してください。

ログオフ時にインターネット **Cookie** ファイルを処理します。有効にすると、古い Cookie はログオフ時に削除されます。

リダイレクトされたフォルダを削除します。有効にすると、リダイレクトされたフォルダーのローカルコピーを削除します。

自動構成を無効にします。有効の場合、ダイナミック設定は無効になります。

問題が発生した場合は、ユーザーをログオフします。有効にすると、問題が発生した場合、ユーザーは一時プロファイルに切り替わずにログオフされます。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム。有効にすると、Profile Management はカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を使用して、匿名の統計および使用状況情報を収集することで、Citrix 製品の品質とパフォーマンスを向上させます。CEIP について詳しくは、『[Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム \(CEIP\) について](#)』を参照してください。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にします。有効にすると、Profile Management は、FSLogix プロファイルコンテナと Citrix Profile Management プロファイルコンテナの両方のマルチセッションシナリオの変更を保存します。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、各セッションで行われた変更は同期され、ユーザーのプロファイルコンテナディスクに保存されます。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にします。有効にすると、Profile Management は、次のユーザーログオンの処理モード（同期または非同期処理モード）を決定するために Windows が使用するレジストリ値をユーザーとともにローミングします。レジストリ値が存在しない場合は、同期モードが適用されます。このオプションを有効にすると、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。無効にすると、次の場合に非同期モードを期待どおりに適用できません。

- 別のマシンにログオンする。
- [ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する] オプションが有効になっている同じマシンにログオンします。

VHD ディスク圧縮のデフラグを無効にします。[VHD ディスクの圧縮を有効にする] がオンになっている場合に適用されます。VHD ディスク圧縮のファイルのデフラグ（最適化）を無効にするかどうかを指定できます。

空き容量比率を設定して **VHD** ディスク圧縮をトリガーします。[VHD ディスクの圧縮を有効にする] がオンになっている場合に適用されます。VHD ディスク圧縮のトリガーとなる空き領域の比率を指定できます。ユーザーのログオフ時に空き領域の比率が指定した値を超えると、ディスクの圧縮がトリガーされます。

```
1 Free space ratio = (current VHD file size - required minimum VHD file
2 size*) ÷ current VHD file size
3 * Obtained using the `GetSupportedSize` method of the `MSFT_Partition`
   class from the Microsoft Windows operating system.
```

VHD ディスクの圧縮をトリガーするログオフの数を設定します。[VHD ディスクの圧縮を有効にする] がオンになっている場合に適用されます。VHD ディスク圧縮のトリガーとなるユーザーログオフ数を指定できます。最後の圧縮からのログオフ数が指定した値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

ユーザーストアを複製します。有効にすると、Profile Management は、[ユーザーストアへのパスを設定] オプションで指定されているパスに加えて、ログオフのたびにユーザーストアを複数のパスに複製します。セッション中に変更されたファイルおよびフォルダをユーザーストアに同期させるには、アクティブライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システム I/O が増加し、ログオフが延長される可能性があります。

VHDX ファイルのストレージパスをカスタマイズします。VHDX ファイルを保存する別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDX ファイルはユーザーストアに保存されます。VHDX ファイルを使用するポリシーには、プロファイルコンテナ、Outlook の検索インデックスローミング、およびフォルダーミラーリングの高速化が含まれます。有効にすると、ポリシーが異なる VHDX ファイルがストレージパスの下の異なるフォルダに保存されます。

Microsoft Outlook ユーザーの検索インデックスのローミングを有効にします。有効にすると、ユーザー固有の Microsoft Outlook オフラインフォルダファイル (*.ost) と Microsoft 検索データベースがユーザープロファイルとともに移動されます。これにより、Microsoft Outlook でメールを検索するときのユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook** 検索インデックスデータベース—バックアップと復元。有効にすると、Profile Management は検索インデックスデータベースの最新の正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損がある場合、Profile Management はそのコピーに戻ります。その結果、検索インデックスデータベースが破損したときに、手動でデータベースを再インデックスを作成する必要がなくなりました。

- **Outlook** 検索データローミングの同時セッションサポートを有効にします。同時セッションでネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションで個別の Outlook OST ファイルが使用されます。
 - **Outlook OST** ファイルを格納するための **VHDX** ディスクの最大数。Outlook OST ファイルを保存する VHDX ディスクの最大数を指定できます。指定しない場合、Outlook OST ファイルの保存に使用できる VHDX ディスクは 2 つだけです (ディスクごとに 1 つのファイル)。さらにセッションが開始されると、Outlook OST ファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。サポートされる値は 1 ~10 です。

OneDrive コンテナを有効にします。有効にすると、Profile Management は VHDX ディスクにフォルダーを保存することにより、ユーザーと共に OneDrive フォルダーをローミングします。ディスクはログオン時に接続され、ログオフ時には切り離されます。

ログ設定

これらのオプションは、Profile Management ログを制御します。

[ログ作成] を有効にします。Profile Management 操作のログを有効/無効にします。

ログ設定を構成します。ログに含めるイベントの種類を指定できます。

ログファイルの最大サイズを設定します。ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

[パス] を **[ログファイル]** に設定します。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

これらのオプションは、Profile Management のレジストリ設定を制御します。

NTUSER.DAT バックアップ。選択すると、Profile Management は、NTUSER.DAT ファイルの最後に正常なバックアップを保持します。Profile Management は破損を検出すると、最新の正常なバックアップコピーを使用してプロファイルを回復します。

[既定の除外リスト] を有効にします。ユーザーのプロファイルに同期されない HKCU ハイブのレジストリキーのデフォルトのリスト。選択すると、この一覧で選択されているレジストリ設定が Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ除外を有効にします。この一覧のレジストリ設定は、Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリインクルージョンを有効にします。この一覧のレジストリ設定は、Profile Management プロファイルに強制的に含まれます。

ファイルシステム

これらのオプションは、Profile Management のファイルシステムの除外を制御します。

ログオン除外チェックを有効にします。有効にすると、ユーザーストアのプロファイルに除外されたファイルやフォルダーが含まれている場合に、ユーザーがログオンしたときに Profile Management が行う処理を構成します。(無効の場合、既定の動作は [除外されたファイルまたはフォルダーを同期する] になります)。リストから次のビヘイビアのいずれかを選択できます。

除外されたファイルまたはフォルダーを同期します (既定)。Profile Management は、ユーザーがログオンしたときに、これらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

除外されたファイルまたはフォルダーを無視。Profile Management は、ユーザーがログオンするときに、ユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。Profile Management は、ユーザーがログオンすると、ユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

[既定の除外リスト-ディレクトリ] を有効にします。同期時に無視されるディレクトリのデフォルトの一覧。選択すると、この一覧で選択されているフォルダーが Profile Management の同期から除外されます。

[ファイルの除外] を有効にします。有効にすると、一覧表示されたファイルはユーザーの Profile Management プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが Profile Management プロファイルの一部として保持する必要のない大量のデータが含まれていることがわかっている特定のフォルダーを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

フォルダーの除外の有効化。有効にすると、一覧表示されたフォルダーはユーザーの Profile Management プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが Profile Management プロファイルの一部として保持する必要のない大量のデータが含まれていることがわかっている特定のフォルダーを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

プロファイルのクリーンアップ。**[プロファイルクレンザー]** ウィザードが開き、既存のプロファイルを削除できます。

既存のプロファイルを削除するには、「ブラウズ」をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、「プロファイルフォルダーをスキャン」をクリックして、プロファイルクレンザーウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**[プロファイルのクリーンアップ]** をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクレンジング。フォルダの除外設定に従って、選択したプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーをスキャン。指定した再帰設定で指定したフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを検索し、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダー。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

再帰性を検索します。ユーザープロファイル検索が通過する再帰のレベルを制御します。

同期

これらのオプションは、Profile Management の同期設定を制御します。

ディレクトリ同期を有効にします。有効にすると、リストされたフォルダはユーザーストアと同期されます。

ファイル同期を有効にします。有効にすると、リストされたファイルはユーザーストアと同期され、ユーザーは常に最新のバージョンのファイル入手できます。複数のセッションでファイルが変更された場合、最新のファイルはユーザーストアに保持されます。

フォルダのミラーリングの有効化。有効にすると、一覧表示されたフォルダはログオフ時にユーザーストアにミラーリングされます。これにより、ユーザーストアに格納されているミラーフォルダ内のファイルとサブフォルダがローカルバージョンと同じになります。フォルダのミラーリングについて詳しく、以下を参照してください。

- ミラーリングされたフォルダ内のファイルは、変更されたかどうかにかかわらず、セッションのログオフ時に常にユーザーストアに保存されているファイルを上書きします。
- ミラーフォルダのローカルバージョンと比較して、ユーザーストアに余分なファイルまたはサブフォルダが存在する場合、それらの余分なファイルやサブフォルダは、セッションログオフ時にユーザーストアから削除されます。

大容量ファイルの処理を有効にします。有効にすると、大きなファイルがユーザーストアにリダイレクトされるため、ネットワーク経由でこれらのファイルを同期する必要がなくなります。

注記:

一部のアプリケーションでは、ファイルに同時にアクセスすることはできません。大きなファイルの処理ポリシーを定義する場合、アプリケーションの動作を考慮することを Citrix ではお勧めします。

ストリーム配信ユーザープロファイル

これらのオプションは、ストリーム配信ユーザープロファイルの設定を制御します。

プロファイルストリーミングを有効にします。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

フォルダのプロファイルストリーミングを有効にします。有効にすると、フォルダがアクセスされたときにのみフェッチされます。この設定により、ユーザーのログオン中にすべてのフォルダを移動する必要がなくなり、帯域幅が節約され、ファイルの同期にかかる時間が短縮されます。

保留エリアのプロファイルストリーミングを有効にします。有効にすると、保留領域のファイルは、要求された場合にのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオでの最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。待機領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間、プロファイルの整合性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダを一時的に保存します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。保留領域内のすべてのファイルとフォルダは、ログオン時にローカルプロファイルにフェッチされます。

常にキャッシュ。有効にすると、指定したサイズ (MB 単位) 以上のファイルが常にキャッシュされます。

保留中のエリアロックファイルのタイムアウトを設定する：サーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままになった場合に、指定された時間後に保留領域からユーザーストアに書き戻されるように、ファイルを解放します。

ストリーム配信ユーザープロファイルグループを設定します。このリストは、ストリーム配信されたプロファイルを使用するユーザーグループを決定します。

プロファイルストリーミング除外リスト-ディレクトリを有効にします。選択すると、Profile Managementはこのリスト内のフォルダをストリーム配信せず、ユーザーのログオン時にすべてのフォルダがユーザーストアからローカルコンピュータにすぐにフェッチされます。

ファイル重複排除

これらのオプションは、Profile Managementのファイル重複排除設定を制御します。

さまざまなユーザープロファイルに同じファイルが存在する可能性があります。これらのファイルをユーザーストアから分離して一元的に保存すると、重複を避けることでストレージスペースを節約できます。ユーザーストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ファイル名をユーザープロファイルからの相対パスで指定します。

ファイルインクルージョンを有効にします。有効にすると、Profile Managementは共有ストアを自動的に生成します。次に、指定されたファイルは、ユーザーストアの各ユーザープロファイルではなく、共有ストアに一元的に格納されます。これにより、ファイルの重複を避けることでユーザーストアへの負荷が軽減され、ストレージコストが削減されます。

【ファイルの除外】を有効にします。有効にすると、Profile Managementは指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、「ファイルインクルージョンを有効にする」オプションと一緒に使用する必要があります。共有ストアから除外するファイルを少なくとも1つ指定してください。

クロスプラットフォーム設定

これらのオプションは、クロスプラットフォームの設定を制御します。

クロスプラットフォーム設定を有効にします。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

クロスプラットフォーム設定グループを設定します。クロスプラットフォームプロファイルを使用するユーザーグループを指定できます。

クロスプラットフォーム定義へのパスを設定します。クロスプラットフォーム定義ファイルへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定します。クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースを有効にします。クロスプラットフォーム設定のソースプラットフォームを有効にします。

アプリのアクセス制御

この機能は、ファイル、フォルダー、およびレジストリへのユーザーアクセスを制御します。典型的なユースケースは、規則を適用し、マシンにインストールされたアプリへのユーザーアクセスを制御することです。つまり、関連するユーザーにアプリを表示するかどうかです。

アプリアクセス制御を有効にします。有効にすると、Profile Management は、指定した規則に基づいて、アイテム（ファイル、フォルダー、レジストリなど）へのユーザーアクセスを制御します。

アプリケーションルールを作成する方法は 2 つあります。

- GUI ベースのツール- [WEM ツールハブ > アプリアクセス制御用のルールジェネレーター](#)
- [PowerShell ツール](#) - Profile Management インストールパッケージで利用可能

セキュリティ

April 28, 2023

これらの設定により、Workspace Environment Management 内のユーザー・アクティビティを制御できます。

アプリケーションのセキュリティ

重要:

ユーザーが実行できるアプリケーションを制御するには、Windows AppLocker インターフェイスまたは Workspace Environment Management を使用します。これらのアプローチはいつでも切り替えることができますが、両方のアプローチを同時に使用しないことをお勧めします。

これらの設定では、ルールを定義することで、ユーザーの実行を許可するアプリケーションを制御できます。この機能は Windows AppLocker に似ています。

Workspace Environment Management を使用して Windows AppLocker ルールを管理する場合、エージェントは、エージェントホストの [アプリケーションセキュリティ] タブのルールを Windows AppLocker ルールに処理 (変換) します。エージェント処理ルールを停止すると、これらのルールは構成セットに保持され、AppLocker は、エージェントによって処理された最後の命令セットを使用して実行を継続します。

アプリケーションのセキュリティ

このタブには、現在の Workspace Environment Management 構成セットのアプリケーションセキュリティルールが一覧表示されます。「検索」(**Find**) を使用すると、テキスト文字列に基づいてリストをフィルタリングできます。

「セキュリティ」タブで最上位の項目「アプリケーションセキュリティ」を選択すると、次のオプションを使用してルール処理を有効または無効にすることができます。

- アプリケーションセキュリティルールを処理する。選択すると、[**Application Security**] タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セット内のルールを処理し、エージェント・ホスト上の AppLocker ルールに変換されます。選択しない場合、[アプリケーションセキュリティ] タブのコントロールは無効になり、エージェントはルールを AppLocker ルールに処理しません。この場合、AppLocker の規則は更新されません。

注:

このオプションは、Workspace Environment Management 管理コンソールが Windows 7 SP1 または Windows Server 2008 R2 SP1 (またはそれ以前のバージョン) にインストールされている場合は使用できません。

- **DLL** ルールを処理する。選択すると、エージェントは現在の構成セットの DLL ルールをエージェントホスト上の AppLocker DLL ルールで処理します。このオプションは、[アプリケーションセキュリティルールの処理] を選択した場合にのみ使用できます。

重要:

DLL ルールを使用する場合は、許可されたすべてのアプリで使用される各 DLL に対して「許可」アクセス許可を持つ DLL ルールを作成する必要があります。

注意:

DLL ルールを使用すると、ユーザーのパフォーマンスが低下する可能性があります。これは、AppLocker が実行を許可される前に、アプリがロードする各 DLL をチェックするために発生します。

- [上書き] および [マージ] の設定では、エージェントがアプリケーションセキュリティルールを処理する方法を指定できます。
 - [上書き]。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールは、以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
 - マージ。ルールを既存のルールとマージできます。競合が発生すると、最後に処理されたルールは、以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、上書きモードを使用してください。マージモードでは古い値が異なっても保持されるためです。

ルール・コレクション

ルールは AppLocker ルールコレクションに属します。各コレクション名は、(12) など、そのコレクションに含まれるルールの数を示します。コレクション名をクリックして、規則リストを次のいずれかのコレクションにフィルタします。

- 実行可能なルール。アプリケーションに関連付けられている拡張子が .exe および .com のファイルを含むルール。

- **Windows** の規則。クライアントコンピュータおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラのファイル形式 (.msi、.msp、.mst) を含むルール。
- スクリプトルール。 .ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js 形式のファイルを含むルール
- パッケージルール。パッケージアプリを含むルール。ユニバーサル Windows アプリとも呼ばれます。パッケージアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じ ID を共有します。したがって、1 つのルールでアプリ全体を制御できます。Workspace Environment Management は、パッケージ化されたアプリケーションの発行元規則のみをサポートします。
- **DLL** のルール。 .dll、.ocx の形式のファイルを含むルール

ルール一覧をコレクションにフィルター処理する場合、**[ルールの適用]** オプションを使用して、AppLocker がエージェントホスト上のコレクション内のすべてのルールを適用する方法を制御できます。次のルール適用値を使用できます。

オフ (デフォルト)。ルールが作成され、「オフ」に設定されます。つまり、ルールは適用されません。

オン。ルールが作成され、「強制」に設定されます。これは、エージェント・ホスト上でアクティブであることを意味します。

監査。ルールが作成され、「audit」に設定されます。これは、エージェントホスト上で非アクティブ状態にあることを意味します。ユーザーが AppLocker ルールに違反するアプリを実行すると、そのアプリの実行が許可され、アプリに関する情報が AppLocker イベントログに追加されます。

AppLocker ルールをインポートするには

AppLocker からエクスポートされたルールを [Workspace Environment Management] にインポートできます。インポートされた Windows AppLocker 設定は、[セキュリティ] タブの既存のルールに追加されます。無効なアプリケーションセキュリティルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンで、**[AppLocker ルールのインポート]** をクリックします。
2. AppLocker からエクスポートされた XML ファイルを参照して、AppLocker ルールを含めます。
3. **[インポート]** をクリックします。

ルールが [アプリケーションセキュリティのルール] リストに追加されます。

ルールを追加するには

1. サイドバーでルールコレクション名を選択します。たとえば、実行可能ルールを追加するには、「実行可能ルール」コレクションを選択します。
2. **[ルールの追加]** をクリックします。
3. **[表示]** セクションで、次の詳細を入力します。
 - **Name**: ルールリストに表示されるルールの表示名。

- [説明]。リソースに関する追加情報（オプション）。
4. [タイプ] セクションで、次のオプションをクリックします。
 - パス。ルールはファイルパスまたはフォルダパスに一致します。
 - 発行元。ルールは、選択したパブリッシャーと一致します。
 - ハッシュ。ルールは特定のハッシュコードに一致します。
 5. [アクセス許可] セクションで、** このルールでアプリケーションの実行を許可または拒否するかどうかをクリックします**。
 6. このルールをユーザーまたはユーザーグループに割り当てるには、[割り当て] ペインで、このルールを割り当てるユーザーまたはグループを選択します。[割り当て済み] 列には、割り当てられたユーザーまたはグループの [チェック] アイコンが表示されます。

ヒント：

 - 通常の Windows の選択修飾キーを使用して複数の選択を行うか、[すべて選択] を使用してすべての行を選択できます。
 - ユーザーは「Workspace Environment Management ユーザー」リストにすでに存在している必要があります。
 - ルールの作成後にルールを割り当てることができます。
 7. [次へ] をクリックします。
 8. 選択したルールタイプに応じて、ルールが一致する基準を指定します。
 - パス。ルールを一致させるファイルパスまたはフォルダパスを指定します。フォルダを選択すると、ルールはそのフォルダ内および下のすべてのファイルに一致します。
 - 発行元。ルールの参照として使用する署名付き参照ファイルを指定し、[公開者情報] スライダを使用してプロパティの一致レベルを調整します。
 - ハッシュ。ハッシュを作成するファイルまたはフォルダを指定します。ルールはファイルのハッシュコードと一致します。
 9. [次へ] をクリックします。
 10. 必要な例外を追加します（オプション）。[例外の追加] で、例外タイプを選択し、[追加] をクリックします。（必要に応じて、** 例外を編集および削除できます**）。
 11. ルールを保存するには、[**Create**] をクリックします。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューの [編集] をクリックします。エディタで、ルールを割り当てるユーザーおよびユーザー・グループを含む行を選択し、「OK」をクリックします。[すべて選択] を使用して、選択したルールをすべてのユーザーから割り当て解除することもできます。

注：複数のルールを選択して「編集」をクリックすると、それらのルールに対するルール割り当ての変更が、選択したすべてのユーザーおよびユーザー・グループに適用されます。つまり、既存のルールの割り当ては、それらのルール間でマージされます。

既定のルールを追加するには

[既定の規則の追加] をクリックします。AppLocker の既定のルールのセットがリストに追加されます。

ルールを編集するには

リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューの [編集] をクリックします。エディタが表示され、選択した内容に適用される設定を調整できます。

ルールを削除するには

リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューの [削除] をクリックします。

アプリケーションセキュリティルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべてのアプリケーション・セキュリティ・ルールをバックアップできます。ルールはすべて単一の XML ファイルとしてエクスポートされます。[復元] を使用すると、規則を任意の構成セットに復元できます。リボンで、[バックアップ] をクリックし、[セキュリティ設定] を選択します。

アプリケーションセキュリティルールを復元するには

Workspace Environment Management backup コマンドで作成した XML ファイルからアプリケーション・セキュリティ・ルールを復元できます。リストアプロセスでは、現在の構成セット内のルールが、バックアップ内のルールに置き換えられます。[セキュリティ] タブに切り替えたり、[セキュリティ] タブを更新すると、無効なアプリケーションセキュリティ規則が検出されます。無効なルールは自動的に削除され、レポートダイアログに表示されます。レポートダイアログはエクスポートできます。

リストアプロセス中に、現在の構成セット内のユーザーおよびユーザーグループにルール割り当てを復元するかどうかを選択できます。再割り当ては、バックアップされたユーザ/グループが現在の構成セット/アクティブディレクトリに存在する場合のみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままです。復元後、CSV 形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンの [復元] をクリックして、復元ウィザードを起動します。
2. [セキュリティ設定] を選択し、[次へ] を 2 回クリックします。

3. **[フォルダから復元]** で、バックアップファイルが保存されているフォルダーを参照します。

4. **[AppLocker の規則の設定]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

5. ルールの割り当てを復元するかどうかを確認します。

はい。規則を復元し、現在の構成セット内の同じユーザーとユーザーグループに再割り当てします。

いいえ。ルールを復元し、割り当てられていないままにします。

6. 復元を開始するには、**[設定の復元]** をクリックします。

プロセス管理

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストまたは禁止リストに追加できます。

プロセス管理

プロセス管理を有効にする。許可リストまたはブロックリストの処理を有効にするかどうかを切り替えます。無効にすると、「ブラックリストを処理」タブと「ホワイトリストを処理 **」タブの設定は考慮されません。

注:

このオプションは、セッションエージェントがユーザーのセッションで実行されている場合にのみ機能します。これを行うには、メイン構成エージェントの設定を使用して、ユーザー/セッションの種類に応じて起動するエージェントの起動オプション (** ログオン時/再接続時/管理者用) を設定し、** エージェントの種類を「UI」に設定します。これらのオプションについては、「[詳細設定](#)」を参照してください。

プロセスブロックリスト

これらの設定により、特定のプロセスを禁止リストに追加できます。

プロセスのブラックリストを有効にする。禁止リスト上のプロセスの処理を有効にします。実行可能名 (cmd.exe など) を使用してプロセスを追加する必要があります。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントを除外します。

指定したグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます。

プロセス許可リスト

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストに追加できます。プロセスブロックリストとプロセス許可リストは相互に排他的です。

プロセスのホワイトリストを有効にする。許可リストにあるプロセスの処理を有効にします。実行可能名 (cmd.exe など) を使用してプロセスを追加する必要があります。注:[プロセスホワイトリストを有効にする] を有効にすると、許可リストにないすべてのプロセスが自動的にブロックリストに追加されます。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントを除外します (すべてのプロセスを実行できます)。

指定したグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます (すべてのプロセスを実行できます)。

権限昇格

注:

この機能は Citrix 仮想アプリには適用されません。

特権昇格機能を使用すると、管理者以外のユーザーの権限を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格できます。その結果、ユーザーは Administrators グループのメンバーであるかのようにこれらの実行可能ファイルを起動できます。

権限昇格

[セキュリティ] で [権限の昇格] ウィンドウを選択すると、次のオプションが表示されます。

- 特権昇格の設定を処理します。特権昇格機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントが特権昇格の設定を処理し、[権限の昇格] タブの他のオプションが使用可能になります。
- **Windows Server OS** には適用しないでください。Windows Server オペレーティングシステムに特権の昇格設定を適用するかどうかを制御します。選択すると、ユーザーに割り当てられたルールは Windows Server マシンでは機能しません。デフォルトではこのオプションが選択されています。
- **RunasInvoker** を強制する。現在の Windows アカウントですべての実行可能ファイルを強制的に実行するかどうかを制御します。選択すると、管理者として実行可能ファイルを実行するようユーザーに求められません。

このタブには、設定したルールの完全なリストも表示されます。[実行可能ルール] または [Windows インストーラー規則] をクリックして、ルール一覧を特定のルールタイプにフィルタリングします。[検索] を使用して、リストをフィルタできます。[割り当て済み] 列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

実行可能ルールと Windows インストーラーの 2 種類のルールを使用して、特権の昇格を適用できます。

- 実行可能なルール。アプリケーションに関連付けられた拡張子が.exe および.com のファイルを含むルール。
- **Windows** インストーラー規則。アプリケーションに関連付けられたインストーラーファイル with.msi および.msp 拡張子を含むルール。Windows インストーラールールを追加するときは、次のシナリオに注意してください。
 - 権限昇格は、Microsoft の msixec.exe にのみ適用されます。 .msi および .msp Windows インストーラーファイルの展開に使用するツールが msixec.exe であることを確認します。
 - プロセスが指定された Windows インストーラー規則と一致し、その親プロセスが指定された実行可能規則と一致するとします。指定した実行可能ルールで [子プロセスに適用] 設定を有効にしない限り、プロセスは昇格された権限を取得できません。

[実行可能ルール] タブまたは [**Windows** インストーラの規則] タブをクリックすると、[アクション] セクションに次のアクションが表示されます。

- 編集。既存の実行可能ルールを編集できます。
- [削除]。既存の実行可能ルールを削除できます。
- ルールを追加します。実行可能なルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. [実行可能ルール] または [**Windows** インストーラの規則] に移動し、[ルールの追加] をクリックします。[ルールの追加] ウィンドウが表示されます。
2. [表示] セクションで、次のように入力します。
 - **Name**: ルールの表示名を入力します。名前が [ルール] リストに表示されます。
 - [説明]。ルールに関する追加情報を入力します。
3. [タイプ] セクションで、オプションを選択します。
 - パス。ルールはファイルパスに一致します。
 - 発行元。ルールは、選択したパブリッシャーと一致します。
 - ハッシュ。ルールは特定のハッシュコードに一致します。
4. [設定] セクションで、必要に応じて次のように構成します。
 - 子プロセスに適用。選択すると、実行ファイルが起動するすべての子プロセスにルールが適用されます。権限昇格をより詳細なレベルで管理するには、次のオプションを使用します。
 - 同じフォルダ内の実行可能ファイルにのみ適用します。選択すると、同じフォルダを共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
 - 署名付き実行可能ファイルにのみ適用します。選択すると、署名された実行可能ファイルにのみルールが適用されます。

- 同じパブリッシャの実行可能ファイルにのみ適用します。選択した場合、同じパブリッシャ情報を共有する実行可能ファイルにのみルールを適用します。この設定は、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリでは使用できません。

注:

Windows のインストールルールを追加すると、[子プロセスに適用] 設定がデフォルトで有効になり、編集できません。

- **[開始時刻]**。エージェントがルールの適用を開始する時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
 - **終了時刻**。エージェントがルールの適用を停止する時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。指定された時間以降、エージェントはルールを適用しなくなります。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
 - **[パラメータを追加]**。指定したパラメータに一致する実行可能ファイルに権限昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。指定したパラメータが正しいことを確認します。この機能の使用法の例については、「パラメータで実行される実行可能ファイル」を参照してください。このフィールドが空の場合、または空白のみが含まれている場合、エージェントはパラメータで実行されているかどうかにかかわらず、関連する実行可能ファイルに権限昇格を適用します。
 - 正規表現を有効にします。正規表現を使用して基準をさらに拡張するかどうかを制御できます。
5. **[割り当て]** セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザー・グループにルールを割り当てる場合は、**[Select All]** を選択します。

ヒント:

- 通常の Windows の選択修飾キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
- ユーザーまたはユーザーグループは、**[管理] > [ユーザー]** タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
- ルールは、後で (ルールの作成後) に割り当てることができます。

6. **[次へ]** をクリックします。

7. 次のいずれかの操作を行います。前のページで選択したルールタイプに応じて、異なるアクションが必要になります。

重要:

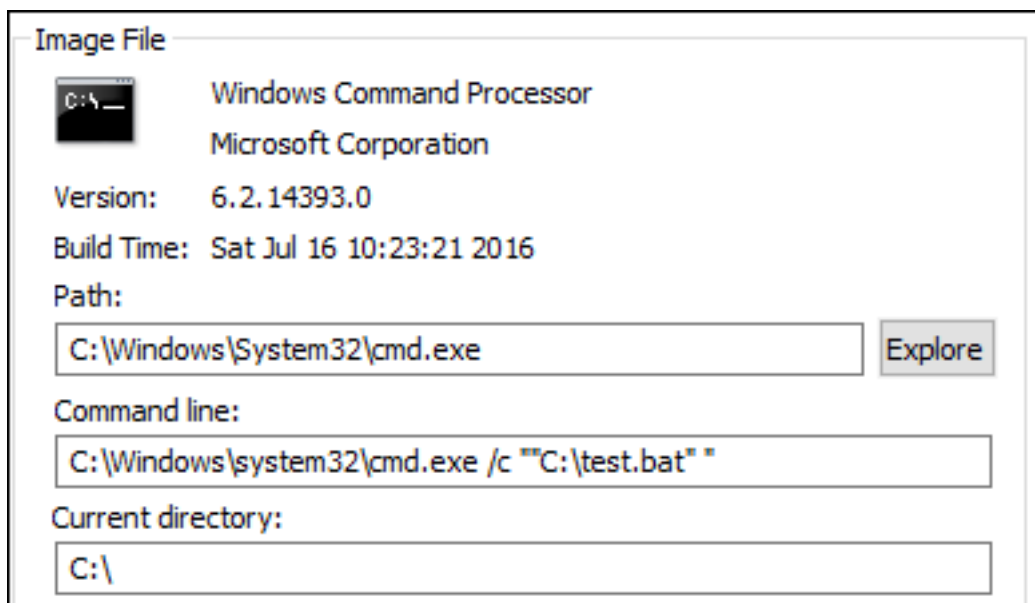
WEM には **AppinFoViewer** という名前のツールが用意されており、実行ファイルから発行元、パス、ハッシュなどの情報を取得できます。このツールは、管理コンソールで設定するアプリケーションに関連する情報を提供したい場合に便利です。たとえば、このツールを使用して、アプリケーションのセキュリティ機能を使用するときに、アプリケーションから関連情報を抽出できます。このツールは、エージェントのインストールフォルダにあります。

- パス。ルールを適用するファイルまたはフォルダのパスを入力します。WEM エージェントは、実行可能ファイルのパスに従って、実行ファイルにルールを適用します。
- 発行元。[発行元]、[製品名]、[ファイル名]、[** ファイルバージョン **] の各フィールドに入力します。フィールドを空白のままにすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力することはできます。WEM エージェントは、パブリッシュ情報に従ってルールを適用します。適用すると、ユーザーは同じ発行者情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
- ハッシュ。[追加] をクリックして、ハッシュを追加します。[ハッシュの追加] ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。AppinFoViewer ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダーからハッシュを作成できます。WEM エージェントは、指定した同じ実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは、指定された実行可能ファイルと同じ実行可能ファイルを実行できます。

8. [Create] をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

パラメータで実行されている実行可能ファイル 指定したパラメータに一致する実行可能ファイルに権限昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。実行可能ファイルで使用可能なパラメータを表示するには、プロセスエクスプローラーやプロセスモニターなどのツールを使用します。これらのツールに表示されるパラメータを適用します。

実行可能ファイルのパスに従って、実行ファイル (cmd.exe など) にルールを適用するとします。権限昇格を test.bat にのみ適用したい。プロセスエクスプローラーを使用してパラメータを取得できます。



[パラメータを追加] フィールドに、次のように入力できます。

- /c ""C:\test.bat""

次に、[パス] フィールドに次のように入力します。

- `C:\Windows\System32\cmd.exe`

この場合は、指定したユーザーの権限を、`test.bat`に対してのみ管理者レベルに昇格します。

ユーザーにルールを割り当てるには リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、[アクション] セクションの [編集] をクリックします。「ルールの編集」ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザー・グループを選択し、「OK」をクリックします。

ルールを削除するには リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、[アクション] セクションの [削除] をクリックします。

特権昇格ルールをバックアップするには 現在の構成セット内のすべての権限昇格ルールをバックアップできます。すべてのルールは、単一の XML ファイルとしてエクスポートされます。[復元] を使用すると、規則を任意の構成セットに復元できます。

バックアップを完了するには、リボンにある [バックアップ] ウィザードを使用します。バックアップウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

特権昇格ルールを復元するには Workspace Environment Management バックアップウィザードを使用してエクスポートされた XML ファイルから特権昇格ルールを復元できます。リストアップロードでは、現在の構成セット内のルールが、バックアップ内のルールに置き換えられます。[セキュリティ] > [権限の昇格] ペインに切り替えたり、更新すると、無効な権限昇格ルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポートできるレポートに表示されます。復元ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

自己昇格

自己昇格を使用すると、事前に正確な実行可能ファイルを提供しなくても、特定のユーザーの権限昇格を自動化できます。これらのユーザーは、該当するファイルを右クリックして、コンテキストメニューで [管理者権限で実行する] を選択するだけで、任意のファイルの自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を尋ねるプロンプトが表示されます。WEM エージェントは理由を検証しません。昇格の理由は、監査目的でデータベースに保存されます。条件が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。

また、この機能により、ニーズに最適なソリューションを柔軟に選択できます。ユーザーに自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルの禁止リストを作成したりできます。

自己昇格は、`.exe`、`.msi`、`.bat`、`.cmd`、`.ps1`および`.vbs`の形式のファイルに適用されます。

注:

デフォルトでは、一部のファイルの実行には特定のアプリケーションが使用されます。たとえば、`cmd.exe`

は.cmd ファイルの実行に使用され、powershell.exe は.ps1 ファイルの実行に使用されます。これらのシナリオでは、デフォルトの動作を変更できません。

[セキュリティ]> [自己昇格] を選択すると、次のオプションが表示されます。

- 自己昇格を有効にします。自己昇格機能を有効にするかどうかを制御します。次のオプションを選択します。
 - エージェントが自己昇格設定を処理できるようにします。
 - [自己昇格] タブの他のオプションを使用可能にします。
 - ユーザーがファイルを右クリックしたときに、コンテキストメニューで [管理者権限で実行する] オプションを使用可能にします。その結果、ユーザーは [自己昇格] タブで指定した条件に一致するファイルの自己昇格を要求できます。
- 権限。ユーザーに自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルの禁止リストを作成できます。
 - 許可。ユーザーに自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成します。
 - 拒否。ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成します。
- 次の操作を実行できます。
 - 編集。既存の条件を編集できます。
 - [削除]。既存の条件を削除できます。
 - [追加]。条件を追加できます。パス、選択した発行元、または特定のハッシュコードに基づいて条件を作成できます。
- 設定。エージェントが自己昇格を適用する方法を制御する追加設定を構成できます。
 - 子プロセスに適用。選択すると、ファイルが開始するすべての子プロセスに自己昇格条件を適用します。
 - [開始時刻]。エージェントが自己昇格の条件を適用し始める時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
 - 終了時刻。エージェントが自己昇格条件の適用を停止する時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。指定された時間以降、エージェントは条件を適用しなくなります。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
- [割り当て]。自己昇格条件を該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。条件をすべてのユーザーおよびユーザーグループに割り当てするには、[すべて選択] をクリックするか、[** 全員] を選択します。**[すべて選択 (Select All)] チェックボックスは、選択を解除してユーザーとユーザーグループを再選択する場合に便利です。

権限昇格アクティビティの監査

WEM では、特権の昇格に関連する監査アクティビティがサポートされています。詳細については、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、特定の子プロセスを親プロセスから親子シナリオで開始できるかどうかを制御します。ルールを作成するには、親プロセスを定義し、その子プロセスの許可リストまたは禁止リストを指定します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

注:

- この機能は Citrix 仮想アプリにのみ適用されます。

ルールの仕組みを理解するには、次の点に注意してください。

- プロセスには、1つのルールだけが適用されます。同じプロセスに複数のルールを定義する場合は、優先度が最も高いルールのみが適用されます。
- 定義したルールは、元の親子階層だけに制限されるのではなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用可能なルールは、ルールの優先順位に関係なく、子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の2つのルールを定義します。
 - ルール 1: CMD を開くことができません。
 - ルール 2: メモ帳は CMD を開くことができます。

2つのルールでは、ルールの優先順位に関係なく、最初に Word を開き、Word からメモ帳を開くことによって、メモ帳から CMD を開くことはできません。

この機能は、特定のプロセススペースの親子関係に基づいて動作します。シナリオで親子関係を視覚化するには、プロセスエクスプローラーツールのプロセスツリー機能を使用します。プロセスエクスプローラーの詳細については、<https://docs.microsoft.com/en-us/sysinternals/downloads/procmon>を参照してください。

潜在的な問題を回避するために、Citrix Studio で **VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe** は、公開アプリケーションが起動する前に WEM エージェントが設定の処理を終了することを保証します。Citrix Studio で、次の手順を完了します。

1. [アプリケーション] で、アプリケーションを選択し、操作ウィンドウで [プロパティ] をクリックして、[場所] ページに移動します。
2. エンドユーザーオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。
 - [実行可能ファイルへのパス] フィールドに次のように入力します。<%programFiles%>\ Citrix\ Workspace Environment Management エージェント\ VUEMAppCmd.exe。
3. コマンドライン引数を入力して、開くアプリケーションを指定します。
 - [コマンドライン引数] フィールドに、**VUEMAppCmd.exe** を使用して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲むようにしてください。
 - たとえば、**VUEMAppCmd.exe** から iexplore.exe を起動したいとします。これを行うには、次のように入力します。%ProgramFiles(x86)%\ "Internet Explorer" \iexplore.exe。

注意事項

機能を機能させるには、各エージェントマシンで **AppInfoViewer** ツールを使用して機能を有効にする必要があります。(このツールは、エージェントのインストールフォルダにあります。) このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンを再起動する必要があります。この機能を有効にすると、エージェントをアップグレードまたはアンインストールした後、エージェントマシンを再起動する必要があります。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンでレジストリエディタを開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、この機能が有効になります。

- 32 ビット OS
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook
- 64 ビット OS
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook

前提条件

この機能を使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix 仮想アプリケーションの展開。
- エージェントは、Windows 10 または Windows Server 上で実行されています。
- インプレースアップグレードまたは新規インストール後に、エージェントホストが再起動されました。

プロセス階層制御

「セキュリティ」で「プロセス階層制御」を選択すると、次のオプションが表示されます。

- プロセス階層制御を使用可能にします。プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、「プロセス階層制御」(**Process Hierarchy Control**) タブの他のオプションが使用可能になり、そこで構成された設定が有効になります。この機能は、Citrix 仮想アプリケーションの展開でのみ使用できます。
- コンテキストメニューから [プログラムから開く] を非表示にします。Windows の右クリックメニューから [プログラムから開く] オプションを表示または非表示にするかどうかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスに表示されません。無効にすると、オプションが表示され、ユーザーはこれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、「プログラムから開く」オプションを使用して開始されたプロセスには適用されません。現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを通じてアプリケーションがプロセスを開始しないようにするには、この設定を有効にすることをお勧めします。

「プロセス階層制御」(Process Hierarchy Control) タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。[検索]を使用して、リストをフィルタできます。[割り当て済み]列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

「アクション」セクションには、次のアクションが表示されます。

- 編集。ルールを編集できます。
- [削除]。ルールを削除できます。
- ルールを追加します。ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. 「プロセス階層制御」に移動し、「ルールの追加」をクリックします。[ルールの追加] ウィンドウが表示されます。
2. [表示] セクションで、次のように入力します。
 - **Name**: ルールの表示名を入力します。名前が [ルール] リストに表示されます。
 - [説明]。ルールに関する追加情報を入力します。
3. [タイプ] セクションで、オプションを選択します。
 - パス。ルールはファイルパスに一致します。
 - 発行元。ルールは、選択したパブリッシャーと一致します。
 - ハッシュ。ルールは特定のハッシュコードに一致します。
4. [モード] セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ブロックリストに子プロセスを追加。選択すると、親プロセスの規則を構成した後、適用可能な子プロセスのブロックリストを定義できます。ブロックリストでは、指定したプロセスの実行のみが禁止され、他のプロセスの実行が許可されます。
 - 許可リストに子プロセスを追加します。選択すると、親プロセスのルールを構成した後、適用可能な子プロセスの許可リストを定義できます。許可リストでは、指定したプロセスの実行のみが許可され、他のプロセスの実行が禁止されます。

注:

プロセスには、1つのルールだけが適用されます。同じプロセスに複数のルールを定義すると、ルールは優先順位に従って適用されます。

5. [優先度] セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を設定するときは、次の点を考慮してください。優先度によって、設定したルールが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先順位が高くなります。整数を入力します。競合がある場合は、優先度の高いルールが優先されます。
6. [割り当て] セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザー・グループにルールを割り当てる場合は、[Select **All**] を選択します。

注:

- 通常の Windows 選択キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
- ユーザーまたはユーザーグループは、[管理] > [ユーザー] タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
- ルールは、後で (ルールの作成後) に割り当てることができます。

7. [次へ] をクリックします。

8. 親プロセスのルールを構成するには、次のいずれかの操作を行います。前のページで選択したルールタイプに応じて、必要なアクションが異なります。

- パス。ルールを一致させるファイルパスまたはフォルダパスを指定します。フォルダパスを指定すると、ルールはそのフォルダ内のすべてのファイルとサブフォルダに適用されます。WEM エージェントは、実行可能ファイルのパスに従って実行可能ファイルにルールを適用します。パスの一致を示すためにアスタリスク (*) のみを入力することはお勧めしません。これを行うと、意図しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。
- 発行元。ルールの参照として使用する署名付き参照ファイルを指定します。[Publisher Info] スライダーを使用して、プロパティの一致レベルを調整します。スライダーを上または下に移動して、ルールの具体性を下げたり下げたりします。スライダーを [任意の発行者] の位置に移動すると、ルールはすべての署名済みファイルに適用されます。WEM エージェントは、発行元情報に従って、親プロセスにルールを適用します。適用すると、ユーザーは同じ発行者情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。必要に応じて、[カスタム値を使用して情報をカスタマイズする] を選択できます。
- ハッシュ。ハッシュを作成するファイルまたはフォルダを指定します。ルールはファイルのハッシュコードと一致します。WEM エージェントは、指定した同じ実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは、指定された実行可能ファイルと同じ実行可能ファイルを実行できます。

9. [次へ] をクリックして、子プロセス設定を構成します。

10. 適用可能な子プロセスの許可リストまたはブロックリストを定義するには、次のいずれかの操作を行います。

- a) メニューからルールタイプを選択し、[追加] をクリックします。[子プロセス] ウィンドウが表示されません。
- b) [子プロセス] ウィンドウで、必要に応じて設定を構成します。「子プロセス」(Child Process) ウィンドウのユーザー・インタフェースは、選択した規則タイプによって異なります。子プロセスでは、パス、発行元、およびハッシュの規則の種類を使用できます。
- c) 「OK」をクリックして「ルールの追加」ウィンドウに戻ります。子プロセスを追加するか、[Create] をクリックしてルールを保存してウィンドウを終了できます。

ユーザーにルールを割り当てるには、一覧から 1 つのルールを選択し、[アクション] セクションの [編集] をクリックします。「ルールの編集」ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザー・グループを選択し、「OK」をクリックします。

ルールを削除するには リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、[アクション] セクションの [削除] をクリックします。

ルールをバックアップするには 現在の構成セット内のすべてのプロセス階層制御ルールをバックアップできます。すべてのルールは、単一の XML ファイルとしてエクスポートされます。[復元] を使用すると、規則を任意の構成セットに復元できます。

バックアップを完了するには、リボンにある [バックアップ] ウィザードを使用します。バックアップウィザードの使用方法の詳細については、「[リボン](#)」を参照してください。

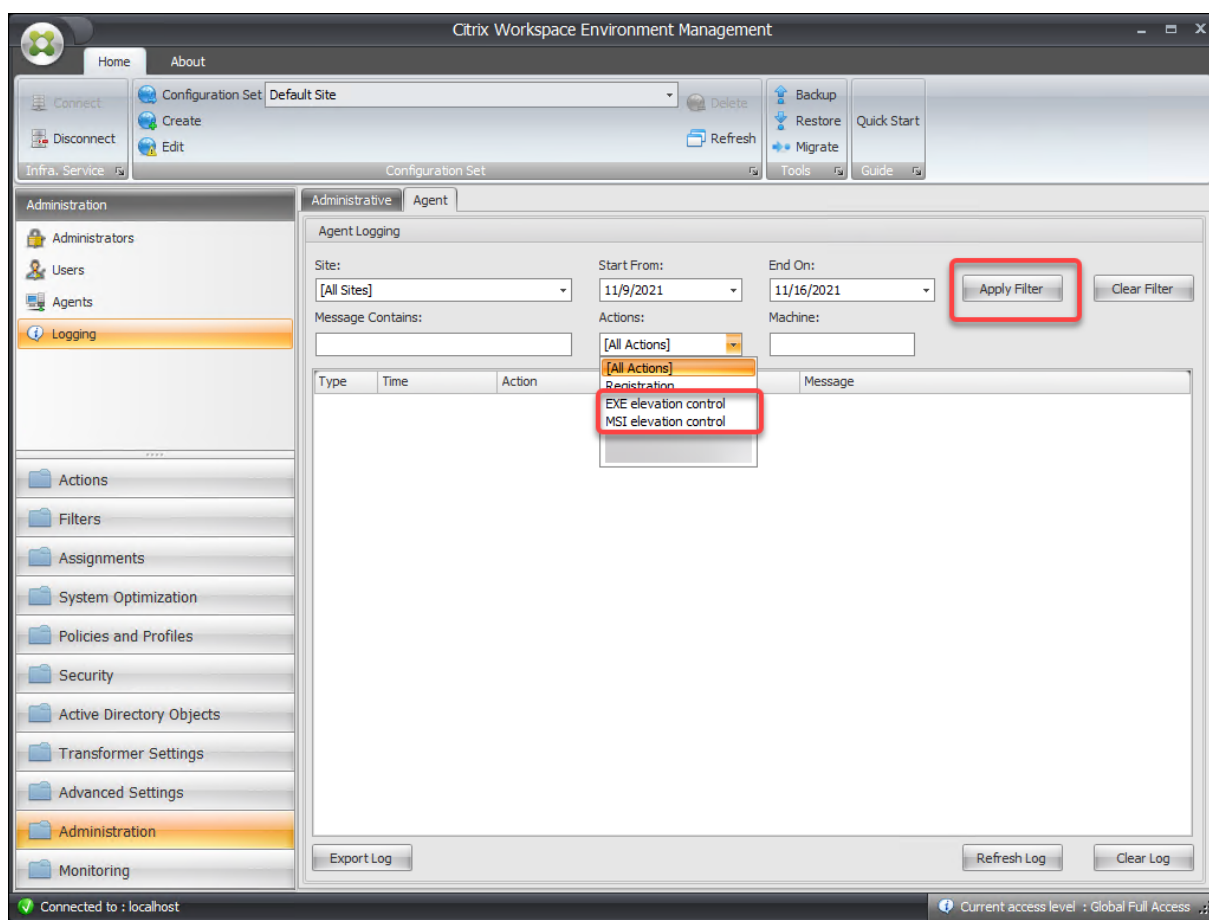
ルールを復元するには [Workspace Environment Management] バックアップウィザードを使用してエクスポートされた XML ファイルからプロセス階層制御ルールを復元できます。リストアッププロセスでは、現在の構成セット内のルールが、バックアップ内のルールに置き換えられます。[セキュリティ] > [プロセス階層コントロール] ペインに切り替えたり、更新したりすると、無効なルールはすべて削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。復元ウィザードの使用方法の詳細については、「[リボン](#)」を参照してください。

プロセス階層制御アクティビティの監査

WEM では、プロセス階層制御に関連する監査アクティビティがサポートされています。詳細については、「[ユーザーアクティビティの監査](#)」を参照してください。

ユーザー・アクティビティの監査

WEM では、権限昇格およびプロセス階層制御に関連する監査アクティビティがサポートされています。監査を表示するには、[管理] > [ロギング] > [エージェント] タブに移動します。タブで、ログ設定を構成し、[アクション] フィールドで [ElevationControl]、[** 自己昇格]、または ProcessHierarchyControl** を選択し、[フィルターの適用] をクリックしてログを特定のアクティビティに絞り込みます。特権の昇格またはプロセス階層制御の履歴全体を表示できます。



Active Directory オブジェクト

December 21, 2022

これらのページを使用して、Workspace Environment Management (WEM) で管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位を指定します。

注:

ユーザー、コンピューター、グループ、および OU を WEM に追加して、エージェントがそれらを管理できるようにします。

ユーザー

既存のユーザーとグループのリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2. Windows の [ユーザーの選択] ダイアログにユーザー名またはグループ名を入力し、[OK] をクリックします。

Name: ユーザーまたはグループの名前。

[説明]。[項目を編集] ダイアログにのみ表示されます。ユーザーまたはグループに関する追加情報を指定できます。

アイテムの優先順位。異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を設定できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。整数を入力して優先度を指定します。値が大きいほど、優先順位が高くなります。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

重要:

グループポリシー設定を割り当てる場合、ここで構成した優先度は機能しません。優先度を設定するには、管理コンソール > [割り当て] を使用します。詳細については、「[グループポリシー設定のコンテキスト化](#)」を参照してください。

アイテムの状態。ユーザーまたはグループを有効にするか無効にするかを選択できます。無効にすると、アクションを割り当てることができません。

複数のユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2. テキストボックスに複数のユーザーまたはグループ名を追加し、セミコロンで区切って、「OK」をクリックします。

マシン

現在のサイト (構成セット) に追加されたコンピュータのリスト。Workspace Environment Management によって管理されるのは、ここにリストされているコンピュータだけです。これらのコンピュータ上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに登録されると、構成セットに必要なマシン依存の設定が送信されます。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ヒント:

これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに正しく登録されているかどうかを確認するには、[管理] セクションの [エージェント] を参照してください。

コンピューターまたはコンピューターグループを現在の構成セットに追加するには

1. [オブジェクトの追加] コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. [コンピューターまたはグループの選択] ダイアログで、コンピューターまたはコンピューターグループを選択し、[OK] をクリックします。

組織単位内のコンピューターを構成セットに追加するには

1. [OU を追加] コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. [組織単位] ダイアログで、組織単位を選択し、[OK] をクリックします。

コンピューター、コンピューターグループ、または **OU** の詳細を編集するには

1. リスト内の項目を選択します。
2. [編集] コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
3. [アイテムの編集] ダイアログで、次の詳細（読み取り専用ではない）のいずれかを選択し、[OK] をクリックします。

名前 *。コンピューター、コンピューターグループ、または OU 名。

識別名 *。選択したコンピューターまたはコンピューターグループの識別名 (DN)。このフィールドでは、異なる OU が同じ名前を持つ場合に、異なる OU を区別できます。

[説明]。コンピューター、コンピューターグループ、または OU に関する追加情報。

タイプ *。選択したタイプ (コンピューター、グループ、または組織単位)

アイテムの状態。コンピューター、コンピューターグループ、または OU の状態 (有効または無効)。無効にすると、コンピューター、コンピューターグループ、または OU はアクションを割り当てることはできません。

アイテムの優先順位。これにより、異なるグループとユーザーアカウント間の優先順位を設定できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先順位が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

* Active Directory からレポートされる読み取り専用詳細。

詳細設定

Active Directory 検索タイムアウト

Active Directory 動作を設定します。

- **Active Directory** 検索タイムアウト。Active Directory 検索が終了するまでのタイムアウトをミリ秒単位で指定します。デフォルト値は 1000 です。検索が完了する前のタイムアウトを避けるため、500 以上の値を使用することをお勧めします。

バインドされていないエージェントサイト設定

バインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御します。バインドされていないエージェントとは、どの構成セットにもバインドされていないエージェントです。

次の設定は WEM デプロイ全体に適用されます。どの構成セット (サイト) にも関連付けられていません。設定を有効にしたら、「Unbound Agents」構成セットに移動し、そこで設定を行います。これにより、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

- バインドされていないエージェントに設定を適用します。**Active Directory** オブジェクトにまだ追加していないエージェントに、「バインドされていないエージェント」構成セットの設定を適用できます。

トランスフォーマーの設定

July 13, 2022

これらのオプションを使用すると、トランスフォーマー機能を設定できます。Transformer を使用すると、エージェントは Web ランチャーまたはアプリケーションランチャーとして接続し、構成されたりリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトできます。トランスフォーマーでは、完全に復元可能な「キオスク」モードを使用して、Windows PC を高性能シンクライアントに変換します。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformer の外観と基本設定を制御します。

トランスフォーマーを有効にします。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストが自動的にキオスクモードになります。キオスクモードでは、Agent Host は Web ランチャーまたはアプリケーションランチャーになり、構成済みのリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトします。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとの対話のみ許可されます。このオプションを無効にすると、[一般] ページまたは [詳細設定] ページの設定は処理されません。

ウェブインターフェイス **URL**。この URL は、ユーザーの仮想デスクトップの Web フロントエンドとして使用されます。これは、Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops 環境のアクセス URL です。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントのキオスクウィンドウにカスタムのタイトルバーが表示されます。

ウィンドウモードを有効にします。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントのキオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーはまだ Windows 環境からロックアウトされています。

言語選択を許可する。有効にすると、Transformer インターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、[Agent] キオスクウィンドウに [進む]、[戻る]、および [ホーム] の Web ナビゲーションボタンが表示されます。「ホーム」は、上記で定義したウェブインターフェイス URL にユーザーを送り返します。

時計を表示します。有効にすると、トランスフォーマー UI にクロックが表示されます。

12 時間時計を表示します。有効にすると、12 時間時計 (AM/PM) が表示されます。デフォルトでは、トランスフォーマーマークロックは 24 時間クロックです。

アプリケーションパネルを有効にします。有効にすると、Workspace Environment Management で割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

アプリケーションパネルを自動非表示にします。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワードを変更します。**Ctrl+Alt+U** キーを押して、ユーザーの環境のロックを解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者およびサポートエージェントが制限なくユーザー環境のトラブルシューティングを実行できるように設計されています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスに URL のリストが追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、ツールのリストがキオスクインターフェイスに追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Web インターフェイスを表示するのではなく、Workspace Environment Management エージェントキオスクモードをプロセスランチャーに変換できます。

プロセスランチャーを有効にします。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントがプロセス・ランチャー・モードになります。プロセスランチャーモードでは、Workspace Environment Management エージェントは、【プロセスコマンドライン】で指定されたプロセスを起動します。終了すると、プロセスが再起動されます。

コマンドラインを処理します。特定のプロセスのコマンドラインを入力できます (たとえば、RDP 接続を起動するための mstsc.exe へのパス)。

引数を処理します。上記のコマンドラインに任意の引数を指定できます (たとえば、mstsc.exe の場合は、接続先のマシンの IP アドレス)。

VMware View 最後のユーザー名をクリアします。有効にすると、VMware デスクトップセッションを起動したときに、ログオン画面上の以前のユーザーのユーザー名がクリアされます。

VMware View モードを有効にします。有効にすると、プロセスランチャーがユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを VMware View モードで監視し、それらがすべて閉じられたときに【セッション終了オプション】を実行できるようになります。

Microsoft RDS モードを有効にします。有効にすると、プロセスランチャーは、Microsoft リモートデスクトップサービス (RDS) モードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに【セッションの終了オプション】を実行できるようにします。

Citrix モードを有効にします。有効にすると、プロセスランチャーが Citrix モードでユーザーのマシンで実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときにセッション終了オプションを実行できるようになります。

詳細設定と管理設定

ブラウザレンダリングを修正しました。有効にすると、エージェントホストマシンに現在インストールされている Internet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザモードでキオスクウィンドウが強制的に実行されます。デフォルトでは、キオスクウィンドウは IE7 互換モードで実行されます。

ログオフ画面のリダイレクト。有効にすると、ログオフページに表示されるたびに、ユーザーがログオンページに自動的にリダイレクトされます。

スクリプトエラーを抑制します。有効にすると、発生したスクリプトエラーを抑制します。

SSL サイトを修正しました。有効にすると、SSL 警告を完全に非表示にします。

Citrix セッション中にキオスクを非表示にする。有効にすると、ユーザーが Citrix セッションに接続している間、Citrix Workspace Environment Management Agent のキオスクが非表示になります。

常に管理メニューを表示します。有効にすると、キオスクの管理メニューが常に表示されます。これにより、すべてのユーザーがキオスクの管理メニューにアクセスできます。

タスクバーとスタートボタンを非表示にします。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューが非表示になります。そうしないと、ユーザーは引き続き自分のデスクトップにアクセスできます。

Alt-Tab をロックします。有効にすると、alt tab コマンドが無視され、ユーザーがエージェントから切り替わるのを防ぎます。

Z オーダーを修正しました。有効にすると、キオスクのインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、キオスクをバックグラウンドにプッシュできるようになります。

Citrix Desktop Viewer をロックします。有効にすると、デスクトップビューアをロックダウンモードに切り替えます。これは、Windows デスクトップロック用 Citrix Workspace アプリがインストールされている場合に発生するロックダウンに相当します。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、次の条件がすべて満たされている場合にのみ機能します。

- エージェント・ホストにログオンしているユーザーは、管理者グループのメンバーではありません。
- [一般設定] タブの [トランスフォーマーを有効にする] オプションが有効になります。
- [** ログオン/ログオフと電源設定] タブの [自動ログオンモードを有効にする **] オプションが有効になります。

[表示設定を非表示]: 有効にすると、トランスフォーマーの UI の [設定] の下の [表示] が非表示になります。

キーボード設定を非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の [設定] の下の [キーボード] が非表示になります。

マウス設定を非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の [設定] の [マウス] を非表示にします。

音量設定を非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の [設定] の [音量] を非表示にします。

クライアントの詳細を非表示にします。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にクライアントの詳細が非表示になります。クライアントの詳細から、バージョン番号などの情報が表示されます。

プログレスバーを無効にします。有効にすると、埋め込まれた Web ブラウザの進行状況バーが非表示になります。

Windows バージョンを非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の感嘆符アイコンの下に **Windows** バージョンを非表示にします。

ホームボタンを隠す。有効にすると、トランスフォーマー UI のメニューのホームアイコンが非表示になります。

プリンタの設定を非表示にします。有効にすると、Transformer UI のメニューのプリンタアイコンが非表示になります。ユーザーは Transformer UI でプリンタを管理できません。

事前起動レシーバー。有効にすると、Citrix Workspace アプリが起動し、読み込まれるまで待つからキオスクモードのウィンドウが表示されます。

ロック解除を無効にします。有効にすると、**Ctrl+Alt+U** のロック解除ショートカットを使用してエージェントをロック解除することはできません。

ログオフオプションを非表示にします。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下の [ログオフ] が非表示になります。

再起動オプションを非表示にします。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下の [再起動] が非表示になります。

シャットダウンオプションを非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー **UI** のシャットダウンアイコンの下にシャットダウンが非表示になります。

最後の言語を無視します。トランスフォーマー UI は複数の言語をサポートしています。[一般] ペインで、[言語選択を許可] オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。エージェントは、このオプションが有効になるまで、選択した言語を記憶します。

ログオン/ログオフと電源設定

自動ログオンモードを有効にします。有効にすると、ユーザーは Windows ログオン画面をバイパスして、エージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンします。

Web ポータルをログオフするセッションが起動されたとき。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが起動されると、[一般設定] ページで指定された Web フロントエンドがログオフされます。

セッション終了オプション。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行している環境に対して実行するアクションを指定できます。

指定した時間にシャットダウンします。有効にすると、エージェントは、指定されたローカル時刻に実行されている環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル時にシャットダウンします。有効にすると、エージェントは、アイドル状態（ユーザー入力なし）の実行後、指定した時間だけエージェントが実行されている環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリーの状態を確認しないでください。Transformer のユースケースでは、エージェントはバッテリーのステータスをチェックし、バッテリーが少なくなっている場合にユーザーに警告します。有効の場合、エージェントはこのチェックを実行しません。

アプリパッケージ配信

January 11, 2024

この機能は、WEM エージェントインストーラーとカスタム.exe インストーラーをサポートするエージェントマシンのアプリのインストール/アンインストールタスクを構成できるようにすることで、アプリ配信機能を提供します。SMB 共有に保存されているインストーラーを含むアプリパッケージを追加し、パッケージのコマンド、実行基準、および関連設定を指定できます。次に、実行を処理するスケジュールとルールを使用して、アプリケーションをユーザー環境にデプロイするための配信タスクを構成できます。アプリパッケージはすべての構成セットで共有されます。各構成セットのアプリパッケージを使用して配信タスクを構成できます。マシン全体のインストーラーのみがサポートされます。

WEM エージェントパッケージに関連付けられた省略記号を使用して、配信タスクの作成、パッケージの編集、およびパッケージの削除を行うことができます。使用中のパッケージはすべて削除できません。アプリパッケージと配信タスクをアルファベット順または作成日に基づいて並べ替えることもできます。

保管場所の設定

現在の構成セットの保存場所を構成するには、次の手順を実行します。

- SMB 共有と、その共有にアクセスする権限を持つ管理者の認証情報を [ストレージロケーション] ページに入力して新しいストレージロケーションを追加し、[完了] をクリックします。
- 指定した保存場所は、現在の構成セットにのみ適用されます。
- SMB 共有 (Storage location) \Citrix\WEM\AppPackages の次のパスにインストーラーを保存し、[保存] をクリックします。

アプリパッケージを追加

アプリパッケージを追加するには、次の手順を完了します。

- [アプリパッケージを追加] > [EXE] をクリックして、[アプリパッケージの追加] ページにアクセスします。このページには、基本情報、実行条件、および設定がツリー構造で一覧表示されます。
 - 実行基準。アプリパッケージをいつ実行するかを決定する基準を指定する必要があります。実行条件は、ファイルまたはフォルダの有無、ファイルの作成日、ファイルの変更日、ファイルのバージョン、ファイルサイズ **、** レジストリキーの有無、** レジストリ値の有無、** およびレジストリ値に分類されます。パッケージの繰り返し実行によるエラーを防ぐため、必ず基準を設定してください。
 - * 64 ビットバージョンの Windows では、Program Files ディレクトリ内でファイルまたはフォルダーのパスが設定されている場合、**Criterion** タイプを [ファイルまたはフォルダーの存在] として選択した場合、WEM エージェントは 32 ビット Program Files (x86) フォルダーと 64 ビット Program Files フォルダーの両方を自動的に確認します。たとえば、設定されたパスが C:\Program Files\Test の場合、WEM エージェントは次の 2 つのパス、つまり C:\Program Files (x86)\Test と C:\Program Files\Test の存在を確認します。同様に、設定されたパスが C:\Program Files (x86)\Test の場合、WEM エージェントは C:\Program Files (x86)\Test と C:\Program Files\Test の両方を確認します。これにより、32 ビットと 64 ビットの両方のアプリケーション間で互換性とアクセシビリティが確保されます。
 - * 基準タイプを [ファイルサイズ] として選択した場合、WEM エージェントは整数部分を考慮し、10 進値を無視してファイルサイズをキロバイト (KB) 単位で計算します。たとえば、ファイルのサイズが 46,913,080 バイトの場合、WEM エージェントはそのサイズを KB 単位で 45,813 KB と計算します (46,913,080 を 1024 で割ると 45,813.554 になり、小数点部分の「.554」は無視されます)。
 - * 基準タイプとして [レジストリキーの存在] を選択した場合: 64 ビットバージョンの Windows では、レジストリは 32 ビットキーと 64 ビットキーに分けられます。レジストリキーを 64 ビットバージョンとして構成すると、WEM エージェントは 32 ビットバージョンと 64 ビットバージョンの両方でレジストリキーの存在を確認しようとします。ただし、レジストリキーを 32 ビットバージョンとして構成した場合、WEM エージェントは

32 ビットバージョンでのみその存在を確認します。たとえば、設定したレジストリキーが `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\test` の場合、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\test` または `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\test` のいずれかのレジストリキーが存在すれば基準が満たされます。設定したレジストリキーが `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\test` の場合、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\test` が存在すれば基準が満たされます。

- 各オプションの下に表示されているフィールドを更新します。
- 「ブラウズ」ボタンをクリックしてブラウズウィザードからファイルを選択すると、ファイルパスフィールドとバージョンフィールドが入力されます。
- 一部のパッケージをインストールまたはアンインストールした後、必要に応じて [設定] の [実行後にマシンを再起動する] チェックボックスを選択できます。
 - インストール中にアプリケーションパッケージがマシンの再起動をトリガーした場合、正確な結果を取得できないため、ステータスは「予期しない再起動」として記録されます。再起動を防ぐためにインストールコマンドにパラメータを組み込んでください。また、この問題に対処するには、[実行後にマシンを再起動する] チェックボックスを選択してください。
 - アプリケーションパッケージが再起動後も継続的な操作を必要とする場合、パッケージの結果が完全に正確ではない場合があります。これは、WEM が WEM によって開始されていないパッケージの結果を取得できないためです。
- 成功ステータスを示すリターンコードを必ず指定してください。パッケージのリターンコードは [設定] で定義できます。

WEM エージェントアップグレードタスクを作成する

WEM エージェントアップグレードタスクを作成するには、次の手順を実行します。

- 配信タスクの作成 > **WEM** エージェントアップグレードタスクタイプを選択して、配信タスクの作成ページにアクセスします。このページには、** 基本情報とスケジュールとルールがツリー構造で一覧表示されます **。
- 各オプションの下に表示されているフィールドを更新します。
- ドロップダウンリストから WEM エージェントパッケージを選択します。
- UI モードで実行されているエージェントでは、[ユーザによるエージェントの手動アップグレードを許可] を有効にすると、エージェントユーザインターフェイスで [アップグレード] オプションが使用できるようになります。このオプションを使用して、エージェントをドロップダウンメニューで指定されたバージョンにアップグレードできます。この設定は、WEM エージェントアップグレード配信タスクのサブセットです。つまり、手動アップグレードタスクは、設定されたルールに従って WEM エージェントアップグレード配信タスクで指定されたバージョンにアップグレードされます。
- 配信タスクはスケジュールを設定しないと手動で実行されないため、配信タスクを実行する必要がある時間帯と日を指定してスケジュールを設定してください。開始時刻と終了時刻は、少なくとも 2 時間間隔を空けて同じ日に設定する必要があります。

- ルールを設定して、どのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定することもできます。[マシンカタログ名]、[デリバリーグループ名]、[デバイス名 **]、[**IP アドレス]、[OS プラットフォームタイプ]、[**OS バージョン]、[** 固定マシルール] から [すべて一致] または [任意に一致] を選択できます。

カスタムタスクを作成する

カスタムタスクを作成するには、次の手順を完了します。

- 配信タスクの作成 > カスタムタスクタイプを選択して、配信タスクの作成ページにアクセスします。このページには、** 基本情報とスケジュールとルールがツリー構造で一覧表示されます **。
- 各オプションの下に表示されているフィールドを更新します。
- 必要なアプリパッケージを選択し、実行したい順序に並べることができます。
- スケジュールされた他のタスクがブロックされないようにするには、選択したパッケージ機能（インストール/アンインストール）のいずれかが失敗しても、他のアプリパッケージのシームレスな処理を続行するには、[タスクコンテンツ] で [失敗した場合は続行] を選択してください。
- [再起動が終了するまで待つ] チェックボックスを選択した場合、個々のアプリパッケージの再起動設定は無視され、タスクのリスト全体の実行が終了するとマシンが再起動します。
- 「1 回実行」チェックボックスを選択すると、スケジュールされたタスクを 1 回だけ実行できます。
- 配信タスクはスケジュールが設定されていないと手動で実行されないため、配信タスクを実行する必要がある時間帯と日を指定してスケジュールを設定してください。
- 各パッケージの最大実行時間は 60 分です。そうしないと、パッケージはタイムアウトして終了します。

配信タスクの実行について詳しくは、「[エージェント](#)」の説明を参照してください。

詳細設定

June 1, 2023

これらの設定は、エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを変更します。

構成

これらのオプションは、基本的なエージェントの動作を制御します。

メイン構成

エージェントアクション。これらの設定は、[アクション] タブで構成されたアクションをエージェントが処理するかどうかを決定します。これらの設定は、ログオン時および更新（自動更新または手動更新）（ユーザーまたは管理者が起動）時に適用されます。

アプリケーションを処理します。選択すると、エージェントはアプリケーションのアクションを処理します。

プリンタを処理します。選択すると、エージェントはプリンタのアクションを処理します。

ネットワークドライブを処理します。選択すると、エージェントはネットワークドライブのアクションを処理します。

仮想ドライブを処理します。選択すると、エージェントは仮想ドライブのアクションを処理します。（仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマップする Windows 仮想ドライブまたは MS-DOS デバイス名です）。

レジストリ値を処理します。選択すると、エージェントはレジストリエントリアクションを処理します。

プロセス環境変数。選択すると、エージェントは環境変数のアクションを処理します。

プロセスポート。選択すると、エージェントはポートのアクションを処理します。

INI ファイル操作を処理します。選択すると、エージェントは.ini ファイルのアクションを処理します。

外部タスクの処理。選択すると、エージェントは外部タスクアクションを処理します。

ファイルシステムオペレーションを処理する。選択すると、エージェントはファイル・システムの操作アクションを処理します。

ファイルの関連付けを処理します。選択すると、エージェントはファイル関連付けアクションを処理します。

ユーザー **DSN** を処理します。選択すると、エージェントはユーザー DSN アクションを処理します。

エージェントサービスアクション。これらの設定は、エンドポイントでのエージェントサービスの動作を制御します。

ログオン時にエージェントを起動します。エージェントをログオン時に実行するかどうかを制御します。

再接続時にエージェントを起動します。エージェントが実行されているマシンにユーザーが再接続したときにエージェントを実行するかどうかを制御します。

管理者向けエージェントを起動します。ユーザーが管理者の場合にエージェントを実行するかどうかを制御します。

エージェントタイプ。エージェントと対話するときに、ユーザーにユーザーインターフェイス (UI) またはコマンドラインプロンプト (CMD) のどちらが表示されるかを制御します。

(仮想) デスクトップ互換性を有効にします。エージェントが実行されているデスクトップと互換性があることを確認します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントを起動するために必要です。物理デスクトップまたは VDI デスクトップにユーザーがいる場合は、このオプションを選択します。

公開アプリケーションで **CMD** エージェントのみを実行します。有効にすると、エージェントは公開アプリケーションで UI モードではなく CMD モードで起動します。CMD モードでは、エージェントのスプラッシュ画面ではなくコマンドプロンプトが表示されます。

クリーンアップアクション

このタブに表示されるオプションは、エージェントが更新されたときにショートカットやその他の項目（ネットワークドライブとプリンタ）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てると、ショートカットやアイテムの作成も制御できます。そのためには、[割り当て]>[アクション割り当て]>[アクション割り当て] タブの [** 割り当て済み] ペインでアクションのオプションを設定します **。Workspace Environment Management では、次のオプションが特定の優先度に従って処理されます

1. [クリーンアップ操作] タブに表示されるオプション
2. [割り当て済み] ペインで割り当てられたアクションに対して構成されたオプション

たとえば、[割り当て] ペインで割り当てられたアプリケーションの [** デスクトップの作成] オプションを有効にしている、デスクトップにアプリケーションのショートカットがすでに作成されているとします。 ** [クリーンアップ操作] タブの [デスクトップショートカットの削除] オプションを有効にしている、エージェントが更新されてもショートカットはデスクトップ上に残ります。

起動時にショートカットの削除。エージェントは、更新時に、選択したタイプのすべてのショートカットを削除します。

起動時にネットワークドライブを削除します。有効にすると、エージェントは更新されるたびにすべてのネットワーク・ドライブを削除します。

起動時にネットワークプリンタを削除します。有効にすると、エージェントは更新されるたびにすべてのネットワークプリンタを削除します。

自動作成されたプリンタを保持します。有効にすると、エージェントは自動作成されたプリンタを削除しません。

特定のプリンタを保持します。有効にすると、エージェントはこのリスト内のプリンタを削除しません。

エージェントオプション

これらのオプションは、エージェントの設定を制御します。

エージェントロギングを有効にします。エージェントログファイルを有効にします。

ログファイル。ログファイルの場所。デフォルトでは、これはログインしたユーザーのプロファイルルートです。

デバッグモード。これにより、エージェントの詳細なログ記録が有効になります。

オフラインモードを有効にします。無効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続に失敗しても、エージェントはキャッシュにフォールバックしません。

オンラインでもキャッシュを使用する。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（エージェントのサービスが循環するたびに構築されます）。

キャッシュを使用してアクション処理を加速します。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントローカルキャッシュから関連する設定を取得してアクションを処理します。そうするこ

とで、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻す場合は、このオプションを無効にします。

重要:

- エージェントのローカルキャッシュは、インフラストラクチャサービスと定期的に同期されます。したがって、[エージェントキャッシュの更新の遅延] オプション ([詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブ) で指定した値に応じて、アクション設定の変更が有効になるまでに時間がかかります。
- 遅延を減らすには、低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、[管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、該当するエージェントを右クリックして、コンテキストメニューで [キャッシュの更新] を選択します。

環境設定を更新。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントはユーザー環境設定の更新をトリガーします。環境設定の詳細については、[環境設定を参照してください](#)。

システム設定を更新する。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントは Windows システム設定 (Windows エクスプローラやコントロールパネルなど) の更新をトリガーします。

環境設定が変更されたときに更新します。有効にすると、環境設定が変更されると、エージェントはエンドポイントで Windows の更新をトリガーします。

デスクトップをリフレッシュ。有効にすると、エージェントの更新が発生すると、エージェントはデスクトップ設定の更新をトリガーします。デスクトップ設定の詳細については、「[デスクトップ](#)」を参照してください。

外観をリフレッシュ。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントは Windows テーマとデスクトップの壁紙のリフレッシュをトリガーします。

非同期プリンタ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにプリンターを非同期で処理します。

非同期ネットワークドライブ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにネットワークドライブを非同期で処理します。

初期環境クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- ユーザーネットワークプリンタ。
 - [クリーンアップ操作] タブの [自動作成されたプリンタを保持] が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンタを削除しません。
 - [クリーンアップ操作] タブの [特定のプリンタを保持] が有効になっている場合、エージェントは一覧で指定されたプリンタを削除しません。
- ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
- デスクトップ以外のすべてのショートカット、[スタート] メニュー、[クイック起動]、[スタート] ボタン-コンテキストメニューショートカット。
- すべてのタスクバーと [スタート] メニューのショートカットが固定されています。

初期デスクトップ **UI** クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- デスクトップ以外のすべてのショートカット、[スタート] メニュー、[クイック起動]、[スタート] ボタン-コンテキストメニューショートカット。
- すべてのタスクバーと [スタート] メニューのショートカットが固定されています。

アプリケーションの存在を確認します。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

[アプリケーション変数] を展開します。有効にすると、変数はデフォルトで展開されます ([エージェントが変数に遭遇したときの通常の動作については、環境変数を参照](#))。

クロスドメインユーザーグループ検索を有効にします。有効にすると、エージェントはすべての Active Directory ドメイン内のユーザー・グループに照会します。注: これは非常に時間のかかるプロセスで、必要な場合にのみ選択する必要があります。

ブローカーサービスのタイムアウト。エージェントがインフラストラクチャサービスへの接続に失敗したときに、エージェントが自身のキャッシュに切り替わるタイムアウト値。デフォルト値は 15000 ミリ秒です。

ディレクトリサービスのタイムアウト。エージェントホスト・マシン上のディレクトリ・サービスのタイムアウト値。その後、エージェントはユーザー・グループの関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は 15000 ミリ秒です。

ネットワークリソースタイムアウト。ネットワーク・リソース (ネットワーク上にあるネットワーク・ドライブまたはファイル/フォルダ・リソース) を解決するためのタイムアウト値。この値を過ぎると、エージェントはアクションが失敗したと判断します。デフォルト値は 500 ミリ秒です。

エージェントの最大並列度。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は 0 (プロセッサで物理的に許可されている数のスレッド)、1 はシングルスレッド、2 はデュアルスレッド、というように同様です。通常、この値は変更する必要はありません。

通知を有効にします。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりすると、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。低品質のネットワーク接続では、このオプションを有効にしないことをお勧めします。そうしないと、接続状態変更通知がエンドポイント (エージェントホスト) で頻繁に表示される場合があります。

詳細オプション

エージェントアクションの実行を強制します。これらの設定が有効になっている場合、変更が行われていない場合でも、エージェント・ホストは常にこれらのアクションを更新します。

未割り当てアクションを元に戻す。これらの設定が有効になっている場合、エージェント・ホストは次回の更新時に未割り当てのアクションをすべて削除します。

自動リフレッシュ。有効にすると、エージェント・ホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新の遅延は 30 分です。

再接続アクション

再接続でのアクション処理。これらの設定は、ユーザー環境への再接続時にエージェントホストが処理するアクションを制御します。

高度な処理

フィルタ処理の適用。これらのオプションを有効にすると、エージェント・ホストは更新のたびにフィルタを再処理します。

サービスオプション

これらの設定は、Agent Host サービスを構成します。

エージェントキャッシュの更新遅延。この設定項目では、Citrix WEM エージェントホストサービスがキャッシュの更新を待機する時間を制御します。更新では、キャッシュと WEM サービスデータベースとの同期が維持されます。デフォルトは 30 分です。

SQL 設定のリフレッシュ遅延。この設定項目では、Citrix WEM エージェントホストサービスが SQL 接続の設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは 15 分です。

エージェントの追加起動遅延。この設定では、Citrix WEM エージェントホストサービスがエージェントホスト実行可能ファイルの起動を待つ時間を制御します。

ヒント:

エージェント・ホストで最初に必要な作業を完了させるシナリオでは、エージェント・アプリケーション・ランチャー (VUEMAppCmd.exe) の待機時間を指定できます。VUEMAppCmd.exe は Citrix Virtual Apps and Desktops 公開アプリケーションが起動される前に、エージェントホストが環境の処理を完了することを確認します。待機時間を指定するには、[エージェントホスト構成] グループポリシーの vueMappCmd 追加同期遅延設定を構成します。詳細については、「[WEM エージェントのインストールと構成](#)」を参照してください。

デバッグモードを有効にします。これにより、このサイトに接続しているすべてのエージェントホストの詳細ログが有効になります。

ie4unit チェックをバイパスします。デフォルトでは、Citrix WEM エージェントホストサービスは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前に、ie4unit の実行を待機します。この設定では、エージェントホストサービスが ie4unit を待たないように強制します。

エージェント起動の除外。有効にすると、指定したユーザーグループに属するユーザーに対して Citrix WEM エージェントホストが起動されません。

コンソール設定

禁止されたドライブ。このリストに追加されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てるときにドライブ文字の選択から除外されます。

割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可します。有効にすると、アサインで使用されているドライブ文字は、他のアサインでも使用できます。

StoreFront

このタブを使用して、StoreFront ストアを Workspace Environment Management に追加します。次に、[アクション] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] タブに移動して、これらのストアで使用可能なアプリケーションを追加できます。これにより、公開アプリケーションをアプリケーションのショートカットとしてエンドポイントに割り当てることができます。詳細については、「[アプリケーション](#)」を参照してください。トランスフォーマー（キオスク）モードでは、割り当てられた StoreFront アプリケーションアクションが [アプリケーション] タブに表示されます。StoreFront アの詳細については、[StoreFront のドキュメント](#)を参照してください。

ストアを追加するには

1. [追加] をクリックします。
2. [ストアの追加] ダイアログに詳細を入力し、[OK] をクリックします。ストアが構成セットに保存されます。

URL をストアします。Workspace Environment Management を使用してリソースにアクセスするストアの URL。URL は `http [s]: //hostname [: port]` の形式で指定する必要があります。hostname はストアの完全修飾ドメイン名で、port はプロトコルのデフォルトポートが使用できない場合にストアとの通信に使用されるポートです。

重要:

- 使用するストア URL は、外部ネットワークから直接アクセスできる必要があり、NetScaler ADC などのソリューションの背後に存在してはいけません。
- この機能は、多要素認証を使用する StoreFront では機能しません。

[説明]。ストアを説明するオプションのテキスト。

ストアを編集するには リスト内のストアを選択し、[編集] をクリックして、ストアの URL または説明を変更します。

ストアを削除するには リストからストアを選択し、[削除] をクリックして、構成セットからストアを削除します。

変更を適用するには [**Apply**] をクリックして、ストア設定をエージェントにすぐに適用します。

エージェントスイッチ

このタブに表示されるオプションを使用すると、オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えることができます。

重要:

エージェントスイッチは構成セットレベルで動作します。実行するスイッチ操作は、構成セット内のエージェントだけに影響します。

サービスエージェントに切り替えます。有効にすると、エージェントはオンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替わります。その後、エージェントが接続する Citrix Cloud Connector を指定できます。これは、既存のオンプレミス展開を WEM サービスに移行する場合に便利です。

警告:

オンプレミスの展開を WEM サービスに移動する場合にのみ、このオプションを有効にします。WEM 管理コンソールでは、この移動を元に戻すことはできません。

Citrix Cloud Connector を構成します。Cloud Connector の FQDN または IP アドレスを入力して、Citrix Cloud Connector を構成できます。[追加] をクリックして、一度に 1 つの Cloud Connector を追加します。高いサービスの可用性を確保するために、各リソースの場所に少なくとも 2 つの Cloud Connector をインストールすることをお勧めします。したがって、少なくとも 2 つの Citrix Cloud Connector を構成する必要があります。

Citrix Cloud Connector の構成をスキップします。グループポリシーを使用して Citrix Cloud Connector を構成する場合は、このオプションを選択します。

重要:

[詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブで構成した ****[SQL 設定の更新遅延]** 設定によっては、エージェントスイッチの設定が有効になるまでに時間がかかる場合があります ******。

オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えた後、エージェントが WEM サービスへの接続に失敗し、ロールバックが必要になることがあります。これを行うには、AgentConfigurationUtility.exe コマンドラインを使用します。たとえば、次のようにします。

- <WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe **switch** -o --server <server name> --agentport <port number> --syncport <port number>
- <WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe **switch** -o --server <server name>
- <WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe **switch** --usegpo -o

Wake-on-LAN

エージェント・ホストをリモートでオンにするには、このタブを使用します。WEM は、ターゲットエージェントと同じサブネットに存在するエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントを Wake on LAN メッセージャーとして使用します。この機能には、Wake on LAN と互換性のあるハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連する BIOS 設定が構成されていることを確認します。

エージェントの **Wake on LAN** を有効にします。Windows オペレーティングシステムの設定を構成して、エージェントホストの Wake on LAN を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントは次のシステム設定を構成します。

- ネットワークアダプタのエネルギー効率に優れたイーサネットを無効にする
- ネットワークアダプタの **Wake on Magic Packet** を有効にする
- [このデバイスがネットワークアダプタのコンピュータをスリープ解除できるようにする] を有効にします。
- [有効] マジックパケットのみによるネットワークアダプタのコンピュータのスリープ解除を許可する
- 無効化高速起動をオンにする

このオプションを有効にした後、[管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、リストから 1 つ以上のエージェントを選択し、[エージェントをウェイクアップ] をクリックして選択したエージェントを起動します。

UI エージェントのパーソナライズ

これらのオプションを使用すると、UI モードでエージェントのルックアンドフィールをパーソナライズできます。これらのオプションは、ユーザー環境での UI エージェントの表示方法を決定します。

注:

これらのオプションは、UI モードのエージェントにのみ適用されます。CMD モードのエージェントには適用されません。

UI エージェントオプション

これらの設定では、ユーザー環境でのセッションエージェント (UI モードのみ) の外観をカスタマイズできます。

カスタム背景イメージパス。指定すると、エージェントの起動または更新時に、Citrix Workspace Environment Management のロゴの代わりにカスタムスプラッシュ画面が表示されます。イメージは、ユーザー環境からアクセス可能である必要があります。400*200 px の.bmp ファイルを使用することをお勧めします。

円の色を読み込んでいます。ロードする円の色をカスタム背景に合わせて修正できます。

テキストラベルの色。ロードするテキストの色をカスタム背景に合わせて修正できます。

UI エージェントスキン。 UI エージェントから開くダイアログに使用する、構成済みのスキンを選択できます。たとえば、[アプリケーションの管理] ダイアログや [プリンタの管理] ダイアログなどです。注: この設定では、スプラッシュ画面は変更されません。

エージェントのスプラッシュ画面を非表示にします。有効にすると、エージェントがロード中またはリフレッシュ中のスプラッシュ画面が非表示になります。この設定は、エージェントが初めて更新されるときには有効になりません。

公開アプリケーションでエージェントアイコンを非表示にします。有効にすると、公開アプリケーションにはエージェントアイコンが表示されません。

公開アプリケーションでエージェントのスプラッシュ画面を非表示にします。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのエージェントのスプラッシュ画面が非表示になります。

管理者だけがエージェントを閉じることができます。有効にすると、管理者だけがエージェントを終了できます。その結果、管理者以外のエンドポイントでは [エージェント] メニューの [終了] オプションが無効になります。

ユーザーによるプリンタの管理を許可します。有効にすると、エンドポイントのユーザーがエージェントメニューの [プリンタの管理] オプションを使用できます。このオプションをクリックすると、[プリンタの管理] ダイアログが開き、既定のプリンタを構成したり、印刷環境設定を変更できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

ユーザーがアプリケーションの管理を許可する。有効にすると、エンドポイントのユーザーがエージェントメニューの [アプリケーションの管理] オプションを使用できます。ユーザーは、オプションをクリックして [アプリケーションの管理] ダイアログを開き、次のオプションを構成できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- デスクトップ。アプリケーションのショートカットをデスクトップに追加します。
- [スタート] メニュー。[スタート] メニューフォルダにアプリケーションショートカットを作成します。
- **QuickLaunch**。アプリケーションをクイック起動ツールバーに追加します。
- タスクバー **(P)**。タスクバーにアプリケーションショートカットを作成します。
- スタートメニュー **(P)**。アプリケーションを [スタート] メニューに固定します。

注:

自己修復モードで作成したショートカットは、このメニューでは削除できません。

クイック起動オプションは、Windows XP および Windows Vista でのみ使用できます。

管理者がエージェントを閉じないようにする。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。

[アプリケーションショートカット] を有効にします。有効にすると、エージェントメニューに [マイアプリケーション] オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは [マイアプリケーション] メニューからアプリケーションを実行できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

管理更新フィードバックを無効にします。このオプションを有効にすると、管理者が管理コンソールを使用してエージェントを強制的に更新しても、ユーザー環境に通知は表示されません。

ユーザーにアクションのリセットを許可します。エージェントメニューに [アクションのリセット] オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。[アクションのリセット **] オプションを使用すると、現在のユーザーが自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが [**アクションのリセット] を選択すると、[アクションのリセット] ダイアログが表示されます。ダイアログでは、リセットする内容を細かく制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、[リセット] をクリックします。この操作を行うと、対応するアクション関連のレジストリエントリが消去されます。

注:

- エージェントメニューでは、常に [更新] と [バージョン情報] の 2 つのオプションを使用できます。[**Refresh**] オプションを使用すると、WEM エージェント設定の即時更新がトリガーされます。その結果、管理コンソールで設定した設定はただちに有効になります。[**About**] オプションを選択すると、使用中のエージェントに関するバージョンの詳細を表示するダイアログが開きます。

ヘルプデスクオプション

これらのオプションは、エンドポイントのユーザーが利用できるヘルプデスク機能を制御します。

ヘルプリンクアクション。エンドポイントのユーザーが [ヘルプ] オプションを使用できるかどうか、およびユーザーがクリックしたときの動作を制御します。ユーザーがヘルプを求めることができる Web サイトのリンクを入力します。

カスタムリンクアクション。エージェントメニューに [サポート] オプションを表示するかどうか、およびユーザーがクリックしたときの動作を制御します。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできる Web サイトのリンクを入力します。

スクリーンキャプチャを有効にします。エージェントメニューに [キャプチャ] オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは、オプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには、次のオプションがあります。

- 新しいキャプチャ。ユーザー環境でのエラーのスクリーンショットを撮ります。
- 保存。スクリーンショットを保存します。
- サポートに送る。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

[サポートに送信] オプションを有効にします。スクリーンキャプチャツールで [サポートに送信] オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはオプションを使用してスクリーンショットとログファイルを指定した形式で指定したサポート電子メールアドレスに直接送信できます。この設定には、正常に構成された電子メールクライアントが必要です。

カスタム件名。有効にすると、画面キャプチャツールがサポート電子メールの送信に使用する電子メールの件名テンプレートを指定できます。

メールテンプレート。スクリーンキャプチャツールがサポート電子メールの送信に使用する電子メールコンテンツテンプレートを指定できます。このフィールドは空にできません。

注:

メールテンプレートで使用できるハッシュタグの一覧については、「[動的トークン](#)」を参照してください。

##UserScreenCaptureComment## ハッシュタグが電子メールテンプレートに含まれている場合にのみ、コメントを入力するオプションが表示されます。

SMTP を使用して電子メールを送信します。有効にすると、は MAPI ではなく SMTP を使用してサポート電子メールを送信します。

SMTP をテストします。上記のように SMTP 設定をテストし、それらが正しいことを確認します。

省電力

指定した時刻にシャットダウンします。有効にすると、エージェントは指定した時刻に実行されているマシンを自動的にシャットダウンできます。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。

アイドル時にシャットダウンします。有効にすると、指定した時間だけマシンがアイドル状態（ユーザー入力なし）になった後に、エージェントが実行されているマシンを自動的にシャットダウンできます。

管理

January 11, 2024

[管理] ペインは、次の項目で構成されています。

- 管理者。Workspace Environment Management 管理者 (ユーザーまたはグループ) を定義し、管理コンソールを使用して構成セットにアクセスする権限を付与できます。
- [ユーザー]。ユーザ統計を表示できます。
- エージェント。エージェント統計を表示し、キャッシュのリフレッシュ、設定のリセット、統計のアップロードなどの管理タスクを実行できます。
- ログイン。Workspace Environment Management アクティビティを表示できます。ログを使用して、次のことができます。
 - 構成変更の履歴を確認して問題の診断およびトラブルシューティングを行う。
 - 変更管理の補助および構成の追跡を行う。
 - 管理アクティビティをレポートします。

管理者

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management の管理者 (ユーザーまたはグループ) を定義し、管理コンソールを使用して構成セットにアクセスする権限を付与できます。

構成済みの管理者リスト

権限レベルを示す構成された管理者のリスト (フルアクセス、読み取り専用、または詳細アクセス、以下の詳細を参照)。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

管理者を追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

Name: 現在編集中のユーザーまたはグループの名前。

[説明]。ユーザーまたはグループに関する追加情報。

グローバルアドミニストレータ。選択したユーザー/グループがグローバル管理者であることを指定する場合に選択します。選択したユーザー/グループがサイト管理者であることを指定するには、選択を解除します。グローバル管理者は、すべてのサイト (構成セット) に権限が適用されます。サイト管理者は、サイトごとに権限を構成できます。

権限。これにより、選択したユーザー/グループに対する次のいずれかのアクセスレベルを指定できます。注: 管理者は、アクセス権のある設定のみを表示できます。

フルアクセス管理者は、指定したサイト (構成セット) のあらゆる側面を完全に制御できます。Workspace Environment Management 管理者を追加/削除できるのは、フルアクセス権を持つグローバル管理者のみです。[管理] タブを表示できるのは、グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみです。

読み取り専用管理者はコンソール全体を表示できますが、設定を変更することはできません。[管理] タブを表示できるのは、グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみです。

詳細アクセスは、管理者が次の権限セットを 1 つ以上持っていることを示します。

アクション作成者は、アクションを作成および管理できます。

アクションマネージャは、アクションを作成、管理、および割り当てることができます。アクションを編集または削除することはできません。

フィルタマネージャは、条件とルールを作成および管理できます。割り当てられたアプリケーションで使用中のルールは、フィルタ・マネージャで編集または削除することはできません。

割り当てマネージャは、ユーザーまたはグループにリソースを割り当てることができます。

システムユーティリティマネージャは、システムユーティリティの設定 (CPU、RAM、およびプロセス管理) を管理できます。

ポリシーおよびプロファイルマネージャは、ポリシーとプロファイルの設定を管理できます。

設定済みユーザマネージャは、設定されたユーザリストからユーザまたはグループを追加、編集、および削除できます。アクションが割り当てられたユーザーまたはグループは、設定済みユーザーマネージャーでは編集または削除できません。

トランスフォーママネージャは、トランスフォーマーの設定を管理できます。

詳細設定マネージャは、詳細設定 (操作処理の有効化または無効化、クリーンアップ操作など) を管理できます。

セキュリティマネージャは、[[セキュリティ](#)] タブのすべてのコントロールにアクセスできます。

状態。これは、選択したユーザー/グループを有効または無効にするかどうかを制御します。無効にすると、ユーザー/グループは Workspace Environment Management 管理者と見なされず、管理コンソールを使用できなくなります。

タイプ。このフィールドは読み取り専用で、選択したエンティティがユーザーまたはグループのどちらであることを示します。

グローバルアドミニストレータがクリアされると、次のコントロールが有効になります。

サイト名。このインフラストラクチャサービスが接続されているデータベースに属するすべての Workspace Environment Management サイト (構成セット)。

[有効]。指定した Workspace Environment Management サイト (構成セット) に対してこの管理者を有効にする場合に選択します。無効にすると、ユーザー/グループはそのサイトの管理者と見なされず、アクセスできなくなります。

権限。このインフラストラクチャサービスにアタッチされている Workspace Environment Management サイト (構成セット) ごとに、選択したユーザー/グループの権限レベルを選択します。

ユーザー

このページには、Workspace Environment Management 配置に関する統計が表示されます。

統計

このページには、エージェント・ホストがデータベースに接続しているユーザーのサマリーが表示されます。

ユーザーサマリー。現在のサイト (構成セット) とすべてのサイト (構成セット) の両方について、Workspace Environment Management ライセンスを予約したユーザーの合計数が表示されます。また、過去 24 時間および先月の新規ユーザー数も表示されます。

ユーザー履歴。これにより、現在のサイト (構成セット) に関連付けられたすべてのユーザーの接続情報が表示されます。これには、最後の接続時刻、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントのタイプ (UI または CMD)

とバージョンが含まれます。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

エージェント

このページには、Workspace Environment Management 展開内のエージェントに関する統計が表示されます。

統計

このページには、Workspace Environment Management データベースに記録された Workspace Environment Management エージェントのサマリーが表示されます。

エージェントの概要。現在の構成セットとすべての構成セットの両方について、Workspace Environment Management ライセンスを予約したエージェントの総数が表示されます。また、過去 24 時間および先月に追加されたエージェントも報告します。

エージェント履歴。構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報（最終接続時刻、前回接続したデバイスの名前、エージェントのバージョンなど）を表示します。[検索]を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

「同期の状態」列では、次のアイコンは、エージェントキャッシュと Workspace Environment Management データベースとの前回の同期の結果を示します。

- 成功 (チェックマークアイコン)。前回の同期が成功し、同期の結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
- 不明 (疑問符アイコン)。同期が進行中、同期がまだ開始されていない、または同期の結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
- 失敗 (X アイコン)。前回の同期が失敗したことを示します。

[**Profile Management** の健全性ステータス] 列では、展開内の Profile Management のヘルスステータスを表示できます。

Profile Management の健全性ステータスは、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行し、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントホストの出力ファイルから特定の問題を特定できます (%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.xml)。機能は、毎日、または WEM エージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、管理コンソールで選択したエージェントを右クリックし、コンテキストメニューの [**Profile Management** 構成チェックの更新] を選択します。各ステータスチェックは、ステータスを返します。最新のステータスを表示するには、[更新]をクリックします。

Profile Management の健全性ステータス列のアイコンには、Profile Management のヘルスステータスに関する一般的な情報が表示されます。

- 良好 (チェックマークアイコン) Profile Management が良好な状態であることを示します。
- 警告 (三角形の感嘆符アイコン)。Profile Management の最適でない状態について通知します。最適でない設定は、展開環境での Profile Management のユーザーエクスペリエンスに影響する可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側でのアクションを必要としません。
- エラー (X アイコン) Profile Management が正しく構成されていないため、Profile Management が正しく機能しないことを示します。
- 使用不可 (疑問符アイコン)。Profile Management が見つからない、または有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックに経験が反映されない場合や、発生している問題が検出されない場合は、Citrix テクニカルサポートに連絡してください。

「最近接続しました」列の次のアイコンは、エージェントが一定の間隔内に統計を Workspace Environment Management データベースにアップロードしたことを示します。エージェントはオンラインです。空白の列フィールドは、エージェントがオフラインであることを示します。

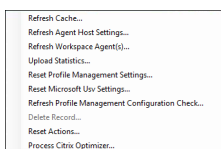
- オンライン (チェックマークアイコン)

期限切れのレコードをクリアします。Workspace Environment Management データベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時間が 24 時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。

エージェントをウェイクアップします。選択したエージェントをウェイクアップできます。

エージェントを更新するには エージェントを更新すると、インフラストラクチャサーバーと通信します。インフラストラクチャサーバは、Workspace Environment Management データベースを使用してエージェントホスト ID を検証します。

1. [更新] をクリックして、エージェントのリストを更新します。
2. コンテキストメニューで、[ワークスペースエージェントを更新] を選択します。



コンテキストメニューのオプション

キャッシュをリフレッシュ。エージェントローカルキャッシュ (WEM 構成データベースのエージェント側のレプリカ) の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、エージェントローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。

エージェントホストの設定を更新します。エージェントサービス設定を適用します。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびユーザー割り当て以外の設定が含まれます。

ワークスペースエージェントをリフレッシュします。ユーザーが割り当てたアクションを WEM エージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。

重要:

- [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] オプションは、自動的に起動される (エンドユーザーまたはスクリプトを使用して起動しない) UI モードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMD モードのエージェントでは機能しません。
- すべての設定をリフレッシュできるわけではありません。一部の設定 (環境設定、グループポリシー設定など) は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

統計情報をアップロードします。統計情報をインフラストラクチャサービスにアップロードします。

Profile Management 設定をリセットします。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Profile Management 設定がエージェントに適用されていない場合は、[**Profile Management** 設定のリセット] をクリックします。このオプションを使用できるようにするには、[更新] をクリックする必要がある場合があります。

注:

WEM 管理コンソールから [**Profile Management** 設定のリセット] を構成した後に設定がエージェントに適用されない場合は、[CTX219086](#) で回避策を参照してください。

Microsoft USV 設定をリセットします。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV 設定がエージェントに適用されていない場合は、[**Microsoft Usv** 設定のリセット] をクリックし、[更新] をクリックします。

Profile Management 構成チェックのリフレッシュ。エージェントホストのステータスチェックを実行して、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断します。

レコードの削除。データベースからエージェントレコードを削除できるようにします。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションはグレー表示されます。

アクションのリセット。適用可能なマシン上のすべてのアクション関連のレジストリエントリを消去することによって、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

Citrix Optimizer を処理します。設定をエージェントに適用し、Citrix Optimizer の設定に対する変更がすぐに有効になります。

配信タスクを実行します。このオプションを有効にするには、同じ構成セットにバインドされたエージェントを選択します。配信タスクをすばやく実行するには、このページから配信タスクを実行することを選択できます。「配信タスクを実行」をクリックし、ドロップダウンリストから配信タスクを選択して、選択した配信タスクをエージェント上で実行します。どのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定するルールをタスクに設定した場合、オンデマンドタスクを実行する特定のエージェントを選択しても、それらのルールは無視されます。

登録

このページには、データベースに記録された Workspace Environment Management エージェントの登録ステータスが表示されます。

重要:

エージェントは、1つの構成セットでのみ登録する必要があります。

次の情報が報告されます。

マシン名。エージェントが実行されているコンピュータの名前。

状態。エージェント・ホスト・コンピュータ上のエージェントの登録ステータス。アイコンと次の説明で示され、登録の成功または失敗に関する詳細が示されます。

エージェントはどのサイトにもバインドされていません。エージェントがどのサイト (構成セット) にもバインドされていないため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト (構成セット) を解決できません。

エージェントは **1**つのサイトにバインドされています。インフラストラクチャサーバーは、必要なマシン依存の設定を、そのサイト (構成セット) のエージェントに送信しています。

エージェントは複数のサイトにバインドされています。エージェントが複数のサイト (構成セット) にバインドされているため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト (構成セット) を解決できません。

登録エラーを解決するには どちらか

- Active Directory 階層 (コンピューター、コンピューターグループ、および OU 間の関係) を編集する

または

- 管理コンソールの [[Active Directory オブジェクト](#)] セクションの [Workspace Environment Management] 階層を編集して、コンピュータが 1つのサイト (構成セット) にのみバインドされるようにします。

これらの変更を行った後、インフラストラクチャサーバーでエージェントを更新します。

ログ

行政機関

このタブには、データベースの [Workspace Environment Management] 設定に加えられたすべての変更のリストが表示されます。デフォルトでは、ログを手動で更新するまで、ログは入力されません。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト (構成セット) と日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログイン XLS 形式をエクスポートします。

ログのリフレッシュ。ログを更新します。

ログをクリアします。すべての構成セットのログをクリアします。これは元に戻すことはできません。ログをクリアすると、新しいログに 1 つのイベントが追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが使用できます。

エージェント

このタブには、Workspace Environment Management エージェントに加えられたすべての変更が一覧表示されます。[**Refresh**] をクリックするまで、ログは入力されません。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト (構成セット) と日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログイン XLS 形式をエクスポートします。

ログのリフレッシュ。ログを更新します。

ログをクリアします。すべての構成セットのログをクリアします。これは元に戻すことはできません。ログをクリアすると、新しいログに 1 つのイベントが追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが使用できます。

監視

July 4, 2023

これらのページには、詳細なユーザーログインレポートとマシン起動レポートが含まれます。すべてのレポートをさまざまな形式でエクスポートできます。

デイリーレポート

デイリーログインレポート。このサイトに接続しているすべてのユーザーのログイン時間の日次サマリー。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの各ユーザーの個々のログオン時間を示す詳細ビューが表示されます。

デイリーブートレポート。このサイトに接続されているすべてのデバイスでの起動時間の毎日のサマリー。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの個別の起動時間を示す詳細ビューが表示されます。

ユーザートレンド

ログイントレンドレポート。このレポートには、選択した期間における各日の全体的なログイン傾向が表示されます。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

ブートトレンドレポート。このレポートには、選択した期間における各日の全体的なブート傾向が表示されます。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスタイプ。このレポートには、このサイトに接続している各オペレーティングシステムのデバイスの数が1日単位で表示されます。各デバイスタイプをダブルクリックすると、詳細が表示されます。

ユーザーとデバイスのレポート

ユーザーレポート。このレポートでは、選択した期間における単一ユーザーのログイン傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックして、詳細ビューを表示できます。

デバイスレポート。このレポートでは、選択した期間における単一デバイスのブート傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックして、詳細ビューを表示できます。

プロファイルコンテナに関するインサイト

この機能は、Profile Management および FsLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用するセッションのステータス、検出された問題などに関する洞察を提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

まとめ

2つのドーナツチャートが含まれています：

- 使用済み領域。左側のグラフは、指定した期間におけるプロファイルコンテナの領域使用量を示しています。
- セッションステータス。右側のグラフには、指定した期間におけるプロファイルコンテナを使用したセッションが表示されます。

期間（過去 6 日間など）を指定したら、[更新] をクリックしてグラフの更新をトリガーします。

使用領域が **(GB)** を超える場合は高。しきい値を超えると、プロファイルコンテナのスペース使用量を高い値として扱うことができます。正の整数を入力します。

使用領域が **(GB)** 未満の場合、低。しきい値を下回って、プロファイルコンテナのスペース使用量を低値として扱うことができます。正の整数を入力します。

注:

- 上限しきい値は、下限しきい値よりも大きくする必要があります。
- 上限しきい値および下限しきい値を指定したら、[更新] をクリックして、[使用領域] グラフの更新をトリガーします。
- 上限しきい値および下限しきい値を指定した後、その間の領域使用量はデフォルトで [中 (**Medium**)] になります。

コンテナステータスのプロファイル

指定した期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストを表示します。期間（たとえば、過去 6 日間）を指定したら、[更新] ボタンをクリックしてレコードをフィルタします。

選択したレコードが関係するコンテナのデータの収集をトリガーできます。これにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。そのためには、ステータスレコードを右クリックし、[**Refresh**] を選択します。更新操作により、一連のタスクが実行されます。まず、関連するエージェント・ホストにタスクがただちに送信されます。エージェントはタスクを受信し、コンテナがエージェント・ホストで使用中的の場合、ステータス関連のデータを収集します。その後、収集されたデータで最新のアタッチレコードが更新されます。ステータスが更新されるまでしばらく時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、[**Refresh**] ボタンをクリックします。

[**Status**] 列には、ステータスコードとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、[Microsoft のドキュメントを参照してください](https://docs.microsoft.com/en-us/fslogix/fslogix-error-codes-reference) <https://docs.microsoft.com/en-us/fslogix/fslogix-error-codes-reference>。

構成

レポートオプション

これらのオプションを使用すると、レポート期間と稼働日を制御できます。また、** 最小ブート時間とログイン時間**（秒）を指定することもできます。この値を下回るとレポートされません。

バックアップと復元

October 26, 2023

[バックアップと復元] ページには、既存のバックアップの一覧が表示されます。バックアップには、自動バックアップと手動バックアップ (構成セットと設定) の 2 種類があります。コンテンツタイプ列で自動バックアップと手動バックアップを区別できます。

バックアップごとに、次の操作を実行できます。

- 復元。バックアップから構成を復元できます。バックアップから構成を復元すると、選択した構成セットに関連するすべての設定がバックアップの設定に置き換えられます。

注記:

- Profile Management の設定を構成セットに復元するには、その構成セットの下にある [プロフィール] > [Profile Management 設定] ページのクイックセットアップ機能を使用することもできます。
- Profile Management の設定をバックアップから復元すると、関連するサービスに使用するために選択された SMB 共有も復元されます。

- [ダウンロード]。バックアップのコピーをローカルマシンに保存できます。バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。バックアップファイルは JSON 形式です。
- [削除]。既存のバックアップを削除できます。

また、次の操作も実行できます。

- [アップロード] ボタンの横にある [更新] アイコンをクリックして、現在のページを更新します。
- 設定ファイルのアップロード
- 自動バックアップを管理する
- 構成セットをバックアップする
- Profile Management の設定をバックアップする

設定ファイルのアップロード

以前のバックアップに戻すために使用される JSON ファイルをアップロードできます。JSON ファイルには、構成セットまたは Profile Management 設定を含めることができます。ファイルをアップロードするには、次の手順に従います。

1. [アップロード] をクリックします。バックアップファイルのアップロードウィザードが表示されます。

2. 「ブラウズ」をクリックし、アップロードするファイルブラウズしてファイルを選択し、「開く」をクリックします。バックアップファイルのアップロードウィザードに戻ります。
3. ファイルの名前を指定してください。
4. [**Upload**] をクリックしてアップロードを開始します。

注記:

- アップロードできるのは JSON ファイルのみです。
- アップロードできるのは、サイズが 5 MB 未満のファイルのみです。

自動バックアップを管理する

構成セットのバックアップは、自動的に保存できます。この機能では、最も古い既存ファイルの上書きを開始する前に、構成セットごとに最大 5 つのバックアップファイルを保存できます。構成セットに関連する次の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト (単一マシン、マシングループ、OU)
- データのモニタリング (統計およびレポート)
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

自動バックアップを設定するには、次の手順に従います。

1. [自動バックアップの管理] をクリックします。[自動バックアップの管理] ウィザードが表示されます。
2. 自動的にバックアップする構成セットを探します。
3. その構成セットに対して、次の 3 つのオプションのいずれかを選択します。
 - 設定されていません。選択した場合、WEM は自動的にバックアップされません。
 - デイリー。選択した場合、WEM は毎日バックアップを実行します。
 - 毎週。選択した場合、WEM は毎週月曜日にバックアップを実行します。
4. 必要に応じて、他の構成セットに対して手順 2 と 3 を繰り返します。
5. [保存] をクリックして変更を保存し、ウィザードを終了します。

構成セットをバックアップする

重要:

手動バックアップの数は、アカウントあたり 10 個に制限されています。上限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

構成セットのバックアップコピーを保存し、そのバックアップを復元目的で使用できます。構成セットに関連する次の項目をバックアップできます。

- 操作
- アプリケーションセキュリティ、権限昇格、プロセス階層制御
- 割り当て (アクションとアクショングループに関連する)
- フィルター
- スクリプト化されたタスク設定
- ユーザー
- WEM 設定

構成セットに関連する次の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト (単一マシン、マシングループ、OU)
- データのモニタリング (統計およびレポート)
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

構成セットをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. [バックアップ] をクリックします。バックアップウィザードが表示されます。
2. ターゲット構成セットを選択します。
3. バックアップする構成セットをリストから選択します。
4. バックアップの名前を指定してください。
5. 必要に応じて、[バックアップのコピーをローカルマシンに保存] を選択して、バックアップをローカルに保存します。

注記:

バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

6. [**Back up**] をクリックしてバックアップを開始します。

Profile Management の設定をバックアップする

重要:

手動バックアップの数は、アカウントあたり 10 個に制限されています。上限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

Profile Management の設定をバックアップするには、次の手順を実行します。

1. [バックアップ] をクリックします。バックアップウィザードが表示されます。

2. ターゲット構成セットを選択します。
3. [バックアップ対象] リストから [設定] を選択します。
4. 「**Profile Management**」設定を選択します。
5. バックアップの名前を指定してください。
6. 必要に応じて、[バックアップのコピーをローカルマシンに保存] を選択して、バックアップをローカルに保存します。

注記:

バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

7. [**Back up**] をクリックしてバックアップを開始します。

エージェントイベントログ

October 26, 2023

この記事では、WEM イベントログのリストと、それに対応する個別のイベント ID について説明します。

WEM 構成セット

イベント ID	レベル	メッセージ
1001	情報	エージェントは構成セット: 名前: <code>configuration set name (ID: configuration set ID)</code> に正常に登録されました。
1002	警告	エージェントはどの構成セットにも登録されていません

インフラストラクチャサービスへの **WEM** エージェント接続

イベント ID	レベル	メッセージ
2001	情報	インフラストラクチャサービスへの接続: アドレス: service address
2002	エラー	インフラストラクチャサービスのアドレスが無効です
2003	エラー	WEM サービスに接続できません
2020	情報	WEM サービスへの接続: アドレス: service address
2021	情報	WEM 用に設定されたクラウドコネクタの取得: Cloud Connector list
2022	情報	Citrix DaaS からのクラウドコネクタの検出: Cloud Connector list
2023	エラー	すべてのクラウドコネクタにアクセスできません
2024	情報	Cloud Connector が動作中: Cloud Connector address
2025	警告	Cloud Connector にアクセスできません: Cloud Connector address
2026	エラー	Cloud Connector を介して WEM サービスに接続できません

エージェント設定更新イベント

イベント ID	レベル	メッセージ
3001	情報	エージェント構成設定の更新の開始
3002	エラー	エージェント構成設定の更新に次の例外が発生して失敗しました: exception code
3003	情報	エージェント構成設定は正常に更新されました

ディレクトリサービスイベント

イベント ID	レベル	メッセージ
4001	警告	ユーザートークングループリストを取得できません
4002	警告	ユーザーディレクトリサービスグループを取得できません
4003	警告	ユーザーが属するすべてのグループを取得できません
4004	警告	ユーザーが属するすべての OU を取得できません
4005	警告	ローカルコンピュータグループリストを取得できません
4006	警告	ローカルコンピュータの OU リストを取得できません

マシンポリシーイベント

イベント ID	レベル	メッセージ
5001	情報	コンピュータグループポリシーの処理の開始
5002	情報	前提条件が満たされていないためにマシンポリシーの処理をスキップする
5003	情報	マシンポリシー処理をスキップ: グループポリシー設定処理が有効化されていません
5004	警告	コンピュータが属するグループまたは OU を取得できません。グループポリシー処理が終了しました
5005	情報	コンピュータグループポリシーが正常に適用されました
5006	警告	コンピュータグループポリシーを適用できません。障害が発生した GPO のリスト: GPO list

ユーザーポリシーイベント

イベント ID	レベル	メッセージ
5501	情報	のユーザーグループポリシーの処理を開始します user name
5502	情報	前提条件が満たされていないためにユーザーポリシーの処理をスキップする
5503	情報	ユーザーポリシー処理をスキップ: グループポリシー設定処理が有効化されていません
5504	情報	マップされたアカウントが見つからなかったため、ローカルユーザー user identity name のポリシー処理がスキップされました
5505	警告	ユーザーが属するグループまたは OU を取得できません。グループポリシー処理が終了しました
5506	情報	ユーザーグループポリシーが正常に適用されました
5507	警告	ユーザーグループポリシーを適用できません。障害が発生した GPO のリスト: GPO list

キャッシュ同期イベント

イベント ID	レベル	メッセージ
6001	情報	自動エージェントキャッシュ同期の開始
6002	情報	オンデマンドエージェントキャッシュ同期の開始
6003	warning	ネットワークを使用できません。エージェントキャッシュの同期はスキップされました
6004	warning	エージェントキャッシュ同期がスキップされました: クラウドサービスの設定が無効です

イベント ID	レベル	メッセージ
6005	warning	エージェントキャッシュの同期がスキップされました: インフラストラクチャサービスのアドレスが無効です
6006	エラー	エージェントキャッシュの同期が予期しないエラーで失敗しました
6007	情報	エージェントキャッシュの同期が正常に完了しました

最適化イベント

CPU 最適化

7003 から 7008 までのイベント ID のメッセージを書き込むには、次のレジストリを追加します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\currentControlSet\コントロール\Norskale\エージェントホスト

名前: 最適化のための追加ログを有効にする

種類: REG_DWORD

値: 1

注意:

レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールを必要とする重大な問題が発生する可能性があります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

イベント ID	レベル	メッセージ
7001	情報	ユーザー <code>user name</code> が作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の CPU スパイク保護を初期化しています。 <code>percentage value</code> で検出された各コアあたりの平均 CPU 使用率の合計で、システム CPU の合計使用率を <code>percentage value</code> とします。

イベント ID	レベル	メッセージ
7002	情報	ユーザー <code>user name</code> が作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の CPU スパイク保護を初期化しています。検出された平均 CPU 使用率は <code>percentage value</code> で、 <code>percentage value</code> で検出された各コアあたりの平均 CPU 使用率の合計はです。
7003	情報	ユーザー <code>user name</code> が作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の優先度を <code>priority value</code> に変更しました。
7004	警告	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の優先度を <code>priority value</code> に変更できません。エラーコード: <code>error code</code> 。
7005	情報	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス (ID: <code>affinity value</code>) のアフィニティ <code>process name</code> (<code>process ID</code>) が正常に処理されました。
7006	警告	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス (ID: <code>affinity value</code>) のアフィニティ <code>process name</code> (<code>process ID</code>) を設定できません。

イベント ID	レベル	メッセージ
7007	情報	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の入出力優先度を <code>priority value</code> に変更しました。
7008	警告	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の入出力優先度を <code>priority value</code> に変更できません。

メモリ最適化

イベント ID	レベル	メッセージ
8001	情報	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) のメモリ最適化を初期化しています。
8002	情報	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) のメモリ最適化が成功しました。
8003	警告	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) のメモリを最適化できません。

CMD および **UI** モードのエージェント

January 21, 2022

Workspace Environment Management エージェントは、CMD モードと UI モードで実行できます。

ログオン時にエージェントを実行するように構成すると、CMD モードまたは UI モードのどちらで起動するかを制御できます。これを行うには、[管理コンソール] > [詳細設定] > [構成] > [メイン構成] タブにある [エージェントタイプ] 設定を使用します。詳しくは、「[詳細設定](#)」を参照してください。

ログオン時にエージェントを自動的に実行するように構成しない場合、管理者 (管理者またはエンドユーザー) は、エージェントマシン上で CMD モードまたは UI モードでエージェントを起動できます。そのためには、エージェントのインストールフォルダに移動し、次の 2 つの .exe ファイルを特定します。

- **VUEMCmdAgent.exe**。エージェントを CMD モードで実行できます。
- **VUEMUIAgent.exe**。エージェントを UI モードで実行できます。

CMD モードと UI モードの違い

CMD モードでは、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行されている場合、CMD モードではコマンドプロンプトが表示されます。CMD モードは起動後に自動的に終了します。
- CMD モードでは、起動時にユーザーが割り当てたアクションがエージェントに適用されます。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。
- 現在、CMD モードではコマンドライン操作はサポートされていません。

UI モードでは、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行されると、UI モードにエージェントのスプラッシュ画面が表示されます。
- UI モードでは次のオプションを表示できます。
 - マイアプリケーション。自分に割り当てられているアプリケーションを表示できます。
 - 画面のキャプチャ。スクリーンキャプチャツールを開くことができます。このオプションを使用するには、[管理コンソール] > [詳細設定] > [UI Agent パーソナライズ] > [ヘルプデスクオプション] タブで [スクリーンキャプチャを有効にする] を有効にする必要があります。詳細については、「[ヘルプデスクオプション](#)」を参照してください。
 - アクションのリセット。[アクションのリセット] ツールを開いて、環境内でリセットするアクションを指定できます。

このオプションを使用するには、[管理コンソール] > [詳細設定] > [UI Agent Personalization] > [UI Agent オプション] タブで [ユーザーがアクションのリセットを許可] を有効にする必要があります。詳細については、[UI Agent オプション](#)を参照してください。

- アプリケーションを管理します。[アプリケーションの管理] ツールを開いて、アプリケーションを管理できます。

このオプションを使用するには、[** 管理コンソール] > [詳細設定] > [UI Agent Personalization] > [UI Agent オプション] タブで [ユーザーにアプリケーションの管理を許可 **] を有効にする必要があります。詳細については、[UI Agent オプションを参照してください](#)。

- プリンタの管理。[プリンタの管理] ツールを開いて、既定のプリンタを構成したり、印刷設定を変更したりできます。

このオプションを使用するには、[** 管理コンソール] > [詳細設定] > [UI エージェントの個人設定] > [UI エージェントオプション] タブで [プリンタの管理をユーザーに許可する **] を有効にする必要があります。詳細については、[UI Agent オプションを参照してください](#)。

- 更新。エージェントを更新し、ユーザーが割り当てたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。
- [ヘルプ]。ヘルプを求めることができる Web サイトを開くことができます。

このオプションを使用するには、[管理コンソール] > [詳細設定] > [UI Agent の個人設定] > [ヘルプデスクオプション] タブで [** ヘルプリンクアクション **] を指定する必要があります。詳細については、「[ヘルプデスクオプション](#)」を参照してください。

- について。エージェントのバージョンに関する情報を表示します。
- [終了]。エージェントを閉じることができます。

アクションをリセットしてアプリケーションとプリンタを管理するには、エージェントを UI モードで使用しなくても、次のツール (エージェントのインストールフォルダにあります) を直接使用できます。

- **ResetActionsUtil.exe**。[アクションのリセット] ツールを開くことができます。
- **AppsMgmtUtil.exe**。[アプリケーションの管理] ツールを開くことができます。
- **PrnsMgmtUtil.exe**。[プリンタの管理] ツールを開くことができます。

CMD モードと UI モードの主な違いは次のとおりです。

- CMD エージェントは設定を適用して終了します。特定の時点 (ログオンや再接続など) で CMD エージェントを起動するように WEM エージェントサービス (Citrix WEM エージェントホストサービスまたは Citrix WEM ユーザーログオンサービス) を構成できます。必要に応じて、管理者は CMD エージェントを手動で呼び出すことができます。
- UI エージェントは実行され続けます。Citrix WEM エージェントホストサービスは UI エージェントを開始または停止します。UI エージェントは、エンドユーザーにセルフサービスオプションを提供します。管理者は UI エージェントを手動で起動しないことをお勧めします。

注:

CMD エージェントと UI エージェントを 1 つのセッションで同時に実行することはできません。

共通の【コントロールパネル】アプレット

July 31, 2020

Windows では、次のコントロールパネルアプレットが一般的です。

アプレット名	正規名
アクションセンター	Microsoft.ActionCenter
管理ツール	Microsoft.AdministrativeTools
自動再生	Microsoft.AutoPlay
生体認証デバイス	Microsoft.BiometricDevices
BitLocker ドライブ暗号化	Microsoft.BitLockerDriveEncryption
カラーマネジメント	Microsoft.ColorManagement
資格情報マネージャー	Microsoft.CredentialManager
日時	Microsoft.DateAndTime
既定のプログラム	Microsoft.DefaultPrograms
Device Manager	Microsoft.DeviceManager
デバイスとプリンタ	Microsoft.DevicesAndPrinters
表示	Microsoft.Display
簡単操作センター	Microsoft.EaseOfAccessCenter
家族の安全性	Microsoft.ParentalControls
ファイル履歴	Microsoft.FileHistory
フォルダオプション	Microsoft.FolderOptions
フォント	Microsoft.Fonts
ホームグループ	Microsoft.HomeGroup
インデックス作成オプション	Microsoft.IndexingOptions
赤外線	Microsoft.Infrared
インターネット オプション	Microsoft.InternetOptions
iSCSI イニシエータ	Microsoft.iSCSIInitiator
iSNS サーバ	Microsoft.iSNSServer

キーボード	Microsoft.Keyboard
言語	Microsoft.Language
ロケーション設定	Microsoft.LocationSettings
マウス	Microsoft.Mouse
MPIO コンフィギュレーション	Microsoft.MPIOConfiguration
ネットワークと共有センター	Microsoft.NetworkAndSharingCenter
通知領域のアイコン	Microsoft.NotificationAreaIcons
ペンとタッチ	Microsoft.PenAndTouch
個人設定	Microsoft.Personalization
電話とモデム	Microsoft.PhoneAndModem
電源オプション	Microsoft.PowerOptions
プログラムと機能	Microsoft.ProgramsAndFeatures
復旧	Microsoft.Recovery
リージョン	Microsoft.RegionAndLanguage
RemoteApp とデスクトップ接続	Microsoft.RemoteAppAndDesktopConnections
サウンド	Microsoft.Sound
音声認識	Microsoft.SpeechRecognition
記憶域	Microsoft.StorageSpaces
同期センター	Microsoft.SyncCenter
システム	Microsoft.System
タブレット PC の設定	Microsoft.TabletPCSettings
タスクバーとナビゲーション	Microsoft.Taskbar
トラブルシューティング	Microsoft.Troubleshooting
TSAppInstall	Microsoft.TSAppInstall
ユーザーアカウント	Microsoft.UserAccounts
Windows のいつでもアップグレード	Microsoft.WindowsAnytimeUpgrade
Windows Defender	Microsoft.WindowsDefender
Windows ファイアウォール	Microsoft.WindowsFirewall
Windows モビリティセンター	Microsoft.MobilityCenter

Windows To Go	Microsoft.PortableWorkspaceCreator
Windows Update	Microsoft.WindowsUpdate
ワークフォルダ	Microsoft.WorkFolders

動的トークン

October 26, 2023

動的トークンは、Workspace Environment Management の任意のアクションで使用して、より強力にすることができます。

動的トークンは次のフィールドで使用できます。

- グループポリシー設定
 - [アクション] が [値を削除] に設定されている場合: 値
 - [アクション] を [値を設定]、[タイプ] を **REG_SZ** に設定した場合: 値、データ
 - [アクション] を [値を設定]、[タイプ] を **REG_EXPAND_SZ** に設定した場合: 値、データ
 - [アクション] を [値を設定]、[タイプ] を **REG_MULTI_SZ** に設定した場合: 値、データ

注記:

グループポリシー設定には、マシン設定とユーザー設定の 2 種類があります。マシン設定では、一部の動的トークンはサポートされていません。「グループポリシー設定の動的トークンサポート」を参照してください。

グループポリシー設定の動的トークンサポート

グループポリシー設定で動的トークンを使用すると、さまざまな環境でより適応性の高いポリシー構成が可能になり、手動構成が減り、ポリシー管理が簡素化されます。

グループポリシー設定には、次の 2 種類があります。

- マシン設定。これらの設定は、ログオンするユーザーに関係なく、マシンにのみ適用されます。
- ユーザー設定。これらの設定は、ログオンするマシンに関係なく、ユーザーにのみ適用されます。

グループポリシー設定では、すべての動的トークンがサポートされます。次のものはマシン設定ではサポートされていません。

- ハッシュタグ

- ##FullUserName##
- ##UserInitials##
- ##ClientName##
- ##ClientIPAddress##
- ##UserLDAPPath##
- ##ClientRemoteOS##

- 広告属性
 - [広告属性: 属性名]
 - [ユーザーの親ユーザー: レベル]

- HKCU におけるレジストリ

アプリケーション

- アプリケーションタイプとしてインストールアプリケーションを使用する場合: コマンドライン、作業ディレクトリ、およびパラメータ
- [ファイル/フォルダ] をアプリケーションタイプとして: ターゲット
- アプリケーションタイプに **URL** を指定した場合: ショートカット **URL**
- アイコンファイル

プリンター

- ターゲットパス

ネットワークドライブ

- ****** ターゲットパスと表示名 ******

仮想ドライブ

- ターゲットパス

レジストリー

- ターゲットパス、ターゲット名、ターゲット値

注記:

ターゲット値フィールドは環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに動作しません。

環境変数

- 変数値

ポート

- ポートターゲット

INI ファイル

- ターゲットパス、ターゲットセクション、ターゲット値名、ターゲット値

注記:

ターゲットセクション、ターゲット値名、ターゲット値フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに動作しません。

外部タスク

- ** パスと引数 **

ファイルシステムの操作

- ** ソースパスとターゲットパス **

特定のフィルター条件

- 例: 条件タイプとして **Active Directory** 属性の一致 * を使用する場合: ** テスト済みの **Active Directory** ** 属性と一致結果 **

注記:

フィルター条件でサポートされるフィールドの一覧については、「フィルター条件のサポートマトリックス」を参照してください。

文字列演算

場合によっては、ドライブのマッピングやアプリケーションを起動するために、スクリプト内の文字列を操作する必要があります。Workspace Environment Management エージェントは、次の文字列操作を受け付けます。

モーダル	説明	例
#Left(string,length)#	左側の指定された文字数を返します。	#Left(abcdef,2)#はabを返す
#Right(string,length)#	右側の指定された文字数を返します。	#Right(abcdef,2)#はefを返す
#Truncate(string,length)#	文字列の長さが指定された長さ以下の場合、文字列全体を返します。文字列の長さが指定された長さより大きい場合は、左側の指定された文字数を返します。	#Truncate(abcdef,3)#はabcを返す
&Trim(string)&	文字列の先頭と末尾の空白をすべて削除します。	&Trim(abc)&はabcを返す
&RemoveSpaces(string)&	文字列の空白をすべて削除します。	&RemoveSpaces(abc)&はabcを返す
&Expand(string)&	文字列に% で囲まれた環境変数が含まれている場合は、変数を展開します。	&Expand(%userprofile%\desktop)&はC:\Users\Jill\desktopを返す
\$Split(文字列、スプリッター]、インデックス)\$	[] で囲まれたスプリッターに基づいて文字列を部分文字列に分割し、インデックス付きの部分文字列を返します。	\$Split(abc-def-hij,[-],2)\$はhijを返す
#Mid(string,startindex)#	文字列内の指定されたインデックスから開始し、その後続くすべての文字を返します。	#Mid(abcdef,2)#はcdefを返す
!Mid(string,startindex,length)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された文字数を返します。	!Mid(abcdef,1,2)!はbcを返す
!サブストリング(文字列、開始インデックス、長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された文字数を返します。	!Substring(abcdef,1,2)!はbcを返す
#Mod(string,length)#	文字列を長さで割り、余りを返します。文字列は整数に変換できなければなりません。	#Mod(7,3)#は1を返す

注記:

- 文字列操作は、ハッシュタグと Active Directory 属性でもサポートされています。たとえば、`#Left([ADAttribute:NAME],2)` は現在のドメインユーザーの名前属性 Administrator は Ad を返し、`$Split(##ClientIPAddress##,[\.] ,2)` は 157 を返します。
- `!Mid(string,startindex,length)!` および `!Substring(string,startindex,length)!` 操作は常に最後に実行されます。

ハッシュタグ

ハッシュタグは、Workspace Environment Management 項目の処理で広く使用されている置換機能です。次の例は、ハッシュタグの使用方法を示しています。

.ini ファイルに書き込むには、**.ini**** ファイルのパスで **%USERNAME%** を使用すると、Workspace Environment Management によって処理され、最終ディレクトリが展開されます。ただし、**Workspace Environment Management **** が **.ini** 自体に書き込む値の評価は、より複雑です。**%USERName%** を文字通り書き込んだり、拡張された値を書き込んだりすることができます。

柔軟性を高めるために、**##UserName##** はハッシュタグとして存在するため、値として **%USERName%** を使用して文字通り書き込み、**##UserName##** は展開された値を書き込みます。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
#UserName	展開された環境変数 「%username%」を返します	ジル
#UserProfile	展開された環境変数 「%userprofile%」を返します	C:\Users\Jill
##FullUserName##	Active Directory 内のユーザーのフルネームを返します	ジル・チョウ
##UserInitials##	Active Directory のユーザー名のイニシャルを返します	JC
#UserAppData	特別フォルダーの実際のパスを返します-RoamingAppData	C:\Users\Jill\AppData\Roaming
#UserPersonal	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ドキュメント	C:\Users\Jill\Documents
#UserDocuments	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ドキュメント	C:\Users\Jill\Documents

モーダル	説明	例
#UserDesktop	特殊フォルダーの実際のパスを返す-デスクトップ	C:\Users\Jill\Desktop
#UserFavorites	特殊フォルダーの実際のパスを返す-お気に入り	C:\Users\Jill\Favorites
#UserTemplates	特殊フォルダーの実際のパスを返す-テンプレート	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\W
#UserStartMenu	特殊フォルダーの実際のパスを返す-StartMenu	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\W メニュー
#UserStartMenuPrograms	特殊フォルダーの実際のパスを返す-プログラム	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\W メニュー\プログラム
#UserLocalAppData	スペシャルフォルダーの実際のパスを返します-LocalAppData	C:\Users\Jill\AppData\Local
#UserMusic	スペシャルフォルダーの実際のパスを返す-Music	C:\Users\Jill\Music
#UserPictures	特殊フォルダーの実際のパスを返す-写真	C:\Users\Jill\Pictures
#UserVideos	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ビデオ	C:\Users\Jill\Videos
#UserDownloads	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ダウンロード	C:\Users\Jill\Downloads
#UserLinks	特殊フォルダーの実際のパスを返す-リンク	C:\Users\Jill\Links
#UserContacts	特殊フォルダーの実際のパスを返す-連絡先	C:\Users\Jill\Contacts
#UserSearches	特殊フォルダーの実際のパスを返す-SavedSearches	C:\Users\Jill\Searches
#commonprograms	特殊フォルダーの実際のパスを返す-CommonPrograms	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start メニュー\プログラム
#ComputerName	マシンの名前を返します	WIN10EN-LR3B66L
##ClientName##	クライアントマシンの名前を返す	W2K16ST-5IS28JP

モーダル	説明	例
##ClientIPAddress##	クライアントマシンの IP アドレスを返す	10.150.153.138
#IpAddress	マシンの IP アドレスを返す	10.150.153.213
#ADSite	マシンがメンバーになっている Active Directory サイトを返します。	NKG
#DefaultRegValue	-	常に文字列。空
##UserLDAPPath##	現在のユーザーの識別名を返します	CN= ジル・チョウ、OU= ユーザーアカウント、OU= アジア太平洋地域、DC= シトリット、DC= ネット
#VUEMAgentFolder	エージェントフォルダを返します	C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management エージェント
#RDSSESSIONID	リモートデスクトップセッション ID を返します	2
#RDSSESSIONNAME	リモートデスクトップセッション名を返します	RDP-Tcp#72
##ClientRemoteOS##	仮想デスクトップへの接続に使用されたマシンのオペレーティングシステムを返します	Windows
#ClientOSInfos	マシンの OS 情報を返す	Windows 10 Enterprise 64 ビット

ハッシュタグ **##UserScreenCaptureComment##** は、製品の特定の部分で使用するために実装されています。このタグは、[詳細設定] > [**UI エージェントのパーソナライズ**] > [ヘルプデスクオプション] の [メールテンプレート] に含めることができます。このコメントを含めると、エージェント画面キャプチャユーティリティの画面キャプチャの下にあるコメントフィールドがユーザーに表示されます。コメントは、電子メールテンプレートにタグを配置した場所のサポート電子メールに含まれます。

Active Directory 属性

Active Directory 属性を操作するために、WEM は **[ADAttribute: attrName]** 値に関連する Active Directory 属性に置き換えます。[adAttribute: attrName] は、すべての Active Directory 属性の動的トークンです。指定された属性の値をチェックする関連フィルタがあります。

ユーザーの組織単位 (OU) 構造の場合、WEM は **[userParentOU: Level]** 値を関連する Active Directory の OU 名に置き換えます。Active Directory パスは Active Directory 内の完全なユーザーパス (LDAP) であり、**[userParentOU: level]** はそのサブセットです。

たとえば、ユーザーが属する OU のネットワークドライブを構築するとします。ネットワークドライブパスにある動的トークン **[userParentOU: Level]** を使用すると、ユーザーの OU を動的に解決できます。動的トークンを使用するには、次の 2 つの方法があります。

- **[UserParentOU: Level]** 動的トークンをネットワークドライブパスで直接使用します。たとえば、次のパスを使用できます: `\\Server\Share\[UserParentOU:0]\`。
- OU という名前の環境変数を設定し、その値を **[userParentOU: 0]** に設定します。その後、ドライブを `\\Server\Share\%0U%` としてマッピングできます。

注記:

- 数字の「0」を、OU 構造で到達させたいレベルに対応する数字に置き換えることができます。
- パスに変数を追加できます。これを行うには、OU レイアウトに一致するフォルダ構造が正確であることを確認します。

また、Active Directory 属性を使用してフィルタ処理を行うこともできます。**[管理] > [フィルタ] > [条件] > [フィルタ条件リスト]** タブで、**[追加]** をクリックした後、**[新しいフィルタ条件]** ウィンドウを開くことができます。**[新しいフィルタ条件]** ウィンドウには、Active Directory 属性に関連付けられた次の 4 つのフィルタ条件タイプが表示されます。

- Active Directory 属性の一致
- Active Directory グループの一致
- Active Directory パスの一致
- Active Directory サイトの一致

Active Directory 属性の一致の場合、ダイナミックトークンは **[ADAttribute: attrName]** です。

Active Directory グループ一致に使用できる動的トークンはありません。これは、条件の種類がグループメンバシップの確認に使用されるためです。

Active Directory パス一致の場合、完全な LDAP パスの動的トークンは **##UserLDAPPath##** です。

Active Directory サイト一致の場合、動的トークンは **##ADSite##** です。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
[広告属性: 属性名]	ドメインユーザーの指定された属性を返します	[ADAttribute:name] は Administrator を返す
[プリンタ属性: プリンタ名 属性名]	指定されたドメインプリンターの指定された属性を返します	[プリンタ属性: プリンタ 1 名前] は プリンタ 1 を返します

モーダル	説明	例
[ユーザーの親ユーザー: レベル]	現在のユーザーの親 OU の指定されたレベルを返します	CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=netの [UserParentOU:1] はAPACを返す

レジストリー

レジストリを操作するには、WEM は [RegistryValue:<Registry path>] 値を関連するレジストリ値に置き換えます。たとえば、次の値を指定できます。

- [レジストリ値:HKEY_LOCAL_MACHINE\ SYSTEM\ CurrentControlSet\ 制御\ Norskale\ エージェントホスト\ AgentLocation]

XML ファイル

XML ファイルを操作するために、WEM は XML ファイル内の特定のタグ値で [GetXmlValue:<XML path> | <tag name>] 値を置き換えます。XML パスには、実際のパスまたはパスに解決される環境変数を指定できます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- [getXMLValue: C:\citrix\test.xml | 要約] または
- [getXMLValue: %xmlpath% | 概要]

INI ファイル

.ini ファイルを操作するには、WEM は [GetIniValue:<INI path> | <section name in the . ini file> | <key name in the .ini.file>] をキー値に置き換えます。INI パスには、実際のパスまたはパスに解決される環境変数を指定できます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- [GetIniValue:C:\citrix\test.ini|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0|LicExpTime] または
- [GetIniValue:%inipath%|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0|LicExpTime]

追加情報

フィルター条件のサポートマトリックス

次の表は、テスト値またはマッチング結果が動的トークンをサポートするすべての条件タイプを示しています。

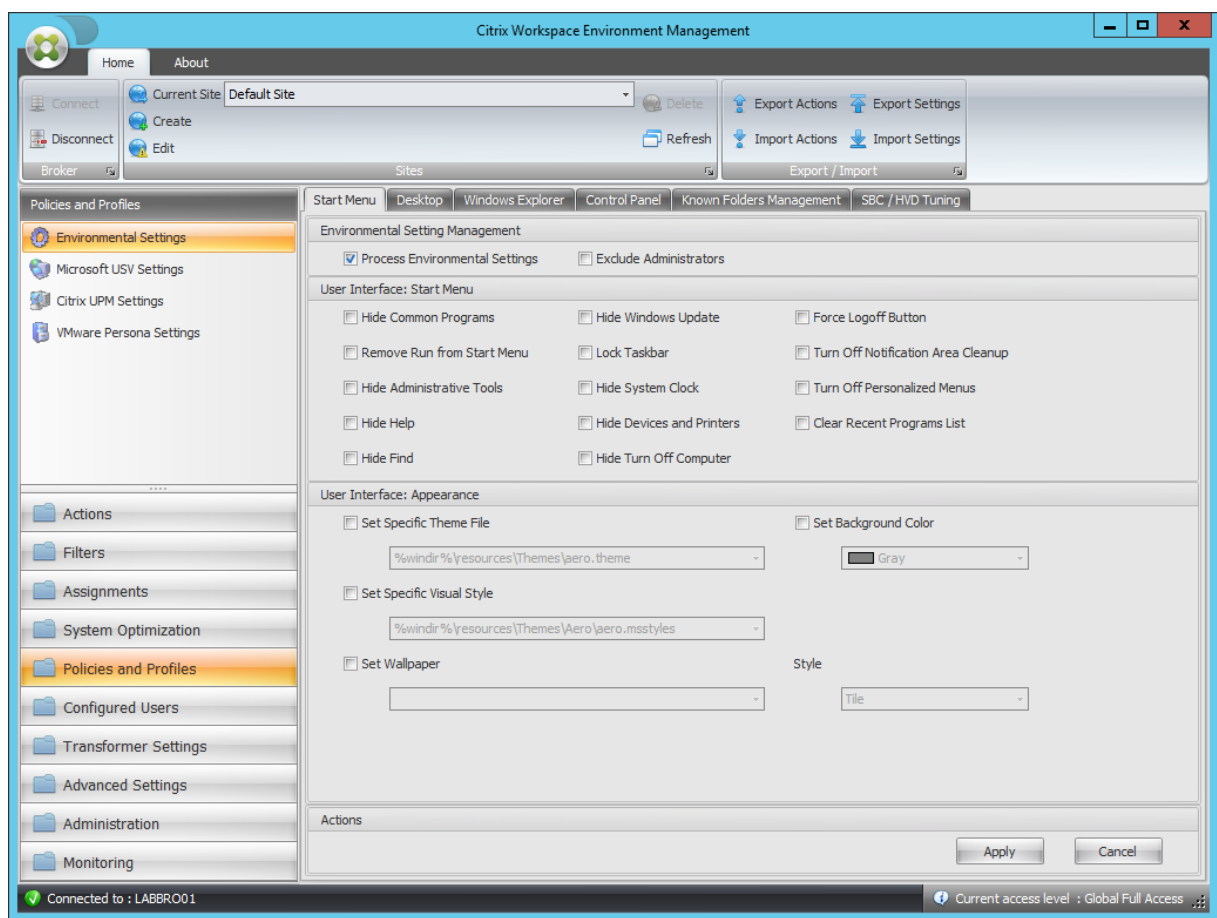
コンディションタイプ	テスト値	マッチング結果
コンピュータ名の一致	-	はい
クライアント名の一致	-	はい
環境変数の一致	いいえ	はい
レジストリ値の一致	はい	はい
WMI クエリ結果マッチ	-	はい
XenApp ファームの名前マッチ	-	はい
XenApp ゾーン名マッチ	-	はい
XenDesktop ファーム名マッチ	-	はい
XenDesktop デスクトップのグループ名マッチ	-	はい
Active Directory 属性の一致	はい	はい
名前または値がリスト内にある	はい	はい
一致するコンピュータ名がありません	-	はい
クライアント名が一致しません	-	はい
環境変数の一致なし	いいえ	はい
一致するレジストリ値がありません	はい	はい
WMI クエリ結果の一致がありません	-	はい
XenApp ファーム名が一致しない	-	はい
XenApp のゾーン名が一致しない	-	はい
XenDesktop ファーム名が一致しない	-	はい
XenDesktop デスクトップのグループ名が一致しない	-	はい
Active Directory 属性が一致しない	はい	はい
名前または値がリストにありません	はい	はい
動的値の一致	はい	はい
動的値の一致なし	はい	はい
ファイルのバージョン一致	はい	はい
一致するファイルバージョンがありません	はい	はい

コンディションタイプ	テスト値	マッチング結果
発行されたリソース名	-	はい
名前がリスト内にある	はい	はい
名前がリストにありません	はい	はい
ファイル/フォルダが存在します	-	はい
ファイル/フォルダが存在しません	-	はい

環境設定のレジストリ値

August 12, 2020

この資料では、Workspace Environment Management 設定に関連するレジストリ値について説明します。



一般的なプログラムを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoCommonGroups
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

[スタート] メニューから実行を削除

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoRun
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

管理ツールを非表示

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\エクスプローラ\詳細設定
値名	Start_AdminToolsRoot
値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ヘルプを非表示

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoSMHelp
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

検索を非表示

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoFind
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

Windows の更新プログラムを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoWindowsUpdate
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

タスクバーのロック

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	LockTaskbar
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

システムクロックを隠す

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	HideClock
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

デバイスとプリンタを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\エクスプローラ\詳細設定
値名	Start_ShowPrinters
値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

[コンピュータの電源をオフにする] を非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoClose
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

[強制ログオフ] ボタン

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	ForceStartMenuLogoff
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

通知領域のクリーンアップをオフにする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoAutoTrayNotify
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

パーソナライズされたメニューをオフにする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	Intellimenus
値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

最近使用したプログラムの一覧をクリア

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	ClearRecentProgForNewUserInStartMenu
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

特定のテーマファイルを設定

親キー	HKCU\ソフトウェア\ポリシー\マイクロソフト\Windows\パーソナライゼーション
値名	ThemeFile
値の種類	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値がありません
処理中	ログオン時のサービス

背景色の設定

親キー	HKCU\コントロールパネル\カラー
-----	--------------------

背景色の設定

値名	Background
値の種類	REG_SZ
有効な値	設定カラー (RGB)
無効な値	値が存在しません。以前に設定された値の場合、0000
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

特定の表示スタイルを設定

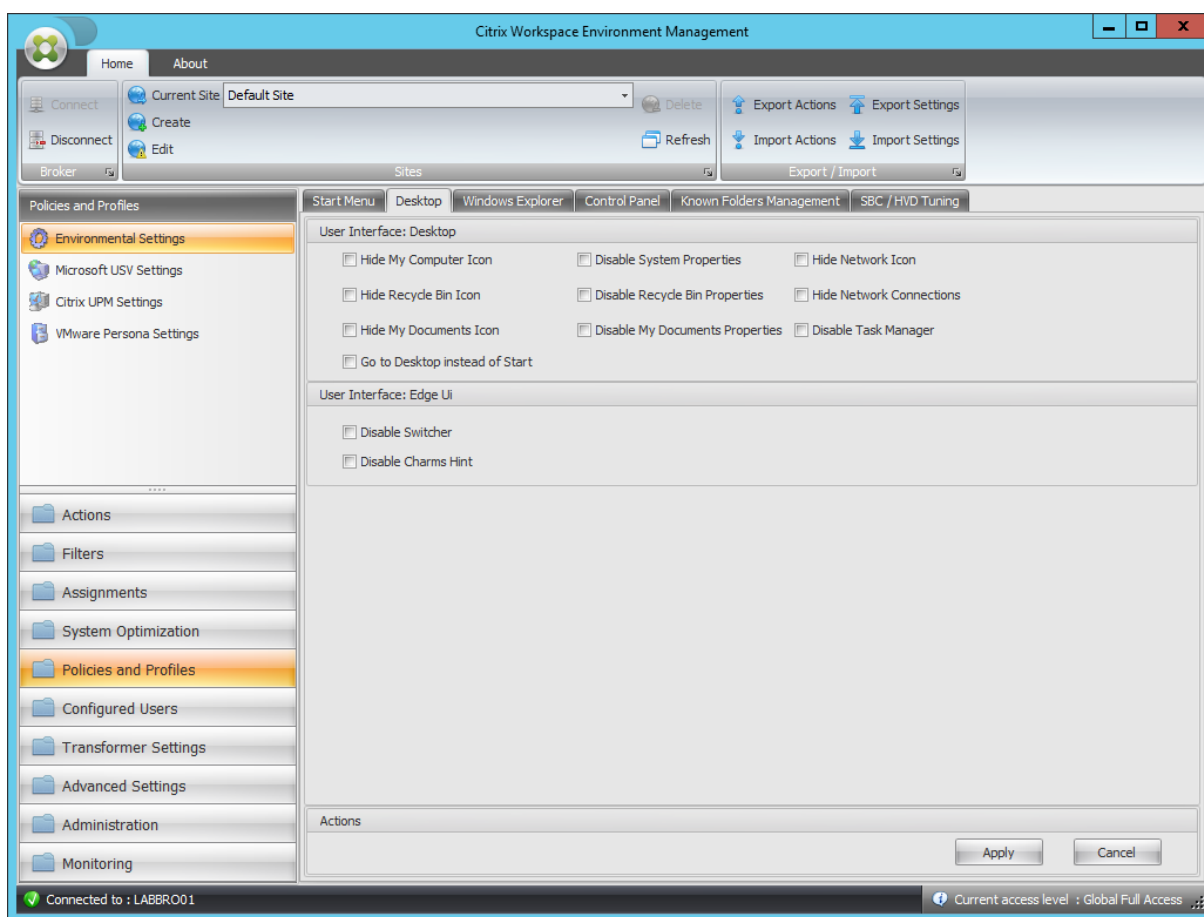
親キー	HKCU\ソフトウェア\ポリシー\マイクロソフト\Windows\パーソナライゼーション
値名	SetVisualStyle
値の種類	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値がありません
処理中	ログオン時のサービス

壁紙を設定

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\システム
値名	Wallpaper
値の種類	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値がありません
処理中	ログオン時のサービス
親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\システム
値名	WallpaperStyle
値の種類	REG_SZ
有効な値	スタイルの値に依存
無効な値	値がありません

壁紙を設定

処理中	ログオン時のサービス
親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\システム
値名	TileWallpaper
値の種類	REG_SZ
有効な値	スタイルの値に依存
無効な値	値がありません
処理中	ログオン時のサービス



[マイコンピュータ] アイコンを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\nNenum
-----	--

[マイコンピュータ] アイコンを非表示にする

値名	{20D04FE0-3AEA-1069-A2D8-08002B30309D}
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

ごみ箱アイコンを非表示にする

親キー	HKCU\ ソフトウェア\ マイクロソフト\ Windows\ 現在のバージョン\ ポリシー\ nNenum
値名	{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

[マイドキュメントの非表示] アイコン

親キー	HKCU\ ソフトウェア\ マイクロソフト\ Windows\ 現在のバージョン\ ポリシー\ nNenum
値名	{450D8FBA-AD25-11D0-98A8-0800361B1103}
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

[スタート] ボタンではなく [デスクトップ] ボタンに移動

親キー	HKCU\ ソフトウェア\ マイクロソフト\ Windows\ 現在のバージョン\ エクスプローラ\ スタートページ
値名	OpenAtLogon

[スタート] ボタンではなく [デスクトップ] ボタンに移動

値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

システムのプロパティを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoPropertiesMyComputer
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ごみ箱のプロパティを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoPropertiesRecycleBin
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

マイドキュメントのプロパティを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoPropertiesMyDocuments
値の種類	DWORD

マイドキュメントのプロパティを無効にする

有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ネットワークアイコンを非表示

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\nNenum
値名	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

ネットワーク接続を隠す

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoNetworkConnections
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

タスクマネージャを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\システム
値名	DisableTaskMgr
値の種類	DWORD
有効な値	1

タスクマネージャを無効にする

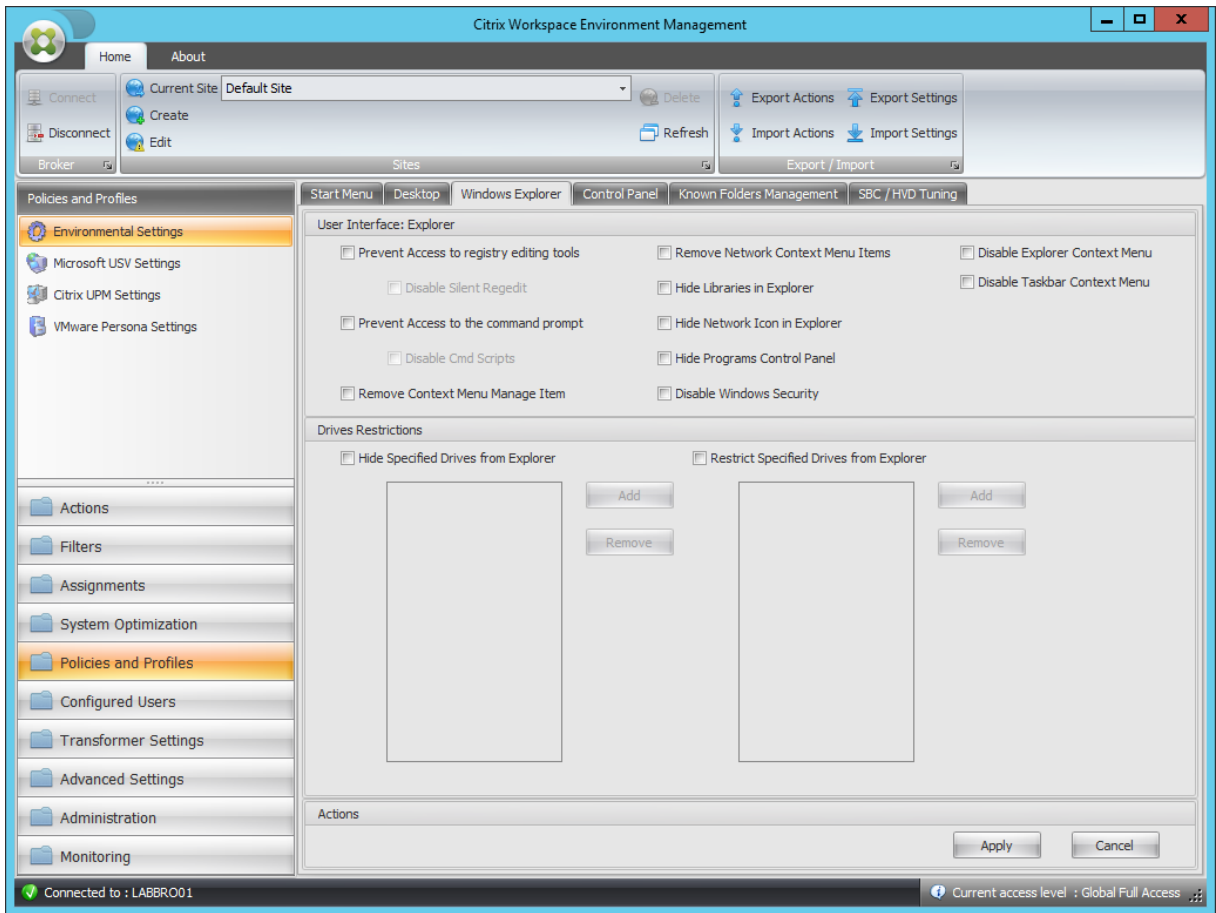
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

スイッチャーを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImersiveShell\EdgeUI
値名	DisableTLcorner
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

チャームヒントを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImersiveShell\EdgeUI
値名	DisableCharmsHint
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス



レジストリ編集ツールへのアクセスを禁止する

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\システム
値名	DisableRegistryTools
値の種類	DWORD
有効な値	サイレント正規表現を無効にする 2:1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

コマンドプロンプトへのアクセスを禁止する

親キー	HKCU\ソフトウェア\ポリシー\システム
値名	DisableCMD
値の種類	DWORD

コマンドプロンプトへのアクセスを禁止する

有効な値	サイレント Cmd スクリプトを無効にする 2:1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

コンテキストメニュー [アイテムの管理]

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoManageMyComputerVerb
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ネットワークコンテキストメニュー項目の削除

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoNetworkConnections
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

エクスプローラでライブラリを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\nNenum
値名	{031E4825-7B94-4dc3-B131-E946B44C8DD5}
値の種類	DWORD
有効な値	1

エクスプローラでライブラリを非表示にする

無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

エクスプローラでネットワークアイコンを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\nNenum
値名	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

[プログラム] コントロールパネルを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\プログラム
値名	NoProgramsCPL
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

Windows セキュリティを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoNtSecurity
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

Windows セキュリティを無効にする

処理中 エージェントによって呼び出されたサービス

エクスプローラのコンテキストメニューを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoViewContextMenu
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする

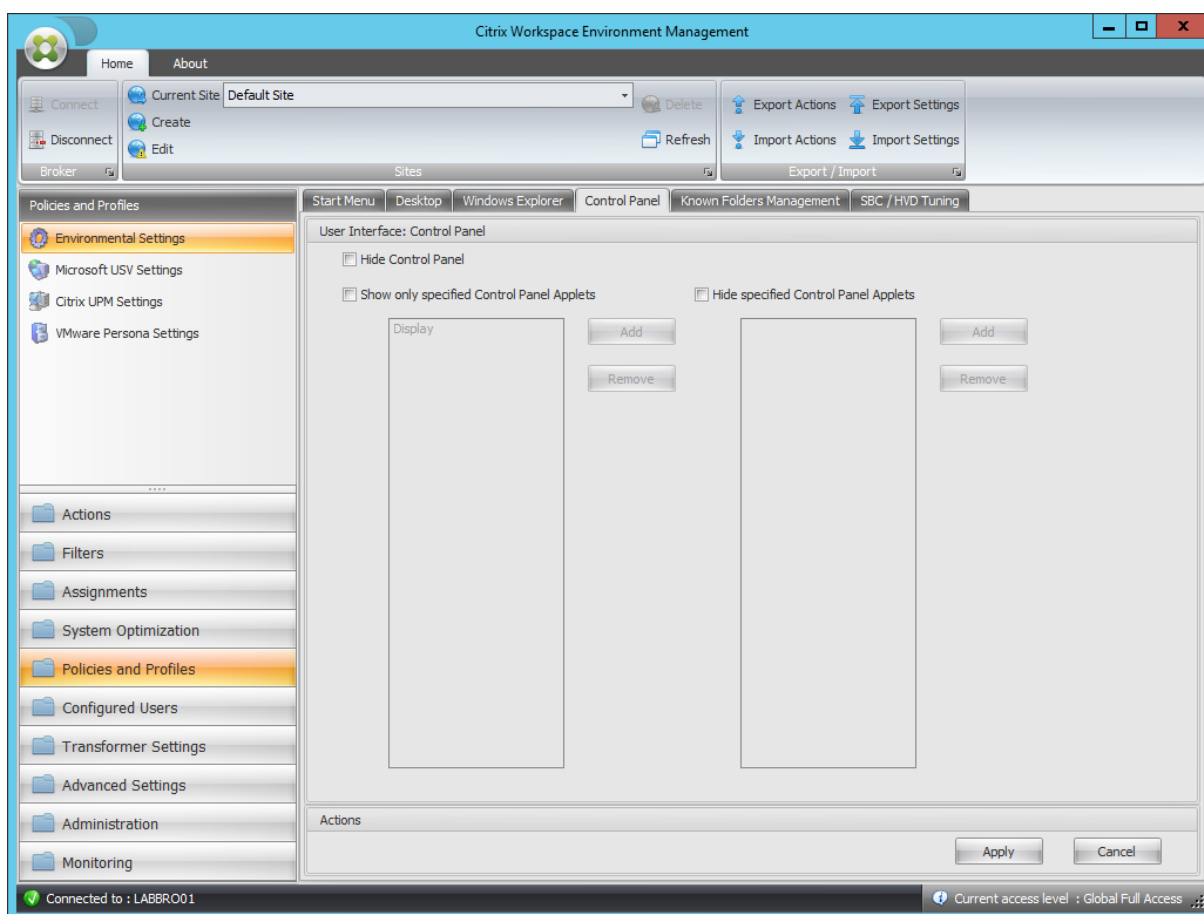
親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoTrayContextMenu
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

指定したドライブをエクスプローラから非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoDrives
値の種類	DWORD
有効な値	値は選択したドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理中	ログオン時のサービス

エクスプローラから指定したドライブを制限する

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoViewOnDrive
値の種類	DWORD
有効な値	値は選択したドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理中	ログオン時のサービス



コントロールパネルを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoControlPanel

コントロールパネルを非表示にする

値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

指定したコントロールパネルアプレットのみを表示

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	RestrictCpl
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

許可された各アプレットについて

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ\RestrictCPL
値名	アプレットインデックス (1 から始まり、自動的にインクリメント)
値の種類	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	ヌル/削除
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

指定したコントロールパネルアプレットを非表示にする

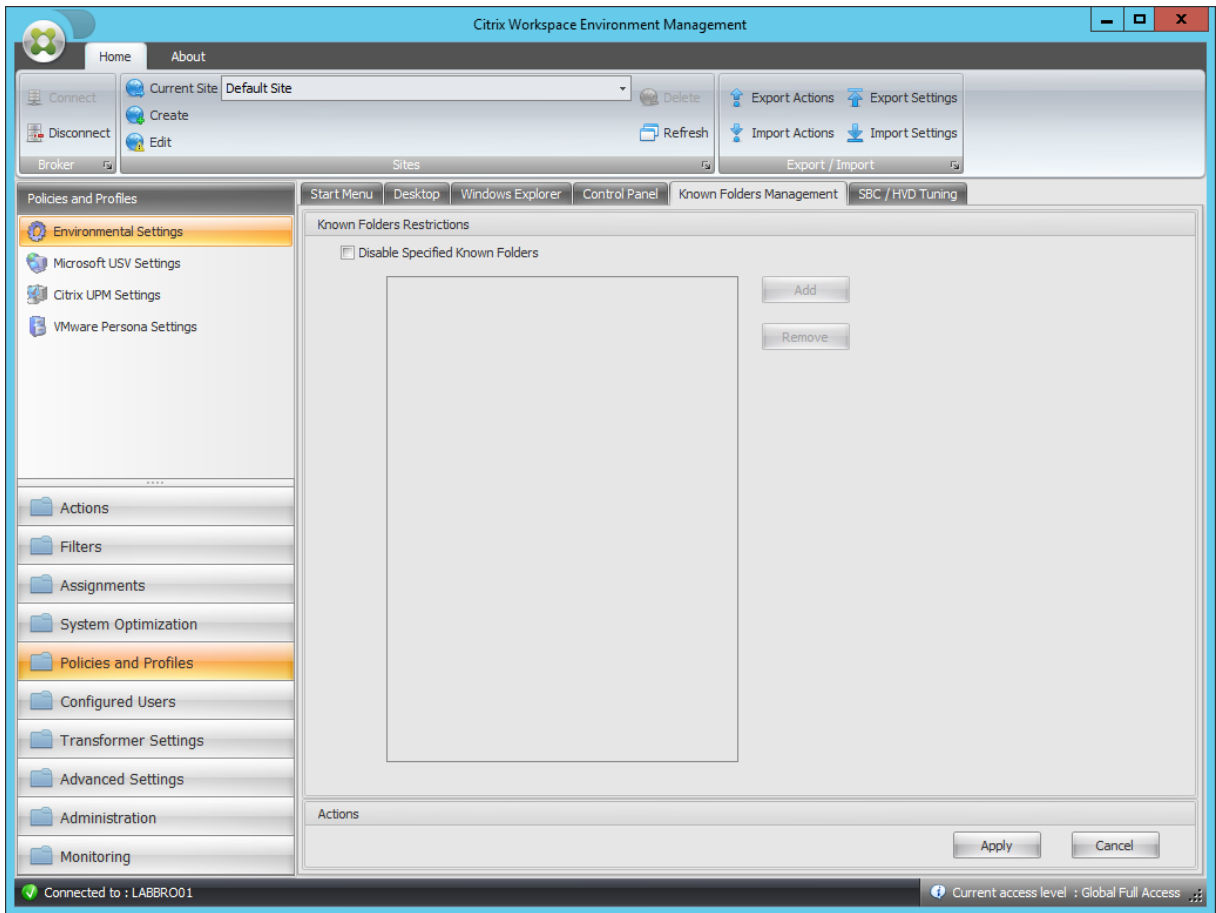
親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	DisallowCpl

指定したコントロールパネルアプレットを非表示にする

値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

許可されていない各アプレットについて

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ\DisallowCpl
値名	アプレットインデックス (1 から始まり、自動的にインクリメント)
値の種類	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	ヌル/削除
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス



指定した既知のフォルダを無効にする

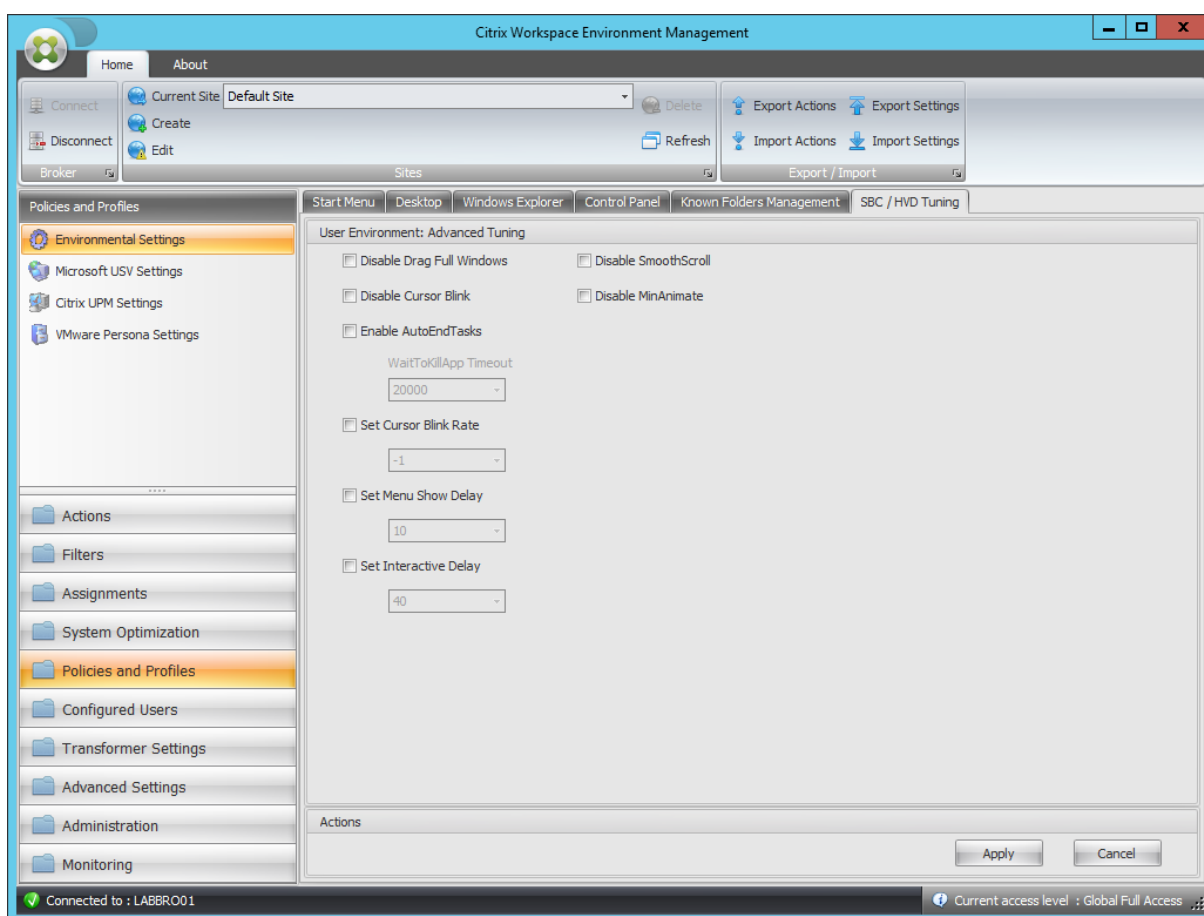
親キー	HKCU\ソフトウェア\ポリシー\マイクロソフト\Windows\エクスプローラ
値名	DisableKnownFolders
値の種類	DWORD
有効な値	値は選択したドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理中	ログオン時のサービス

無効化された各フォルダについて

親キー	HKCU\ソフトウェア\ポリシー\マイクロソフト\Windows\エクスプローラ\無効既知のフォルダ
値名	無効なフォルダ名

無効化された各フォルダについて

値の種類	REG_SZ
有効な値	無効なフォルダ名
無効な値	ヌル/削除
処理中	ログオン時のサービス



ウィンドウ全体のドラッグを無効にする

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	DragFullWindows
値の種類	REG_SZ
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

ウィンドウ全体のドラッグを無効にする

カーソルの点滅を無効にする

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	DisableCursorBlink
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

自動終了タスクを有効にする

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	AutoEndTasks
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

WaitToKillApp Timeout

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	WaitToKillAppTimeout
値の種類	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	20000 (10 進数)
処理中	ログオン時のサービス

カーソルの点滅率を設定

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	CursorBlinkRate
値の種類	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	500 (10 進数)
処理中	ログオン時のサービス

[設定] メニュー [表示遅延]

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	MenuShowDelay
値の種類	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	400 (10 進数)
処理中	ログオン時のサービス

インタラクティブ遅延の設定

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	InteractiveDelay
値の種類	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	ヌル/削除
処理中	ログオン時のサービス

スムーズスクロールを無効にする

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	SmoothScroll

スムーズスクロールを無効にする

値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

最小アニメーションを無効にする

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	MinAnimate
値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

フィルター条件

April 4, 2022

Workspace Environment Management には、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成するために使用する次のフィルタ条件が含まれています。管理コンソールでのこれらの条件の使用については、「[フィルタ](#)」を参照してください。

次のフィルタ条件を使用する場合は、次の 2 つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッション OS またはマルチセッション OS にインストールされている場合は、次の手順を実行します。
 - 「クライアント」とは、エージェントホストに接続しているクライアントデバイスを指します。
 - 「コンピュータ」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「client」を含む条件は適用されません。

条件名	Always True
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	-
予想される構文	-
戻り値	True.

条件名	コンピュータ名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。
予想される構文	シングルネームテスト: コンピュータ名複数のテスト (OR): Computername1; Computername2 ワイルドカード (倍数でも動作): ComputerName*
戻り値	現在のコンピュータ名がテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	クライアント名の一致
期待値のタイプ	-
期待値のタイプ	文字列。
予想される構文	単一名テスト: クライアント名複数のテスト (OR): クライアント名 1; クライアント名 2 ワイルドカード (複数でも動作): ClientName*
戻り値	現在のクライアント名がテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	IP アドレスの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	IP アドレス。
予想される構文	シングルネームテスト: IPaddress 複数のテスト (OR): ipaddress1; ipaddress2 ワイルドカード (倍数でも動作): IPaddress* 範囲 (倍数でも動作): ipaddress1-ipaddress2

条件名	IP アドレスの一致
戻り値	現在のコンピュータの IP アドレスがテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	クライアント IP アドレスの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	IP アドレス。
予想される構文	シングルネームテスト:clientipAddress 複数のテスト (OR): clientipAddress1; clientipAddress2 ワイルドカード (倍数でも動作): clientipAddress* 範囲 (倍数でも動作): ipaddress1-ipaddress2
戻り値	現在のクライアント IP アドレスがテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Active Directory サイトの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	テストする Active Directory サイトの正確な名前。
予想される構文	Active Directory サイト名。
戻り値	指定したサイトが現在のサイトと一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	スケジュール設定
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	曜日 (例: 月曜日)。
予想される構文	単一名テスト:DayOfWeek 複数のテスト (OR): DayOfWeek1; DayOfWeek2
戻り値	今日がテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	環境変数の一致
期待値のタイプ	文字列。テストされた変数の名前。
期待される結果タイプ	文字列。テストされた変数の期待値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	環境変数が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	レジストリ値の一致
期待値のタイプ	文字列。テストするレジストリ値の完全なパスと名前。 例: レジストリキー HKCU\ソフトウェア\Citrix\ TestValueName
期待される結果タイプ	文字列。テストされたレジストリエントリの期待値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	WMI クエリ結果の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。
予想される構文	有効な WMI クエリです。詳しくは、 https://docs.microsoft.com/en-us/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql を参照してください。
戻り値	クエリが成功し、結果がある場合は true、そうでない場合は false。

条件名	ユーザーの国一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。
予想される構文	2文字の ISO 言語名。
戻り値	ユーザーの ISO 言語名が指定された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	ユーザー UI 言語の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。2文字の ISO 言語名。例 FR
予想される構文	2文字の ISO 言語名。例 FR
戻り値	ユーザー UI の ISO 言語名が指定した値に一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	ユーザ SBC リソースタイプ
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	リストから選択します。
予想される構文	-
戻り値	ユーザーコンテキスト (公開デスクトップまたはアプリケーション) が選択した値と一致する場合は true、それ以外の場合は false。

条件名	OS プラットフォームのタイプ
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	マシンプラットフォームのタイプ (x64 または x86) が選択された値に一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	接続状態
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	接続状態 (オンラインまたはオフライン) が選択された値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	Citrix Virtual Apps のバージョンの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps バージョン例:6.5
予想される構文	-
戻り値	バージョンが選択した値に一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	Citrix Virtual Apps ファーム名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ファーム名 (バージョン 6.5 まで)。例: ファーム。
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Citrix Virtual Apps ゾーン名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ゾーン名 (バージョン 6.5 まで)。例: ゾーン
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Citrix Virtual Desktops ファーム名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Desktops ファーム名 (バージョン 5 まで)。例: ファーム。
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Desktops デスクトップグループの例: グループ
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Citrix Provisioning イメージモード
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在の Citrix Provisioning イメージモードが選択した値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	クライアント OS
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のクライアントオペレーティングシステムが選択した値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	Active Directory パスの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。テストされた Active Directory パスの名前。
予想される構文	単一名テスト: 厳密な LDAP パス一致ワイルドカードテスト: ou=users* 複数のエントリ: セミコロン (;) で区切ったエントリ
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Active Directory 属性の一致
期待値のタイプ	文字列。テストされた Active Directory 属性の名前。
期待される結果タイプ	文字列。テストされた Active Directory 属性の期待値。
予想される構文	単一値テスト: 値複数の値エントリ: セミコロン (;) で区切ったエントリを null でないかどうかをテスト?
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	名前または値がリスト内にある
期待値のタイプ	文字列。インテグリティリストマネージャユーティリティによって生成される XML リストのフルファイルパス。
期待される結果タイプ	文字列。リスト内で検索する名前/値の期待値。
予想される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前と値のペアに入力値が見つかった場合は True、それ以外の場合は false。

条件名	一致するコンピュータ名がありません
負の条件行動	ComputerName Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 ComputerName Match 」の条件を参照してください。

条件名	クライアント名が一致しません
負の条件行動	ClientName Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「クライアント名の一致」の条件を参照してください。

条件名	IP アドレスが一致しない
負の条件行動	IP アドレスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「条件 IP アドレス一致」を参照してください。

条件名	クライアント IP アドレスが一致しない
負の条件行動	クライアント IP アドレスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「クライアント IP アドレス一致」の条件を参照してください。

条件名	一致する Active Directory サイトがありません
負の条件行動	Active Directory サイトの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Active Directory サイトの一致」を参照してください。

条件名	環境変数の一致なし
負の条件行動	環境変数マッチを実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件環境変数の一致を参照してください。

条件名	一致するレジストリ値がありません
負の条件行動	レジストリ値の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「条件レジストリ値の一致」を参照してください。

条件名	WMI クエリ結果の一致がありません
負の条件行動	WMI クエリ結果 Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 WMI クエリ結果の一致を参照してください。

条件名	ユーザーの国が一致しません
負の条件行動	ユーザー国一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件ユーザーの国一致を参照してください。

条件名	ユーザー UI 言語が一致しません
負の条件行動	ユーザー UI 言語一致を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「ユーザー UI 言語マッチ」を参照してください。

条件名	Citrix Virtual Apps のバージョンが一致しません
負の条件行動	Citrix Virtual Apps のバージョンマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、 Citrix Virtual Apps バージョン一致の条件を参照してください。

条件名	Citrix Virtual Apps ファーム名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Apps ファーム名の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Citrix Virtual Apps ファーム名の一致」を参照してください。

条件名	Citrix Virtual Apps ゾーン名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Apps ゾーン名の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Citrix Virtual Apps ゾーン名の一致」を参照してください。

条件名	Citrix Virtual Desktops ファーム名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Desktops ファーム名の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Citrix Virtual Desktops ファームの名前の一致」を参照してください。

条件名	Citrix Virtual Desktops グループ名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ名の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、 Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ名の一致の条件を参照してください。

条件名	Active Directory パスが一致しません
負の条件行動	Active Directory パス一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Active Directory パス一致」の条件を参照してください。

条件名	Active Directory 属性が一致しない
負の条件行動	アクティブ属性パスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件アクティブ属性パス一致を参照してください。

条件名	名前または値がリストにありません
負の条件行動	名前または値がリストにあり、逆の結果を返します（偽の場合は true、真の場合は false）。詳細については、条件の名前または値がリストにあるを参照してください。

条件名	クライアントのリモート OS の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のリモートクライアントオペレーティングシステムが選択した値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	クライアントのリモート OS の一致なし
負の条件行動	クライアントリモート OS のマッチを実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、「クライアントリモート OS の一致」の条件を参照してください。

条件名	動的値の一致
期待値のタイプ	文字列。環境変数または動的トークンを使用する任意の動的式。
期待される結果タイプ	文字列。テストされた式の期待値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	動的式の結果値が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	動的値の一致なし
負の条件行動	動的値の一致を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件の動的値一致を参照してください。

条件名	トランスモード状態
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のトランスフォーマーの状態が選択値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	クライアント OS の一致なし
負の条件行動	クライアント OS のマッチを実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「クライアント OS マッチ」を参照してください。

条件名	Active Directory グループの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。
予想される構文	シングルネームテスト: グループ NetBIOS 名 (ドメイン\グループ名) 複数のテスト (OR): グループ名 1; グループ名 2
戻り値	現在のユーザーグループのいずれかがテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Active Directory グループの一致がありません
負の条件行動	Active Directory グループマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Active Directory グループの一致」の条件を参照してください。

条件名	ファイルのバージョン一致
期待値のタイプ	文字列。テストするファイルのフルパスと名前。

条件名	ファイルのバージョン一致
期待される結果タイプ	文字列。テストされたファイルの期待されるファイルのバージョン値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	一致するファイルバージョンがありません
負の条件行動	ファイルバージョンマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件ファイルバージョン一致を参照してください。

条件名	ネットワーク接続状態
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のネットワーク接続状態が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

重要:

公開リソース名をフィルタ条件タイプとして使用する前に、次の点に注意してください。公開リソースが公開アプリケーションの場合は、[一致結果] フィールドにアプリケーションのブラウザ名を入力します。公開リソースが公開デスクトップの場合は、[一致結果] フィールドにデスクトップの公開名を入力します。

条件名	発行されたリソース名
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。公開リソースの名前 (Citrix Virtual Apps/Citrix Virtual Desktops/RDS)。

条件名	発行されたリソース名
予想される構文	単一名テスト: 公開リソース名複数のテスト (OR): Name1; Name2 ワイルドカードテスト: 名前 *
戻り値	現在発行されているリソース名がテストされた値と一致する場合は true、それ以外の場合は false。

条件名	名前がリスト内にある
期待値のタイプ	文字列。インテグリティリストマネージャユーティリティによって生成される XML リストのフルファイルパス。
期待される結果タイプ	文字列。リスト内で検索する名前の期待値。
予想される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前と値のペアで名前が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	名前がリストにありません
負の条件行動	Runs Name はリストにあり、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件の名前がリストに載っているを参照してください。

条件名	ファイル/フォルダが存在します
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。
予想される構文	テストするファイル・システム・エントリー (ファイルまたはフォルダ) のフル・パス。
戻り値	指定されたファイル・システム・エントリーが存在する場合は true、存在しない場合は false。

条件名	ファイル/フォルダが存在しません
負の条件行動	ファイル/フォルダが存在し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「ファイル/フォルダが存在する」を参照してください。

条件名	日時一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	日付時刻を文字列として指定します。テストする日付/時刻。
予想される構文	単一の日付:2016/01/2016 日付範囲:2016/01/2016-08-01 複数のエントリ:entry1; entry2 範囲と単一の日付を混在させることができます
戻り値	実行日時が指定されたエントリのいずれかに一致する場合は true、そうでない場合は false。

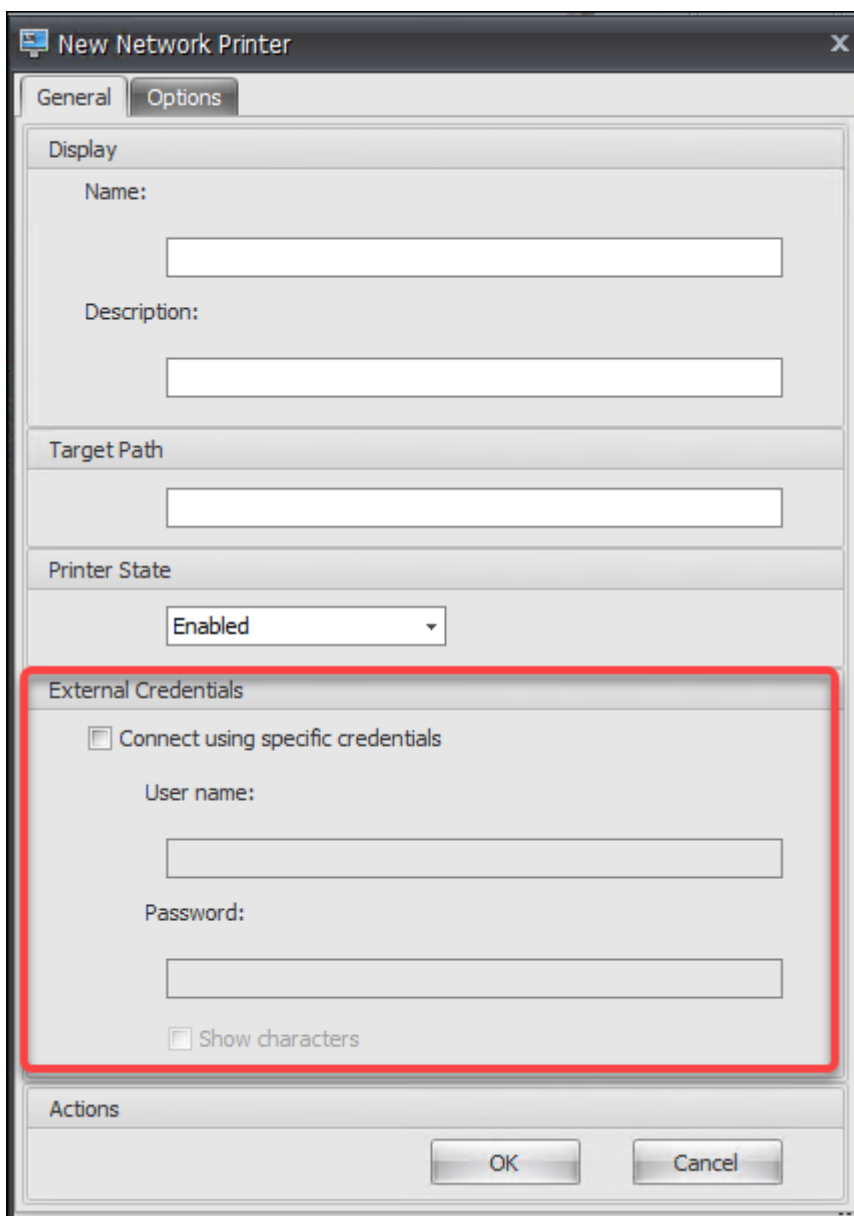
条件名	日時一致なし
負の条件行動	DateTime Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 DateTime Match を参照してください。

FIPS サポート

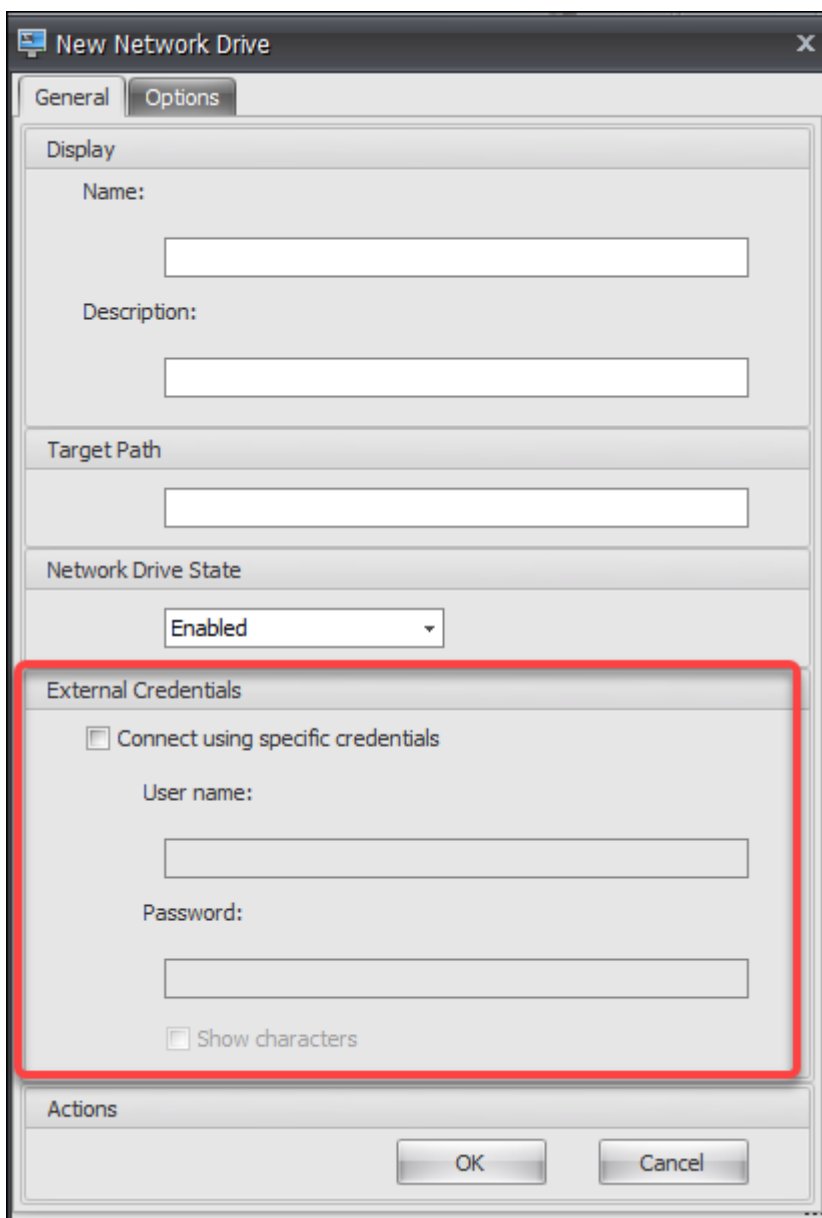
November 2, 2021

Workspace Environment Management (WEM) は FIPS 環境で実行できます。WEM の次の設定は FIPS に関連しています。

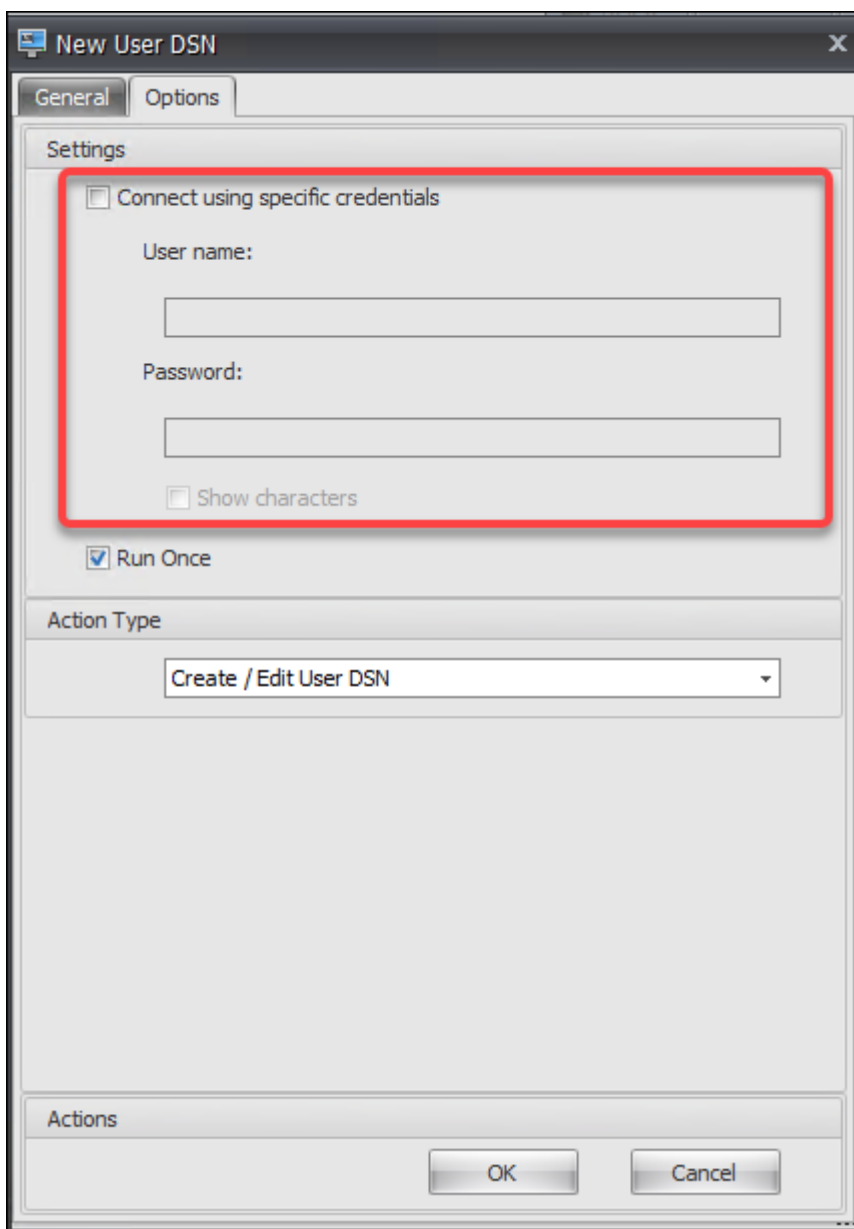
- 管理コンソール > アクション > プリンタの資格情報:



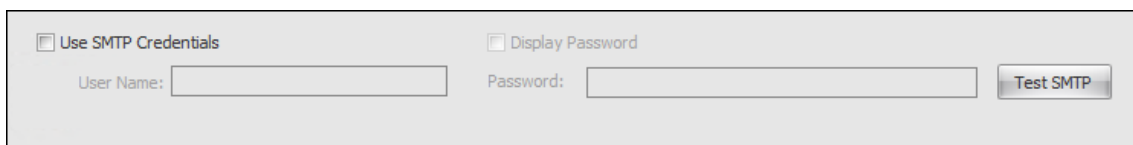
- 管理コンソール > アクション > ネットワークドライブでのネットワークドライブの認証情報:



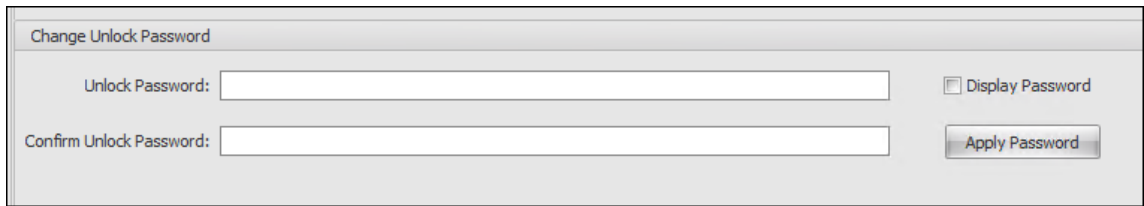
- 管理コンソール > アクション > ユーザー **DSN** のユーザー **DSN** 資格情報:



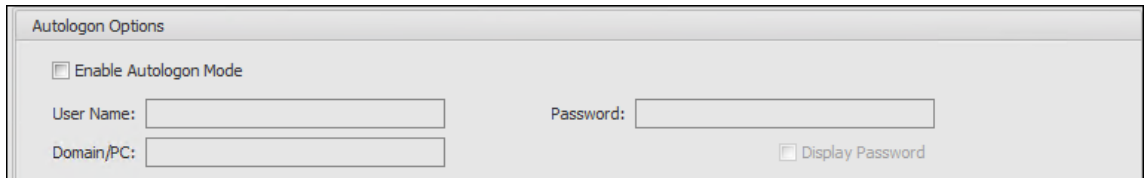
- 管理コンソールの **SMTP** 認証情報 > 詳細設定 > **UI** エージェントのパーソナライゼーション > ヘルプデスク オプション:



- 管理コンソール > トランスフォーマー設定 > 一般 > 一般設定でパスワード設定のロックを解除します。



- 管理コンソール > トランスフォーマー設定 > 詳細設定 > ログオン/ログオフ & 電源設定の自動ログオン資格情報:



FIPS 環境で WEM を実行する場合は、次の考慮事項に注意してください。

- 次のアイテムが WEM 2003 以前の環境からエクスポートされた場合、WEM 環境に復元することはできません。
 - アクション (プリンタ、ネットワークドライブ、ユーザー DSN) およびそれらのアクションを含むアクショングループ
 - 設定 (エージェント構成設定およびトランスフォーマー設定)
 - 構成セット

アップグレードに関する考慮事項

WEM を FIPS モードで実行する場合は、WEM インフラストラクチャサービスおよび管理コンソールをアップグレードする前に、次の考慮事項に注意してください。

- ご使用の環境で WEM 2006 以降を実行している場合は、まず 2109 にアップグレードしてから FIPS モードに切り替えるか、または逆の方法で切り替えることができます。
- 環境で WEM 2003 以前を実行している場合は、まず 2109 にアップグレードしてから FIPS モードに切り替える必要があります。

エージェントに関する考慮事項

FIPS 環境で WEM エージェントを実行するには、エージェントのバージョンが 2006 以降であることを確認します。

Citrix ADC による負荷分散

April 8, 2021

この資料では、すべてのアクティブな負荷分散構成で 2 つ以上のインフラストラクチャサーバーを含む Workspace Environment Management (WEM) サーバークラスタの展開について説明します。ここでは、WEM 管理コンソールと WEM エージェントからの着信要求の負荷分散を行うように Citrix ADC アプライアンスを構成する方法について詳しく説明します。

Citrix ADC では、次の WEM ポートでリスンできます。

- 管理ポート (デフォルトは 8284)
- エージェント・サービス・ポート (デフォルトは 8286)
- キャッシュされたデータ同期ポート (デフォルトは 8288)

2 つのインフラストラクチャサーバー (インフラストラクチャサーバー 1 とインフラストラクチャサーバー 2) を含む WEM サーバークラスタを展開するとします。次の手順を実行します。

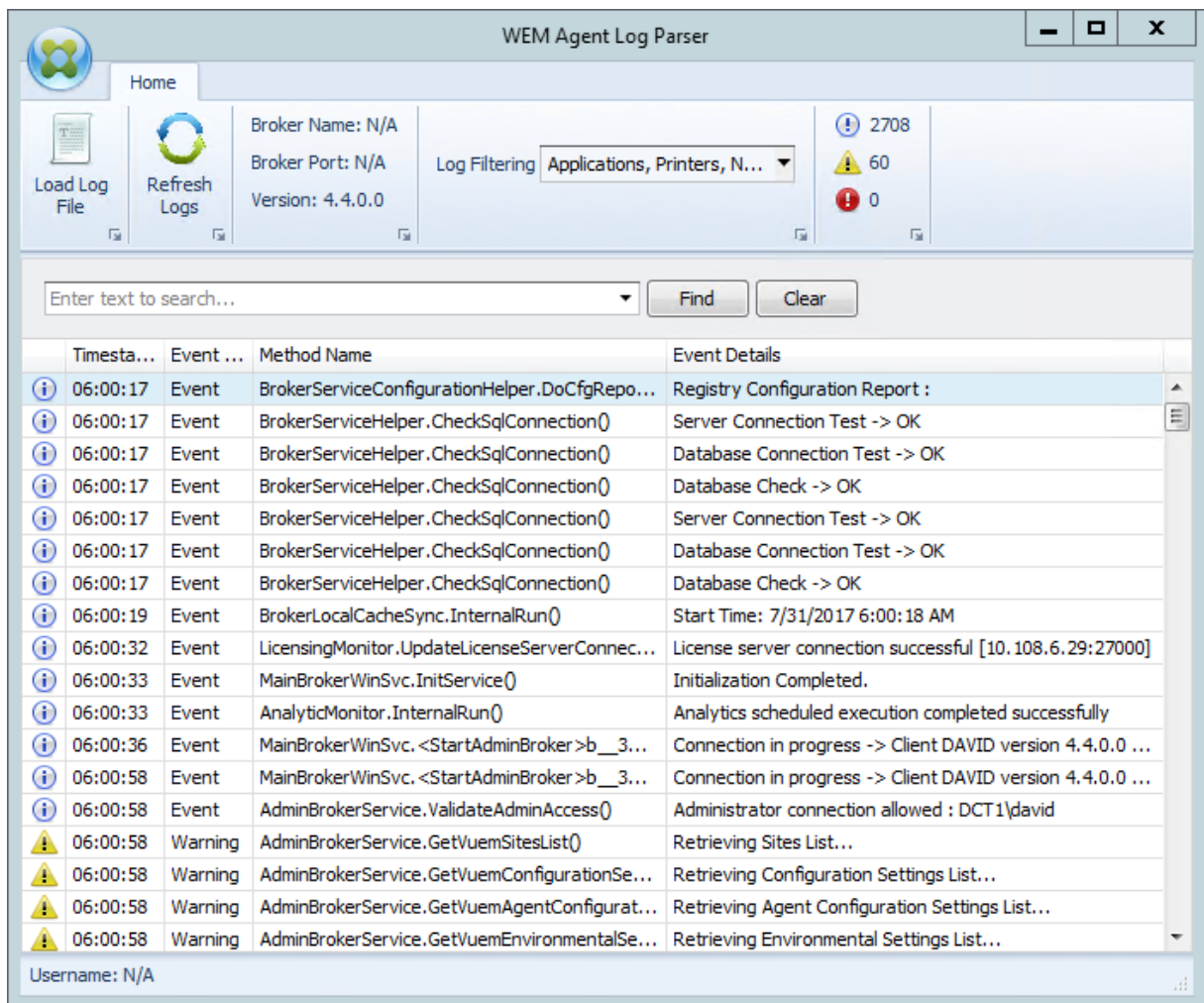
1. Citrix ADC 管理 GUI にログインし、[構成] をクリックします。
2. [トラフィック管理] > [負荷分散] > [サーバー] > [追加] の順に選択し、[追加] をクリックしてインフラストラクチャサーバー 1 を追加します。この手順を繰り返して、インフラストラクチャサーバー 2 を追加します。
3. [トラフィック管理] > [負荷分散] > [サービスグループ] に移動し、[追加] をクリックして、管理コンソールサービスのサービスグループを作成します。
 - プロトコル。[TCP] を選択します。
 - キャッシュタイプ。[サーバー] を選択します。
4. [負荷分散サービスグループ] ページで、[サービスグループメンバーなし] をクリックします。
5. [サービスグループメンバーの作成] ページで、[サーバーベース] を選択し、右矢印をクリックして [インフラストラクチャサーバー 1] を選択します。インフラストラクチャサーバー 2 に対して手順 3 ~ 5 を繰り返します。
 - ポート。たとえば、管理コンソールに「8284」と入力します。
6. 手順 3 ~ 5 に従って、エージェントサービスとキャッシュ同期サービスのサービスグループを作成します。
 - ポート。エージェントサービスポートには、8286 と入力します。キャッシュされたデータ同期ポートには、「8288」と入力します。
7. [トラフィック管理] > [負荷分散] > [仮想サーバー] に移動し、[追加] をクリックして、管理コンソールサービスの仮想サーバーを追加します。
 - プロトコル。[TCP] を選択します。
 - IP アドレスタイプ。[IP アドレス] を選択します。

- **IP** アドレス。仮想 IP を入力します。詳しくは、「[Citrix ADC が所有する IP アドレスを構成する](#)」を参照してください。
 - ポート。たとえば、管理コンソールに「8284」と入力します。
8. [負荷分散なし] [仮想サーバーサービスグループのバインド] をクリックします。
 9. [サービスグループのバインド] ページで、右矢印をクリックし、対応するサービスグループを選択し、[バインド] をクリックします。
 10. エージェントサービスポートとキャッシュデータ同期ポートでリスンする仮想サーバーを作成するには、手順 7～9 を実行します。
 - ポート。エージェントサービスポートには、8286 と入力します。キャッシュされたデータ同期ポートには、「8288」と入力します。

ログパーサー

August 12, 2020

Workspace Environment Management には、エージェントのインストール・ディレクトリにあるログパーサーアプリケーションが含まれています。



WEM Agent Log Parser を使用すると、Workspace Environment Management エージェントのログファイルを開き、検索およびフィルタリングを行うことができます。パーサーは、リボンの右上にある、イベント、警告、および例外の合計数を要約します。ログファイルの詳細（最初に接続したインフラストラクチャサービスの名前とポート、エージェントのバージョンとユーザー名）も表示されます。

ポート情報

April 8, 2021

Workspace Environment Management では、次のポートを使用します。

接続元	接続先	種類	ポート	詳細
インフラストラクチャ・サービス	エージェントホスト	TCP	49752	「エージェントポート」です。インフラストラクチャ・サービスから命令を受信するエージェントホストのリスニング・ポート。
管理コンソール	インフラストラクチャ・サービス	TCP	8284	「管理ポート」です。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。
エージェント	インフラストラクチャ・サービス	TCP	8286	「エージェントサービスポート」エージェントがインフラストラクチャ・サーバに接続するポート。
エージェントキャッシュの同期プロセス	インフラストラクチャ・サービス	TCP	8288	「キャッシュされたデータ同期ポート」。 Workspace Environment Management 1912以降に適用されます。 Workspace Environment Management 1909以前のキャッシュ同期ポートを置き換えます。エージェントキャッシュの同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバと同期させるポート。

接続元	接続先	種類	ポート	詳細
インフラストラクチャ・サービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	27000	「Citrix ライセンスサーバーのポート」。 Citrix License Server がリスンしているポート、およびインフラストラクチャサービスがライセンスを検証するために接続するポート。
インフラストラクチャ・サービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	7279	Citrix ライセンスサーバーの専用コンポーネント（デーモン）がライセンスを検証するために使用するポート。
監視サービス	インフラストラクチャ・サービス	TCP	8287	「WEM 監視ポート」。 監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバーのリスニングポート。

ログファイルの表示

January 11, 2024

Workspace Environment Management (WEM) に関連するログを収集して表示できます。ログは、Citrix テクニカルサポートに連絡して支援を受けるときに問題を自分でトラブルシューティングしたり、ログを提供したりするために使用します。次の項目に関連するログを収集できます。

- WEM エージェント
- WEM インフラストラクチャサービス
- WEM 管理コンソール
- WEM データベース

- WEM ウェブコンソール

エージェントに関連するログ

WEM エージェントに関連するログを収集できます。WEM エージェントがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **WEM** エージェントログ

- **Citrix WEM** エージェント **Init.log**。CMD または UI モードのエージェントに関する問題のトラブルシューティングを行う初期化ログ。ログは、ログオン時または更新時に作成されます。エージェントが起動できない場合は、このログファイルを表示してエラーの詳細を確認します。エラーは例外として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダ (%userprofile%) に作成されます。
- **Citrix WEM Agent.log**。CMD または UI モードでエージェントに関する問題のトラブルシューティングを行うプライマリログ。ログには、エージェントが処理した命令がリストされます。アクションが現在のユーザーに割り当てられない場合は、このログファイルを表示してエラーの詳細を確認します。エラーは例外として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダ (%userprofile%) に作成されます。デフォルトを変更するには、[管理コンソール] > [詳細設定] > [構成] > [エージェントオプション] の順に選択し、[エージェントログの有効化] 設定を構成します。詳細を表示するには、[エージェントオプション] タブで [デバッグモード] を有効にします。または、次のレジストリキーを設定してロギングを有効にすることもできます。

Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

名前:AgentDebugModeLocalOverride

種類: DWORD

値: 0

値を 1 に設定してログファイルを有効にし、無効にするには 0 に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。デフォルトでは、ログは無効になっています。

注意:

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

- **Citrix WEM** エージェントホストサービス **Debug.log**。Citrix WEM エージェントホストサービスの問題のトラブルシューティングを行うログ。デフォルトでは、このログファイルは%PROGRAMFILES

(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agentにあります。ロギングを有効にするには、[管理コンソール] > [詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブで、** 関連する構成セットのデバッグモードを有効にしてください **。または、次のレジストリキーを設定してロギングを有効にすることもできます。

Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

名前: AgentServiceDebugModeLocalOverride

種類: DWORD

値: 0

値を 1 に設定してログファイルを有効にし、無効にするには 0 に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。デフォルトでは、ログは無効になっています。

注意:

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

- **Windows** イベントログ。Windows イベントログに書き込まれる情報。[イベントビューア] > [アプリケーションとサービスログ] > [WEM エージェントサービス] ペインでログを表示します。
- **Windows** コミュニケーション財団 (WCF) トレースします。WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサービス間の通信に関連する問題が発生したときに役立つログ。ロギングを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows 通信基盤のトレース」を参照してください。

インフラストラクチャサービスに関連するログ

WEM インフラストラクチャサービスに関連するログを収集できます。WEM インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **Windows** イベントログ。Windows イベントログに書き込まれる情報。[イベントビューア] > [アプリケーションとサービスログ] > [WEM インフラストラクチャサービス] ペインにログを表示します。
- **Citrix WEM** インフラストラクチャサービス **Debug.log**。Citrix WEM インフラストラクチャサービス (Norskale Broker Service.exe) に関する問題のトラブルシューティングを行うログ。デフォルトでは、このログファイルは%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Servicesにあります。このログファイルを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

1. [スタート]メニューから **WEM** インフラストラクチャサービス設定ユーティリティを開きます。
 2. [詳細設定] タブで、[デバッグモードを有効にする]を選択します。
 3. [設定の保存] をクリックし、[はい] をクリックして、サービスを開始して変更を適用します。
 4. **WEM** インフラストラクチャサービス構成ユーティリティウィンドウを閉じます。
- **WCF** トレース。WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生したときに役立つログです。ロギングを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows 通信基盤のトレース」を参照してください。

管理コンソールに関連するログ

WEM 管理コンソールに関連するログを収集できます。管理コンソールがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **Citrix WEM** コンソール **Trace.log**。WEM 管理コンソールの問題をトラブルシューティングするためのログ。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダ (%userprofile%) に作成されます。ロギングを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。
 1. [スタート]メニューから **WEM** 管理コンソールを開き、[接続] をクリックします。
 2. 「新規インフラストラクチャーサーバー接続」ウィンドウで情報を確認し、「接続」をクリックします。
 3. [バージョン情報] タブで、[オプション] をクリックし、[デバッグモードを有効にする]を選択します。
 4. [適用] をクリックして変更を適用します。
- **WCF** トレース。WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信に関連する問題が発生したときに役立つログ。ロギングを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows 通信基盤のトレース」を参照してください。

WEM データベースに関連するログ

WEM データベースに関連するログを収集できます。ログは、WEM データベース管理ユーティリティを使用してデータベースを作成またはアップグレードするときに作成されます。詳細については、次のログファイルを参照してください。

- **Citrix WEM** データベース管理ユーティリティのデバッグ **Log.log**。WEM データベースに関する問題のトラブルシューティングを行うログ。このログファイルはデフォルトで作成され、**C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services**にあります。

WEM Web コンソールに関連するログ

WEM Web コンソールに関連するログを収集できます。WEM Web コンソール設定ユーティリティを使用して Web コンソールを設定すると、ログが作成されます。さらに、Web コンソールサービスの実行中にログが作成されます。

詳細については、次のログファイルを参照してください。

- ****Web** コンソール設定 Utility.log WEM Web コンソール設定ユーティリティの問題をトラブルシューティングするためのログ。このログファイルはデフォルトで作成され、C:\ProgramDataにあります。
- **Citrix WEM Public API.log**。WEM Web コンソールサービスの問題をトラブルシューティングするためのログ。Web コンソール設定ユーティリティを使用して **Web** コンソールサービスを設定してロギングを有効にする場合は、必ず [コンソールロギングを有効にする] オプションを有効にしてください。このログファイルはにありC:\ProgramDataます。

Windows コミュニケーション財団のトレース

Windows コミュニケーション財団 (WCF) トレースを表示して、次の問題のトラブルシューティングに役立ちます。

- [エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信](#)
- [WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信](#)
- [WEM 管理コンソールに関連する通信](#)

エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信のトラブルシューティング

WEM エージェントが WEM インフラストラクチャサービスと正しく通信しない場合は、VUEMUIAgent.exe サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. WEM エージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、[終了] を選択してエージェントを閉じます。
3. %PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent で vueMuiagent.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、<configuration>と</configuration>マークアップの間のセクションに次のスニペットを挿入します。
5. ファイルを保存します。

```
1 <system.diagnostics>
2   <sources>
3     <source name="System.ServiceModel"
4       switchValue="Information, ActivityTracing"
5       propagateActivity="true">
6     <listeners>
7       <add name="traceListener"
8         type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
9         initializeData= "c:\trace\vuemUIAgent-Traces.
          svclog" />
```

```

10         </listeners>
11     </source>
12 </sources>
13 </system.diagnostics>
14 <!--NeedCopy-->

```

6. エージェントマシンで、C ドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダを作成します。フォルダがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
7. 発生した問題を再現し、VUEMUIAgent.exe プロセスを終了します。
8. C:\Trace\vuemUIAgent-Traces.svclog という名前のログファイルを表示します。

Citrix.wem.Agent.service.exe サービスの WCF トレースを表示することもできます。次の手順を実行します：

1. WEM エージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、[終了] を選択してエージェントを閉じます。
3. Citrix WEM エージェントホストサービスを終了します。
4. %PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent で Citrix.wem.Agent.service.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
5. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、</configSections> マーカーの直後の 4 行目から始まる次のスニペットをファイルに挿入します。
6. ファイルを保存します。

```

1 <system.diagnostics>
2     <sources>
3         <source name="System.ServiceModel"
4             switchValue="Information, ActivityTracing"
5             propagateActivity="true">
6             <listeners>
7                 <add name="traceListener"
8                     type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
9                     initializeData= "c:\trace\NorskaleAgentHostService
10                        -Traces.svclog" />
11             </listeners>
12         </source>
13     </sources>
14 </system.diagnostics>
15 <!--NeedCopy-->

```

7. エージェントマシンで、C ドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダを作成します。フォルダがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
8. Citrix WEM エージェントホストサービスという Windows サービスを開始し、発生した問題を再現します。
9. C:\Trace\NorskaleAgentHostService-Traces.svclog という名前のログファイルを表示します。

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信のトラブルシューティング

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合は、Norskale Broker サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. WEM インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンにログオンします。
2. Citrix WEM インフラストラクチャサービスを終了します。
3. %PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services で Norskale Broker Service.exe.config ファイルを探し、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、<configuration> マーカーの直後の 3 行目から始まる次のスニペットをファイルに挿入します。

```
1 <system.diagnostics>
2   <sources>
3     <source name="System.ServiceModel"
4           switchValue="Information, ActivityTracing"
5           propagateActivity="true">
6       <listeners>
7         <add name="traceListener"
8             type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
9             initializeData="c:\trace\
10            NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.
11            svclog" />
12       </listeners>
13     </source>
14   </sources>
15 </system.diagnostics>
16 <!--NeedCopy-->
```

5. ファイルを保存します。
6. WEM インフラストラクチャサービスマシンで、C ドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダを作成します。フォルダがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
7. Citrix WEM インフラストラクチャサービスを起動し、発生した問題を再現します。
8. C:\Trace の NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog という名前のログファイルを表示します。

WEM 管理コンソールと **WEM** データベース間の通信のトラブルシューティング

WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信に関連する問題が発生した場合は、Norskale 管理 Console.exe サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. WEM 管理コンソールマシンにログオンします。

2. WEM 管理コンソールを閉じます。
3. %PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Administration Consoleで Norskale 管理コンソール.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、<configuration> マーカーの直後の 3 行目から次のコメントをファイルに追加します。

```
1 <system.diagnostics>
2   <sources>
3     <source name="System.ServiceModel"
4           switchValue="Information, ActivityTracing"
5           propagateActivity="true">
6       <listeners>
7         <add name="traceListener"
8             type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
9             initializeData= "c:\trace\WEMConsole-Traces.svclog
10            " />
11       </listeners>
12     </source>
13   </sources>
14 </system.diagnostics>
15 <!--NeedCopy-->
```

5. ファイルを保存します。
6. 管理コンソールマシンで、C ドライブ (C:\Trace) に「Trace」という名前のルートフォルダーを作成します。フォルダがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
7. WEM 管理コンソールを開き、発生した問題を再現します。
8. C:\TraceのWEMConsole-Traces.svclogという名前のログファイルを表示します。

WEM ヘルスチェックツール

May 28, 2024

WEM ヘルスチェックツールは、WEM コンポーネントのステータスをチェックし、WEM 展開の設定上の問題を特定して解決するのに役立つスタンドアロンツールです。Citrix.WEM.Health.Check.Tool は WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサービスとともにインストールされます。このツールを使用するには、ローカル管理者権限が必要です。トラブルシューティングのためにログを収集するには、デバッグモードを有効にし、問題が発生した後にログを取得します。

ホームページ

ホームページには次の設定が含まれます：

- WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサーバーの両方の構成。名前、エージェントタイプ、エージェントバージョン **、** および参加タイプを選択します。
- 参加タイプの前提条件は、**AD** 参加タイプでも非ドメイン参加タイプでもかまいません。
- WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサーバーの強制デバッグモードまたはデバッグモードをそれぞれ有効にできます。
- 強制デバッグモードを有効にすると、管理コンソールで指定された設定に関係なく、エージェントのデバッグモードがオンになります。
- 変更を WEM エージェントまたは WEM インフラストラクチャサーバにすぐに反映させるには、[Citrix WEM agent Host Service](#) および [VUEMUIAgent.exe](#) または [Citrix WEM Infrastructure Service](#) をそれぞれ再起動できます。
- ログを取得すると、ログを取得して zip フォルダーにパッケージとして保存できます。その後、ローカルマシンに保存されているパッケージを確認できます。

インフラストラクチャーサーバー

WEM インフラストラクチャーサーバーの構成を確認するには、ツールを開いてインフラストラクチャーサーバーの基本情報を確認します。

- インフラストラクチャーサーバーのデバッグモードを有効にします。
- 「**Start check**」 ボタンをクリックして、インフラストラクチャーサーバーの構成を確認します。
- [ログを取得] をクリックしてログを取得し、[レポートファイルを開く] をクリックして詳細なレポートを表示し、[再確認] をクリックして構成を再確認します。

ヘルスチェックレポートの生成には、次のコンポーネントが考慮されます。

- Windows ファイアウォールの構成
- エージェント・ブローカー・サービス
- キャッシュ同期サービス
- 管理サービス
- ライセンスサーバー

注：

- エージェントキャッシュが永続的な場所にあることを確認してください。非永続的なキャッシュロケーションを使用すると、キャッシュ同期の問題、ネットワークデータの過剰使用、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。
- 接続時間に基づいてディレクトリサービスのタイムアウトを設定することをお勧めします。

WEM エージェントが期待どおりに機能するには、次のサービスが必要です。サービスが実行中で、各サービスのスタートアップタイプが [自動] に設定されていることを確認します。

- システムイベント通知サービス
- Citrix WEM エージェントホストサービス
- Citrix WEM ユーザーログオンサービス

WEM ツールハブ

May 28, 2024

WEM Tool Hub は、Workspace Environment Management (WEM) 管理者の構成エクスペリエンスを簡素化することを目的としたツールのコレクションです。ダウンロードするには、[**Citrix Cloud**] > [**WEM サービス**] > [**ユーティリティ**] に移動します。

WEM ツールハブを実行するための前提条件は次のとおりです。

- .NET フレームワーク 4.7.1 またはそれ以降
- Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン 98 以降
- ローカル管理者権限

現在、次のツールを使用できます：

- アプリケーションアシスタント
- ファイルタイプ関連付けアシスタント
- プリンタアシスタント
- アプリアクセス制御用のルールジェネレーター

注：

- WEM ツールハブはデータを保存しません。ツールを終了すると、データは消去されます。データが失われる可能性を避けるため、必ず作業を保存してください。
- WEM Tool Hub からコピーしたデータを Web コンソールに貼り付けるには、ブラウザでデータのコピーが許可されていることを確認します。例:Microsoft Edge の場合は、必ず [**サイト権限**] > [**クリップボード**] > [**クリップボードにコピーされたテキストと画像をサイトが表示するタイミングを確認する**] オプションが有効になっている必要があります。

アプリケーションアシスタント

このツールを使用して、管理コンソールにアプリケーションを追加するときに使用するアイコンや Citrix Workspace リソースの構成情報を準備します。

ワークスペースリソース

注:

このツールを使用するには、マシンに Citrix Workspace アプリがインストールされている必要があります。

「Citrix Workspace リソース」タイプアプリケーションを Web コンソールに追加する場合は、リソースを指定する必要があります。リソースの情報を取得するには、次の手順を実行します。

1. ストア URL またはワークスペース URL を入力します。
2. 「リソースを参照」をクリックしてリソースをブラウズします。次に、リソースが列挙され、一覧表示されます。
3. リストから、ターゲットアプリケーションを選択し、その情報をコピーします。

Web コンソールで、[リソース情報を貼り付け]をクリックしてコピーした情報を貼り付けます。「[アプリケーションの追加](#)」を参照してください。

アイコン

Web コンソールでアプリケーションのアイコンを設定するときに、新しいアイコンを追加できます。アイコンのデータを取得するには、次の手順を実行します。

1. 「ブラウズ」をクリックして、アイコンを含むファイルを参照します。その後、ファイル内のアイコンが読み込まれます。対応しているファイルタイプ: `.exe`、`.dll`、`.ico`
2. アイコンを選択し、アイコンデータをコピーします。

Web コンソールで、[アイコンデータを貼り付け]をクリックしてコピーしたアイコンデータを貼り付けます。「[アプリケーションの追加](#)」を参照してください。

Windows ログオン分析

このツールを使用すると、ログオン期間レポートを表示したり、ログオン期間の最適化やトラブルシューティングに関するヒントを入手したりできます。

完全なレポートを受け取るには、マシン上の関連する Windows イベントログのログ収集を有効にします。

- [**Windows** ログオン分析] > [レポートを取得] をクリックして、[最新のレポートを取得] ウィザードにアクセスします。
- ドロップダウンリストからいずれかのオプションを選択して時間範囲を選択し、[レポートを取得] をクリックします。デフォルトの範囲は「過去 **24** 時間」です。
- フェーズと説明は、次の表に基づいてグラフの形式で表示されます。

次の表は、すべての指標、サブメトリクス、およびヒントを詳細にまとめたものです。

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
ログオン前	Windows ログオン までにかかった時間。	Citrix ログオン前 HDX コネクション		
認証	セッションへの認証 が完了するまでにか かった時間。	Windows 認証 VDA 認証	<p>Windows Hello を使用してください。 Windows Hello は、 顔や指紋を使用して PC にサインインで きる生体認証機能で す。</p> <p>ネットワー ク/Active Directory 速度。現 在のマシンと Active Directory 間のネットワーク通 信が良好であることを 確認してください。 ツール (Dcdiag を 使用して確認できま す。</p> <p>ユーザー名とパスワ ードの効率的な入力。 ユーザー名とパスワ ードの入力が間違っ ていたり、遅れたり すると、認証時間が 全体的に長くなる可 能性があります。</p>	
Citrix RSOP	Citrix RSOP (ポリ シーの結果セット) を完了するまでにか かった時間。			

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
ユーザープロファイルの読み込み	ユーザーがログオンするためのプロファイル設定のロードにかかった時間。	FSLogix のロード・プロファイル (FSLogix プロファイル・コンテナのロードにかかった時間)。 ユーザープロファイル (Windows ユーザープロファイルファイルと設定のロードにかかった時間)。 SMB クライアント (リモート接続用の SMB クライアントの初期化にかかった時間)。	ディスク容量が少なくなっていないか確認し、空き容量を増やしてください。ハードドライブがほぼいっぱいになると、PC のログイン処理が遅くなる可能性があります。ハードドライブに十分な空き容量があることを確認してください。 ProcMon ツールを使用してください。詳細を分析するには、 ProcMon ツールを使用 して、ユーザーログオン時にユーザープロファイル内のファイル I/O をキャプチャします。	Windows プロファイルデータ (プロファイルサイズ、ファイル/フォルダ数)、一時フォルダデータ (プロファイルサイズ、ファイル/フォルダ数)、上位 10 大ファイルリスト (サイズが 50MB 以上)、上位 10 大容量フォルダリスト (サイズが 100MB 以上)

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		Citrix プロファイル 管理者	<p>Citrix Profile Management.</p> <p>Citrix Profile Management を使用している場合、Accelerate Folder Mirroring が有効になっているフォルダーでは、コンテナベースのソリューションを使用するか、プロファイルストリーミングを備えたファイルベースのソリューションを使用して、ログオンプロセスを最適化できます。詳細については、リンクを参照してください。</p>	Profile Management ヘルステックレポート
グループポリシー処理	グループポリシー設定の処理にかかった時間。	グループポリシーグループポリシースクリプト (非同期) グループポリシー CSE (非同期) グループポリシースクリプト	<p>GPO キャッシュを無効にします。</p> <p><code>gpedit.msc</code> を実行して、[コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [グループポリシー] のパスに移動します。次に、GPO キャッシュを無効にします。</p>	

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		<p>WMI フィルタログ オンスケジュールタ スク (非同期) シング ルログオンスケジュ ールタスクフォルダ リダイレクト</p>	<p>GPO の数を減らし てください。一度に 処理される GPO の 数を減らしてくださ い。グループポリシ ーの処理は並行して 行われますが、同時 に処理できる GPO の数には制限があり ます。一度に処理さ れる GPO の数を減 らすと、グループポ リシーの処理速度を 上げることができま す。</p>	
		<p>CitrixM 合計 Citrix ホストサービスのス テータスの確認 CitrixM 読み取り構 成 Citrix スタートア ップスクリプトタス ク</p>	<p>Citrix WEM を使用 してグループポリシ ーの非同期を処理し ます。Citrix WEM を使用してグループ ポリシーの非同期を 処理すると、ユーザ ーログオン前にグル ープポリシーを処理 し、グループポリシ ーの処理を高速化で きます。詳細につい ては、リンクを参照 してください。</p>	
		<p>CitrixWemCache (Sync) Cit- rixWemJsonFile CitrixWemMa- chineGroupPolicy CitrixWemUser- GroupPolicy</p>		

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		グループポリシーオブジェクト		単一グループポリシーオブジェクトリスト
プレシエル (ユーザー初期化)	<code>userinit.exe</code> から <code>explorer.exe</code> 起動までの時間です。			
ログオンスクリプト処理	ログオンスクリプトの実行にかかった時間。	ユーザーログオンスクリプト	<p>ログオンスクリプトを最適化してください。不要なコマンドを削除してスクリプトのサイズを小さくすることで、ログオンスクリプトを最適化できます。</p> <p>グループポリシー設定を使用してください。グループポリシー設定を使用してログオンスクリプトを置き換えることができます。ログオンスクリプトよりも管理が簡単で、処理も高速です。</p>	

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
----------	--------------	---------	-----	----

Citrix WEM の外部タスクを使用してください。外部タスクを使用してログオンスクリプトを設定します。タスクが完了するまで待つかどうか、および待機タイムアウトの期間を指定できます。待機時間を制限すると、ユーザーログオンを高速化できます。外部タスクの詳細については、製品ドキュメントを参照してください。

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
シェルスタートアップ	シェルの起動にかかった時間。	アクティブセットアップ FSLogixShellStart (FSLogix プロファイルコンテナをロードしてからシェルを実行するのにかかる時間)。	<p>スタートアッププログラムを無効にします。PC の電源を入れたときに自動的に起動するプログラムを無効にすることができます。</p> <p>Win11/Win10/Win Server 2022 でスタートアッププログラムを無効にするには、次の手順を実行します。</p> <p>Windows+ I ショートカットを押して [設定] を開き、[アプリ]> [スタートアップ] を選択します。起動時に自動的にオンにしてはいけないアプリやプログラムをオフにします。グローバルスタートアップフォルダから不要なプログラムを削除してください: <code>%allusersprofile%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup</code>。ユーザースタートアップフォルダから不要なプログラムを削除します: <code>%userprofile%\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup</code>。</p>	詳細

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		<p>ShellStart (Windows ユーザープロファイルをロードしてからシェルを実行するのにかかった時間)。</p>	<p>高速起動を有効にします。高速起動機能により、シャットダウン後のコンピュータの起動時間を短縮できます。</p>	
		AppxAssociations	<p>Windows 10 で高速起動を有効にするには、次の手順を実行します。コントロールパネルをアイコン表示で開き、【電源オプション】を選択します。サイドバーの電源ボタンの機能を選択します。使用可能なオプションのリストから、「高速起動を有効にする」チェックボックスを選択します。</p>	

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		AppXLoad パッケージ (ログオン中に AppX パッケージがロードされる) 単一 AppXLoad パッケージ	<p>Windows の外観とパフォーマンスを調整します。</p> <p>Windows の外観とパフォーマンスを調整して、PC のログインプロセスを高速化できます。これを行うには、[マイコンピュータ] を右クリックして [プロパティ] を選択します。[システムの詳細設定] をクリックし、[パフォーマンス] の [設定] ボタンをクリックします。ここで Windows の外観とパフォーマンスを調整できます。</p>	

ファイルタイプ関連付けアシスタント

このツールを使用して、FTA を設定するために必要な情報を取得し、管理コンソールに割り当て可能なアクションとして追加します。

ファイルタイプ関連付けアシスタントを選択すると、WEM Tool Hub の「ファイルタイプ関連付けアシスタント」ページが表示されます。FTA を設定するには、次の手順を実行します。

- ファイル名拡張子を入力する場合、入力内容から始まる対応するファイル名拡張子オプションから選択できます。
- 入力されたエクステンションに **ProgID** が関連付けられているかどうか、また **ProgID** がレジストリに関連付けられているアクションがあるかどうかを確認します。
- [**Browse**] をクリックすると、入力した **ProgID** が登録されているすべてのアプリケーションが一覧表示されます。
- 関連付けたいアプリケーションを構成します。
- 「カスタマイズ」アクションを選択して、「開く」、「編集」、および「印刷」アクションを実行することもできます。
- [コピー] ボタンをクリックすると、設定した FTA データをコピーできます。

詳細については、「[ファイルタイプの関連付け](#)」を参照してください。

プリンタアシスタント

このツールを使用して印刷サーバーからプリンターのリストを取得し、管理コンソールに割り当て可能なアクションとして追加できるようにします。

ネットワークプリントサーバーからプリンターを追加する場合、そのプリンターを追加するにはプリンター情報が必要です。プリンタ情報を取得するには、次の手順を実行します。

1. プリントサーバーのフルネームを入力します。
2. 特定の認証情報を使用してプリントサーバーに接続するかどうかを指定します。
3. [接続]をクリックすると、プリンタリストが表示されます。
4. リストから1つまたは複数のプリンタを選択し、プリンタ情報をコピーします。

Web コンソールで、[プリンタ情報を貼り付け]をクリックしてコピーした情報を貼り付けます。[プリントサーバーからのプリンターの追加を参照してください](#)。

アプリアクセス制御用のルールジェネレーター

このツールを使用して、ファイル、フォルダー、レジストリなどのアイテムへのユーザーアクセスを制御するルールを作成します。ルールは CitrixProfile Management を通じて実装されます。一般的な使用例は、マシンにインストールされたアプリへのユーザーアクセスを制御するルールを適用することです。つまり、アプリを関連ユーザーに見えないようにするかどうかです。

次の操作を実行できます：

- アプリルールを作成
- アプリルールをファイルからインポートする
- ルール用の未加工データを生成
- アプリルールを編集
- アプリルールを削除する

アプリルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーの [ルールを作成] をクリックします。
2. ターゲットオブジェクトページで、次の設定を行います。
 - アプリルール名。ルールを識別しやすい名前を指定してください。
 - ターゲットオブジェクト。ターゲットオブジェクトを追加します。ターゲットオブジェクトには、非表示にするアプリに関連するファイル、フォルダー、およびレジストリを指定できます。[スキャン]をクリックすると、現在のマシンにインストールされているアプリと各アプリに関連するオブジェクトのリストが表示されます。

注:

- 1 - スキャン後、ツールがフォルダーのパスを取得できない場合があります。パスフィールドには次の警告が表示されます: `No path found`。この問題は、たとえば、アプリのインストールフォルダーがユーザーのプロファイルフォルダーにある場合に発生します。その場合は、インストールフォルダを探し、パスを手動で入力する必要があります。

- 特定の Citrix および Windows サービスが依存するアイテムにはパスを追加できません。そうしないと、それらのサービスが正常に動作しなくなる可能性があります。これらのパスの一覧については、「追加できないパス」を参照してください。

3. 「割り当て」ページで、ルールを割り当てるユーザー、コンピューター (組織単位)、プロセスを追加します。AAD ユーザーまたはグループ、および NDJ マシンを取得する方法の詳細については、「[AAD/NDJオブジェクトセクター](#)」を参照してください。

注:

- このルールを特定のユーザー、コンピューター、およびプロセスに割り当てると、ユーザーが関連するコンピューターでプロセスを実行しても、ターゲットオブジェクトは表示されません。
- 割り当てが指定されていない場合、このルールは常にターゲットオブジェクトを非表示にします。
- アサインメントには、ユーザー、コンピューター、プロセスの3つのカテゴリがあります。「OR」演算子はカテゴリ内の項目間で使用され、「AND」演算子はカテゴリ間で使用されます。
- ドメインに参加していない、または Azure Active Directory に参加しているマシンでツールを実行する場合、ユーザーやコンピューターを追加することはできません。
- 一括プロセスを追加できます。プロセス名 (.exe 拡張子を含む) を改行で区切って入力します。

4. 終了したら、[完了] をクリックします。

ルールの未加工データを生成するには、次の手順を実行します:

1. 必要なルールを選択するか、[すべて選択] をクリックしてすべてのルールを選択します。
2. アクションバーの「ローデータを生成」をクリックします。次に、選択したルールの未加工データが生成されます。
3. [ローデータを生成] ウィンドウで、ローデータを後で復元できるようにファイルに保存するか、ローデータをクリップボードにコピーします。

注:

- ルールをどのように展開したいかに応じて、WEM 管理コンソールでルールを追加したり、Profile Management ポリシーの「アプリアクセス制御」を設定したりするときに、未加工データを使用します。

- 未加工データをファイルに保存したら、ファイルからルールを復元できます。そのためには、アクションバーの「インポート」を使用してください。

4. 終了したら、[完了]をクリックします。

パスの追加は許可されていません

特定の Citrix および Windows サービスが依存するアイテムには、次のパスとその親パスを追加できません。

Profile Management 関連レジストリ:

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager
- HKLM:\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager
- HKLM:\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager

WEM 関連レジストリ:

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Norskale
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale
- HKLM:\SOFTWARE\Policies\Norskale
- HKLM:\SOFTWARE\Citrix\WEM
- HKLM:\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale

Virtual Delivery Agent (VDA) 関連レジストリ:

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\VirtualDesktopAgent
- HKLM:\SOFTWARE\Citrix\VirtualDesktopAgent
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Citrix Virtual Desktop Agent
- HKLM:\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Citrix Virtual Desktop Agent

Windows 関連のレジストリ:

- HKCU:
- HKEY_CURRENT_USER
- HKU:
- HKEY_USERS

Windows および Citrix のサービス関連フォルダー:

- c:\windows\system32
- \Citrix\User Profile Manager\

- \Citrix\Workspace Environment Management Agent\
• \Citrix\XenDesktopVdaSetup\
• \\%windir%\%system32

AAD ユーザー/グループと **NDJ** マシンへのアプリアクセスルールの割り当て

アプリアクセスルールを AAD ユーザーまたはグループ、および NDJ マシンに割り当てるには、次の手順を実行します。

1. Web コンソールから **AAD/NDJ** オブジェクトセレクターをクリックします。
2. **AAD/NDJ** オブジェクトセレクターを使用して、必要な AAD ユーザーと NDJ マシンを追加します。
3. ユーザーデータまたはマシンデータをコピーします。
4. [**WEM Tool Hub**] > [アプリアクセス制御のルールジェネレーター] に移動し、新しいアプリルールを作成します。
5. 課題ページに移動し、データを貼り付けます。
6. 「完了」をクリックして、アプリのアクセス制御ルールを作成します。
7. アプリのアクセス制御ルールをコピーします。
8. Web コンソール > 設定 > **Profile Management** 設定 > アプリアクセス制御に移動し、そこにデータを貼り付けます。

すばやくアクセスできるようにローカルアプリケーションを追加

この機能により、ローカルアプリケーションを WEM Tool Hub に追加してすばやくアクセスできます。追加されたアプリケーションは、個人データの一部とみなされます。Profile Management 環境の使用中にマシンを切り替えてもデータは保持されます。

アプリケーションを追加するには、WEM Tool Hub の右上隅にあるプラス記号をクリックし、アプリケーションに移動します。複数のアプリケーションを一度に追加できます。

追加されたアプリケーションは WEM Tool Hub にタイルとして表示されます。タイルをクリックすると、アプリケーションをすばやく起動できます。

注:

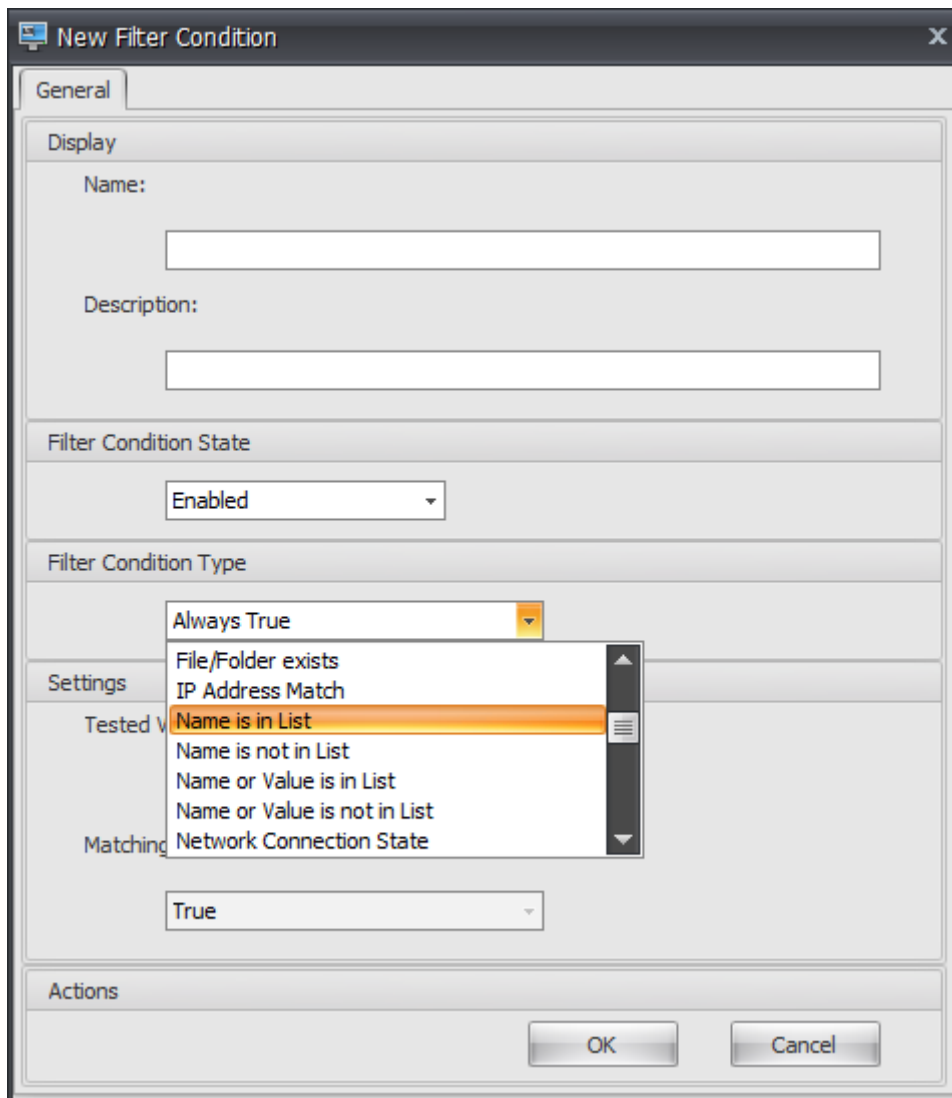
追加したアプリケーションを削除するには、ゴミ箱アイコンをクリックします。

WEM 整合性条件リストマネージャー

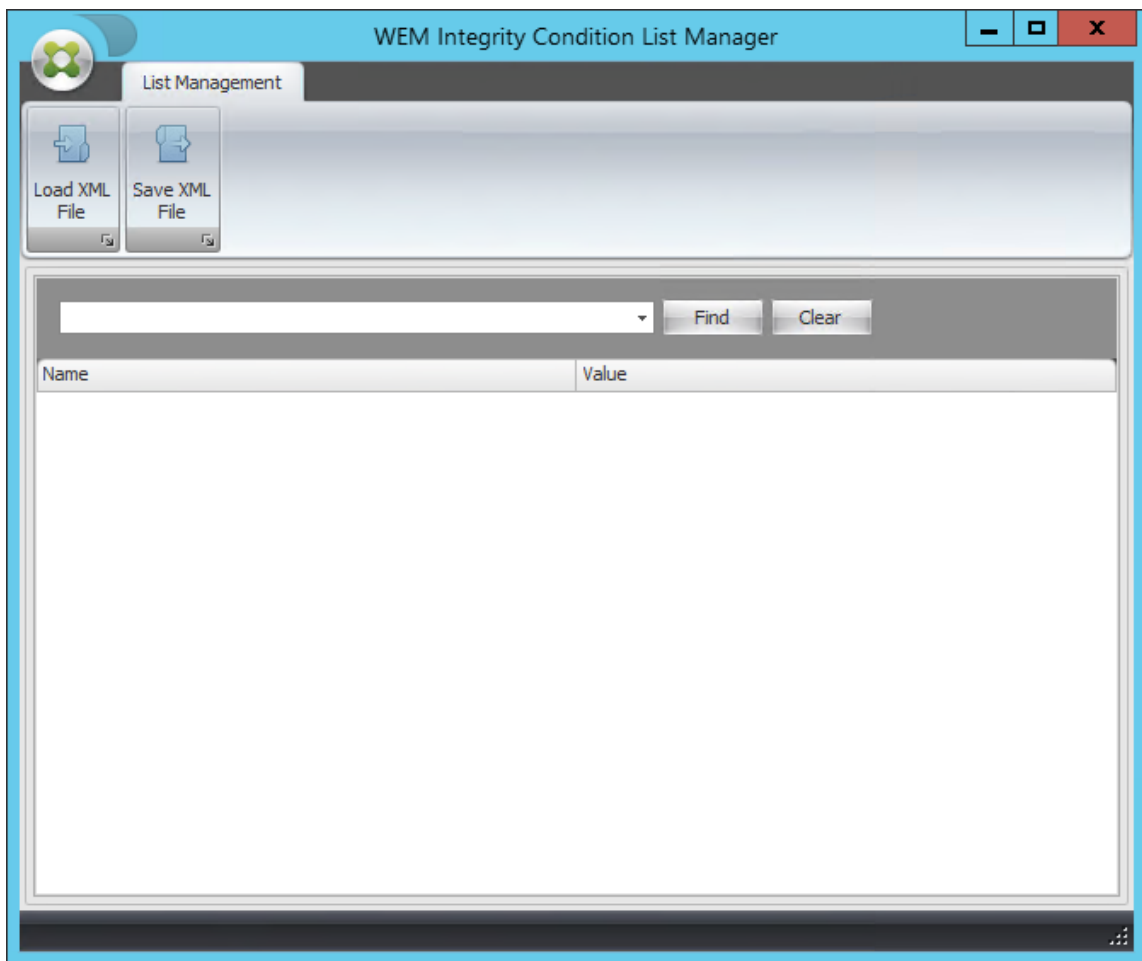
March 7, 2022

WEM 整合性条件リストマネージャは、フィルタ処理のために XML ファイルを作成するのに役立つ強力なツールです。このツールは、次のフィルタ条件タイプで使用されます。[名前がリストにありません]、[名前がリストにない]、[名前または値がリストにありません]、[名前] または [値] がリストにありません。管理コンソールでのこれらの条件の使用について詳しくは、「[フィルタ](#)」を参照してください。

この資料では、WEM 整合性条件リストマネージャーを使用して、フィルタリング目的の XML ファイルを作成する方法について説明します。たとえば、WEM 整合性条件リストマネージャを [リストに名前] とともに使用して、アクションをフィルタリングするとします。



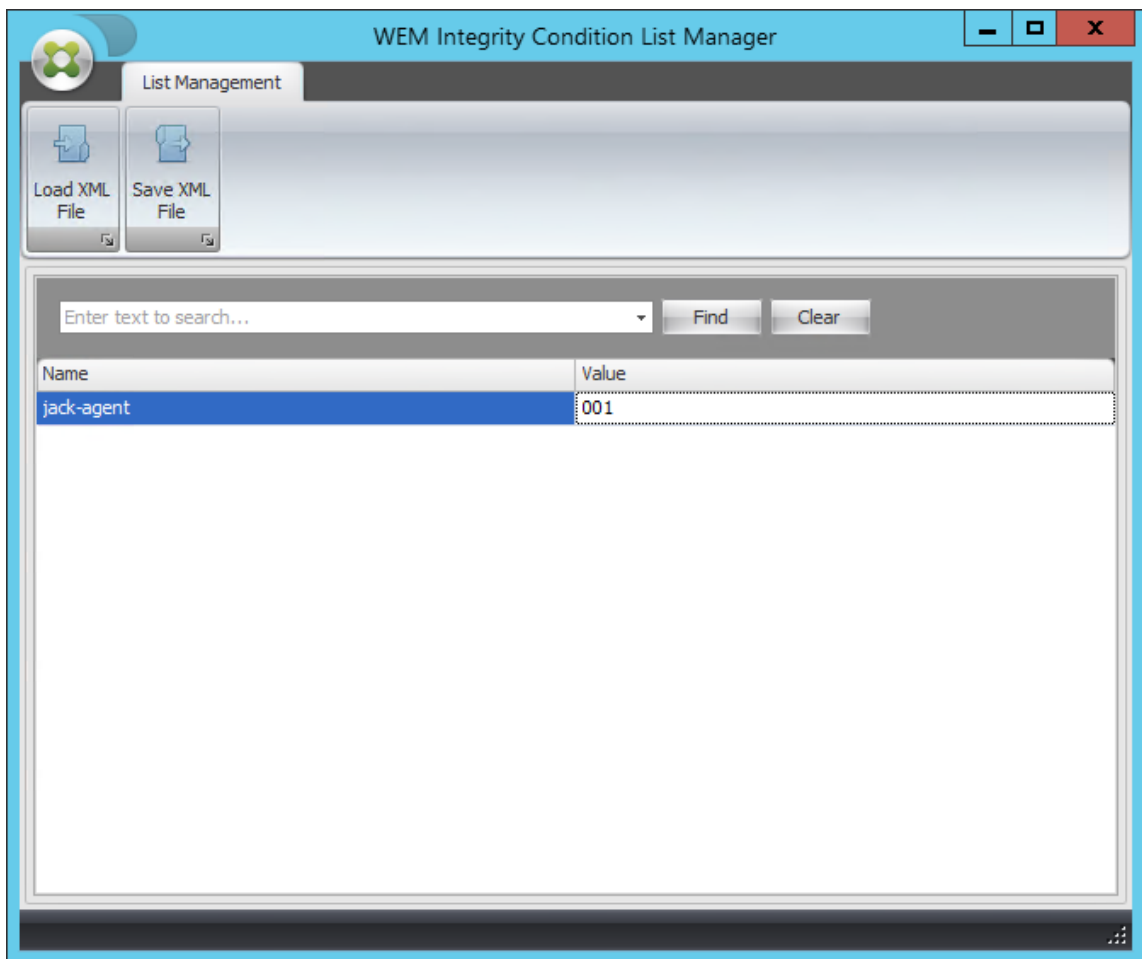
1. WEM 整合性条件リストマネージャを開きます。



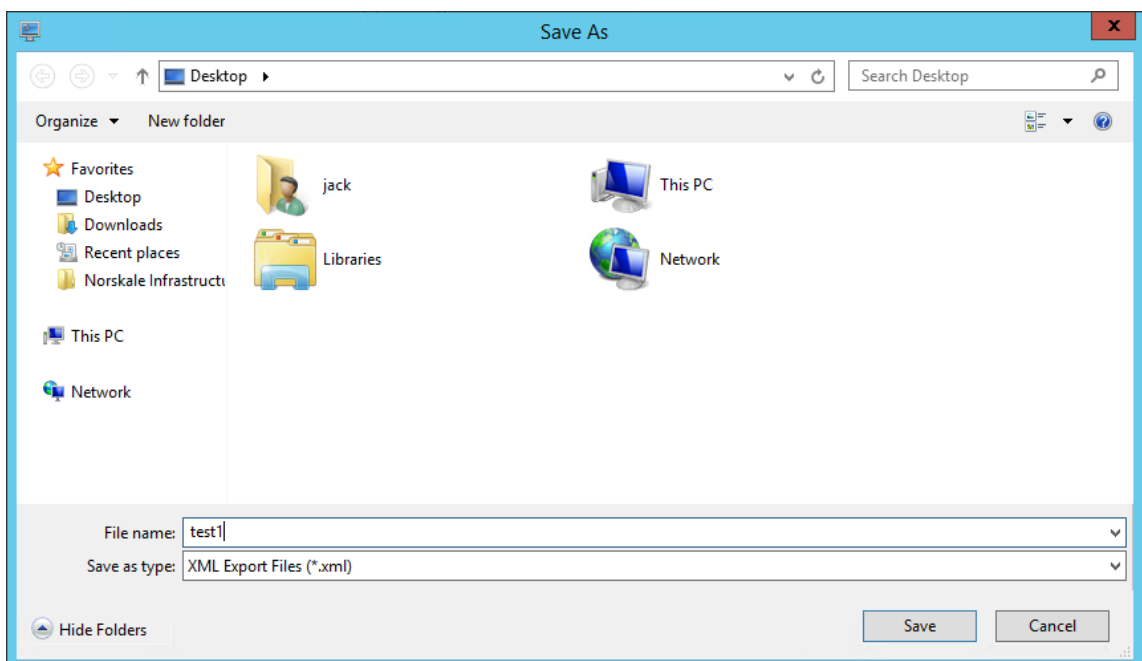
2. 空白領域を右クリックし、コンテキストメニューから [追加] を選択します。
3. [名前] フィールドに名前を入力します。

注:

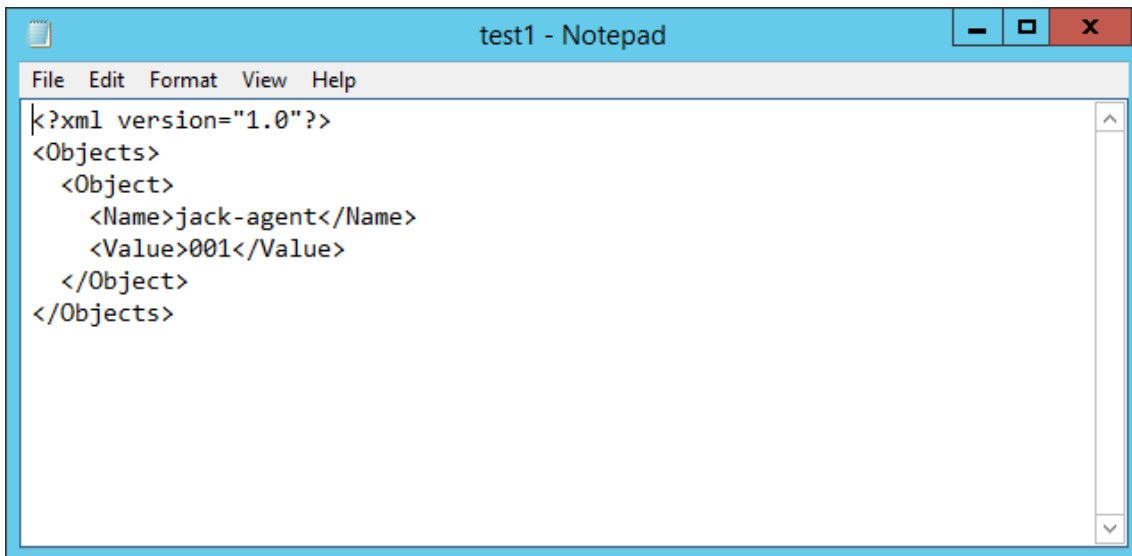
WEM エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）の名前を入力します。



4. [XML ファイルの保存] をクリックし、目的のフォルダーを参照して、[保存] をクリックします。



5. 保存された XML ファイルを開き、指定した情報が正しく保存されたことを確認します。

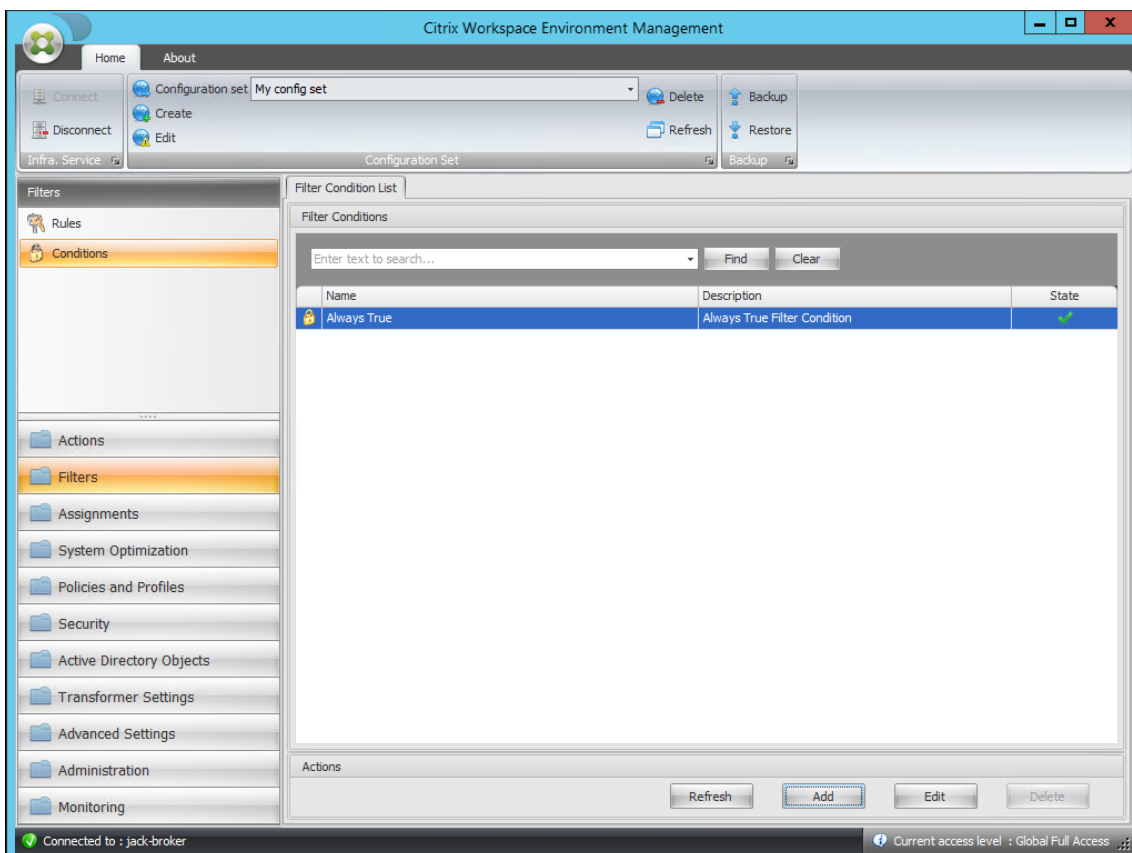


6. 保存した XML ファイルをエージェントホスト上のフォルダにコピーします。

注:

この機能は、管理コンソールマシンに XML ファイルを保存すると機能しません。

7. [管理コンソール] > [フィルタ] > [条件] > [フィルタ条件リスト] タブに移動し、[追加] をクリックします。



8. 情報を入力し、「OK」をクリックします。

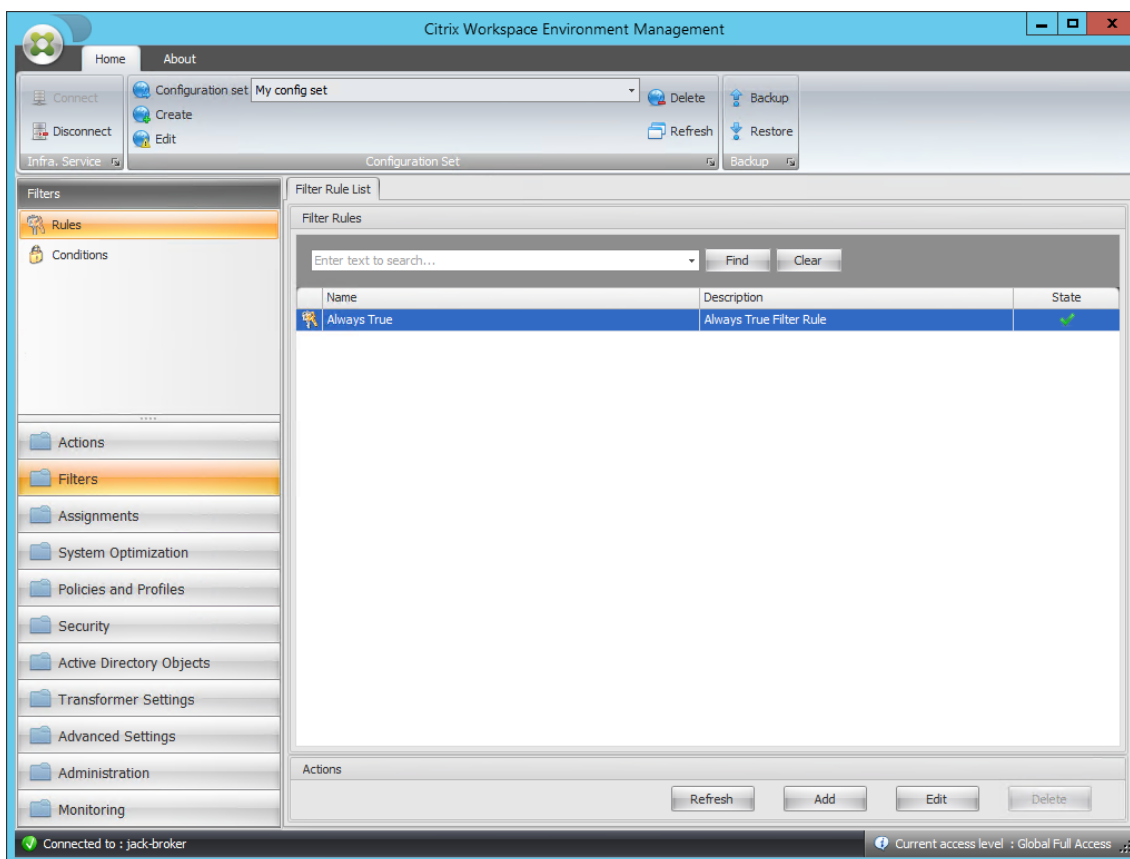
The screenshot shows a 'New Filter Condition' dialog box with the following fields and settings:

- Display**
 - Name: Test-jack
 - Description: (empty)
- Filter Condition State**
 - Enabled
- Filter Condition Type**
 - Name is in List
- Settings**
 - XML List File: C:\Users\jack\Desktop\test1.xml
 - Tested Value: ##ComputerName##
- Actions**
 - OK
 - Cancel

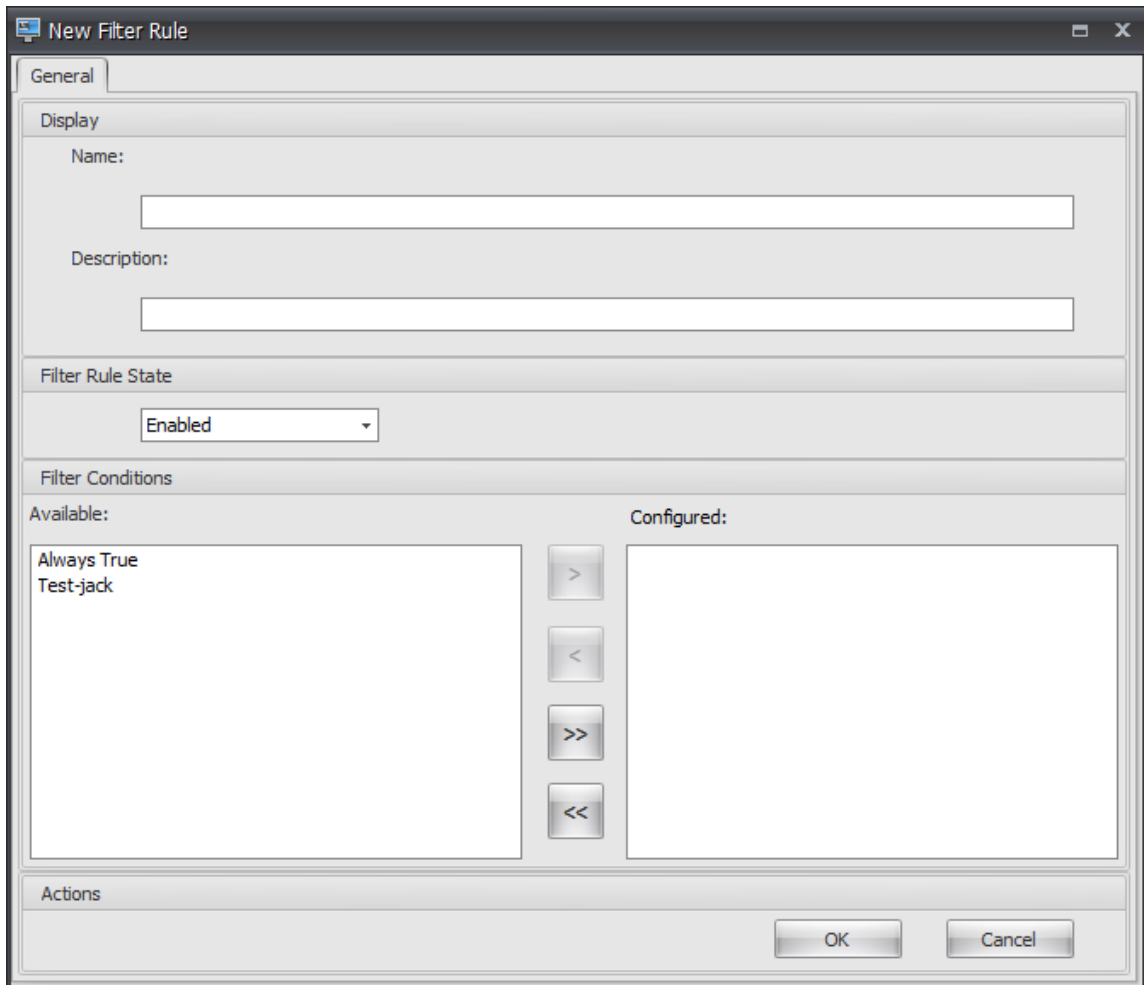
注:

- フィルタ条件タイプ。[名前がリストにあります]を選択します。
- **XML** リストファイル:C:\Users\- テストされた値。WEM 整合性条件リストマネージャの [名前] フィールドに入力した名前に対応する動的トークンを入力します。この例では、エージェントが実行されているマシン (エージェントホスト) の名前を入力しました。したがって、動的トークン「##ComputerName##」動的トークンの使用の詳細については、[動的トークンを参照してください](#)。

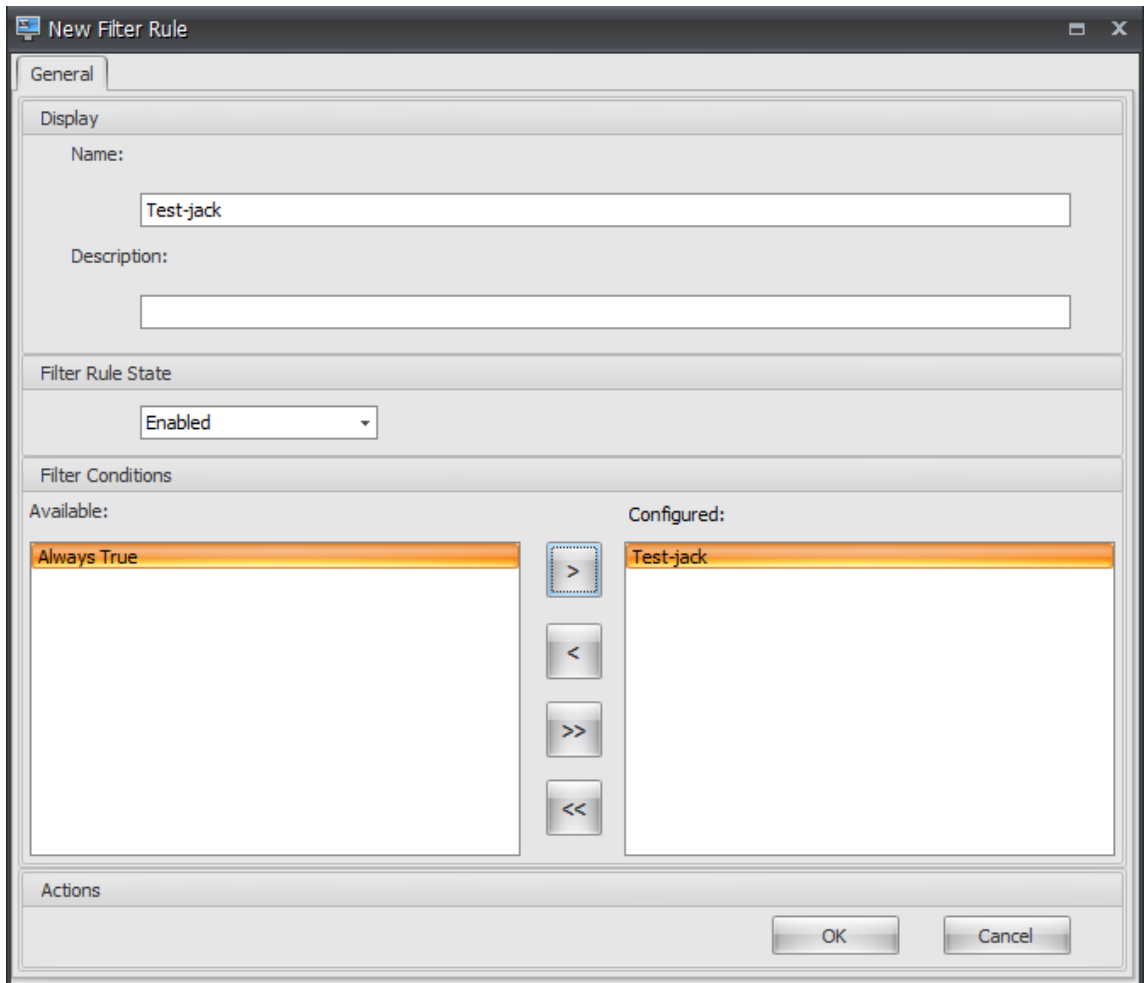
9. [管理コンソール] > [フィルタ] > [ルール] > [フィルタ規則リスト] タブに移動し、[追加] をクリックします。



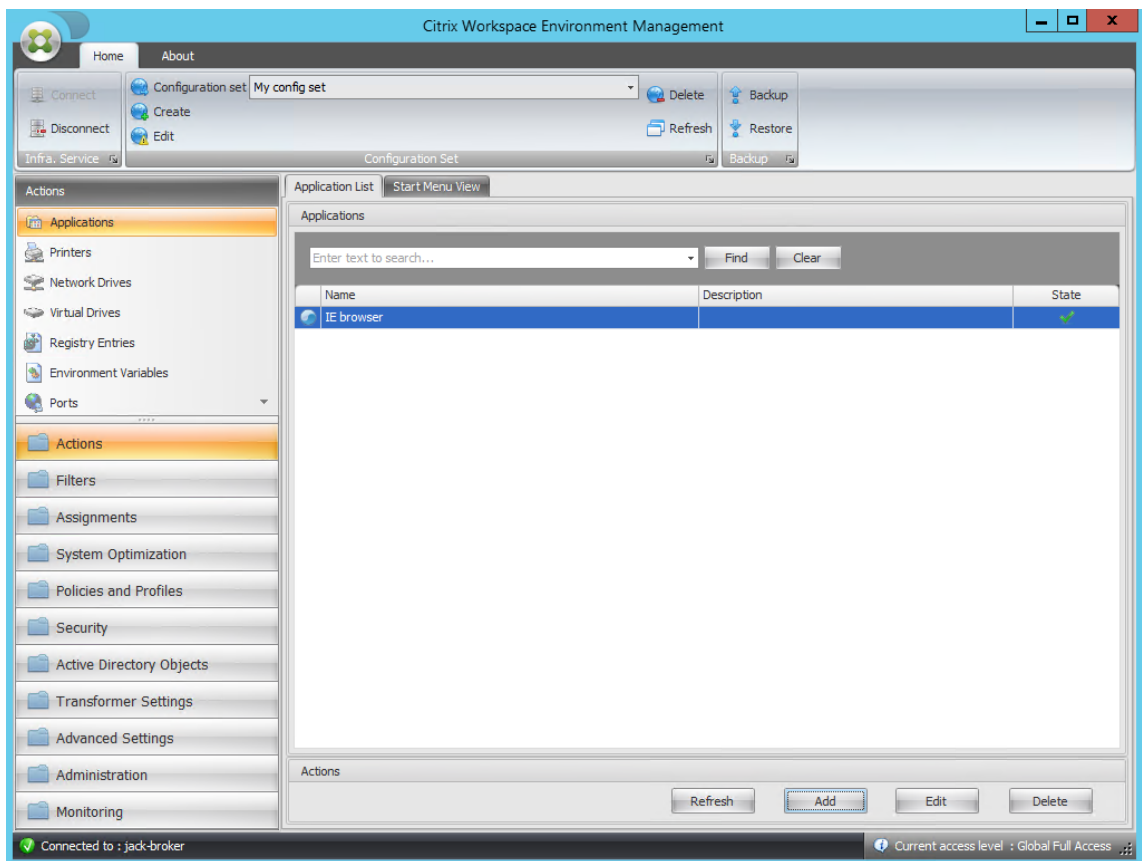
10. [名前] フィールドにフィルタ名を入力します。



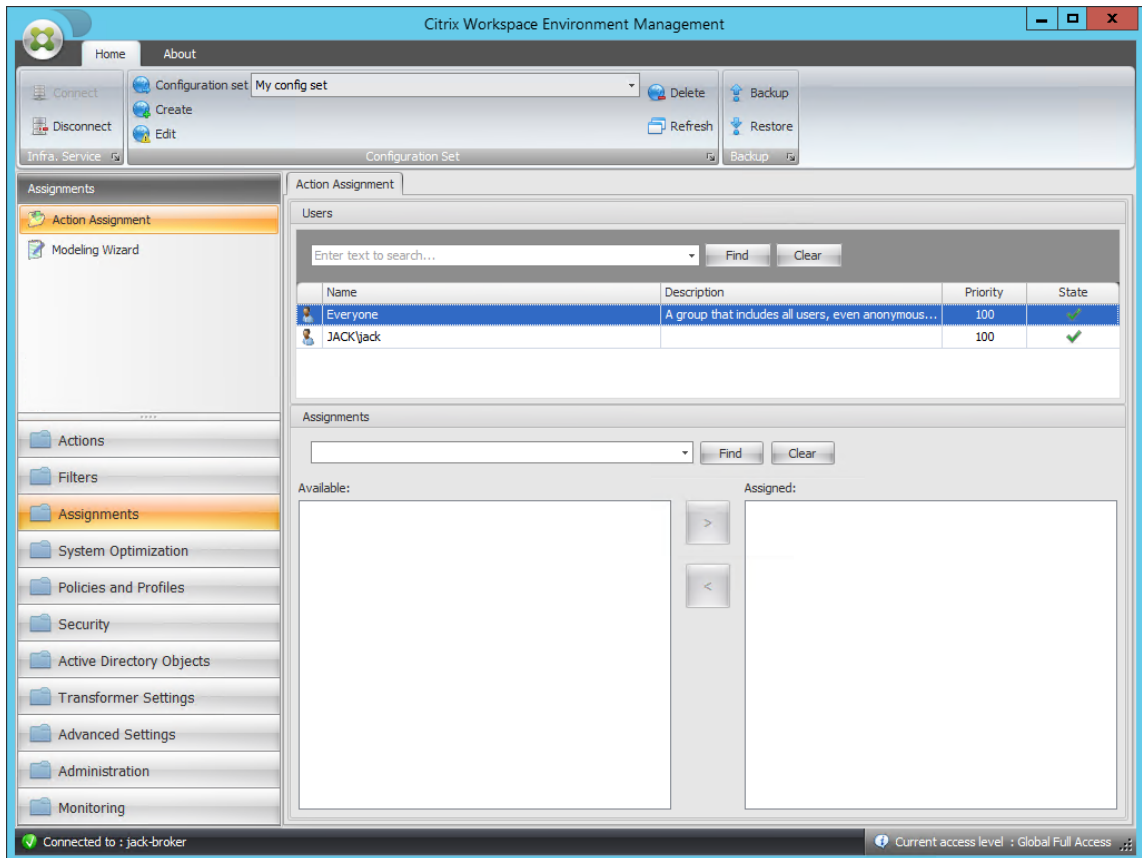
11. 構成済みの条件を [使用可能] ペインから [構成済み] ペインに移動し、[OK] をクリックします。



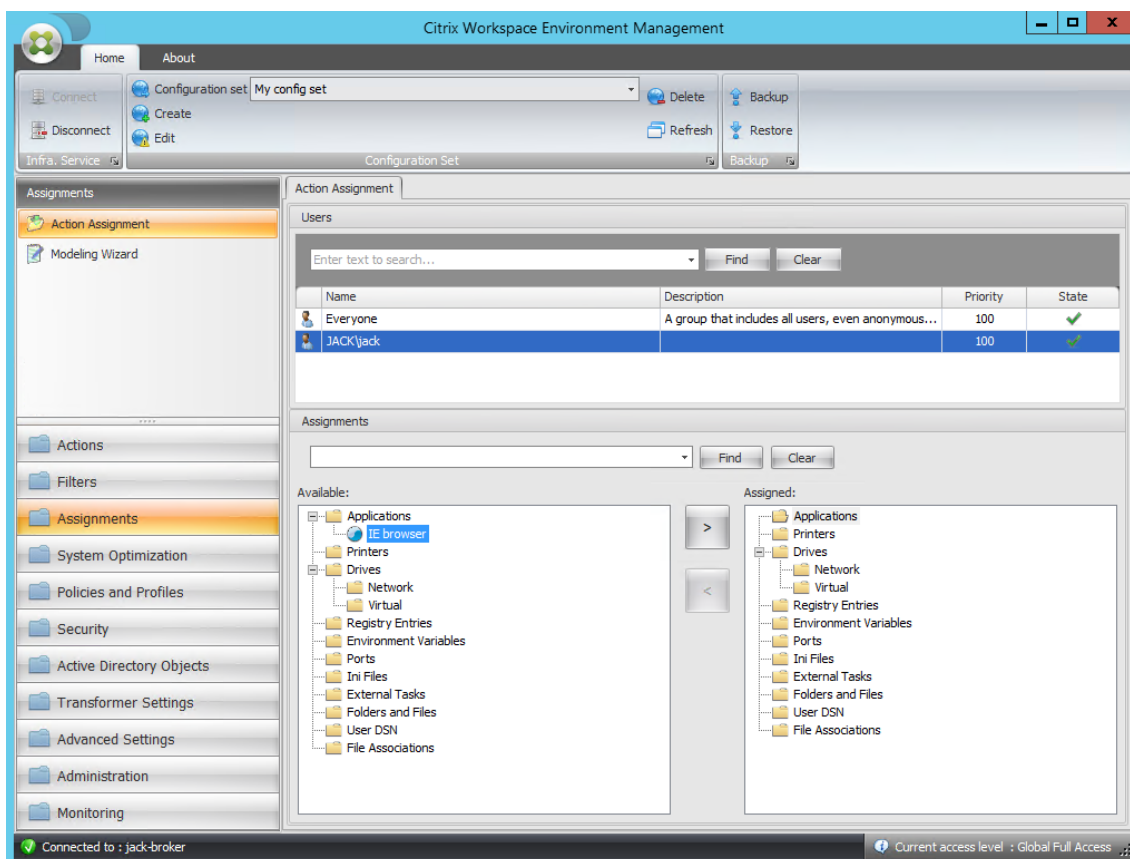
12. [管理コンソール] > [アクション] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] タブに移動し、アプリケーションを追加します。



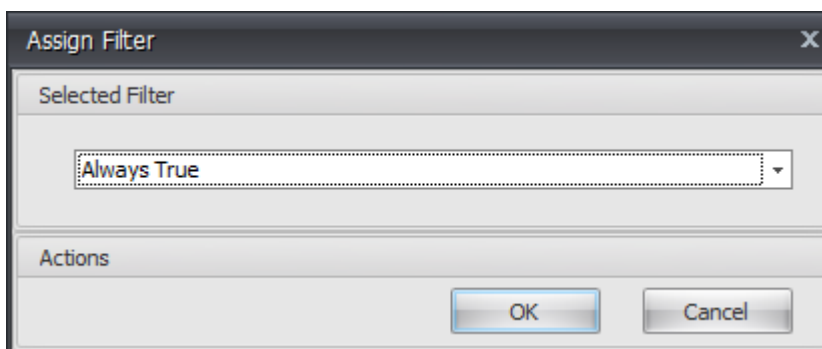
13. [管理コンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] タブに移動します。



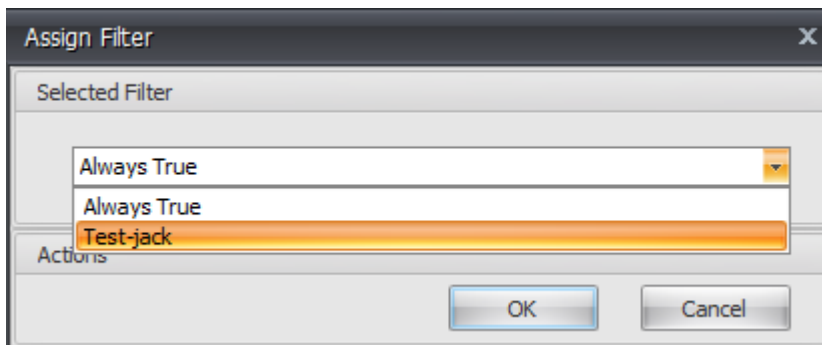
14. 目的のユーザーまたはユーザー・グループをダブルクリックします（この例では、エージェントホストを選択します）。



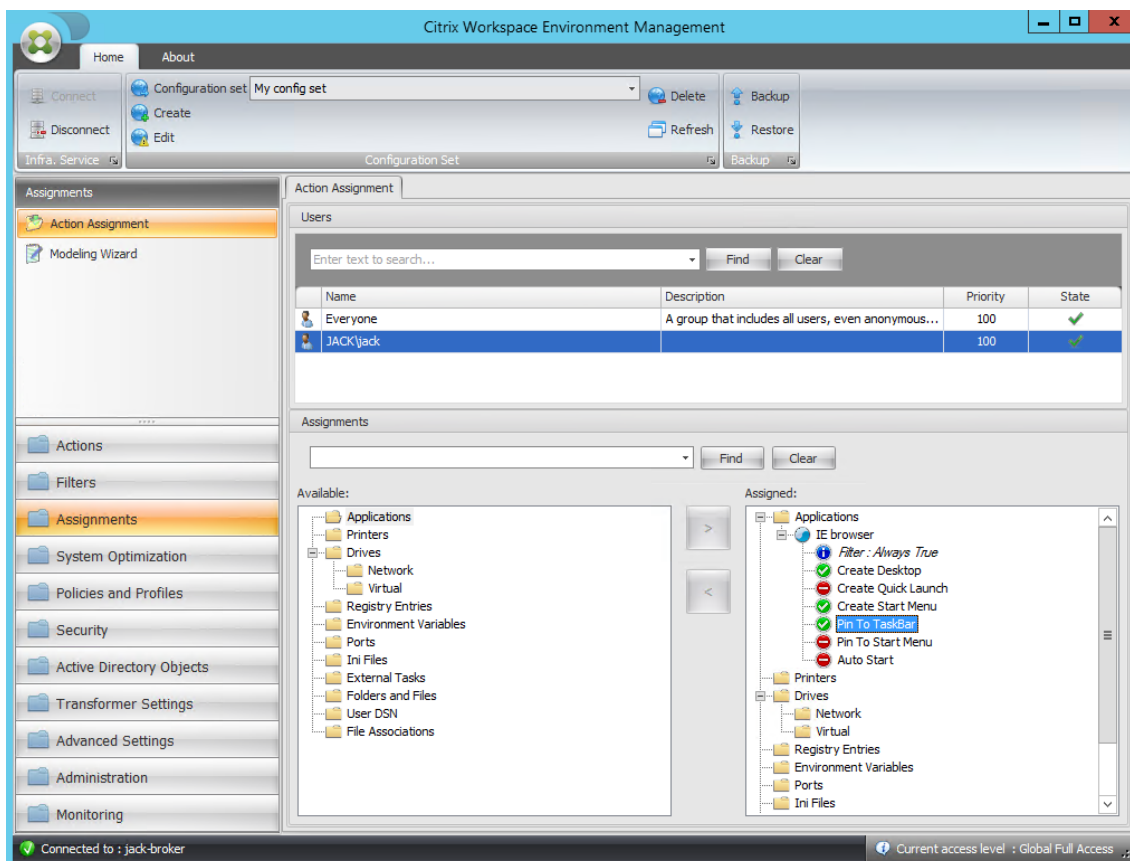
15. アプリケーションを [使用可能] ペインから [割り当て済み] ペインに移動します。



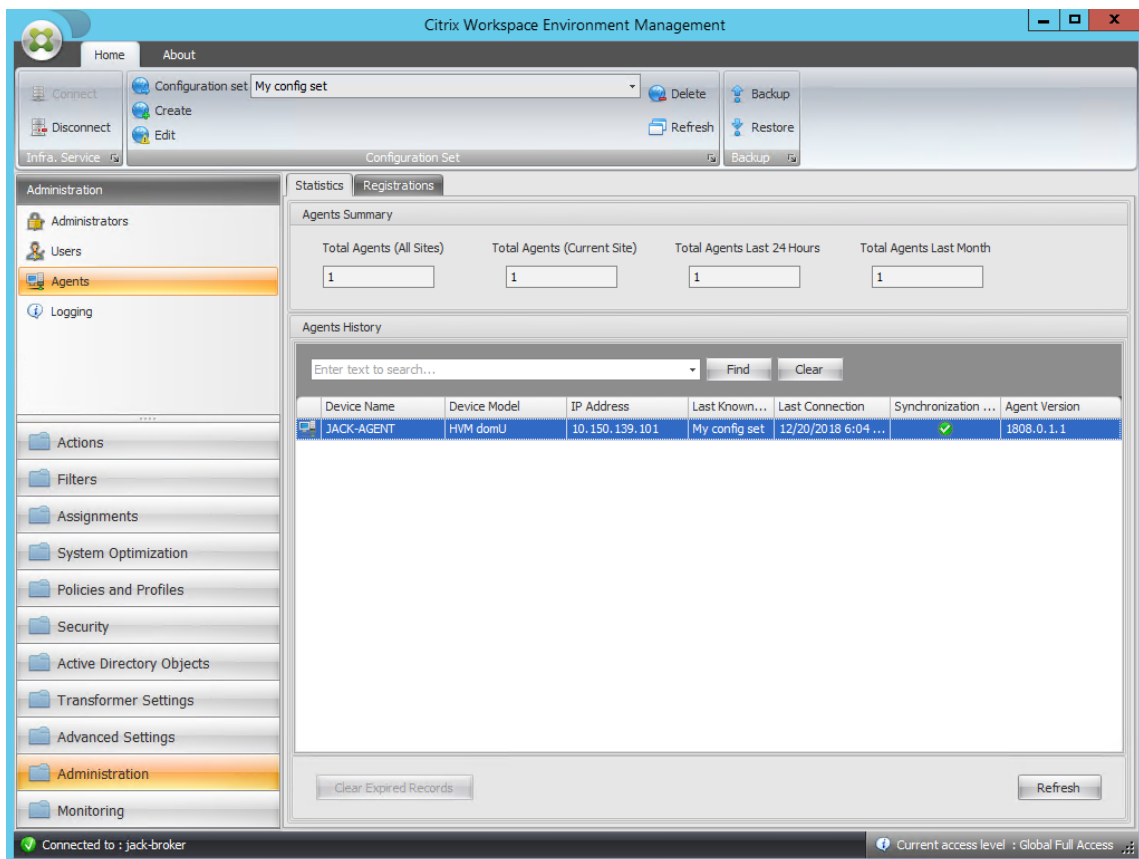
16. フィルタを選択し、「OK」をクリックします。



17. 割り当てられたアプリケーションのオプションを有効にします (この例では、[デスクトップの作成] および [タスクバーに固定] を有効にします)。



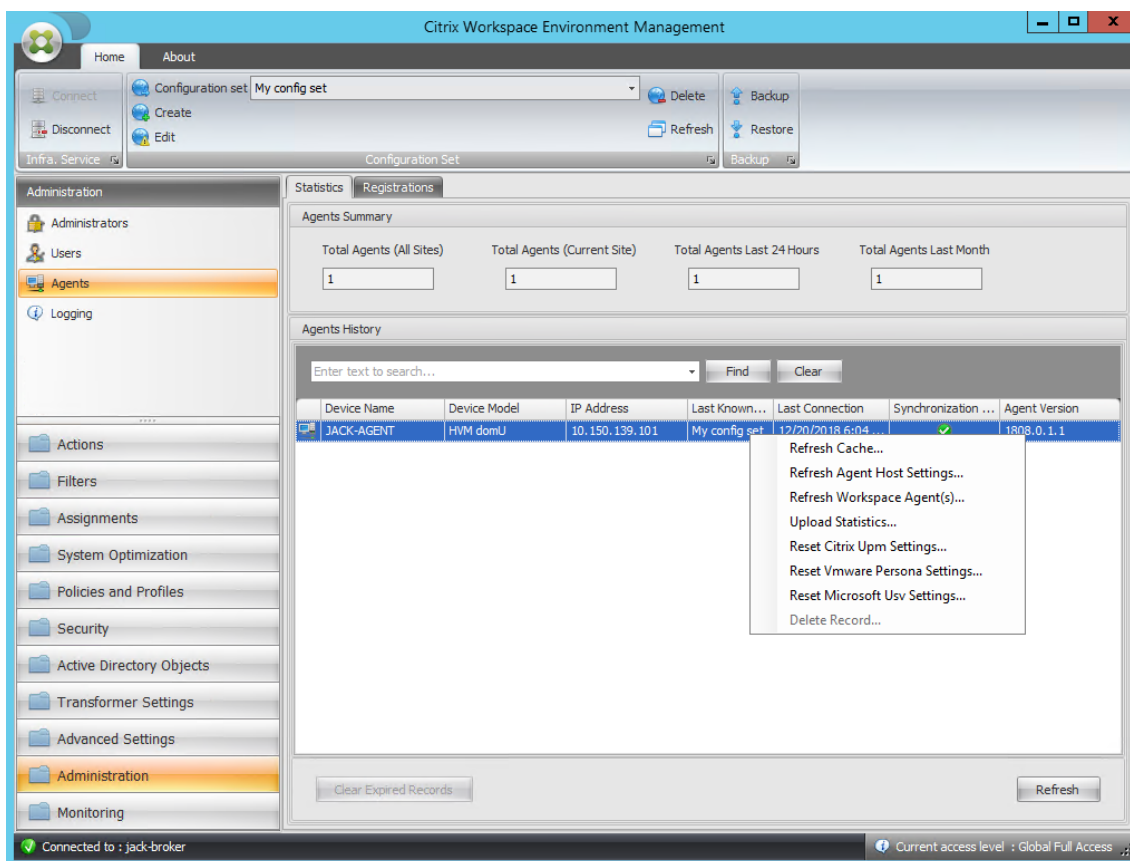
18. [管理コンソール] > [管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。



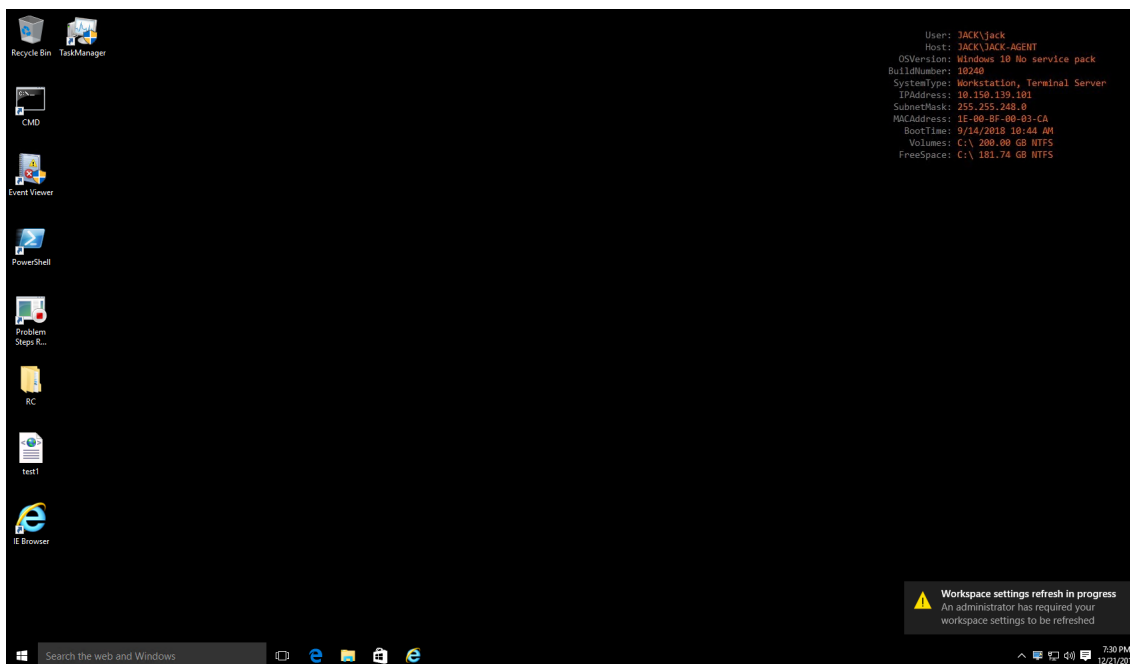
19. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。

注:

設定を有効にするには、エージェントが実行されているマシンに移動して、Citrix WEM Agent を更新することもできます。



20. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）に移動して、構成された条件が機能することを確認します。



この例では、アプリケーションはエージェントマシンに正常に割り当てられています。デスクトップ上に作成され、

タスクバーに固定されています。

XML プリンターリストの構成

April 6, 2022

Workspace Environment Management には、XML プリンターリストファイルを使用してユーザープリンタを構成する機能が含まれています。

XML プリンターリストファイルを作成したら、[アクション \[タイプ\]](#) オプションを [デバイスマッピング プリンターファイルを ** 使用] に設定して、管理コンソールでプリンター ** アクションを作成します。

注:

特定の Windows 資格情報を必要としないプリンターのみがサポートされます。

XML プリンターリストファイル構造

XML ファイルは UTF-8 でエンコードされ、以下の基本的な XML 構造を持つ。

```
1 <?xml version= "1.0" エンコード=" UTF-8"? > <
  ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVuemUserAssignedPrinter
  xmlns: xsd=」 http://www.w3.org/2001/XMLSchema "xmlns: xsi=」 http://
  www.w3.org/2001/XMLSchema-instance ">...</
  ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
  ><!--NeedCopy-->
```

すべてのクライアントおよび関連するデバイスは、次のタイプのオブジェクトによって表されます。

```
1 シリアル化可能キー値ペア<文字列、リスト <VUEMUserAssignedPrinter> >> 各
  デバイスは次のように表されます。
```

```
1 \<SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter> \<Key>
  DEVICE1 </Key> \<Value> \<VUEMUserAssignedPrinter>...</
  VUEMUserAssignedPrinter> </Value> </
  SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter><!--
  NeedCopy-->
```

デバイスの各ブロックは、特定のクライアント名またはコンピュータ名と一致する必要があります。 **<Key>** タグには、関連する名前が含まれています。 **<Value>** タグには、指定されたクライアントに割り当てられたプリンターと一致する **VUEMUserAssignedPrinter** オブジェクトのリストが含まれます。

```
1 <?xml version= "1.0" エンコード=" utf-8"? > <
  ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVuemUserAssignedPrinter
  xmlns: xsi=」 http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance "xmlns: xsd=
  」 http://www.w3.org/2001/XMLSchema "> <
```

```
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter> <Key>  
  DEVICE1 </Key> <Value> <VueMUser 割り当て済みプリンタ>...</  
  VUEMUserAssignedPrinter> </Value> </  
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter> </  
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter  
><!--NeedCopy-->
```

VUEMUserAssignedPrinter タグの構文

構成済みの各プリンタは、次の属性を使用して、**** タグで定義する必要があります。

****. これは、構成されたプリンタの Workspace Environment Management プリンタ ID です。プリンタごとに異なる ID が必要です。注: Workspace Environment Management コンソールで構成された XML プリンタリストアクションは、独自の ID を持つプリンタアクションでもあります。このアクションは、XML リストで個別に設定されたプリンタの ID とは異なる必要があります。

****. 関連する Workspace Environment Management サイトのサイト ID が含まれます。このサイト ID は、既存のサイトの ID と一致する必要があります。

****. 1 がアクティブで、0 が無効になっているプリンタの状態を指定します。

****. 常に 0 である必要があります。

****. 0 である必要があります。特定の Windows 資格情報の使用は現在サポートされていません。

****. 1 の場合、プリンタは既定の Windows プリンタです。0 の場合、デフォルトとして設定されません。

****. 常に 1 でなければなりません。

****. 常に 1 でなければなりません。後でプリンタのプロパティを変更する場合は、この値を 1 ずつ増やしてエージェント・ホストに通知し、プリンタのアクションが再処理されるようにします。

****. これは、Workspace Environment Management エージェントホストによって認識されるプリンタ名です。このフィールドは空白のままにすることはできません。

****. これは、Workspace Environment Management エージェントホストによって認識されるプリンタの説明です。このフィールドは空白にできます。

****. これは未使用であるため、空白のままにしてください。

****. これは、プリンタへの UNC パスです。

****. 接続に Windows 資格情報を指定するときに使用される Windows アカウントの名前が含まれます。[現在サポートされていません。このフィールドは空白のままにします。]」を参照してください。

****. 接続に Windows 資格情報を指定するときに使用される Windows アカウントのパスワードが含まれます。[現在サポートされていません。このフィールドは空白のままにします。]」を参照してください。

<Reserved01>. これには、詳細設定が含まれています。いかなる方法でも 変更しないでください。


```
1 > \<VUEMActionAdvancedOption> \<Name> 自己修復可能</Name> \<Value> 0 </
Value> </VUEMActionAdvancedOption<!--NeedCopy-->
```

特定のプリンタオブジェクトの自己修復を有効にするには、上記の内容をコピーして貼り付けて、ハイライト **0** の値を **1** に変更します。

プリンタオブジェクトの例

次の例では、クライアントまたはコンピュータの **DEVICE1** に **2** つのアクティブなプリンタを割り当てます。

- **HP** レーザージェット **2200** シリーズ UNC パス **\server.example.net\HP** レーザージェット **2200** シリーズ (通常使うプリンタ)
- **UNC** パス上のキヤノン **C5531i** シリーズ プリンタ ****\server.example.net\キヤノン C5531i シリーズ ****

また、クライアントまたはコンピュータの **DEVICE2** にアクティブなプリンタを **1** つ割り当てます。

- **HP** レーザージェット **2200** シリーズ UNC パス **\server.example.net\HP** レーザージェット **2200** シリーズ

```
1 <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
2 <
   ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
   xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:
   xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
3 <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
4 <Key>DEVICE1</Key>
5 <Value>
6 <VUEMUserAssignedPrinter>
7 <IdPrinter>1</IdPrinter>
8 <IdSite>1</IdSite>
9 <State>1</State>
10 <ActionType>0</ActionType>
11 <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
12 <isDefault>1</isDefault>
13 <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
14 <RevisionId>1</RevisionId>
15 <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>
16 <Description />
17 <DisplayName />
18 <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200
   Series</TargetPath>
19 <ExtLogin />
20 <ExtPassword />
21 <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"
   ?&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:
   xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
   xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"&gt;
   &lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;
   SelfHealingEnabled&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;
```

```

                ;/Value>&lt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption>&gt;&lt;
                ;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption>&gt;</
                Reserved01>
22         </VUEMUserAssignedPrinter>
23     </Value>
24     <Value>
25         <VUEMUserAssignedPrinter>
26             <IdPrinter>2</IdPrinter>
27             <IdSite>1</IdSite>
28             <State>1</State>
29             <ActionType>0</ActionType>
30             <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
31             <isDefault>0</isDefault>
32             <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
33             <RevisionId>1</RevisionId>
34             <Name>Canon C5531i Series</Name>
35             <Description />
36             <DisplayName />
37             <TargetPath>\\server.example.net\Canon C5531i
                Series</TargetPath>
38             <ExtLogin />
39             <ExtPassword />
40             <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"
                ?&gt;&lt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:
                xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
                xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"&gt;
                &lt;&lt;VUEMActionAdvancedOption>&gt;&lt;&lt;Name>&gt;
                SelfHealingEnabled&lt;&lt;/Name>&gt;&lt;&lt;Value>&gt;0&lt;
                ;/Value>&gt;&lt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption>&gt;&lt;
                ;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption>&gt;</
                Reserved01>
41         </VUEMUserAssignedPrinter>
42     </Value><&lt;
        SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
        >
43     <
        SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
        >
44     <Key>DEVICE2</Key>
45     <Value>
46         <VUEMUserAssignedPrinter>
47             <IdPrinter>1</IdPrinter>
48             <IdSite>1</IdSite>
49             <State>1</State>
50             <ActionType>0</ActionType>
51             <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
52             <isDefault>0</isDefault>
53             <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
54             <RevisionId>1</RevisionId>
55             <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>
56             <Description />
57             <DisplayName />
58             <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200

```

```

        Series</TargetPath>
59     <ExtLogin />
60     <ExtPassword />
61     <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"
        ?&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:
        xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
        xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"&gt;
        ;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;
        SelfHealingEnabled&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;
        ;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;
        ;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
        Reserved01>
62     </VUEMUserAssignedPrinter>
63     </Value></
        SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
        >
64     </
        ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
        >
65 <!--NeedCopy-->

```

用語集

June 20, 2022

この記事には、Workspace Environment Management (WEM) ソフトウェアとドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。

[1] オンプレミス期間のみ

[2] Citrix Cloud サービス期間のみ

管理ブローカーポート。「管理ポート」の従来の用語。

管理コンソール。インフラストラクチャサービスに接続するインターフェイス。管理コンソールを使用して、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix 仮想アプリケーションサーバーでホストされます。管理コンソールを使用して、Web ブラウザを使用してサービスの [管理] タブから **WEM** インストールを管理します。

管理ポート [1]。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。ポートはデフォルトで 8284 で、adminPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、エージェントサービスとセッションエージェントの 2 つのコンポーネントで構成されています。これらのコンポーネントはエージェントホストにインストールされます。

エージェントホスト実行可能ファイル。「セッションエージェント」の従来の用語。

エージェントホストマシン。「エージェントホスト」の従来の用語。

エージェントホストサービス。「エージェントサービス」の従来の用語。

エージェントブローカーのポート。「エージェントサービスポート」の従来の用語。

エージェントキャッシュ同期ポート。「キャッシュ同期ポート」の従来の用語。

エージェントホスト。エージェントがインストールされているマシン。

エージェントホスト構成 **GPO**。エージェントのインストール時に ADM または ADMX ファイルとして提供されるグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレート。管理者はこれらのファイルを Active Directory にインポートし、設定を適切な組織単位に適用します。

エージェントポート [1]。インフラストラクチャ・サービスから命令を受信するエージェントホストのリスニング・ポート。たとえば、管理コンソールからエージェントを強制的に更新するために使用されます。ポートのデフォルトは 49752 です。

エージェントサービス。Transformer のユースケースで VDA または物理 Windows デバイスに展開されるサービス。管理コンソールを使用して構成する設定を適用する役割があります。

エージェントサービスポート [1]。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。ポートはデフォルトで 8286 で、agentPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント同期ブローカポート。「キャッシュ同期ポート」の従来の用語。

ブローカ。「インフラストラクチャサービス」の従来の用語。

ブローカー口座。「インフラストラクチャサービスアカウント」の従来の用語。

ブローカーサーバー。「インフラストラクチャサーバー」の従来の用語。

ブローカーサービスアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」の従来の用語。

キャッシュ同期ポート [1]。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期させるポート。ポートはデフォルトで 8285 で、agentSyncPort コマンドライン引数に対応します。

Citrix ライセンスサーバーのポート [1]。Citrix License Server がリッスンしているポート、およびインフラストラクチャサービスがライセンスを検証するために接続するポート。ポートのデフォルトは 27000 です。

Citrix Cloud Connector [2]。リソースの場所にあるマシンが Citrix Cloud と通信できるようにするソフトウェア。各リソースロケーションの少なくとも 1 台のマシン (クラウドコネクタ) にインストールされます。

構成セット。Workspace Environment Management 構成設定のセット。

接続ブローカー。「インフラストラクチャサーバー」の従来の用語。

データベース。Workspace Environment Management 構成設定を含むデータベース。

Workspace Environment Management オンプレミスバージョンでは、データベースは SQL Server インスタンスに作成されます。Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの設定は Microsoft Azure SQL Database サービスに保存されます。

データベースサーバーアカウント [1]。データベース作成ウィザードが SQL インスタンスに接続して Workspace Environment Management データベースを作成するために使用するアカウント。

DSN。データソース名 (DSN) には、データベース名、ディレクトリ、データベースドライバ、ユーザ ID、パスワード、およびその他の情報が含まれます。特定のデータベースの DSN を作成したら、アプリケーションで DSN を使用してデータベースから情報を呼び出すことができます。

インフラストラクチャサーバー [1]。Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューター。

インフラストラクチャサーバー管理ポート。「管理ポート」の従来用語。

インフラサービス。インフラストラクチャサーバーにインストールされるサービスで、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server、Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソール、エージェントホスト) と同期します。このサービスは以前「ブローカー」と呼ばれていました。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud 上でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

インフラストラクチャサービスアカウント [1]。インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するアカウント。デフォルトでは、このアカウントは vuemUser SQL アカウントですが、データベースの作成時に、インフラストラクチャサービスが使用する他の Windows 認証情報をオプションで指定できます。

インフラストラクチャサービスサーバー。「インフラストラクチャサーバー」の従来用語。

インフラサービス。インフラストラクチャサービスのインストールプロセスによってインフラストラクチャサーバーにインストールされるサービス。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud 上でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

初期管理者グループ [1]。データベース作成時に選択されるユーザーグループ。このグループのメンバーだけが、管理コンソールのすべての Workspace Environment Management サイトへのフルアクセス権を持ちます。デフォルトでは、このグループはこのアクセス権を持つ唯一のグループです。

統合接続 [1]。SQL アカウントの代わりに現在の Windows アカウントを使用して、データベース作成ウィザードを SQL インスタンスに接続します。

キオスクモード。エージェントがウェブまたはアプリケーションランチャーになり、ユーザーを単一のアプリまたはデスクトップエクスペリエンスにリダイレクトするモード。これにより、管理者はユーザー環境を単一のアプリまたはデスクトップにロックダウンできます。

ブローカーポートを監視しています。「WEM モニタリングポート」の従来用語。

混合モード認証 [1]。SQL Server では、Windows 認証と SQL Server 認証の両方を有効にする認証モードです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するデフォルトのメカニズムです。

ライセンスサーバーポート。「Citrix ライセンスサーバーポート」の従来用語。

ネットワークドライブ。LAN、サーバ、または NAS デバイス上の物理ストレージデバイス。

リソースの場所 [2]。加入者にサービスを提供するために必要なリソースを含む場所 (パブリッククラウド、プライベートクラウド、ブランチオフィス、データセンターなど)。

SaaS [2]。Software as a Service は、サードパーティプロバイダーがアプリケーションをホストし、インターネット経由で顧客が使用できるようにするソフトウェア配布モデルです。

セルフサービスウィンドウ。エンドユーザーが Workspace Environment Management で構成された機能 (アイコン、デフォルトプリンターなど) を選択できるインターフェイス。このインターフェイスは、セッションエージェントによって「UI モード」で提供されます。

サービスプリンシパル名 (**SPN**)。サービスインスタンスの一意の識別子。SPN は、サービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために Kerberos 認証で使用されます。

セッションエージェント。ユーザーセッションのアプリショートカットを設定するエージェント。エージェントは「UI モード」と「コマンドライン」モードで動作します。UI モードは、ステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスを提供し、エンドユーザーはそこから特定の機能 (たとえば、アイコン、デフォルトプリンター) を選択できます。

サイト。「構成セット」の従来用語。

SQL ユーザーアカウント [1]。インストール時に作成された「vuemUser」という名前の SQL ユーザーアカウント。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用する既定のアカウントです。

トランスフォーマー。Workspace Environment Management エージェントが制限付きキオスクモードで接続する機能。

仮想ドライブ。**subst** コマンドまたは **definedosDevice** 関数を使用して作成された **Windows** 仮想ドライブ (**MS-DOS** デバイス名とも呼ばれます)。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマップします。

仮想 IP アドレス (**VIP**) 実際の物理ネットワークインターフェイス (ポート) に対応しない IP アドレス。

VUEM。仮想ユーザー環境管理。これは、製品の一部の場所に登場するレガシー Norskale 用語です。

vuemUser [1]。Workspace Environment Management データベースの作成中に作成された SQL アカウント。これは、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用する既定のアカウントです。

WEM ブローカー。「インフラストラクチャサービス」の従来用語。

WEM 監視ポート [1]。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバーのリスニングポート。ポートのデフォルトは 8287 です。(まだ実装されていません。)

WEM UI エージェント実行可能ファイル。「セッションエージェント」の従来用語。

Windows アカウントのなりすまし。サービスが Windows アカウントの ID で実行される時。

Windows AppLocker。ファイルの一意の ID に基づいて、組織内の特定のアプリケーションを実行できるユーザーまたはグループを指定できる Windows の機能。AppLocker を使用する場合は、アプリケーションの実行を許可または拒否するルールを作成できます。

Windows 認証。SQL Server では、特定の Windows ユーザーアカウントとグループアカウントが SQL Server へのログインを信頼する既定の認証モードです。SQL Server の認証の代替モードは、混合モード認証です。

Windows セキュリティ。「Windows 認証」の従来の用語。

Workspace Environment Management (WEM) サービス [2]。WEM 管理コンポーネントを SaaS サービスとして配信する Citrix Cloud サービス。



© 2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved. Cloud Software Group, the Cloud Software Group logo, and other marks appearing herein are property of Cloud Software Group, Inc. and/or one or more of its subsidiaries, and may be registered with the U.S. Patent and Trademark Office and in other countries. All other marks are the property of their respective owner(s).